非合法時代の日本共産党中央機関紙

複刻版

☆一九二八・二・一―一九三一・一〇・五☆

第一巻

三一書房刊

非合法時代の日本共産党中央機関紙

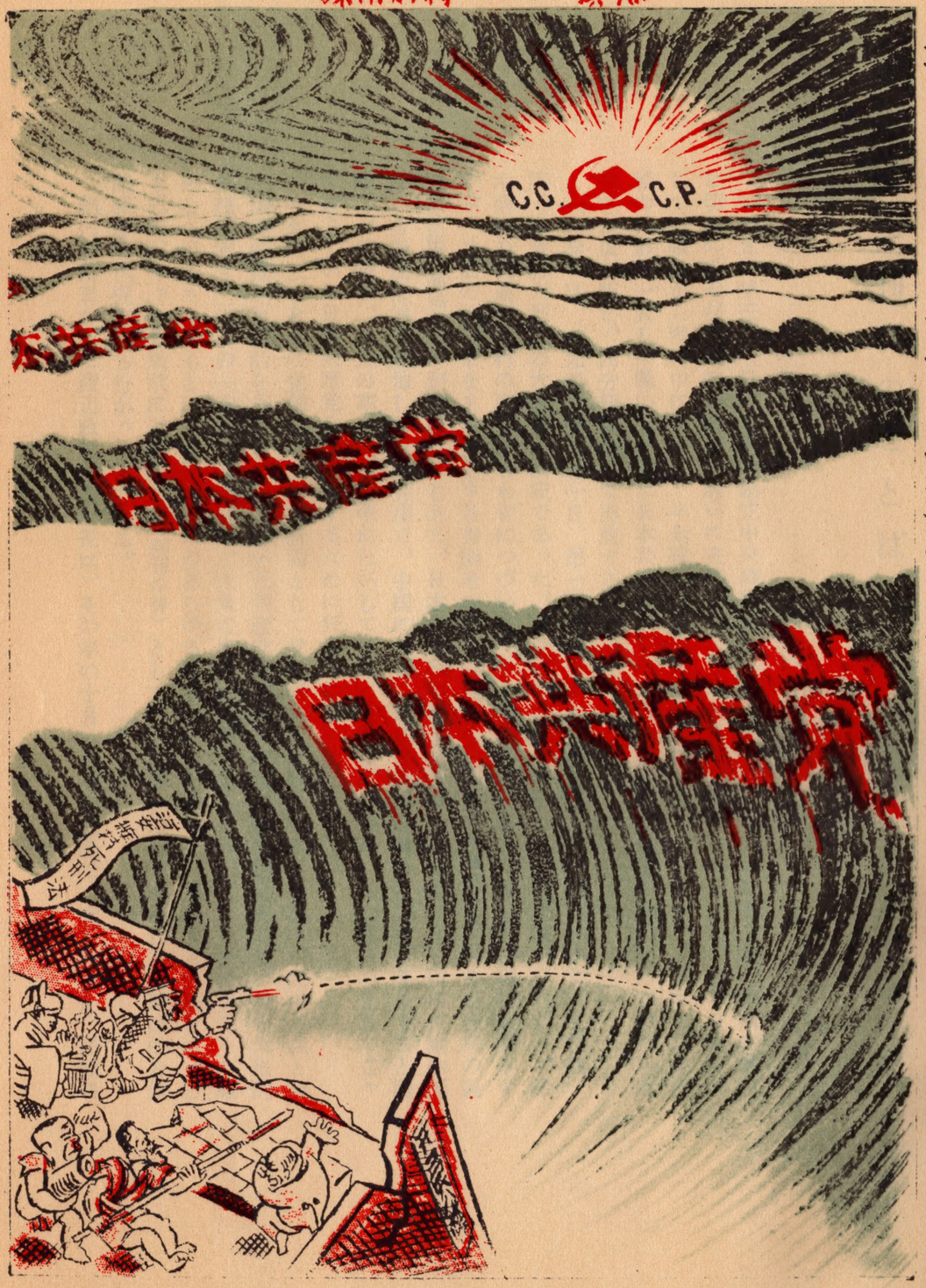
『赤旗』

第一巻

（第1号＝1928. 2. 1～
第55号＝1931. 10. 5）

日本共産党中央機関紙
アカハタ本局編

三一書房刊



果して絶えたか!! この怒濤! 日本共産党は大衆化してゐる!!

(第四次日本共産党事件・記事解禁に際して)

刊行のことば

一九五四年三月一日、日本共産党中央機関紙『アカハタ』は、平和と民主主義、民族の独立を切実にのぞむ国民のいかりと闘いに支持されて、ふたたび日刊をかちとった。この日を記念して、戦前から戦時中にかけて、半封建的な天皇制の残忍なテロルにも屈せず、平和と民主主義のために一貫して闘いつづけた日本共産党が、中央機関紙として地下で発行をつづけた『赤旗』の復刻版を、四分冊にわけて出版する。

『赤旗』は、一九二八年二月一日、第一回普通選挙の実施をまえに、創刊された。それは、第一次世界大戦後の大恐慌の前夜であった。わが国では二七年いらい金融恐慌がひろがり、鈴木商店の破産、銀行の取つけさわぎにつづいて、中小企業の破たんと、資本の合理化政策がすすみ、生活の権利をまもろうとする労働者の闘争（野田大争議、東京市電ストなど）や農漁民の騒擾（秋田、高知など）が発展しはじめて、日本の帝国主義者をおびえさせていた。田中反動内閣は、吉田茂なども参加した東方会議で、中国にたいする強盗的侵略戦争の準備に専念すると同時に、労働者、農民の革命的な闘争にたいしてざんこくな弾圧を加え、この闘争の先頭に立って闘っていた日本共産党を破かいするために狂ほんしていた。

一九二二年七月の党創立いらい、断固として党綱領に天皇制の廃止をかかげ、民主主義とわが国民の豊かな生活をめざして闘っていた共産党は、書記長渡辺政之輔を先頭に、党を大衆的基礎に置き、『この「赤旗」を通じて、大衆のまえに公然とあらわれ、プロレタリアートの厳格なヘゲモニーのもとに、全勤労民衆のあらゆる革命的闘争を指導し、組織する任務をもっとも忠実、もっとも果敢に遂行せん』（創刊の辞）として、『赤旗』の発行を断行し、破滅的な侵略戦争の危機にたちむかったのである。

創刊の辞をかいた渡辺政之輔書記長は、その年の十月に台湾の基隆で、官憲と闘い、虐殺さ

第一巻目次

口絵

第43号　特別附録

はしがき……1
第1号 (1923. 2. 1) 写……5
第2号 (1923. 2.15) 写……8
第3号 (1923. 3. 1) 写……13
第4号 (1923. 3.15) 写……20
第5号 (1923. 3.22) 写……27
第6号〜第26号……欠
第27号 (1929. 3.20)……32〜37
第28号〜第33号……欠
第34号 (1931. 2.25)……38〜44
第35号 (1931. 3. 1)……欠
三・一五記念特輯号 (1931. 3.10)……45〜53
第36号 (1931. 3.17)……54〜64
第37号 (1931. 3.25)……65〜77
第38号 (1931. 4. 8)……78〜86
第39号 (1931. 4.22)……87〜96
第40号 (1931. 4.27)……97〜103
第41号……欠
第42号 (1931. 5.17)……104〜118
第43号 (1931. 5.31)……119〜134
第44号 (1931. 6.15)……135〜148
第45号 (1931. 7. 6)……149〜161
第46号 (1931. 7.15)……162〜177
第47号 (1931. 7.29)……173〜186
第48号 (1931. 8. 5)……187〜195
第49号 (1931. 8.12)……196〜205
第50号 (1931. 8.22)……206〜216
第51号 (1931. 8.30)……217〜226
第52号 (1931. 9. 6)……227〜237
第53号 (1931. 9.15)……238〜247
第54号 (1931. 9.21)……248〜257
第55号 (1931.10. 5)……253〜267

れた。『赤旗』を守り、育てた党内外の革命的な闘士たちが、あるいはたおされ、あるいは捕えられた。『赤旗』もまた、あるいは印刷所を破かいされ、あるいは発送直前におそわれて、欠号となったこともあり、党全体が大弾圧をうけて、一時発行がとだえたこともある。たとえば一九三〇年六月十五日付の第三十三号は、ほとんど全部を敵の手に奪われて、第三十四号の再刊まで（日付は一月二十五日になっているが、二月十五日のあやまり）党は、中央機関紙なしに闘わなければならなかった。また第四分冊の第百八十七号以後は、東京地方版と、関西地方版が発行され、後者が中央委員会の指導のもとに、ふたたび中央機関紙『赤旗』となった。

戦後、日本共産党が合法政党として活動をはじめると同時に、アカハタ編集局は、党史資料委員会と共に、『赤旗』を完全に揃えるため、全党の同志と読者の協力を訴えた。それいらい、今日までに、大部分が集められたが、なお敵の手に奪われて還らないものもある。だが、現在では、これ以上をのぞむことができないので、欠けている部分は、『赤旗』にのこされた傷あととして、このままで出版することにした。なお、ここには中央機関紙として発行されたものだけを收め、地方版は何れも除いてあるが、中央機関紙『赤旗』の号外などは、集められた限り、全部收めてある。

この『赤旗』の歴史は、そのまま、わが日本の労働者階級と国民大衆の不屈のたたかいの歴史であり、こんにちの日本国民のたたかいと国民の綱領——新綱領は、このながいたたかいの経験の土台のうえになりたっているのである。われわれは、日本の革命運動の現在と将来をただしくつかむために、ぜひとも、過去の歴史をただしくつかむ必要がある。この『赤旗』復刻版は、そのための血のにじんだ、貴い資料であることを確信する。

一九五四年五月

アカハタ本局

総目次

『赤旗』 全四巻

第一巻

はしがき……1
第1号（1928. 2. 1）写……5
第2号（1928. 2.15）写……8
第3号（1928. 3. 1）写……13
第4号（1928. 3.15）写……20
第5号（1928. 3.22）写……27
第6号～第26号……欠
第27号（1929. 3.20）……32～37
第28号～第33号……欠
第34号（1931. 2.25）……38～44
第35号（1931. 3. 1）……欠
三・一五記念特輯号（1931. 3.10）…45～53
第36号（1931. 3.17）……54～64
第37号（1931. 3.25）……65～77
第38号（1931. 4. 8）……78～86
第39号（1931. 4.22）……87～96
第40号（1931. 4.27）……97～103
第41号……欠
第42号（1931. 5.17）……104～118
第43号（1931. 5.31）……119～134
第44号（1931. 6.15）……135～148
第45号（1931. 7. 6）……149～161
第46号（1931. 7.15）……162～177
第47号（1931. 7.29）……173～186
第48号（1931. 8. 5）……187～195
第49号（1931. 8.12）……196～205
第50号（1931. 8.22）……206～216
第51号（1931. 8.30）……217～226
第52号（1931. 9. 6）……227～237
第53号（1931. 9.15）……238～247
第54号（1931. 9.21）……248～257
第55号（1931.10. 5）……253～267

第二巻

はしがき……1
第56号（1931.10.20）……5～16
第57号（1931.10.26）……17～26
第58号（1931.11. 1）……27～43
第59号（1931.11.16）……44～58
第60号（1931.12.13）……59～75
第61号（1931.12.23）……76～92
第62号（1932. 1.21）……93～103
第63号（1932. 3. 2）……104～113
第64号（1932. 3. 8）……114～124
第65号（1932. 3.15）……125～136
第66号（1932. 3.22）……137～142
第67号……欠
第68号（1932. 4. 1）……143～149
第69号（1932. 4. 8）……150～155
第70号（1932. 4.13）……156～161
第71号（1932. 4.18）……162～167
第72号（1932. 4.23）……168～175
第73号（1932. 4.28）印刷中押収さる…欠
第74号（1932. 5.16）……176～183
第75号（1932. 5.20）……184～191
第76号（1932. 5.30）……192～199
特別号（1932. 6. 1）……200～203
第77号（1932. 6. 5）……204～211
第78号（1932. 6.15）……212～219
第79号（1932. 6.20）……220～223
第80号（1932. 6.25）……224～229
第81号（1932. 7. 1）……230～235
特別号（1932. 7. 2）……236～239

第三巻

はしがき……1
第82号（1932. 7. 5）……5～10
第83号（1932. 7.10）……11～14
第84号（1932. 7.15）……15～20
第85号（1932. 7.20）……21～24
第86号（1932. 7.25）……25～28
第87号（1932. 7.30）……29～32
第88号（1932. 8. 5）……33～38
第89号（1932. 8.10）……39～42
第90号（1932. 8.15）……43～46
第91号（1932. 8.20）……47～50
第92号（1932. 8.25）……51～54
特別号（1932. 8.29）……55～56
第93号（1932. 8.30）……57～69
第94号（1932. 9. 5）……63～66
第95号（1932. 9.10）……67～68
第96号（1932. 9.15）……69～72
第97号（1932. 9.20）……73～74
特別号（1932. 9.22）……75～76
第98号～第99号……欠
第100号（1932.10. 5）……77～84
第101号（1932.10.10）……85～90
第102号（1932.10.30）……91～98
第103号（1932.11. 5）……99～102
第104号（1932.11.10）……103～108
第105号（1932.11.15）……109～114
第106号（1932.11.20）……115～118
第107号（1932.11.25）……119～122
第108号（1932.11.30）……123～128
号　外（1932.12. 4）……129～130
第109号（1932.12. 5）……131～134
第110号（1932.12.15）……135～136
第111号……欠
第112号（1932.12.30）……137～142
第113号（1933. 1.10）……143～146
第114号（1933. 1.20）……147～150
第115号（1933. 1.25）……151～154
第116号（1933. 1.30）……155～158
第117号（1933. 2. 5）……159～164
第118号（1933. 2.10）……165～163
第119号（1933. 2.15）……169～174
第120号（1933. 2.20）……175～178
第121号（1933. 2.25）……179～182
第122号（1933. 2.28）……183～184
第123号（1933. 3. 5）……185～188
第124号（1933. 3.10）……189～192
第125号（1933.　）……193～194
第126号（1933. 3.15）……195～198
第127号（1933. 3.20）……199～202
第128号（1933. 3.25）……203～206
第129号（1933. 3.30）……207～210
第130号（1933. 4. 6）……211～214
第131号（1933. 4.11）……215～218
第132号（1933. 4.15）……219～220
第133号（1933. 4.26）……221～224
第134号（1933. 5. 1）……225～226
第135号（1933. 5.11）……227～230
第136号（1933. 5.16）……231～232
第137号（1933. 5.21）……233～234
第138号（1933. 5.26）……235～236
第139号（1933. 6. 1）……237～240

第四巻

はしがき……1
第140号（1933. 6. 6）……5～8
第141号（1933. 6.11）……9～12
第142号（1933. 6.16）……13～14
第143号（1933. 6.21）……15～18
第144号（1933. 6.26）……19～22
第145号（1933. 7. 1）……23～26
第146号（1933. 7. 6）……27～30
第147号（1933. 7.11）……31～34
第148号（1933. 7.16）……35～33
特別号（1933. 7.20）……39～40
第149号（1933. 7.21）……41～44
第150号（1933. 7.26）……45～48
第151号……欠
第152号（1933. 8. 6）……49～52
第153号（1933. 8.11）……53～56
第154号（1933. 8.16）……57～60
第155号（1933. 8.21）……61～66
第156号（1933. 8.26）……67～70
第157号（1933. 9. 6）……71～72
第158号（1933. 9.11）……73～76
第159号（1933. 9.16）……77～80
第160号（1933. 9.26）……81～84
第161号（1933.10.10）……85～88
号　外（1933.10.17）……89～90
第162号（1933. 11.7）……91～94
第163号（1933.11.23）……95～98
第164号（1933.12. 4）……99～102
第165号（1933.12.11）……103～106
号　外（1933.12.24）……107～110
第166号（1934. 1.10）……111～114
第167号（1934. 1.17）……115～118
第163号～第171号……欠
第172号（1934. 3. 1）……119～122
第173号（1934. 3. 8）……123～126
第174号（1934. 3.22）……127～130
第175号（1934. 3.29）……131～134
第176号（1934. 4.23）……135～138
第177号（1934. 5. 5）……139～142
第178号（1934. 5.14）……143～148
第179号（1934. 5.29）……149～154
第180号（1934. 6.20）……155～158
第181号（1934.10. 3）……159～162
第182号（1934.10.23）……163～166
第183号（1934.12. 4）……167～170
第184号（1934.12.21）……171～174
第185号（1935. 1.15）……175～178
第186号（1935. 2. 3）……179～184
第187号（1935. 2.20）……185～190

日本共産党再建準備委員会

機関紙第1号（1936. 8. 1）……191～198
赤旗号外（1932.1.30～1933.6.16）……199
号　外（1932. 1.30）……200～201
号　外（1932. 2. 4）……202
号　外（1932. 2. 5）……203
号　外（1932. 2. 6）……204～205
号　外（1932. 2. 8）……206～207
号　外（1932. 2.13）……208～209
号　外（1932. 2.14）……210
号　外（1932. 2.19）……211
号　外（1932. 2.26）……212
号　外（1932. 2.26）……213
号　外（1932. 2.28）……214～215
号　外（1932. 3.11）……216
号　外（1932. 3.16）……217
号　外（1932. 3.24）……218
号　外（1932. 7.　）……219～220
号　外（1932. 9.　）……221～222
号　外（1932.10. 1）……223
号　外（1932.10.11）……224
号　外（1932.10.15）……223
号　外（1932.10.23）……225
号　外（1932.10.25）……226
号　外（1932.10.25）……227
号　外（1932.10.26）……228
号　外（1932.10.28）……229
号　外（1932.10.29）……230
号　外（1932.10.30）……231
号　外（1932.10.30）……232～233
号　外（1932.11. 4）……234
号　外（1932.11. 5）……235
号　外（1932.11.14）……236
号　外（1932.12.　）……237
号　外（1932.12. 5）……238
号　外（1932.12.24）……226
号　外（1933. 6.16）……239
赤旗参考年表……241～248

☆創刊の辞
☆二月十日に全国に労働者貧農の大示威運動を組織せよ！
☆各工場に大集会を開いてプロレタリアートの威力を集結せよ！
☆党の戦略上における日本プロレタリアートの地位
☆総選挙に対する日本共産党の態度
☆編集後記

一九二八・二・一　第一号

赤旗

月二回発行

日本共産党
中央機関紙

創刊の辞

全国の革命的労働者貧農諸君！

日本共産党の中央機関紙「赤旗」が、ここに生れた。決死の覚悟を以てブルジョアと闘争する革命的前衛なくして、労働者貧農の真の階級的勝利はあり得ない。

日本プロレタリアートの最も優秀な、最も戦闘的な前衛分子の革命的隊伍たる日本共産党は、過去七年にわたり、常にあらゆる闘争の先頭に立ってきたが、今日はじめて、この「赤旗」を通じて大衆の前に公然現われ、プロレタリアートの厳格なヘゲモニーの下に、全勤労民衆のあらゆる革命的闘争を指導し組織する任務を最も忠実、最も勇敢に遂行せんとするものである。

日本共産党は、この「赤旗」を手にする、あらゆる革命的労働者貧農諸君を通じて、最も広汎なる大衆に向って、吾党が、革命的政策を告げる。あらゆる工場、あらゆる農村において闘争する諸君は、ブルジョア及び地主を徹底的に打ち倒す政治的基準を学びとるであろう。

わが「赤旗」は、諸君自身の機関紙である。諸君のあらゆる革命的闘争は、最も敏速に最も尖鋭にこの機関紙に反映させねばならぬ。わが「赤旗」はプロレタリア階級軍隊の進撃の先頭になびく軍旗である。

本紙は、ブルジョア及び地主の反動政治の下において、非合法新聞として秘密に印刷され、配布される。だが、最も忠実に階級闘争の戦場に働く諸君に対して必ずや何らかの方法にて、何人かが連絡し、諸君の見解を自由に、革命運動の中心機関紙たるこの「赤旗」に発表せしむるであろう。

労働者貧農大衆の政治的奮起は、第一回普通総選挙を契機として益々高まってきた。ブルジョア及び地主の反動政策も益々激烈となりつつある。いかなる迫害をも恐れず、いかなる一身の利害をも顧みざる革命的前衛の隊伍たる共産党、世界革命の一枝隊として世界プロレタリアートの勝利を目する共産党の活動と指導とは益々必要である。共産党員と革命的労働者貧農、広汎な大衆の間は益々密接に結びつけられねばならぬ。これによってのみ全勤労民衆の勝利が確実となるのだ。

全国の革命的労働者貧農諸君！

わが「赤旗」は諸君を通じて大衆の間に、吾党の革命的政策を伝播し、また、諸君を通じて大衆の要求を吸収する組織者である。諸君は、この階級的任務を最も忠実に果せ！

プロレタリアの革命は不可避であり必然である。その遂行者は前衛に指導される労働者及び貧農である。その遂行者わが「赤旗」は、日本プロレタリア革命に偉大な貢献をなすことを期す。

ブルジョア独裁国家を破壊してプロレタリア独裁国家を建設せよ！

第三インタナショナル万歳！

日本共産党万歳！

日本革命的労働者貧農万歳！

日本プロレタリア革命万歳！

二月十一日に全国に労働者貧農の大示威運動を組織せよ！

資本家地主の総動員に労働者
貧農の総動員をもつて答えよ！

日本のプロレタリアートが過去において常にプロレタリア総動員の示威運動を敢行しきたった二月十一日、この記念すべき日に敵の階級たるブルジョアおよび地主は、今年逆に彼ら自身の大示威運動をやろうと計画している。それは建国祭の示威運動だ。

プロレタリアおよび貧農の多数のおくれた層を青年団、在郷軍人等の中に吸収している彼らは、封建的伝統を利用し、おくれた層の階級意識をマヒさせ、それらを動員し、今度の建国祭をして次の階級的意識を持たせようとしているのだ。

第一は総選挙戦におけるプロレタリアートおよび貧農の政治的擡頭の弾圧、第二は帝国主義戦争の準備だ。彼らは、大衆をつねに貧農化せしめることだけに満足せず、更に大衆を戦場に追いやって大虐殺を敢行しようというのだ。

ブルジョアのこの勢揃いに対して、プロレタリアートの党たる共産党ならびに革命的労働者貧農の大衆は何をもってこれに答えるか？　言うまでもなく、自分らの力の綜合された示威運動をもってこれに答えるのだ。遅れた部分の大衆にたいしては行動をもって働きかける外はない。吾々の運動は、ブルジョアおよび地主の勢揃いに動員される大衆を吾々の味方に引き入れるように運動されねばならない。

更に総選挙戦におけるプロレタリアートおよび貧農の威力は、決して投票の多数によって決定しない。決定的に重要なことは大衆の全体的行動およびその力の成長である。プロレタリアートおよび貧農はこの機会に自己の力を集中し、全体的行動を通して、とくにブルジョアおよび地主の勢揃いに対抗し、自己自身の力を発揚して敵を圧迫せねばならない。

生活を保証せよ。

土地を与えよ。

封建的専制勢力および封建的政治機構を撤廃せよ。

民主的議会を作れ。

プロレタリア大衆を戦場に追いやる虐殺戦争に反対す。

労働者農民の国ソヴェト共和国の防衛。

支那革命の擁護。

等の合言葉の下に、大衆を街頭に導き、ブルジョアおよび地主を迫に弾圧する大示威運動に組織する絶対機会こそ、二月十一日なのだ！

一、共産党員は各細胞において広大なる左翼、革命的プロレタリア、貧農を動員してこの示威運動組織のイニシアチーヴをとれ。

二、細胞は独自の活動によって、この示威運動を直接大衆の欲

求とすべきである。

三、特に資本家地主の支配機関の中にいる大衆へのプロパガンダが必要である。在郷軍人会および青年団、処女会および青年訓練所、ボーイスカウトに、そして彼らの前にプロレタリア貧農の組織する示威運動の意義をプロパガンダせよ。

四、共産党員および革命的プロレタリア貧農の大衆はあらゆる合法的大衆団体の中に於て、労働組合、農民組合の支部において、大衆党――労農、日労、社民、日農の各支部において、更に組合の地方連合会、大衆党の地方聯合会等において活動し、イニシアチーヴをとり、広大なる大衆の要求とせよ。

五、各合法団体の下級機関は、上級機関を動かしマゴマゴしている右翼および日和見主義幹部を動かして大衆党、労働組合、農民組合を大衆的に参加せしめよ。

六、労農党および日労党の中央部が試みている示威運動の計画をして具体的ならしめるようにせよ。

七、屋外大衆大会を開け。

八、それを示威運動にせよ。

九、党員および革命的労働者は、特別に示威運動の組織を計画せねばならぬ。

各工場に大集会を開いて
プロレタリアートの威力を集結せよ！

ブルジョアジーの露骨なる選挙妨害を粉砕するために工場全従業員大会を続々開け！

プロレタリアートと貧農の革命的同盟はプロレタリアートの下に実現される。プロレタリア＝ヘゲモニーは単に理論と実践ではない、行動であり闘争である。プロレタリアの行動および組織の充実、闘争の激化が事実上プロレタリア＝ヘゲモニーを確立することである。プロレタリアの総選挙戦における任務は、投票のカキ集めであつてはならぬ。大衆行動の綜合的力の集中とその具体的展開である。

ブルジョアジーは投票日を二十日と定めた。これは何を意味するか？ プロレタリアの投票をすこしでも妨害せんとする計画であることは明瞭だ。だがかかるブルジョアジーの露骨な妨害があればあるほど、それはプロレタリアートを憤激せしめ、闘争に動員せしめることになるのだ。日本共産党および広大なる革命的労働者貧農の大衆は、この契機を即時に捉え、ブルジョアジーに対する大衆的抗議運動を精力的に展開しなければならぬ。

敵が権力を利用して法律のかげにかくれて暴力的な投票妨害をするに対して、プロレタリアートはまた自らの力によつてそれと暴力的に抗争すべきである。各工場においては政党員および革命的労働者のイニシアチーヴの下に大抗議運動を展開せよ！

ブルジョアジーの暴力的投票妨害の事実を精力的なプロパガンダによつて曝露するならば、絶えずブルジョアジーのプロパガンダに苦しんでいるプロレタリアの各種の全体的要求を激発シモトに苦しんでいるプロレタリアの各種の全体的要求を激発せずには置かない。

そこで党員および革命的労働者は

㈠、投票日を公休にして日当を出せ、

㈡、各工場および産業の具体的要求、

㈢、専制的国家機関の廃止と民主的議会の設置、

等の要求の下に職場大会、工場大会を開け、そして敵の暴力的な妨害に対して投票当日における半日間のストライキおよび大衆的投票を敢行せよ。

そしてプロレタリアートの威力を示せ！

党の戦略上における
日本プロレタリアートの地位

――総選挙を如何に学ぶべきか――

山田哲次

日本今日の支配者は全人口の七%を占める大ブルジョアと、同じく七%を占める地主との同盟である。これに対して被支配者たるプロレタリアートは二六%、貧農は一八%を占めており、中間層たる中農ならびに中小ブルジョアは急激なる分解作用を強要されつつある。

ブルジョアは地主の権力の政治的表現たる封建的国家機構の中において今日完全に反動化してしまつた。即ち地主は樞密院、貴族院にその政治的勢力を持つているが、ブルジョアジーは衆議院においてその政治的勢力を掌握しているのみならず、これらの封建的勢力をかなりの程度にブルジョア化し、ブルジョアジーと地主とのブロックの間においてブルジョア勢力の増大を来しつつある。モナーキーは漸次ブルジョア化しつつある。

今日における政権の運用は、ブルジョアの二大政党、政友会、民政党の手中にある。今日の政権を直接に握つているものは政友会であるが、これは反動的軍閥の巨頭大将田中を総裁としている。特に反動的政党である。政友、民政の二大党は政権争奪を中心として、今日彼ら同志の激烈なる闘争をやつている。議会の多数党は民政党であるが、政友会は政権維持のために多数党を取らんとして議会を解散したのである。

ブルジョアは今日それ自身の被圧迫プロレタリアの擡頭を目前に控えて而も争つている。ブルジョアジーに直接対峙しているのはプロレタリアートの党、共産党である。共産党は日本プロレタリアートの先頭部隊であつて、最も尖鋭化された部分である。この部隊は労農、日労、社民、日農の四党および地方政党の分裂的な組織の下にある大衆党を指導して、大衆の政治的エネルギーを統合してブルジョアに対峙しているのである。

プロレタリア貧農の大衆の政治的自覚は極めて低い。従つて大衆党は各々分立の状態の下に選挙戦に乗り出したのである。

選挙協定は事実上において地盤協定という範囲においては破れている。そして共産党はまた充分にこれを統制する力がないことを認めなければならぬ。例えば東京五区の間題の如き。大衆党はダラク幹部の指導の下に対立抗争の事実をいまだ改めないのである。しかしながら貧農の極度の生活上の破産、プロレタリアートの失業生活不安、一般労働大衆の生活上の脅威、極端なる暴圧政治は大衆の現実闘争において大衆の切実なる協同闘争の具体的な展開を見ているのである。

この政治的諸関係、力の相互関係はどんな変化を導きつつあるか？

まず共産党はその戦略に規定せる封建的、専制国家機関の撤廃、モナキーの廃止、資本家と地主との政治的同盟の破壊、ブルジョア・デモクラシーの完成――それは日本の客観的諸條件の下においては労働者、貧農の革命的、民主主義的独裁によつて遂行される――即ちブルジョア地主の政府に代つてプロレタリア、貧農の政府を樹立することが当面の任務であることを労農大衆に強く訴え、大衆をこの闘争に動員しなければならぬ。

従つて今日共産党は当面のスローガンとしてプロレタリア、貧農の一般勤労大衆に「政治権力の民主主義化」「天皇の政府

に代つて働くもの、民衆の政府を樹立せよ」の中心スローガンを与えるのである。「天皇に結びついたブルジョアの政府に賛成か」「それを倒して働くものの民衆の政府に賛成か」これが今日の総選挙におけるプロレタリアートの合言葉である。このことはブルジョアを指導者とする地主、ブルジョアジーのブロックとの決死的闘争を激化せしめてゆくに至る。そして政権争奪を中心として対立抗争しつつあるブルの二大政党をして、プロレタリアートに関する今日以上に組織的な協同戦線を結ばしめるに至るであろう。

プロレタリアートは経験を通じて大衆党の分裂の不利を体験するであろうし、急速に政治的自覚を促進するに至るであろう。そのことは必然に大衆党の合同への大衆的欲求とならざるを得ない。大衆は総選挙において遺憾なくダラク幹部の正体を見るであろう。例えば階級的立場を旗印とする日労が、須貝および網島、福田等をかついだ事実を見せつけられているであろうし、又当人の小ブル・デモクラットたる性質を明らかにするであろう。

同時にブルジョアジーの懐柔政策と、それによる遅れた大衆の獲得、直接の右翼幹部の買収とその指導下の大衆の瞞着、これは或る程度の成功を見るであろう。彼らはますます天皇の名において、国家的伝統を利用してプロレタリア、貧農を欺瞞するであろうし、利用するであろう。だが彼らの本質上の利権、政権争奪の争いは帝国主義時代における金融ブルジョアジーの諸勢力間の闘争において依然続けるであろうし、その間に存在するプロレタリア政党の戦術と大衆動員は政界をますます不安定に導く。解散につぐ解散が不可避的な状勢となる。大衆党の対立が漸次大衆党の合同――合同せる大衆党大衆と右翼ダラク幹部の対立を生むにいたるであろう。この過程は急速に進展するであろうが、然しジグザグな道程である。そしてもつとも共産党の具体的戦術の如何にかかわつている。

そこで共産党の今日の総選挙戦における当面の任務ならびに戦術は、

㈠、選挙戦と大衆の現実闘争を結びつけて、それを通じて大衆の政治意識を昂揚せしめること。

㈡、選挙戦を通じこれを現実闘争と結びつけて大衆党の合同および労働組合その他の大衆団体を合同せしめること。

㈢、大衆とダラク幹部との対立を現実の事実によつて激成すること、そして大衆を共産党の側へ引つけること。

㈣、未組織プロレタリア、貧農の組織を拡大すること。

㈤、議会を再び解散せしめ政局を混乱せしむるために、全然の無協定の下において、ブル政党の対立を利用し、政友会に絶対多数を取らせないこと。

総選挙に対する
日本共産党の態度

篠原精一郎

一

今日日本の政治的権力を握つているものはブルジョアジーとの同盟である。歴史的にいえばブルジョア議会なるものはブルジョアジーが封建的勢力即ち地主階級と闘争する強力な武器であつて、その限りにおいて進歩的な役目を果したものなのであるが、今日においては議会の本質は全く反動的なものとなつている。第一に国際的に見て帝国主義の段階に入つた今日、議会は彼らの虚偽、欺瞞、暴行ならびに無神経的饒舌の機関と化した。第二に日本においてはなお未だ封建的地主勢力、その政治的表現たる君主が残存しているにも拘らず、ブルジョアジーはこれと戦うことを止めて、かえつて緊密にこれと同盟を結び、自己の覇権の下に今日の反動的帝国主義的支配権力を形成している。彼らは議会の背後においてはしいままにその政権の独裁的運用を行つている。ここでも議会は彼らの階級性を労働者ならびに農民大衆の眼から隠蔽するためのだらないオシャベリ倶楽部であり、労働者農民をブルジョア民主主義に対する幻想的期待のとりこととする有害なブルジョア的施設である。

二

旧選挙法による最後の日本帝国議会すなわち第五十四議会はついに解散された。そこでいまや新選挙法による議会召集のための総選挙が戦われているのである。

この新選挙法は年齢、性別、居住等にかんして狭隘な制限を課せられたもので、断じて普通選挙の名に値するものではない。しかし兎も角これによつて多くの労働者農民大衆が議会に参加することとなつた。

日本共産主義者は議会ならびに総選挙に対して無関心でいていいであろうか？ 勿論否である。我々は之に対して明瞭なる一定の積極的な態度を決定することを要求される。しからば如何なる態度をとるべきであるか？

日本共産主義者は積極的に議会ならびに選挙の闘争に参加せねばならぬ。勿論我々はプロレタリアートの大衆的な政治闘争を組織することによつて、ブルジョア政権を奪取することを我々の目的とする。

大衆的闘争は武力的内乱にまで発展すべき必然性を有するものであり、ブルジョア政権の執行機関（軍隊、警察等）に対するプロレタリア階級の直接的な肉迫戦である。ブルジョア政権は今日までに議会にあるのではなくつて、議会の背後にあるのであるから、議会に対して突撃し、議会を占領するということは無意味である。況んやかかる空虚な議会から何等か労働者農民に関する実質的な改良の履行を期待する社会民主主義者の幻想とは、徹底的に戦わねばならぬ。日本共産主義者はプロレタリアートの大衆闘争の強力なる展開の補充支点としてブルジョア議会の合法性を最も有効に利用するために、議会を利用する。即ち我々は議会を破棄するために議会に入り込み、議会の内部から大衆的闘争による一切のブルジョア国家機関の破棄、プロレタリアートによる政権の奪取の道を助けるのである。議会闘争はあくまでも、内乱にまで発展する大衆的政治闘争に従属するものでなければならぬ。

更らに他面の考察が必要である。すなわち日本の労働者農民大衆は今日はじめてブルジョア議会に参加するのであつて、彼等は多かれ少かれ議会ならびに普通選挙に対する民主主義的幻影の所有者である。彼らのかかる幻想を彼らの深刻なる政治的経験を通じて徹底的に打破することなしには、如何なる決定的闘争の開始も不可能であり、労働者農民の政府のスローガン、進んではプロレタリア独裁のスローガンを大衆の現実的要求と結合することは不可能となるであろう。故に我々は労働者農民の現実の利益の代表者としても、また議会闘争に率先して参加し、共産主義の見地にたち我々のバックによつて議会主義に対する大衆の幻影を打破し、大衆を社会民主主義の指導下から共産党の旗の下に戦いとらねばならぬ。

三

日本プロレタリアートの自然発生的闘争の昂揚と農村における貧農の革命的蹶起にも拘ず、その階級的組織道程のおくれていること、労働者ならびに農民大衆が深き政治的無関心のままに放置されていることは、日本共産党の従来の微力と照応するものである。今日ブルジョアジーならびに地主の二大政党た

る政友会、民政党は都市労働者の後進分子と農村における中農はもとより貧農大衆との広汎なる支持の上にたっており、（昨秋の府県会選挙戦の結果を回想せよ）かかる支持こそは今日のブルジョア地主の政権を安定せしめている階級的力の関係である。故に我々は革命的議会主義の戦術によって労働者ならびに貧農の大衆を我々の手に獲得し、中農ならびに都市小ブルジョアを中立麻痺せしめることに努力せねばならぬ。従ってまた我々はブルジョア諸党に対する労農大衆の闘争を無條件かつ全般的に支持せねばならぬ。我々は大衆党を最大限に闘争せしめることによって、広汎なる無党派大衆（実はブルジョア政党の影響下にあるもの）を大衆党に集結せしめると共に、支配階級と闘いつつある大衆党を我々と大衆との結合の力強き媒介たらしめ得るであろう。しかし我々の指導なくしては大衆党の力強き闘争は不可能であるであろう。わが党自体の候補者が立てらるべきである。また我々は大衆党の対ブルジョア党闘争を強化するために共同闘争の展開、選挙協定の実現に鋭意努力し、大衆党合同の道を万難を排して切り開かねばならぬ。

四

以上の見地に立ち日本共産党は現下の国会選挙戦に対して次の態度をもって臨むものである。

一、我党独自の候補者を立てて闘う。

二、ブルジョア諸党と徹底的無慈悲的に闘う。

三、ブルジョア党にたいする労農大衆党の闘争はこれを無條件的に支持し、同時に大衆党間の選挙協定の実現のために闘う。しかしながら大衆党の社会民主主義的乃至日和見主義的幹部にたいする自由なる批判の権利は断じてゆずるべきでない。

四、選挙闘争を大衆の日常闘争と最も強力に結合する。

五、一切の大衆団体（労働組合、農民組合、青年同盟、婦人同盟等々）を動員する。

六、党の一部分のみならず、全党員の積極的活動によって闘う。

七、政綱。

君主制の撤廃、

労農の民主的議会の獲得、

男女十八歳以上の選挙権被選挙権獲得、

言論、出版、集会、結社の自由、

一切の反労働者法の撤廃、

団結権、罷業権、示威運動の自由、

失業手当法の獲得、

大土地所有の没収、

所得税、相続税、資本利子税にたいする極度の累進賦課、

帝国主義戦争反対、

ソヴェトロシアの防衛、

植民地の完全なる独立、

八、中心スローガンには次の如くである。

天皇と結びついた資本家と地主の議会を破壊、

労農の民主的議会をつくれ!!

労働者に職と仕事を与えよ!!

大土地を没収せよ!!

労農大衆は日本共産党の旗の下に戦え!!

編集後記

一、長く待たれた中央機関紙がここに発刊されるに至ったことは全党員の喜びである。これを直ちに指導的なものにするのは全党員の義務だ。党活動の貴重な経験が今後ますますこの機関紙上に反映されて、名実ともに日本共産党中央機関紙として恥しからぬものになるよう希望してやまない。

二、今日の政治情勢の下においては、本誌は非合法的たらざるを得ない。機関紙は吾々の武器だ。吾々はあらゆる注意を払って、この武器を敵に渡さぬようにしなければならぬ。この点に関しては文書配布組織の完成がまず第一に必要だ。全党員諸君のこの方向における努力を望む。

三、本誌の発行部数は極めて少ない。従ってこの一部一部を最大限に利用して手から手へこれを渡し、革命的労働者ならびに農村にもれなく読ませ、彼らを吾党の旗の下に結成せしめなければならぬ。

四、本誌は当分月二回、一日、十五日発行とする。

一九二八・二・一五　第二号
赤旗　月二回発行
日本共産党
中央機関紙

一、総選挙以後の闘争を如何に指導すべきか
一、党のスローガンについて
一、大衆党合同運動における党員及び革命的労働者農民の任務
一、（婦人欄）革命的婦人同志に与う
一、編集後記

総選挙以後（二十日以後）の闘争を如何に指導すべきか？

㈠再び議会解散を導くべき可能なる条件

三月中旬開催される総選挙後の臨時議会において再び議会の解散を実現しないであろうが、今日の当選予想によると政友会は絶対多数を獲得しえられない事は明白な事実である。すなわちブルジョア新聞の予想によると

政友会＝二百十位、民政＝百九十位、
実同＝八位、新正（革新）＝二十五位、
無産党＝五（無産党の観測によるとこれよりはるかに多い）

の分野を予想している。問題は中立議員の去就にあるが、しかし民政党はこの際一挙に政府に肉迫せざれば、自党の蚕食をまぬがれないことを自から知っている。それは絶対多数を獲得するに成功を示さなかった政友会としては再び解散を断行し得ない事を予想出来る。再びの解散によって尚よく今日の成績より多くを獲得出来ないであろうことを知っているからである。しかしながら民政党としても解散を望むものでは断じてない。彼らは共にブルジョア党である。だから中立議員および革新、実同の奪い合いの成功の程度および政権の譲り合いについて何等かの妥協がみらるるならば、再び解散によって政界を動揺せしめ、それに乗じてプロレタリア農民の政治的擡頭のスキを与えることのない様にするに違いないのである。

しかしながら政友会が絶対多数を獲得出来ない限り中立議員の去就が明確にならざる限り政界の不安は依然存在する。加うるに今度は無産階級の代議士が数名乃至十数名議席をとるのだ。勿論今日の予想ではこの無産階級の代議士の全部がプロレタリアの階級的忠誠を実証される人のみではない。結局においては労働者と農民の利益を裏切るところの改良主義者、社会民主主義者が多いであろう。しかしながらプロレタリアートは之等の改良主義的代議士の言質を捉えてその実行を彼らに強要し、労農政党の代議士の一団を左翼代議士を通じて統成し、ブルジョア政党にその相互の対立を利用しつつ当らせねばならぬ。もし然りとすれば、来るべき臨時議会においても解散の機運を激成しうるものといわねばならぬ。

㈡プロレタリアの大衆的日常闘争の急激なる展開

北海道においては函館ドック、小樽、札幌等において総選挙戦と結びついて労働者大衆の日常現実要求に基く激烈なる闘争が展開されている。これを口火として全国の労働者大衆と農民の大衆は今や全国各所において日常闘争の活潑なる展開をはじめた。プロレタリア農民大衆の日常闘争は急激に爆弾の火の様に拡大しつつある。そして今日の闘争の中心スローガンは、大部分投票日の公休と、日給の支払であり、それに賃銀、時間の問題が結びつけられているのである。

しかしながら労働者大衆の基本的要求は賃金と時間の要求であり、今日においては失業についての生活の保証が決定的なものとなっている。従って一度口火を切ったストライキは北海道、否随所で見られるように漸次プロレタリアートの基本的要求に転化しつつある。一度勃発した闘争は急速に沈静するものでない。

総選挙と結びついて勃発した日常闘争は総選挙が余すところ五日の期間だが、しかしこれにはおかまいなくドンドン進展するのだ。否進展さすべきだ。我々はこの日常闘争を総選挙の期間だけのものと考えては断じて不可である。

㈢プロレタリアの大衆的日常闘争の急激なる展開

北海道においては函館ドック、小樽、札幌等において総選挙戦と結びついて労働者大衆の日常現実要求に基く激烈なる闘争が展開されている。これを口火として全国の労働者大衆と農民の大衆は今や全国各所において日常闘争の活潑なる展開をはじめた。プロレタリア農民大衆の日常闘争は急激に爆弾の火の様に拡大しつつある。そして今日の闘争の中心スローガンは、大部分投票日の公休と、日給の支払であり、それに賃銀、時間の問題が結びつけられているのである。

しかしながら労働者大衆の基本的要求は賃金と時間の要求であり、今日においては失業についての生活の保証が決定的なものとなっている。従って一度口火を切ったストライキは北海道、否随所で見られるように漸次プロレタリアートの基本的要求に転化しつつある。一度勃発した闘争は急速に沈静するものでない。

総選挙と結びついて勃発した日常闘争は総選挙が余すところ五日の期間だが、しかしこれにはおかまいなくドンドン進展するのだ。否進展さすべきだ。我々はこの日常闘争を総選挙の期間だけのものと考えては断じて不可である。

㈣臨時議会における闘争の集中点

労農大衆の激烈なる現実闘争の発展、政局の極度の不安定、ブルジョアジーに協力し労働者階級を絞め殺さんとする社会民主主義者の一団、労農の利益を代表せんとする左翼または左翼的代議士の一派、これらの諸派の対立交渉――かかる政局の渦巻の中に新議会は三月中旬開催される。

しからば我々はかかる臨時議会において我々の闘争をいかに集中すべきであるか。

我々は大衆的闘争の展開によって我党の旗の下に動員した労農大衆を指導し、まず真先に政府の不信任案を地主と資本家の政府に向って叩きつけなければならぬ。そして極力その任務を回避しブル政党と野合せんとする社会民主主義者を労農大衆の大衆的弾圧で、強要せしめることである。更に臨時議会には七百万という莫大な大典予算の協賛問題がある。

今や労働者の大衆は飢えている。農民の大衆は餓死の状態にある。しかるに支配階級は「彼らの天皇」の即位を飾るためにかかる民衆の窮乏をヨソにして、七百万という莫大なる捻取を敢えてやろうというのだ！　この支配階級の暴虐は、まさに言語に絶したものというべきだ。

労働者農民の大衆は大典予算に断じて賛成はしない。そんな金がある位なら労働者農民のために使え！

否、それどころか現実に労働者は生活賃銀、失業手当を要求し、農民は天皇その他の大地主の土地没収を要求しているのだ！

労働者農民の大衆は、かくの如く全労働者および農民の利益を奪い、弾圧をほしいままにせんとする大典予算の絶対反対を自己の階級の利益を守るといって議会に送られたる代議士に強要せねばならぬ。

現実的大衆闘争の激濤を議会に集中せよ！

社会民主主義者と徹底的に闘え！

地主と資本家の政府を倒し、労農の革命的民主政府を樹立せよ！

㈤社会民主主義者と徹底的に戦え!!

社会民主主義者共が今度の総選挙において労農大衆の間に平和的議会主義の毒素を注入し、大衆の不満と反抗とを議会主義の幻影の中に消散せしめ、事実上ブルジョアの指導下に労農大衆を動員することによって積極的乃至消極的に大衆の現実的闘争の発展を阻止し、防衛しつつあることは、極めて当然とはいえ隠れなき事実である。そして労農大衆が我党の宣伝煽動を通じて、又彼ら自身の経験を通して、漠然とではあるが彼らの裏切的行為を知るに至っていることも事実だ。

当選したいばっかりに労農党の政策を承認した赤松克麿を見よ。福田狂二と網島正興を押し立てた日労党幹部の正体を見よ。大衆の正前で原敬を讃美せる麻生久の正体を見よ。彼らが如何に無節操であり、豹変者であるかを、我々は大衆に見せつけねばならぬ。

福本主義の誤謬をワメキたてて能事終れりとし、社会民主主義者の罪悪を攻撃せず反って彼らの罪悪を煽動して所謂福本主義排除の「単一絶対条件」に固執せしめ、かくて大衆党の合同を妨害しつつある「労農」一派の今日の立場を見よ。彼らは今日遂に左翼の陣営より脱落して、社会民主主義者と協力し、その一左翼を結成しつつあるではないか。

これら一連の改良主義者より等しく発散する議会主義の毒素と徹底的に戦ってこそ、共産党は真に大衆の全利益を余すところなく擁護し主張し得らるるのである。澎湃たる議会主義の波濤と徹底的に戦うことこそ、現下の情勢において我党に課せられたる重要任務の一つなのだ！

わが党の進路を妨げんとする社会民主主義の一切の妨害を大

党のスローガンについて

㈠工場における日常当面のスローガンと党のスローガンの結びつけについて

党の当面の政策として十三項目のスローガンを持つている。しかしながら労働階級前衛の集団、日本共産党は、労働者および農民大衆の要求なればどんな小さな要求でもただちにそれを党の政策のもとに結合せしめるために敏速にそれを捉えて、その要求貫徹の最先頭に立つて闘うものである。

党は労働階級のある一部の利益を代表するものではない。階級全体の利益を代表して闘うものである。しかしながら党が真に階級全体の利益を代表し、階級の軍隊であるためには、労農大衆のあらゆる問題に参加し、その闘争の先頭に立つていなければならないのである。

そしてその闘争を通じて大衆を個々の当面の利益から全階級の利益にまで引き上げ、これを我党の旗の下に結成させて行かなければならぬ。

そこで党は個々の工場および農村において、その労働者および農民の具体的要求を引き出してスローガンとする。ある特定の工場においてもし労働者が賃銀二割の値上げを切実に要求しているならば、その工場細胞は直ちにその要求を代表して起ち闘争を激発するために工場細胞の署名のあるアジテーションのビラを出さなければならぬ。しかしながら工場細胞の活動は前にも述べた如く、決してその要求の貫徹によつて終るものであつてはならぬ。工場細胞の全活動は大衆の当面の要求と闘争を全階級の利益とそのための闘争に結びつけ、それにまで引き上げるという精神においてなされなければならぬ。

しかしながらその方法が具体的な種々なる条件を無視した機械的なものであつてはならぬ。例えば今日の党のスローガン十三項目と中心スローガンとを、場所をかまわず、また現実闘争と結びつけることなしに、無暗やたらに振り廻す如きは絶対に不可である。必ず党のスローガンは、大衆の現実闘争と結びついていなくては駄目だ。

㈡労働組合農民組合及び労農大衆政党のスローガンと党のスローガンとの結びつけについて

今日労働階級の要求は、その所属組合、所属労農政党の如何を問わず

㈠失業手当法の即時制定
㈡健康保険法の改正
㈢悪法令の改変

という如き、最も初歩的な要求の限りにおいては、彼らは今日直ちに一つの統一された力として資本家階級と闘争し得る条件が完全に備わつているのだ。勿論これらのスローガンは大衆の当面の切実なる要求である。しかしながら一方また我党が今日大衆に示す「八時間労働日」「資本家全額負担の失業保険」「反労働者農民法令の撤廃」も、これまた大衆の切実なる当面の要求を全的に代表しているものであつて、共に大衆の当面のスローガンであるが、しかし大衆的組織としての労働組合がその統一のために前者の最も初歩的なスローガンを持つときに、我党はまず前述せる党の当面のスローガンを出して前者との比較を示し、現実の闘争を通して大衆に党の当面のスローガンたらしめなければならぬ。

更に今日農民の当面の切実なる要求は、種々解釈され得る。しかし耕作権の確立という意味は、我党のスローガンは「天皇、寺領、大地主の土地の無償没収」である。これも先に述べたが如き方法によつて、これを農民大衆のスローガンたらしめなければならぬ。

労働者農民大衆の政治的根本要求は何か？　今日各大衆党の代表している政治的要求は、一言にしていえば政治的自由の獲得ということである。政治的自由の獲得ということをもつて総括的に具体的にいい表わせば何か？「労働者農民の政府の樹立」である。プルジョアジーの支配型体、議会の最高発展段階、すなわちプルジョア革命の完成である。この点において「労農」一派とは根本的に相異する。彼らは今日プルジョア主権という戦略を立てている。従つて彼らにはプルジョア革命は問題ではなく、ひとえにプロレタリア独裁の即時実現のみが問題であるのだ！

「耕作権の確立」という意味が極めて曖昧である如く、この「労働者農民の政府を樹立せよ」というスローガンの意味も極めて曖昧である。まず第一に、労働者農民の大衆党が議会の多数党となつて政権にありついても「労働者農民の政府」といえないことはないであろう。しかしながら耕作権の確立が公然と広く大衆の間に問題となつているように、このスローガンも公然と大衆のものたらしめなければならぬ。このスローガンは合法的なスローガンである。言葉自身は日本今日の政治事情の下においても決して非合法なるものではない。何故なれば議会の多数党を獲得すれば立憲君主政体の日本においては、当然に労働者農民政府が成立するのだから。

しかしながら耕作権の確立を単なる耕作権の確立として終らせ、労働者農民の政府をこれまた単なる労働者農民の政府として終らせるものは、社会民主主義者である。我々は「耕作権の確立」の意味を土地の無償没収として示し、理解せしめると同じ様に後者の意味をもつ「労働者農民の民主的革命政府の樹立」又は「労農の民主的独裁」として大衆に示さなければならぬ。

今後「労働者農民の政府」のスローガンは広く使われるであろう。社会民主主義者によつて流布されるかもしれない。そこで我々はこのスローガンの意味をプロレタリア独裁のスローガンと結びつけて充分に大衆に徹底せしめなければならぬ。

この点については「中心スローガンに就いての注意」を見よ！

しかし誰によつて使用されるにしても、このスローガンが大衆の間に広く流布され、また大衆党の公然のスローガンとすることは実に結構なことである。我々はそうするために努力しなければならぬ。

スローガンを正しき革命的展望の下に次の様にして大衆に与えなければならぬ。

㈠地主と資本家の政府を倒し、労農の革命的民主的政府を樹立せよ！
㈡プロレタリア独裁！
㈢「労働者農民の政府」のスローガンと「プロレタリア独裁のスローガンについて（戦略上において）

中心スローガンと党の戦略上の問題について一言つけ加える必要がある。

「労農」の猪股は戦略とは「一つの階級の手にある国家権力が将来諸階級と対立する他の階級―無産階級をも含む―の手に移るまでの全期間にわたり、即ち一の革命段階の全期間にわたり、プロレタリアートが㈠その階級闘争の主要目的となし㈡主要努力の方向となし㈢主副の予備隊となし㈣且つ勢力配備の眼目とすべきものを規定し且つこれを実践的に実施することが一般戦略である」という公式を振り廻し「日本今日の政権は完全

なるプルジョア政権である」という仮定事実の上に立つて、その仮定の事実の上に戦略の公式をあてはめようとしている。この理論こそ、実に危険な極左理論である「急激なる没落」という仮定のもとに同志レーニンの公式をあてはめる理論と少しも相違していないのである。

コミンテルン執行委員会が明確に規定したる如く、日本今日の政権は完全なるプルジョア政権であり得ない。地主と資本家のブロック政権である。だから党の戦略は政治テーゼに規定せる如くであるのだ（政治テーゼ参照）。

極左翼の規定に従えば彼らが明らかにいつている様に、革命の目的は資本主義の撤廃である。そのことは当然プロレタリア独裁の樹立を直接かつ即時に実現せんとするものである。従つて彼らには大土地の無償没収は何等問題とならず、即時の土地の無償国有であるのだ。それが彼らの戦略によつて決定される当然の当面の政策である。ところが彼らはそういう戦略を規定していながら、今度の選挙協定において「政策協定」を提議した。その提唱する政策の中にどこに「土地の無償国有」があるのだ。「プロレタリア独裁の樹立」がどこにあるのだ？　少しもないではないか。彼らこそ口の先や筆の上の革命家に過ぎないのだ。左翼の言辞を弄する裏切者であるのだ。

一足とびに「プロレタリア独裁の樹立」を実現せんとする彼らには「労働者農民の政府」は問題とならない。彼らはこれに絶対に反対するはずである。彼らの戦略規定からは決して「労働者農民の政府」のスローガンは出てこない。だが、彼らの戦略は紙と筆との戦略だから、実際には彼らは社会民主主義者と共に「労働者農民の政府」のスローガンに賛成し、資本家に奉仕するであろう。

日本今日の政治事情の下において歴史過程の展望は、ファシズム政権「本質においてプルジョア政権」の確立がかなり濃厚である。然し国際的階級闘争の種々なる経験を多分に吸収している日本の支配階級は革命期の傾向をそらすために、社会民主主義者に「労働者農民の政府」を意識的に作らせるであろうという予想もある。然し我々の今日の予想においては、社会民主主義者の「労働者農民の政府」よりも「ファシズム政府」の可能性がより多いと思われる。

そこで我々は広く大衆の間に「労働者農民の政府」＝政治的自由の獲得は結局においてこの政府の樹立を意味する。即ちこれはプルジョア議会の最高発達段階である＝のスローガンを与えると同時に、このスローガンの意味＝即ち我々の労働者農民の革命的民主的政府、又は、労働者農民の民主的独裁という意味において、そして彼らの戦略規定からは決して出てこない「労働者農民の政府」＝政治的自由の獲得は結局においてこの政府の樹立を意味する。即ちこれはプルジョア議会の最高発達段階である＝のスローガンを与えると同時に、このスローガンの意味＝即ち我々の労働者農民の革命的民主的政府、又は、労働者農民の民主的独裁という意味において、そして彼らの戦略規定からは決して出てこない。だが、彼らの戦略は紙と筆との戦略だから、実際には彼らは社会民主主義者と共に「労働者農民の政府」のスローガンに賛成し、資本家に奉仕するであろう。

日本今日の政治事情の下において歴史過程の展望は、ファシズム政権「本質においてプルジョア政権」の確立がかなり濃厚である。然し国際的階級闘争の種々なる経験を多分に吸収している日本の支配階級は革命期の傾向をそらすために、社会民主主義者に「労働者農民の政府」を意識的に作らせるであろうという予想もある。然し我々の今日の予想においては、社会民主主義者の「労働者農民の政府」よりも「ファシズム政府」の可能性がより多いと思われる。

そこで我々は広く大衆の間に

下におくことによって、大衆党の合同をやろうと計画しているのである。この彼らの攻勢と彼らの側の大衆獲得の政策を共産党員及び革命的労働者農民は不断に注意しておかねばならぬ。

日本共産党は今日その政綱および政策を大衆の前に公然発表した。その政策に基づいて任務を開始し労働階級の前衛を党に組織すると同時に、又労働組合、農民組合及び大衆党等の大衆団体を橋梁として広大なる大衆に接触しはじめたのである。しかしながらこの活動は従来永くセクト的伝統を負わされて来た日本共産党の今日の具体的事情においては容易なものではないということが現実である。「党は独自的活動を初めた」――ただそれだけでたやすく今日の大衆党の任務が整理されるものと考えたならば、大きな誤りを生ずるものである。

現実の可能性と困難性とを充分に看取することがプロレタリアート政治家の最も必要な点である。我々はあらゆる困難を排し如何なる障害を突破しても闘うものである。困難があればあるほど、障害があればあるほど、我々の党は鍛えあげられるものであるのだ。しかしながらそれはただ観念的であってはならぬ。現実的のものでなければならぬ。

そこで今日の具体的な諸条件の下においては、日本共産党は労働農民党を重要視しなければならぬ。その意味は

㈠、労農党には最も多くの左翼的労働者及び農民が集合しているということ。

㈡、公然の勢力としての社会民主主義者が、今日彼らの側に大衆を引きつける計画を具体的に遂行して来ていること（日労と日農の合同、および日労と民憲との合同計画、社民と民政との合同計画等の事実をみればよくわかるのである。そして彼らは先ず右翼の合同を促進し、労農党を圧迫し、その内部における分裂政策を画策して来るのだ）

それでかかるときに於て、もし共産党の活動の展開と関連せずに大衆党本来の任務ということを労農党に強調して漫然たる合同の意気を促進するならば、大なる危険であるといわなければならぬのである。

我々は今日労農党がもった左翼的エネルギーを最大限に発揮せしめなければならぬ。大衆党には原則上指導精神がないという、只それだけの言葉にとらわれて労農党がもっている左翼的エネルギーを最大限に発揮せしめず、労農党の左翼分子をして社会民主主義者との敢然たる誤りを冒すこととなるのである。

ただここにも注意すべきはかくの如きことは共産党の任務と切り離して出来るものでないことである。共産党は日労、社民の大衆の中にも食いこんでフラクションを形成しなければぬが、特に労農党の中の任務を更に明確にして、その左翼的エネルギーを倍加せしめ、社会民主主義者に対する絶大なる反対勢力を同党の大衆の中に築きあげることが重要である。

㈢大衆党合同運動と我々の根本的任務

以上の具体的諸条件を我々は充分に知って、我々の原則的活動を最大限度に拡大せねばならぬ。党の独自的活動を展開せしめなければならぬ。この独自的活動の展開が工場、農村の中において、労働者、農民大衆の闘争に動員される原動力である。大衆が闘争に動員されるならば、そこに労働組合の組織ができ、大衆的政治的ブロック（大衆党）が結成される。それでその前衛は我党に吸収される。そしてその党員は労働組合、農民組合及び大衆党の右翼及び中央派、左翼の各傾向をもった団体の中においてコンミュニスト、フラクションを組織する。

又労働組合、農民組合の組織されているところにおいては、党の独自的任務が推進力となって、労働組合及び農民組合を更らに大衆党を動員せしめることにより、党はより一層の広大なる労働者農民大衆に、これらの組織を通じて接触することができるのである。

もし労働組合、農民組合及び大衆党内にコンミュニスト、フラクションが組織されているならば、以上の道程が一層順調に組織され発展する。

大衆党合同運動における我党員革命的労働者農民の根本的任務は、独自的基本活動、その活動を通じての基本組織の充実である。更らにその基本活動と組織を通じ日労、社民の大衆を動員して、その中に党のフラクションの組織を作りあげることである。

第二に、労農党のもつ左翼的エネルギーを充分に発揮せしめることである。

第三に、社会民主主義者の分裂政策に断乎として闘うことである。

第四に、そして大衆党合同の基準を「労働者農民の政府」のスローガンの上におき、その基準の下において、これが合同実現に努めなければならぬ。

（婦人欄）

革命的婦人同志に与う

山　下　は　る

今の世の中では私たち婦人は何等の政治的自由を持っていないのです。そして婦人はいつも家庭の奴隷として、お台所の仕事と子供の世話で世の中のことは少しも知らずに朝から晩まで働いています。しかし私たち婦人は家庭の奴隷のその上に尚更ら一層の搾取と隷属を加えられています。労働婦人は工場にいて安い賃銀で永い間働かされ、おまけに夜るよなかでも働いて毎日資本家に搾られているのではありませんか！

農村婦人は夏の暑い日に汗みどろになって田畑で働いて、地主に搾られているんではありませんか？

資本家と地主の兇暴なる搾取のもとに極度に苦しめられる生活のために、労働婦人は日給をあげろ、働く時間を短かくしろ、女工を保護せよ等の要求をかかげて、農村婦人は小作料の値下げ、立入禁止反対、耕作権の確立等の要求をかかげて、資本家や地主に対して男女と共に戦っているのではありませんか？

労働婦人農村婦人諸姉よ！

しかし私たちはいつまでも資本家や地主に対する闘争のみでは、決して生活はよくならないことを知らなければならない。それは資本家や地主の金もうけのために、労働者や小作人をどうして搾ったらよいかということのみ考えている資本家や地主の政策があるからだ。私たち婦人も政治的に目ざめて資本家や地主と同時に政府に戦わなければならない。

今度議会が解散されて二十五歳以上の男子には選挙権が与えられ、いよいよ普通選挙による私たち労働者や農民の代表者を議会に送ることが出来るのだ。

しかし私たち婦人には男子と同じ選挙権は与えられていないのだ。代表を選ぶ権利は与えられていないのだ。だが私たち婦人も私たち労働者農民の代表者を議会に送るために演壇に立って応援することのホンノ少しばかりの自由がある。この自由をもって今全国の婦人は各立候補地で闘っているのではないか？婦人参政権の獲得！　婦人の政党加入の自由、この婦人の政治的自由かく得要求運動のために、今度の選挙運動において、労働者婦人、農村婦人は演壇にたって強く叫ばなければならぬと思います。

まず私たちは工場内で、農村で私たちが毎日痛切に苦しんでいる問題について、それをとりのぞくための日常の闘争に男子と一しょに参加しなければなりません。そして一切の罪悪者たる「地主と資本家の政府を倒し、労働者農民の政府をつくれ！」という我党のスローガンの下に、労働者農民の婦人を動員せねばならぬと思うのであります。

編輯後記

☆巻頭論文は総選挙後の闘争に関する我党の中心方向を示した極めて重要なものである。

熟読して実行へ！

☆創刊号で希望したにも拘わらず、党員諸君からの寄稿乃至投書は少ない。ただ婦人の一同志が真先に進んで寄稿されたことは喜ぶべきことだ。諸君の努力をのぞむ。

☆創刊号には実価をつけることを忘れたが、本紙は絶対にただではない。党員は自から進んで紙代を支払うと同時に、出来る限り党員外のものからも紙代を徴収して、一日も早く「我らの新聞」を日刊とせよ。（完）

一九二八・三・一　第三号

赤旗

月二回発行

日本共産党

中央機関紙

一、プルジョア政府倒壊の全国的大衆的示威運動を組織せよ！

一、労農の革命的民主的独裁の旗印の下に一切の労農政党合同せよ!!

一、総選挙の批判と議会行動の原則

一、再び捕縛された朝鮮共産党員に対する大衆的釈放運動を

おこせ

一、労働者はどうして武装するか。労働者自衛団の任務と組織

一、労農一派に対する我党の態度を声明す

一、編集後記

プルジョア政府倒壊の全国的大衆的示威運動を組織せよ！

未曽有の暴圧、選挙大干渉が労働者農民を奮起せしめている。香川をはじめ各地方において大衆的示威運動が計画され挙行されている。

北海道においては総選挙中に開始されたストライキが今日なお猛烈に闘われている。

各地方においても日常経済闘争と結びついて田中反動政府を倒せ！の大衆的行動が到るところに展開されている。

然るに田中反動政府は頑強に内閣の椅子から離れようとはしない。飽くまでも多数党なりと豪語して政権にかじりついている。

民政党はどうか。これまた政権に恋々としてヴウヴウしくも政府をつくるつもりである。

然るに一般民衆は彼らの根性をハッキリ見た。そして田中政府を倒壊すると同時に、民政党の政府にも反対であるとの要求を提出しているではないか？　否民衆は自からの真に要求するものが、労働者農民の民主的政府であるということを明確に宣言しつつある。

革命的労働者農民の前衛大衆は、この機会に大衆行動を活潑に捲き起さなければならぬ。

日本当面の経済的利益のために引き起されたストライキを、この政治闘争と結びつけられ、労働の革命的民主的政府樹立の方向に指導されなければならぬ。

我々の手によって我々の行動によって、政友会の反動内閣を叩きつぶせ!!

そして天皇と結びついているプルジョア議会を解散せしめよ!!

民政党は三月六日政府倒壊の国民大会を開く計画をたてている。

そして労働者農民の大衆を踏み台にして、政友会政府を倒壊せんとしつつある。

我々は民政党によって政友会政府の倒壊を希んでは断じていかぬ。

我々自からの手によって、自からの行動によって、労農大衆の大衆闘争によって政府を打ち倒すのだ！

革命的労働者農民諸君!!

我々が大衆行動を組織しないならば、その用意がないならば、結局民政党の政治家に我々の大衆を引き渡してしまうことになるのである。我々の大衆行動の計画の下に、社民、日労、労農その他の党員大衆を動員し、協同の闘争と行動の下に大示威運動を組織せよ。

革命的労働者農民の前衛大衆諸君!!

我々は今度選出される無産派八名の代議士を我々の大衆行動の先頭に立たせて大示威運動を実行せよ!!

無産派の代議士は議会のキレイな椅子に腰をかけさせるために選出したのではないのだ。大衆行動の先頭に立たせ、プロレタリア農民の大衆行動闘争に役立たせるために選出したのではないか？

八名の代議士を街頭に引き出して、大衆的示威運動を全国いたるところにおいて実行せよ!!　工場に、農村に、

ブルジョア政府を倒せ！

議会を解散せよ？

労働者農民の民主的独裁を樹立せよ！

赤の旗をひるがえせ！

ブルジョア政府を倒せ!!

労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）

万　歳　!!

労農の革命的民主的独裁の旗印の下に
一切の労農政党合同せよ!!

(一)

日本共産党はこれまで七年の永きに亘って完全な地下的存在

を続けて来た。そして又党は文字通り宗派的組織であつた。

しかしながら昨年末党の拡大中央委員会は党の政綱、当面の政策及び組織原則を確立し、それを広大なる被抑圧大衆の面前に公表し、党は従来の宗派主義を一掃し、大衆的共産党として又コミンテルンの一支部として再組織に着手した。

そして今日においては既に再組織の基礎は確立され、宗派的組織の殻を打ち破つて、大衆的革命党としての第一歩を健全に踏み出した。

従つて従来陥つた共産党と大衆との混同は、漸次明確になりつつある。

今後我党の独自活動の進展は、益々このことを大衆の間に明確にして行くであろう。

日本共産党は労働階級の唯一の党である。

我党はその政綱に示すが如く、労働者階級の徹底的解放に向つて、プロレタリア独裁の樹立に向つて邁進する。

今日の日本の客観的条件は、ハッキリと労働者農民の革命はプロレタリア独裁にまで急速に転化する展望を持つている。

だが我党は当面直ちに帝国主義を打ち倒して、一気にプロレタリア独裁を樹立せんとするものではない。

我党は当面の主要闘争目標を、君主制の廃止、議会の解散、労働者農民の民主的独裁に置いている。もしこれに対して戦略と戦術とを混同した議論だと批評するなら、当人が何事をも知らないことを証明するのみだ。

そして日本共産党はこの労働者農民の民主的独裁！なる中心スローガンの下において、否これと結びつけて、八時間労働、大土地の没収、植民地の完全なる解放等の労働者農民植民地被圧迫民衆の当面の要求にして、しかも革命的なものを政策として提出しているのである。

だから日本共産党は、当面の主要闘争の目標を帝国主義の覆滅におき、ひとえにプロレタリア独裁のみを問題としながら、しかも当面の政策を

(一) 徹底的選挙の獲得、
(二) 言論、集会、結社の徹底的自由と暴圧諸法令の撤廃、
(三) 有産階級には高率累進税、無産階級には悪税の廃止、
(四) 八時間労働と最低賃銀制の確立、
(五) 失業救済法の制定、
(六) 立入禁止立毛差押の絶対反対、

等においている。「労農」一派の大衆の大衆欺瞞の裏切りのグループとは全然別なものである。

(二)

日本共産党は今日における日本の客観的諸条件を、革命的マルクス主義、レーニン主義の理論によつて規定し、正しき革命の展望の下に作製したる綱領、政策の下に結集した前衛の無産政党である。

従つて全党員は党の政綱の下に統制され、鉄の如き規律が党を支配し、絶対に分派を許さない。この点が今日の無産政党、即ち大衆党とは本質的に相違するのである。

大衆党には階級綱領がない。けだし無いことが当然だ。なぜなら、大衆党は労働者農民、小ブルジョア、植民地被圧迫民衆の当面の要求代表者たる被抑圧大衆の政治ブロックであり、従つてこの党には当面の行動綱領があるのみであるからだ。

だからこれらの労農政党にあつては、その中に無産党の指導が打ち建てられて初めてそれらの党内におけるプロレタリアートのヘゲモニーが確立されるのだ。そしてこれは労農政党が革命の一つの力となるためには絶対に必要な条件だ。

もし共産党の介在指導なくして社会民主主義者に指導されるならば、この党は単なる現実的要求の漠然たる政治的ブロックに終つてしまい、ブルジョアジーの踏台になつてしまうのである。

大衆党の指導精神を云々して今日大衆党の合同を拒否している奴は誰だ。我々はかつては左翼自身が、左翼大衆すらもが、その誤謬を犯したことを隠蔽するものではない。然しながら左翼はただにその誤謬を訂正し、今は無条件合同を極力熱心に提議しているではないか！　そして今や当時と完全に異つた現象が現われている。

見よ！　左翼の誤謬を清算せよ清算せよといつている連中がその度を通り越して、福本主義の清算排除を絶対単一条件として、かえつて大衆党合同を妨害しているではないか！

福本主義の清算は労農党と合同してからでも充分に出来るではないか！

口に合同を唱えながら、事毎に清算を条件として合同を拒否していることは、一体どうしたのだ！　結局合同を妨害する政策以外の何ものでもないのではないか！

誤謬は、今度はそれを攻撃している連中によつて取つて代えられてしまつた。

そうだ、彼らこそ今日においては分裂主義である。「労農」のグループ、日労の幹部がそれだ。

社民党の幹部は、モット大胆に共産党の排撃を条件としているのだ。福本主義のお株を奪つたのは彼ら自身だ！

(三)

共産党の排撃だ、福本主義の清算だとさわぎ廻つている連中をそつちのけにして、各党の労農大衆はドンドン部分的に地方的に、合同の準備としての協同行動を展開しているではないか！

宮城、富山、福岡、青森、函館、札幌、秋田、栃木、神奈川において、その実例が示されているではないか。

そして大衆は叫んでいる――土地を与えよ！パンと仕事を与えよ！自由を与えよ！と。そして漸次それは「労働者農民の民主的独裁」という力強き叫びとなつて来つつあるではないか。

何故に各労農政党の幹部は、この大衆の痛切なる叫びを、一大勢力に集中し統合して、ブルジョアジーと地主に突貫せしめないのだ！　何故に福本主義の清算と共産党排撃に浮身をやつして、大衆の合同の機運を妨害しているのだ！

何故にコソコソ四畳半式外交を以つて、幹部間の取引である党とある党との秘密合同計画なぞをやつているのだ！

そんなことをやつているうちに、大衆はドンドン下の方から合同を実現して行きつつあるではないか！

そして幹部にアイソをつかしているではないか！

労働者農民の政府（労働者農民の民主的独裁という意味において）の樹立！

この大旆の下に全労農政党は団結合同せよ!!

大衆の協同闘争の展開によつて合同を実現化せよ！

幹部の四畳半式外交政策に信頼するな！

かかるモグラ政策は、ブルジョアジーの政策であつて、断じて労働者農民の政策ではない。大衆はかかる幹部の陰謀取引きに信頼しているから、いつでも裏切られるのである。

大衆の協同闘争の展開によつて、断乎としてかかる陰謀を葬り去れ！

大衆の間から大衆自からが労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）の大旆を翻えせ！

この大旆の旗風によつて「労農」一派の解党派グループと社会民主主義者と日和見主義幹部をなぎたおせ！

そして彼らを踏み越えて地主とブルジョアのブロック政権に肉迫せよ！

敵の牙城に猛進せよ！

日常闘争における各党の党員大衆の協同行動は各党の合同を実現する唯一の基礎である。

そこに合同の鍵があるのだ！

「日常闘争における各党党員の協同行動」このスローガンが、ここぞ大衆党合同の契機である。労働者農民の大衆諸君！ただちに協同行動を展開せよ！

然しながら合同の美名に眩惑されて、社会民主主義者と解党派の日和見主義者を退治することを忘れてはならぬ。

大衆党の合同は社会民主主義者の黄色い旗の下になさるべきでない。

労働者農民の民主的独裁（労働者農民の政府）という革命の旗、赤旗の下においてなされない限り無意義である。否もし、黄色い旗の下においてなさるるならば、労働者農民の解放は永遠にこないのだ！

労働者農民の民主的独裁！　労働者農民の革命的民主政府樹立！の赤旗の下に全労農政党の党員大衆諸君は合同せよ！

日本共産党は右翼社会民主主義者や解党派の裏切り者共の凡ゆる妨害をケトバして、この合図の先頭に立つて邁進することを誓うのである。

労農政党合同万歳!!

労働者農民の革命的独裁万歳!!

日本共産党万歳

総選挙の批判と議会行動の原則

(一)

総選挙の総決算は二十三日の午後にいたつて明白になつた。次の如き政界の分布である。

政友	二一九、	民政	二一七、
実同	四、	革新	四、
中立	一五、	社民	四、
労農	二、	日農	一、
民権	一、		

である。共にブルジョア党である政友と民政が僅か二票の相違であるということは最も注目すべきことである。

そしてブルジョアジーがこの総選挙において全然失敗したことを証明しているものである。ブルジョアジーは自己階級の利益を代表する二つの政治分派を持つている。

政友と民政の二大政党がそれである。

そして本年の一月この二つの彼等の政治分派は殆んど同じ位いの勢力干渉に拘泥した。

だが一方の政治分派、政府党である政友会は少し少数であつたが為めに、議会を運用するについて不自然であつた。それで議会を解散したのである。

ブルジョアジーの二大政党は各々の政策を所謂国民に示し、どちらのブルジョア分派が国民に支持されるかを試してみた。然るにどうだ。所謂国民は総選挙の結果を以つて何んと答えたか？

政友会でも民政党でもどちらでもよいではないか、両方共同じ穴のムジナではないかと答えたではないか。即ち総選挙の結果は政友、民政略々同数となり、政友と民政とが本質的にはほんの少しの差別のないことを証明したのである。

然し今度は解散前と少し変つて政友が二名多くなつたが絶対多数とはならず政友会は内閣を投げだすか、それとも今一度議会を解散するか、どちらかを選ばねばならなくなつているではないか。

然し彼等のどちらも俺の方こそ多数党だ、我々こそ国民に支持されているものであると奇妙な気焔をあげているのだ。

もしどちらかが国民に支持されているだけの議席を獲得するはずではないか、そのために解散をやつたはずではないか。

然るにどちらも議会を左右することの出来るだけの議員数を得なかつたという事は、イカンなく彼等は総選挙に失敗してしまつたのであるという事を物語つている。

政友も民政も同じ穴のムジナだ、どちらでも同じだ、これが国民の答えであつたのだ。

(二)

ブルジョアジーの所謂国民ならざる労農大衆がブルジョアジーが失敗した総選挙に結論をつけた。

労農大衆は今度総選挙において、その一部分しか投票に参加出来なかつた。

第一、十八歳以上の男女の選挙権被選挙権がないこと。

第二、投票の制限、および圧迫と妨害等は労農大衆の選挙参加を著しく妨げた。だがその一部分でも労農大衆は、正しく総選挙の結論をつけたか？

その得票数四十五万票は何を物語つているか。「政友会にしろ、民政党にしろ、どちらも国民の利益を代表するものの如く装い、実はブルジョアジーの利益を忠実に代表するブルジョア党である。だからかかる党には絶対に反対である。我々には我々の利益を正しく代表する政党とその政府でなければならぬ。一言にしていえばブルジョアの利益を代表するブルジョアの政府に反対だ。我々は労働者農民の政府を樹立するのだ」と答えたのである。

だから見給え！　ブルジョアが見事失敗し、票数は多く取つたが何にもならぬ。どつちにしても議会を左右することが出来ず、結局わずかの票数しかとらないけれど労農大衆が総選挙の結論をつけて、議会のキャスチング・ボートを握つてしまつたのだ。

(三)

社民、日労、労農の三つの政治分派は、その幹部の腹は各々異つている。

安部や鈴木は労農大衆を裏切つて、資本家階級と地主に忠勤をヌキンでようとしている。

だが各党の一般大衆は、決して彼等の分派ではない。全体の要求は期せずして一致している。即ち労働者農民の民主的独裁を熱烈に要求しているのだ。農民は土地、労働者はパンと仕事、植民地民衆は帝国主義的隷属よりの解放を要求しているのだ。

だが注意せよ！　労働者農民の全部が明白に労働者農民の民主的独裁の要求を意識的に欲求しているだろうか？否である。

今日の労農大衆は尚未だ明白なる政治意識に到達していない。そこで四十五万票の答えは大別して二つの傾向に分類出来る。

その中の少数は明白に労働者農民の民主的独裁でなければダメだ。

それでなければ、土地は保証されない、食と仕事も保証されない、植民地も解放されない、政治自由は保証されないという明確なる意識を有するものである。労働階級及び農民の代議士が出れば、少しは何んとかなるだろうという考えにあるものである。

そしてかかる考えにあるものは、独り労働者農民のみならず、小ブルジョアにかなり多くあつたであろう。

更にまだ国民の思想にとらわれ、全然自己階級の意識に自覚しない労働者農民もある。

それらの投票は政友、民政およびその他のブルジョアに投ぜ

られたのであろう。

そこで四十五万票のうち、どれだけが明白に階級的であったか？ということは、共産党が公然と立候補することが出来なかつた今日、明白なことは分らない。

然し、左翼的労働者の候補者に投ぜられたる票数は全部たしかなものであるといえる。そしてその票数は何程であったか？今その計算が出来ないが、すぐ明白になることである。

そこで今度ウマク当選した安部、鈴木、西尾、亀井、浅原は大体において、労働階級の代議士が出れば労働者農民の生活が明るくなるだろうと漠然と考えていたものの票数をかき集めたものであると見られる。勿論彼等の得票数の中にも、革命的労働者の立候補の無いところで、ブルジョア政党よりはいくらかマシだ、仕方がない、彼等に入れてやろうという考えで投票したものもかなり多くあるということを看過することは出来ないのである。

(四)

無産党の党員多数が総選挙に臨む前に選挙協定会議を開いた。

だがこの協定会議は地盤協定のみで終っている。しかしその協定さえ事実上破れてしまった。そこでブルジョア新聞は筆を揃えて地盤協定さえ上手に行えば無産党は十五、六名の代議士を出せたものを、と盛んにクヤミをいっている。

だが数は多くても安部や鈴木や網島や福田や片山や須貝等がウヨウヨ出たところで、それがどんな勢力があるのだ。

肝心な点は、階級的立場を正しく代表する真の無産党代議士を出すことではないか。

そこで選挙協定は地盤協定ではなく、「労働者農民の政府」（労働者農民の民主的独裁という意味における）というスローガンにおいてなさるべきであった。

「労働者農民の政府」に賛成か、反対か、で選挙協定をやるべきであった。

そして社会民主主義者の立候補は極力妨害し、もし彼等が立候補したる場合には猛烈に彼等の裏切りをバクロすべきであったのだ。

日本共産党は選挙協定の時に明白にこの主張を提議出来なかったが、闘争の進展において党の全活動はこの政策を採用せしめ、その後党中央委員会は声明書に、徹に、極力社会民主主義者との闘争を敢行したのである。

そこで日本共産党は今度の総選挙においてとった部分的な誤謬を、党の闘争の進展の上において充分に知ることが出来た。そしてかかる誤謬は闘争を通じて、党の成長によって克服されて行くものである。

然しながら日本共産党の誤謬は社会民主主義者をモウケさせた。彼等は労農大衆を踏台としてマンマと当選してしまったという結果を生んだ。

(五)

社会民主主義者は今後如何なる行動をとるであろうか？根本的にいうならば、プルジョアジーと協力して労農大衆の革命的闘争を弱めるために努力するに相違ない。かつてもそうであるが、今後は一層明白に共産党反対とその撲滅というスローガンを建国会と協同一致で掲げるであろう。

彼等は「労働者農民の民主的独裁」（労働者農民の政府）というこの全労農大衆の要求を議会内行動に制限し、議会の多数党を獲得してそれから労働者農民の政府をつくるのだといってゴマ化そうとするのであろう。

君主制の廃止、議会の解散、治安維持法の撤廃、八時間労働、資本家全額負担の失業保険、土地の没収、戦争反対、植民地独立、支那革命不干渉、言論、集会、結社、出版の自由、累進所得税等の要求を提出せず、そういうことは理想だなぞといって白ばくれるのであろう。

彼等は先日の鈴木内閣の議会否認の声明に対する反対声明の中にも明白にいっている如く「現内閣は補弼の責任を完了することが出来ない政府であるから倒壊せねばならぬ」なぞと、自分等が政府を作ったり補弼の責任を完うするつもりでいるのだ。

宜なる哉。鈴木文治は大阪朝日の立会大演説会に天皇の歌をよんで感泣し、安部もしばしば天皇に随喜渦仰している。

かくの如くして彼らは労働者農民が今日痛切に要求している「労働者農民の政府の樹立」その革命的行動を、天皇の名において、日本国家の名の下に、ブルジョアジーと協力して、弾圧をするに相違ないのである。

(六)

議会政治はブルジョアジーが労働階級および農民一般民衆を支配する政治形態である。

国家参政という美名の下に、欺瞞のデモクラシーによって勤労大衆を支配する巧妙なる制度である。

而も日本の議会は、天皇と結びついている議会である。

天皇によって召集され、解散される議会である。

今日の労農大衆の切実なる要求は、先ずこの専制的政治制度―天皇、枢密院、貴族院を倒壊し、労働者農民の民主的独裁を樹立するということにある。

そしてかかる要求は、議会内のみに於いて実現され得ないこと明白である。かかる要求を実現し、貫徹せしめるには、議会外の大衆行動、内乱によらずしては行い得ない。そこで議会内における無産派代議士は、この大衆行動を議会の内から援ける任務を持つものである。議会内行動は、常に議会外大衆行動に従属し、その発展に役立つものでなければならない。

だから（ママ）の無産派代議士は、議会の内から大衆に議会の何ものであるかを具体的に行動をもって明白に知らすべきである。

議員の特権を利用して君主制のからくり、議会のからくりを大衆にバクロすることである。

だから今度開かるべき議会に於て特筆し刮目してみるべきものは、無産派代議士が大興予算に対して協賛するや、否やである。

安部と鈴木は明白に天皇に随喜しているのであるから、賛成投票をするに相違ない。

もし賛成投票したら、彼等は立派に事実の上において無産階級を裏切った奴等であるから、無産階級は断乎とした行動を彼等に加えなければならぬ。

他の代議士はどうか？　もっとも注意して、全大衆は監視せねばならぬのである。

そして全労農大衆は、彼等に強要せよ、断じて大興予算に賛成するな、と。

労働者農民が飢と寒さにこごえているとき、なんでその上の搾取が許されるか!!

(七)

議会外における大衆行動は、現田中内閣の弾劾に向って進撃をなしつつある。

無産党代議士は、その先頭に立って弾劾に驀進せねばならぬ。

だが政友会政府の倒壊のみではない。民政党の政府に対しても、（ママ）はいうまでもなく必要である。

鈴木と安部は政友会内閣には反対するであろうが、民政党内閣がもし少しでも、それはほんのハナクソほどでも、社会政策的施政を約束するならば、それを口実にして寝返えらぬとはいえない。

政友会は悪るい。民政党は悪るい。然し民政党は進歩的である。社会改良的施設を約束した。それであるから我々はこの党の政府を支持しなければならぬ。というかも知れぬ。

全労農大衆は充分に注意せねばならぬ。

無産代議士の議会内行動の基準は右に述べた通りである。そしてこの原則に基づいて労農、日労、社民、民権の各代議士は議会内に於いて協同行動を採らねばならぬ。

安部と鈴木、亀井の徒輩は事毎に裏切りをやるためにその協同行動を破るであろう。

全労農大衆は大衆の強圧を、彼らに協同行動を破らせないように強要せねばならぬ。

(八)

今日の政界の事情の下に於いては、階級対立は益々ハッキリして行くであろう。

何んとなれば、こうハッキリしてしまったブルジョア政党の対立の状態の下においては、少しでもの秘密取引が労農大衆の目にハッキリと見える。もし彼等が秘密に政権の取引きをやっても、又は種々なる好策、例えば今日司法省のやっている見事な忠勤ぶり等によって反対党を切り崩しても、又は買収しても、民衆にハッキリ金の力とブルジョアデモクラシーの欺瞞とを知らしめてしまう。

又彼等は意識的におくれた大衆の目をゴマ化さんがために、天皇の名において、又は日本国家の名によって、無産階級の最も尖鋭の部分、その先端に向つて即ち我共産党に向つて、協同一致の大攻撃を展開して来るであろう。その傾向は既に現われている。

然しそういうことは、結局において労農大衆の目を、本当に階級的に開かせるという結果をもたらせるのみである。更にブルジョアの二大政党の対立がこうハッキリしてしまった以上は、日本において専制的政治勢力、即ち天皇、枢密院、貴族院が非常に大きな力を持っているという事を、全民衆に知らせてしまう。

そこで、どっちに廻つたところで、階級対立の気運は益々尖鋭に議会に表われてくる。

(九)

だから我々は、この階級対立を益々明白にせしめてゆくことに闘争の中心点を置くべきである。寸毫といえ共、容赦なくブルジョア党の秘密取引をバクロして大衆の正面にさらけ出すことである。

更に労働者農民大衆の当面の要求にして、しかも革命的要求を遠慮会釈なく議会に投出すことである。

君主制の廃止、
議会の解散、
十八歳以上の男女の普通選挙、
治安維持法及びその他の暴圧法令の撤廃、言論、集会、結社、出版の自由、
八時間労働制、
失業保険、
土地の没収、
累進課税、
植民地独立、
戦争反対、
支那革命不干渉、
等の要求を提出せねばならぬ。

社会民主主義者は、この政策は結構である。然し理想であるというにきまっている。

然し以上は、今日の労働者農民及び被抑圧民衆にとって何んで理想であるものか、現実痛切なる要求ではないか。理想の要求でなく、現実の要求である。大衆党のスローガンとなつているものである。

君主制の廃止は、今日の法律の下においては公然と掲げることは出来ないから、掲げないのであるに過ぎない。

だから公然と掲げていないからといって、大衆の要求でないとは断じていえないのだ。

土地の没収、植民地独立は、これまた治安維持法の下に於て掲げることが出来ないから、変形的な形で、即ち耕作権の確立、又は植民地に於ける差別撤廃という要求で出されているのである。少しも理想の要求ではないのである。

全労農大衆は社会主義者を強要して、彼等に以上の如き闘争を余儀なくせしめて行かねばならぬ。

いなければ、裏切者として焼印を押してしまうのだ。

(十)

今度革新党は少数になつてしまつたので、無産党に協力して妥渉団体を作る妥渉を持ち込んで来たと聞いた。

妥渉団体が何んだ！　議員は一人でも行動は出来る。決してブルジョアジーと妥協して融合してはならぬ。

政府弾劾案に付いて、民政党から無産党に妥渉するという話もある。決して民政党とは妥協すべきではない。労働者農民の立場から　（ママ）案は提出せよ！　民政党と協同一致の行動はどんな利益があるのだ。

民政党はブルジョアジーの党ではないか。

どんな少しなものでもよい、敵の闘争を利用することは重要である。然しながらその利用は、労働者農民の立場においてなされるものでなければならぬ。

だから民政党としても、又その他のブルジョア党にしても、彼等からの交渉は一切大衆の眼前に全部バクロしろ！　そして労働者農民の立場を明確にして、或る事情の下に於いては、協同戦線をはることも必要である。

だが断じて忘れてならないことは、議会内行動は議会外大衆行動に従属するということである。もしブルジョアとほんの一時的の協同戦線を張る場合は、彼等の全行動を大衆にバクロし、労働者農民の利益の立場に立ってなさるべきである。

再び捕縛された朝鮮共産党員に対する大衆的釈放運動をおこせ!!

朝鮮革命運動の先頭隊たる朝鮮共産党員百〇一名が獄につながれること既に一年有余、その間野獣に等しき拷問をかけられ、治安維持法によって苛酷な宣告を下されたことは、わが革命的労働者農民諸君が怒憤を以つて目撃したところである。

日本帝国主義者は去る一日に至って、突如として再度の共産党員捕縛を断行し、三十余名の同志を目掛けて捕縛した。

これ朝鮮の一切の合法的大衆運動を禁圧せんとする陰険悪らつ極まる目的に出ている。

日本帝国主義者は植民地に於いて、憲法を施行せず半専制政治を以つて政治すと公言している。

朝鮮には、わが腐った憲法が形式的に保証しているが如き貧弱な自由すらもない。一切の自由がない。

有るのは鉄の如き弾圧ばかりだ。

革命家にとって牢獄も絞首台も覚悟の前である。しかし吾々は一人と雖も敵の牢獄に同志を入れてならないのだ。

共産党は、どの国の共産党もすべて兄弟である。
労働階級の運命を自分の運命とし、世界革命のために一身を投げ出すのが共産党員である。
殊に朝鮮共産党員と日本共産党員とは、切っても切れぬ縁がある。
日本帝国主義は、吾々の共同の敵である。
この共同の敵を倒さなければ、日鮮の労農大衆の釈放は実現することが出来ない。
吾が日本共産党は、朝鮮が完全に日本帝国主義の鉄鎖を放れ、自由独立の国家を形成する為めにあらゆる努力を惜しまない。
だが共産主義者は各民族の独立国家の形成と共に、各民族の自由なる堅固なる連盟の形成を目標とする。
日本のプロレタリア国家は、朝鮮のプロレタリア国家と堅く握手して世界革命に貢献せねばならぬ歴史的事情の下にある。
共産党員は、一切の被圧迫民衆の革命力を充分に発展させる指導者だ。
共産党の決死的行動がなければ、ブルジョアジー及び地主を打ち倒すことは出来ない。
一人と雖も、共産党員を敵の手に渡してはならない。共産党員が敵の手にとらえられた場合、大衆はいつでも大衆行動によってその釈放を要求し、大衆の威力を以つて之を救い出さねばならない。
リープクネヒトの捕えられた時、ドイツの各都市の労働者は大示威運動を以つてその釈放を要求した。
問題は一人二人の指導者ではない。
全圧迫民衆の輝やける指導軍隊たる共産党を守ることにある。
朝鮮の民衆はすでに百〇一名の共産党員の釈放を要求し、その緒間に抗議する幾十回の運動をやった。
老人も、少年も、女子も、釈放運動の陣列に加わった。朝鮮の専制政治の下においても、彼等はそれを断行して来たのだ。
日本の労働者農民諸君!!
今や新たに三十名の共産党員が捕えられた。
朝鮮民衆に打ちおろされる鞭は、諸君自身をなぐりつける鞭である。日本帝国主義こそ日鮮労働者大衆の共同の敵である。
朝鮮の輝やける指導者を、牢獄から救い出すことは諸君自身の任務でもある。
朝鮮民衆の大衆的釈放運動に、諸君自身の大衆的釈放運動を合体せしめねばならぬ。
朝鮮の指導者及び朝鮮民衆の釈放運動を見殺しにすることは、諸君の絶大の恥辱である。
朝鮮共産党員釈放の大衆的運動をおこせ!!
ブルジョア政府に向つて即時釈放を要求せよ!!
工場に於て、農村において、大衆集会において語り合い、手をとつて運動を起せ!!
野蛮極まる治安維持法の撤廃を政府に迫れ!!
無産政党の新代議士をして議会に於てこの釈放を要求せしめ、これを承知せざる代議士に、日鮮労農大衆の共同の敵たる焼印を捺せ!!

労働者はどうして武装するか

═労働者自衛団の任務と組織═

或る大工場の争議中に労働者はストライキや集会や示威運動で、自分とに、会社側の暴力団に対抗した。
当然だ。武装した暴力団や警官隊に対抗する時は無論だが、私服のスパイや仲間の裏切者などに対しても、イザという場合には武力を以つて防ぐ用意がなくてはならぬ。
なぜならヤツ等に密告されたり、つかまったりすれば、必ずミカタがひどい目にあうにきまっている。そして監獄にぶちこまれたり、断頭台にのせられたりするからだ。
だから労働者は日常闘争の中から、イヤでもオウでも自から武装する必要を知り、又何んとかして武装する方法を学ぶのだ。
こういう風に労働者はストライキや集会や示威運動で、自分の手に武器を持つて暴力団や警官隊に対抗することに訓練を積まなかつたら、階級闘争の決勝戦たる革命において労働者側の勝利を得ることが出来ない。
革命では労働者が武装蜂起してブルジョアの軍隊や反革命軍をたたきつぶさねばならぬのである。
どこのどんな革命でも、武力と武力との衝突によらずして勝敗のカタが付いたためしはない。
もちろん個人的な蛮勇は慎しまねばならないし、又ストライキや示威運動の場合になんでもカンでも武力衝突をやるわけに行くものでもない。
然し労働者の側で武器を持つて守るか、否かで勝敗が分れるとか、大切な機密が保てるとかいう場合には、死力をつくして武力抵抗をしなければならぬ。
それでも労働者側がまけることはある。(イヤ労働者は、しばしばそういう敗北を経験して、その度毎に強くなるのだ)
然しそういう大切な時に少しも暴力に武力で対抗しようとせず、やられたら不運とあきらめてオメオメと囚われの身となつたり、敵に陣地を渡したりするようでは、そんな平和主義、無抵抗主義では、労働者はいつまでも革命に勝つことはできはしないのだ。
そこで労働者は日常不断の闘争で、武力的訓練と組織とを学ぶ必要がある。
しかもストライキや集会のその場その場だけではなしに、フダンにその用意と訓練とをつづけていなければならぬ。そうでないと、イザという場合にも充分威力を発揮できない。
殊に今日では警察や反動団体が、イツ何時労働者の集会や事務所をおそうか、わからない状態ではないか。

組合の大会などでは必ず警備隊を設ける

ストライキでは大抵の場合、警備隊の外に、争議団の中でも勇敢な連中によつて何等かの武装をした襲撃隊、決死隊が組織される。
だがこういうやつをフダンからつくつて警戒的に、計画的に労働者の武力的防衛を訓練し、組織することが、今日では絶対の緊急事である。これが労働者自衛団というものだ。
労働者自衛団は、決して少数の共産主義労働者だけを防衛するものでもなく、又共産主義者だけで組織するものでもない。
それは資本家の官憲又はその御用反動団体——つまり支配階級の暴力——に対して全労働者の暴力の組織である。
然しストライキの場合に、全争議団が警備隊になれないように、自衛団も労働者全部で組織するわけには行かぬ。やはり一定の専門的組織にする必要がある。
そうかというて労働者自衛団は精鋭分子だけで組織したり、一般の労働者に秘密であつたりしてはならぬ。

自衛団は工場単位に組織する

そしてその工場の全労働者が、それを組織したようにしなければならぬ。
勿論こういう組織は、先ず最も勇敢な労働者が中心とならなければできない。
そして又どこの工場でも、最初から公然と自衛団の発会式など開けられるものではない。
然し必ずこれはその工場のかなり広い範囲の労働者を団員として、且つ公然たる組織にしなければならぬ。
何等の武器もない、何等の軍事的訓練もない労働者自衛団というものは、自衛団ではない。自衛団という以上は、たとえ棒切れにしろ、ハンマーにしろ、労働者の肉体以外に何かの武器をある程度まで具えなければダメである。そしてあらゆる手段を構じてなるべく優秀な武器を手に入れるように心がける必要がある。
自衛団はヒマさえあれば、工場の内部や近所の山林、原野などで、武器の練習や、攻防演習などをやるべきだ。

工場軍事教練は自衛団の手に奪取せねばならぬ

工場主が労働者の闘争をそらすためにやつているスポーツの如きは、工場委員会及び工場自衛団の手に取り、自衛団の軍事的訓練と結合させる必要がある。
そうすることは一方赤色スポーツを建設するためだけでなく、他方自衛団の日常活動を活潑にする。
かくして労働者をカフェー遊びや、活動写真や、ブルジョア・スポーツから解放することが出来るのである。
同一地域の各工場の自衛団は互に団結して、一定の常備部隊を設け、不断にその地方の資本家団、反動団体及び官憲に対抗する必要がある。
そしてまた争議の場合の動員は勿論、平時においても時々各工場の全自衛団が集合して、軍事的演習、競技又は示威集会を開くべきだ。
かくの如き労働者自衛団は、自分たちの集会やストライキの組織である。
然しストライキの場合に、全争議団が警備隊になれないように、自衛団も労働者全部で組織するわけには行かぬ。やはり一定の専門的組織にする必要がある。
そうかというて労働者自衛団は精鋭分子だけで組織したり、一般の労働者に秘密であつたりしてはならぬ。

自衛団は工場単位に組織する

そしてその工場の全労働者が、それを組織したようにしなければならぬ。
勿論こういう組織は、先ず最も勇敢な労働者が中心とならなければできない。
そして又どこの工場でも、最初から公然と自衛団の発会式など開けられるものではない。
然し必ずこれはその工場のかなり広い範囲の労働者を団員として、且つ公然たる組織にしなければならぬ。
何等の武器もない、何等の軍事的訓練もない労働者自衛団というものは、自衛団ではない。自衛団という以上は、たとえ棒切れにしろ、ハンマーにしろ、労働者の肉体以外に何かの武器をある程度まで具えなければダメである。そしてあらゆる手段を構じてなるべく優秀な武器を手に入れるように心がける必要がある。
自衛団はヒマさえあれば、工場の内部や近所の山林、原野などで、武器の練習や、攻防演習などをやるべきだ。

工場軍事教練は自衛団の手に奪取せねばならぬ

工場主が労働者の闘争をそらすためにやつているスポーツの如きは、工場委員会及び工場自衛団の手に取り、自衛団の軍事的訓練と結合させる必要がある。
そうすることは一方赤色スポーツを建設するためだけでなく、他方自衛団の日常活動を活潑にする。
かくして労働者をカフェー遊びや、活動写真や、ブルジョア・スポーツから解放することが出来るのである。
同一地域の各工場の自衛団は互に団結して、一定の常備部隊を設け、不断にその地方の資本家団、反動団体及び官憲に対抗する必要がある。
そしてまた争議の場合の動員は勿論、平時においても時々各工場の全自衛団が集合して、軍事的演習、競技又は示威集会を開くべきだ。
かくの如き労働者自衛団は、自分たちの集会やストライキの場合に直ちにその部署について働くは勿論、他工場のストライキの労働者防衛に参加し、また農民暴動等に際しては、労働者特有のよく訓練され、組織された暴力をもつて農民を援助せねばならぬ。
労働者集会、組合大会、労農政党大会等にも、工場自衛団が出動して、警備の任に当らねばならぬ。
こういう仕事が充分に出来るような自衛団は、決して一朝一夕に出来るものではない。
又徒らに組織の形だけをつくつて多少の武器などをあつめても、肝心の大衆闘争がなければ何んの役にも立たない。労働者の大衆闘争を通じてのみ、自衛団は建設されるのである。
そして革命戦における赤衛軍の基礎的部隊がこの中で出発するのである。
共産党の工場細胞は、工場の自衛団の中核となつて、その組織と訓練とのために多大の努力をせねばならぬ義務がある。
労働者集会、組合大会、労農政党大会等にも、工場自衛団が出動して、警備の任に当らねばならぬ。
こういう仕事が充分に出来るような自衛団は、決して一朝一夕に出来るものではない。
又徒らに組織の形だけをつくつて多少の武器などをあつめても、肝心の大衆闘争がなければ何んの役にも立たない。労働者の大衆闘争を通じてのみ、自衛団は建設されるのである。
そして革命戦における赤衛軍の基礎的部隊がこの中で出発するのである。
共産党の工場細胞は、工場の自衛団の中核となつて、その組織と訓練とのために多大の努力をせねばならぬ義務がある。

『労農』一派に対する我党の態度を声明す

雑誌「労農」のグループの諸君は自から共産主義者なりと信じているであろう。だが共産主義者たる不可欠の条件は何か。それは彼等のグループの一人荒畑氏が、共産党事件の公判の時に声明したるが如く共産主義者たるものは党に属することであり、不断に組織的活動をなすことである。
共産主義者たるものは雑誌や書斎にとじこもることでなく、大衆の闘争の先頭に立つて生死の闘争を敢行する労働階級唯一の党、日本共産党の組織の一人となることである。
共産党に所属せざる共産主義者なりと信ずるは自己の立場を弁明するのである。何人かの私有物である。その政治だが彼等は自己の立場を弁明するのである。何人かの私有物である。その政
それは彼等のグループの一人荒畑氏が、共産党事件の公判の時に声明したるが如く共産主義者たるものは党に属することであり、不断に組織的活動をなすことである。
共産主義者たるものは雑誌や書斎にとじこもることでなく、大衆の闘争の先頭に立つて生死の闘争を敢行する労働階級唯一の党、日本共産党の組織の一人となることである。
共産党に所属せざる共産主義者なりと信ずるは自己の立場を弁明するのである。何人かの私有物である。その政治だが彼等は自己の立場を弁明するのである。何人かの私有物である。その政
日本共産党はセクトである。又、だから我々は党に入ろうとするのである。
党生活の無い人達はこの根本的な要点を失つてしまう。そして知らず知らずのうちに、自分は共産主義者と自任していても、結局反革命の徒になつてしまうのである。注意せねばならぬ。
党生活を通じないでは、どんな立派な意見も無意義である。
否、立派な意見は、党生活を通じないならば出てこないのだ。
然しもしかりに、意見としては正しい少数者がその意見が容れられないからといつて、党より出て、党に敵対行動をとるならば、それこそ共産主義者としての革命的誤謬である。
だから党生活をなしているものは或る場合、即ち党の決定が自己の意見と違つた場合には、その党の決定に従い、自己の意見と行動とは違つた意見と行動をなす場合があり得る。
何よりも党の決定が大切である。
共産党も、それを組織する前衛分子の政治的経験の未熟なるがために、種々誤つた政策をとらないとも限らない。然しながら党生活はその発展に応じて、党の行動、闘争の進展によつて、必ず誤つた意見、政策を正しくするであろう。
そうであつてこそ、党は個人の私有物でなく、労働階級の党であるということが出来るのである

ぬ。

「労農」グループは、彼等も一つの組織任務をやっているものと信じているだろう。すなわち雑誌の組織任務を。しかし共産主義者が組織任務をするということは、雑誌を出すことではない。共産党の組織をつくることだ。共産党の組織に入ることである。

共産党は、雑誌の発行者団ではなくて、労働階級の政治結社である。大衆的な組織である。

民主的集権主義の原則に基いて、工場細胞を基礎として組織されるものである。

雑誌の発行と政策提唱は、共産党ではないのだ。彼らはこの基本的な共産主義者の組織活動については殆んど言及してはおらぬ。彼らの意見は雑誌の行と行との間にチラチラ散在するのみだ。だがそれをまとめてみるとこうだ。

「共産党は今日非合法の組織しか持っていない、そしてこれはいきほい秘密組織である、かかる組織を今日日本につくることは全然の誤りである」と。又

「労農の大衆党はブルジョア革命遂行の、即ち労働者農民の民主的独裁を樹立するまでの間、大衆を指導する政党である。そして共産党はそれから後の闘争を指導する政党である。だから共産党は、今日全然の地下的組織でよい、労働者農民の民主的独裁が樹立されてから表面に浮びあがるものである」と。

「従って共産党の戦略は、帝国主義の倒壊に主要目標を置くのである。然し今日直ちに共産党が浮び出して、大衆的組織をもってそれをやるのではない。大衆党にブルジョア革命をやらして、その後からその結果を指導するために、今日戦略を提出しておくのである。だから今日先ず共産党を伏せておいて、大衆党に全力を注ぎ、大衆党に当面の政策を戦いとらしむるのである」と。

それのみでない、彼等は一かどの革命家気取りで戦略や戦術を云々しているが、一体その戦略と戦術は結局学者先生のオシャベリにすぎない。

彼等の理論は以上示せる如しだ。

この理論は結局するに一体何んであるか？　典型的な日和見主義、解党派の理論である。

彼らは、自分らこそコミンテルンによって正解されたものと信じている。

だがコミンテルンは行動によって共産党を組織しないものを、又行動を以って共産党に入らない奴らを認めるであろうか？　否断じて否である。

コミンテルンは、たとえ政策行動に誤っていても、行動を以って党の組織をつくっているものに対してのみ、その誤りを指摘し、再組織の方針を与えるのだ。何もしていない奴らに対しては断じて眼をくれない。そんな奴等は断乎として排撃する。

日本共産党は共産主義の外貌を装い、我党の再組織を妨害している「労農」グループに対しては、断乎として排撃する。

労働者階級の最悪の敵、ブルジョアの手先たる社会民主主義者とひとしく、彼等解党派、日和見主義者に対しては、敢然と戦うものである。

一般大衆ならびに我党員の中にも、「労農」のグループが我党の一つの分派であると考えているものもないとは限らない。しかし我党内には一つのホンのわずかの分派すら存在していない。

彼らは明らかに我党と別物であるということを、ここに声明する。

我党は福本イズムの克服と同時に、山川、荒畑のセクト的、個人的、私党主義、解党主義を、我党の行動を通じて党の発展の過程において断乎として排撃する。

そして党を大衆的な党とし、労働階級唯一の党として完成することを、ここに全大衆に誓約する。

日本共産党中央執行委員会

編集後記

△わがプロレタリアートの最初の国会選挙戦も終え、今やブルジョア二大党は政権争奪に狂奔し、無産党及びその代議士は着々陣容を整えつつある。

この多端不安定なる政局のただ中に、わが党の旗は赤く、高く、進んで行く。

△新政局に対して党は、いかに戦うべきか、無産党合同運動、労農一派に対する態度、労働者武装、朝鮮の同志捕縛の問題——狭い紙面ではハリサケルばかりだ。

△本紙も三号でどうやら「赤旗」の名にハヅカシクないものになれたようだ。

闘争の発展は、本紙の発展だ。

「赤旗」の下にすべての闘争を糾合せよ！（終）

一九二八・三・一五　第四号

赤旗　月二回発行

日本共産党
中央機関紙

△無産党議員団の設立と左翼大衆の任務
△労働農民党拡大中央委員会の任務
△婦人同盟の組織に就て
△武装蜂起への訓練と準備とを急ぐことによってパリ・コンミューンを記念せよ！
△赤旗の旗影
三人の兄弟を殺された香川農民のために奮起せよ！
木崎村鳥屋の争議激発を極む、大衆的行動を以て地主を叩きつぶせ!!
悪地主を叩き殺せと青年地主宅を襲撃す
前衛指導の下に札幌の大工場全部動揺
札幌帝国製麻八百名の争議！
会社の抑圧に反抗して札幌製粉動揺す！
札幌市電従業員の不平高まる
△編集後記

無産党議員団の設立と左翼大衆の任務

(一)

本紙前号に於て、大衆党の議会外活動の絶対重要性を主張した。而して大衆党としての農民労働党創立過程に於て、又創立以来、大衆党は行動的党であるか、議会のための党であるかの問題は、また左翼の争いの中心点であったのである。

大衆党は、本来労働者農民の階級闘争に於ける自然発生的な闘争組織の集積されたものとして生れた。現実闘争で悪戦苦闘している労働組合、農民組合の結合体として生れたのである。

即ち労農大衆の経済的日常闘争を政治的に戦う組織として生れた大衆の結合体である。然るに政治的闘争には二つの方向がある。

㈠は議会中心の社会民主主義的方向、即ち議会に代議士を送って社会改良をつみ重ねあうと云う政策である。それは議会に対する幻想を労農大衆に持たせ、その幻想によって大衆の自然発生的な激烈なる行動をマヒさせてしまおうとするブルジョア政策である。之に対し、

㈡は、議会内行動は合法的な意義しか持たない。主要な行動は自然発生的な大衆の経済的直接行動である。

その経済的直接行動を政治的な直接行動に高めること、即ち暴動、一揆、反乱に導くことが、プロレタリアートと農民とを解放する正しき道である。

議会内行動は、この議会外大衆行動を支持し発展せしめる役割を果すのみである。したがってそれは議会外大衆行動に発展せねばならぬ、と主張する。そして後者こそが正しきプロレタリアの政治行動である。

(二)

日本の今日の議会は封建的残存と結合したる、反動的な役割をしか持たない議会である。

労農大衆の要求はこの議会からはホンの爪のあかほども獲得出来ない。もし議会が何らかの社会改良的施政をしたとするならばそれは労農大衆の議会外行動の発展を恐れ、それを去勢せしめるためである。

したがってかかる場合議会に於て我々の要求が貫徹されたのではなく議会外行動によって議会を圧迫したからそれが出来たのであると云う事を我々は銘記せねばならぬ。

議会に労農大衆の代議士を送られなかった時代に於ては大衆行動はいやが応でも議会外行動に赴く以外に方法がなかった。

労農大衆の反抗が日々に高潮に達して来ている今日に於ていつまでも議会を閉鎖しているならば、大衆の直接的行動は勢い暴動に赴かざるを得ないのだ。

だからブルジョアジーは彼等の支配政策からしても、労農大衆に対して議会への道を開いたのだ。

だがそのためには、卑劣にも彼等は、議会の幻想を伝播していた。

もし大衆党が議会行動を第一に置き、議会外行動に議会内行動を従属せしめると云う原則を放棄するならば、その日から大衆党は大衆党でなくして、社会民主党になってしまう。今は議会に八名の代議士を出した各党は、急速にその各々の行くべき方向に向いつつある。

即ち社会民主主義者は社会民衆党を先ず第一に支配し、進んで日労党の左翼社会民主主義者と協力し、更に一歩をふみ出して大胆にも各党の議会内行動の議員団を作ることを提議した。

事毎に消極的な態度を持っていた彼等は、今は極めて大胆になった。議会に無産派の代議士が出た、我等の所へ来れというのが彼等の真意である。

大衆党をめぐる左翼の過去三年の苦闘は、大衆党を議会党とせんとする社会民主主義者にこれを奪取されないための、これを真の大衆行動党として発展せしめるための血と涙の闘争ではなかったか。そして今日代議士を議会に送るに当って、その代

(三)

大衆党は大衆の無産闘争によって結合せる労農の政治的ブロックである。このブロックの最も根本的な存在の理由と役割は、無産闘争に参加し、大衆の行動によって労農大衆の要求を戦いとると云う所にある。

もし大衆党が議会にたよることとなり、無産闘争を捨て去るならば、それは社会民主主義者の政党となってしまう。議会に代議士を送れなかった時に於ては、労農、日労、社民の各党は勢い大衆党の役割を果たしていた。勿論以上の政党の中、真実に大衆党としての役割を果していたものは、第一に労農党であり、又は労農党の党員大衆、社会民衆党の党員大衆である。

日労、社民の幹部はこぞって現実闘争に対してサボタージュした。彼等はストライキをもし殺した。況んや蔣介石に対して讃辞すらも与えたではないか。支那の兄弟に対し、朝鮮台湾の兄弟の言語に絶した迫害に対して、彼等は何をやったか？

社民党の幹部は意識的に計画的に大衆の行動を抑え付け、議会の幻想を伝播していた。

もし大衆党が議会行動を第一に置き、議会外行動に議会内行動を従属せしめると云う原則を放棄するならば、その日から大衆党は大衆党でなくして、社会民主党になってしまう。今は議会に八名の代議士を出した各党は、急速にその各々の行くべき方向に向いつつある。

即ち社会民主主義者は社会民衆党を先ず第一に支配し、進んで日労党の左翼社会民主主義者と協力し、更に一歩をふみ出して大胆にも各党の議会内行動の議員団を作ることを提議した。

事毎に消極的な態度を持っていた彼等は、今は極めて大胆になった。議会に無産派の代議士が出た、我等の所へ来れというのが彼等の真意である。

大衆党をめぐる左翼の過去三年の苦闘は、大衆党を議会党とせんとする社会民主主義者にこれを奪取されないための、これを真の大衆行動党として発展せしめるための血と涙の闘争ではなかったか。そして今日代議士を議会に送るに当って、その代

議士に一パイくわされ、議会行動第一主義に改宗するならば、どこに左翼の苦闘の意義があるのだ！

左翼として最も輝かしい活動を発展して来た労農党の党員諸君、日労党の党員諸君、諸君は議会に代議士を送りたいばっかしに右翼と闘争して来たのか。否、断じて否である。それならば諸君！　二月九日協油会館に開かれた各党協議会に於けるあの声明は何たることだ!!

(四)

声明はこう書いている——

『無産党議員団及び無産党議会対策合同委員会は本日目出度生立した。前途光輝ある使命を有する我等無産階級の政治戦線は、茲に生れた。我等は今後協同一致階級的利益のために勇往邁進せんことを誓う』

議員のブロックが出来たことが、何が目出たいのだ!!

『政治的戦線は茲に成った』何が政治戦線だ!!　大衆党の合同はどうなったのだ。一番肝心な大衆党合同をそっちのけにして、議会内に於ける議員だけがブロックを作ったからと云って、それが何で目出たいのだ!!

『政治的戦線は茲に成った』とよくこう云うズウズウしい事が云えたものだ。

労農党は先きに声明書を発表して、議会内行動は議会外行動に従属されなければならぬと主張した。そして此の会議に於ても以上の精神の下に労農党の代表者は社会民主主義者と戦ったのであろう。

だが出来たものは、一体何であるか!!　過去に於ける大衆の直接的闘争の輝かしい、功績を抹殺し、議会行動の花々しい幻想を声明するようなことになったではないか!!

『政治的戦線は茲に成った』何が政治戦線だ!!　大衆党の合同はどうなったのだ。一番肝心な大衆党合同をそっちのけにして、議会内に於ける議員だけがブロックを作ったからと云って、それが何で目出たいのだ!!

かかる会議を従来の慣習で幹部のみにまかして置くから、いつも一般党員はフミ台にされるのだ。

一体今度の会議に出席した連中の顔ぶれを見給え！　第一に阿部だ。第二に鈴文だ。第三に加藤、片山、藤井、清原だ。僅かに細迫、藤波、秋葉、相谷、山本の諸氏のみが左翼として忠実なる人達であるだけではないか。大体何で、労働者農民の全体的利益に関することを、インテリゲンチャと社会民主主義者にまかして置いたのか!!

全労働者農民は、この声明書の精神に断乎として反対せねばならぬ。然らずんば全労農大衆は社会民主主義者のフミ台になってしまうのだ!

議員団のブロックは第二だ。大衆党合同が第一だ。労農大衆の全体的利益をよりよく敷に示すために、議員団のブロックを作らしめざるを得なくするものは、大衆の強要であるのだ。

社会民主主義者に利用されて出来た議員団のブロックは全然意味がない。我々は厳然と社会民主主義者の行動を弾劾せねばならぬ。

社会民主主義も日労の幹部も議員団のブロックに賛成したのであるから、大衆党の無条件合同に賛成しないことはないであろう。もし、議員団のブロックには賛成する。然し大衆党合同には反対だと云うならば、それこそ彼等の正体が何であるかをハッキリ大衆に示すことになるのだ。

即ち彼等は議会内では協同しよう、然し議会外では分離しよう、議会内行動で大衆をゴマカスことには賛成だ、だが議会外行動によって大衆を革命的行動に訓練する力強い動員組織を作ることには反対だという、彼等の正直なる所を表示しているのだ。

労農党は喜んで議員団のブロックを作ることに賛成した。しかも条件をつけずに。然しそれは労農党の本意ではない。労農党は一歩を進めて、しやにムニ無条件合同の即時実現を社民日労に強要す！　そこにこそ労農党の真意があるのだ。

又それが社民、日労の社会民主主義的幹部の困惑する所だ。そこに大衆の弾圧があるのだ。そして大衆党合同を真に労農大衆のものとして実現し得ることになり、議会主義の幻想の下に協同ブロックを作らせることに成功した社民党、日労党の幹部のバケの皮をヒンムイて、彼等を叩きのめすことが出来るのである。

議員団のブロックには何等条件をつけずスラスラ運んだ。日労、社民の幹部は、議員の本隊たる党の合同に付いて何等条件をつける理由を見出すことが出来ないはずだ。然し彼等はそれを見出そうとするであろう。そのカラクリをバクロせよ!!

労働農民党
拡大中央委員会の任務

大衆党の合同を
即時実現化せよ！

来る十七日労農党拡大中央委員会は東京に於て開催される。左翼的大衆行動党たる労農党の拡大中央委員会は極めて重大なる意義を持っている。無産派八名の代議士が出来たこと、議会の幻想が具体的な事実として現われてきたこと、社会民主主義者の進出、大衆党合同の機運が促進されていること、プロレタリア前衛日本共産党が出現したこと等の諸事実は、この拡大中央委員会に於て、如何なる議案が討議されるか今具体的にならない。然し第一、総選挙の批評、第二、合同問題、第三、議会内外の闘争に関する議案等が中心点をなすであろうことは明白である。

総選挙に於ける批判に付いて

第一問題となる点は、選挙協定会議に於ける無原則的協定の問題である。

選挙協定問題に付いては、日本共産党それ自身としても誤謬を犯した。それは本紙前号に詳細に述べたところである。

左翼大衆党としての労農党は、選挙協定会議に於て遠慮と自重の態度のみをとり、左翼労農大衆の欲求を正しく代表したかった。社会民主主義者を批判することを忘れ、却て彼等に有利な地盤を与え彼等に利用されたという点が重要である。これは充分に批判され討議されねばならぬ。

今日労農党の内部に於て次ぎの如き主張をなすものがある。『労農党は大衆党である。従って大衆党は党として社会民主主義者を批評することは誤りである。』と。これ程の康々しい主張はない。労農党は大衆党である。そのことは正しい。だがこの党には然も左翼的な労農大衆を抱擁しており、その幹部も全体として左翼である。従って左翼大衆が結集される組織体である。

だから労農党幹部が党を代表して、党として社会民主主義者を排撃し、大衆を彼等に奪われないようにすることは、然も大切なことであり、同時に幹部がかかる行動をなすことは左翼としての党員大衆の意志を正しく代表したと云うことになるのだ。

もし党として社会民主主義者を批評しないということになれば、党は左翼としての任務を破棄することになる。

選挙協定会議に於ては、意識的に社会民主主義者との闘争をやるべきであったのだ。

社会民主主義者を労働者農民の代表として議会に送り込むならば、労働者農民に対するブルジョア地主の支配を強化せしめることになるのである。

抽象的な無産党という名に迷い込んでしまって、又は無条件合同という主張を機械的に考えてしまって、社会民主主義者に対する戦闘と批評を遠慮するならば、左翼は左翼でなくなってしまう。従って労農党は党として社会民主主義者を批評し攻撃して悪いと云う連中は、それはとりもなおさず社会民主主義者の廻し者であって、左翼党たる労農党をカクランせんとする連中である。

党として社会民主主義者を批評しては悪い、それは間違いであるという主張は、もう、労農党の中にも社会民主主義者はいるのだから、そんなロハバッたい主張は出来るものではない、ということなら一理はある。

即ち現にそれを主張している連中が、社会民主主義者の手先であるからだ。

もし労農党はさきにも述べた如く、全体としては左翼大衆の結集体であるとしても、その中には「労農」一派もいる。

社会民主主義者も少しはいる。そして彼等は左翼の指導に対してその統制を乱している。然しそれは今日に於てはやむを得ないことであって、労農党が共産党でない限り、彼等をも抱擁しなければならぬのである。然しそうかといって彼等の横行カッポを許してよいのかと云えば、否である。

断じて彼等に勝手な行動をとらせてはならぬ。だが然し除名や乃至機械的な方法によって彼等を退治するのでなく、大衆の行動で退治してしまうのでなければならぬ。だがソンナ有象無象を包みながらも、労農党の主要構成要素は左翼大衆である。この点が日労党や、社民党と相異する所である。大衆党という名の下に以上の相異点を見失ってしまってはならぬ。

第五区の加藤と秋和君の対立問題に、労農党内の「労農」一派は声明書を出して盛んに党の指導統制を乱した。その「労農」一派なるものは、労働者と農民ではないのだ。文士だ。所謂無産階級派を名乗るゴクツブシ達である。最も卑劣な小ブルジョアである。そんなモノが盲動した所で労農大衆に影響はないであろうが、然し少くとも彼等をして断乎として労働者農民の指導に服させることが必要である。少しでも彼等に盲動の機会を与えるという事は、左翼党としての労農党の任務に多少のゆるみがあるからではなかろうか。又少くとも無産階級の利益を代表していると自称する「労農」一派が労農党の内部カクランをやるという事は、断じて許すべからざることである。『共産党のビラがまかれたために労農党は選挙に失敗した』という様な意味のことを云っている党員があると聞いた。これ程まちがった考えはない、労農党は議会党ではないだろう。大衆の行動党であろう。大衆行動を有利に発展せしめるために議会のイスをもつことは必要であるが、然し議会を目的の党ではない、当選第一主義ではないが筈ではないか、そこで総選挙の失敗成功は真に代議士を多く出せたか否かにかかっているのでは断じてない筈だ、総選挙期間に、どれだけの大衆動員が出来たか、どれだけ我々左翼の政策と目的が大衆の間にしみ込んだか、どれだけ強くブルジョアと地主とにブッかって行ったか、どれだけ多く大衆を政治的に自覚せしめたか等が、労農党としては、少なくとも行動的大衆党としては主要なる問題ではないか、そして共産党が従来全部地下に姿を沈没していて、大衆の要求を明確なるスローガンに表わしたことは、労農大衆の意識を一層明確にし、新旧対立を一層明白にしたのではないか！　勿論党の若いということのために、充分に党の生活を全大衆に正しく反映せしめ得られなかった技術上の失敗はあったが、共産党の出現によって、連に戦闘意識を明瞭ならしめたではないか、だから共産党の出現によって労農党は選挙に失敗したのではなく、それによって却って左翼党は活動を明瞭に得、大衆の左翼の傾向を急速に高める方向へ向わせることが出来たのではないか、共産党が出現したから労農党は失敗したと主張する連中は、二つの方向をもって急速に社会民主主義者となり終るであろう。

第一の方向は議会主義の方向、当選第一主義の方向であり、第二の方向は共産党排撃の方向である。

もし労働階級が共産党を排撃し、共産党を葬れという事を断じて意味しない、出来るだけ社会民主主義者の勢力を弱くし左翼を強くするという立場からなされるものでなければ意義をなさない。それは理論だけの問題でなく、大衆の現実闘争の協同行動が第一に要求することである。日労幹部及び「労農」一派の単一条件ということは、大衆党合同に於ては結局大衆党を社会民主主義者に引き渡すことをイミするのである。

断じてかかる主張に依拠し、又は妥協すべきではない。そこで今日に於ては『単一条件』は労農大衆の間にその誤りであることが明白になった。日労幹部もいつまでもこの条件を固守することが出来なくなって来た。

そこで彼等は今は労農党の内部をカクランし、場合によっては第三に、大衆党は勢い党の内部に日和見主義者も社会民主主義者も共産主義者も含まざるを得ないという点の原理である。

成程大衆党の内部には以上の諸々の政治的分派を含まざるを得ない。だが、それだからこそ大衆党であるのだと考えたら、根本的な誤謬である。

大衆党は、文字通りの大衆の結合体だ、一定の主義、政策政見の一致で集合するものではない、そこで然も重要なことは大衆的行動だ。

日常闘争の大衆行動をやる点である。党内に社会民主主義者がいるならば、彼等は大衆の直接行動には極力サボタージュをやる、そして議会を専問にするように大衆党を指導しようとする。之に反し左翼は大衆の行動に結びついている。少しもそれとはなれていない。

そして真に行動党として大衆党を発展せしめようとする。大衆党の内部に於ては、この両者の闘争があるのである。

大衆党の意義は、議会の闘争ではなく大衆の現実闘争にある。現実闘争（経済的及び政治的）に結びついているからこそ、大衆党たるの意義があるのだ、現実闘争を行動によって解決しようとして、又し得る所に、大衆党の真意はある。

決して共産主義者も社会民主主義者も日和見主義者も此に包んでいるから大衆党であるのではない。之等諸々の政治的分派を現に大衆党が抱擁するということは、大衆党が現実闘争の党であるからこそ、以て来ることなのである。

そしてこの現実闘争を、左翼は勇敢に戦いぬくからこそ、大衆党を行動党として指導し得るのであり、その行動によって社会民主主義者や日和見主義者を大衆から引きさくことが出来るのである。

だから合同問題に於ける無条件合同ということは、ミソもクソも一しょになれという事を断じて意味しない、出来るだけ社会民主主義者の勢力を弱くし左翼を強くするという立場からなされるものでなければ意義をなさない。それは理論だけの問題でなく、大衆の現実闘争の協同行動が第一に要求することである。日労幹部及び「労農」一派の単一条件ということは、大衆党合同に於ては結局大衆党を社会民主主義者に引き渡すことをイミするのである。

断じてかかる主張に依拠し、又は妥協すべきではない。そこで今日に於ては『単一条件』は労農大衆の間にその誤りであることが明白になった。日労幹部もいつまでもこの条件を固守することが出来なくなって来た。

そこで彼等は今は労農党の内部をカクランし、場合によっては第三に、大衆党は勢い党の内部に日和見主義者も社会民主主義者も共産主義者も含まざるを得ないという点の原理である。

成程大衆党の内部には以上の諸々の政治的分派を含まざるを得ない。だが、それだからこそ大衆党であるのだと考えたら、根本的な誤謬である。

大衆党は、文字通りの大衆の結合体だ、一定の主義、政策政見の一致で集合するものではない、そこで然も重要なことは大衆的行動だ。

日常闘争の大衆行動をやる点である。党内に社会民主主義者がいるならば、彼等は大衆の直接行動には極力サボタージュをやる、そして議会を専問にするように大衆党を指導しようとする。之に反し左翼は大衆の行動に結びついている。少しもそれとはなれていない。

そして真に行動党として大衆党を発展せしめようとする。大衆党の内部に於ては、この両者の闘争があるのである。

大衆党の意義は、議会の闘争ではなく大衆の現実闘争にある。現実闘争（経済的及び政治的）に結びついているからこそ、大衆党たるの意義があるのだ、現実闘争を行動によって解決しようとして、又し得る所に、大衆党の真意はある。

決して共産主義者も社会民主主義者も日和見主義者も此に包んでいるから大衆党であるのではない。之等諸々の政治的分派を現に大衆党が抱擁するということは、大衆党が現実闘争の党であるからこそ、以て来ることなのである。

そしてこの現実闘争を、左翼は勇敢に戦いぬくからこそ、大衆党を行動党として指導し得るのであり、その行動によって社会民主主義者や日和見主義者を大衆から引きさくことが出来るのである。

だから合同問題に於ける無条件合同ということは、ミソもクソも一しょになれという事を断じて意味しない、出来るだけ社会民主主義者の勢力を弱くし左翼を強くするという立場からなされるものでなければ意義をなさない。それは理論だけの問題でなく、大衆の現実闘争の協同行動が第一に要求することである。日労幹部及び「労農」一派の単一条件ということは、大衆党合同に於ては結局大衆党を社会民主主義者に引き渡すことをイミするのである。

合同問題に付いて

第一に重要な点は前述した如く、日労、社民、労農を大衆党と一口にきめてしまって、各々の持つ意義を充分に知らなかったこと、見なかったことである。

そして無条件合同と云うことを機械的に考えて、ひたすら遠慮の態度を持したことである。

第二に大衆の現実的闘争の協同を主要な合同問題のテコとせず、上からの取引に依然として終始していることである。

は労農党を分裂せしめようと策動している。そして労農党はウッカリすると彼等の術中に陥らないとも限らない危険がある。彼等も立場は社会民主主義ではあるが、然し鈴木、赤松、の如く、正真正銘の札つきではなくて、左翼的外観を示しているから、労農大衆の左翼といえども、彼らに引きつけられる危険があるのだ。

「労農」の北浦は、労農の二月号に、日本農民組合は先ず福本主義を清算せよと云っている。即ち日本農民組合の中から福本主義者を除名さすという意見を提出している。

これほど危険な、そして裏切的な主張はない。主義としての清算をショウヨウするということは、政治的に具体的には除名をショウヨウすることになり、それは事実上大衆団体の分裂を促進する議論である。

日本農民組合の大会に於て、組合員大衆はこの分裂主張の議論を受け入れるようなことはないであろうが、もし少しでもこの議論を受け入れたら大変である。

即ち組合員がこの北浦の議論をうけ入れて大会が動揺し、その結果万一分裂とか除名とかいう様な現象が現われたら、「労農」一派は何をするつもりだ。

然し今日に於ける「労農」一派は立派な裏切者なのだから、彼等としては分裂策動が本意であろう。彼等は、農民組合を分裂せしめた！　万歳！　労農党を分裂せしめた！　万歳！　と叫ぶであろう。

合同問題に付いては、以上の点を充分討論し、今後の方針を確立する必要がある。

議会内外の行動に付いて

これは種々なる問題がある。先ず第一、議会内行動と議会外行動と、どちらに重点を置くか、ということが一番重要である。

労農党は左翼の行動党として光輝ある歴史を持つて来た。従つていうまでもなく、議会外行動が即ち大衆の現実闘争が、その発展と大衆行動による政治的解決がこの党の生命とするところであり、従つて議会内行動はこの議会外大衆行動に従属するものであるという従来の精神によつて貫かれるであろうが、その党内に巣くう「労農」一派の左翼社会民主主義者達が、ガヤガヤ反対して、議会内行動が主要であるというが如き傾向を持つようになつたら、それは左翼党としての、大衆行動党としての任務役割の放棄であると云う事を党員大衆は銘記しなければならぬ。

以上の結論として労農党拡大中央委員会の任務を指摘すれば、

第一、大衆的行動党たることの任務を確立すること。

第二、社会民主主義と闘い、彼等の大衆の間に浸入することに対して敢然と闘うこと、議会の幻想を打ち破ること。

第三、大衆党の合同を促進すること、行動的大衆党としての行動を以て――議会主義によつてではないということを忘れてはならぬ。

婦人同盟の組織に就て

日本共産党はプロレタリアの党である。然しながらプロレタリア前衛の集結日本共産党はプロレタリアの目的、プロレタリア独裁を樹立するがためには、ブルジョアと地主のブロックに対する全民衆の一切の反抗を代表し、その先頭に立つて戦うものである。だから党は今日婦人の反抗と闘争とは如何なるものか、云うまでもなく婦人の階級的特権を意味するのだ。男子よりの婦人のレイゾク的地位の特権ではないのだ、だから婦人の敵は男子でなく、ブルジョアと地主のブロックである。

従つて婦人の闘争は階級的な闘争であるべきである。婦人も男子も共に階級的な同一戦線に立つということが、根本的に重要である。従つて日本共産党は婦人を党の組織に動員する。日本共産党は君子のみの党ではない。階級の組織である。その党員たり得る。即ち党の組織に加入する、そして真にプロレタリア階級的な闘争を教育する。

だから共産党は終始一貫婦人のみの組織を作らない、否婦人のみの組織を作ることに断乎として反対する。

然るに昨年我が党は婦人のみの団体、婦人同盟の組織をつくることのイニシアチヴをとつた、この政策は誤謬である。だがこの誤謬はもつと根本的な誤謬に根ざしていた。

第一、組合主義的政治闘争と全無産階級政治闘争の理論。

第二、共産党と大衆党との任務の混同の理論にあつた。

この理論からすれば労働組合の闘争は組合主義的闘争であつて、それは全無産階級的政治闘争ではない、従つて婦人の政治自由獲得のための闘争は労働組合に於ては出来ない。

それは全無産階級的政治闘争を行い得る主体、即ち労働農民党によつてでなければ不可能である。然し労農党への加入は法律上許されていない。だから婦人は全無産階級的政治闘争の一翼として婦人の政治結社――婦人同盟を作らなければならぬと云う事になつたのである。

だが今日、以上の理論は根本的に誤謬であると云う事が明らかになつた。そして共産党と大衆党の任務は明白である。

更に共産党へ婦人は加入せねばならぬという事が明らかになつた。

そして又労働組合、農民組合その他の日常現実闘争のための男子と同じ組織に動員されることは法律上既に自由を獲得している。そして婦人はそういう現実的闘争組織の中に於いて政治的な訓練を受ける。

日常経済的闘争に動員されない、そしてこの闘争に於て訓練されないではプロレタリアの政治的自覚は生れて来るものではないのである。

だから婦人は先ず第一番に男子と共に同じ闘争組織の中に動員されることが重要である。もし婦人の団体を構成しても、結局労働組合に組織されている婦人、農民組合に組織されている婦人のみが集る。

それに小ブルジョア婦人の僅かが動員されるに過ぎないのである。だがここに動員された小ブルジョア婦人は最初はマジメに運動に参加するのであるが、彼等がイニシアチヴをとるに従い、本来の小ブルジョアの本領を発揮し、婦人団体を自己のものとして支配しようとする。そして今日婦人同盟の組織は、存立の意義を失つているにも拘らず、来る十九日全国創立大会を開こうとしている。

然し乍らかかる現象の出現は、我党の根本的な誤謬に基く必

然的な産物であり、党としての重大なる責任である。

党は今日以上の誤謬を整理して、婦人同盟に対して此の如き根本的な組織改造を主張するものである。

今日婦人は政治的自由がない、参政権に於て結社に加入する権利に於て、そこで婦人の政治自由獲得の同盟をつくる。然しそれは婦人のみの問題でなく階級的の問題であるから男子と共に理解される。即ち対支非干渉の如く、議会解散請願運動の如く大衆的な組織とする。そしてそこには現在婦人同盟に組織されている労働組合、農民組合、その他の婦人も参加し、この闘争に依つて婦人の政治的自覚を高めて行くという組織にすべきである。

武装蜂起への訓練と準備とを
急ぐことによつて
パリー・コンミューンを記念せよ！

来るべき帝国主義戦争の危機に対しては
階級闘争の展開と内乱の準備とを以つて答えよ

五十七年前の今月十八日、フランスの首府パリの労働者は一切の権力を自分達の手に入れて、世界最初のプロレタリア独裁を打ち立てた。これがリ・コンミューンだ。コンミューンは今日のロシアに於けるソヴェトと全く同じものだ。コンミューンはわずか七十日間もちこたえただけで兇暴な反動のために圧殺されてしまつたが、その経緯は労働階級にとつて永久に生きている。

パリの労働者は最後の一人まで武器をとつて反革命者と勇敢に戦い、数万人の貴い血を流してコンミューンを死守して倒れたのだ。

此の革命の失敗と犠牲とは、決してムダではなかつた。それは従来のプロレタリア革命運動の最初の土台になつた。一八七一年のフランスに於ける敗北は、一九一七年十一月のロシア革命の勝利を準備したのだ。

◇

コンミューンが成つたのは、ロシアのソヴェトが権力をとつた時と同じように、ブルジョア共が始めた泥棒戦争が公然の階級戦争即ち内乱に変つた時だ。コンミューンの出来た初の年にフランスの国王とブルジョアとがプロシアと戦争をオッパジメて散々自分の国の兵隊を殺した揚句、戦争はマケになつて、プロシア軍はドンドンフランスに侵入し首府パリが危くなつた。

そこでパリ市民は蜂起して共和制を布告し、国防政府というものをつくつたが、こうなつて来ると、パリを守るためには何といつても労働者を武装させる外はない。ところがパリの労働者が自分で組織した力によつてプロシア侵入軍を打ち破れば、同時にフランスの資本家の権力が打ち破られることになる。

平生国家のためとか云つて労働者を喰つていたブルジョア達は、少しもチュウチョする事なく、国民の平和をすてて、階級の利益をとつた。彼等にとつてはパリ労働者が権利を得る位なら、フランスがプロシアに降伏する方がよかつた。

プロシアに降伏したところで、ブルジョアは何とか妥協できるし、それからユルユルと労働者を搾ることもできるが、それに反して労働者が権力をとつたらそれは根こそぎヤッツケられてしまうからだ。

彼等は早速降伏の陰謀を進め、国民議会をパリからボルドウに移し、最後には政府も、プロシア軍に攻囲されているパリを見捨ててヴェルサイユに移つた。

かくしてフランスのブルジョアはプロシアと休戦して、パリの労働者に挑戦したのだ。これに憤激した労働者は自らパリを守り、自ら一切の政治を管理するために、国防軍その他から委員を選出してコンミューンを組織した。これは明らかに一つの政府であり、一つの権力である。そこでヴェルサイユに移つたブルジョアの政府とパリ労働者政府――この二つの政府が対時するに至つた。

◇

コンミューンは最初、労働者とブルジョアの一部とを含んだ雑然たるでふみどまつて、断乎としてコンミューンを守つたのは労働者だけであつた。

コンミューンは又、最初からハッキリした社会主義の政論を以て建設されたのではないが、それでもわずか七十日の短い期間に、防備軍を廃止して全民衆を武装させ、宗教を国家の権力から引きはなし、政府役人の俸給は大臣でも何でも、普通の労働者の賃銀と同じ標準に定め、パン屋の徹夜禁止、労働者の賃銀引き下げ禁止等を断行し、又工場主が放棄した工場を労働者の共同管理に移すという工合に、立派にプロレタリア独裁の力を発揮した。

然しこれだけのことが出来たのは、ブルジョアの国家機構をスッカリぶちこわして、全然新しいコンミューンという労働の委員会組織をつくつてこれに立法行政一切の権力を収めたことと、労働者を武装させたことによるのだ。

ロシア革命ではそれがソヴェト制度、赤軍組織という、もつと発展した型をとつた。そしてこれこそが、プロレタリア独裁というものの具体的な型である。

これを作らずして、あり合せのブルジョア議会、軍隊警察などに頼つていたのでは、決して労働者の天下をつくることが出来るものではないのだ。

だからマルクス及びエンゲルスはこのコンミューンによつて、『プロレタリア独裁』でなければ社会主義革命は、遂行できないということをハッキリ学んだのであり、レーニンとボリシェヴィキ党とは、これを忠実に実現して革命の勝利を得たのである。

◇

然しコンミューンはまだロシア革命のようにシッカリした政策と鉄の規律とをもつた労働者政党（共産党）によつて指導されていなかつた。

それから特に地方の農民に対する政策が全然欠けていた。何よりも平穏無事をのぞむ農民は、労働者のコンミューンを助けるために血を流すのはバカげたことと考えていたのである。

マルセーユ、リヨン、サンテチアンヌなどパリ以外の労働者都市にも引きつづいてコンミューンが起つたが、皆思い思いにやつたので、パリとの結合は殆んど全くなかつた。

だからパリ・コンミューンが、パリ市中の社会主義建設に営々となつている間に、ブルジョア共は全国の農民をダマシ込み、プロシアのビスマルクから十万人のフランス兵捕虜を払い戻してもらい、軍隊を立て直してパリに押しよせた。

五月二十一日から一週間の『血の週間』が始まつた。ヴェルサイユの反動軍は約三万の勇敢な労働者女子供までを射殺したり焼き殺したり、あらゆる暴虐の限りをつくし、四万五千人をホリョにして、後にその大部分を殺してしまつた。

この反革命の指揮者のチェールというやつは、パリ労働者の流血の中に立つて、『これで社会主義はカタヅいた！』と云う

この暴虐はただに香川の農民にのみ下されたものではない。これは明らかに全国労農大衆の革命的擡頭に下された血の犠牲だ。

諸君は直ちに三人の農民を惨殺したブルジョア政府の暴虐に対して大衆的な反抗運動を起せ！

三人の兄弟を惨殺した
田中反動政策を倒せ！
天皇と結びついた
ブルジョア議会を解散せよ！
労農の革命的民主政府をつくれ！

（日本共産党関東地方機関紙『階級戦』号外より）

木崎村鳥屋の争議激発を極む

大衆的行動を以て
地主を叩きつぶせ!!

大正五年以来、小作料減免を中心として、木崎村鳥屋で争議が起り、失木地主は二四も差押えをやり、米を小作の家からカツギ出したり、地主はあらん限りの力で小作をヘコマそうとかかった。

そのため十九人もの脱落者を見たのであるが、後の三十七人は益々堅固に団結して戦っているので、地主も金につまり、裁判をつづけることが出来なくなっている。

地主は暴力団をやとって、うでづくでも田を奪ってみせると揚言し、小作は死んでも田をはなすものかとイキ盛んで雪どけと共に一大衝突はまぬがれぬ状態にある。

戦闘的貧農は、大衆を動員して木葉地主を叩きつぶせ！

死んでも田をわたすな！

資本家地主の政府をブッ倒して大地主から土地をとり上げろ！

労働者農民の革命的政府をつくれ!!

悪地主を叩き殺せと
青年地主宅を襲撃す

新潟県中蒲原郡栄本村上郷里の悪地主田中佐五郎は、わずか一割の減免要求にも拘らず、之に応ぜず、土地返還の訴訟すらおこし、他の地主は皆解決しているのに、この奴だけは今なお頑張っているというインゴウな奴であるが、小作人に恨まれ、家をシュウゲキされて、戸障子は石を投げられ、メチャクチャにされた。

警察はこの時とばかり地主の手先となって、中郷屋の青年七名（十七八歳の者もある）を引っぱって、ブッタリ、ケッタリ、耳下に出血させて、白状せんと縄笠かぶせて新潟に送るか、いつまでも留置場にとめるとかオドシつけて、無理矢理に白状させている。

地主の家がシュウゲキされるのは当然だ！

青年に非はないのだ！

青迫拷問する警察を糾弾せよ！

地主を追っぱらい叩きつぶしても引張らぬ労働者農民の革命的政府をつくれ!!

（日本共産党関東地方機関紙『赤色信越』第七〇号より）

前衛指導の下に
札幌の大工場全部動揺！
帝国製麻が最先きに起つ！

我党札幌の工場細胞は、全道の工場細胞に率先して『工場新聞』を発行し、既に各工場新聞とも第四号、第五号と回を重ねて居り、その闘争は益々具体的に工場内の労働者の不平と我党のスローガンとを結びつけて、闘争の先頭に立つて日常闘争の激発指導に努めている。

その結果或る所の工場に労働の闘争機運がみなぎり、各工場とも大動揺を来した。

帝国製麻の労働者先ず火蓋を切り、続いて札幌鋼、キャンデー、タイムス等が起たんとして居り、市電、鉄道省苗穂工場、ビール等も動揺しはじめた。かくて数日の後には札幌全市の大工場が悉く争議に入る状勢である。

『工場新聞』の威力を見よ！

『上からの煽動』の効果を見よ！

『闘争の実際、勝利の実際』は模範的煽動者！

全道の各工場新聞は、札幌の全工場が動揺していることを全労働者に報告しろ！

た。

然しパリ・コンミューンと社会主義とは永久に生きている。否、今日ではロシア革命と国際共産党とによつて全世界にひろがつて生長している！

帝国主義戦争よりもまた欧洲戦争よりも、もつともつと大きな世界戦争の危機が今迫つている。帝国主義戦争の危機に対して、階級闘争の展開と内乱の準備とを以つて答えろ！

すべての労働者及び貧農は労働階級の政党であり前衛軍隊である共産党の旗の下に糾合せよ！

武装蜂起とプロレタリア独裁とのために訓練と準備とを急げ！

来るべき社会主義革命に於てコミューン戦士の犠牲をアダにするな！

労働者及び農民の革命的同盟万歳！

プロレタリア革命前進！

赤旗の旗影

三人の兄弟を殺された
香川農民のために奮起せよ！

全国労農大衆の信望を持ち、労働者農民の政府を作れ！　と叫んで勇敢に戦つている大山郁夫氏の当選を妨害し、間接に全国労農大衆の政治的擡頭を弾圧せんために、田中反動政府は、この全開期に於ける最も戦闘的な農民の組織されたる香川の農民を徹底的に弾圧し、検束、拘留、拷問はまだしも、遂にあまりにも乱虐なる彼等の取調べと責苦とにより、三名の農民を憤死せしめた。否、彼等が惨殺したのだ。

諸君！　彼の伏石事件、土器事件に最も勇敢に闘つた香川の戦闘的農民は、今やこの狂暴なる地主資本家政府の暴虐に決死的になつて闘争している。彼等は、

『三人の兄弟を惨殺した田中内閣を倒せ！
農民を苦しめる大地主の土地を没収せよ！
天皇と結びついたブルジョア議会を倒せ！
労働者農民の政府をつくれ！
労農独裁政治万歳！』

を叫んでいる。

大衆的反抗運動は、今や全国的にまき起されんとする倒閣運動の中心として香川に火の手をあげんとしている。

革命的労働者農民諸君！

札幌帝国製麻八百名の争議！

各職場代表者会議を開いて要求を統一
日給の値上！　請負制度の廃止！
一切の手当、賞与の本給操入れ！
八時間労働の即時実施！

札幌の帝国製麻争議は、日給をなくして、請負仕事で労働者を根かぎり働かせる悪辣なしぼり方をしている。而も最近ぐんぐん請負労賃を値下げして来たので、労働者の不平は高まつて来た。

我党の前衛は直ちにこの問題を捉えて煽動した結果『三号職場』『原料職場』の労働者がケッ起し、要求提出に決し、『製粉職場』も賛成して来た。

前衛は直ちに『各職場代表者会議を開いて要求を統一せよ！』のスローガンと共に、一切の反抗を次の要求に統一して闘争すべしと提唱した。

一、日給の値上、請負制度の廃止！
二、一切の手当賞与の本給繰入れ！
三、八時間労働制の即時実施！

この要求を支持した各職場の代表者は三月六日代表委員会を開催し、いよいよ全職場、統一的要求を掲げて争議を起すことになつた。——（六日札幌製麻工場細胞通信）

会社の抑圧に反抗して札幌製粉動揺す！

『親睦会』の自主化！
一般社員にする役員選挙
監察部の即時廃止！

最近会社が工場内にある『親睦会』に『監察部』なるものを設けて、手ごわい労働者を率先馘首する機関とした。元来この『親睦会』は、一昨年九月の争議によつて労働者が血みどろの戦いにより獲得した労働者の工場内に於ける家族である。

然るに会社は裏切労働者を買収して、この『親睦会』をスッカリ組長級で固め、会社の御用機関にしてしまつた。そしてこの裏切り組長共を勝手に賞銀や時間を決めて、益々労働条件を引き下げている。

更に今度は、監察部を設けて不平労働者を探り出し、馘首しようとはじめたのだ。

全職工は、『親睦会などつぶして終え！』とさわぎ出したが、前衛はこれを指導して、次の要求の下に戦うことを提唱した。

1、親睦会の自主化！
2、役員の一般投票による選挙！
3、議事の公開、会社の干渉絶対反対！
4、賃金の値上！
5、八時間労働制の即時実施！

この前衛の提唱を支持した各職場の戦闘的労働者は、直ちに各職場に於て煽動をはじめ、近く各職場代表委員会を開き、更に全従業員大会を開いて表記の要求を決定し、会社につきつけるべく、そのため各職場は怠業状態である。——（六日製粉工場細胞通信）

札幌市電従業員の不平高まる

身元保証金制度の撤廃！
十六台のボロ電車を廃車にしろ！
賃銀を二割値上げせよ！
八時間労働制即時実施！

会社経営から市経営に移つても、少しも従業員の待遇はよくならない、益々悪くなる一方である。

そして二月末の給料から従業員に断りなしに、身元保証金として五円を天引し、更に三月も天引することがわかつた。札幌市電工場細胞がアジテーションした結果、各グラムに『保証金制度撤廃』の要求決り、更に前衛の提唱した

(1) 十六台のボロ電車を廃車にしろ！
(2) 賃銀を二割値上しろ！
(3) 一交替毎に四十分の休憩！
(4) 八時間労働制の即時実施！

を支持して各グラム共にこの話しで持ちきつている。どうしても近く一そう動やるべき状勢にある。——（六日札幌市電工場細胞通信）

＝以上日本共産党北海道地方機関紙『北海労働者』第八号より＝

編集後記

我が中央機関紙『赤旗』も、今号を以つてはや四号を重ねるに至つた。

労農大衆が政治的自由獲得のために、議会に八人の代議士を送り、労働者と農民の政府を作れ！

と絶叫している現在の政局に於て、共産主義者は何をなすべきか？

彼の代議士の行動をいかにして共産主義のための闘争に従属せしむべきか？　発表論文は之に対する行動原則を示すものである。

近く開催されるべき労農党拡大中央委員会及び婦人同盟大会に対する我党の態度も夫々の論文によつて明白にされている。

今号には各地方に於ける闘争を、各地方機関紙から採録した。かくて本紙は各地の闘争を隈なく反映して真に中央機関紙たるの實を挙えんとしている。今後も毎号この欄を設けるつもりである。

各地の同志諸君！　奮起せよ！　諸君の闘争は益々本紙を見栄あらしめるであろう！

一九二八・三・二二　第五号
赤旗　月二回発行
日本共産党
中央機関紙

☆労働組合の戦線統一によって
一大後衛部隊を組織せよ！
☆共産党検挙は全労働大衆に対する弾圧だ！
社会民主主義に抗して戦線統一を実現せよ!!
☆農民の合同は左翼農民進出の一歩だ
闘争の為の合同へ！
左翼勢力の拡大へ！
先ず起つて共産党検挙に戦え!!
☆編　集　後　記

労働組合の戦線統一によって
一大後衛部隊を組織せよ！

去る十五日早朝全国廿一の検事局は大活動を開始して全国に亘つて、労働組合、農民組合、労農党の各支部迄に、本部は数度の泥靴に蹂りんされ七百数十名の労働者農民の活動分子は検挙された。

支配階級は新聞記事を差し止め一切の暴行をインペイしている。だが、彼等の目的は労働階級の前衛日本共産党の弾圧にあることが明瞭である。共産党は労働階級の唯一の党である。

共産党に対する弾圧は、だから労働階級全体に対する弾圧である。と同時に、吾労働階級は最も近接せる同盟軍として農民を握つてゐる。故に労働階級の党である共産党は、同時に『土地解放』と云う農民の最大限の要求の為にも闘う。共産党に対する弾圧は又農民全体に対する弾圧をも意味する。

之故に共産党に対する弾圧に向つて真先に立つて闘うものは労働階級であると共に、農民も亦その同盟軍として協同に闘わねばならぬ。単に弾圧に対する闘いのみでなく労働階級は一切の闘争の先頭に立つて闘わねばならぬ。

労働階級の指導権は、単なる理屈ではなく、又労働者と農民の中間にある一種の権力の奪い合いではない。

労働階級が、その歴史的使命として一切の闘争の指導権を握らねばならぬ立場にあることを言うのだ。だから若し、労働階級が、闘争の指導を放棄するならば、（それは出来ないことだ）労働階級が永久に奴隷地獄に押し込められるのみならず、農民も亦地主の農奴的搾取から解放され得ない。

現在の日本では労働者丈の解放があり得ないと共に、農民丈の解放と云うことも不可能である。共産党が一切の闘争の先頭に立つことは、即ち、この歴史的使命が命ずる労働階級の指導権を、最も実践的に活かして行くことである。

共産党は、労働階級の前衛である。前衛は激烈な闘争の経験を経るごとに強固となり、老練となるだろう。

だが、戦争は前衛のみでは出来ない、前衛の背後に広大な労働軍隊が編成されていなければならない。広大な労働軍隊、それは先ず労働組合である。

労働組合が広大に且つ統一的に組織されていねばならぬことは、労働階級の指導権を実際に活かして行く上に絶対必要である。

前衛の闘争を最も強力ならしめる為に絶対必要である。今や農民組合の合同は、実現し、労農政党の合同も近づきつつある。農民の合同に際し、労働階級の指導権が具体的な問題となり、農民自身はその［　］に苦しんでいる。

危険な徴候である。此時、又一方からは政府の弾圧が一挙に降りかかつて来た。左翼労働者、左翼農民を一挙に葬り、共産党の主張した通り実現した農民組合の合同が労働組合にまで及ぶことを喰い止めんとしている。

此の危機を打ち破らねばならぬ。組織された労働組合が一致して当面せる共産党弾圧に反抗し、闘争の先頭に立つて、労働階級の指導権を真実になさねばならぬ。共産党の弾圧に退却して、農民の合同に取り残されるな。共産党の弾圧に対して労働者大衆は真先にケッキせよ。そして諸君の前衛共産党を守れ！

左翼社会民主主義者の指導下にあるものも、中央派社会民主主義者の指導下にあるものも、左翼の指導下にあるものも、労働大衆としては同じ利害を持つものだ。

社会民主主義幹部が如何に妨害しても、大衆党内から左翼と共にキレて自己階級の前衛を敵の手から奪い返さねばならぬ。

てこの闘争に於て協同行動を展開せよ！

検挙者の釈放の為の検挙に対する抗議を起せ！　前衛の組織を弾圧する治安維持法の撤廃の大衆運動を越せ！

あらゆる工場に於て、此の運動の火蓋を切れ！　先ず職場大会、従業員大会を開け！

工場代表者会議を開け！

如何なる迫害にも屈するな！

勝利は我々のものだ！

（終り）

検挙者の即時釈放！
治安維持法の撤廃！
労働者農民の革命的民主的独裁！
——労働者農民の政府——

共産党検挙は——
全労働大衆に対する弾圧だ！
社会民主主義に抗して戦線統一を
実現せよ!!

本紙前号に述べた如く、大衆党の合同問題は、第一新たに左翼社会民主主義の陣営を堅めた「労農」グループの主張、福本主義の清算と味噌も糞も一緒にする所の無条件合同論、即ち彼等は右翼も左翼も一緒になれと云う意味での無条件合同論である。

ただし福本主義を清算せよと云うのだ。ツマリ極めて体裁のよい、最も利功な社会民主主義政策である。一方に味噌も糞も一緒になれと云うかと思えば、同時に福本主義を清算せよと云うのだから。

第二、日労党幹部の主張、福本主義排除の単一絶対条件、即ち福本主義を切除しなければ合同しないと云う主義である。

第三、社民党幹部の共産党排撃の主張、以上示せる如く三者ともに結局は何とか理屈をつけても大衆党内から左翼を除こうとして、右翼の大合同をやると云う主張である。

即ち右翼の側に立つての合同でなければやらないと云うのである。即ち彼等の主張は大衆党の行動的党としての大同団結に就いてはその意味での合同には種々と難くせをつけるが、大衆党を行動の党から一蹴して議会党、社会民主主義党にするためには極めて積極的である。

だから、彼等は議会や行動に於ては寧ろ積極的に進出して合同を組織したではないか。そして議員団ブロックを作つたではないか。そこで彼等の意図は明白である。第一、大衆党の議会内行動の統一勢力を構成する事に反対する。少くとも左翼を排

除しない限りは、議会内行動を統一することには無条件で賛成する。そこで第二大衆党を行動の党から一転させて議会党、社会民主主義党とする。

そして労農大衆に対するブルジョア支配に協力しようとするのである。

だが大衆は彼等の意図通りには動かない。少くとも、日本共産党と広大なる左翼大衆とが存在する限りにおいて、彼等の意図は成功しない。否却つて大衆は共産党の政策に従い、大衆党の無条件合同と飽くまでも此党をして労農大衆の日常行動の行動党としての意義を発揚せん為に社会民主主義者の裏切行動に対して、キタンなき批評をあびせかけている。そこで社会民主主義者は漸次退却をせざるを得ない状態になつて来た。

第一に日労党幹部は絶対単一条件をあくまで固持すると云う態度を変えなければならなくなつて来たこと、その代り第二、労農グループを使つて労農党内部から、大衆党は党として社会民主主義者を排撃することは誤謬である。少くともかかる行動を労農党にとらしめたる中央部は辞職すべきであると云うが如き主張を立てて来た。だが、日本共産党を真先に立ててその旗の下に結合せる左翼大衆は彼等の陰謀を叩き伏せて、勢いよく進んで行つた。そして労農党の拡大中央委員会は、農民組合の合同懇談会に於いては大衆は、労農グループのセッ角の流言に耳をかさず、日労幹部の云う事をも聞かず、一挙に福本主義の清算や又は宗派主義の排除という条件の無条件合同を一蹴して、我党政策の無条件合同の実を挙げるという所まで進んで来た。恐れをなしたものは、日労、社民の幹部と労農グループばかりではない。

資本家地主の政府である。第一、右野党の民政党は特別議会に於て、此の事実と、此の事実を生んだ所の日本共産党の種々なる文書を持つて貴族院と協力して、政府の不始末を攻撃せんとして用意を備え初めた。

政府に於ても、民政党の攻撃をまつまでもなく、一刻もゆるがせ出来ないものとして断固として、我が共産党に向つて弾圧の魔手を被せようとしていたのだ。

そこで彼等にとつて、もつともよい時期は労農党拡大中央委員会と、農民組合の合同懇談会とである。

このモメントをつかまえて我が党に弾圧を下すことによつて左翼の進出を押えつけ、退却を余儀なくなつて来ている社会民主主義者を攻勢に転ぜしめようとしたのである。

十五日朝突如として、全国廿一の検事局は活動を開始した。一切の新聞記事を差し止めて、日本全国に亘つて、労農党、農民組合、労働組合評議会の支部及分会、地方評議会各本部等を襲撃した。そして全国で七百数十名の大検挙をやり、労農党本部、評議会本部、無産者新聞本社の如きは数十名の警官によつて占領された。さながら戒厳令下の如き風景を展開したのだ。

彼等はあらゆる暴行をかくして、盛んに彼等による共産党事件をデッチ上げようと狂奔している。

だが、日本共産党は、検挙弾圧にもかかわらず依然として党の文書を発行し、大衆に検挙の抗議、検挙者の釈放の大衆行動を巻き起す為のプロパカンダとアヂテーションを少しも休めていない。

日本共産党は健在である。今日に於ける日本共産党は断じて検挙によつて崩壊するものではない。共産党は、益々深刻に且つ大胆に、益々勇敢に大衆行動の先頭に立つて赤旗を高く掲げて進む。

資本家地主の支配階級の奴等が此の度の検挙をやつた目的は第一、前にも云つた如く日本共産党を叩きつぶそうとする意図の下になされている。だがこの計画は成功するものでは断じてない。

彼等にとつては共産党は暴悪の徒なのだから、共産党の有る限り労農大衆は必ず共産党の政策に導かれるに相違ない。そして彼等の手先、社会民主主義者の最大なる努力にもかかわらず大衆は益々革命的になるに相違ないのであるから、そして大衆の行動によつて彼等は根こそぎ退治されはしないかという不安を抱くから、何はおいても先ず共産党を叩きつぶさない限り彼等は枕を高くして眠れない。だが、彼等が投獄、殺りやくのあらゆる手段を採つたところで、共産党は出来ないのだ。労働階級を皆殺しにしない限りきつぶせるものではないのだ。

共産党を殺すことは出来ないのだ。

共産党は労働階級の党である。労働階級があることは必ず共産党がある。だから共産党はつぶせない、でも少くともその勢力を削減して、その代り社会民主主義者の勢力を増大しようとする意図である。それは或る程度までは成功する。

共産党は決して根こそぎやられるものではないのだが、共産党員及左翼労働者農民の検挙及投獄で一般的には共産党の勢力を弱めることが全然不可能ではない。為に今度の検挙の目的は先ず第一にこの点に置かれていたことは明白である。手足をもぎとられたと同じことである。支配階級の常套手段は先ず労働者農民大衆の最も先端たる日本共産党を叩きつぶし次いで左翼大衆を叩きつぶし、そして大衆を自由に支配しようとするのだ。

凡て先端から弾圧する。ストライキの場合に於ても、小作争

議に於ても一番さきに解雇され投獄されるものはストライキ団、小作争議団の前衛である。そしてその精鋭が引き抜かれることによつて争議は惨敗するという例を見るのである。

無産階級の一切の運動はその例の通りである。従つて日本共産党の検挙事件は何人が何といおうとも、それは結局労農大衆への弾圧である。この検挙に喜ぶものは支配階級とその手先社会民主主義者である。彼等は日本共産党を弾圧して自己の大衆支配を確保しようと考えているのだから。だが、その事は何を意味するか。云うまでもない労働階級、農民大衆の一層の貧困と一層の迫害を意味するのだ。

だから諸君、共産党に対する悪とはこれ凡て支配階級のいう事である。共産党の検挙に協力し検挙によつて万才を叫ぶものは凡てこれ労農大衆の敵である。

労働者農民大衆諸君!!

諸君は何はさて置き諸君の真実なる幹部を敵の手から奪い返せ。奪いとる為には大衆的行動をもつてせよ。

もし敵の手から奪いとる運動を何だかんだと云つてサボージュする奴等は一切支配階級の協力者であつて我々労働大衆の敵であるのだ。

我々は断固としてかかる裏切者を排除して、大衆の協力行動をもつて敵に突進してゆかねばならぬ。

農民組合は一切の障害を突破して合同を実現しようとしている。だが、社会民主主義者は此度の検挙と左翼弾圧を絶好の機会にして、これを右翼社会民主主義者の指導下に置かんとしている。

労働農民党も一時延期した拡大中央委員会を二十五、六日に開催しようとしている。そしてこの党の内部の『労農』グループも盛んに活動して光輝ある大衆行動党としての歴史をケガそうとしている全労農大衆は、決然として彼等社会民主主義者と戦え、そして大衆党及大衆団体を社会民主主義者に引き渡すな。検束されている。幹部の釈放運動を断固としてやれ、その闘争のために協同行動を行え、この協同行動から大衆党の合同を実現せよ、此の度の大検挙で、組織のない労農大衆は如何に惨であつたかを犠牲から立証した。

七百数十名の幹部を僅か一時間の中に引き抜かれたと云うことは何たる惨事であるか、而かも彼等支配階級の走狗は権力とサーベルと泥靴によつて労働者農民大衆の党、組合本部を占領し、あらゆる暴行をやつたのではないか。

労働階級及農民大衆は言論や出版にのみ頼つていては一生うだつは上らないのだ。

例え大きな犠牲があろうとも暴力に対しては、労農大衆の大衆的暴力をもつて当る以外に道はない。犠牲を回避しようとすればする程労農大衆の解放はおそくなつてしまう。弾圧こそ革命の動因である。

労働者農民の大衆諸君!!

我々はいつまでも支配階級の暴行を耐え忍んではいられない。彼等の暴力に対して、我々は自らを守らねばならぬ。工場は、農村に、検挙者の釈放運動の大衆的行動を巻き起し、そして敵が暴力で弾圧に来たら此方も大衆的暴力で向えよ。

農民の合同は左翼農民進出の一歩だ

闘争の為の合同へ! 左翼勢力の拡大へ!
先ず起つて共産党検挙に戦え!!

農民組合の全国的合同が殆んど実現した。日労党幹部が唱えていた宗派主義、右翼主義の排除という絶対単一条件は、只彼等の観念上の問題に止まり、事実上には何ら問題となり得なかつた。

「労農」グループの諸君がワメイテいた『福本主義の清算』『日本農民組合の諸君—何人にか?』は、狂犬が月に吠える程にも一般の興味を引かなかつた。あたりまえだ! 此合同に特に持ち来たらした唯一の条件は地主の攻撃々退、農民自身の闘争の発展、資本家地主政府の暴圧が戦線統一を絶対必要たらしめ農民大衆の胸にその必要をヒシヒシ感ぜしめたからである。彼等お上品な紳士諸君が戦線から遠く退き書物の陰から『オイ農民諸君! そっちへ行っては危険だ、こちへ曲ってはイカン』などと叫ぶ。ヤヤコシイ理屈に、農民は耳を藉す暇をもつていないのだ。農民組合の全国的合同はほとんど実現した、といつても、紙の上でみればもともと一つであつたのだ。別れて又元のさやに納まつたに過ぎない。然り! 紙の上では明らかに『元のさや』にである。

だが、同時にそれは割れた茶碗がつなぎ合されたのとはワケが違う、もともと全日本農民組合も、ら進んで分離し対立したのだ。

ただひとり左翼の日本農民組合のみが分裂に反対し、分裂に抗争し来たつたのだ。

成程、組合同盟はさておき全日組合の方は、口では、然り口のみでは、従来から分裂に反対であつたらしい。今彼等が発表した声明書でも、明言している『農民戦線の統一へ進むことを組合結成の当初より計画し来つた我々は統一主義の精神に血盟したものであつて、断じて中間派の利己主義ではなかつた』と。

日本農民から分裂して組合結成することが、即ち折角統一されている戦線を一旦分裂せしめることが、農民戦線の統一へ進むことであり、統一主義の精神に血盟した行動であるかどうかは、神より外に知ることが出来まい。

之が世に言う『口だけの統一論者』『中間派的日和見主義者』というものである。

然も同時に日本農民組合が厳密にいうならばその活動的指導分子が又常に分裂に反対し、統一のために闘争し来たつた——これは事実だ——とは云うものの、彼等の当時の主張を見れば、明かに誤りがあつたことは否定出来ない。その誤りの根源は云うまでもなく、当時の共産党が持つていた誤謬、即ち『分離統合論』の影響であるし、彼等の誤りは同時に共産党の政策の誤りであつた。がそれにも拘わらず、吾々が『ひとり日本農民組合の闘は実践上に就いて全農に抗争し、統一の為に闘つた』と云い得るのは、その後の具体的闘争に於ける日農の行動である。

農民の共同闘争の先頭に立つたのは、日農ではないか。地方的闘争の協同のイニシアチブを常に握つていたのは日農ではないか。

農民組合の全国的合同は殆んど実施した。

然しそれは以上の如き対立を経ての統一であつた。割れた茶碗の継ぎ合せではない実践上の分裂主義者の敗北である。

農民大衆の為に、そもそも何人が事実分裂主義者であつたかを明白にしたであろう。

そして吾々は之を益々明かにして行かねばならぬ。今日殆んど、成立した合同が所謂中間派日和見主義者の勝利であると云えることは、左翼の自己冒瀆もはなはだしい。

左翼が又、此合同を円満ならしめんためにのみ心を奪われて、ひたすら遠慮さえすればよいと考えているならば、闘争のための統一が降伏者の統一となるであろう。右翼や中間派の日和見主義者の統一は、その統一の一場が総て地主、資本家の政府にまでつながるであろうことを忘れてはならぬ。

此度の合同実現は、左翼農民進出の広大な集合を展開したものであると共に、今や此合同実現を一頂点として左翼農民が重

要な一頂点に立っていることを忘れてはならぬ。十五日早朝全国の左翼労農諸団体を襲った大検挙は、最も明解にその事実を教えている。

此の大検挙は所謂共産党狩りであるが、その機会を農民組合合同懇談会と労農党拡大中央委員会を前にして行われた事実を明視せよ。若し、此等の合同が事実上、右翼や中間派の得利ならば、そしてその力で政党合同が出来るならば、政府は、何を好んで此の機会に検挙しようぞ。

斯る検挙は悪人を作ることよりも、先ず第一に、左翼に対する逆宣伝、恐怖宣伝に目的を置いているのだ。農民組合は合同しかけた!

共産党は最近無条件合同をやかましく叫んでいる! 此合同は終に共産党の成功となる。左翼農民の勝利になる。今だ、共産党を叩き潰せ!

左翼農民を抑えつけろ! これが政府の本音だ。若し今、左翼農民が、うつかり政府の左翼恐怖宣伝に乗ぜられて、合同の実権を右翼や中間派首領に握らせるならば勝利の凱歌を告げる者は誰ぞ! ただ資本家地主のみ。

左翼農民は今や正に弾圧、検挙の刃を受け、右に、右翼中間派首領の奸策を抑えている。身を退けば自殺に等しい。進んで彼等に抗せよ。右翼、中間派をも率いて弾圧検挙に反抗して闘え。若し彼等右翼、中間派がそれを拒むならば、彼等は直接間接に政府の弾圧検挙を援けるのと同じだ。農民組合全国的合同の壁頭に降りかかつた弾圧は、左翼農民にとつて、ひいては農民全体にとつて大きな試練の刃である。

此弾圧を押し除けて進んでこそ、此農民戦線の統一は、真に闘争のための統一となるであろう。

編集後記

支配階級の暴圧は全国に亘つて我々同志を或は投獄し、或は拘留し、拷問、暴行の限りをなしている。我が『赤旗』も亦彼等の魔手によつて第五号の定期的発行を阻害せられた。

然し我々は彼等の如何なる暴圧にも抗して『赤旗』を擁護し、その定期的発行を維持し、もつともつと完成したものにして行くであろう。

現在の如き彼等の死者狂いの暴圧下にあつて、『赤旗』第五号が堂々と発行せられることは支配階級の心胆を寒からしむるとともに全国の同志の力強き熱烈なる支持を得るであろうことを確信する。

四二月

赤旗

日本共産党
中央機関紙

定価　金五銭

若干の「非合法主義」的偏向について警告す。

我党は社会民主々義者の合法主義――支配階級の許す範囲に大衆の活動及び大衆の組織をおし込めんとする既成左翼に対して断乎として戦った。今後も容赦なく戦ふであらう。何となれば、権力を推って居りすべての暴力を使用して労働者農民の革命化と革命運動とを弾圧する資本家地主でも、と徹底的に戦ふ為めには合法的手段と非合法的手段とを問はず、すべての有効なる斗争方法、斗争組織をとりかはりないし、合法的活動舞台の階級的利用といふことも、強固なる非合法的地下建築なしには、まだ敵の何物をも得ることなき非合法的スローガン其他の非合法的手段と結び付くことなしには不可能だのである。

然しながら、我党は決して「非合法主義」ではない。何処でも、又何時でも、非合法的スローガンを掲げ、非合法的手段をとるといふことは、あり得ないことである。もしそういふことがあれば、それは「強固な地下建築の上に立った強大な大衆党」でもなければ、それへの発展の途でもない。それはたゞ地下に穴を掘って自らを埋没するといふものである。それは大衆からの党の孤立化、従って党の破壊への途である。

然るに、最近我党の一部にはそういふ「非合法主義」への偏向と見るべき若干の事実が存在する。これは社会民主々義者の合法主義に対する我党の斗争から脱つて、自ら社会民主々義者のワナに引つかゝるものであって、事実却って社会民主々義者の合法主義と暗黙の間に連鎖を作らしめた。この事実を見た復旦支配階級は昨年の春一回総選挙に於いて労働者農民の選挙運動にありとあらゆる弾圧と干渉を試みその政治的指導を抑圧した。然るにこの言語に絶じた暴圧と干渉にも拘らず労働者農民の勢力は彼等の予想をうち切って数十万の得票を獲得し八名の所謂「無産党代議士」を送出した。また数名の次点者を獲得した。然も政府党にとっては出来なかったのである。

こゝに於いてか彼等は、選挙法の改正によって労働者農民の政治的進出を防禦すべく決心するに至った。選挙に於いて最も労働者の進出に恐怖を受けた八幡市のプル出ヨア市議会は一切の暴激的感情を抱いて「小選挙区制案」を市会に提出しこれを通過せしめた。而して現内閣及び其の与党政友会は新党クラブがその創立に当り「小選挙区制」を宣言するや、得たりかしこしと之と結び、その陰謀を遂行するに至ったのである。

彼等の所謂「小選挙区制」とは、選挙戦に於いて労働者と農民の選挙運動を最も容易に弾圧干渉することが出来、買収政策を最も容易にすることが出来る。のみならず、労働者と農民はある特定の地域以外に於いては例居代表を当選せしめることが不可能になる。労働者農民はたとへ数十万の得票を得ても、しかも一人の代議士も持てないといふことが起るのである。この小選挙区制は労働者と農民に対して議会といふ公の演壇を封鎖する以外の何物でもない。彼等支配階級は今日の社会民主々義的、議会主義的「無産政党」の代議士を恐れてゐるばかりではなく、革命的プロレタリア党――日本共産党――が議会といふ公の階級斗争舞台を利用し、

(1) 某地方委員会から出した大衆に訴へる檄（そうでなければならぬと思はれるまゝに）に、「社会民主々義者の裏切りを暴露せよ」とか「彼等を大衆から切離せ」とかゝんでゐる。自分で彼等の裏切りを暴露せずに　又は暴露する前に！　それから又、「戦斗的労働者、農民諸君！」といって、如何にも悠到な革命的分子だけに呼びかけ、その内容もそういふ風に出来てゐるのがある。これらは二三の工場新聞にも見受けられる。

(2) 何々斗争同盟「工場有志団」を組織するといふやり方をしてゐる。時々刻々の経済的及政治的諸問題で大衆を動員するために、工場を基礎とすべきは当然である。然しそれは工場有志団といふ特別のグループを組織するのではなくて、工場従業員大会、それから工場委員会といふやうに、工場の全大衆の組織を以ってすべきである。たとへ職場大会や工場大会にその労働者が一人残らず出席するといふことになりなくとも、それは「有志団」ではない。それは職場大会であり工場大会であり、それは「工場有志団」の組織といふことは、それを以って党の工場細胞の一時的事代りにするといふ考えがあるから起るのだ。現に某地方では「工場従業員有志団」の名を以って、工場の内外に党の政策スローガンを記したポスターを貼ることを決定した。とんでもない「非合法主義」であると同時に、回避主義でもあり、合法主義でもある。

(3) 党細胞を組織する前提と称して「先づ労農同盟の二人組、三人組を秘密に組織する」といふやり方をしてゐる者がある。これなどは明らかに日和見主義の組織方法である。それでは党細胞の組織が出来ないだけでなく、労農同盟――労働者農民の大衆的会議――をもブチこはし、その正当な発展をとめてしまふ。

(4) 一般に労働組合運動に於ける党員の活動が甚だ微弱である。単に微弱であるだけでなく、労働組合の活動、組織斗争を党員の左翼小児病的なやることを何となく軽蔑する者すらある。党員たる者はすべて労働組合の中へ入って活動し、また組合のない所では、党の細胞組織に指力する。組合の組織に指力を注がねばならぬ。又労働組合運動をやってゐるものでも、組合大衆からかくれて、文書によるか指令とか、秘密の撒文とかを出すことばかりに専心してゐる者がある。しかもその撒文や指令にはストライキや組合の散会、組織やについては一言も言はずに、所謂「非合法的」なことをむづかしく並べただけのものがある。

(5) 何よりも第一に党の名を署名したビラを出すことが必要だと考へてゐる者が甚だしきは党又は細胞の署名ある文書を出すことだけで党活動をやってゐるやうに考へにおるとしか思はれない者がある。これは明らかに最悪の「非合法主義」だ。党の名と党文書との権威は、大衆の間に於ける党員の不断の模範的な階級的行動を以ってのみ得られるのである。二三の例を示さう。

(1) 某地方委員会から出した大衆に訴へる檄（そうでなければならぬと思はれるまゝに）に、「社会民主々義者の裏切りを暴露せよ」とか「彼等を大衆から切離せ」とかゝんでゐる。自分で彼等の裏切りを暴露せずに　又は暴露する前に！　それから又、「戦斗的労働者、農民諸君！」といって、如何にも悠到な革命的分子だけに呼びかけ、その内容もそういふ風に出来てゐるのがある。これらは二三の工場新聞にも見受けられる。

(2) 何々斗争同盟「工場有志団」を組織するといふやり方をしてゐる。時々刻々の経済的及政治的諸問題で大衆を動員するために、工場を基礎とすべきは当然である。然しそれは工場有志団といふ特別のグループを組織するのではなくて、工場従業員大会、それから工場委員会といふやうに、工場の全大衆の組織を以ってすべきである。たとへ職場大会や工場大会にその労働者が一人残らず出席するといふことになりなくとも、それは「有志団」ではない。それは職場大会であり工場大会である。「工場有志団」の組織といふことは、それを以って党の工場細胞の一時的事代りにするといふ考えがあるから起るのだ。現に某地方では「工場従業員有志団」の名を以って、工場の内外に党の政策スローガンを記したポスターを貼ることを決定した。とんでもない「非合法主義」であると同時に、回避主義でもあり、合法主義でもある。

(3) 党細胞を組織する前提と称して「先づ労農同盟の二人組、三人組を秘密に組織する」といふやり方をしてゐる者がある。これなどは明らかに日和見主義の組織方法である。それでは党細胞の組織が出来ないだけでなく、労農同盟――労働者農民の大衆的会議――をもブチこはし、その正当な発展をとめてしまふ。

(4) 一般に労働組合運動に於ける党員の活動が甚だ微弱である。単に微弱であるだけでなく、労働組合の活動、組織斗争を党員の左翼小児病的なやることを何となく軽蔑する者すらある。党員たる者はすべて労働組合の中へ入って活動し、また組合のない所では、党の細胞組織に指力する。組合の組織に指力を注がねばならぬ。又労働組合運動をやってゐるものでも、組合大衆からかくれて、文書によるか指令とか、秘密の撒文とかを出すことばかりに専心してゐる者がある。しかもその撒文や指令にはストライキや組合の散会、組織やについては一言も言はずに、所謂「非合法的」なことをむづかしく並べただけのものがある。

(5) 何よりも第一に党の名を署名したビラを出すことが必要だと考へてゐる者が甚だしきは党又は細胞の署名ある文書を出すことだけで党活動をやってゐるやうに考へにおるとしか思はれない者がある。これは明らかに最悪の「非合法主義」だ。党の名と党文書との権威は、大衆の間に於ける党員の不断の模範的な階級的行動を以ってのみ得られるのである。二三の例を示さう。

(1) 某地方委員会から出した大衆に訴へる檄（そうでなければならぬと思はれるまゝに）に、「社会民主々義者の裏切りを暴露せよ」とか「彼等を大衆から切離せ」とかゝんでゐる。自分で彼等の裏切りを暴露せずに　又は暴露する前に！　それから又、「戦斗的労働者、農民諸君！」といって、如何にも悠到な革命的分子だけに呼びかけ、その内容もそういふ風に出来てゐるのがある。これらは二三の工場新聞にも見受けられる。

(2) 何々斗争同盟「工場有志団」を組織するといふやり方をしてゐる。時々刻々の経済的及政治的諸問題で大衆を動員するために、工場を基礎とすべきは当然である。然しそれは工場有志団といふ特別のグループを組織するのではなくて、工場従業員大会、それから工場委員会といふやうに、工場の全大衆の組織を以ってすべきである。たとへ職場大会や工場大会にその労働者が一人残らず出席するといふことになりなくとも、それは「有志団」ではない。それは職場大会であり工場大会である。「工場有志団」の組織といふことは、それを以って党の工場細胞の一時的事代りにするといふ考えがあるから起るのだ。現に某地方では「工場従業員有志団」の名を以って、工場の内外に党の政策スローガンを記したポスターを貼ることを決定した。とんでもない「非合法主義」であると同時に、回避主義でもあり、合法主義でもある。

(3) 党細胞を組織する前提と称して「先づ労農同盟の二人組、三人組を秘密に組織する」といふやり方をしてゐる者がある。これなどは明らかに日和見主義の組織方法である。それでは党細胞の組織が出来ないだけでなく、労農同盟――労働者農民の大衆的会議――をもブチこはし、その正当な発展をとめてしまふ。

(4) 一般に労働組合運動に於ける党員の活動が甚だ微弱である。単に微弱であるだけでなく、労働組合の活動、組織斗争を党員の左翼小児病的なやることを何となく軽蔑する者すらある。党員たる者はすべて労働組合の中へ入って活動し、また組合のない所では、党の細胞組織に指力する。組合の組織に指力を注がねばならぬ。又労働組合運動をやってゐるものでも、組合大衆からかくれて、文書によるか指令とか、秘密の撒文とかを出すことばかりに専心してゐる者がある。しかもその撒文や指令にはストライキや組合の散会、組織やについては一言も言はずに、所謂「非合法的」なことをむづかしく並べただけのものがある。

(5) 何よりも第一に党の名を署名したビラを出すことが必要だと考へてゐる者が甚だしきは党又は細胞の署名ある文書を出すことだけで党活動をやってゐるやうに考へにおるとしか思はれない者がある。これは明らかに最悪の「非合法主義」だ。党の名と党文書との権威は、大衆の間に於ける党員の不断の模範的な階級的行動を以ってのみ得られるのである。

無産階級の革命的議会利用を封鎖する
小選挙区制に反対す。

支配階級は無産階級の政治的指導に当面して、制限に充たんとする所謂「普通選挙法」を実施した。しかし彼等は用意周到にそれと同時に治安維持法を制定し、プロレタリアートの政治運動を封圧することにした。それにも拘らず普選挙法によって選挙戦に進出した労働者農民は先づ浜松、北海道、八幡等々に於ける市議戦に於いて、圧倒的な数字を以って支配階級に対する反抗を示し彼等の心胆を寒か

らしめた。この事実を見た復旦支配階級は昨年の春一回総選挙に於いて労働者農民の選挙運動にありとあらゆる弾圧と干渉を試みその政治的指導を抑圧した。然るにこの言語に絶じた暴圧と干渉にも拘らず労働者農民の勢力は彼等の予想をうち切って数十万の得票を獲得し八名の所謂「無産党代議士」を送出した。また数名の次点者を獲得した。然も政府党にとっては出来なかったのである。

こゝに於いてか彼等は、選挙法の改正によって労働者農民の政治的進出を防禦すべく決心するに至った。選挙に於いて最も労働者の進出に恐怖を受けた八幡市のプル出ヨア市議会は一切の暴激的感情を抱いて「小選挙区制案」を市会に提出しこれを通過せしめた。而して現内閣及び其の与党政友会は新党クラブがその創立に当り「小選挙区制」を宣言するや、得たりかしこしと之と結び、その陰謀を遂行するに至ったのである。

彼等の所謂「小選挙区制」とは、選挙戦に於いて労働者と農民の選挙運動を最も容易に弾圧干渉することが出来、買収政策を最も容易にすることが出来る。のみならず、労働者と農民はある特定の地域以外に於いては例居代表を当選せしめることが不可能になる。労働者農民はたとへ数十万の得票を得ても、しかも一人の代議士も持てないといふことが起るのである。この小選挙区制は労働者と農民に対して議会といふ公の演壇を封鎖する以外の何物でもない。彼等支配階級は今日の社会民主々義的、議会主義的「無産政党」の代議士を恐れてゐるばかりではなく、革命的プロレタリア党――日本共産党――が議会といふ公の階級斗争舞台を利用し、

同志山本宣治 白色テロルの兇刃に倒る！

五日午后九時二十分、我の同志山本宣治は白色テロルの兇刃の下に倒された。実に三・一五事件以来、支配階級の白色テロルのために虐殺された幾多の尊い犠牲者の血の上に失ったものである。

「階級斗争を激化」し「思想を悪化」せしむることを恐れて、小選挙区制へ逆戻りを決心したのである。かくの如き反動的な「選挙区制」に対しては、我々は断乎として反対し、今日の中選挙区制をつて大選挙区比例代表制に改正すること十八才以上の男女に選挙権被選挙権を附与すること、居住制限を撤廃することを要求するものである。

今日政府及び対党たる民政党はこの反動的な「小選挙区制案」に反対を表明してゐる。しかし我々が既に八幡市に於いて見たやうに、彼等は決して最后まで反対者ではないのだ。彼等が今日この「小選挙区制」に反対の立場を取ってゐるのは、全く我々プロレタリアの力がまだ全体として微弱だからである。若し我々の力が強くなり増大するならば、かの八幡市に於いて見たやうに、彼等ブルジョア政党は一国一党となって、我々に向って来るであらうことは火を見るより明らかである。故にこの「小選挙区制」に対する唯一の反対者は労働者と農民を措いて外にない。

全日本の労働者農民諸君！　我党と共に蹶起せよ！

小選挙区制反対！
大選挙区比例代表制の実施！
十八才以上の男女に選挙権被選挙権を与へよ！
居住制限を撤廃せよ！

同志山本宣治は幼少の頃米国に渡り、そこで画家をして苦学した。彼はその時から社会主義者になった。後、生物学の講師として京大及同志社大学に教鞭をとった。然し彼は一教師としてはあまんじてゐなかった。彼は一九二二年、当時最も戦斗的であった関西の繊維同盟の斗士として父はより、一九二三年には労働組合の実際活動に参加するやうになった。そのために彼は京大及び同志社を追はれた。その日から、彼は益々固い決心を以って労働者解放運動に突進した。彼はその出発の日から敵の手に殺される最後の日まで、終始一貫、階級的立場を踏み外さず、大衆を裏切るやうなことがなかった。繊維同盟が分裂して評議会が生れた時にも、彼は繊維同盟のグラ旗に反対して、革命的な評議会の側に立った。一九二六年我々が議会解散運動を起すや、彼は選ばれてその全国産業長となって勇敢に働いた。最近、一九二八年十二月、新党準備会が解散されるや、かの水谷、神田等の社会民主々義者の裏切り逃亡に対して戦ひ、我党を支持して、労農同盟の組織のために奮斗した。彼はまた幾多のストライキのために働いてゐる。殊に大阪市電のストライキ、浜松ストライキ等に於いては、官憲のために組合の斗士が悉く検挙されて、一切の連絡が切断された時、彼は常に秘密の連絡者として活躍した。

(三) たゞ彼はまだ我党に加入してゐなかった。そして又我党は、将に三・一五事件の大破壊の後、勢力が弱くなった。しかも彼は選ばれて代議士として帝国議会にいる重大な階級斗争の前哨に立たせられてゐた。かういふ条件は、彼にも三の過失を犯さしめた。一つは五千五時到議会に於ける日和見主義的態度であり、一つは天皇即位式への参列であり、もう一つは共産党事件の証人としての陳述に於ける非革命的態度である。然し彼は此等の過失を認め、その不名誉を注ぐべく、既に新たなる斗争の途に上ってゐた。それは今期総会に対する報の声明書――議会の解散、労働者農民政府の樹立を訴へたこと――が明白に証明してゐる。

彼は現在の「無産党代議士」の中で階級的立場にふみとどまった唯一の人であった。それ故に、数は「無産党代議士」の中で彼を選んで殺したのである。疑もなく彼は労働者農民のために倒れたのだ。彼の流した鮮血は彼の従来の若干の過失や不徹底を洗ひ清めた。彼は血を以って階級戦士たる名誉を贈ったのである。故に我党は今や同志山本宣治を我党員としてその資格を以って葬るのである。

(四) 我が労働者農民は同志山本を犬死させてはならない。彼の死に対する革命的復讐こそ我々に負はされた任務である。我々は同志山本の階級を通じて我々全体におへかぶれた資本家地主の兇悪なる暴力に対して自らを守り、敵を打ち倒すために、強固なる団結をしなければならぬ。

労働者農民の自衛隊！　治安維持法の撤廃！　共産党の組織及び活動の自由！　資本家地主の政府を倒し、労働者農民の政府を打ちたてよ！　同志山本の霊はかく我々に呼びかける。何故ならそれより外に、彼を殺した支配階級に対する革命的復讐の途はないからである。

「赤旗」研究会によって工場細胞を確立するといふやり方はまちがってゐる
――或る地方の一組織者の報告中より

某工場細胞の弱点は細胞確立の方法を「赤旗」研究会によることゝし、それによって漸次工場以労働者の意識を高めて工細に組織するといふインテリゲンチャ臭い方法を取らうとしてゐた。これについて僕は次のやうな意見をのべた。

工場細胞の確立とは、党の影響を精神的にも組織的にも工場の労働者大衆の内部に強めることだ。そのためには組合運動、教育運動、選挙戦等の先頭に立つて工細の分子が活動すること、

党欠者を配布し、党のスローガン・政策を宣傳すること、そして党を大衆に理解させること、そして大衆の信頼を工細に集め、工細が大衆と深い接触面を持つことが必要である。かうした方法によって始めて党は工場に大衆的な根を張ることが出来るのだと。

大体右の様な意見を述べて注意した。「赤旗」研究会などで工細の確立をはかろうとするのは、極く小範囲の影響しか與へ得ないし、具体的な行動を通じて最も有効な訓練なども出来ない。だから、かういふ方法で党員獲得をやめ時には口先だけの勇敢を、理屈ばかり達者な、小ブルジョア化した労働者ばかりが党に入り勝ちで、党が小ブルジョア化する危険がある。

議会解散のスローガン
其他について

東京　××工場細胞

一、「帝国主義戦争を準備し労・農を弾圧する議会を解散せよ！」といふスローガンに対し我々は反対だ。その理由は

(1)、戦争を準備し、労・農を弾圧する主体は議会ではない。にも拘らず右のスローガンは議会がそれをやつてゐるかの如き誤つた思想與へる。就時手薄を可決し治安維持其他を承認する裏で、議会が矢張りやつてゐるんだやないかといふ主張は、小ブル的識会中心主義だと思ふ。

(2)、スローガンはもつと短かく呼び易いものにすべきだ。吾々は「直化議会を解散せよ！」で結構だと思ふ。

二、天皇制度の暴露をもつと具体的にやるべきだ。天皇の名に於いて裁判がやられる云々の程度の暴露は「天皇は傳統にすぎない」といふ社会民主々義者の嘘八百に対して充分有効な具体的暴露と言へない。枢密院、元老、貴族院、参謀本部等々の暴露を必要とする。特に現在、貴族院に対して小ブル的期待を持たせやうな吹聴にある時、此の点が重要であると同時に、貴族院の廃止を強力に主張すべきである。

三、パンフレット第四輯に「ブルジョア革命万歳」といふスローガンがある。細胞外読者の大多数からも、「こんな馬鹿なことがあるものか」といふ抗議を吾々は受けた、実際こんな馬鹿なことはない。

四、工細確立、「赤旗」読者拡大の具体的経験をドシドシ傳へて貰いたい。工細が党の名でビラ等をドシ出していゝものと思ふが如何。

右に対する
党中央編輯部の回答

第一、「帝国主義戦争を準備し、労働者農民を弾圧する議会を解散せよ！」といふスローガンが小ブルジョア的議会主義だといふ意見は徹底的に闘つてゐる。天皇・枢密院・政府・議会一これらはすべて資本家地主の闘争の大衆圧迫機関としての一体系をなすもので、そのどれか、労農弾圧の主体」といふのではない。たゞその国の厂史的事情及び政治的経済的形勢の発展によつて、がいる支配階級の政治機関の組合せや結び方や配列が異なるだけだ。日本には天皇制度がある。然し弾圧の主体が天皇及び天皇制度にあるといふことは出来ない。もし強いて「主体」といふものを求めるなら、それは資本家と地主との政府（政権）と言はなければならない。

帝国議会は開らかれた、資本家地主の同盟が、彼等の利益のために、戦争を準備し、大衆を弾圧するために使用する一つの有力な機関であり、武器である。此の事実から眼を蔽ふべきではない。我々はこの事実を広大な大衆にバツキリした形で引つ張り出して見せなければならないのだ。殊に帝国議会を前にして、それに対する労働に大衆を煽動し、動員するためのスローガンに於いては、絶対必要のことではないか？　それでなかつたら、反対に議会は、全国民の代表機関だといふ、それこそ、小ブルジョア的議会中心主義に陥り、大衆に議会主義の幻影を與へる社会民主々義者の尻にくつゝく結果になつてしまふ。

スローガンは短かく呼び易いものにすべきだとの意見には全く賛成である。然しそれは単に、会議会に対する、集中的運動のスローガンとしては、少くともこれだけは現はさねばと考へた。いくら短かくても呼び易くても不充分ばかりでは、何の役にも立たない。

「直化議会を解散せよ！」は議会を全く、小ブルジョア的に「直化せよ居しとものでそれが如何に直化されても、労働者農民の要求は全く満足されないものだ。

ヨア革命万才！」とは「ブルジョア民主々義革命万才！」の誤りである。右訂正する。我党のスローガンとしては、此のスローガンは適切でないことを我々は認めねばならぬ。今日の我国に於けるブルジョア民主々義革命の要求は全く労働者農民のためのもので、ブルジョアジーのものでないからである。だから我々は、今日「労働者農民の政府！」及び「プロレタリア独裁！」といふ中心スローガンを外さねばならぬ。

日本共産党当面のスローガン

一、帝国主義戦争反対
二、支那から手を引け
三、ソヴエート同盟の擁護
四、植民地の解放
五、議会解散
六、君主制の廃止
七、男女十八才以上の普通選挙権
八、言論、出版、集会、結社の自由
九、七時間労働制
十、失業保険
十一、労働者御圧法の廃止
十二、皇室、社寺、大地主の土地没収
十三、累進的所得税の確立

労働者農民の政府
プロレタリア独裁万才！

第二、天皇制度の具体的暴露、枢密院、貴族院、参謀本部等の廃止のスローガンについては賛成だ。我々はまだまだ天皇の制度に対する力が足りない。もつと暴露をやらねばならぬ。

第三、パンフレット第四輯の「ブルジョア革命万歳」といふスローガンがある。細胞外読者の大多数からも、「こんな馬鹿なことがあるものか」といふ抗議を吾々は受けた、実際こんな馬鹿なことはない。

第四、工場細胞の組織及活動の具体的経験がドシドシ出されることを我々は希望する。

細胞の経験を交換し合ふことは、各細胞が党の地方及び中央機関にドシドシ報告しなければ不可能である。

工場細胞が党の名でビラ類をドシドシ出すことは結構だ。そうでなくてはなりない。然しどんなビラをドシドシ出したらよいか？　党の名で出していゝ式出さねばならぬビラは、全国的・地方的な重要問題、例へば戦争反対、議会解散、大衆蜂起、白色テロル、国会及地方議会選挙等々に関するもので、そういふ問題に対しては、中央及地方機関からも大衆の場合、徹底り指令なりが出てゐるが、特別の問題が存しない限りへ指令を求めなければならぬ筈のもの）各細胞は上級機関のうの徹や・指令を待つまでもなく、それこそドシドシそういふ重要問題に対

する党のビラを出さねばならない。そしてそれを自分の工場だけでなく、手のとゞく他の工場にも配布しなければならない。又悉し細胞でビラを出す前に、又はビラを出すことに気がつかなかつた場合に、中央部又は地方部なり上からのビラを受け取つたり、細胞はそれを複製するなり、或は書き直すなりして、同じ様な配布しなければならない。（「赤旗」に掲載されたものについても同じ）

かういふビラは、どうしても敵の手に渡りやすいから、何処の工場が元々である。僕く配布することが必要である。何処の工場に細胞があり、何処の工場にそれがないといふことを敵に知られることは、今日の如き弾圧の非合法党たる此党にとつては既にそれだけでも危険だからである。

次に細胞は自分の工場の大衆のためにその工場内の日常問題に対する煽動のビラを出さねばならぬ。それは規則正しく発行されねば工場新聞が不断に果すべき任務であるが、従々工場新聞の号外といふ意味でビラ又は号外の如きは用ひなくともそういふ意味でビラ又は号外の如きは用ひなくともそういふ意味でビラを出さねばならぬ。この場合には、その工場の労働者のなるべく多数に配布しなければならないが、同志・同情者の名・細胞の名で出してはいけない。そうすれば、その工場に党の細胞が存在するということが直ぐ敵に知られるからである。（工場新聞が細胞機関紙と結合打つたり「工場新聞」といふ名を入れたりすることさへもいけないといふのも同じ理由からである。）

「労働者農民の自衛隊」を
党のスローガンに加へること。

××細胞準備会。

現在我党のかゝげてゐる十三の當面のスローガンは民主的スローガンにちがいないが、それの実現のためには、労働者農民の武装が矢張り必要だと思ふ。プロレタリア革命の遂行とプロレタリア

プロレタリア独裁の対象とのためには武装した赤衛軍が絶対必要なことはわかつてゐるが、それには何等労働者農民の武装準備はいりないかといふと、さうはゆかない。

それは先の「赤旗」二六号に出てゐる「自衛隊」である。吾々は信ずる。さうならば、これにはもつと重要性を党は持たせねばなるまい。そのためには、「労働者農民の自衛隊」を党の名面のスローガンに加へるべきである。

右に対する編輯部の答。

「労働者農民の自衛隊」の重要であることはいくら繰り返しても足りない程だ。然しこれは党の行動綱領の意味を持つた「当面のスローガン」中にかへなければならぬといふ性質のものではない。我々は今日「プロレタリアの武装」を監傳すると同時に、此の「自衛隊」を時々刻々の問題で煽動し且つ現実に組織せねばならぬ。自衛隊は労働者農民の武装のための訓練にはなるが、然し、武装そのものではない。況も今日街々が時々刻々の運動で組織する工代、農代、労農同盟（労農会議）がソヴイエット組織のための一つの訓練にはなるにちがひないが、直しソヴイエットそのものではないと同じやうに。

ついでに「プロレタリアの武装」といふスローガンはいつでもものべつに掲げて置くといふものでない。今日はそれを極力監傳すべき時代だ。これをスローガンとして我々が掲ぐべきは客観的に革命的な形勢（必ずしも充分用意されたプロレタリア革命の時のみには限りもめが）の下に於いてゞある。

編輯部より

ノ、「赤旗」の内容が反動新聞「日本」に引用されてゐる。右は明らかに「赤旗」が敵のスパイの手に渡つてゐる証拠である。血を搾つて発行してゐる党文書を一部たりとも敵の手に渡すな！　スパイを

党中央印刷所確立基金
二千圓募集！

我々の障害がたいこと出せ！

二、三月一日に発行すべき「赤旗」は都合により休刊のやむなきに至つた。

三、今号には、三・一五事件に関する記事がない。それは別に早く一つの事用者と一つの機とを出してあるからである。白色テロルに倒れた同志山宣についての機も、今号記事の外に出した。

四、党員諸君から特に細胞から、意見書や寄稿がかなり集まつて来るやうになつたのは何よりも喜ぶべきことだ。本号には政治的なものを主として載せた。次号には、党の組織問題に関する寄稿を掲載する。編輯部の間にした意見と共に全細胞で討論されたい。尚、各細胞の組織活動に関する経験を取り扱つた寄稿をドシ〳〵他方面員会へ中央部へと送つてもらひたい。それが「赤旗」に出るやうになると、全国のすべての細胞が各々の経験を交換し、討議し、学び合ふことになるのだから。

五、党中央印刷所基金を全党員は喜つて醵金せねばならぬ。現在の印刷能力では「赤旗」だけの印刷にすら肉に合はないのに他の宣傳文書の印刷すべきものが山積してゐる状態である。

「赤旗」復製について

「赤旗」をそのまゝ復製することを許さず。但し、それに掲載された中央部の手になる個々の文章を復製配布し、又は転載することは大いに奨励する。

「赤旗」パンフレット

一、当面の党組織活動の大綱。
二、第五十六帝国議会と日本共産党のスローガン。
三、革命的労働組合運動に対する我等の当面の任務。
四、改国の同志への通信。
五、ブルジョア識会と労働者農民の政府。
六、日本共産党当面の組織要綱、特に細胞・組織及活動に関する決議。（特別限定版）

党中央印刷所の確立万歳！

工場新聞の役割について

(一)、なぜ工場細胞の組織が重要ないか？

我党が一九二八年三月十五日に大検挙をうけ、且つその後も再三再四の検挙、虐へざる迫及を受けながら、よくその組織を維持し発展せしめて来たのは何によるのであるか？　勿論、それは正しい政策、規律ある組織、統一ある行動の賜物であるが、然しもしそれを規則正しく全党員及び党外の革命的大衆に知らせ、彼等の意見を反映させ、その活動を結合する故に実現困難と「未練」を感じてゐるなかつたなら、甲々今日のやうには行かなかつたにちがいない。現に、昨年八月から、一時「赤旗」が休刊となつた時分には、党の組織事業も発展せず、しかも党組織及活動の独立性が党外大衆間休の中に解消する危険が現はれました。所が十二月になつて「赤旗」が再刊され、やつと「合法政党」主義に対する徹底的斗争と相まつて、党の組織も急速な発展の途に入り、独立性を取復した。今日では何がとも、党の非合法的組織は非合法的機関紙なしには進展し得ないといふことを理解してゐるであらう。

所が、こゝに注意すべきは、我党が党員数に於いては急速に拡大したにも拘らず、工場細胞の確立してゐる処は極めて僅かであることだ。その僅かの工場細胞も細胞らしい活動をしてゐるものは極めて少数であることだ。それは何故であるか？　一言で言へば細胞の自覚に欠けてゐるからだ。

(1)、全国的の全労働者の経済的並に政治的諸問題（大争議、失業、盛挙、農民暴動、其他）それに対する大衆動員――工代大衆集会、示威運動等。

(2)、工場内に於ける各々の党外大衆組織――工場委員会、労働組合、青年共産同盟、婦人協議会等――の組織及活動に関する諸問題。

(3)、手近な社会民主々義者の裏切の事実。

(4)、工場内に於ける積々の党外大衆組織の事実。

新聞こゝからの記事の取扱方が大切である。第一に、簡単明瞭平易でなくてはいけない。第二にその時々の工場大衆の状態にピツタリ合致しなければならない。ヒステリーめいた浮いた革命的文句は絶対に禁物である。第三に、細胞員だけでなく一般大衆の革命的自発性を発揮させるために、従来の不平や意見をもりこんだ手紙とか身辺とかいふものを掲載することが必要である。

最近各地の工場細胞から出た工場新聞を見ると、全工場大衆へでなく「戦斗的労働者」へ呼びかけたり、自ら曝露しないで大衆に「曝露しろ」と要求したり、細胞が直接煽動の網を張るかはりに、工場新聞紙上で大衆に「宣伝煽動の網を張れ」といつたりしてゐるのがある。こんなものは工場細胞を、従つて党を自ら罪こゝ、るだけのものだ。

(四)、工場新聞の発行、配布

音かう読に「見やうと欲しない者ほど花介食言はないしといふことがある。工場新聞を発行しやうと決心するならば、細胞が具備煽動の網を張るかはりに、工場新聞紙上で大衆に「宣伝煽動の網を張れ」といつたりしてゐるのがある。こんなものは工場細胞を、従つて党を自ら罪こゝ、るだけのものだ。

(四)、工場新聞の発行、配布

音かう読に「見やうと欲しない者ほど花介食言はないしといふことがある。工場新聞を発行しやうと決心するならば、工場の有る限りは何としても発行出来ないことはない。大概の場合、最初から完全な設備を持つ為、形の整つたものを出さうとするから、何時までたつても出ないのである。例へば最初は複写紙でおしもよい。現に三・一五事件前に某工場では最初に複写紙で発行し、次いで謄写刷に発展した。たゞ労働者に読みよいように、なるべくカナ文字を使用すること、なるべくカナ文字で書くことが大切である。

また最初から多くを発行することはいけない。三・一五事件以前に党のビラをやたらに街頭やデパートでまいたり、誰れ彼れの差別なく工場の入口で出勤する労働者に手渡しした細胞があつた。これは党がもつともつと大衆化して或る程度の合法性を獲得した時でなくては、無益であり危険である。そこまで到達するには、工場と農村とに全力を集中して、「潜行的に」党の文書が一枚も敵の手に渡らぬやうな用意を以つて、被配布者を選択して大部数を発行することはいけない。工場新聞も同様である。工場新聞は最初から多くも千部以内でなければならぬ。最初はそつと出版しやすく発行出来なくともよい。配布する相手の選択が当を得てさへゐれば、第一号を発行する時には五十部或は五百部になるだらう。

最後に注意。工場新聞は工場細胞の機関紙であるが、その事を紙上に署名するのはいけない。今日の如く党の勢力がまだ弱く、特に強度の非合法党化する時には、どの工場に党細胞があるといふことを敵に知られるだけでも非常に危険であり、もし不幸にして敵の検挙を受けた場合に物的証拠を与へることになるからである。又単に「工場新聞」と署名することも同様である。これも敵に大衆の力の戦術は、工場新聞が到る処の工場で、又どこの工場でも大部数が、発行配布されるやうに我々が活動するならば、署名は我々は必要のない危険を犯してはなりない。

(五)

かういふ風にして工場新聞が編輯、発行、配布されねばならない。最初にいつたやうに工場細胞そのものゝ組織、行動、規律、統一が助けられるだけでなく、又労働組織及び活動の発展しない重要な原因である。

(二)、工場新聞と工場細胞の組織

工場新聞は工場細胞の組織にとつて然くてならない武器である。工場新聞は工場労働大衆を資本の搾取と支配に対して、社会民主々義者の裏切りに対して、斗争せしめる工場細胞の機関紙である。

工場細胞は細胞としての活動なくしては確立し発展し得ない。その活動とは、第一に細胞員及び細胞全体が党の方針の下に、その工場の全労働者のための斗争の先頭に立つて戦ふことである。第二にその工場の労働大衆の利益のために工場細胞は如何なる方針、政策、組織を以つて戦ふかといふことを工場の全労働者に知らせ、様々の斗争を統一する処の役目を果す工場新聞を発行することである。

工場新聞の発行すると、工場細胞の組織及活動にどんなことが起るか？

第一に、工場細胞の集会が規則正しく開かれ、細胞員の連絡が活発に行はれ、細胞の統一、規律が大いに強められるやうになる。何故なら工場新聞に取り扱ふべき記事について討議しなければならないから、又工場新聞の読者の拡大の為めに細胞員が協力しなければならないからである。

第二に、工場細胞と工場全大衆との結合が密接になる。細胞は工場新聞を通じて常に工場大衆の代表し、資本家の搾取、圧迫の事実をアバキ、それと斗争する最も有力な方法を示すからである。工場新聞の読者の数、それに対する労働者の意見又は「気持ち」、それに現はれた細胞（及党）の意見の具体化の程度等によつて、工場細胞がどれだけ大衆の支持を受けてゐるかを知ることが出来る。

そしてそれによつてまた、細胞は大衆との結合を密接にするための戦術を立てることが出来るのである。即ち、工場新聞は細胞と大衆との結合のバロメーターになるのである。

第三に、工場新聞の発行は、工場細胞と他の党外大衆団体との区別を明瞭にし、党の独立性を確保する。

第四に、工場新聞の発行及配布は、ベイに社会民主々義者に対する斗争に大衆を引き込み訓練する。

第五に、工場新聞は、党中央機関紙「赤旗」の手の届かない隅々迄大衆を引き寄せ、それが仲立となり、実際の斗争による訓練を至て、新党員にするやうになる。工場大衆の中から次々に革命的分子が養い出され、工場新聞の読者から「赤旗」の読者が出て来るといふやうになるのである。かうして細胞が増大する。いふまでもなく、工場細胞は何んでも工場新聞を出しさへすれば、それで一躍して細胞らしくなるといふわけのものではない。第一に細胞は全細胞員をして大衆の利益のために、合法的にも非合法的にも、政治斗争にも経済斗争にも、最も思実果敢に活動させねばならぬ。また工場細胞は、工場研究会、工場委員会、組合の集会、其他あらゆる機関に細胞員を送つて細胞の意見、政策を発表させなければならぬ。かくして工場細胞は（如何に敵から妻をかくしてゐても、誰々が細胞員であるかといふことのわかる様な有様は大衆の前にブラ下げてゐなくとも）工場大衆の信頼を集めることが出来る。それがなかつたら、細胞は工場新聞といふ一つの文書の発行所になつてしまう。そしてその工場新聞も大衆と密接に結びついた生々としたものになることが出来ない。第二に、工場細胞の編輯及び配布方法を充分意識的に立案なものにしなければならない。それでなかつたら新聞の工場新聞も敵物になつてしまうの力なりず、大衆をして党への信頼を失はしめ反対に党に反撥せしめるだらう。また官憲や工場主に党破壊の手がかりを提供する結果になるだらう。

(三)、工場新聞の編輯方針

工場新聞は工場細胞の機関紙である。

それでは一体機関紙とは何であるか？ある組織体の機関紙といふと、その仲間の離れ彼れが思ふ存分に自分の意見を発表し合ひ、そして仲良に討論し研究し合ふ、個人雑誌か何かの様に心得てゐる者がある。これはとんでもない大マチガイだ。

工場細胞の機関紙といふのは、それを発行してゐる細胞といふ組織体が、その働きかける相手たる工場大衆をして、彼等自身の利益のためにはどうすればよいかについて、討論させ、研究させ、そして行動させるための手引である。その手引として細胞といふ組織体の意見、政策、方針を発表するのである。だから、工場新聞は細胞の機関紙であるが、細胞のための新聞（細胞新聞）ではなくして、工場大衆のための新聞（工場新聞）なのである。もしそうでなかつたら、何うしても細胞の機関紙たり得ないのである。

そこで工場新聞は工場の労働大衆自身の討議及行動を指導するやうに編輯されねばならぬ。即ち細胞の意見及党の方針が、工場大衆に理解され共感され易く発表されねばならぬ。それにはどうすればよいか？　その工場の搾取関係（労働条件、諸制度、諸設備等）とそれに基ずく各労働者（少くとも大多数）の処分（不平、不満、斗争への用意）とを適確につかむことだ。そして工場大衆の団結と革命化とを一歩々々確実に進めて行くやうに煽動、宣伝することだ。工場の搾取関係や大衆の気分は刻々変化するものだから、「調査」といふやうなことを必要としない。細胞が工場大衆の日常斗争に参加し、その先頭に立つて戦ひさへすれば、それは自然に集る如くわかるのである。

右のやうな条件の上に工場新聞を編輯するとなると、その取扱ふべき内容は次のやうなものになる。

(1)労働大衆の利益に関係するその工場のあらゆる条件、問題及び事件の報告、解説、評論、それに対する大衆の利益を代表す

る要求の提示。その実現のための斗争方法。

(2)その工場の大衆が当面な利害関係を有する同一産業及び近隣工場の事件、問題解決。

(3)全国的の全労働者の経済的並に政治的諸問題（大争議、失業、盛挙、農民暴動、其他）それに対する大衆動員――工代大衆集会、示威運動等。

(4)工場内に於ける各々の党外大衆組織――工場委員会、労働組合、青年共産同盟、婦人協議会等――の組織及活動に関する諸問題。

(5)手近な社会民主々義者の裏切の事実。

新聞こゝからの記事の取扱方が大切である。第一に、簡単明瞭平易でなくてはいけない。第二にその時々の工場大衆の状態にピツタリ合致しなければならない。ヒステリーめいた浮いた革命的文句は絶対に禁物である。第三に、細胞員だけでなく一般大衆の革命的自発性を発揮させるために、従来の不平や意見をもりこんだ手紙とか身辺とかいふものを掲載することが必要である。

最近各地の工場細胞から出た工場新聞を見ると、全工場大衆へでなく「戦斗的労働者」へ呼びかけたり、自ら曝露しないで大衆に「曝露しろ」と要求したり、細胞が直接煽動の網を張るかはりに、工場新聞紙上で大衆に「宣伝煽動の網を張れ」といつたりしてゐるのがある。こんなものは工場細胞を、従つて党を自ら罪こゝ、るだけのものだ。

(四)、工場新聞の発行、配布

音かう読に「見やうと欲しない者ほど花介食言はないしといふことがある。工場新聞を発行しやうと決心するならば、工場の有る限りは何としても発行出来ないことはない。大概の場合、最初から完全な設備を持つ為、形の整つたものを出さうとするから、何時までたつても出ないのである。例へば最初は複写紙でおしもよい。現に三・一五事件前に某工場では最初に複写紙で発行し、次いで謄写刷に発展した。たゞ労働者に読みよいように、なるべくカナ文字を使用すること、なるべくカナ文字で書くことが大切である。

また最初から多くを発行することはいけない。三・一五事件以前に党のビラをやたらに街頭やデパートでまいたり、誰れ彼れの差別なく工場の入口で出勤する労働者に手渡しした細胞があつた。これは党がもつともつと大衆化して或る程度の合法性を獲得した時でなくては、無益であり危険である。そこまで到達するには、工場と農村とに全力を集中して、「潜行的に」党の文書が一枚も敵の手に渡らぬやうな用意を以つて、被配布者を選択して大部数を発行することはいけない。工場新聞も同様である。工場新聞は最初から多くも千部以内でなければならぬ。最初はそつと出版しやすく発行出来なくともよい。配布する相手の選択が当を得てさへゐれば、第一号を発行する時には五十部或は五百部になるだらう。

最後に注意。工場新聞は工場細胞の機関紙であるが、その事を紙上に署名するのはいけない。今日の如く党の勢力がまだ弱く、特に強度の非合法党化する時には、どの工場に党細胞があるといふことを敵に知られるだけでも非常に危険であり、もし不幸にして敵の検挙を受けた場合に物的証拠を与へることになるからである。又単に「工場新聞」と署名することも同様である。これも敵に大衆の力の戦術は、工場新聞が到る処の工場で、又どこの工場でも大部数が、発行配布されるやうに我々が活動するならば、署名は我々は必要のない危険を犯してはなりない。

(五)

かういふ風にして工場新聞が編輯、発行、配布されねばならない。最初にいつたやうに工場細胞そのものゝ組織、行動、規律、統一が助けられるだけでなく、又労働組

NO 1　赤旗　1931・1・25

赤旗 第号

日本共産党中央機関紙
日本共産党 国際共産党

『赤旗』再刊に際して

『赤旗』第三十三号（一九三〇年六月十五日発行）かの如きが全部を敵の手に没収されて以来我々は中央機関紙なしに仕事を続けて来た。この事は我々の活動全体を可成に困難ならしめた。党の中央機関紙は只に宣伝煽動者であるばかりでなく実に組織者なのである。敵の追求が如何程激しくあらうとも中央機関紙を発行し得なかったことは我々の大きな弱点であった。たとへ一頁のものであらうと共我々は断乎として出さねばならなかった。

国際的情勢は新しい帝国主義戦争の切迫を物語つてゐる。英米佛日独伊等の帝国主義国間に於ける戦争準備は、軍縮会談の――実は軍拡会談――名の下に公然と行はれてゐる。大航空母艦の建造、大戦斗機の製造、新しい毒ガスの発明、愛に又太西洋、太平洋に於ける航空路の開拓等々は来るべき戦争の直接の準備である。各帝国主義列強は各自に関税戦争を開始し、恐慌的に各国人民を新戦争に備へてゐる。だが愛等帝国主義列強向の矛盾増大にも拘らず彼等をしてソヴエート同盟に対する共同的進出を組織することを妨げはしない。先に、ローマ法皇を先頭とする世界帝国主義者の反ソヴエート同盟の運動であり、今日フランス帝国主義者を先頭とするソヴエート同盟のダンピング政策反対は直接にソヴエート同盟に対する挑戦である。

寺界プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟防衛、帝国主義戦争反対は国際プロレタリアートの重要任務である。

日本の支配階級は、他国の帝国主義と同様に、国内及び植民地の労働農民の革命運動に対して階級的及び経済的弾圧政策の強化、軍隊、警察官吏の増加、有力な手段である。地方支配階級は社会民衆党、全国大衆党、新労農党等の解党、水野、浅野、門屋等の解散を強要して労働階級の陣営を攪乱し、その革命的進出を弾圧してゐる。党派を利用して労働階級のかくの如き露骨な政策に対する闘争を始め、全国大衆党、全国水平社の指導者は、ファシズム政策の実施者の狂熱的増加、愛国主義の煽動等はファシズム的敵導者等はファシズム政策をとつてゐる。官製暴力団、警察官吏等の解散の積極的な手段である。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の布的組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万才!!
五、プロレタリア独裁万才!!
六、日本共産党万才!!
七、コミンテルン万才!!

★全党員は政治的組織的指導者『赤旗』を守れ!!
★全工場全職場へ『赤旗』を持ち込め!!
★労働階級の大衆的行動に依つて『赤旗』を守れ!!
★日本共産党中央機関紙『赤旗』再刊万才!!

NO 2　赤旗　1931・7・25

第五十九議会は労働者農民に何を与へたか？

一月十二日開、日本共産党中央委員会の檄は、日本の支配階級は経済危機に陥つてゐる日本資本主義を救ふ為の途を新しい帝国主義戦争――既にそれはソヴエート同盟攻撃――と、国内及び植民地の労働者農民大衆をより強度に搾取し弾圧することに見出してゐることを指摘し、愛の如き政策に対する我々の斗争は即ブルジヨア地主の独裁に代へるにプロレタリア独裁を目掛けて行はれねばならぬと規定した。我々はモハヤ、ブルジヨア議会の解散ではなしに、労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。重要問題である予算の五十%は軍事費であり、他の殆んど全ても労働階級及び貧農小作人の指頭しつゝある斗争弾圧費に充てられてゐる。だからして民政党の政策も政友会のそれも根本的には何等の相異はないのだ。只、何人はどれ程多く受けとるべきかと云ふ可支配階級内部に於ける利害の小ぜり合ひである』。一切のブルジヨア的政党は全ゆる民政党と政友会との何れが内閣を組織してもどうにもならぬこと、只ヒタ押しに武力に依つて労働者農民のソヴエート樹立を公然と宣伝しなければならぬと檄は指示した。このことは全く正しい方針である。

日本では中小企業の破産、それの大企業への集中が急速に行はれてゐる。各産業での生産は三割乃至五割も制限されてゐる。『生産過剰』だと云ふ。これは資本主義的な意味での生産過剰なのだ。何故なら数百万の労働者とその家族は働かんとしても働かなくも、衣食に寒気に慄えてゐるからだ。少数の資本家団の利益の前に一切のものが犠牲とされてゐるのだ。又農村では『豊作飢饉』だと云ふ。しかし貧農小作人は自ら喰ふ米もないのだ。それは金融資本と寄生地主的土地所有制の支配してゐる必然の結果だ。かくて経済危機はハラんでゐる。第五十九議会の役割は、将に来るべき政治的危機をハラんでゐる支配階級の政治的危機に備へる支配階級の勢揃へとも云ひ得る。

なのだ!!日本では欠食児童、小学校教員の給料不払へが続々とし てゐる時、ソヴエート同盟では母児幸福費として最近三年間(一九三〇年十月調)に四億九千四百万ルーブル、幼稚園に二億九千四百万ルーブル支出され、しかもそこには労働者食糧の子弟が優先的に入つてゐるのだ!!日本では時間延長、賃銀値下が行はれてゐる時、労働階級が権力を握つてゐるソヴエート同盟では、全労働者の四十三%以上が一時間労働制の下に働き、六十三%以上が四日働いて五日目に一度休む一週五日制の下で働いてをり、しかも実質賃銀は戦前の百六十七%に増加してゐるのだ!!全て勤等の事実は、一切の反動団体の、資本家地主の悪らつな悪宣伝にも拘らず、世界プロレタリア及び被圧迫大衆の眼前にプロレタリア独裁下のソヴエート制度のみが労働者農民の経済的並びに政治的生活向上を保証し得ることを事実を以て証明してゐる。かくてソヴエート同盟の擁護は世界プロレタリアート全体が自分自身の任務となつてゐることが明日に知られるのだ。

中央委員会の檄は、『労働者農民のソヴエート政府樹立か今や斗争を通じて普遍化されねばならぬ』ことを述べてゐる。それのみが失業と餓死、搾取と圧制から労働者農民小作人の大衆的投獄の形に於ける資本の攻撃は益々強まつて来る。我々は今日の段階にあつては、経済斗争を準備し、組織し、且つそれを政治的斗争へ拡大発展させる様に指導しなければならぬ。この斗争指導に於てこそ労働階級の革命的力を動員し、結集することが出来るのだ。それこそが労働者農民のソヴエート政府樹立の為の力を作るのである。

工場で農村で大衆的経済斗争を組織せよ!!
下からの革命的統一戦線に依つて左右社会民主々義者、解党派を粉砕せよ!!
労働者農民のソヴエート政府万才!!
プロレタリア独裁万才!!
日本共産党万才!!

『労農』一派、解党派の反動的進出を粉砕せよ!!

雑誌『労農』を中心とする山川、荒畑一派は最近しきりに策動してゐる。コミンテルンに依つて徹底的に社会民主々義政党として曝露された『無産政党』を彼等は否応なしに合理化し、その下に労働者大衆を集めることに依つて、日本共産党の活動を妨害し、且つコミンテルンの権威を汚さうとしてゐる。彼等の所謂『日本に於ける特殊事情』論位悪意味なものはない。アメリカ共産党の裏切者ラヴストンやペッペルのアメリカ特殊論に優るとも劣らざる愚論である。

彼等の『理論』はレニニズムは口シアのみに適応さるべきものとしてその国際的性質と意義を極力抹殺せんとしたマルクス主義の裏切者のそれだ。

彼等は一九二七年の七月テーゼ後急にコミンテルンに反対し始一貫』してゐる。今の所共産党が表面に出ることは敵の手にワザワザ捕へられる様なものだから、しうりゴマカしてをいてそれから天気でもよくなつたらボリボリ顔を出そうと主張し、主張し続けてゐる日和見主義、改良主義者である事、彼等は実に『終始一貫』してゐる。難誌の上でソベコベ言ふが実践上には何もやらない。若しやらとすれば共産党側に行かうとする労働者大衆を一寸待て式に押へる為に——例へば全産業労働組合の結成等——出て来ると云ふ実に於て正に『終始一貫』してゐた、見こそ彼等の誇る『終始一貫』する思想である。見こそ日本の労働階級に対する終始一貫せる裏切的行動である。

自殺し損つたアゲク、ニギビ面の文学青年が書きさうな力キカキを『改造』に発表してその原稿料で元気付いた荒畑寒村は最近しきりにコミンテルン、プロフインテルンの決定に反抗してゐる。今は昔、一九二三年頃ソヴエート口シアの領土で日本の革命を一人で背負つて立つといふ程の元気を見せた荒畑も、今や反動団体の領袖と共に、反ソヴエート同盟、反コミンテルン、反プロフインテルンの積極的活動をやつてゐるとは、——革命的組織から、従つて新興階級としてのプロレタリアートから嫌はれたものゝ、必然の行程である。

雑誌『労農』は上からの共同戦線を主張することに依つて、今日、コミンテルン、プロフインテルンが『下からの、そして下からのみの共同戦線』を決定してゐる事に対立する。この下からの共同戦線は、社会民主々義政党としての社会民主々義者、民主主義的労働組合指導者との決定的斗争を意味するのだ。然るに『労農』一派はこの斗争を放棄するばかりでなく、それの指導下に——労働大衆をかんと努力してゐるのだ。この一事丈でも彼等の反動性が充分に伺はれる。日本労働総同盟、全口同盟、それから社民党、全口大衆党、新労農党の指導者達が次から次へと裏切り——ちらゆる手段、ストライキに於て——をやつてゐる時に、彼等との斗争を拒否し、彼等との協力を唱導する——是程日本の労働階級にとつての裏切行為が外にあるか

の。

元、共産党内にあつた解党派一派も、『労農』派とクツワを並べて乗り出してゐる。『プロフインテルン第五回大会で採用された日本問題に関する決議は全口協議会に向けられた心ではない。何故なら、決議文のどこに全協の名がないから』と彼等は子供ダマシの如き宣伝をする。だが彼等の真意は?日本に於ける革命的労働組合運動全体に対する攻撃なのだ。全協の叛逆を傷付けることに依つて、日本共産党に対する労働者側の信頼をおとさせ様といふのだ。実に解党派の名にフサワしいことであり、ブルジヨア地主政府からの賞状の一枚位貰ひさうな行為である。

日本の労働階級は是等裏切者共の行動にダマされる程幼稚ではない。現実の斗争はコミンテルン、プロフインテルンの諸決定が全く正しいことを証明してゐる。日本共産党の指導の下に一切の裏切者共の反動的行動を粉砕せよ!労働階級の勝利の為に!

工場細胞を確立せよ!!

共産党の活動は工場が基礎である。働いてゐる場所を単位として党組織を作らねばならぬ。従来このことは幾度か繰返されて来たが未だに多くの人々に依つて充分には理解されてゐない。

工場細胞は当該工場にゐる労働者大衆の組織者であらねばならぬ。て、場内に起つてゐる問題、又は工場内へ持ち込まねばならぬ問題は先づ第一に細胞に依つて審議され、その工場に当てはまる所の実行方法、手段が決定されねばならぬ。大衆団体(労働組合、モツプル等々)がある場合、それらの団体を如何に工場細胞の方針の下に動員するかといふことは細胞にとつて重要な問題である。その事を上手にやるかやらないかに依つて党と大衆との結合がウマク行くか、マヅク行くかが決定されるのだ。

工場細胞は工場内外のあらゆる問題に対する党の政策を大衆に今らせねばならぬ。その為に細胞は工場新聞、壁新聞等々を発行しなければならぬ。工場新聞、壁新聞はその工場の全労働者に読まれる様にすべきである。こゝでは労働者の日常生活と結付けた共産党の政策の説明と、斗争に対する大衆の準備とがなさるべきである。他工場の労働者の生活や、斗争の経験も又これらの紙上に於て発表され、それを中心にして労働者の間に活発な討論を捲き起さねばならぬ。即ち工場新聞なり、壁新聞なりは当該工場労働者の政治教育機関であると同時に斗争の宣伝煽動並びに組織者たらねばならぬ。

当該工場の労働者と緊接に結合してゐる細胞のみがよく党の活動をなし得、最も強固であり、敵の攻撃に対して充分なる斗争をなし得るのである。

工場細胞を確立せよ!
プロフインテルン第五回大会の決定を実行せよ!!

プロフインテルン第五回大会が終つてから既に半年に垂んとしてゐる。この期間に於て我々は何をしたか?遺憾ながら我々は非常に少ししかやらなかつたと言はねばならぬ。決議文の発表、全口協議会に依るパンフレツト発行、及び労働新聞に於けるその説明(第一回は誤謬と共に、第二回は第五回大会の決定文を)、無産者新聞(無産青年紙上に於ける若干の説明等々に過ぎない。

これでは全く不充分である。決議文は単なる空物として飾つて置くべきものではふくて、実に行動の指針である。革命的労働組合の国際的指導部の決定は只に労働組合のみの仕事ではなしに、我が党全体として実行しなければならぬものである。党員はこの決議実行の先頭に立たねばならぬ義務を有する。

第二無産者新聞、無産青年、労働新聞は今日に至るまで尚第五回大会の決定を大衆の中に持ち込む為の仕事を非常に少しかやつてゐない。日常起りつゝある諸問題を五回大会の決定と結びつけて、決議なる労働者大衆に知らせねばならぬ。一度や二度五回大会に関する論説を掲げた丈で能事足れりとなすが如きは革命的前衛の態度ではない。特殊的には五回大会が採用した日本問題に関する決議の普及が今日我党全体の重要問題である。労働組合会口協議会をしてその活動を積極化さすべく党員はあらゆる努力をしふけねばならぬ。

この仕事は、あれをやつてからその次にやるといふ様に取扱はれてはゐらぬ。日々の斗争と結合してゐる時にこそこの仕事の成功的遂行があるのだといふことを理解しなければならぬ。武同志は去ふ月大会をすぎてから六ヶ月になるから時期遅れだ」と。これは全く日和見主義的見解だ。遅れて悪いといふなら何故もつと早くやらなかつたか?又、遅れ乍ら決議の大衆化を行ふことが何故悪いか?やらねばならぬことをやらねばならなかつた時にやらふかつたことを遅ればせ乍らも行ふてこそ革命家なのではないか。我々は、この仕事を事実上第四に付してゐたことを正当に認め、急速に実行に移らねばならぬ。その為には

(イ)第二無産者新聞、無産青年、労働新聞等にのせられる記事、論文の中では必ず第五回大会の問題と結びつけてあること

(ロ)特別ホパンフレツトの発行、

(ハ)インタナショナル』に発表されてゐる決議集を岩本として各職場に於て討論を行ひ、

それから一定の具体的結論を出すこと

(ニ)見等の場合決意すべきは、経済斗争の持つ政治的性質の説明、経済斗争の準備、組織、指導が今日労働者階級の多数を共産党側にかくとくする為の最重要問題であることを充分に理解しなければならぬということだ。

(ホ)各組合の機関紙も絶えず五回大会の決議をその組合の実状にあてはめて大衆化に努力すること。

(ヘ)更に定期的にこの決議大衆化の成果に就て大衆自身の自己批判を組織すること等々が必要である。

革命的労働組合の国際大会の決定が全く正しいことを積極的に支持し、それの実行の先頭に立つことは各党員の義務である。工場の中で職場の中でこの決議文を出さなければならぬ。この仕事でケウチヨするものは日和見主義者である。

プロフインテルン第五回大会の決定を工場の中で、職場の中で実行せよ!!
大衆的經済斗争を組織せよ!!
プロフインテルン大会決議の大衆化へ!!

工場に於ける大衆動員に就て

一、大衆動員の意義

我党はあらんとするプロレタリアート、貧農の武装斗争の準備期の意義を持つ現在、その スローガンを労農大衆に親しませ、彼等を大衆的に動員して集団的行動に習熟せしめねばならぬ。

そして党はこの大衆動員を通じて『大衆動員の合法的・非合法的技術』を習得し、党組織の活動に依る大衆の動員力の程度を知る。

大衆動員は単に我々の影響下にある労農大衆のみでなく、社会フアシストの影響下にある労農大衆及び未組織大衆を一定のスローガン、要求の下に動員し、彼等を獲得、訓練する共同戦線戦術の一適用の意義を持つ。

我々の大衆動員は、社会民衆党より新労農党の、右方社会フアシスト幹部共に対する容赦ふき決定的斗争を行ふ。

是等の意義を持つ大衆動員の基礎は、労働者が直接生産にある工場――そして農村――である。

帝国主義戦争反対、共産党弾圧公判反対、暴圧反対等の政治的諸問題は工場に於ける労働大衆の斗争と結合され、大衆の声、行動として現はれた時、始めて大衆行動としての成果を見ることが出来る。

二、工場内に於ける大衆動員の組織と方法形態

大衆動員には党が全国的に一定の期間を定めて行ふものと、その当時の情勢に応じて、地域的に、突発的に発生する問題を取上げて戦ふ小さのしかがある。

全国的なカンパーニアの遂行に当つて――例へば赤色デー、ロシア革命記念日等――先づそのカンパーニアの持つ政治的意義その性質方針が、精密に明確にされねばならぬ。

この政治的意義、その性質は、現在に於ける国際的ふ経済的、政治的情勢と、これと結合した国内の政治的経済的情勢、特殊なモメント(村会)の分析の上に立つて行はれる。

カンパーニアは決して、頭の中で簡単に製造されたその場式の思付であつてはならぬ。カンパーニアの持つ正しい性質付け、その特殊ふ意義が鮮明にされ、これは、その当時の我党の政治的組織的任務と正しく結合されねばならぬ。

部分的に行はれるカンパーニアは、一定の見通しの上に、巧に、帝国主義戦争反対、ソヴエート、ロシアの防衛のため等の国際的大カンパーニアに対する斗争の集中の見地から行はれ、戦はれる。

例へば失業反対斗争、資本主義合理化反対のカンパーニア――その中のカンパーニア、又はカンパーニアの間に起る突発的事件、日常斗争をこれに合流させつゝ、――等は、その見通しとして、国際的大カンパーニアに集中させることである。

だが、何れのカンパーニアの遂行に当つても、その カンパーニアの基礎は、工場細胞の活動に依り、特に強く大衆の前に押し出されねばならぬ。当時の情勢がカンパーニアとカンパーニアの間で、一定のカンパーニアが遂行されてゐないとする時、突発事件等が起つたとする。例へば突然工場から戦斗的労働者が逮捕された場合等。この場合は躊躇することなく、前記の如き方法で従業員大会を開催し、その場で各職場から委員を送出して国際反対斗争の目標をピツタリ現はした名称を付したものを組織する。斯く国際的大カンパーニア何れも工場の大衆の動員であり、その基礎は工場内のカンパーニアの遂行であり、地域的カンパーニアの遂行も工場内の細胞の大衆的動員、組織、斗争方法は最も重大視されねばならぬ。

以上の如き見地に立ち、理論的に正しい情勢に応じて決定された党のカンパーニアが正しい方針の下に、工場の具体的情勢に応じて次の如き動員組織と方法が取られねばならぬ。

(1)工場内での労働大衆の動員で非常に重大なのは、従業員大会の開催である。

若し工場内の我等の力の関係で、最初直ちに従業員大会が困難な場合は、職場大会を開きそれに参加した大衆を基礎にして、これを工場内りデモに動員して、その斗争力で他職場内の大衆をルマキ込み、全従業員大会へと変更する。この従業員大会で工場内の一定の要求と我々のカンパーニアの基本的スローガンとを結合したものを掲り、決議する。この場合、党の基本的スローガン、政策等は工場細胞の活動に依り、特に強く大衆の前に押し出されねばならぬ。当時の情勢がカンパーニアとカンパーニアの間で、一定のカンパーニアが遂行されてゐない時、突発事件等が起つたとする。例へば突然工場から戦斗的労働者が逮捕された場合等。この場合は躊躇することなく、前記の如き方法で従業員大会を開催し、その場で各職場から委員を送出して国際反対斗争の目標をピツタリ現はした名称を付したものを組織する。斯く国際的大カンパーニア何れ

の場合に於ても、我々の力の関係で、一工場に於てだけしか何び得ない場合があつても、これを遂行すべきである。

そして是等の従業員大会を基礎に、他工場にアジし、工代会議を召集して、各工場労働者の要求のアジと、カンパーニアのスローガン、斗争目程等を即時決定採用する。工代会議に於ての決定の報告は必ず各工場に於ける従業員大会等の大衆的な論上で行はれねばならぬ。是等各工場の従業員大会、工代会議等に選ばれた大衆的背景を持つ代表に依つて、全国的、地域的のカンパーニア組織――例へば選挙斗争周盟等の如き――が持たれる。

工場内に於ける カンパーニアの動員組織――従業員大会等の――と併行して、現在の情勢が特にその必要に迫つてゐる赤色自衛団の組織は緊急必要である。但し、従業員大会はカンパーニアの動員組織で一時的なものであるか、赤色自衛団はカンパーニアより一時的動員組織でなく、半永久的な大衆的な労働者の組織であることを明確にせねばならぬ。

(ロ)斗争の形態

斗争の中心形態は工場内デモ、工場から街頭に直接繰り出す街頭のデモンストレーションである。

是等のデモは、従業員大会等の後の如く、従業員大会を解散して後、夕食後等に行ふことは、自然発生的な大衆の意気を抑圧してはならぬ。

このデモは全国的な、武装蜂起の際の準備的政治的計画の上に立つた精密な計画に基づく――警視庁やの様な街頭の全体的な大衆動員の組織や、労働組合の様な組織――例へば組合幹事会に於ける カンパーニア参加の決定、組合大衆に対するその声明、分会総会の開催に依る参加決定等――党カンパーニアに対する支持を行ひ、組合分会より、カンパーニアの斗争委員会等へ代表者を派遣する。反帝、モップル等の大衆組織の活動も、本質的には党カンパーニアの支持を中心とする。

三、共産青年同盟の任務

『日本の労働青年の獲取は恐るべき程の範囲に達してゐる』。現在の経済危機と資本家的合理化政策は織維産業に従事する数十万の青年婦人労働者を企業から追い出し、植民地的賃銀を以て青年大衆を搾取してゐる。この困難な状態にある青年労働者のおびたゞしい層が自然発生的に経済的ストライキ運動に参加し、且つ非常な積極性を以て斗つてゐる。然るに、この自然発生的大衆運動の大きさに比較して尊重的青年労働者運動は、比較にならぬ程小さく、幼稚である。ここに我々の問題がある。

共産青年同盟は、現在迫のセクト的、グループ的存在から大衆に向つて転換しなければふらぬ。そして、この事は何よりも、未曾有の困難な状態にある青年大衆の経済斗争の送襲を準備し、組織し、指導すると云ふ点にふけ ればならぬ。企業の青年労働者に対する大衆的政策への転換、日常の文化的活動、スポーツ的活動、及び経済的要求や残酷な取扱ひに対する日常斗争に於て、大衆の先頭に立つこと、この活動によつてのみ同盟は大衆の信頼を得て、青年大衆の送襲の組織者となることが出来る。又この活動を基礎としてのみ、同盟は政治的影響を拡大し、ソヴエート同盟の擁護、反帝国主義戦争の運動を大衆的に強力なものとすることが出来るのである。

企業で大衆の信頼を得、自らを大衆のためにつくさうとしてゐる青年労働者を広く同盟に加入さすこと、及び生々しい指導の組織即ち上から下までの指導村団へ、生産に従事してゐる青年労働者を抜できすることが緊急任務である。同盟は企業の中で大衆的政策をキソとして大衆的運動の組織及び、強大な革命的青年労働者運動の建設を任務とせねばならぬ。

編輯後記

昨年七、一五事件に先つて、『我が赤旗』はその才三十三号を再刊したが、我が党中央部が七、一五によつて再び破壊せられた為、其大部分が敵の手に没収され、我が党員諸君の手に配布されずに

日本共産党
中央機関紙
赤旗
三・一五記念
特輯號

三・一五第四年を迎へて

一、

吾々は三・一五事件の第四年を迎へた。三・一五事件は一九二九年の三月十五日台湾で第一次共産党員として最後をとげた同志渡政を追悼人法一般人法と治安維持法が議会を通過した其日、プアンカースト悪法の反動の双に仆れた同志山宣を葬る労農葬を敢行した。吾々大衆行動を以て血の三・一五を紀念した。

一九三〇年には新しい戦略的規定に従って吾々は紀念された。

三・一五を紀念した。

天皇制の資本家地主国家も吾々と同様に三・一五を紀念した。三・一五を紀念するために

る三・一五―四・一六、七・一五―を作り出した。

吾々はたゞに三・一五并四年を迎へた。

帝国主義ブルジョアジー政府も彼等の三・一五を迎へるための紀念事業――白色テロル――の準備に血まなこになつてゐる。

同志よ！準備はよいか？！

二、

一九二七年七月のコミンテルンの日本問題に関するテーゼは日本共産党大衆化のための基石であつた。一九二八年二月の総選挙戦に際して我が党は公然その姿を大衆の前に現はした。我党独自の斗争を展開した。労仂者農民大衆はそこに自己の真実の階級的代表者を見出して喊声を挙げた。資本家地主は悲鳴を挙げた。ブルジョア口家は驚愕した。

三・一五は支配階級の死物狂ひの逆襲であつた。

戦況は吾々にとつて決して有利でなかつたことを大膽に承認し得る。吾々は二月の総選挙戦に出陣する時既に敵の優勢を予想してゐた。そしてこれは充分強力でなかつたことが実際でなかつたばかりでなく、彼等は大打撃を受けた。

三・一五事件を報道し、大衆的抗議斗争を組織せよと大衆的進撃を開始せよと各地の犠牲者を出した。

日本共産党をザンブ中傷した。

右から左までの社会民主の義者共はブロレタリアートの戦列が極度に混乱させられ、破壊させられてゐる時に、それ故にプロレタリアートが他の如何なる時期よりも最も熱烈に「戦線の統一」を要求した其の時に「戦線の攪乱」を実践した。ブルジョアジーに対する彼等の御奉公は資本家地主階級とその政府は躍上つて喜んだ。彼等はかくて四月十日の第二段の攻撃を成功的に断行し得たのであつた。

三、

レーニンは一九一七年の革命の経験を徹底的に批判した。"そこから汲み取り得る限りのものをくみ取つた。ボルシエビキは一九〇五年の革命がなかつたなら一九一七年の革命の成功はあり得なかつたであらうと大膽に云ふ。云ふことが出来るのだ。吾々は経験を批判してそこから学びとつたからだ。吾々は経験から学ぶことが少なすぎる。吾々は国際的経験から学ぶことが少ないばかりでなく吾々自身の経験から学びとることさへなすぎる。これは吾々の最大の誤謬である。吾々はこの傾向を断然あらためなければならぬ。"

三・一五から

きであるか。

党がなほ若かつたどころか、ガチリと強力に組織されてゐなかつた事はやはり最大の誤謬の一つであると云はなければならぬ。

工場細胞を拡大強化せよ！工場細胞と党中央部との緊密なる結合！これが三・一五事件から学ぶべき数千人の同志の獄中からの叫びである。

だが三・一五に際して決定的な過誤が冒された。それは中央並に地方の組織者が組織方針を誤り組織技術を無視した点である。例へば党員名簿を作製して置い

三・一五第四年を迎へて
一、
二、
赤色的政治
農場から
工場へ
街頭へ
記念日を大衆的示威行動で

しまつた。

我々は支配階級及びその御用人共の飽くなき弾圧妨害に抗して我が党組織を再建し、こゝに再び『赤旗』を三十四号を再刊することになつた。

本号は猛烈な官憲の迫求の中にありながら発行を急いだため、尚当面緊急な諸問題を載せ得なかつたが、次号から工場通信、□内的及び□際的諸問題に対する党中央部の統一ある正しい見解を発表する。全党員諸君は我が『赤旗』を中心に、工場内に於て討論を捲き起し、諸君の日常実際活動に基づく意見を基つて我が『赤旗』に投書せよ。

我が『赤旗』の再現に対し、官憲は党最なる迫求弾圧を始めるであらう。我々のこれに対抗する途は、全工場、全職場に我が党組織を強化拡大するための積極的斗争以外にない。彼等の迫求弾圧から我れ『赤旗』を防衛することは全党員、革命的労仂者の光栄ある義務である。

『赤旗』の指導方針を直ちに日常の行動に移せ!!

『赤旗』の配布拡張のための実際的斗争を起せ!!

定價金五錢

たばかりでなくそれをムザムザと敵の手に渡したことである。組織原則上記録すべからざる諸事項を記述して置いたばかりでなくそれを易々として敵の手に渡してしまったことである。

このことはコミンテルンによって最も峻烈に非難された。にも拘らず同一の誤謬が四・一六に於ても繰り返し冒されてゐる。これは日本共産党の過去に於ける一大汚辱である！

吾々はかゝる過去の誤謬を実践的に清算することを誓ふ。

同志スターリンは幾万といふ口際的同志を悪く頭の内にタタミ込んでゐる。吾々にしても組織科学の力を以てすれば記述に止めなくとも立派にやりぬくことが出来る。

同志を敵の手に渡すものは裏切者として厳罰されるであらう。吾々は味方に対して絶対に親愛なるが故に、敵に対しては絶対に峻厳であることを茲に宣言する。

同志よ！鉄の規律なくして共産党はあり得ない。と同時に、組織科学なくして共産党は存在し得ない。

労働者のイニシアチーヴ（創意）を発揮せよ。組織並験から学びとれ！

四、

ブルジョアジーは階級的本能からして、本能的に問題の中心を把むことを知ってゐる。彼等は特殊の一環を巧みに把む。日本共産党の大検挙がそれだ。殺人法による日本共産党の追及がそれだ。日本共産党をボルシェビキ化しつゝ共産党を破壊することは窮局に於てプロレタリアートを奴隷の鉄鎖につなぎとめ貧農大衆をコウ役等の間に於て左右社会民主々義者が頗党派に加へて、ブルジョアジーの公認と援助の下に充物狂ひの策動を試みつゝあるにも拘らず、彼等が労働者貧農大衆の間にあってブルジョアジーの一切の科目とロとを揃へて日本共産党のデマをふりまいてゐるにも拘らずコミンテルンでなければ駄目だ！と云ふ叫びが労働者貧農大衆の間に広汎に拡まりつゝある。彼等は日本共産党を支持し、日本共産党に加盟することを欲してゐる。

資本家地主政府は労働者貧農大衆を日本共産党から引離し得なかったばかりでなく、却って彼等を日本共産党の赤旗の下に結集せしめつゝある。資本家地主政府は日本共産党を粉砕し得なかったばかりでなく、却って日本共産党をボルシェビキ化しつゝある。

日本共産党のボルシェビキ化の客体的条件は十二分に成熟してゐる。

五、

吾々は三・一五事件の十四年を迎へた。三・一五事件に対しては国際プロレタリアートが抗議に蹶起した。吾々は、今は三・一五を如何にして記念すべきであらうか。

それは外ではない。吾々は過去の経験を徹底的に批判して最後の一滴まで学びとるのだ。獄内数千の同志の壮烈なる絶叫を実践に移すのだ。日本共産党をボルシェビキ化するのだ！

金融ブルジョアジーのヘゲモニーの下に立つ資本家地主は世界的な巨大な国家権力――軍隊・官僚・警察・監獄等――を独占してゐる。一切の富を壟断してゐる。一切の文化機関を動員することが出来る。そして吾々は奴隷的労働と大衆的失業と大衆的飢餓とを強制されてゐる。にも拘らず墓は吾々のためにではなく彼等のために掘られつゝある。

ソヴエート同盟ではプロレタリアートの独裁の下に社会主義的建設が素晴しい勢で進展してゐる。隣邦支那では革命が輝いてゐる。日本の労働者貧農大衆は

三・一五を大衆的政治的デモで記念せよ！

工場鉱山農村から腕をくんで街頭へ！

ブルジョア共は彼等の記念日には祝典を挙げて酒を飲み享楽の眼りをつくすのだ。

プロレタリアートはでは如何にして自分の記念日を記念するか。

闘いか然らずんば死かだ。

プロレタリアートと半プロレタリアートが階級意識に目覚めた時、労働者と貧農がシッカリと腕をくみ合った時、ロシヤ革命やフランス革命の時の様に宇宙を破壊して政治犯人を奪還することは朝メシ前だ。

一度び結集せられた大衆の革命的威力を以てすれば、一と握り程の資本家地主政権の如きは易々たるものだ。

結局は力の問題だ。団結せよ！

凡ての工場鉱山・船舶等は事実に於て労働者が動かしてゐるのだ。ブルジョア共は指一本ふれてはゐない。彼等は少しも生産に参加してゐないのだ。凡ての農場は農民が耕してゐるのだ。地主共は完全に寄生してゐるのだ。

☆大衆的闘争・賃下げ・時間延長・労働強度増進絶対反対！

☆日家全般的組織による失業保険の即時実施！

☆軍事費を失業者の生活保証にあてろ！

☆七時間労働・一週五日制。賃銀を全般的に値上げしろ！

☆土地を勤労農民へ！

☆革命的煽動宣傳組織並に活動の自由！

☆治安維持法その他労働農民を弾圧する一切の法律並弾圧機関の廃止！

☆政治犯人を即時釈放しろ！

☆救援運動の大衆化万歳！

☆ソヴエート同盟の擁護！

☆右から左までの社会民主々義を粉砕せよ！

☆失業と飢餓の資本家地主政府を倒せ！

☆労働者と農民のソヴエート政府を樹立せよ！

三・一五の大衆的政治的デモンストレーション万歳！！

三・一五紀念日に際して

同志セン・片山懸に送る挨拶状

我が党の輝ける組織者の一人であつた同志山懸に対しても反動の刃を揮つた。我党の最も輝けるアジテーターであり、最も優れたる組織者の一人である同志山懸をその家族から引離して亡命させた。日本のプロレタリアートから引離して追い出した。米国に於ける革命的組織運動の故に死刑を以て追及された同志セン・片山を、白色テロルの日本日家が一層悽惨な白色テロルで追及しつゝあるのは当然だ。民族性を愛し民族文化を悲ふるは必然だ。豈あべの仲磨一人のみならんや。革命家の化身である同志達にとって日本のプロレタリアートから隔離されてゐることはどんなにつらいことであらう。

同志片山！

同志山懸！

雨につけ、風につけ吾々は同志達の健康を案ずる。

一つのストライキに際しても一つのデモに際しても日本のプロレタリアートはきまつて同志達の在りし日を想起する。

「同志山懸来る！」の飛報に二千の芝浦の兄弟はフルひ立つたではなかつたか！

同志山懸の僅か五分間の講演説に全民衆は革命的エネルギに野生してゐるのだ。

兵士や水兵はみんな軍服をつけた労働者農民なのだ。

只鉄の鎖につなぎとめられ、大砲と毒ガスと飛行機で一と握り程の資本家地主と其の手先き共に抑へつけられてゐるだけだ。

鉄の鎖を断ち切れ！

血の三月十五日は数日後に迫つた。三月十五日にはデモだ！

今日こそ、兵営と飢餓の資本家地主政府に俺達の威力を示してやるのだ。今日こそ、サーベルと銃剣のブルジョア口家に俺達の武器を揮してやるのだ。

労働者は職場を捨てろ！

鉱夫は坑内から躍り出よ！

勤労農民は耕地を離れよ！

全工場全鉱山全農場の兄妹よ、ガッチリと腕をくめ！

一人残らずそれぞれの働き場から直ちに街頭へくり出せ！

三・一五を大衆的政治的デモでたゝかへ！！

一を発揮して交番を警察を官省を焼打ちしたではなかったか！同志達は今何処に如何してゐるであらうか?!吾々はそれを知らない。

だが、總選挙戦に対し、組合の大會に対し、何処からどうしてかは吾々は云ひ得ないが、必ず同志達は論文を、檄を、指令を送って来る。そして日本の労働者農民大衆の前にそれが公表されるとき、それは嵐の如き拍手と全口を雷鳴する喊声とに迎へられる。それは一言一句ソシヤクせられて実践に移される。

否、總選挙戦や大会の時ばかりではないのだ。日々刻々の運動に対して同志達は――コミンテルン、プロフインテルンの決議を遵奉しつゝ――日本共産党、日本プロレタリアートを指導しつゝあるのだ。

同志達は確かに日本のプロレタリアートから万里の波涛をもって隔離されてゐる。だが同志達はガッチリと日本プロレタリアートと腕をくんでゐる！日本たゝかける階級斗争の真只中にゐるのだ！

同志山懸の指導は最近益々明白となり、益々公然、労働者農民大衆と結びつきつゝある。

圧石の社会民主々義者は天皇制の資本家地主政府の警視廳と口を合せて盛に同志山懸に関するデマを飛ばしてゐる。だが同志よ！安んぜよ。日本の労働者と農民は奴等にだまされる程幼稚ではない。同志達の革命的行動は、同志達を日本のプロレタリアートとピッタリ結び付けてゐる。日本共産党をスパイだとデマる奴等が同志をスパイだとデマるのに何の不思議があらう。

日本共産党が労働者農民勤労被搾取民衆の擁護者であり、彼等の利益ある推進力である限り、労働者農民勤労被搾取民衆。植民地民族の搾取者であるところの日本の資本家地主階級にとっては、コミンテルン、プロフインテルンは「過激派」であり、日本共産党は「賣口牝」であり、同志山懸は「スパイ」であり、又同志片山は「卑怯者」であるであらう。

同志山懸！

同志片山！

同志達は官憲と口を揃へた社会民主々義者共のふりまきつゝあるデマを、資本家地主階級の同志達に対する憎悪の表示として甘受するであらう。そして反対に労働者農民の燃ゆるが如き階級的信頼の表現として欣んで受取るであらう。

同志達よ、健在なれ！――これが日本のプロレタリアート

三・一五紀念日に際して
獄中の同志諸君に送る挨拶

上野の動物園に捕はれてゐる獅子には春の陽ぎしがあかとさし込んでゐる。暖国風が櫻の花を送って来る。鬼の御馳走が供へられる。

だが同志達の牢獄は眞暗だ。二尺四方のウス汚い鉄の窓が天井にクッついてゐるだけだ。同志達の牢獄は冷い。厚い赤レンガに取囲まれた三疊の部屋へ投げ込まれる三度の食物は豚だって食へないシロモノだ。それにも拘らず鉄の鎖につながれてゐる同志達の元気はどうだ。実にすばらしい。同志達は共産党員としての英雄的血汐に燃えてゐる。同志達は革命家として牢獄の中に階級斗争を持ち込んだばかりではない。同志達はあらゆる機会を利用して吾々を激励した。あらゆる非合法手段を創案して吾々を指導した。高壓と鉄鎖と革命家のイニシアチーブの前には遂に無力であった。鉄窓の下に繋りいけられてゐる日本・朝鮮・台湾・支那の同志諸君！

吾々は世界プロレタリアートの名に於て同志達に血盟の挨拶を送る。吾々の挨拶は、だが、勿論單なる言葉の挨拶に止まるものではない。

一九三一年は確かに世界危機の飛躍的尖鋭化の年だ。中央各殖台の高塔の尖端には赤旗がひるがへってゐる。嵐だ!!赤潟だ!!吾々の同志達に対する最大の責務は諸君が身命を捧げて築き上げた日本共産党を防衛し、拡大し、強化することだ。吾々の当面の任務は日本共産党のボルシエビキ化だ!!

同志よ！安心してくれ。吾々は数万、十数万のプロレタリアートを日本共産党の赤旗の下に結集し、数百万、数千万の労働者農民を日本共産党の赤旗の下に引寄せないではおかないぞ!!

吾々は如何なる弾圧にもビクともしない破固不抜の日本共産党を築き上げないではおかぬ。そして吾々は労働者と農民のソヴエート政府を樹立しないではおかぬ。

日本共産党は白色テロルの資本家地主政府に対する全労働者農民、被圧迫民族の革命的奮起を訴へ、同志達の導きギセイに対する大衆の革命的復讐をこゝに誓ふ。

コミンテルン、プロフインテルンの指導を忠実に而も具体的に示してくれる同志達なくして日本共産党のボルシエビキ化はあり得ないであらうし、日本に於けるプロレタリアートの勝利は不可能であるであらう。

荒狂ふ白色テロルの嵐に抗しつゝ、

コミニストの血盟の握手を送る

一九三一年三月十五日

コミンテルン日本支部日本共産党中央委員會

同志達に対する最上の援助であることを。全世界のプロレタリアートのストキの声は必ず同志達の牢獄をゆり動かさずにはおかないであらう。全世界の労働者と農民がガッチリと腕をくんで同志達の牢獄を打ち破るであらう。

牢獄に閉ぢこめられてゐる支那、台湾、朝鮮、日本の兄弟諸君！同志達の払った尊き犠牲は決して徒労ではなかった。同志達の流した血汐は決してムダではなかった。否、それは日本の革命運動における劃期的発展を示す道標である。プロレタリアートは兄弟姉妹の貴重な経験から最後の一滴に至るまで汲み取りつゝある。吾々は同志達の偉業を発展せしめつゝある。

兄弟よ！心安かれ。外の運動は吾々が誓って引受けた。諸君の家族はプロレタリアートの名誉にかけて引受ける。同志達の当面の任務は同志自身の健康を保持することだ！元気を百倍させることだ！それは又同志達の責務でもあるのだ。そして日本のプロレタリアートと貧農が世界プロレタリアートと被圧迫民族の援助の下に、同志達の愛妻を愛児――婦人同志と少年同志――を先頭にして、同志達を大衆的に迎へに行く日を待ってゐてくれ。

天皇制の資本家地主政府は、益々強暴に断末魔の白色テロルを横行せしめてゐる。それにも拘らず、否それ故にプロレタリアートと貧農は益々大衆的に革命化しつゝある。

嵐は強い樹をつくる。鉄は火によってきたへられる。

一九三一年は確かに世界危機の飛躍的尖鋭化の年だ。中央各殖台の高塔の尖端には赤旗がひるがへってゐる。嵐だ!!赤潟だ!!吾々の同志達に対する最大の責務は諸君が身命を捧げて築き上げた日本共産党を防衛し、拡大し、強化することだ。吾々の当面の任務は日本共産党のボルシエビキ化だ!!

同志よ！安心してくれ。吾々は数万、十数万のプロレタリアートを日本共産党の赤旗の下に結集し、数百万、数千万の労働者農民を日本共産党の赤旗の下に引寄せないではおかないぞ!!

吾々は如何なる弾圧にもビクともしない破固不抜の日本共産党を築き上げないではおかぬ。そして吾々は労働者と農民のソヴエート政府を樹立しないではおかぬ。

日本共産党は白色テロルの資本家地主政府に対する全労働者農民、被圧迫民族の革命的奮起を訴へ、同志達の導きギセイに対する大衆の革命的復讐をこゝに誓ふ。

一九三一年三月一五日

コミンテルン日本支部日本共産党中央委員會

赤色救援會の任務に就て

×　×　×

コミンテルン第六回世界大会の決議の第二には次の如く書かれてある。

「国際赤色救援会は一つの党外に立つ組織であり、一方に於て、革命的斗争のすべての犠牲者に対する支持をなし、他方に於て、その成員を政党的所属の区別なく組織し、それ故に、統一戦術を遂行する最も重要なる活動場面の一つである。

それ故、共産党は、他のいづれの党よりも、国際赤色救援会の活動に利害関係を持つ。それのであり、自己の活動によってそれを支持しなければならぬ。その支持は国際赤色救援會の特別機関を設けたりする事等によってなされる。

プロフインテルン第六回大會の決議は次の如く強調してゐる。

「超党派的大衆団体である国際赤色救援会は、自らが反動ブルジヨアの階級司法、白色テロル及びファッシズムに対する斗争に於ける統一戦線の組織であることを実証しその上政党的所属の区別なく、百万の広汎なプロレタリアートの信頼を獲得した。」

×　×　×

我党がコミンテルンの指令に基いて日本に救援会を組織したのは一九二八年三月六日であった。救援会の組織には忠実にコミンテルンの方針が実践されつゝあった。日本に於ける救援会は野田争議に対する救援を手始めとして生れたのであった。だが、右翼社会民主々義者の意識的サボタージュと積極的分裂行動のために救援会大衆化の運動は甚しく困難な状態に陥った。

かゝる困難な情勢の下に救援会が追ひ込まれた時に三・一五事件が突発した。続いて所謂三団体の解散が行はれた。左翼の陣営は混乱させられ破壊させられた。救援會は共産党員を救援する救援會になってしまったばかりでなく、労働者農民大衆を主たる構成要素とする「超党派的大衆団体」たることをはばまれてしまった。

・コミンテルンは線

り返し赤色救援会組織に関する詳細な指導を送つた。無産者新聞は党の指令に従つて日本に於ける救援会運動を批判し、コミンテルンの指導を具体化すること を宣伝煽動した。

獄未救援会は、組放運動の犠牲者とその家族に対して、激励・慰尚・差入・弁護・病人の手当等の救援を行ふばかりでなく、治安維持法その他労働者農民を弾圧する一切の法律道府県令の廃止、政治犯人の即時釈放要求の大衆行動を組織して戦つてゐる。救援の手は捕へられた前衛とその家族に向けられたばかりでなく、ゼネラルモータースの労働者に、高知の秋田の農民に、朝鮮・台湾・支那の同志に、国際的に日本内的に吾地や斗はれてゐる日常斗争の犠牲者の上にまでのべられるに至つた。

救援会の組織は工場班を基礎とすることに努力されてゐる。今日、例へば東京地方に於ては数十の工場班が確立されるに至つたことを見ても明かである。これは素晴しい進展だ。日本の救援会はかくて政治的にも組織的にも一歩々々国際赤色救援会日本支部の名にそふ様に進められつゝある。

会日本支部は国際的に誇り得る程に進展してゐるか？　遺憾乍ら、吾々は「然り！」と答へ得ない。否日本の救援会がなほ甚だ強力でないことを吾々は大膽に承認すべきであらう。

× × ×

では日本の救援会は如何なる方向に向つて努力すべきであるか。

革命的斗争のすべての犠牲者及びその家族の救援の方向に於て日本の救援会は尚ほやり足りない点があることを自ら承認するであらう。「手不足だ」「金がない」といふ叫びを吾々はよく耳にする。だが手が足りないと云ふよりはむしろ組織科学を理解してゐないことから来る手不足であり、金が足りないと云ふよりはむしろ事業計画とそれの実行方法とを理解しないことから来る金不足である場合が多い。

党の工場細胞が、例へば五人であるとする。互選によつて一人がキャップテンを引受ける。一人は党の文書の配布その他プロアジの仕事を引受ける。一人は全協の工場分会の責任を担当する。一人は共青細胞の組織の任務を負ふ。そして最後の一人がへたとへば（モップルの工場班の仕事を遂行する任務を受持つとする。党細胞員の一人である二のモップル責任者がその工場のモップルの班の責任者をやらなければならぬといふのではない。だが、細胞はその工場の全運動の推進力たらねばならぬ。それ故細胞でモップルの責任を引受けた党員は、その工場に於けるモップル運動の推進力たる事に当ることにならなければならぬ。

その時、その所の特殊事情によつて、最初に工場細胞が組織される代りに、全協の工場分会やモップルの二場班が先づ組織されることがあるであらう。だが如何なる場合に於ても

工場細胞を組織することを忘れてはならぬ。工場細胞は党の基本的組織である。それ故に窮局に於ては凡てのプロレタリアートの運動の基本的組織である。

工場細胞を組織せよ！　工場細胞の指導の下にモップル工場班を拡大強化せよ！

「国際赤色救援会は、統一戦線の組織であることを実証し、その上政党的所属の区別なく、百万の広汎なプロレタリアートの信頼を獲得した」に拘らず、日本支部は此の重要なる任務を始ど全く実践してゐない。救援会を「統一戦線を遂行する最も重要なる活動場面の一つ」らしめることは国際赤色救援会日本支部の最大の急務の一つである。

× × ×

党は三、一五を記念するために、三月十五日を大衆的デモで斗ふことを煽動してゐる。モップルは党並に全協の組織の線に沿ひモップルの組織を通じて、この日全工場、全鉱山、全農場の労働者農民を動員して大々的にデモを組織しなければならぬ。この日特殊的に党員並に労働者大衆を全部デモに動員することは我がモップルの特殊の任務である。我がモップルはモップルとしての斗争と組織力を巧みに三、一五デモに結合するであらう、又しなければならぬ。

モップルの各組織班団はこのために十分に準備を集め、討論を重ね、計画をねり、以つて失業と飢餓と虐殺の資本家地主政府の鼻をあかせてやらなければならぬ。

モップルの同志よ！　ぬかるな！

★検挙拷問拘留虐殺絶対反対！
★資本家地主階級裁判絶対反対！
★裁判を公開しろ！　★白色テロルを撃破せよ！
★革命的煽動宣伝組織並に活動の自由！
★治安維持法その他労働者農民を弾圧する一切の法律・道府県令廃止！
★政治犯人を即時釈放しろ！
★特殊者とその家族を救へ！
★救援会を統一戦線の一組織とせよ！
★工場細胞を基礎としてモップルの工場班を拡大強化せよ！
★労働者農民は大挙して日本赤色救援会に入れ！
★国際赤色救援會万才！
★三・一五のデモに参加せよ！

『労農』一派は何を欲するか？

幾度か内紛を重ねた雑誌『労農』に立てこもる一派は最近頻りに策動してゐる。彼等の積極的な進出は何を物語るか？それは第一に、プロレタリア・アートの党の影響が益々深く大きく大衆の間に拡まつてゐることを意味する。労働者大衆はもはや社会民衆党ではゴマカされなくなつた。そして全国大衆党、新労農党でも安心して居られない。そこでモツと革命的な言葉を並べるに上手な一派が資本家地主に必要となつた。この要求を満す為に登場したのが――『労農』一派なのではないが――と云つても初めてである。だから彼等の任務は、何をおいてもまづ先に労働大衆の日本共産党に対する信頼を打ちこわすことである。第二に、彼等の進出は、彼等との決定的斗争を宣言せるコミンテルン・プロフインテルン及び日本共産党の政策の全く正しいことを証明してゐる。彼等との斗争をやらなければ、吾々は救ひ得ない誤謬の泥沼になまり込んで居たであらうから。第三に、それは我国に於ける階級斗争が激化しつゝあることを意味する。ブルジヨア地主政府は、労働者大衆の、今日ではまだ多くは自然発生的であるところの、大衆的進出の底を流れる偉大なる力を自覚してゐる。だから、労働者大衆に、そのことを知らせない様に、死物狂ひで努力してゐる。『労農』が「我がプロレタリアートの及ぼす影響は頗る力弱き程度のものに過ぎなかつた」し、今日でもさうだと云ふ工合に言ふのは、ブルジヨアジーに与へる安心ではなしに、労働者大衆に対する欺瞞の言葉である。

吾々は『労農』のハナバナしき進出の社会的根拠を以上の如く認識する。そして、彼等がブルジヨアジーに依つて命ぜられた職責を忠実に実行しつゝあるのをも明白に知る。彼等の理論は馬鹿々々しくてお話にならぬものではあるが、一応階級的に批判する。

第一、彼等に依れば、日本のプロレタリアートはまだ弱くて、ブルジヨアジーとの決定的斗争なんかやれつこないと云ふのだ。日本資本主義は中々強固なものだ、革命なんて夢見てゐる様なものだ。革命が来るまで黙つて寝て居よう、そして革命が起つたら大急ぎで頭でも洗つて出かけようといふのが彼等の考へだ。プロレタリアートは斗争に於て自己の眞の敵を知るのだ。ブルジヨアジーと妥協する為にプロレタリアートは団結するのではなくて、闘者と斗争する為に組織を作るのだ。然るに『労農』一派によると、何でもいいから組織が大きければそれでよいと云ふのだ。これが彼等のスローガンである。

吾々は云ふ。日本資本主義は世界資本主義体系の中でも最も弱い環の一つである。今日の経済危機は必然的に政治的危機をハランでゐる。社会主義革命にとつての客観的条件は備はつてゐる。併しながら、政治的危機は必ずしも直接革命的状勢をもたらすとは限らない。それはプロレタリアートの革命的組織力と戦略戦術の正しさの如何に依存する。故にプロレタリアートはその革命的組織力を準備しなければならない。日本のプロレタリアートは口シアのプロレタリアートが経た様な一九〇五年・一カ一七年二月革命の如き経験、ドイツプロレタリアートの持つた所の一九一八年・二三年の革命の如き圣験を持つてはゐない。だがいそのことは日本のプロレタリアートが必ず斯くの如き経験を圣なければならぬと云ふことを意味せず、又、その中に革命的エネルギーのないといふ事を証明するものでもなんでもない。最近の情勢は特に、日本のプロレタリアート大衆の間には偉大なる革命的エネルギーが包蔵されてゐる事を示してゐる。

吾々のかうした考へ方は、彼等に依ると、吾々が今日の情勢をあたかも『直接の革命的危機に当面してゐると誤認してゐる』ことになる。かう云ふのをデマゴーグと言はずして何を以つてデマと言はんやだ。

第二、斯くの如く、彼等『労農』一派は日本プロレタリアートの力を信じない。ブルジヨアジーの強さだけが彼等の目前にある。従つて、彼等のそこから出す結論は当然の如く『日本ではまだ共産党を作るのには早い』『単一無産政党で沢山だ』となる。それを眞しやかに述べる為に、今の日本共産党は極左主義者の集りだとか、『言ふに足らざる弱小な観念的自称コンミニスト連』の集りだから、そんなものにかゝり合つてゐてはならぬといふのだ。それどや今日存在する日本共産党の政策が間違つてゐるから悪いと云ふのであつて、日本に共産党を作ること自体は悪くない、否、今日直ちに作らねばならぬといふ主張かと云ふに中々さうではない。もう少し政治的自由が賞へたら作つてもいいと云ふのらしい。まあ許されるまで待て！これが彼等の本音だ。

日本共産党は、資本主義制度を廃し、プロレタリア独裁樹立を当面の目標としてゐる。それはねばならぬ。だが、日本共産党はまだ若い――政治的にも組織的にもだ。それは今日、『労農』に巣喰つてゐる一味の合法主義者の力があまりにも大いに

あつたのだ。（マサカ偽りだとは言ひまい）。然し乍ら、我党は日本プロレタリアートの集合的力と「コミンテルンの直接の指導の下に必ず強固になるし　且つならねばならぬといふ確信を持つて進んでゐる。

第三、彼等は、日本の社会民主々義者の露骨的行動の事実を全然見ないか、或は極端に過小評価する。（尤も彼等自身がその仲間だからと云つて仕舞へばそれまでだが）そのことを押しかくす為にいい理屈を見付けてある。『我が右翼が政治的に不利な立場に――と先づ同情してゐる――置かれてゐる点は、日本の帝国主義ブルジョアジーが早くも没落期の段階に巻き込まれたために、右翼勢力を成長せしめる政治的、経済的な基礎を有しない点である』（『労農』二月号、中沢篤）というのがそれだ。そして又、労働者大衆が積極的に階級斗争に進出してゐるので、日本の『右翼をして、欧米の今日の如き社会ファッショ化した社会民主々義の如き、明白な改良主義への特質を、明日の問題としてゐる』（同上）と云ふ。日本の右翼の露骨的行為なんかまだ生やさしいものだ、だから余りグズグズ言ふな、と彼等は叫んでゐる。だが支那革命を絞殺しつゝある蒋介石と握手し、ベルリンの革命的労働者を銃殺せるツエルギーベルに祝辞を述べ、『国際的緊切省アルベール・トーマと拮抗し、対ニインターナショナルと完全に抱擁せる日本の社会民主々義者が果して『社会ファシストたることを明日の問題としてゐる』革命的に活動そしてゐた幾多の労働者を警察、監獄へと送つた社会民主々義者の行為が果して社会ファシストとしての明白な表れでないといふのか？又日本共産党に対する公然たる討伐の声明は？

日本の普遍的労働者は『労農』の斯くの如き見えすいた欺瞞にはもう乗らないのだ。『労農』が如何に革命的言辞を弄ばうとも、又、日本共産党や全国協議会に対し　極左主義者の罵言を投げかけやうとも、労働者大衆は何人が真に自分の旗印を掲げてゐるかを益々明白に知つて来てゐる。『労農』が勇敢に御主人の一大事とばかり飛び出して来ても、日本のプロレタリアートは共産党の組織拡大強化すること、によつて断乎として邁進するのだ。

『労農』は組織々々とイヤに組織を振り廻してゐるが、共産党の組織のみか、今日ある日本共産党をブチこわす為めの組織をかためると叫んでゐる。これが彼等の本意であり、ブルジョアジーの要求である。吾々は日本の革命的プロレタリアートと共に、彼等に対する決定的斗争を続けて行かねばならぬ。

【附記】茲では共産党に対する『労農』一派の見解の一部だけを批判したにすぎない。革命運動に於ける党の役割、共産党と労働組合、政治と経済の相互関係等々に就いて述べねばならなかつたが、紙面の都合上後日にゆづる。

工場細胞を作れ！

此のスローガンはズット前から出されて居たし、且つ今も出してゐる、そして将来に於ても出し続けられるであらう。何故？それは労働階級にとつて工場は城塞だからである。工場が生産のノド首だからだ。共産党は労働階級の前衛の政治的結社である。それは労働階級の利益を代表して斗争する革命的組織である。だから工場に基礎を置かねばならぬ。そのやうなことは何人も知つてゐる。けれども、この何人もが知つてゐる細胞が何故作られないのか？否もつと正確に言へば何故もつと沢山作れないのか？問題は茲にある。

我々は此の問題に答へる前に、いま一度くり返して云ふ。『共産党は労働階級の前衛の政治的結社である』と。だから労働者自身に依つて拡大強化されねばならぬものだ。然るに今日でも尚ほ、共産党といふものは労働者の生活となかば離れた。どこか遠い所にあるのだといふ感じをいだく人が労働者の間にすら可成りに多い。こんな間違つたべラボーなことはない。共産党は労働階級がその厂史的使命――資本主義制度を倒し、社会主義社会を建設し　共産主義社会を実現し得る階級としての役割を果し得ないのみならず、正しい宣伝煽動者労働者は共産党へ入れ！工場細胞は労働者自身が作るんだ。このスローガンの下に我々は三・一五事件を記念しなければならない。

動員に就いて』なる論文の第一項末行より第六七行にある『共産党事件公判反対』なるスローガンは、原稿の不明瞭に基づく誤りで、『共産党事件暗黒裁判反対』と訂正すべきである。右訂正す。

(三)『大衆行動で『赤旗』を守れ』といふこの意味が分らないと云ふ人があるが、此の表現の仕方が余り正確でないので、さうした疑問も出るのだらうが、この意味は『赤旗』を中心として活動を活潑に展開し、党及び革命的労働組合の側に労働者大衆を獲得せよ、さうすることに依つて『赤旗』―党―に対する大衆の信頼を高めよ、そのことが『赤旗』を本当に守ることになるのだ。だからさうしなければならぬと云ふのだ。労働者大衆を我々の側により多く獲得し、敵に対する強い勢力となることに眞に『赤旗』を守ることになるのだ。

(四)この外にもまだ色々あるが、それは次号に廻す。

の規律は党の活動にとつて是非必要である。党の利益の前には個人の利益は捨てねばならぬ。

それでは労働者党員は（他の党員も同じく）自分の意志を何等かの形に於て述べることが出来ないのか？と云ふに、全くさうではない。党員は誰でも自分の意見を述べる完全な自由を持つてゐる。党員は何人の（勿論党員中の）意見をも聞く。だが一旦党の科学で決定された以上、たとへ自分がその決定に反対であらうとも、上層科学の決定に基付いて活動しなければならぬ。各党員は党の一切の活動に対して同じ様に責任を負ふのである。故に党内にはプロレタリアートとしての、そして客観的条件に依つて制限されてはゐるが、デモクラシーが必要であるし、且つ存在してゐるのである。同志レーニンは常に云つた。『鉄の如き規律はプロレタリア的デモクラシーあつての み真に強固であり得る』と。このプロレタリアデモクラシーといふことは、支配階級に於ても何でもいゝからガンガン公然と意見を斗はせてもよいと云ふのではない。党内の問題として充分に討論することが必要なのであつて、党内の問題を党外に持ち出して策動する様なことはプロレタリアデモクラシーの原則に反するのだ。

もう一つ必要なことは、以上の原則が集中的組織でなければならぬ。即ち、中央集権的組織でなければならぬ。すべての活動は一つの参謀本部に依つて統一的に活動されねばならぬのだ。

以上の如く共産党はプロレタリアデモクラシーの原則の上に立つて作られて居り、鉄の如き規律を持つてゐる。そしてこの組織の一番下の単位が工場細胞なのだ。工場細胞は党の土台である。だからそれをシッカリと築き上げねばならぬ。

それでは細胞は誰が作るのか？それは労働者自身だ。労働者を除いて誰が工場細胞を作り得るか!?既に存在してゐる細胞との連絡・党の上層科学との連絡を待つてゐるばかりでは駄目だ。党の方針が分つてゐたらそれに従つてドシドシ実行に移らねばならぬ。

或る労働者達は云ふ。『今の日本共産党内には スパイがあるからあぶない』と。だが此のスパイを誰が征服するのだ？党の組織が工場内に強固な基礎を持つてゐるならば、スパイに対する斗争は容易なのだ。如何に注意深く作られた組織でも絶対に安全を期すといふことは困難なのだ。不断に斗争を活潑にやつて行き、組織を拡大して行くことだけがこのスパイから受ける全体の損害を最小限度に喰ひ止めることを可能ならしめるのだ。我々はすでに千名に垂んとする共産党員を牢獄に奪はれてゐるが、労働者は死んでも党の秘密を守り、党全体を守ると云ふ決心の下にドシドシ党へ入りつゝある。

我々は今や三・一五事件の第四週年に当り、獄中にある同志諸君は積極的に具体的斗争の上に立つて充分な批判をし、それを出来るだけ急速に上の科学に送つて欲しい。

（二『赤旗』第三四号、第四頁の『赤旗』を中心にして活動を展開せよ）

二・三の質問に対して答へる

(一)パンフレット『工場細胞に就いて』が工場や地区で盛に討論されてゐるが、これに対する批判・不充分の指摘を遠慮なく送られたい。このパンフレットは工場細胞を政治的に扱つた点に於て四・一六後の細胞に関する文献とそのおもむきを異にしてゐるだが附記に断つてある様に、この中に書いてあることで必要なことの凡べてが正確に表現してあるのではなく、基本的なことだけを書いたものである。それは工場内生活・斗争の経験に依つてそれ〴〵と内容を充実させねばならぬものである。同志諸君は積極的に具体的斗争の上に立つて充分な批判をし、それを出来るだけ急速に上の科学に送つて欲しい。

(二)『赤旗』第三四号、第四頁の『赤旗』を中心にして活動を展開せよ

『赤旗』は宣伝煽動の役割と共に、集合的組織者の役割を演ずるものである。『赤旗』はそれ〴〵の問題に関する党の政策・戦術を発表する。故に党員はそれに従つて活動しなければならぬ。『赤旗』には最も生き〴〵とした工場内・船内・坑内・東洋・紡績内等々の生活が反映されねばならぬ。それなしでは『赤旗』は只に組織者としての役割を果し得ないのだ。

『赤旗』を中心に活動を展開し、且つその成果を『赤旗』に反映せしめよ！それは『赤旗』をして組織者としての役割を充分に果さしめるであらう。

史價　金五錢

NO.1　赤旗　1931.3.17

赤旗

第36号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

ソヴエート同盟通商代表
同志アニケーフ暗殺未遂
事件に就ての檄

支配階級の陰謀と斗へ！

全国の労働者農民諸君!!

ソヴエート同盟通商代表、同志アニケーフは反動主義者佐藤信勝の為に一九三一年三月十六日射撃されたが、これに対して警視廳を通じての日本政府の発表は　佐藤の私怨なりとした。併し乍ら、これは決して個人の単なる私怨ではない。

ソヴエート同盟通商代表に対するかくの如きテロリスト的行為は日本の資本家地主政府が、全世界プロレタリアートの、そして日本プロレタリアートの最大の敵たるソヴエート同盟での社会主義建設を破壊せんが為に、戦争を挑んだ行為である。資本主義世界で経済危機が荒れ狂ふてゐる時に、ソヴエート同盟では、レーニン的ボルシエヒキ党の指導下に社会主義建設が日曜しく発展してゐる。資本主義各国で労働階級の生活が益々低下され、愚化されてゐる時、社会主義ソヴエート同盟では労働階級の社会的政治的経済的生活が不断に向上してゐる。かくの如き二つの世界の鏡き対立は資本主義ブルジョアジーの支配階級をして絶えずソヴエート同盟に対する攻撃をなさしめてゐる。ソヴエート同盟の成功は資本主義諸国植民地半植民地の労働階級に光と希望と、資本の権力打倒の為の斗争に対する決死的信念とを与へてゐる。さればこそ、世界の資本家地主はソヴエート同盟に対し常に戦争を挑みかけてゐるのだ。

『ソヴエート同盟に於ける反宗教運動』のスローガンの下に組織された日本の反ソヴエート同盟の『ダンピシング（投げ売り）政策』反対の旗印の下に於ける反ソヴエート運動等々は明白に失敗に帰した。

又、国際帝国主義者はソヴエート同盟内部にある反革命的分子に危大な金を与へて社会主義産業を内部より破壊せんとしたが、これ又ソヴエート同盟の労働者農民大衆の団結した力の前に全く失敗に帰した。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万才!!
五、プロレタリア独裁万才!!
六、日本共産党万才!!
七、コミンテルン万才!!

併し乍ら、プロレタリアートが权力を握つてゐるソヴエート同盟では眞に平和政策をとつてゐる。如上の侮辱、傲慢な態度を示されても尚ソヴエート同盟政府は厳重な抗議を申込むに止めてゐた。

帝国主義者の直接の命令と後援に依つて東支鉄道を支那の反革命家共が占領し、ソヴエート同盟の鉄道従業員を数多虐殺したのに対しても、ソヴエート同盟の平和政策は攻撃して来る支那の反革命軍隊を防ぐといふのみに止められた。かくしてソヴエート同盟、プロレタリア独裁の口に於てのみ眞の平和政策がとられることを全世界のプロレタリアートと被虐民に示したのである。

今回、日本で行はれた同志アニケーフに対する暗殺行為も実にかくの如き世界帝国主義者の反ソヴエート同盟カムパニアの一環の環をなすものに外ならない。

十月革命後一九二三年の中頃に至るまで日本の帝国主義者は当時まだ若かつたソヴエート口シアの領土たるシベリアで恣に戦宝を掠奪し、多数の労働者農民を虐殺したことは我々の記憶に生々しい。シベリア出兵の不成功は、然しカムチヤツカに於ける日本資本家の漁業を思ひ切らせなかつた。否、此処を最後と日本の参謀本部とブルジヨアジーは掠奪に掠奪を重ねたのであつた。それは日本人労働者に対する奴隷的虐使に依つて行はれたのである。カムチヤツカの漁夫船が日本人出稼漁夫にとつて正に監獄であることはブルジヨア新聞ですらかくして置くことが出来得なかつたことは広汎な大衆にとつて既に明白である。

他方に於て工業の領域で全く社会主義的部分より成功を収めたソヴエート同盟は戦争を挑むものに対しては飽迄も戦ふ準備をしてゐる。

併し乍ら、プロレタリアートが权力を握つてゐるソヴエート同盟では眞に平和政策をとつてゐる。如上の侮辱、傲慢な態度を示されても尚ソヴエート同盟政府は厳重な抗議を申込むに止めてゐた。

帝国主義者の直接の命令と後援に依つて東支鉄道を支那の反革命家共が占領し、ソヴエート同盟の鉄道従業員を数多虐殺したのに対しても、ソヴエート同盟の平和政策は攻撃して来る支那の反革命軍隊を防ぐといふのみに止められた。かくしてソヴエート同盟、プロレタリア独裁の口に於てのみ眞の平和政策がとられることを全世界のプロレタリアートと被虐民に示したのである。

今回、日本で行はれた同志アニケーフに対する暗殺行為も実にかくの如き世界帝国主義者の反ソヴエート同盟カムパニアの一環の環をなすものに外ならない。

十月革命後一九二三年の中頃に至るまで日本の帝国主義者は当時まだ若かつたソヴエート口シアの領土たるシベリアで恣に戦宝を掠奪し、多数の労働者農民を虐殺したことは我々の記憶に生々しい。シベリア出兵の不成功は、然しカムチヤツカに於ける日本資本家の漁業を思ひ切らせなかつた。否、此処を最後と日本の参謀本部とブルジヨアジーは掠奪に掠奪を重ねたのであつた。それは日本人労働者に対する奴隷的虐使に依つて行はれたのである。カムチヤツカの蟹工船が日本人出稼漁夫にとつて正に監獄であることはブルジヨア新聞ですらかくして置くことが出来得なかつたことは広汎な大衆にとつて既に明白である。

他方に於て工業の領域で全く社会主義的部分より成功を収めたソヴエート同盟は戦争を挑むものに対しては飽迄も戦ふ準備をしてゐる。

NO.2　赤旗　1931.3.17

盟の建設事業は農業並びに鉱業方面に於て巨大なる進出を見せた。近年まで、日本資本がソヴエート同盟の領土であり乍ら、全く日本の植民地に対すると同じ様に暴虐を行つてゐたカムチヤツカに、ソヴエート同盟の国営漁場が目ざましい発展を遂げつゝあつた。そして偉大なる五ケ年計画は、カムチヤツカに於ける漁場利权譲渡を正当な权利の上に立つて行はしめることを可能ならしめた。更に、ソヴエート同盟国営企業（カムチヤツカ）に働く日本人出稼労働者の生活労働条件と日本人企業に働く日本人労働者の生活条件とは実に雲泥の相異をもつてゐる。一度ソヴエート同盟国営企業に働いたことのある日本人労働者は日本人企業に働くことを決して欲しない程前者は優れてゐるのだ。かくの如き状態は日本人企業資本家に対する労働者側からの斗争心を高めるに至つた。ソヴエート同盟に対する労働者側からの同情と好意とは資本家にとつては大禁物であり、ソヴエート同盟に対する彼等の憎悪を一層強めるに至つたのである。

日本の資本家地主权力は、今日、日本資本主義が陥つてゐる経済危機を切り抜けんが為に新しい帝国主義戦争を熱病的に準備してゐる。それはオ一にソヴエート同盟に反対するものである。新武器の製造、陸海空軍の演習は常にソヴエート同盟を假想敵としてゐる。これら戦争準備の技術的方面は備へられた。今やイデオロギーの方面で、国民を戦争に向けさせ收ばならなくなつた。各学校、青年団等に対する軍事教育、工場交通の軍事的管理の叫吹、反動団体の積極的進出、社会フアシストの忠君愛国主義の普及等々のすべては此の戦争をイデオロギー的に準備するものである。

日本の支配階級は、ソヴエート同盟に対する皇軍の市告をなすべくあらゆる机会をねらつてゐたし、且つ今でもねらつてゐる。種々の方法を以てソヴエート同盟をして戦端を開かせ様としてゐる。そうすることに依つて自らの帝国主義的野望を押しかくし、社会フアシスト共を手先に使つて、国天皇の祖国を守れ！国と言はせ様としてゐるのだ。今回同志アニケーフを暗殺したのは実にかうした机会を作らんが為に他ならぬ。

吾々革命的労働者はかくの如き帝国主義ブルジヨアジーの奸策に対して断じて黙してゐてはならぬ。我等の祖国、ソヴエート社会主義共和国同盟擁護の為に敢然と立たねばなり收。

工場で、職場で天皇制資本家地主政府の反ソヴエート同盟の陰謀をバクロせよ！
反動団体を撲滅せよ！
労働者自衛団を作れ！
ソヴエート同盟の社会主義建設を職場の中で

普及せよ！
労働者の強固な組織に依つて在日本ソヴエート同盟の同志を守れ！
同志アニケーフの暗殺未遂者を死刑にせよ！
プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟万才！
プロレタリア独裁万才！

三月十七日　日本共産党

大衆的活動方法への転換に依つて
極左宗派主義の最後的清算へ！

極左宗派主義に対する斗争は充分に行はれてゐるだらうか？斯うした質問に対して、若し我々が次の如く答へたとしたら、それは決して正当だとは云ひ得まい。即ち、「勿論り、我々は充分に斗争し盡した」と。極左宗派主義は只に武装ストライキ、工場襲撃のスローガンや、行動指令に表はされた丈けではない。それは我々の活動方針全体に滲つてゐたのだ。それは党の側から大衆団体に対する関係、寺に於ては組織と大衆との関係に現はれてゐた。

先づ第一に、党自体に就て言へば、党が労働階級の前衛部隊であるといふ観念が充分に、革命的労働者に依つて理解されて居ない。共産党は労働階級の党である。故にそれは労働者自身に依つて拡大強化されねばならぬといふ思想が、極言すれば、労働者に共産党は自分のものだ、といふ感覚を自覚させねばならぬといふ思想が甚だ不充分にしか普及されなかつたのである。党は労働者大衆の面前に自己の政策を公然と掲げて、その政策を眞実に支持する全ての大衆を大衆的に組織するかといふ方法をとらなかつた。工場の中で一人、二人の優秀な分子を探し出すことが困難な時にどうしてしばしば試みた。

NO.3　赤旗　1931.3.17

大衆的に組織出来るか？という事は今日労働階級の中に流れている偉大なる潮流を充分に見ない人々の言である。労働者大衆は明白に共産党にはいらうとしてゐる。我々はそれを巧妙にとらへて、組織し、その中で訓練しなければならぬ。一口にパーセントの共産主義者のみを探し出さうといふ様な考へ方は誤りである。コミンテルン及び日本共産党の綱領、政策に賛成であり、組織の一員となつて能動的に働き、定額の党費を納入するといふ堅い信念の所有者は何人なりとも党員たり得るし、又、党員たらしめねばなりなかつたし、現在に於てもそうである。

或はさうだらう。党は非合法である。だから余つ程しつかりした人でなければ党へは入れられない、アヤフヤの気分だつたら直ぐに敵の権内に会つて降伏するから、と。是は或る程度まで正しい。人を充分に調査することは絶対に必要だ。併し非合法なればこそ我々の組織を大にしなければならぬのだ。共産党は少数の陰謀団の組織ではない。正しい政策に依つて労働者大衆を率ひて斗争する大衆的戦斗隊なのである。我々がこの隊を大きくすることは勿論であるが——政治的にも確固たる信念を以て敵と強力に斗争し得るのだ。党が非合法的在在を余儀なくされてゐる□々では実にふくの我性を払はされる。それを全然なくすることは殆んど不可能である。要はその我性を最小限に留めるにある。

或はさうだらう。党は非合法である。だから余つ程しつかりした人でなければ党へは入れられない、アヤフヤの気分だつたら直ぐに敵の権内に会つて降伏するから、と。是は或る程度まで正しい。人を充分に調査することは絶対に必要だ。併し非合法なればこそ我々の組織を大にしなければならぬのだ。共産党は少数の陰謀団の組織ではない。正しい政策に依つて労働者大衆を率ひて斗争する大衆的戦斗隊なのである。我々がこの隊を大きくすることは勿論であるが——政治的にも確固たる信念を以て敵と強力に斗争し得るのだ。党が非合法的在在を余儀なくされてゐる□々では実にふくの我性を払はされる。それを全然なくすることは殆んど不可能である。要はその我性を最小限に留めるにある。

更に、我々は□共産党は労働階級の党である。だから労働者を基礎にしなければならぬ』といふ原則を以つて学生で組織されてゐた共産青年同盟細胞の様つかを□解体』するといふ誤りをも犯した。我々が原則を主張したことは絶対に正しかつた。だがそのことは既に存在する組織を□解体』することを意味しなかつたのだ。既存の組織が党の方針の下に積極的に活動してゐる限り、それは存続さすべきである。又、同題の重要性は、学生及びインテリゲンチヤー一般、即ち可もカ分りのい、人々を先にして』といふ最少低抗線の戦術に近付きつゝあつた人々、或はその他の方面にあるのだ。原則の機械的適用からは弊害こそ蔵らされるが、利益は少しも生じないのである。

カくの如き、党の組織に関する誤れる方針は工場内に於ける誤れる方針と並立してゐた。即ち、少数分子の英雄的行動が大衆を動員し得るといふ考へ方がそれだ。共産党員の英雄的活動は小ブルジヨア的であつてはならぬ。それは常に労働者大衆の大衆的行動に依つて

それでは党の組織を基礎にして急速に拡大して行く為に今すぐに何をなすべきか？一言にして云ひば、□大衆的活動に転換せよ！』である。党組織は工場内にある色々の不平不満、労働者が一番強く不安に感じてゐる問題、労働者大衆が最も多く興味を以て見てゐる諸問題等を捉へてそれを一定の方向へ、労働者大衆が一つのかたまりとなつて行動し得る様な方向へ導く為の活動をしなければならぬ。それは必ずしも□不一に名称を作ること』ではない。名称さへ作つたり、仕事はウマク行くと、いふ考へ方は全然誤りである。我々にとつて必要且つ重要な事は名称ではなしに現実にある空気を統一ある行動へはこぶために、どう仕掛けるべきかといふことだ。

動員する為に、我々は我々の政策を最も分り易く大衆に説明しなければならぬ。労働者大衆に分り易く書かうとした為に誤謬を犯したと言つて自己の誤謬を正当化し様と試みた同志が労働組合評議会本部員の中にあつたが、それは正しくない。共産党でも、赤色労働組合でも、其政策は労働者によく分る様に説明されねばならぬ。労働者大衆が理解出来ないからと言つて大衆を責める様な人々はブルジヨア的意識を多分に有する事を自己バクロしてゐるにすぎぬ。理解さるる様に書き、又説明すべきである。労働者大衆の有効な動員は我々側の政策がよく理解されて居り且つ組織的に準備されてゐる時にのみ行はれると云つても過言ではない。失業反対□際デーの時に或同志が試んとしたが如き、労働者大衆をタマして動員するといふやり方は共産党の戦術と何等一致点を持たぬものである。我々が一人二人の同志をコソコソと探し廻つて行くといふ様な方法をどつてゐる限り、我党の大衆化は不可能であらう？大衆を我党の政策の下に動員し、その過程に於て大衆組織に共産党へ組織し、訓練して行く事——そして、その事は現在可能であるばかりでなく、極左宗派主義との完全なる絶縁である。

大衆的活動方法に転換せよ！
大衆的日常斗争を通じて党を拡大強化せよ！
極左宗派主義の最後的清算へ！

NO.4　赤旗　1931.3.17

パリ・コンミユン　（その一）

一、

三月十八日はパリ・コンミユンの記念日だ。一八七一年三月十八日パリのプロレタリアートが世界の中心に、世界最初のプロレタリアートの政権を樹立して以来、今年は丁度六十週記念日だ。

吾々はコンミユン主義者の□天をも衝く□英雄主義とプロレタリアートの偉大なイニシアチーフとを記念し学ばなければならぬ。

三月十八日パリ・コンミユン六十週年記念日に際して吾々がパリ・コンミユンから今日非共学びとらなければならない重なる実を記してこれを大衆的討議に附し、パリ・コンミユンを階級的、実践的に記念する。吾々はこれこそコンミユンの英雄達を記念する最上の方法であると確信するから。

二、

□労働階級は単に出来合の□家機関を占領してそれを自分自身の目的のために運転することは出来ぬ』（マルクス）『労働階級は□出来合の□家機関』を粉砕し、破体しなければならぬ。単にそれを獲得するだけでは駄目だ』とレーニンがコンミユンから実践的に証明したコンミユンの一つの根本的な且つ重要な教訓である。この教訓が絶対に正しい事はその後の世界史的事件が完全に証明してゐる。

ロシアに於てはケレンスキーが、イギリスに於ては社会民主党が、イギリスに於ては労働党が。是等一連の社会民主々義者は被等が試金石で多数を占め被等が□社会民主々義大臣』になることによつて労働階級は解放されると主張した。労働民衆は被等にダマされた。そして一時は被等を支持した。又今日もダマされて支持しつゝある。ケレンスキーはツアールの締結した盗賊的秘密条約をブルジヨアジーの利益のためにこれを破棄しなかつたばかりでなく、労働民衆を虐殺しブルジヨアジーに莫大な戦時利得を与へる帝□主義戦争を継続した。勤労農民に土地を与へなかつたばかりでなく、労働者と農民を軍隊で弾圧した。自由と平和、土地とパンの要求を徹底的にジユウリンした。ロシアの労働者農民大衆は毒柱をのまされて、遂に駆逐されて天皇を戴くプロレタリア独裁——その型体である。さうである。これは又一層タチの悪いマヤかしであるケレンスキーの正体をタタキ出してしまつた。同一の裏切行為を今現にマクドナルドがイギリスで実践しつゝある。

日本の社会民主々義者も亦同様に宣伝してゐる。赤松は社民党の過日の大会で揚言した。「労吾々が代議士となり、大臣となり、社会民主々義により全日本を解放し、新日本を建設する」。「社会民主々義の強化のためなら進んで社会民衆党を解体してもよい」社会民主々義をモツトーとしての政党の合同について述べてある。山川は英□の労働党に淫隈な歓迎を盛つて送つてゐる。「労働党の四分の一世紀の固の斗争の効果なくしては英□共産党うの斗争の出発点さへもなかつたであらうといふことは疑の余地がない。更に現在と将来とに於ても、労働党が確実に政権を握るに至ることは、英□共産党の斗争が有効に展開せられるためにかくべからざる条件である。「労働党には尚存在の意義が残つてゐる（プロレタリアの立場からも）」と!!　まさか山川がこんなことを書くまいと疑問にする同志があるであらう。だが、文字通り山川の言葉だ！（山川若輩一無産政党論を見よ）

水野、菊田等の解党派の天皇主義者は天皇をカツグことによつて天皇の官僚と天皇の軍隊とを利用することを宣伝してゐる。彼等に従へばこれが最も科性の少ないプロレタリア革命の方法であり、プロレタリア独裁——天皇を戴くプロレタリア独裁——は又一層タチの悪いマヤかしである。これは天皇を利用することによつて天皇の官僚と天皇の軍隊とを利用することを宣伝してゐる。彼等に従へばこれが最も科性の少ないプロレタリア革命の方法であり、プロレタリア独裁——天皇を戴くプロレタリア独裁——その型体である。さうである。これは又一層タチの悪いマヤかしである。

天皇は日本最大の地主である。而も断然群を抜く大地主である。これを形容すると箱根の連峯（大地主）の上にキ立する富士山（天皇）の如きであらう。天皇の所有地面積は一、三四〇、一九三町歩（一九二七年末現在）である。

天皇は又日本一の大ブルジヨアである。その年収入は三井とほゞ同額で年額約三千万円であるといふ。例へば一六一、一〇〇陸商船株と一二、八二五の大阪商船株と合計して一二、八二五の大（天皇）の如きであらう。天皇の所有地面積は一、三四〇、一九三町歩（一九二七年末現在）である。

天皇は日本最大の地主である。而も断然群を抜く大地主である。これを形容すると箱根の連峯（大地主）の上にキ立する富士山（天皇）の如きであらう。天皇の所有地面積は一、三四〇、一九三町歩（一九二七年末現在）である。

天皇は又日本一の大ブルジヨアである。その年収入は三井とほゞ同額で年額約三千万円であるといふ。例へば一六一、一〇〇陸商船株と一二、八二五の大阪商船株と合計して一二、八二五の大（天皇）の如きである。天皇の所有地面積は一、三四〇、一九三町歩（一九二七年末現在）である。

天皇は日本最大の地主である。而も断然群を抜く大地主である。これを形容すると箱根の連峯（大地主）の上にキ立する富士山（天皇）の如きであらう

の国家の本質をインペイしてゐる。国家は特に天皇制の日本国家は、超階級的存在でない。沢山の国家は、超階級的存在でない。沢山の国家は、超階級的存在でない。沢山の

NO7（一）　赤旗　1931.3.17

三・一五三週年記念日に際して

全国の労働者農民に檄す！

一九三一年三月十五日

日本・朝鮮
台湾・支那　の共産党事件特派者一同

この檄文は甲二無産者新聞紙上に発表されたものである。権柄、暴行、牧獄等の試練に堪へ難き種々の生活状態百回の白色テロルにもヒルムことなく、否、反対に益々革命的熱情に燃えてゐる先輩同志達のこの檄文は実に営々血をはくかと思はれ、吾々の心鉦を亂打して同志等に贈る。

全国の労働者農民諸君！

プロレタリアートのヘゲモニーの下に吾々はガッチリと腕を組む。そして大衆行動の威力で先輩同志を奪還することを誓はふではないか。

日本共産党中央委員会は国際プロレタリアートの名に於て獄内外の共産党事件の全ギセイ者諸君に堅き堅きコンミニストの握手と革敢とを贈る。

全国の労働者農民諸君！

ここに、三・一五以来三年の歳月がよった。この三年の間労働者農民の生活状態には筆舌の及ぶと、搾取の度と、暴力的抑圧の度とが愈々加つて来た。労働者農民の上には資本家地主、工場閉鎖、馘首、失業と半失業とか荒れ狂つて、その生活を窮乏のどん底に押しつめ、資本家の攻撃に対する労働者のストライキ、小作争議の一切に襲ひ掛つてファシスト的弾圧を、決定的テロルを好いのだ。吾か階級斗争は実産党の公然たる出現と共に一つの新しい躍進的段階に入つた。

全国の労働者農民諸君！

今やかくの如き情勢の下に三一五事件及び四・一六事件の公判が開かれようとし、資本家地主政府は、この公判を我等を拘束し、吾等被告の斗争力を怖れた陰険なる今劃戈判を以て暗黒のうちに行ふとしてゐる。この戈判が単に治安維持法犯人に対する罪の判定ではふく、労働者農民の階級斗争の前衛に対する殺戮ふ圧迫であり、数百の指導的革命家の抵抗を労農大衆の前に不合理化しする手続きであり、従つて階級的利益のために死を賭して斗ふすべての労働者農民に対する迫害の挑戦であることは明白だ。今日までに行はれた地方の今劃戈判と、四・一六の統一控訴公判と、朝鮮共産党の公判とに於ける彼等の陰険悪辣なる殺戮戈判を見よ。又之に対してもも左右をあげて一切の社会民主々義者が資本家地主に対する好意的沈黙とを守つてゐることを見よ。更程明白に、階級斗争の一般なる尖鋭化と之に対する支配階級のファシスト的弾圧と、ブルジョアジーの準備する帝国主義戦争、ソヴエート同盟に対する攻撃戦争の切迫との目下の情勢の下に於ける社会民主々義者の階級斗争の裏切的役割を示すものはない。これこそ実に階級斗争の中枢主体組織の破壊に協力する彼等の社会ファシスト的本質を曝露するものだ。更に共産党破壊に努める資本家地主とその代弁人の別動隊として、共産党の裏切者水野、村尾、清野、猪田の日解党派は、労働者の左翼陣営に入りこんで、直接内部的に党組織の破壊に努力してゐる。

労働者農民諸君！

だが、かくの如き狂暴な資本家地主の強圧も、悪辣なる解党派の通謀も、代弁人達の努力も、決して我が共産党を亂せしめることは出来ふい。共産党は、綱度の弾圧にも拘はらず、否その度に、益々労働者農民の大衆斗争のうちにそして階級斗争の先頭に立つて資本家地主ら政府と斗ふだらう。現在の労働者農民の生活の窮迫のあるところ、その反抗が彼等と衝突するところには、共産党の姿が、組織があるのだ。我等は全国の労働者農民諸君、及び諸君と連る世界プロレタリアートと共に、一切の弾圧に対して階級斗争の戦士として戦闘に於ける戦と

NO.8　赤旗　1931.3.17

同志××の『試会解散のスローガンについて』に就て（一）

○

同志××が最近党中央委員会の名に於て発表した『オ五十九試会問会に際して労働者農民八作人に檄す』といふ檄並に無新無者に現はれた吾々のプルジョア試会に対する政治的見解を批判した長論文を送つて来た。

吾々は同志××が長文の意見書を書いて送つて来たことをといふ準なる事実を先づ多とする。重要な政治的問題を見のがさなかつたことは、従来比較的に政治的カン心が不十分であつた日本の党員の弱点を訂正する傾向現はれとして吾々は非常に嬉しく思つた。他の同志諸君も同志××の先例にならつてドシドシ意見なり感想なり疑問なりを送つて来るように希望する。特に直接工場細胞からのそれらしい二ユース、報告、意見等を要求する。それ等が未だなかつたら中央部は浮き上りざるを得ないであらう。工場細胞と中央部との緊密なる連絡なくしては党のボルシエビキ化は不可能であるからである。

同志××の意見書を読んで吾々が更に嬉しく感じた点は『試会解散』のスローガンに就いて当然取扱はるべき重なる問題が完も全く一応取扱はれてゐることである。このことは同志××のアタマのヨサを表明するものであらう。同志××はレーニンコミンテルン等の卓想せる理論や決議を上手に選んでゐる。吾々は必ずしも文献通になるようにと同志達に向つてすゝめるものではない。だが、革命的理論なくして革命的行動はあり得ない。世界史的に断然卓越せる頭脳と豊富なる経験とから学びとることは誠に望ましいことである。

だが、同志××はレーニンの主張やコミンテルンの決議等を正しく自分のものにしてゐるとは残念乍ら云ひ得ない。政治家は具体的弁証法家である。同志××も最大の弱点の一つは同志××も特殊具体的でない点である。具体的弁証法家としてかくるところがある。一九〇八年――一九一七年と一九三一年とでは多くの点で勿論異つてゐる。

（本項は一方帝国主義世界にあつては失業と飢餓の大嵐が吹きまくつてゐるに反し、他方ソビエト同盟）にあつてはプロレタリアートの独裁の下に社会主義の建設がスバラしく進展してゐるといふ点である）

この差異を忘却すると大きな誤謬に陥入るであらう。レーニンは当時の特殊具体的情勢にピッタリと適応した政策を樹てそれを成功的に遂行した。今日は当時とは異つた情勢にある。然るにこの異つた情勢を見ないでレーニンの主張をかつぎ廻すことは危険である。かくの如き危険性に対してレーニンは再三警告してゐる。同志××が屢々引用してゐる『共産主義左翼の小児病』の中で同志××は直接レーニンから繁雑なこの警告を受けたはずである。にも拘らず同志××はその誤謬に陥入つてゐる。

同志××は『客観的及び主体的情勢』といふ用語を用ひてゐる。普通は『客観的及び主観的』と云ひ馴れてゐるのであるが同志は意識的に、この慣例を排して『客観的及び主観的』と云ふところは全部『客観的及び主体的』と書いてゐる。だが、これは却つて正しくない。若し慣例に従はないで少しでもマルクス主義的用語を使ひたいと願ふならば、反対に『客体的』といふべきであらう。同志××は意識的に『客観的及び主体的』といふ表現を選んだことによつて同志××が弁証法的唯物論の本質を理解してゐないことを表現した。

同志××は『試会はかつて何時如何なる場合に於ても何等かの『方針を樹立したり、樹立されたものを遂行したりした事はない。試会は決して権力の中心であつた事はない、又、『金階級から選挙されるかくの如き制度はそんなものではあり得ない。』又曰く『資本家階級はその政策を確立するために他の階級を必要とし云々』と書いてゐる。彼は自分自身でそれをなす。かくの如き表現は避けなければならぬ。それは下史的に僭偽であり、理論的に誤謬であるばかりでなく、実践的政治的に正しくない。

だが、同志××の方法論的誤謬の重なるものは、同志が事物の内的関聯を無視し、事象をチリヂリバラバラに切り離す点である。

○

同志××は試会と執行権力とを両に存在する内的関聯を無視する。そして両者を夫々無関係なものとして対立させてゐる。『試会は権力の重力ではない』『権力のホンの端ツ切レにすぎない』『では権力の重心は何処にあるか？』――執行機関について同志××は不分明にしか理解してゐない――だから『吾々は斗争を執行権力に集中しなければならない。』『試会を倒せ』のスローガンは吾々の斗争を権力の中心にではなく権力の端ツ切レにそらせて総てをゴマ化して了ふスローガンである。』『これは社会民主々義者と五十歩百歩、否

NO.9　赤旗　1931.3.17

社会民主々義者を結局は援助するものでなくて何んであらう。』と憤怒してゐる。

同志××の意見の内には正しい主張が含まれてゐる。『吾々は斗争を執行権力に集中しなければならない』といふ主張がそれである。吾々は斗争を『国家機関に集中しなければならない。吾々は斗争を民衆の上に立つ警察、ブルジョアジーの最も忠実なる奴僕たる官僚、地主及び資本家共の命令下にある軍隊――常備軍の指揮者共――に集中しなければならない。』この点を強調することは理論的に必要であるばかりでなく、日本に於て今日、実践的に絶対に必要である。

だが、同志はブルジョア試会主義的天皇制の持つカラクリを弁証法的に把握してゐない。具体的に認識してゐない。一方に於て、試会の政治的重要性は段々縮少しつゝある。それ故に他方に於て試会の所謂民主々義化は少しつゞ拡大しつゝある。政党内閣主義が実現されたと宣伝してゐる。マヤカシもの、婦人参政権や普通選挙法の改革をフイチヨウしてゐる。フイチヨウしなければふらふらいところに矛盾の表はれがウカがはれる。だが、こゝで執行権力と試会との内的関係に詳細に立ち入ることは出来ぬ。労働者農民大衆はなほ多分に試会主義の幻想をいだいてゐる。そして今、オ五オ九試会が世界的危機の最只中に開かれてゐる。丁度そのときに、『試会を仆せ』のスローガンをかゝげるのが、正しいかあやまりかといふのである。問題は全く特殊的であり、具体的であるのだ。

（次号に続く）

工場新聞についての質問に答へる

本号で一同志は『大衆的活動方法への転換へ！』といふ小論文も発表してゐる。このスローガンは新しいスローガンではなしに、コミンテルンがすでに一九二九年頃に出したものであり、その后キームの大会に於ても決議され、各口共産党及び共産青年同盟が採用し、実行しつゝある。

○

我々の活動をすべて大衆的規模に於て行ふ――これだ。吾々には小さな宣伝グループの組織、研究会の組織も必要である。けれどもそれにもまして必要なことは労働者大衆を斗争へ動員すること、労働者大衆にふれること、政治的関心を持たせることである。これは小職場的な活動方法からもつと広汎な科学的方法の適用への転換を要求する。

工場新聞の発行はこの方面に於ける有用な仕事の重要部分である。吾々は今問題を工場新聞に限つて、この問題に関し多くの同志達とともに審議したいのである。蓋し工場新聞に就て色々の意見があるからである。

第一、工場新聞とは何か？、それは党の工場細胞が発行するものではあるが、当該工場の全労働者に読まれるように書かれ、彼等を一定の方向へ、斗争への準備へと導き、且つ組織して行かねばならぬものである。だがらその内容は、当該工場労働者に一番関係の深い問題で埋められるやうにすべきだ。そして一般的な全清的政治的諸問題は、当該工場にある事実と結び付けて書かれねばならぬ。例へば全清的な一九二九年頃に出したものであり、その后キームの大会に於ても決議され、各口共産党及び共産青年同盟が採用し、実行しつゝある。『大衆的活動方法への転換へ！』といふ小論文も発表してゐる。このスローガンは新しいスローガンではなしに、コミンテルンがすでに一九二九年頃に出したものであり、その后キームの大会に於ても決議され、各口共産党及び共産青年同盟が採用し、実行しつゝある。

○

我々の活動をすべて大衆的規模に於て行ふ――これだ。吾々には小さな宣伝グループの組織、研究会の組織も必要である。けれどもそれにもまして必要なことは労働者大衆を斗争へ動員すること、労働者大衆にふれること、政治的関心を持たせることである。これは小職場的な活動方法からもつと広汎な科学的方法の適用への転換を要求する。

工場新聞の発行はこの方面に於ける有用な仕事の重要部分である。吾々は今問題を工場新聞に限つて、この問題に関し多くの同志達とともに審議したいのである。蓋し工場新聞に就て色々の意見があるからである。

第一、工場新聞とは何か？、それは党の工場細胞が発行するものではあるが、当該工場の全労働者に読まれるように書かれ、彼等を一定の方向へ、斗争への準備へと導き、且つ組織して行かねばならぬものである。だがらその内容は、当該工場労働者に一番関係の深い問題で埋められるやうにすべきだ。そして一般的な全清的政治的諸問題は、当該工場にある事実と結び付けて書かれねばならぬ。例へば全清的な

NO.10　赤旗　1931.3.17

出来るだけ広汎な大衆に親しみ易く作られ取ばならぬ。色々異つたものを沢山出すよりも、内容の充実した、纏一された一つ出すことが正しいのであり、効果的である。

次三、工場新聞の名称と署名はどうするかの、

工場新聞の名称は、その工場の労働者にとつて親しみ易い名称がいい。例へば大鉄工場では「ガレージ」とか「ハンマー」とかいふ労働者の気持にピツタリと来る名称を選ぶべきだ。一度出したあとで労働者の間で論ぜされた上に変更しても差支へない。だが最初からズツト同一の名称で続けて行くことは労働者に親しみを与へるものだからムヤミに名称変更はやらぬがよい。

それでは署名はどうするか？この問題は今日何処でも大きな議論を呼び起してゐる。××分会発行、××工場党細胞発行等々とすべきだといふ意見と、そういふことでなく、上の例に従つて、××工場「ガレージ」発行所といふだけにすべきだといふ意見とがある。吾々の意見では後者の方が現在では合目的なりとする。それは組合や党の名前を出すと強圧がヒドクなるからといふ様な日和見主義、敗北主義からでは断じてない。それは、工場労働者大衆をして、「ガレージ」は俺達に必要なものだ、俺達全体で守らねばならぬものであるといふ親しみを持たせ取ばかりぬからなのだ。これは大衆直属主義ではない。大衆の現在持つてゐる気持を基礎にして、それを向上させる為に我々はそうするのである。

それでは党や組合の活動が労働大衆の前にかき消されなでは困いかの、といふ反対論がある。これは一応もだと思はせられる。併し、それは「一応」にであつて、何故ならば党及び組合の活動は工場新聞の発行だけでは困い。又、工場新聞の名称署名に党、組合がおくとしてその内容は党の立場から現実の問題を扱ひ、且つ党及び赤色組合への加入をさせる様に書かれてあるのだから——発行人署名が党、組合でなくとも明らかだ。即ち、内輪出して差支へないのである。

日本共産党の大衆化によつて『赤旗』を守れ！

組合の中央機関紙を工場内に持ち込むことの可能性を作り、吾党及び赤色組合の組織を大衆的なしめるであらう。

附記

此の問題に関しては各地方から、それぞれの至験をドシドシ送つて欲しい。如何にして大衆的に活動すべきかの、を中心問題としてこの問題を審議されたい。労働階級の多数を獲得する為の最も有効な方法は何かの、といふ見地から考へられ取ばならぬ。

『赤旗』を断じて敵に渡すな！

NO.1　赤旗　1931.3.25

赤旗

第　号

日本共産党国際共産党部
日本共産党中央機関紙

国際プロレタリアートの共同斗争の日メーデー

一

一八八九年七月パリーで開かれた第二インタナショナルの第一回大会で、五月一日をオーインタナショナルの国際的祭日と宣言した。メーデーに関するこの最初の決議が既に労働階級にとつては熱狂的な斗争のアッピールとして響き、ブルジョアジーにとつては、今はまだ鎖につぎとめられてはゐるが、しかも自らの求るべき勝利の不可避なることを証明してゐる、若い階級の、大陽を挑戦として響いた。

メーデーはその成立以来、国際プロレタリアートの「国家权力に対する」斗争であつた。決して単なる祭り騒ぎでもなく、葬式行列でもなかつたのだ。それは国際プロレタリアートの階級的連帯性に基く「大々的国際的示威運動」であつた。「メーデーは閑兵であるばかりでなく、更に宣戦布告である。そしてこの日にかいげる吾々の斗争の標語は「戦争に対する戦争！」でなければならぬし、ものであつた。

オーインタナショナルの陣営内に於ける日和見主義の発展は革命的斗争記念日を小ブルジョア的な「民衆に化さうと努力したし、今も努力しつゝある。だが、改良主義者の意志と努力とにも拘らず、革命的斗争を発揮した。それは赤色メーデーとしてスパラしく進展した。社会民主々義は「国際的連帯性のシンボルであり、帝国主義に抗する革命的斗争の象徴である。

一八八九年七月パリーで開かれた第二インタナショナルの第一回大会で、五月一日をオーインタナショナルの国際的祭日と宣言した。メーデーに関するこの最初の決議が既に労働階級にとつては熱狂的な斗争のアッピールとして響き、ブルジョアジーにとつては、今はまだ鎖につぎとめられてはゐるが、しかも自らの求るべき勝利の不可避なることを証明してゐる、若い階級の、大陽を挑戦として響いた。

メーデーはその成立以来、「国際プロレタリアートの「国家权力に対する」斗争であつた。決して単なる祭り騒ぎでもなく、葬式行列でもなかつたのだ。それは「国際プロレタリアートの階級的連帯性に基く「大々的国際的示威運動」であつた。「メーデーは閑兵であるばかりでなく、更に宣戦布告である。そしてこの日にかいげる吾々の斗争の標語は「戦争に対する戦争！」でなければならぬし、ものであつた。

オーインタナショナルの陣営内に於ける日和見主義の発展は革命的斗争記念日を小ブルジョア的な「民衆に化さうと努力したし、今も努力しつゝある。

だが、改良主義者の意志と努力とにも拘らず、革命的斗争を発揮した。それは赤色メーデーとしてスパラしく進展した。社会民主々義は「国際的連帯性のシンボルであり、帝国主義に抗する革命的斗争の象徴である。赤色メーデーを除くことは出来なかつた。勿論社会民主々義の裏切幹部には、社会民主々義に抗する労働者大衆の斗争の一形態となつてゐるのである。

「赤色メーデーは依然として、革命の軍勢の閑兵としての役割を演じてゐる。メーデーは独りブルジョアジー及びその奴隷ふ飛鰻としてゐるばかりでなく、次オにブルジョアジーの代弁者となり下りつゝある改良主義的社会民主々義に対して向けられてゐる。社会民主々義は帝国主義ブルジョアジーと其の政府の最も恐れるところである。だから、政府は全物の組合員を始め革命的労働者のメーデー参加を絶対に許可しふく。社会民主々義者共は色々のギマン的口実を附して右翼的労働者のメーデー参加を拒否することによつて資本家地主に忠勤をぬきんでてゐる。そして労働階級の国際的連帯性を完全にジニウンし、万国のプロレタリアートの団結を破壊してゐる。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!

二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!

三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!

四、党大衆化万才!!

五、プロレタリア独裁万才!!

六、日本共産党万才!!

七、コミンテルン万才!!

二、

日本に於ける最近のメーデーは、赤色メーデーとして向けられてゐる。赤色メーデーはブルジョアジーとの斗はれたかの？

帝国主義政府の命令通りに行はれてゐる死物狂ひの攻撃と之れに対するプロレタリアートの逆襲の激化の裏又

三、

今年のメーデーは、では、如何に斗はるべきであるか?!

一九三一年のメーデーは未曾有に深大な世界危機の真只中で斗はれる。国際帝国主義——それ自身の諸矛盾の激化を含みつゝも——のソヴエート同盟を先頭とする国際プロレタリアートに対する死物狂ひの攻撃と之れに対するプロレタリアートの逆襲の激化の真只

中で汁はれる。世界危機の一環としての日本の危機は日本に於ける特殊事情のために一入激烈である。日本は最も動き環の一つである。金融資本のヘゲモニーの下にある資本家地主政府は日本の特殊な至清危機を切りぬけるために、血マナコになつてゐる。彼等は一切のギセイを労働者農民勤労被搾取民衆に転嫁せんとアセつてゐる。二百五十万の失業者に加へるに更に、海軍工廠の一万人首切りを始め三菱川崎造船所、横浜、浦賀、浅野ドック等々の大衆的馘首が計画されてゐる。現在既に労働者三人の中一人が失業者である割合になつてゐる。労働条件は勿論悪しく悪化しつゝある。労働者はダマつてはゐない。逆襲へ！送襲へ！と進展しつゝある。農村の貧困は更に一層甚しい。農業労働者農民の反抗は屢々一揆暴動にその噴出口を見出してゐる。

かく異常に不自由の光、銃化せる情勢の下に斗はれる今年のメーデーの任ムは何か?!　広大な大衆的労働者農民大衆と未組織労働者並に失業労働者勤労農民とを革命的政策によつて動員し、国際プロレタリアートの共同斗争の実を挙げることである。資本家地主階級、その政府に対する斗争を断行することである。国家権力に対する斗争たるメーデーの本来的性質を明確にすることである。改良主義的社会民主主義に対する敢然なる斗争を展開することである。吾々は一九三一年のメーデーの任ムについて詳述する紙面を持たないが故に、日本のプロレタリアートが今年のメーデーで是非共かゝげなければならない要求並にスローガンを最后にかゝげるだけに止める。

吾々はメーデーの準備のための斗争、メーデーの斗争を通じて、吾党並に全協を拡大強化しなければならぬ。かくすることによつて始めて吾々は革命の軍勢の阻兵ヒーてのメーデーの役割をしはたすことが出来るであらう。

党員全協組合員並に革命的労働者農諸君！

過去に於ける吾々の斗争は大体通り決定的の斗争であつた。とはゝへ敵の野蛮にして強力な白色テロルの弾圧のために右から左までの社会民主主義者の裏切りのために、又部分的には吾々の至誠の不充分と戦術の硬化のために、今日吾々の軍勢が非常に強大であるといふことは出来ない。（勿論吾々は単なる人数の多寡のみを問題として努力を評価するのではない。吾々のかゝげる政策スローガンが正しいものであり――この実が直視され握はられぬ――吾々の戦術が、全く妥当であるならば何時かは必ず労働者貧農大衆の支持を享けるであらう。）メーデーの斗争は五月一日に限るものではない。メーデーまでには尚ほ一ケ月有半の日時があるが諸君は今日から、即刻メーデーのための準備をはじめよ。赤色メーデーと吾党の政綱とを強力に煽動宣伝せよ。吾党の政策こそが労働者貧農の利益を最も忠実に代表するものだといふことを圧倒的に了知せしめよ。吾党こそが労働者貧農の利益を最后まで斗ひ抜くものだといふことを体験的に学びとらしめよ。日常斗争を積力的に展開せよ。そして労働者失業労働者貧農大衆を広汎にメーデーの国際プロレタリアートの連帯的政治斗争に結合し動員せよ。下からの共同戦線戦術によつて社会民主々義者の裏切りを粉砕して革命的要求のケイヨウと革命的労働者のメーデー参加とを斗ひ取れ。総同盟全国同盟等の革命的反対派は革命的政策の採用と革命的労働者の参加のために精力的に斗はなければならぬ。これは革命的反対派に属してゐる党員並に労働者諸君の任ムである。

日本のメーデーが今年ルボルシェヴィキアジーの代理人社会民主々義者の指導の下に行はれ、プロレタリアートの眞の要求、階級的要求がジユウリンされ、革命的労働者の参加が排除される場合には革命的労働者貧農大衆は如何なる困難にも打勝つて赤色メーデーを独自に組織せよ。そして何ルの要求が眞に労働者貧農の利益を代表するか何れのメーデー斗争がプロレタリアートの国際的共同斗争であるかを実践的に示せ。

党員全協組合員並に革命的労働者諸君が、工場、鉱山、農場等で即ち労働者失業者貧農大衆の中で最も眞の利益の擁護仲裁の為めに常に最も勇敢に斗争してゐるなら、そして赤色メーデーの本質について十分煽動宣伝してゐるなら、下からの共同戦線戦術の成功が可能であり、日本に於て赤色メーデーのみの大々的遂行が可能である。吾々は労働者貧農大衆の眞の要求を掲げて積極に斗ふ我が赤色メーデーの軍勢はスバラしく優勢である筈である。

党員全協組合員並に革命的労働者農諸君！

吾々は一切の斗争をメーデーのための斗争に結合することを要求する。赤色メーデーに於ける何の労働者農民を動員し得るかによつて、又赤色メーデーをどの程度まで強大に斗ひ得るかによつて吾々は吾々の斗争力を知ることが出来る。メーデーは吾々の勢力を示す一つのバロメーターである。吾々はメーデーのための斗争を通じて日本共産党、全協の組織を拡大強化することが出来るし、又帝国主義非共拡大強化しふけばならぬ。

党員全協の組合員革命的労働者貧農諸君！

斗ひは迫ついた！　蹶起せよ！　奮励努力せよ！

メーデーを帝国主義と社会民主々義の甘き結婚のお祝ひ行列に終らせるな！　合法主義階級平和主義宣伝のお祭り騒ぎに終らせるな！　反対に天皇主義軍国主義帝国主義社会民主々義に対する国際プロレタリアートの共同斗争たらしめよ！　そしてメーデーを本来の性質に帰らしめよ！

メーデーを休日にして日給全額をよこせ！

七時間労働制！
一週五日労働制！
有害な産業部門は六時間労働制！
夜業の廃止！
時間外労働の禁止！
小児労働の禁止！
婦人労働者の保護！
十八才未満の青年の六時間労働制！
民族、性、年令による差別反対、同一労働に対する同一賃銀！
労働者を不具にする労働強度絶対反対！
大衆的馘首、半失業、賃下げ反対！
賃銀値上げ！
失業絶対反対！
国庫全額負担の失業保険の即時実施！
失業保険が実施されるまで失業手当を即時現金でよこせ！
軍事ヒ警察ヒ等の労働者農民の弾圧ヒで失業者の生活を保証しろ！
工場細胞を組織せよ！
革命的工場委員会を作れ！
工場職場を基礎とする下からの革命的統一戦線万才！
労働組合運動の陣営から改良主義幹部を放逐せよ！
大地主、天皇、寺社の土地の没収！
土地を勤労農民へ！
大土地附属の全生産材料（建物材械その他の財産）の没収！
肥料その他農家購入工業生産品の独占価格に対する斗争！
高利貸に対する斗争、勤労被搾取農民の債ムの棒引！
貧農の租税免除！
労働者農民の子弟の教育ヒの国家全額負担！
農業労働者の組織！
農民委員会の組織！
革命的煽動宣伝組織及び活動の自由！
治安維持法労働組合法案、争議調停法案、小作法案その他労働者農民を弾圧する一切の法律道府県令の廃止！
政治犯人の即時釈放！
軍国主義を仆せ！
ファシズムを仆せ！
労働者農民の赤色自衛団を作れ！
資本家地主の奴僕一切の社会民主々義政党を仆せ！
天皇制資本家地主权力の手先解党派を撲滅せよ！
世界プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟を守れ！
ソヴエート同盟に於ける社会主義建設の輝かしき成功万才！

四・一六を期し

党をボルシエビキ化せよ！

四　一六オ三年を迎へた！

前々号を三、一五の特別号として発行した吾々は引き続いて四・一六を迎へた。

三・一五、四・一〇、四・一六、三・一、四・一五、七・一五、等々と吾々はうらみの記念日を沢山持つてゐる。

それは吾々の敗北の記念日であるかも知れない。だが、それは吾々の偉大な攻撃に対する敵の逆襲であつたにすぎない。吾々は一時的には敗北した。だが、絶土重来！　窮局の勝利は吾々の手のものである！　日本のプロレタリアートは同志の屍を越えて赤旗を進めつゝある。日本では反動的な殺人法が吾々を待つてゐる。惨虐な白色テロルが横行してゐる。だが、それは独り日本ばかりではない。既に昨年に四十万人近くが労働者農民が惨殺されてゐる。フイシラントでは一九一八年から一九二七年に至る九ケ年の間に実に十万人の同志が虐殺され、又は死刑に処せられ、二万五千人が累行前傷させられ、一万五千人が拘留され七万五千人が起訴又退校され十万人が牢獄せられた。満洲革命支那では実々一万六千人、二十七万人、十四万人、一万五千人七千人を殺してゐる。一九二七年十一月広東蜂起が手はれて以来僅か一年間に二万二千七百八十一人の同志が逮捕投獄され、三万二千百七十五人の革命的労働者が殺された。

支那印度の革命運動を守れ！
朝鮮台湾等植民地の完全なる独立！
帝国主義戦争反対！
失業と飢餓の元凶資本家地主政府を仆せ！
労働者農民のソヴエート政府万才！
プロレタリアートの独裁万才！
ソヴエート同盟、朝鮮、台湾、支那、フイリッピン等の革命的労働組合と手を握れ！
太平洋労働組合会議万才！
日本労働組合全国協議会（全協）の拡大強化万才！
日本共産青年同盟万才！
日本共産党大衆化万才！
国際プロレタリアートの革命的指導部コミンテルン万才！
革命的国際労働組合運動の指導部プロフインテルン万才！
共産青年インタナショナル万才！
国際プロレタリアートの共同斗争の日メーデー万才！
万国の労働者団結万才！

NO.4　赤旗　1931.3.25

ロレタリアートがその場で虐殺され死刑に処せられたのだ!!"にも拘らず支那のプロレタリアートと農民は更に更に烈しい階級的憎悪と革命的情熱とを振り起して、軍閥と口内ブルジョアジー及び吉界帝口主ギ――特に日本帝口主ギ――の強盗的侵略と斗いつゝあるのだ。支那ソヴエートはスバラしい勢で成功しつゝあるのだ。

吾々もボ革命的伝統を持つて居るはずだ。支那の同志諸君が この際に当り吾々に何ことを望むかを聞きたい。吾々は同志諸君がこの際何に当り吾々に何ことを望むかを聞きたい。例へば支那の同志の例を取つて見よう。支那のプロレタリアートは官憲に逮捕されると党のアートはスを立へ党の指導者をスペそしたり命を助けてやると宣伝される。だが今日まで、只一人の単独者を除いて他の十数万の同志は悉くロをカンして黙然としてスペたのであつた。文字通り生命を捨て党の秘密を守つて来てゐるのである！だから支那の共産党ではとなりの細胞がやられても隣りの工場の細胞は怒々と斗争を続けてゐる。一地区がやられてもそれに関係のあるすべての組織は妥当してその まゝ斗争を進めてゐるのだ。日本の党はどうであるかの、全党員は生命を捨して党の秘密を守つたかの、他の同志を防衛したかの？吾々は言下にソウダ!!と答へ得ないことを悲しむ。**日本には革命家**

はゐない！と非難されても吾々にはこの言葉がないようが気がする。吾々は豊富な革命の経験を有してゐるとは云へぬ。日本の党には鉄の規律が厳存してゐるとは云へぬ。共産党の運動はインテリの手遊びや学生のママ事であつてはならぬ。吾々はマス学生であるといふ事ふる理由から排除し非難するのではない。だが共産党はプロレタリアートの党であるべきだ。生命を捨して労働階級の階級的使命を遂行すべき前衛の組織であるべきだ。吾々の党は尚ほ若い！

ボルシエビキに学べ！
支那の同志に学べ！

吾々は三一五を期して吾党のボルシエビキ化を煽動した。吾々は四・一六を記念するに際して再び党のボルシエビキ化を強調する。銃の現律を厳命する吾々の親愛ふる同志で あり、革命的先輩であるの ではない。吾々の党が尚ほ若かつたために、組織が正しくふかつたために、鉄の規律もゆるみもしたのだ。吾々は解党派の君主々ギ者を持つた。だが、徹内の同志は確かに革命家の本質を発揮しつゝある。最も勇敢かプロレタリアートが尊き先輩同志の血を持つてゐる。同志等り流した血潮、尊きギセイか吾々の党をして鋼の如く強く銀の如く清き党たらしめたのに役立つてゐる。吾々の党をボルシエビキ化するための基石とふつてゐる。吾々は日本のプロレタリアートが尊き先輩同志の血を持つてゐるのだ。

あゞかつた革命的至誠を十二分に批判し摂取して吾党をボルシエビキ化しふければふらぬのだ!!"これが吾々の中心任ムである!!"

労働者諸君！
同志諸君！

日本共産党のボルシエビキ化万才！
コミンテルン万才！

失業者同盟の組織に
就業労働者は積極的に働け！

日失業問題は労働階級全体の問題である」（ロゾフスキー）。

至清危機と産業合理化とによつて街頭へ投げ出された失業者は日本で約二百五十万を数へる。失業は資本主ギ制度が続く限り存続する。社会主ギ至清の下で失業問題が解決されるといふことは理論上正しいのみでふく現実に於てソウエート同盟で証明された。そこでは、失業問題は基本的に解決された。のみならず、新に労働者を養成しふければふらぬといふ革命的任務が立てられてゐるのだ。

日本をも含む一切の資本主ギ諸国では、働く能力と、働く意志とを持つてゐながら、働き得ないでゐる人々が約三千万ある。その家族を平均三人としても九千万人の労働者家族が飢にヒンしてゐるわけだ。

日本の支配階級は必死におのゝて失業者の存在を押しかくそうとしてゐる。だが現実は冷酷である。支配階級のあらゆる試みにも拘はらず失業者の食を求める声は街に物凄くヒビいてゐる。失業者は自由労働者のみの問題の如く考へられたのは遠い昔のことである。日本方数すにや双物は入らぬ。両の十回も降ればよい」と云へた時代は過去の物語りの中に入れられた。今では、両が降らふくと生死の境をさまよはされてゐる労働者が――自由労働者だけでふく、金属工、紡績工、化学労働者、等々――街頭にあふれてゐるのだ。それらの人々は、しかも、何時職を得られるか分らないのである。自殺、親子心中、夫婦心中、人殺し等々血生臭き世相は失業者の増大と共に増加して行く。失業は、今日失業してゐる労働者のイニシヤチフを発揮せよ！党の至験を批判摂取せよ！工場細胞を組織せよ！日本共産党を拡大強化せよ！そして階級的政治犯人を奪還せよ！治安維持法、白色テロルを粉砕せよ！革命的宣伝煽動組織の自由を斗ひとれ！

NO.5　赤旗　1931.3.25

働者にとつての問題であるのみでなく、今日はまだ工場職場にいてゐる労働者にとつても重要な問題である。何故ふら、後者も亦明日は今日の失業者と同じ運命の下におかれるであらうからである。のみならず、失業者自身存在は就業労働者の生活、労働条件の悪化を必然的にもたらしてゐる。マ、就業労働者の斗争は失業労働者との密接ふ協力の下に於てのみ効果的であり得るのだ。かくしてこそ、「失業問題は労働者階級全体の問題である」。

吾々は、上に、資本主ギの下では失業問題の真の解決が不可能であることを述べた。然らば、吾々は失業反対の斗争をやらふくとも、いゝのだらうかの、といふに断じてそうではない。資本主ギの下で、支配階級からの取だけのものを奪還しなければふらぬ。プロレタリア独裁の樹立まで待つてゐるといふやうなことは極左家派主ギのいふことである。現実に存在する失業者に比するなら全く九牛の一毛にもすぎない。併しながら、この組織の持つ政治的意ギは、それがプロフインテルンの決議に従ひ、且つ、日本共産党の直接指導下にある

日本には革命家

全国労働組合協議会に依つて作られ、且つ指導されてゐることにある。今日ではまだ、この失業者同盟にはありゆる産業の失業者を包含するに至つてゐず、その上全国的でもない。そのことはそなふ不充分として数へ上げられねばふらぬ。

更に重要なことは、この失業者同盟が就業労働者と直接ふ結合を充分に持つてゐふいことを認めなければふらぬ。吾々は今日直ちに是等の不充分を改めるべく努力しふければふらぬ。

大衆的失業は今や重工業にはじまんとしてゐる。例へば海軍工場に於ける約一万人の如きはその一つとも大規模ふものである。我々は例へば、この海軍関係の大衆的職工に反対して最も積極的ふ斗争を組織しふければおらぬ。断じて、少額の解雇手当を受取つて指導何等縁くか分りふい失業者を励々と承認してはふらふい。この斗争には失業者同盟も積極的に参加しふければふらぬ。失業者同盟の活動は、現在失業している労働者の生活ヨウゴの為に斗争すること、その為に今日失業してゐる人々を出来るだけ多く組織することであり、就業労働者との共同斗争の組織である。

又失業者同盟は借家人同盟の活動と協力する必要がある。借家人同盟の活動がプロレタリアに依つて指導されるプロレタリア的信念と組織によつて行はれねばふらぬ。公然といふことは警察の立小通りの活動を断じて意味せぬ。警察、法律が許可するとしふいとに拘らず、それが労働者側からの働きかけではふく、借家人同盟側からの働きかけを必要とするのみでふく、今日はまだ工場職場にいてゐる労働者にとつても重要な問題である。何故ふら、後者も亦明日は今日の失業者と同じ運命の下におかれるであらうからである。のみならず、失業者自身存在は就業労働者の生活、労働条件の悪化を必然的にもたらしてゐる。マ、就業労働者の斗争は失業労働者との密接ふ協力の下に於てのみ効果的であり得るのだ。かくしてこそ、「失業問題は労働者階級全体の問題である」。

吾々は、上に、資本主ギの下では失業問題の真の解決が不可能であることを述べた。然らば、吾々は失業反対の斗争をやらふくとも、いゝのだらうかの、といふに断じてそうではない。資本主ギの下で、支配階級からの取だけのものを奪還しなければふらぬ。プロレタリア独裁の樹立まで待つてゐるといふやうなことは極左家派主ギのいふことである。現実に存在する失業者に比するなら全く九牛の一毛にもすぎない。併しながら、この組織の持つ政治的意ギは、それがプロフインテルンの決議に従ひ、且つ、日本共産党の直接指導下にある

日本には革命家

側からの働きかけを必要とすることを言を俟たない。失業者の家賃、水道、瓦斯、電燈、友通料金の免除、失業者の子弟の授業料免除と学用品給与等々は勿論の要求であり、正当ふ要求としてかげられねばふらぬ。最近の新聞紙は紙介所の改悪を要求して職業紹介所へ失業者が逆襲した事件をしばしば報導してゐるが、かくの如きは現実の要求は直ちに失業者同盟に依つてとり上げられ、それの為にたゝかふべきを目標としてゝ、先づ組織を作るべく活動すればふらぬ。この一点だけでも組織することはできるのである。

この一点だけでも組織することはできるのである。

ことは何でもかまわぬから作れといふのではふく、失業者の現実の要求を斗争目標として掲げられねばふらぬ。

といふのである。吾々が若しも最初から全国的組織の一部分として作られるべきだといふ場合に部分的、地方的組織として出発し、それをば大衆を基礎とする全国的組織にまとめ上げるべく方針をとることは誤りではふい。但し、くり返へすが、それの地方的組織の方針の下に作られねばふらぬのである。

最初から革命的組合の組織が大衆的であり活動の場合吾々は公然とその活動を展開し得るのだ。よしんば非合法的或三の肉の存在を余儀ふくされたとしても！

そして現在はさうふのであるが――組織全体としての活動は公然と加口レタリア的信念と組織によつて行はれねばふり奴。公然といふことは警察の立小通りの活動を断じて意味せぬ。警察、法律が許可するとしふいとに拘らず、それが労働者

新労農党解消派の活動は何処に向かうべきか？

▼誤謬の理論的克服より実践的克服へ▲

「プロレタリアートの党は唯一つあるのみ」ということを旗印として起つた新労農党内の解消派運動はその後如何にふつたかゞ吾々はこの解消派運動が起つた当時、それは日本共産党の組織にはいることに依つて党全体に正しい方向を辿ることになると主張した。解消派かゞ解消派そのものとして存在するとき、それは甚だ不徹底極まるものである。何故といふに、新労農党から除名されたといふことで止まつたのでは「プロレタリアートの党は唯一つあるのみ」といふ信条を正しく理解したことにならぬからである。

共産主ギの理論を振り廻すことが共産主ギ者としての資格を作ることにはならぬ。真に共産主ギ者と呼ばれ得るのは共産党員あるのみだ。口先だけで共産主ギを云々して共産党の組織にはいらうとしないものはまだまだ真の共産主ギ者ではない。

全口に散在する解消派に属する人々は、現在でもまだ、多くは日本共産党に加入してゐない。これには色々の原因もあるだらうが、それの一つに党全体の問題である！失業問題は労働階級全体の問題である！

資本主ギ社会の下では失業者の増大は必然的である。その失業者達は働かんとし、働く意志を有し、働く能力を有してゐるのに働く場所がないのだ。故に、失業者の生活は口家が保証すべきである。吾々はプロレタ「アート全体の名に於てかく要求する。失業救済の財源がないといふ位ゴマカシ論はない。吾々はいふ、可軍事に、警察に等、労働者階級を弾圧する為に使はれる費用を失業者とその家族の生活保証に充てろ！」と。

各工場内の就業労働者と緊密にれんらくをとつて失業者同盟を作れ！

各職業紹介所を中心にして失業者の組織をかためろ！

失業問題は労働階級全体の問題である！

解消派運動に積極的に働いた労働者諸君は、日本共産党の政策の実践のために工場内で、職場内で直ちに活動しなければならぬ。そして、この実践過程こそ諸君が共産党の工場細胞を作ること、同時に行はれるのだ。諸君は工場のやで労働者大衆を組織し給へ、街頭に投げ出された失業者を組織し給へ、日本共産党の政策に従つてそれを行はねばならぬ。それのみが諸君を正しい方向へ導くであらう。今はチユウチヨして居るときではない。工場内の活動を怠り、全協の方針に沿ふて活発に展開し、工場細胞確立の事業に精力的に働かねばならぬ。それが諸君の望むやうに、日本共産党の既存組織のレンラクを取り得る最も正しい、そして最も簡単、且つ安全確実な方法である。

斗争を通じて誤謬の清算へ！

直ちに党の工場細胞設立に着手せよ！

「戦協（全農戦斗化協議会）」は如何にすべきか

戦協が全農を戦斗化する斗争に於てはたし得た過去の功績を多とする点に於ては、吾々は全農の組合員諸君に決して劣るものではない。

戦協は最近会議を開いて戦協の過去の斗争を自己批判した。それは可成り峻烈な自己批判であつた。吾々は戦協の指導的同志達は確かに全農内の最も戦斗的かつ一であつたと。

戦協は全農の組合員の絶対多数が、それ切りの人々に対する吾々の方からの積極的な働きかけが少なかつたことは疑もなく大きな原因であらう。解消派運動に参加した一人々々のすべてが共産党員とふり得るのが疑問であると同様に、彼等が一時的にでもせよ、日本共産党一反対したといふことで、彼等の下に走つた労働者農民大衆の中の優秀分子を党へ入れることに消極的態度をとることも正しくない。

吾々は、新労農党を作り、後に解消派運動を指導した人々に対して、彼等が理論的にも実践的にも過去の誤謬を清算することを要求する。彼等が若し、双方に理論上に於て誤謬であつたことを認めるだけに留まつてゐるとすれば、それは実践的に、組織上に活路を見出だして行く革命的労働者から見離され、遂には日本共産党の組織から除名されるであらう。

『社会民主ギ者と緊密にれんらくを』

戦協は如何にすべきか?!

戦協は全農内の左翼組合から、全農内に巣喰つてゐる社会民主ギの裏切幹部を全農から叩き出すべきである。

貧農の組合たる全農を赤色農民組合たらしめるべきである。全農内に巣喰つてゐる社会民主ギ者と闘ひ、全農を革命的農民組合たらしめる活動にとつての有利な条件の一つである。

戦協の会議は中央委員会を色分けしてこの点も正当に評価してゐる。だがこの点もズツカリとグアトで忘却してしまつた。具体的な問題にブツかつて、問題の本質的な点と非本質的な点とを正当に見分けることは決して容易なことではないのだがこのことは戦協の同志達はたしかにかゝる国士である。

だが、吾々同志は至験な自然発生的な立場に引き摺せられてはならぬ。

全農を農民協会と規定し全農内の貧農を内部から分裂させて全農内の貧農を社会民主ギ者や富農の側に押しやる危険のある分派行動は止めなければならぬ。

ことが出来る。会議は数日に渉る激論の結果、戦協指導の斗争方針の大綱を決定した。この大綱は遺憾ながら正しいものとは云ひ得ない。

[1]大綱は全農を左翼農民組合と認めることは出来ないといつてゐる。これは絶対に正しい。今日の全農は赤色農民組合とは云ひ得ない。全農は勿論赤色農民組合ナンテルン（インターナショナル）の日本支部ではない。全農内には社会民主ギ幹部も巣喰つてゐる。全農組合員中には、かゝる裏切幹部の正体を見ぬき得ないで、奴等にダマされ奴等を今日尚ほ支持してゐる労働農かゐるかいわけではない。吾々はこの点を些も見落してはしない。

[2]大綱は全農を全体的に左翼農民組合たらしめることは出来ない。全農はむしろ農民協会たるべきである。それ故に戦協を発展させ拡大強化して全農内に左翼農民組合を結成すべきである、といつてゐる。これは正しくない。

赤松、片山等の右翼社会民主ギ者は全農に対抗すべく、社会民主ギをヒヨウボウして日本農民組合を結成した。そこでは農業が中心労力たるであらうことは自明である。

全農の中心労力は何であるか。それは明かに貧農である。全農組合員の恐らく八〇%は貧農、農業労働者で占めてゐるようである。戦協の会議は全農内では貧農が断然絶対多数であると正当に評価してゐる。だが、この正当な認識はスツカリ直ちに忘却されてしまつてゐる。貧農は全農の組合たるの資格を失つてゐる。貧農の組合たる全農を赤色農民組合たらしめる方針を立てゝ全農を分裂させ、貧農を社会民主ギ者と富農の組合たる日本農民組合に引き渡してはならない。反対に社会民主ギ者や富農の影響下にある貧農、小農、中農下層を吾々の側に引き寄せなければならぬではないか。

地方的農民組合や未組織の農民協会にカクトクしふけれはならぬではないか。陥る危険があいとはいへない。戦協の同志達はたしかにかゝる国士である。

豊富であるとは云ひ得ない。理論に忠実ぶかんとして抽象的に陥る危険があいとはいへない。戦協の同志達はたしかにかゝる国士である。

NO.8　赤旗　1931.3.25

「労働組合会議準備会の成立とその方向」を評す

（「労農」三月号　荒畑寒村）

荒畑寒村の此の論文は他の一切の「労農」の論文と同様に左翼労働組合撲滅乃至排撃の為に書かれてある。堂々十頁に及ぶ大論文であり乍ら、そこには、革命的労働組合運動の国際指導部プロフィンテルンの政策は少しも述べられてゐない。只に述べられてゐないのみか、それに反対することのみがある。

先づ第一に、荒畑は「昭和六年二月上旬、全国大衆党を支持する労働組合九団体の主唱、各地数団体の参加によつて、全国労働組合会議準備会の成立をみたことの政治的意義を全く無視してゐる。革命的労働組合運動に於ける組織問題はその政治的立場と切り離し得ないものである。組織問題も亦実に戦略戦術の重要部分をなすものである。だから、正しい政治的見地なしには組織問題の正しい解決は望へられない。然るに荒畑はこの「全国労働組合会議準備会」の政治的立場は殆んど問題としてゐず、その組織的方面のみを切り離して考へてゐる。是位日和見主義的なごまかしはない。組合会議が如何なる目的を有しやうともその組織的形態が不充分ならば所期の目的を達し得られないといふのは正しい。だがこの組織形態はそれぞれの団体又はその合同体の政治的立場の具体的表現とも言はれるべきものであるから、目的が資本との斗争でなく、労資協調であり、左翼労働組合反対であるへこの準備会はその決定に曰く「組合員にして全協と連絡あるものは除名処分に付する方針をとること」と明記してゐる！）場合、どうして組織形態丈けが資本に反抗する労働階級の斗争を指導し得るやうに作れるのだ？こんなゴマカシで、左翼化しつゝある労働者大衆を資本家に服従させて置かうといふのが彼荒畑に依つて代表されてゐる「労農」一派の主張であり、行動である。

第二。荒畑は過去の労働組合会議運動を批判するに当り、労働組合評議会の誤謬の方面のみをとりあげて居り、しかしその誤謬の責任は山川、荒畑自身が負ふべきことは棚へ上げてをいてだ！——評議会が、如何に正しく斗争組織として組合会議を押し進めんとしたことに対しては一言もふれてゐない。評議会リそして現協議会の活動の總ては間違つてゐたといふ風に労働者大衆に思ひ込ませることを彼はこの大論文の終局的、全体的主旨としてゐるのである。

我々は、評議会の、そして協議会の犯した誤謬を我々全体の誤謬として承認し、それを克服する為に協力して斗争する。然るに彼等は労農にあつては只高見の見物式に、悪罵をあびせかけ、労働大衆の信頼を傷付けさせんが為に利用する。茲にも亦彼等の反動的役割が躍如としてゐる。

「プロレタリアートの政治的意識はそれ自身のための階級への成熟」に依つてのみ、この斗争が「プロレタリアートの」一定の段階に達した時、その政治的意見の相違に依れる左右両派の決裂は、吾々が既にヨーロツパの社会運動史上に多くの実例を見た所である。然し、日本ではまだプロレタリアートがそれ自身のための階級としての成熟しなかつた時に「外部からの理論の注入」に依つて「性急に、機械的に、政治的意識を労働団体に強制した」から分裂が續いたのだ、と断ずる荒畑は書いてゐる。プロレタリアートが「それ自身の為の階級」としても成熟するといふのは一体どんなことを意味するのか？「労働階級の階級的利害の実現」とは一体何を意味するのか？労働階級の前衛組織として闘争する労働階級の前衛組織たる共産党の存在は、そのことを意味する有力な力ではないのか？我々の極左的誤謬は、決してプロレクリアートが「それ自身のための階級」として成熟してゐない時に政治的理論を「外部から注入した」からといふことにあるべきではない。我々の根本的誤謬は正に共産党の独自的活動と大衆団体との相互関係に関する誤れる見解、政治と経済との相互関係に就いての誤れる見解にあつたのだ。意識の問題のみを重視して、それを斗争の中で鍛錬され、向上されて行くものとして理解し得なかつた所に福本イズムの致命的誤謬の一つがあるのだ。荒畑の如きに至つては彼がやつつけ棒としてゐる福本イズムの誤謬すら充分に分つてゐないのだ。

「革命的理論なしに、革命的行動はあり得ない。」しかし、理論は実践に於て検討され、更に豊富な内容を持つに至るといふことを福本主義者は理解し得なかつた。本年ら言つて置くが、「労農」でも最近しきりに、「理論の実践に対する優位性」を唱へてゐるが（石川一郎）それは君達のいふことが「革命的理論」のことであつて、反動的理論ではないといふ証明にはならぬといふことだ。

第三。荒畑は、今日の社会民主々義者、改良主義的組合指導者の裏切的行動に対しては殆んど触れてゐない。總同盟、海員組合の改良主義幹部が組合の合同に反対してゐるといふことは述べても、それが資本家地主への奉仕の為であること、並びに全国大衆党を支持せる各団体の改良主義幹部が過去に於て、如何に労働階級の階級的統一を邪魔したか、又、してゐるか等には全くふれてゐない。「国際的に言つて今日程改良主義的組合政策に対する断乎たる斗争を要求された時はないのに、是は又、どうしたことだ。

NO.9　赤旗　1931.3.25

「真正左翼」（19..）を以つて誇つてゐる我が党すべき（！）「労農」は「そんなこと、どこを風が吹くといふ調子に扱つてゐる。この点では、元の全協内刷新同盟」新幹党派と全く一致する。第四インターナショナル以上の如き誤謬は今日の階級斗争の現実を冷静に判断し得ざる者か、或は又、意識的にプルジョアジーに奉仕せんとする者のみが犯し得るものだ。経済危機の深刻化は、プルジョアジーをして労働階級に対する如何なる譲歩をも不可能ならしめてゐる。支配階級の攻撃は労働者大衆をして必然的に斗争の為の「団結、統一へと向はしめてゐる。それは幹部と幹部との四畳半式統一でもなければ、集中的に労働者を売渡さんが為の統一でもない。資本に対する斗争の為の大衆と大衆との下からの力強い統一なのである。改良主義者はこの斗争の為の統一といふことを極度に恐れる。それは、プルジョアジーにとつて最も不都合なものだからだ。それ故に、彼等はこの統一への大衆の要求を幹部との話し合ひで、形式だけの統一に留めて置かうと試みてゐるのである。全国労働組合會議準備会がその決定書中に、全国労働組合協議会及対立を特筆してゐるのは、全国協議会が「この斗争の為の下からの統一戦線といふ旗印を高く掲げてゐるからだと言つても過言ではない。

然らば我々は、全国組合会議の成立に反対すべきか？否、我々は、全国組合会議が階級斗争を基礎とするものでなければならぬ。この組織は資本に対する斗争労働者大衆の利益を守る為の斗争組織として成立させねばならぬと主張するものである。

★「労農」一派の欺瞞的組合統一論をバク口せよ！
★職場を、工場を基礎とする大衆と大衆との下からの戦斗的統一戦線の為に
★階級斗争を基礎とする労働組合の統一万才！

苦言一束

（一）「労農」は「もつと地方からの通信を載せるべきだ。沢山の報告があり乍ら、それを採りつぶしてゐることは絶対によくない。

両者とももつと分り易く文章を書かねばならぬ。「余りに六カンイ的、これが大衆の声だ。下からの、地方からの要求は熱心に親切にきゝかねばならぬ。それあつてこそ真に革命的労働者農民自身のものとなり得る。

（二）斗争の経験はなるべく悉しくのせる方がいい。言葉の上丈けで、「宮内の暴虐を弾つて」も、「断然社会民主主義的指導者に抗して」とか言つた所で何が何だかサツパリ分らない。敵は断々の方法を以て我々に対して来た、そこで我々はしかくの手段を講じた、所がこういふ結果になつた。だから我々は是々の点はかくの如く改めるべきだ、といふ具合に書いたら一つの斗争の経験が日本全国の同志によつて普及されるであらう。我々はもう一度繰り返して言ふ、以上二つの新聞及び「労働新聞」は何故「東京市電争議」批判」をのせなかつたか？あの批判は殆んど全部がルジヨア新聞の報導に基いて書かれたものださうであるが、我々の太い「長過ぎる」といふ理由からだとすれば、遠慮すればまい筈だ。

（三）「無産青年」はもつと青年らしい溌剌さを以て書かれた記事をのせるべきだ。青年労働者の工場内生活がもつと書かれねばならぬ。例へば、工場内の赤色スポ！ツ団の活動とか、又は文化的団体の活動とかを、ありのまま報導するが如き記事。これらの事実を教へることは他の工場の労働者の参考になる。「無産青年」オ五十三号の同志山口健作の論文オ一項の終りに「無産青年」は青年大衆の指取と指正の事実をバク口して、同盟の政策を宣伝し斗争を煽動する大衆的新聞であるべきことを主張してゐるが、これは全く正しい。それと共に両新聞ではもつともつと大衆的仕事の方法への轉換に関して多く書かれねばならぬ。それこそセクト主義克服へ急進することだ。

（四）「何にしてレーニン青年」オ三号、「如何にして白色テロルに対するか」といふ論文は、実に興味あるものである。併し書き方をもう少し注意すべきだつた。編輯部でこの内容をそのままとつて分り易く書き直した方がよかつた。といふのは、何かしらゴチヤゴチヤしてゐるからだ。一つ一つ問題を片付けて行くといふ方が分り易い。更に又、「如何にして斗争するか」といふ質問に対して、筆者は「組合が大衆の日常要求をはつきり代表してゐるか、白色テロにさらされた同志を防衛しなければならぬと云ふ考に大衆を導いてゐるか、といふ事だ」と答へてゐるに過ぎぬ。尤もその直ぐあとで「白色テロの意義を教へ」新しい斗争綱領を大衆討論に依つて樹立する」ことが必要

NO.10　赤旗　1931.3.25

だレと言ってはゐるけれ共、そして、その限りに於て間違はないけれ共、それ丈では物足りない。日本の労働階級全体が如何に政治的に社会的に無権利であるかといふこと、警察、憲兵が口民全体のものではなくブルジョア地主の武装的力であること、それが労働者階級と全く対立してゐるものであるから、それとブルジョアと斗争出来ないのであることを労働者大衆にハツキリと分らせることが心要なのだ。我々は単に口暴圧口だとか、口弾圧口茅々の言葉を叫ぶ丈けでなしに、工場内の労働者に向って、そこの工場から警察へ連れて行かれた労働者が、警察でどんなにヒドイ目に合はされてゐるかを公然と労働者大衆の前で語るべきだ。警察や、憲兵が何ものであるかを事実で知らせるのだ。警察で拷問されるのは覚然だと思つてそれに対して何等の憤激をも起さないことは、警察が労働者大衆に向つて行ふ暴力行為に対する政治的無関心を示すものだ。こんな態度は絶対に止めねばならぬ。労働者は自己の権利を主張すべきだといふことを労働者大衆に分らせないでどうして白色テロルに対する充分な斗争が出来るか？警察や憲兵に対しては大衆的に、徹底的に斗争しなければ駄目なんだといふ考を広く大衆の中へ持ち込まねばならぬ。ストライキが警察の調停で解決へ無理やりにされた場合でも只単に口売られた口と書かずに、何故売りれたことになるのかを親切に教へるといふ態度が心要なのだ。

同志××の『誂会解散について』に就て（二）

吾々は米五十九誂会開会に際して全口の革命的労働者並びに貧農小作人に檄を発した。その檄の中で誂会解散のスローガンを撤回する。誂会の解散ではなしに、日本口衆の民主化ではなしに、一切のブルジョア口衆機関の破壊、誂会の破壊でなければならぬ！ブルジョア地主の独裁に代へるにプロレタリア独裁、資本家地主政府の打倒、労働者農民のソヴエート政府樹立のスローガンが今や斗争を通じて普遍化されねばならぬと主張した。そして檄の最後にスローガンの一つとして「大衆的政治的進出によつてブルジョア誂会を倒せ！」をかゝげた。

同志××は「誂会を仆せ」のスローガンをかゝげることは絶対に誤りである。それは社会民主々義と五十歩百歩であるばかりでなく、社会民主々義を援助するものだと非難してゐる。又他の場所では「何等かの形に於ける誂会主義であるレも亦誤りである。

吾々は米五十九誂会開会に際して全口の革命的労働者並びに貧農小作人に檄を発した。その檄の中で誂会解散のスローガンを撤回する。誂会の解散ではなしに、日本口衆の民主化ではなしに、一切のブルジョア口衆機関の破壊、誂会の破壊でなければならぬ！ブルジョア地主の独裁に代へるにプロレタリア独裁、資本家地主政府の打倒、労働者農民のソヴエート政府樹立のスローガンが今や斗争を通じて普遍化されねばならぬと主張した。そして檄の最後にスローガンの一つとして「大衆的政治的進出によつてブルジョア誂会を倒せ！」をかゝげた。

同志××は「誂会を仆せ」のスローガンをかゝげることは絶対に誤りである。それは社会民主々義と五十歩百歩であるばかりでなく、社会民主々義を援助するものだと非難してゐる。

NO.12　赤旗　1931.3.25

労働婦人代表者会議開催に就いて

××紡績工場細胞　×子

この投書に就いての意見をドシドシ送れ。大衆的討論に依りてよりよき組織の確立へ。
赤旗編輯局

階級斗争の基礎に建つ下からの統一戦線樹立と、労働階級の重要素たる広汎なる工場婦人並びに失業婦人一般の勤労婦人（農村婦人、労働者の妻をも含む）の未組織大衆を我々の側に組織的に獲得する為の労働婦人代表者会議は今日絶対的に必要である。

我々は未組織工場婦人及び準プロレタリア的な凡ゆる婦人大衆を我々の最も積極的な味方とする為にこれ等の婦人の日常斗争を組織し、斗争に動員し、工場を基礎とせる政治的経済的斗争に結合統一しなければならない。

何故なら、我々の力、労働者階級の組織的力の基礎は工場であり、職場であるだからこそ労働婦人代表者会議の基礎も工場、職場でなければならない。

一地方、一地区で同一産業の、又は各種産業の工場にストライキがボッ発してゐる様な場合には、その地方の各産業の婦人代表者会議或は産業別代表者会議の開催はストライキの共同斗争の為に特に重要な役割を持つ。

ではいかにして代表者会議を組織するか。

(一)代表者を工場の婦人労働者の中から直接に選挙するには、我々は婦人委員会又は自主的な工場委員会を持たねば出来ない。

(二)代表者の直接選挙の未だ出来ない所では準備方法として、(イ)職場、持場を異にする婦人労働者の中から選抜して一つのサークルを作る。

(ロ)サークルを作る仕事が容易したら一工場の夫々の職場の数つものサークルを結び付け、工場中のサークルの合同を作ること。

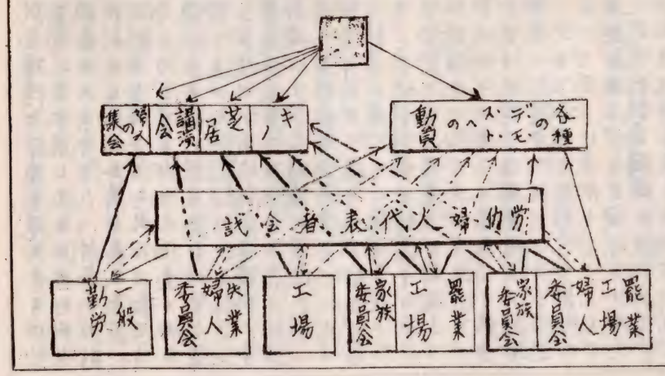
(三)代表者会議の組織が一工場の婦人代表者の間から選ばれた代表者を以て成立してゐる時には、そこに、一般大衆からの代表者の参加を拒絶しなければならない。

(四)工場内及び工場外に白熱的斗争や紛争の起った處には必ず労働大衆の統一機関、ストライキ委員会、対策委員会、応援斗争（共同斗争）委員会が作られねばならないし、ご等の機関には必らず婦人代表者が参加しなければならない。

又、その地方の工場や、全一産業の工場や、失業者の組織からの婦人代表者会議を組織しなければならない。

(五)市区、都市、地方に於ては更に大きい婦人労働者会議も亦組織されねばならない。

階級斗争に於ける、我々の力は工場の中に大衆の中にあるのだ。工場内の大衆を組織すること、婦人代表者会議を作ることは、婦人代表者会議組織に於てオ一に我々が全力をあげてなさねばならぬ緊急任務である。



大衆に宣伝しつつ、彼等が彼等自身の経験を通じてこゝまで来るやうに大衆の中で大衆のために働かなければならぬ。

○

大衆の意向を尊重し、大衆を経験的に学が進ましめることは、大衆政治家の考を忘却するものではない。大衆政治家でこの点を忘々にしてはきちがへる。特に精々円熟した同志が潜入する危険なオトシ穴である。このオトシ穴は社会民主々義から離党派の君主々義に通ずる道である！同志×××の熟考を要請して止まぬ。と共に党員並びに労働者諸君に希望する。この問題に就いて各細胞で十分討論して意見を報告して来るやうに！本質的な問題を含んでゐるのだから。

（完）

NO.13　赤旗　1931.3.25

党費と紙代を完納せよ

レニンは云つた。吾々が世界を獲得し、世界ソヴエート同盟を樹立したら、パリーの国費の通りに黄金で共同便所を建てるであらう。それが黄金の最も有意義な最も教訓的な使用法であるであらう。だが、それまではCCCP（ソヴエート同盟）でも吾々は黄金を大切にしなければならぬ、と。吾々は今帝国主義ブルジョアジーのあらゆる迫害と迫及との下に非常に困難な斗争を続けてゐるのである。労働者の寄附は益々低下する。それは労働者の再生産のためにも不十分であらう。

同志諸君！

全一資本一が支配者一人間！だ。人間は機械だ。これが資本主義社会の形相だ。今日吾々は金なくしては何をも十分にはなし得ないであらう。全く金の世の中だ。吾々は同志諸君に要求する。党費は必ず定期的に完納しなければならぬ。紙代は必ずしなければならぬ。党費は収入の百分の一（月に百円の収入のある同志は一円）納めるのだ。失業者はその半額だ。紙代は定価が記載されてある。

吾々が党費並びに紙代の完納を要求するのは勿論党活動の財政的基礎を確立するためである。だが單にそれ丈の意義を認めてゐるのかり？　そうではない。党費を労納することは党員の義務である。義務を立派にはたさないやうな党員は党員としての資格を欠くものだ。党費を納めることによつて党員は自分が党員であるといふ意識をその都度強める。吾々はこの方面の意義を重要視してもゐるのだ。「武士は食はねど高楊枝」学といふ。武士は金ハ計算を知ることをしろ恥とした。かくの如き思想が日本武族の間には幽強力に残存してゐる。物質に怡濫であることを誇としてゐる。だが、果して物質に怡懦であるか。否。

物質に怡懦である事とルーズである事とをハキチガエてゐるものを多々にして見出す。労働者は工場の内で生活してゐる。彼等は近代的イデオロギーを経験的に学びとつてゐる。だが数百年の伝統が一朝にして廃棄され得るものではない。図製の丸は偉大である。吾々はといふ武族性を大膽に認容する。吾が党の歴史にも見られる。吾々は決してキチョウメンであつたとは云へない。党費は党費、組合費、紙代等に対してルーズであつた。中央部では会計が正確でなかつた。この点は吾々の大きな誤謬の一つであ

日本共産党中央機関紙『赤旗』の拡大強化万才！

一月分よりも十二月分の方が成績がよい。紙代の納入が断然多くなつてゐる。これは誠に望ましい傾向である。だが、財政部の報告によると紙代はほんの一部分しか納入されてゐない。特に労働者の紙代支払率が甚しく悪い。恐らくそれは収金及び本社への送達の組織の上に欠陥があるからであらう。それならそれで労働者はその組織を進んで改正すべきである。労働者の負担は相当に重い。ゲルジョア共にスツカリしぼられてしまふのむ財布は何時もカラツケツだ。ナルナシの財布から党費、組合費、紙代、モツプル費、反帝闘等々と支出は相当の高にかさむであらう。だが、ついて行く経の金を出してこそその都度吾々は斗争心にもえるのだ。階級激に対する憎悪を高ぶらすのだ。血の出るやうな金を出してこそ吾々の運動がそれ丈鋭剣になるのだ。

一九三〇年三月には失業者が五百円の解雇予当の金額を共産党事件の犠牲者救援のためになし出した革命的行動を吾々は銘記してゐる。

財政に関するボルシエビキ的意識を獲得せよ！
党費紙代等を完納せよ！
党の財政を監視せよ！
鉄の規律を確保せよ！
日本共産党のボルシエビキ化万才！

『赤旗』を断じて敵の手に渡すな！

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

NO.1　赤旗　1931.4.8

赤旗

第38号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

国際的闘争斗争日

メーデー
動員を準備せよ！

我々は前号に於てメーデーの意義を明かにした。即ちメーデーは、国際プロレタリアートが協力一致して資本に対する斗争の意志表示を行ふ日である、と。資本主義諸国及び植民地半植民地の労働階級は此の日仕事を止めて一日のストライキを断行し、街頭に出でてその要求を高く掲げつゝ、強固なる組織の結成を誓ひつゝ、支配階級たるブルジョアジーと地主に対する斗争意志を示威する。そして地球の六分の一を占めてゐるソヴエート同盟では、資本家地主を打倒し、プロレタリアート独裁を樹立せる数千万のプロレタリアートと勤労農民が五ヶ年計画を四ヶ年で完遂し、栄ある赤軍を増強拡大し、帝国主義諸国からの挑戦に対する断乎たる斗争の決意と防備力を示威すべく、日本の支配階級に対する斗争を表示すべきは勿論である。

吾々のスローガン中に、日本の支配階級に対する斗争を表示すべきスローガンが一つもないのは、当然であり、且つなくてはならぬ！』かゝるのは、資本主義と社会主義との対立――そして全世界の労働階級は後者の戦線に統一されてゐる。ソヴエート同盟の擁護は、国際プロレタリアートが自分自身の利益擁護を意味するのだ。

斗争スローガンの決定は吾々の斗争方向を示す。しかしそれがメーデー準備の全てではない。吾々は集団的にその具体的準備について討議し、決定しなければならぬ。

第一に注意すべきは、メーデー斗争はメーデーの日にのみ制限されないことである。メーデーのスローガンは日常斗争と結びつけられた七のではなく、日常斗争のスローガンを、この国際的歴史的カムパニアと結合させることを忘れてはならぬ。

第二に、メーデーの示威運動参加を拒絶してゐる労働階級の斗争意志表示であり、断じて祭式行列であつてはならぬ。メーデー当日だけの示威でなく大に活動しなければならぬ。

第三に、メーデーに際して日常斗争の問題が吾々の前にのこされる。メーデーが終れば直ぐ帰されるの如き合法主義的観念は絶対に排さねばならぬ。それどれだけの労働者が吾々のスローガンをもつて即日奪還すべく警察署に殺到すべく準備するかを調べる前哨戦である。

第四に、以上のことからして、五月一日の示威運動は警視庁や警察署の許す範囲で行ふだけではだめだといふことが明白になる。メーデーへの参加や軍隊の行動はそれらの権限が社会民主党を強力に支持するといふ名目の下に労働階級を弾圧するだけだといふことを実によく証明する。プロレタリアートは生きねばならぬ、人間としての権利を主張しなければならぬ。そのための示威である。それを社会秩序を守るといふ名目で弾圧するとすれば――弾圧してゐるのだ――そのやうな社会的秩序は労働者にとつて全く不都合極まるものであり、そうした秩序を打破して労働階級に必要な秩序を打ち建てねばならぬといふ結論が必然的に出て来る。故にメーデーの示威運動挙行、その準備期、メーデー後の警察、憲兵の行動は、共産党、共産青年同盟、革命的労働組合に依つて徹底的にバク口され、それに対する斗争へ労働者大衆を動員しなければならぬ。メーデー準備期に検束拘留された同志達があつた場合――それは必ずあるが――には、メーデー当日の重要スローガンとして更多の同志達の即時釈放が高く叫ばれねばならぬ。

第三に、メーデーは政治的示威運動である。プロレタリアートの国際的団結の上に立つ斗争力決意を示すことは決して単なる経済的示威ではない。吾々の目標は、五月一日に大衆的政治的示威運動を敢行するにあるか。

第四に、以上のことからして、五月一日の示威運動は警視庁や警察署の許す範囲で行ふだけではだめだといふことが明白になる。メーデーへの参加や軍隊の行動はそれらの権限が社会民主党を強力に支持するといふ名目の下に労働階級を弾圧するだけだといふことを実によく証明する。プロレタリアートは生きねばならぬ、人間としての権利を主張しなければならぬ。そのための示威である。それを社会秩序を守るといふ名目で弾圧するとすれば――弾圧してゐるのだ――そのやうな社会的秩序は労働者にとつて全く不都合極まるものであり、そうした秩序を打破して労働階級に必要な秩序を打ち建てねばならぬといふ結論が必然的に出て来る。故にメーデーの示威運動挙行、その準備期、メーデー後の警察、憲兵の行動は、共産党、共産青年同盟、革命的労働組合に依つて徹底的にバク口され、それに対する斗争へ労働者大衆を動員しなければならぬ。メーデー準備期に検束拘留された同志達があつた場合――それは必ずあるが――には、メーデー当日の重要スローガンとして更多の同志達の即時釈放が高く叫ばれねばならぬ。

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!
二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!
三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!
四、党大衆化万才!!
五、プロレタリア独裁万才!!
六、日本共産党万才!!
七、コミンテルン万才!!

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

NO.2　赤旗　1931.4.8

一ガンはメーデーに於て特に宣伝煽動されねばならぬ。

第五やうとする改良主義組合幹部に対しては決定的に斗争しなければならぬ。更にメーデーを祭式行列に終らせ

斗争の一方法として吾々は可未組織労働者、此業大衆をメーデー示威に参加させよ！』可集合地点に於ける身体検査絶対反対！』を主張しなければならぬ。改良主義組合幹部は事実上未組織及び失業者大衆の赤色運動参加を拒絶してゐるし、且つそれらの大衆を赤色運動へ参加させるためには少し小活動しないのである。革命的組合、特に改良主義組合内の革命的反対派の諸君はこの幹部達の裏切行動をバク口しなければならぬ。そしてすべての労働者をメーデー行列に参加させやうに働きかけねばならぬ。

以上の事柄に充分注意して、我々はメーデーに備へねばならぬ。具体的には？

(イ)労働者大衆の間に、メーデーと日常斗争の関係をハツキリと宣伝煽動すること。メーデーを単にデ史的日際デーとして分らせただけでは駄目だ。今まで述べて来たところをよく理解させることが最も肝要だ。全口協議会及びその加盟組合では既にメーデーの準備を始めてゐる。

見は全く正しい。メーデーの一週間前位から準備するやうでは殆んど何にも出来ない。メーデーといふ丁史的機会を捉へて、工場内の現実問題と結びつけて活動してこそメーデーに際して日常斗争を捲き起してもそれがメーデー前の斗争はどれだけの労働者が吾々のスローガンに動員されるかを調べる前哨戦である。メーデー前に当日の指揮者を選挙し、全員を適当の数隊に編成いなければならぬ。

(ロ)併し乍らメーデーの問題が吾々の前にのこされる。メーデーに際して日常斗争の問題が吾々の前にのこされる。メーデー前の斗争は、メーデー後の斗争とを各々メーデー前に、その場で直ちに解決してしまつたらどうするか？の問題が吾々の前にのこされる。

NO.3　赤旗　1931-4-5

日常斗争が纏けられてゐるところでは、メーデー当日、工場に（或は工場附近に）集つて大会を開き、そこで数ケ隊への編成に、指揮者の選出を行ひ、その場から列を組んで、示威運動に移らねばならぬ。而して数ケ部隊への編成、指揮者の候補者は前以て準備されてゐなければならぬ。革命的分子はこのことの必要を早くから労働者大衆に理解させ、労働者のすべてが示威運動に参加し得る様に努力しなければならぬ。当日までに、動員し得るおほよその見当を付けておいて、当日にはそれらの人々を中心として従業員大会を開かせ、大衆を参加させないでおかう。従つてそれらの組合は恐らく、公然と示威運動に参加なければならぬ。従つて組合単位で行ふべきであつて組合単位ではない。従業員大会、職場大会等の開催に依つて全員参加を決議させる

全農中四回大会の意義

一切の活動を工場へ移せ！
斗争を通じて組織の拡大強化へ！
革命的労働組合の大衆化へ！

プロフインテルンの決議を工場の内で生かせ！

光栄ある全農の創期的第四回大会は四囚官憲と社会民主々義者との党全なる協同戦線による未曽有のテロルの裡に終った。

本大会は何をなすべきであったか。 本大会は少くとも次の点を決定すべきであった。

1. 明確な革命的方針の決定
2. 未組織の組織――全農の拡大強化――農民組合の合同――革命化
3. 農民委員会の組織
4. 農業労働者の組織
5. 共同戦線党論・社会民主々義のバクロと粉砕――労働者と農民の戦斗的同盟

大会は、では何をなしたか。 大会は明確な革命的方針を決定すべきであった。だが、大会は行動綱領を決定した。この行動綱領は決して充分なものとはさへいひ得ないとしても、大体に於て吾党の方針に合致してゐる点に於て、それは確かに画期的のものといふことが出来る。貧農小作人は土地問題の革命的解決即ち農業革命の必然性を承認し希望しそれに向つて斗争することを表明してゐる。吾々は断言することが出来る吾々が絶対に正しいのだといふことを!!

大会は農民委員会の組織について遂に討論する機会を持たなかつた。

大会は農業労働者の組織についても十分討論を戦せ明確な決定を与へるに至らなかつた。

更に大会は社会民主々義者をたゝき出し得なかつた。彼等のブルジョア民会方能主義、無産政党主やを粉砕して、労働者と農民の戦斗的同盟について明確な認識に到達し得なかつた。

大会に於て何が明白にされたか。

全農の絶対多数が吾党の政策吾党の側に断乎として立つてゐるといふことが明白にされたのは重大である。このことは既約改正の採択に端的に表はれた。九ヲ対四二ヵ者で大衆党派、労農党派のプロックは敗北した。

この時以来彼等右翼派の暴行が一層露骨になつた。彼等は討議妨害、大会破壊の方針を強化した』と報告者は書いてある。右翼派は最初から彼等の勢力が少数であることを予知してゐた。それ故に彼等は最初から本大会に於て資本家地主政府の警察と協力して左翼の戦斗的分子をウマク大会から引ツこめき『暴力と官憲の力をかりて大会を占領する』計画を立て、大会に臨んだ。

彼等の軍隊の統率は田所。戦斗隊は三宅と滝迫が率いてゐた。稲村は田所と三宅の間を巧妙に策動した。彼等は警備隊傍聴席にスツカリテロ分子を送り込んでゐた。（にも拘らず全国同盟の組合ボス山内鉄吉が祝辞演説でデマを飛ばした際、全農の代議員同志達に完全にヤチ取り倒されてしまつて遂に壇上でケツをマクつたのはコツケイでもあり。）

だが、彼等のこの卑劣極まる陰謀は成功したかに見えた。同じ陣営で仇いてゐるのだから誰が戦斗的分子かはシリヌイてゐるのだ。出口を閉鎖しておいてブラナゲリ官憲に引渡すのだ。それに成功しおかつたらどうか

もがはいれる』様でなければならぬといつてゐるが、この正しい方針が工場の中で、職場の中で生きてゐないのだ。党組織に加入させ、そこで党的訓練を経てこそ優秀な共産主義者となり得るのだ。積極的労働者となり得るのだ。積極的労働者を工場内、労働者大衆内で積極的に活動しなければならぬ。ビクビクしてはならぬ。

プロフインテルンの決議を工場の内で生かせ！

一切の活動を工場へ移せ！
斗争を通じて組織の拡大強化へ！
革命的労働組合の大衆化へ！

共産党員は断力して革命的労働者運動に於ける重要部門たる革命的労働組合の拡大強化を敢行すべく、工場内、職場内、労働者大衆内で積極的に活動しなければならぬ。

報告を吾々は受取つてゐるが、何故これらの数字千分子が組合員たり得ないのか？影響下にありさへすれば、それでいゝといふ様な日和見主義的考へは豚にでも喰はせろ！

工場の中へ！職場の中へ！大衆の中へ！

今日程このスローガンが重要性を帯びてゐるときはなかつた。各産業別組合本部員、支部役員は自ら工場内生活に親しまねばならぬ。それなしには『大衆へ！』のスローガンは生きないであらう。工場内、職場内、又は大衆の中での活動を軽視したり、組合の仮面をかぶれる改良主義者であるかの如き分子に対して無慈悲的に斗争しなければならぬ。

吾々共産主義者は、労働組合方面に於けるかくの如き活動の模範者たらねばならぬと同時に全国協議会加盟組合員中の積極的活動分子を躊躇することなく党組織へ推薦すべく努力しなければならぬ。如何にそれが革命的労働組合員であらうとも労働者大衆へ！

全農中四回大会の意義

光栄ある全農の創期的第四回大会は四囚官憲と社会民主々義者との党全なる協同戦線による未曽有のテロルの裡に終った。

本大会は何をなすべきであったか。 本大会は少くとも次の点を決定すべきであった。

1. 明確な革命的方針の決定
2. 未組織の組織――全農の拡大強化――農民組合の合同――革命化
3. 農民委員会の組織
4. 農業労働者の組織
5. 共同戦線党論・社会民主々義のバクロと粉砕――労働者と農民の戦斗的同盟

大会は、では何をなしたか。 大会は明確な革命的方針を決定すべきであった。だが、大会は行動綱領を決定した。この行動綱領は決して充分なものとはさへいひ得ないとしても、大体に於て吾党の方針に合致してゐる点に於て、それは確かに画期的のものといふことが出来る。貧農小作人は土地問題の革命的解決即ち農業革命の必然性を承認し希望しそれに向つて斗争することを表明してゐる。吾々は断言することが出来る吾々が絶対に正しいのだといふことを!!

大会は農民委員会の組織について遂に討論する機会を持たなかつた。

大会は農業労働者の組織についても十分討論を戦せ明確な決定を与へるに至らなかつた。

更に大会は社会民主々義者をたゝき出し得なかつた。彼等のブルジョア民会方能主義、無産政党主やを粉砕して、労働者と農民の戦斗的同盟について明確な認識に到達し得なかつた。

大会に於て何が明白にされたか。

全農の絶対多数が吾党の政策吾党の側に断乎として立つてゐるといふことが明白にされたのは重大である。このことは既約改正の採択に端的に表はれた。九ヲ対四二ヵ者で大衆党派、労農党派のプロックは敗北した。

この時以来彼等右翼派の暴行が一層露骨になつた。彼等は討議妨害、大会破壊の方針を強化した』と報告者は書いてある。右翼派は最初から彼等の勢力が少数であることを予知してゐた。それ故に彼等は最初から本大会に於て資本家地主政府の警察と協力して左翼の戦斗的分子をウマク大会から引ツこめき『暴力と官憲の力をかりて大会を占領する』計画を立て、大会に臨んだ。

彼等の軍隊の統率は田所。戦斗隊は三宅と滝迫が率いてゐた。稲村は田所と三宅の間を巧妙に策動した。彼等は警備隊傍聴席にスツカリテロ分子を送り込んでゐた。（にも拘らず全国同盟の組合ボス山内鉄吉が祝辞演説でデマを飛ばした際、全農の代議員同志達に完全にヤチ取り倒されてしまつて遂に壇上でケツをマクつたのはコツケイでもあり。）

だが、彼等のこの卑劣極まる陰謀は成功したかに見えた。同じ陣営で仇いてゐるのだから誰が戦斗的分子かはシリヌイてゐるのだ。出口を閉鎖しておいてブラナゲリ官憲に引渡すのだ。それに成功しおかつたらどうか

代議員は全部で百六十五名――の左翼代議員、中央委員が革命的大会々場から縛付きで引き立てられたのだ!!"光輝ある大会々場は完全に階級敵にジュウリンされたのだ!!"

これに対して左翼は如何に斗つたか。左翼はこゝでもパリ・コンミユンの英雄達と同様の誤りを冒してゐる。彼等は階級敵に対して余りに寛大すぎた。

だが、左翼の最大の弱点は大会準備の組織的不充分にある！左翼は既に準の配置に於て失敗してゐる。左翼の主力は完全に官憲に包囲されてゐた。左翼労力は更に両断されてゐた。そして両労力の間には緊密な連絡がなかつた。戦斗的同志の多くを中央委員として隔離した地点に持つてゐたた左翼にとつてこの事は全く救命的であつたのだ。

だが、何よりも大きな左翼の組織的不敗は既定の事実として充分予知されてゐた官憲と右翼の敢同攻撃に対して二段三段の備へをしてゐなかつた点にある。左翼指導者は必ずしも一挙に斃れるとは思はなかつたのではなかつたが、この時に最早一人の組織者も指導者ものこつてはゐなかつた。大会有四日に於てもなほ左翼的労力は現して右翼と斗はなかつたのではなかつたが、右翼対左翼の戦斗は此時以来断然右翼のものとなつた。

吾々はこゝで大阪地方の党員並に全協組合員について一言しなければならぬ。同志達の全農大会に対する切きかけは決して充分であつたとは言へない。これは同志達の大きな誤謬であつた。そんなことではプロレタリアートのヘゲモニーを確保することは不可能だ。同志達は労働者と農民の戦斗的同盟確立の重要性については知りすぎてゐる筈だ。プロレタリアートの鉄腕を資農大衆に積極的に発しのべなければならぬに拘らず同志達は実践に於て全く反対の事を証明した。

吾党中央部は全農内の党フラクションに対して全農中四回大会に関して詳細に指導した。吾党の全農大会に送つたメツセージは不幸にして公然と表はれ得なかつた。

全農の同志達は吾々の指導を成功的に遂行したとはいへないとはいへ、右翼の暴力に依る戦術者も大会破壊の挑戦に対して最後まで党レタリア民主々義者として全農と全農大会を護つた階級的行動は左翼的大衆の間に絶大の信頼を確保したはかりでなく右翼的大衆に多大の感銘を与へた。

中央部（一、二名を除き全部）の全農指導の誤謬を実践的に表明しておらない点、無新がプロレタリアートの大衆的政治新聞であることを実践的に実証してゐない点にある。

無新は一応は同志アニケを組撃事件を政治的に取扱つてゐる事を実践的に表明しておらない点、無新がプロレタリアートの大衆的政治新聞であることを実践的に実証してゐない点にある。

無新は最近非常に大きな国際的政治的誤謬を暴した。

国際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟画代表同志アニケーフ射撃事件に対する無新の記事がそれである。

無新の最大の誤謬は無新が日本共産党の一指導であるとの自負を以て、左翼戦斗分子の全農指導の誤謬を暴露し、左翼戦斗分子の全農大会を護つた階級的行動を積極的に支持しなかつた点にある。

無新は全農の同志達は吾々の指導を成功的に遂行したとはいへないとはいへ、右翼の暴力に依る戦術者も指導者ものこつてはゐなかつた点にある。

全農の拡大強化並びに革命化万歳！

日本共産党大衆化万歳！

無新の国際的政治的誤謬に就て

無産者新聞は最近非常に大きな国際的政治的誤謬を暴した。

国際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟画代表同志アニケーフ射撃事件に対する無新の記事がそれである。

無新の最大の誤謬は無新が日

禁転載

ねるが甚しく不充分である。これこそ政治的に未熟であり国際主義に不徹底であることの表明である。

世界帝国主義の一環としての、東洋に於ける反動の主柱としての日本帝国主義、国際帝国主義の内的弱点を以てしてある日本帝国主義が、帝国主義戦争、特にソヴエート同盟に対する攻撃戦争を大膽に準備し積極的に活動しつゝあることは吾々が常に具体的に説明したところである。

同志アニケーブ組撃事件はこの積極的一歩前進である。この点をもつと政治的にもつと具体的に取扱ふべきであつた。

吾々はハッパリ言ふことが出来る。今度の事件は決して日佐藤個人の私怨』かりなされたものではない。同志アニケーブは佐藤とは一面識もない。今度の事件は日本帝国主義の組織的計画的ソヴエート同盟攻撃戦争の大膽な一歩前進である。帝国主義戦争の中核の指導下に帝国主義特にソヴエート同盟攻撃戦争を大膽に煽動しつゝある反動団体日露協会』を通じて計画的になされたものである。犯人佐藤は護協会の秘密の会員である。会員としての彼はソヴエート同盟に関する専門家の一人である。彼はソヴエート同盟攻撃戦争煽動の二者を着はしてゐる。彼は犯行迄悠々と引上げ三十分を出ですして二名の護協会員と彼の兄と日比谷署長とに護られて警視庁に自首して出たのだ。(犯人佐藤をソヴエート同盟の手に渡すと事が面倒になる。特に事件の真相がバクロされる。帝国主義政府は日本農業恐慌の深刻化に対して何等の有効的な組織的なキビシな護協会警視庁の統一的行動の内に事件の真相が端的にバクロされてゐる。

国際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟は社会主義建設のスバラしい発展、世界無比の赤軍を有するにも拘らず、帝国主義政府は日本政府力要求に応じ日本漁業家に対してあらゆる便宜を許与した。日露関係は日本政府が最近来取締りを加へず惹いてアニケーブ氏の組撃事件を惹起した様な帝国主義団体の反ソヴエート活動さへ終熄させれば正常状態を存続するであらう。日本との政治経済関係の発展を望むソヴエート政府の政策を支持しつゝある。ソヴエート政府が山師の活動を抑制し組撃事件に関係ある団体を抑圧して反ソヴエート運動を中止せしむるため即時決定的手段を取るべき事を要求する』

吾々は社通(社会運動通信)の報導にはワザと何等の批判も訂正も加へなかつた。

吾々はこゝでソヴエート同盟の国志連並にソヴエート同盟共産党機関紙プラウダの組撃事件に対する態度を社通を通じて見た。そしてソヴエート同盟を先頭とする国際プロレタリアートの平和政策をハッキリと見た。同時にこれと対比して日本帝国主義政府の正態をハッキリと見ることが出来た。

無新はプロレタリアートの新南としてプロレタリアートは同志アニケーブ組撃事件に対して如何なる要求を持つかを明白に示すべきであつた。

政府は日本農業恐慌の深刻化に対して何等の有効的な組織的なキビシな護協会警視庁の統一的行動の内に事件の真相が端的にバクロされてゐる。

国際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟は社会主義建設のスバラしい発展、世界無比の赤軍を有するにも拘らず、帝国主義政府は日本政府力要求に応じ日本漁業家に対してあらゆる便宜を許与した。日露関係は日本政府が最近来取締りを加へず惹いてアニケーブ氏の組撃事件を惹起した様な帝国主義団体の反ソヴエート活動さへ終熄させれば正常状態を存続するであらう。日本との政治経済関係の発展を望むソヴエート政府の政策を支持しつゝある。ソヴエート政府が山師の活動を抑制し組撃事件に関係ある団体を抑圧して反ソヴエート運動を中止せしむるため即時決定的手段を取るべき事を要求する』

吾々は社通(社会運動通信)の報導にはワザと何等の批判も訂正も加へなかつた。

吾々はこゝでソヴエート同盟の国志連並にソヴエート同盟共産党機関紙プラウダの組撃事件に対する態度を社通を通じて見た。そしてソヴエート同盟を先頭とする国際プロレタリアートの平和政策をハッキリと見た。同時にこれと対比して日本帝国主義政府の正態をハッキリと見ることが出来た。

無新はプロレタリアートの新南として日本プロレタリアートは同志アニケーブ組撃事件に対して如何なる要求を持つかを明白に示すべきであつた。

無新は更に労働者農民は何をなすべきかを明示すべきであつた。「何をヤレ」と斗争と組織とを煽動をしなかつた。無新はそれをしなかつた。

無新は煽動並伝並に組織者としての任務を持つとも大切な事のみである。ソヴエート政府は日本政府力要求に応じ日本漁業家に対してあらゆる便宜を許与した。日露関係は日本政府が最近来取締りを加へず惹いてアニケーブ氏の組撃事件を惹起した様な帝国主義団体の反ソヴエート活動さへ終熄させれば正常状態を存続するであらう。日本との政治経済関係の発展を望むソヴエート政府の政策を支持しつゝある。ソヴエート政府が山師の活動を抑制し組撃事件に関係ある団体を抑圧して反ソヴエート運動を中止せしむるため即時決定的手段を取るべき事を要求する』

吾々は社通(社会運動通信)の報導にはワザと何等の批判も訂正も加へなかつた。

吾々はこゝでソヴエート同盟の国志連並にソヴエート同盟共産党機関紙プラウダの組撃事件に対する態度を社通を通じて見た。そしてソヴエート同盟を先頭とする国際プロレタリアートの平和政策をハッキリと見た。同時にこれと対比して日本帝国主義政府の正態をハッキリと見ることが出来た。

無新はプロレタリアートの新南として日本プロレタリアートは同志アニケーブ組撃事件に対して如何なる要求を持つかを明白に示すべきであつた。

無新は更に労働者農民は何をなすべきかを明示すべきであつた。「何をヤレ」と斗争と組織とを煽動をしなかつた。無新はそれをしなかつた。

無新は煽動並伝並に組織者としての任務を持つとも大切な事のみである。ソヴエート政府は日本政府力要求に応じ日本漁業家に対してあらゆる便宜を許与した。日露関係は日本政府が最近来取締りを加へず惹いてアニケーブ氏の組撃事件を惹起した様な帝国主義団体の反ソヴエート活動さへ終熄させれば正常状態を存続するであらう。日本との政治経済関係の発展を望むソヴエート政府の政策を支持しつゝある。ソヴエート政府が山師の活動を抑制し組撃事件に関係ある団体を抑圧して反ソヴエート運動を中止せしむるため即時決定的手段を取るべき事を要求する』

吾々は社通(社会運動通信)の報導にはワザと何等の批判も訂正も加へなかつた。

吾々はこゝでソヴエート同盟の国志連並にソヴエート同盟共産党機関紙プラウダの組撃事件に対する態度を社通を通じて見た。そしてソヴエート同盟を先頭とする国際プロレタリアートの平和政策をハッキリと見た。同時にこれと対比して日本帝国主義政府の正態をハッキリと見ることが出来た。

無新はプロレタリアートの新南として日本プロレタリアートは同志アニケーブ組撃事件に対して如何なる要求を持つかを明白に示すべきであつた。

改良主義幹部の召集する メーデー準備の集会に 積極的に参加せよ!

吾々は殺し当り工場、鉱山、軍船、大企業、官庁、仕事場、農場の労働者、失業労働者、農民諸君が即刻大々の仕き場の中に無新への労働者通信員団を組織して無新との生き生きした結合を確立することを要求する。

ここに掲げたのは××化学工場細胞から送つて来た上申書の一部である。赤旗の原稿として書かれたものではないが、こゝに掲載する。××化学工場細胞の決定は正しい。

日常生起する相々の問題について各細胞、各党員、各読者がこの例になりつてドシドシ書いて送るように要求する。それなくしては党並に赤旗の大衆化はあり得ないであらう。この表題は赤旗の編輯者が附したものである。

××化学工場細胞

俺達は全国同盟の革命的反対派に属してゐるのだが、全国同盟では今盛んにメーデーの準備をやつてゐる。俺達の地区の準備活動を一寸報告する。俺達の地区では革命的反対派はまだ組織されかけたばかりだといふこと、俺達の工場には二百五十人の労働者があるが、俺達の細胞はまだ小さいといふことを断つておく。

俺達の地区ではメーデー準備のために集会がもたれることになつてゐる。この集会に出席しないと罰金をとるといふのだ。この不景気に罰金をとられてたまるか。この集会には、だから、この地区の全組合員——とまではいかなくも大多数の組合員が出席することは確かだ。

この会合には全国同盟から改良主義幹部が出席して長々と訓示を与へる。別の言葉で言ふと奴等の口を通して日本帝国主義政府のメーデーに対する指令を押しつけるのだ。これがこの集会の意義なんだ。これが罰金のクドクなんだ。

俺達の細胞では赤旗の示した方針に従つて既にメーデー斗争の準備斗争を斗つてゐる。だが、それについて報告するのがこの上申の目的ではない。この上申の目的は全国同盟××地区の決定した、罰金でおびやかしたメーデー準備の集会に対して俺達の細胞の決定した対策について出席しない対策についてだ。

これを細胞で討議にした時に一同志は集会がイコソトを主張した。この同志は同盟つてゐる。これは極左的偏向だ。俺達は細胞員全部が出席するばかりでなく全工場の組合員をこの集会に動員するように工場新聞で煽動することに決定した。

他の同志は当地区の革命的反対派の弱いこと、俺達工場細胞の弱いことを評価して出席しなければならぬが、細胞員は沈黙を守るべきだ。機械的に進出してはならぬ。この集会に出席する細胞員の任務は

(1) 革命的労働者を見出すこと
(2) 全組合員の意識の程度、彼等の意向を精細に知ること
(3) 改良主義幹部の裏切りを詳細に書き取つて工場並に反対派ニュースでバクロすること
(4) 党に報告すること

にあるのだ、と主張した。これも間違つてゐる。これは右翼日和見主義的傾向だ。なるほどそれも確かに俺達の任務の一つではある。だが俺達の任務はそれだけではない。それだけではない!××地区反対派から適当な同志をこうした集会に派遣して欲しい。

幹部のお祭りメーデーと党の正しく指令してゐる革命的メーデー斗争とをハッキリ対置させる。奴等の掲げるスローガン即ち帝国主義ブルジヨアジーのスローガンと党の掲げるスローガンとを労働階級のスローガンとをハッキリ対峙させる。改良主義、合法主義、社会民主々義幹部と俺達とどちらが労働者大衆の真の階級戦士かを大衆の面前で具体的に示して大衆をして審判させる。そして全組合員を党並に革命的反対派にカクトクするばかりでなく爾等の組合員を通じて工場内の未組織労働者を広汎にカクトクする。其為にあらゆる準備をとゝのへる事に細胞は決定した。是は間違つてゐるだらうか。

全国同盟の改良主義幹部も先大では日常斗争を激発してメーデーに結合せよ!と云つてゐる。だが、奴等の実際にやる事は精々こんな集会を開く事が関の山なんだ。だが俺達はかゝる集会をも百パーセントに利用すべきだと思ふ。改良主義組合の各地区ではこうした集会が開かれるが、党員や革命的反対派のゐない地区へは党全協並に革命的反対派から適当な同志をこうした集会に派遣して欲しい。

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

NO.9　赤旗　1931-4.8

正誤表

★第三十五号

第一頁中段末行「社会民主政策的」の民主を削る。
〃二頁第二段第四行「我慢せず美」の「美を喜」に訂正す。
〃五頁第一段終りより七行「パ□ロ」と「ク」を挿入す。
〃六頁第一段第二十七行「ネヂリ」の「リ」を削る。
〃〃〃終りより二行「この問題に実に……」の「に」を「は」に訂正す。
〃〃〃終りより第八行「又ぶとすれば」の次へ「それは誤りだ」を挿入す。
〃七頁第一段終りより第五行「官覚」は「官憲」に訂正す。
〃〃第二段第四行「地主、資本」の次へ「家」を挿入す。
〃八頁第一段第十四行「立てよう」の「う」を削る。
〃〃最下段第十四行「職業委員会の組織」は「職民委員会の組織」に訂正す。
〃〃〃の次へ「活動」を挿入す。
〃九頁第一段第二行「道府県会」は「道府県会の廃止」に訂正す。
〃〃最下段終りより第十三行「社民フアシスト」は「社会フアシスト」と訂正す。
〃九頁第二段第十九行「的デモ、しかし□際プロ……」は「的デモをしかも□際プロ……」に訂正す。
〃〃第三段第九行「アウフシュタンド」を削る。
〃十頁最下段末行「アウフシュタンド」を削る。
〃十一頁第一段終りより十七行「これを表明してゐる。」の下へカッコ」を挿入す。
〃十一頁第二段終りより第八行「主義任ム」を「主義的任ム」に訂正す。
〃〃第三段第十行「化しだ」の次へ「現在」を挿入す。
〃〃第十一行「生成して来るもの」を削る。
〃〃最下段第八行「それはプロレタリアートの合」を「それはプロレタリアートのための合」に訂正す。
〃十二頁最下段第六行「三・一念日」を「三・一〇念日」に訂正す。
〃〃第十四行「自己帝□主ギ政府の敗北」を「自□帝□主ギ政府の敗北」に訂正す。

★三・一五記念特輯号

〃七頁第一段終りより第十行「であらう」を削る。
〃八頁第一段第二行「ひまい」を「ふまい」に訂正す。
〃〃終りより第五行「ナニインターナショナル」不明瞭につき明記する。

★第三十六号

第一頁第一段第二十行「戦争準備の技術的方面は備へられた」を「整」に訂正す。
〃二頁第二段終りより第十一行「ひば、党が……」を「遂に整」に訂正す。
〃四頁第二段終りより第四行「遂に整」を「遂に体」に訂正す。
〃〃第三段終りより第十一行「(山川着□軍一無産政党論)」を「(山川着□軍一無産政党論)」に訂正す。
〃四頁最下段終りより第十三行「天皇、資本、□家資本」を「天皇、資本、□家資本」に訂正す。
〃六頁第二段第十一行「斗争の南」を「斗争を南」に訂正す。
〃〃最下段第十一行「無産青年同盟」を「共産青年同盟」に訂正す。
〃六頁最下段終りより第九行「献金でもさせられ」を「献金でもさせられ」に訂正す。
〃八頁第一段第九行「書いて送つて来た」を「書いて送つて来た」に訂正す。
〃九頁第三段第二十四行「且し組織して」を「且つ組織して」に訂正す。
〃十頁第二段終りより第十六行「更に、党、組合は」を「更に、党、組合は」に訂正す。

★第三十七号

第一頁第一段第九行「革命的である」を「革命家である」に訂正す。
〃七頁第一段第十二行「全農はむしろ農民協会たるであらう」を削る。
〃七頁第二段第六行「七月」を「七月闘争」に訂正す。
〃〃第三段第十行「農民協会たるであらう」を「七月闘争民協会たり得ない」に訂正す。
〃七頁第四段終りより第五行「全農を農民協会と確定し」を削る。
〃八頁第二段終りより第九行「斗争組織として」の次へ「かといふ」を挿入す。
〃八頁第二段終りより第八行「党然」を「当然」に訂正す。
〃十頁第一段終りより第十八行「党然」を「当然」に訂正す。
〃十一頁第一段終りより第五行「重要素」を「重要な要素」に訂正す。
〃十二頁第二段第七行「大衆政治家の要諦である」を「大衆政治家の要諦である」に訂正す。

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

NO.1　赤旗　1931-4.22

赤旗

第39号

日本共産党中央機関紙
日本共産党支部国際共産党

国際情勢と日本帝国主義の役割

一、資本主ギ世界はその一般的危機の上に捲き起された経済危機の激化の中にある。そしてこの世界経済危機は又世界資本主ギの危機を甚しく尖鋭化しつゝある。『永久繁栄』を誇つた北米合衆□も、ブルジヨアジーの一切の科学と巨額の費用を傾注せる彼等の景気研究機関、並びにこれと協力せる一切の日和見主ギ者の予言を裏切つて、今や危機の最尖中にある。それに続いて、イギリス、ドイツ、イタリー、日本、フランス等々の資本主ギ諸□も激化しつゝある経済危機の渦中にある。恐んど全ての資本主ギ□の工業界では生産減少が見られて居り、その多きは実に六〇%に及んでゐる。産業の資本主ギ的合理化と経済危機に依つて街頭へ投げ出された失業者は日毎に増大し、ソヴエート同盟を除く全世界を通じて三千万に達し、その家族を合すれば正に一億に垂んとする勤労民衆が資本主ギ制度の故に餓死の深淵につき落されつゝある。資本家階級はこの危機より脱出し、彼等の支配を維持せんが為に、□内的には、自□の労働階級、農民、勤労被搾取民衆を益々狂暴に搾取し、圧制を加へ、□外的には、植民地半植民地との矛盾も増大、尖鋭化し、後者に於ける反帝□主ギ運動は熾烈になつてゐる。支那革命の進展、支那ソヴエート運動の輝かしき発展、打倒帝□主ギの諸□に於けるしき指導等々。

二、世界プロレタリアートの祖□、ソヴエート同盟は二つの帝□主ギ諸□と鋭く対立する。こゝでソヴエート同盟共産党（ボルシエヒキ）の指導の下に素晴らしいテンポで進展してゐる。例へば一九三一年に於ける工業生産は前年度に比し二五%の増加を示し、農村では資本主ギ的要素の最後の止の土の牙城たる富農を階級として掃滅するまでふ事なく進展してゐる。今や、只に工業のみならず農業をも含む全□民経済が統一された計画の下に行はれるに至つた。プロレタリア独裁の下に於てのみ可能なるかくの如き発展は□全世界の労働者、全ての虐げる農民、被圧迫植民地民衆、資本主ギ□家の陸海軍兵卒及び水兵□の間にソヴエート同盟に対する信頼と希望とを喚起し、それらの中に於ける力強き革命的推進力となつて居り、□際ブルジヨアジー及びその御用人社会フアシスト共の間に極なき憎悪を招いてゐる。

三、かくて対立する二つの世界が存在する。資本主ギと社会主ギとの世界である。□資本主ギ体系の深刻化して行く危機の最も明瞭な表れは資本主ギ諸□と社会主義建設の諸□との世界経済の分裂である』（共産インターナショナルの綱領）而してソヴエート同盟に於けるプロレタリア独裁の内的強化、社会主ギ建設の成功、プロレタリア大衆と被圧迫植民地民衆との間に於けるソヴエート同盟の増大し行く影響と高まり行く権威とはそれ故に□際社会主義革命の継続強化及び発展である』（同上）。

それ故に、帝□主ギ盗賊□共は各々の利益の対立、矛盾の激化のために、世界再分割のために互に抗争し乍らもソヴエート同盟に対する時、彼等は一体となつて一つの戦列を形成する。

□帝□主ギ諸□家の政策に於ける決定的な主要傾向はソヴエート同盟を包囲しそしてソヴエート同盟を破壊し、全世界にブルジヨアジーの恐怖支配を樹立することを目的とする反革命的戦争を企てんとする努力である』（同上）。帝□主ギ戦争の危険、ソヴエート同盟

一、全党員は日常経済斗争の先頭に立て!!

二、大衆斗争を通じて解党派一味を粉砕せよ!!

三、右翼的極左的偏向に対する決定的斗争に依り党の政治的組織的統一を確保せよ!!

四、党大衆化万歳!!

五、プロレタリア独裁万歳!!

六、日本共産党万歳!!

七、コミンテルン万歳!!

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！！

NO.2　赤旗　1931.6.22

に対する帝国主ギ諸国の反革命的戦争の危険は今や全く現実の問題となつてゐる。帝国主ギ者及びその手先は今やそのことを公然と述べ、更にその必要を自国の労働者農民に唱導してゐる。

四　日本帝国主ギは東洋に於ける反革命の主柱である。日本帝国主ギは既に久しい期間に亘つて革命支那に対して武力的弾圧を加へ、朝鮮、台湾の革命運動に対しては、筆舌につくしがたき迫害と虐殺とを以て答へて来た。『太平洋の治安』、『遅れき支那の領土では、アメリカ資本が、盗賊的な、破壊的な、そして苛悪な日本帝国主ギ――その軍隊は既に支那の若しい部分を占領してゐる――と衝突する。日本帝国主ギは日本の野蛮な恐怖政治に服従を肯せざる支那民衆のすべての勢力に対して破壊的戦争を行つてゐる。被虐といふ支那の労働者農民及び手工業者は日本帝国主ギの、即ち支那の民衆との血腥き決算と、彼日本の競争者アメリカとのおそろしい血斗を準備しつゝある日本帝国主ギの、統一戦線に対する挑戦的攻撃を想定しつゝある日本帝国主ギの、鉄の靴の下に征伏せられてゐる』（共産主ギインタナショナルサ六回世界大会の宣言）太平洋、特に『遅しなき支那』は『資本主ギ体系の深刻化して行く危機』の震源地としての重要性を益々増加しつゝある。最早これ以上延期し得なくなつて『断行』（？）した『金解禁』に引き続いて世界恐慌の嵐に襲はれた一九三〇――三一年の日本帝国主ギにとつて特徴的なるものゝ一つは『植民地に対する侵略、新なる古界戦争及びソヴエート同盟に対する進軍を日程に上せつゝある』（共産主ギインタナショナルの綱領）ことである。

日本の陸海軍当局はソヴエート同盟と革命支那とを仮想敵国となしてゐると述べてゐる。シベリア侵略に於てはソヴエート同盟の革命的威力の前に美事に失敗したとは云へ、シベリア一体の詳細にして正確な軍略地図を作製した。彼等は、労働者、貧農、勤労被搾取民衆をより強烈に搾取弾圧することに依つてその為に必要な最新精鋭な武器ドクガス、の生産や『防力の充実』を敢行してゐるのである。かくて日本の支配階級は反ソヴエート同盟戦争の技術的準備をより充分に完成することに努力すると共に、愛に進んで、今や一切をあげてその思想的準備を行つてゐる。学校、青年団、敬会、寺院、在郷軍人団、反動団体の計画的軍国主ギ宣伝活動の積極化、ブルジヨア新聞、雑誌、ラヂオ等々の利用。又、ソヴエート同盟通商代表暗殺未遂は明白に日本の支配階級がソヴエート同盟に対する戦争を挑めることを示すものである。

かくて、来るべき第二帝国界大戦に於ける日本帝国主ギの役割は重大である。それと共に、この古界的規模に於て敢行される大階級戦に於ける日本プロレタリアートの役割も亦実に重大である。日本に於ける経済的危機の激化、『国際的矛盾の尖鋭化は吾国に於ける資本対労働の階級的矛盾を益々深め、階級斗争発展の客観的条件は正に作られて居り、更に発展されつゝある。

帝国主義を打破せよ！

本帝国主ギにとつて特徴的なるものゝ一つは『植民地に対する侵略、新なる古界戦争及びソヴエート同盟に対する進軍を日程に上せつゝある』（共産主ギインタナショナルの綱領）ことである。

日本の陸海軍当局はソヴエート同盟と革命支那とを仮想敵国となしてゐると述べてゐる。シベリア侵略に於てはソヴエート同盟の革命的威力の前に美事に失敗したとは云へ、シベリア一体の詳細にして正確な軍略地図を作製した。彼等は、労働者、貧農、勤労被搾取民衆をより強烈に搾取弾圧することに依つてその為に必要な最新精鋭な武器ドクガス、の生産や『防力の充実』を敢行してゐるのである。かくて日本の支配階級は反ソヴエート同盟戦争の技術的準備をより充分に完成することに努力すると共に、愛に進んで、今や一切をあげてその思想的準備を行つてゐる。学校、青年団、敬会、寺院、在郷軍人団、反動団体の計画的軍国主ギ宣伝活動の積極化、ブルジヨア新聞、雑誌、ラヂオ等々の利用。又、ソヴエート同盟通商代表暗殺未遂は明白に日本の支配階級がソヴエート同盟に対する戦争を挑めることを示すものである。

かくて、来るべき第二帝国界大戦に於ける日本帝国主ギの役割は重大である。それと共に、この古界的規模に於て敢行される大階級戦に於ける日本プロレタリアートの役割も亦実に重大である。日本に於ける経済的危機の激化、『国際的矛盾の尖鋭化は吾国に於ける資本対労働の階級的矛盾を益々深め、階級斗争発展の客観的条件は正に作られて居り、更に発展されつゝある。

日本帝国主ギは、この戦争を自己の国内に於ける労働者農民の革命的運動の圧殺と、ソヴエート同盟に対する干渉戦争とに利用しようとしてゐる

ふことから先づ合法的新聞を読ませ、それから非合法な心のを見せたりするといふ様なやり方であつた。そこからして配布網の確立が主要中心問題となり、結局吾々の斗争は配布網の確立が主要な因子となつて発展するのではなくて、組織が確立してこそ充分な斗争が可能であるのだ。而して組織の確立は吾党の政策の下に労働大衆を広汎に斗争へ動員することに依り、又、その斗争を指導することによつて行はれるのである。而して党の政策は常に工場内の最も熾烈な問題と結合さいて宣伝し煽動されねばならぬ。限られた特定の人々に多くの思想、理論を教へるといふ宣伝のみをやるといふ領域から脱出して、一つの思想を多数の大衆に分らせるといふ煽動に移らねばならなかつたのである。党の大衆化なる問題は、党が大衆の前に公然とその政策を示し——あらゆる問題に対する党の見地を明白に大衆の面に行き渡らせることを、そして、それを通じて急速に党を組織的に、文字通り、大衆的に大きくすることを意味するのだ。

所が、従来のやり方では極少数の人々しか党の政策を知らないので、そして、その人々ですら、党の政策をどうやつたら大衆の生活にピッタリと来るやうに実行出来るかを充分に理解し得なかつたために、工場内の党員達は一ケの宣伝グループといふ型を持つてゐたのである。勿論全部が全部そうであつたといふのではないが、多くはそうであつたと言ひ得るであらう。それ故には一体どうやつたらいいのか？、面両者の要点は正にここにある。

斗争を如何にして起すか？

吾々共産主義者の任務であつて、起つて来る事件を待つてゐるのではない。問題は如何にして大衆を斗争へ動員すべく煽動するかにある。吾々は煽動のやり方に就て、同志野村裏二の数重な労作を持つてゐる。同志小某保太郎著『危機労働組合運動』（一九九頁）中の『煽動』とは何ぞや』かそれだ。吾々は同論文中から若干引用しよう。

『労働者を斗争に奮起せしめる為の煽動（アジテーション）のビラには、次の条件が備つてゐねばいゝ。

〔一〕他の工場の労働者がどんな労働条件で働いてゐるかの事実。

〔二〕かゝる労働条件を如何にして獲得したかの事実。

〔三〕それは労働者が労働組合に団結して斗争した結果であること。

〔四〕その実例は一つ二つではいけない。何故なればそれは一つや二つでは『その工場は特別だ』といふから。

〔五〕繰り返し繰り返しこの他の工場の労働条件の実例を沢山知らしてやること。』

そして彼はそれにこんな例へ話をくつつけてゐた。『労働者に君の所の労働条件はこんなに悪い、資本家に要求を提出しろ、といふ丈で労働者は斗争するものでない、それは丁度養蚕の中のウヂ虫にお前はそんな臭い所に居らずに出て来い、その臭いのが分らぬのかとどなりつけるのと同様だ。それより上等の香水を二本フリかけて見ろ、すぐこのウヂ虫は自身が臭いところにゐることをこの香水のにほひに接して初めて知り出す。そしてモット良い香のあることを知り、それを欲するやうになる』と。『彼も又実例と対照といふことを煽動の中心においてゐた』ことを（一九八〇頁）。

同志野村は同じ論文の中で、吾々の同志達が自分のやり方の悪いのを夕ナに上げて目標工場の労働者が無自覚にとか、敵階級政策がテッテイしてゐるとかといふことを以て仕事がウマク行かない理由にしてゐることの誤謬を指摘してゐる。同志野村は勝利ど斗争の実例が如何に模範的煽動者であるかを多くの実例で証明してゐる。労働者に呼びかける時に激烈な文字は使はなくともよい現に『全口で斗争しつゝある工場と要求と労働者が如何なる組織で斗争しつゝあるかを不断に知らせておくならばそれだけでも動揺が起るのだ。（そして、それ自体はまちがひではないか、それだけでは斗争は起きない。）併し、どこの工場ではどんな風に苛刻に扱つたらいゝのか？吾々は工場新聞を多くの工場に持つてゐねばならぬ。共産党の悪口は云はせるが、共産党に好意を持つた意見は述べることが出来ないなどといふ工場内の空気を一掃し、労働者は誰でも自由に必要なことをシヤベれる様な空気を作る様にしなければならぬ。長野県下の武装村では（諸君、注意し給へ、農村でだ）怨んど全部が——小学校生徒まで——赤旗の歌を公然と歌ひ、共産党万才を叫んでゐるが警察では手の出しようがないのだ。この事実は吾々に多くのことを教訓深く理解させてゐるのではないか。

同志野村は前掲引用文中で次の如く言つてゐる（八十八頁）。

『吾々はいつでも労働者を一人ニ人といふ風に把かむのではなく、大衆的に把握することでなければならぬ』。……『労働者を組合に這入れと誘きつけに行くのではなく、労働者がどうしても組合に入らねばならぬ様に、労働者が進んで組合に這入つて来る様に仕向ける（働く）ことだ！』と。

同志諸君、吾々は常に労働者大衆の傾向が現在奈辺にあるか、又、如何なる方向へ向つて発展し様としてゐるかを充分に評価し、その上に立つて、大衆の傾向に追随するのではなく、現実を現実として認めつゝ正しい方向へ導いて行かねばならぬ。大衆の後から行くとすれば、それは指導ではない。大衆の傾向を無視して自分の見解だけで動き、その見待を大衆に押しつけ様とすれば、吾々は大衆から切り離されて了ふのだ。『大衆と共にあり、常に大衆の先頭に立つてゐるものゝみがよく大衆を指導し得る』のだ（ロゾフスキー）。大衆を斗争へ準備し、動員し、組織し、指導することによつて得られるのだ。

如何に、吾党を大衆化するかの問題に対して慎重に考慮し、集団的討論に依つて最もよき解決の具体的方法の発見へと進まねばならぬ。或同志の個向に対する答としてのこの論文は、従つて、同志諸君によつて充分に討論されねばならぬものである。

城が工場に行いてみた通り、彼は常にブルジョア新聞を中心にして労働者を集めた。同志山本を訳して『新聞読み』と言つた人もあつたが、事実は吾々の全てがよく知つてゐる如く、同志山本はよき煽動者であり、宣伝者であり、且つ組織者だ。吾々は只ブルジョア新聞に依つてすら多くの煽動をなし得ることを知つた。然るに、吾々の所には、『労働新聞』『赤旗』『無産者新聞』『無産者新聞』を初め、各産業別組合本部の機関紙もあるのだ。吾々は全口的に一ブル新聞に表はれない事件をも含めて——労働者大衆の状態を知り得る地位にあるのだ。然るに、そうだ、然るに吾々はそれを生かしてはゐないのだ。又、吾々はいふ『斗争の経験から学べ』と。『けれ共それは少数の人々の研究題目とはなつても、その労働者大衆の斗争取扱がどれ程工場内に持ち込まれてゐるだらうか？同志山懸が昼休みを利用し乍ら座談的に各地方の斗争事実を述べるといふ様なことがどれ程多く行はれてゐることだらうか？吾々は自分自身に考へてこれに答へなければならぬ。

或工場でストライキや起つた時、労働者の妻君が幼い子を背負つたり、又は老人達の手を引いて、資本家の屋敷の門前にへばりついて、『要求が通るまでは動かない』とガン張つたので、警官が多数動員されたが、女や子供や老人を撲ることも出来ずいたり、又『巡査が撲つたぞッ！』と叫びつゝもその場をかゝとして動かなかつた為にストライキが有利に解決したといふ実例は、少数指導者の戦術箱（？）の中にしまひ込んでおくべきでなく、一般労働者大衆の中へ持ち込まねばならぬ。最近の新聞紙では、千葉県下市川在『分村の農民が地主襲撃をやつたために捕へられたのでその中の一人の妻君が幼児二名を伴つて警察の玄関に坐り込んだことを報じてある。同じ新聞で、『四・一〇事件記念日に、左翼組合（工木建築工）が花見と称して非合法的デモンストレーションを組織したことが報じられてゐる。かやうに、労働者大衆をして『斗はねばならぬ、そして、斗取得る』といふ信念を持たせる様に仕向けるために必要な材料はそこら中にころがつてゐるのだ。又吾々がそれらに対して多くの場合冷淡な態度を取つてゐる為に斗争が起きないのではないか。頭から、『改良主義的幹部の裏切りをバクロしたことにはならぬのだ。彼等がどんなことをやつたか、何故そんなことをやつたかに対する裏切りであるかを充分に説明し、且つ、革命的労働組合及び共産党は如何なる政策と戦術をとつてゐるかを具体的実例をあげて話してやるのだ。自分が共産党員であるといふことを明白に言はなくとも、共産党がどんな活動をやつてゐるかを話してやることは必ず出来るのだ。吾々は工場の中で平気で共産党のごとに就て話し合へる丈けの合法性を獲得しなければならぬ。共産党の悪口は常にブルジョア新聞を中心にして労働者を集めた。同志山本を訳して『新聞読み』と言つた人もあつたが、事実は吾々の全てがよく知つてゐる如く、同志山本はよき煽動者であり、宣伝者であり、且つ組織者だ。吾々は只ブルジョア新聞に依つてすら多くの煽動をなし得ることを知つた。然るに、吾々の所には、『労働新聞』『赤旗』『無産者新聞』『無産者新聞』を初め、各産業別組合本部の機関紙もあるのだ。吾々は全口的に一ブル新聞に表はれない事件をも含めて——労働者大衆の状態を知り得る地位にあるのだ。然るに、そうだ、然るに吾々はそれを生かしてはゐないのだ。又、吾々はいふ『斗争の経験から学べ』と。『けれ共それは少数の人々の研究題目とはなつても、その労働者大衆の斗争取扱がどれ程工場内に持ち込まれてゐるだらうか？同志山懸が昼休みを利用し乍ら座談的に各地方の斗争事実を述べるといふ様なことがどれ程多く行はれてゐることだらうか？吾々は自分自身に考へてこれに答へなければならぬ。

或工場でストライキや起つた時、労働者の妻君が幼い子を背負つたり、又は老人達の手を引いて、資本家の屋敷の門前にへばりついて、『要求が通るまでは動かない』とガン張つたので、警官が多数動員されたが、女や子供や老人を撲ることも出来ずいたり、又『巡査が撲つたぞッ！』と叫びつゝもその場をかゝとして動かなかつた為にストライキが有利に解決したといふ実例は、少数指導者の戦術箱（？）の中にしまひ込んでおくべきでなく、一般労働者大衆の中へ持ち込まねばならぬ。最近の新聞紙では、千葉県下市川在『分村の農民が地主襲撃をやつたために捕へられたのでその中の一人の妻君が幼児二名を伴つて警察の玄関に坐り込んだことを報じてある。同じ新聞で、『四・一〇事件記念日に、左翼組合（工木建築工）が花見と称して非合法的デモンストレーションを組織したことが報じられてゐる。かやうに、労働者大衆をして『斗はねばならぬ、そして、斗取得る』といふ信念を持たせるために必要な材料はそこら中にころがつてゐるのだ。又吾々がそれらに対して多くの場合冷淡な態度を取つてゐる為に斗争が起きないのではないか。頭から、『改良主義的幹部の裏切りをバクロしたことにはならぬのだ。彼等がどんなことをやつたか、何故そんなことをやつたかに対する裏切りであるかを充分に説明し、且つ、革命的労働組合及び共産党は如何なる政策と戦術をとつてゐるかを具体的実例をあげて話してやるのだ。自分が共産党員であるといふことを明白に言はなくとも、共産党がどんな活動をやつてゐるかを話してやることは必ず出来るのだ。吾々は工場の中で平気で共産党のごとに就て話し合へる丈けの合法性を獲得しなければならぬ。共産党の悪口は常にブルジョア新聞を中心にして労働者を集めた。同志山本を訳して『新聞読み』と言つた人もあつたが、事実は吾々の全てがよく知つてゐる如く、同志山本はよき煽動者であり、宣伝者であり、且つ組織者だ。吾々は只ブルジョア新聞に依つてすら多くの煽動をなし得ることを知つた。然るに、吾々の所には、『労働新聞』『赤旗』『無産者新聞』『無産者新聞』を初め、各産業別組合本部の機関紙もあるのだ。吾々は全口的に一ブル新聞に表はれない事件をも含めて——労働者大衆の状態を知り得る地位にあるのだ。然るに、そうだ、然るに吾々はそれを生かしてはゐないのだ。又、吾々はいふ『斗争の経験から学べ』と。『けれ共それは少数の人々の研究題目とはなつても、その労働者大衆の斗争取扱がどれ程工場内に持ち込まれてゐるだらうか？同志山懸が昼休みを利用し乍ら座談的に各地方の斗争事実を述べるといふ様なことがどれ程多く行はれてゐることだらうか？吾々は自分自身に考へてこれに答へなければならぬ。

或工場でストライキや起つた時、労働者の妻君が幼い子を背負つたり、又は老人達の手を引いて、資本家の屋敷の門前にへばりついて、『要求が通るまでは動かない』とガン張つたので、警官が多数動員されたが、女や子供や老人を撲ることも出来ずいたり、又『巡査が撲つたぞッ！』

附記

同志諸君、諸君は『赤旗』編輯部へ向つて『自分の属してゐる工場細胞はこういふ風に活動してゐる』といふ記事を是非送る義務がある。それは鉄の規律の一部分であることを特に附記す。

労働者通信員団を組織せよ！

体月二回発行される予定である。だから半月という長い期間には重要な政治的並に組織的問題が次から次へと山積する。従って六ヶ数い論文が労働多くなる。メメ印刷工場細胞の一同志がメメ論文集□というにやうなものから、更に新聞らしい労働者にとってズット親しみ易い新聞にすることが出来る。吾々は赤旗日刊を目指して努力しようではないか！

○

だが、赤旗を日刊にしなければ今日の赤旗を労働者に親しみ易いものにすることは出来ないか。否。そんなことはない。でどうすればよいのか。この問題に関しても吾々は直接工場の同志達が工場細胞で徹底的に討論してスバラしい方法を上申することを要求する。労働者の一〇〇%に発揮する様に努力することを切望する。

吾々は工場、鉱山、車船、大経営仕事場、農村から生き生きした意見、ニュース、感想、マン画、小説、読者の声等々をヒンパンに赤旗へ送ってくることだ!!これが絶対に必要だ。

それは工場、鉱山、農村等の赤旗で工場、鉱山、農村の労働者通信員団を即刻組織することを要求する。

工場細胞は赤旗の配布を受け

○

意見、ニュース、感想のホーコク、質疑、通信、マン画、小説等をドシ〳〵送れ。赤旗編輯局の机上をそれ等の原稿でウヅめる様に。と吾々は毎号の赤旗で工場、鉱山、農村の労働者農漁諸君に訴へてゐる。にも拘らず今日までのところでは甚だ成績がよくない。こんな事では工場、鉱山、農村等と生き生きとした結合はとれない。こんなことではボ旗を殺してしまふぜ。こんなことではボ旗をして真に工場鉱山の労働者とピッタリ結付いた積極的に組織の役割をはたさせることは不可能だ。否それはかりではない。弱点に於て日本共産党を大衆から浮き上らせてしまふだらう。

○

赤旗には日本共産党中央機関紙として政治的並に組織的根本方針が反映はれをければなりぬ。切論労働者にワカり易い平易な言葉で書かれなければならぬのだが、労ひ六ヶ数くなりがちである。その上今日では赤旗は大

○

だが、赤旗を労働者に親しみ易いものにするためには、重要な政治的並に組織的問題が次から次へと山積する。従って六ヶ数い論文が労ひ多くなる。メメ印刷工場細胞の一同志がメメ論文集□というにやうなものから、更に新聞らしい労働者にとってズット親しみ易い新聞にすることが出来る。吾々は赤旗日刊を目指して努力しようではないか！

○

だが、赤旗を日刊にしなければ今日の赤旗を労働者に親しみ易いものにすることは出来ないか。否。そんなことはない。でどうすればよいのか。この問題に関しても吾々は直接工場の同志達が工場細胞で徹底的に討論してスバラしい方法を上申することを要求する。労働者の一〇〇%に発揮する様に努力することを切望する。

吾々は工場、鉱山、車船、大経営仕事場、農村から生き生きした意見、ニュース、感想、マン画、小説、読者の声等々をヒンパンに赤旗へ送ってくることだ!!これが絶対に必要だ。

それは工場、鉱山、農村等の赤旗で工場、鉱山、農村の労働者通信員団を即刻組織することを要求する。

工場細胞は赤旗の配布を受け

○評議会が初めて組織された当時俺達は一にも評議会二にも評議会の仕事に従事したか。猫もシヤク子も評議会の仕事に従事したかって、夫々の持場をオッポリ出しはしなかったか。水平社の同志は水平社の仕事をオッポリ出して評議会へ！学生も評議会へ！

○無産者新聞が創刊され無産者新聞の読者会がカケ声勇ましく燗動されると、吾れも吾れもと

労働の不足を改めろ！

無新の読者会の組織者に早変りをしはしなかったか。

○労農党が結成されて労農党の活動が華かに見えた時には労農党でなければ夜も日もあけぬ有様ではなかったか。

日本共産党が公然とその姿を現はしたら今度は日本共産党万能主ぎ！吾々は日本共産党の大衆化運動に全労働者が参加することを非難するのではない。反対だ。だが日本共産党さえあれば組合も同盟もクソクラへ！

といふのは間違ひだ。

夫々の任ムをナゲ捨て、夫夫の受取ちをホッタラかして、凡ての労働者が日本共産党の組織者にならうとすることは間違ひだ。夫々の持場で自分の任ムを成功的にヤリヌくことが、それが日本共産党を大衆化ずることなんだ。それがホントの党員だ。それがホントの組織者だ。

吾々の過去の斗争の丁史を厳密に自己批判すると前述の誤謬を八ッキリ指摘することが出来る。

では現在吾々は過去の誤謬をスッカリ清算しきってゐるか。否だ。

吾々はこゝで強調する。吾々の過去の誤謬を大衆的に厳密に自己批判せよ！そして実践的に誤謬を清算せよ！□歯車□もいるのだ！

だが、こゝで最も強調しなければならないことは□協力せよ！□といふことだ。

工場労働者の組織に従事してゐる同志達の実状を見ると仕事の精神に欠けてゐる。互に力を合せ、互に助け合つて工場の労働者大衆を吾々の陣営へ組織してゐるかいばかりでなく、甚しいところでは党全協、共青然新、無音、戦旗等の組織者が互に反目し合ひ、互に相手のデマを飛ばし合つてゐる所さへある。自分の縄張りを拡大強化するために他の同志をオトシ入れようとさえしてゐる。実に卑劣な実にゲスな奴□根性だ!!

今日吾々は殺人法で迫害されてゐる。吾々は極度の非合法運動を余儀なくされてゐる。吾々は正私服を着た官憲の迫害を受けてゐるばかりでなく、五右の社会民主々ギの裏切者や吾々の陣営へモグリ込んでゐるスパイの追求を受けてゐる。

だから全協の組織者は多くの場合オレは全協の組織者だと頭から名乗つては行くまい。党の組織者は勿論そうだらう。スパイや解党派の奴がウソをヌかしてモグリ込むことがよくあるだから相手が何れのかわかりかねる場合が多々あるであらう。一応はスパイではあるまいか社会民主々ギ者特に解党派の連しものではあるまいかと互に伺ひ合ふことはやむを得ないだらう。だが、若しそれ等の組織者がいくらかでも組織的な能と主義とを持つてゐるなら相手のかゝける政策、相手の組織の方針と方法、相手の規律的活動等から本物か二せ物かを見分けるにはそんなに困難はない筈だ。そして相手が本物だと見定めがついたら互に協力するのだ。互に協力せよといふ意味は各自の秘密にしなければならないことをブチマケ合へといふのではない。相手のデマを飛ばしたり、相手の組織活動を妨害しない事だ。そして向接に——出来れば直接にも——相手の組織活動を援助し合へといふのだ。

★

更に例へば無新、無音、戦旗の何れか一つ又は二つ以上の読者班が既に組織されてゐる大工場へ党の組織者が新に手をつける場合には、党の組織者は当然それ等の組織を利用すべきである。だが戦旗の読者会を以て党の工場細胞の役割を代行せよといふのではない。それは間違ひだ。戦旗の読者会を作つてゐる当該大工場の労働者が全部党員たる資格があり、党員として革命家として斗争する決意と希望とを持つてゐる場合には全労働者は勿論党員に採用されるであらう。それ等の党員は工場細胞を組織するだらう。だがそれは工場細胞であつて戦旗の読者会ではない。この場合工場細胞は直ちに戦旗の読者カクト々戦旗読者会拡大強化の仕事を引受ける責任者を決定してその仕事を成功的に遂行させなければならぬ。これこそ工場細胞の仕事の一つだ。かくてこそ工場細胞が大衆化し得るのだ。従つて党の大衆化が可能なのだ。

全協の工場分会のある大工場へ党組織の手が延ばされた場合は勿論全協の組織の線を利用すべきだ。此事は云ふまでもなく、

ことだ。かくてこそ赤色労働組合が持つ任ム党と労働者大衆とを結付けるベルトとしての任ムが成功的に遂行され得るのだ。だが此場合にも工場分会を以て工場細胞に代へてはいけない。

★

党や全協や共青の組織者は無新、無音、戦旗等の読者組織を無視してはいけない。軽蔑したり、デマをトバしてはいけない。無新、無音、戦旗の組織者は党の工場細胞の組織を積極的に援助しなければいけない。工場細胞は全協、共青、無新、無音、戦旗、モップル等の責任者を定め、その活動を批判し、指導し、発展せしめなければいけない。

島口根性許清算せよ！
夫々の任ムを成功的に
遂行せよ！
互に協力せよ！
工場細胞を組織せよ！

同志『赤色テロルと革命的プロレタリアの当面の任ム』を読みて

同志メメは先きに□試会解散のスローガンに就て□を書いたその同一の同志である。

同志メメは過去の或る時期に於て吾党が冒した極左的誤謬を指摘する処に於て甚だ有てゐる。だが、同志メメが吾党最近の政治的並に組織的根本方針を正当に理解してゐる実即ち吾党が当面打まなければならない一環、それを打むことによつて環の全体を倒し得る特殊の一環が何であるかを正当に理解してゐる実こそ、同志メメの政治家としてのオ能を示すものである。

同志は書いてゐる。

『吾々の任ムは革命の準備である。多数者の獲得である。レーニンの表現によれば、細織である。今多数者の獲得と云つたが、細織に云へば吾が日本に於ては

党及び組合の大衆化である。これがまづ第一になされねばならない」

同志は実表現の不正確にも拘らず、こゝで正しい事を云つてゐる。吾々の方針を打んでゐる。

○

同志××のこの論文は甚だ優れてゐる多くのものを含んでゐるにも拘らず先きの同志の論文の眼目に於て誤つてゐる。同志はこの論文を書いてゐる。そして同志は結論として「赤色テロルの問題を主題としてゐる。

『吾々の方針は現在「赤色テロルを原則として否定することである。」(ケン点は同志××の附したるもの――筆者)この結論は正しくない。

同志××は吾党の過去に於ける一時的極左的偏向を厳しく批判してゐる点に於ては正しい。だが、同志は殊念ながら反撥的にこれと全機械的に対立してしまつた。同志は赤色テロルを『原則』として否定することが『吾々の方針』でなければならぬと主張してゐる。これは正しくない。同志は少し右に統を取つて、先きの論文にも同志××の右翼的偏向が現はれてゐたので吾々はこの点を鋭く指摘しなければならぬ。――このことは同志のプロレタリアート運動の経験が豊富でないことに起因してゐる。

レーニンはかつてゐる。帝国主義の段階に於ては小さなストライキ、単なる経済的日常斗争に対してすら、帝国主義ブルジョアジーは益々ロコツに白衛団を組織し、赤色テロルを積極的に行使させる。これがまづ第一になされねばならない。と。吾々が日本に於ける最近のストライキ其他の斗争を想起する時、またレーニンのこの言葉の真意を八ツキリ理解することが出来る。

労働者並に階級斗争の真只中で活動してゐる組合の指導者は経験的に否応なしにこの事をはだとつてゐる。組合支部の二ユースや斗争ニユースに赤色テロルの必要が煽動されるのが根據がある。だからと云つて吾々はかゝるニユースの煽動を全部的に承認するのではない。赤色テロル万能を是認するのではない。吾々の斗争は組織的斗争であるべきだ。即ちストライキ、デモンストレーション、政治的大衆罷業、武装蜂起、内乱、革命等の組織的斗争であるべきだ。『テロルを以て、斗争の主要なる、且つ、根本的手段なりと承認することに対しては全力を挙げて警戒するギムがある。(レーニン)だが、組織的斗争に従属せしめられ、且戦斗の全体性と密接に結合され、又これに適応する行動単の、諸動作の一つとして行はれる』(レーニン)赤色テロルをも拒否するのは誤りである。

例へば、ストライキは多くの場合妥協に終る。吾々の惨敗に終る事も決して尠くはない。ストライキが惨敗に終る時その工場の組合分会やその地方の組合支部は一時的にカイ滅するのが普通である。か、る場合にも党員や組合員が先頭に立つて口家宣伝や白色テロルに対して赤色テロルを是認するのではない。

吾々の斗争は組織的斗争であるべきだ。即ちストライキ、デモンストレーション、政治的大衆罷業、武装蜂起、内乱、革命等の組織的斗争であるべきだ。『テロルを以て、斗争の主要なる、且つ、根本的手段なりと承認することに対しては全力を挙げて警戒するギムがある。(レーニン)だが、組織的斗争に従属せしめられ、且戦斗の全体性と密接に結合され、又これに適応する行動単の、諸動作の一つとして行はれる』(レーニン)赤色テロルをも拒否するのは誤りである。

例へば、ストライキは多くの場合妥協に終る。吾々の惨敗に終る事も決して尠くはない。ストライキが惨敗に終る時その工場の組合分会やその地方の組合支部は一時的にカイ滅するのが普通である。か、る場合にも党員や組合員が先頭に立つて口家宣伝や白色テロルに対して赤色テロルを是認するのではない。

吾々の斗争は組織的斗争であるべきだ。即ちストライキ、デモンストレーション、政治的大衆罷業、武装蜂起、内乱、革命等の組織的斗争であるべきだ。『テロルを以て、斗争の主要なる、且つ、根本的手段なりと承認することに対しては全力を挙げて警戒するギムがある。(レーニン)だが、組織的斗争に従属せしめられ、且戦斗の全体性と密接に結合され、又これに適応する行動単の、諸動作の一つとして行はれる』(レーニン)赤色テロルをも拒否するのは誤りである。

市電、自動車、青バス等で密行制度撤廃の為の斗争が盛んに行はれてゐる。ところで、職場内で密行制度反対をやるだけでは僕は不充分だと思ふ。吾々が車庫毎に集つてこの制度撤廃を叫び、そのために斗争するのは正しい。個人々々の密行者の行為に反対することに限らず、制度そのものに反対するといふ態度こそ正しい方向だ。けれ共、この正しい方向をもつと有効に押し進めるといふ意味で密行者を個人としてバク口することも又必要ではなからうかの。

『無産青年』第五十四号には

この密行制度の故に、たつた六銭で首になつたり、三十銭の過料で『乗操をジウリンされた事実が載せられてゐる。この様な場合に、もし吾々が密行堀田の行為を事件のあつた車庫だけでなく、全車庫に獲つてバク口することはいふまでもなく必要だ。然し、もつと手を広く延ばしてやつたら尚更いゝと思ふ。即ち、堀田が住んでゐる近所の家に、彼のこの暴行を書いたビラを配布し、彼の家の前には大きなビラで彼をバク口したものをシツカリとハリつけるとしたらどうだらうの。堀田に罪があつても真や子供に罪はないと云ふかも知れないが、彼一人のために幾

百人の労働者が苦しめられてゐるのだから、か様な方法で、彼がその土地に居たゝまれない様にすることは斗争の一方法としてわるくないと思ふ。そして、又、どこかへ引越して行つたら、すぐその時に同じ様に彼のことをバクロするのだ。白衛からも攻めるといふ戦法はこちらからも迷に便用すれば可成りに有効だ。

この事は密行に対してだけでなく、ストライキの裏切者、味方の中にゐるスパイに対する斗争にでも用ひられるであらう。出獄の諸君がスパイに対して赤色テロル(?)を宣言したらスパイは工場を辞職し、他所へ引越して行つたそうだが、この

赤旗の批判に就て

二、三の細胞からの赤旗に対する批判とこれに対する指導的一同志の再批判とを受取つた。吾々はその内から大衆的討議に附す必要のあるものをこゝに掲げた。全細胞員、全読者よ！ドシドシ赤旗の批判を送れ。特に全細胞員、全読者に切望する。斗争のニユース、経験、意見、要向、読者の声式のもの、マンガ、小説等をドシドシ送れ。工場の生き生きした報告なくしては赤旗並に党中央部は政治的並に組織的方針を具体的に取扱ひ得ない。赤旗並に党中央部を抽象化し、工場の現実斗争から浮き上らせないようにすることは全党員の最大の責務だ。

――赤旗編輯局――

批判――昨頁の欄外にスローガンを入れたのは新しい試みであるが、そのスローガンの中には、同頁の内容にそぐはないものがある。

批判の批判――この批判は正しい。赤旗編輯局から赤局印刷局に向つて欄外へ万国の労働者団結せよ！のスローガンを口シア語、日本語、支那語等で入れることを要求した。然し日本語以外の万国の労働者団結せよ！

例は非常に面白いと思ふ。同じ工場に働いてゐる奴らが労働者を警察の手に渡す様な奴はどこの工場にも働けない様に労働者大衆にその裏切的行動を知らせなければならぬ。それを徹底的にやつたらいゝんだ。なまはんかにやつておくからそいつらがいつまでもノサばつてゐるのだ。そうじやないか同志諸君？

撲りつけることも場合によつちや悪くはないし、自衛上やむを得ぬばならぬが、それと同時に今僕が述べた方法をとることがいい。

同志諸君、かういふ方法を実際にやつて見ようじやないか？僕は先づやつて見せるぞ。

批判の批判――同志はいゝところを指摘してゐる。農業労働者の特別の組織と農民委員会との関係については中央委員会に於て明白に討論決定されてゐる。そして全農の党フラクションには詳細に指令が与へられてゐる。赤旗には次々に取扱ふことがその時既に決定されてゐる。

批判――「全農民組合の合同」なるスローガンの代りに今日吾々は「日下からの統一戦線の樹立」「赤色労働組合の拡大強化」をスローガンとする"革命的労働者の「ロ除的組織プロフインテルンに対して労働貴族を指導の文句が固に合はなかつたので印刷局の同志がイニシアチーブを発揮して欄外内容に適応したスローガンを採んで書いたがよしも最も適当なスローガンが採ばれたとはゐへなかつた。だが、印刷の同志のイニシアチーブが欄外スローガンを一歩前進せしめたことは確かだ。今後は編輯局で採ぶことゝした。

批判――農業労働者と農民委員会と全農との関係――この三者の関係が明白でない。これは次号あたりで是非共ハツキリさせて欲しい。

批判の批判――同志はいゝところを指摘してゐる。農業労働者の特別の組織と農民委員会との関係については中央委員会に於て明白に討論決定されてゐる。そして全農の党フラクションには詳細に指令が与へられてゐる。赤旗には次々に取扱ふことがその時既に決定されてゐる。

批判――「全農民組合の合同」なるスローガンの代りに今日吾々は「日下からの統一戦線の樹立」「赤色労働組合の拡大強化」をスローガンとする"革命的労働者の「ロ除的組織プロフインテルンに対して労働貴族を指導

批判の批判――「全労働組合の合同」なるスローガンは誤りではないか。現在全農以外の農民組合は右翼改良主義的幹部に指導されてゐるか。それはあにかも全協とその他の労働組合との関係に等しい。もし上記のスローガンが正しいとすれば「全労働組合の合同」といふスローガンも掲げてよいだらうな。

批判の批判――「全労働組合の合同」なるスローガンの代りに今日吾々は「日下からの統一戦線の樹立」「赤色労働組合の拡大強化」をスローガンとする"革命的労働者の「ロ除的組織プロフインテルンに対して労働貴族を指導

勢力とする改良主義社会民主々義のアムステルダムインタナショナルが結成され、鋭く対抗してゐる今日となつて、吾々のスローガンの変更は全く具体的且つ史的であり、完全に実践的政治的である。

「全農民組合の合同」なるスローガンも誤りではないか。現在全農以外の農民組合は右翼改良主義的幹部に指導されてゐる」この同志は一重に右翼改良主義的幹部に指導されてゐるといふことを条件としてゐるのだが、これは正しくない。吾々のスローガンの変更は全く具体的且つ史的であり、完全に実践的政治的である。

「全農民組合の合同」なるスローガンも誤りではないか。現在全農以外の農民組合は右翼改良主義的幹部に指導されてゐる」この同志は一重に右翼改良主義的幹部に指導されてゐるといふことを条件としてゐるのだが、これは正しくない。吾々のスローガンの変更は全く具体的且つ史的であり、完全に実践的政治的である。

「全農民組合の合同」なるスローガンの代りに今日吾々は「日下からの統一戦線の樹立」「赤色労働組合の拡大強化」をスローガンとする"革命的労働者の「ロ除的組織プロフインテルンに対して労働貴族を指導

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

NO.10　赤旗　1931-4.22

表現によると全農は右翼改良主ギ的幹部に指導されてゐないことを現実以上に強くヒビかせてゐる。吾々はこゝで今日の全農は尚ほ決して赤色農民組合ではないこと。全農の指導者の内には尚ほ可成りに多くの改良主ギ者――右翼改良主ギ者と左翼改良主ギ者の区別はこゝでは意味をなさぬ――が巣喰つてゐる現実を見忘れてはならぬといふことを第一に注意しなければならぬ。第二には、全農以外になほ沢山の地方的農民組合があること、それらの農民組合中には全農と同じ程度に左翼的農民組合であるといふことの出来るものもあるといふ現実を見忘れてゐることを注意しなければならぬ。例へば新潟の水原郡農民組合（組合員八〇〇――一、〇〇〇）の如きはそれである。

日本に於ける農民組合の主たる構成要素は貧農小作人である。この実が重要である。この実をハツキリ見なければならぬ。片山、赤松の組織した日本農民組合ですらその多数者は貧農小作人である。吾々はこの点を現実具体的に把握した。帝国主ギの現段階特に口陸的農民組合戦線の対抗関係も考慮した。だが、吾々が「全農の合同と革命化――なるスローガンを掲げた主たる根拠は、全く全農の組合員大衆の意向を最大限に尊重するためであつた。全農は「全農民組合の合同」のスローガンを高く高くかゝげてゐる。吾々はそれを支持したのだ。

にも拘らず赤松、片山等の社会民主々ギ者が意識的計画的に組織した日本農民組合に対して特別の注意を怠つてゐない。他の農民組合に対しても大々の本腰を据して見落してはゐない。それ故にこそ吾々は「全農民組合の合同」のスローガンを支持しつゝも、敢えて「全農の拡大強化――全農民組合の合同と革命化」といふ型のスローガンをかゝげたのである。

吾々は、「全農の拡大強化――全農民組合の合同」としたばかりでなくその革命化を要求したのである。吾々はハツキリ云ふことが出来る。吾々は勤労農民の要求を支持しつゝ赤色農民組合の結成と、その拡大強化を企図しつゝあるものだといふことを。だが、これが吾々の農民政策の全部でないことは云ふまでもない。

吾々のスローガンは不変ではない。「全農の拡大強化――全農民組合の合同と革命化」のスローガンを問題としてこの同志は確かに政治的に優れてゐる。吾々はこの社会にこの同題について大衆的討議が捲き起されるように、そしてドシ〳〵意見を述つて来るように希望する。かくしてこそ、党のボルシエビキ化が現実に可能となるのだ。

批判――「国際失業反対デーの敢闘」中デモの技術については見非批判せねばならぬ。

批判の批判――この批判は全く正しい。党中央委員会に於てもデモの技術について批判された。この批判は具体的問題について次々に発表される。吾々はこのような全く具体的な点に関して大衆的討議が捲き起されるように、そしてドシ〳〵意見を述つて来るように希望する。かくしてこそ、党のボルシエビキ化が現実に可能となるのだ。

批判――「国際失業反対デーの敢闘」中デモの技術については見非批判せねばならぬ。

批判の批判――この批判は全く正しい。党中央委員会に於てもデモの技術について批判された。この批判は具体的問題について次々に発表される。吾々はこのような全く具体的な点に関して大衆的討議が捲き起されるように、そしてドシ〳〵意見を述つて来るように希望する。かくしてこそ、党のボルシエビキ化が現実に可能となるのだ。

批判――「国際失業反対デーの敢闘」中デモの技術については見非批判せねばならぬ。

批判の批判――この批判は全く正しい。党中央委員会に於てもデモの技術について批判された。この批判は具体的問題について次々に発表される。吾々はこのような全く具体的な点に関して大衆的討議が捲き起されるように、そしてドシ〳〵意見を述つて来るように希望する。かくしてこそ、党のボルシエビキ化が現実に可能となるのだ。

批判――「国際失業反対デーの敢闘」中デモの技術については見非批判せねばならぬ。

批判の批判――この批判は全く正しい。党中央委員会に於てもデモの技術について批判された。この批判は具体的問題について次々に発表される。吾々はこのような全く具体的な点に関して

急告！

水野、浅野、村尾、門屋、藤井、木入、河合、南、前田等の御用党派の君主々ギ者共が、日本共産党労働者派中央委員会と銘打つて、「政治テーゼ草案」なるものを発表した。吾々は極く最近その一部分手に入れた。吾々は次号で解党派の君主々ギ者を徹底的に取扱ふであらう。彼等の階級的裏切りつけられてゐる同志達は「又かー畜生!!」と叫ぶであらうが、吾々は最後へずこのことを同志達に急告しておく。

次号を待て!!

四月十二日

赤旗編輯局

赤旗　1931.4.27

第40号

国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(一)

一

労働者派中央執行委員会の名で発表した「政治テーゼ」の発表に当り全日本の革命的労働者諸君に檄す」と「日本共産党政治テーゼ（草案）」といふ二つの大なスリモノを手にした。

吾々は最近解党派の天皇主ギ者共が日本共産党労働者派の正体を暴露するだけ正確迅速に同志諸君に示したいために、こゝに才一の檄から長い引用をしなければならないことに関して同志達の寛怨を乞ふ。怒らないで我慢して読んで呉れ。

「日本に於けるプロレタリア革命の諸問題」の序論に於てレーニンは「今、戦争と革命の時期」の展開されてゐる。吾々の前には、今、「戦争と革命の時期」の展開されてゐる。日本に於ける革命の客観的条件は急速に成熟しつゝある。しかも見よ！革命の主観的条件は、大衆の昂揚に逆比例して悪化しつゝあるではないか！革命の前衛隊たる日本共産党は、四・一六までに斗ひ取つた工場的基礎をすら殆んど失ひつくして、腐つたインテリ、ヘナ〳〵七、マルクス・ガール、スパイ等々が党内を横行し、純真なプロレタリア分子は、革命的飛躍を前にしながら足踏みを余儀なくされてゐる。即ち、党内の不純分子は、経験ある指導者々々を不当に衆し、党の非合法的存在を悪用して、誤つた戦略、戦術とを強制し、彼らの誤謬を直言する純真なプロレタリア要素は――天皇主ギ者はと誣むべし――これを反革命の名の下に除名をもつて脅してゐる。プロフインテルン日本支部と潜称する全協また然りだ」

「今日ほど日本のプロレタリア前衛が重い任務を負はされたことはない。吾々日本のプロレタリアートの中から、兵営から、農村から勇敢に起ち上つて、労農大衆の面前に、日本共産党の旗を高く掲げねばならぬのだ。しかも重大な時期に際して、党内の不純分子共は何をしてゐるか！一切の責任を支配階級の弾圧に帰して、「検挙により党が弱いのも無理がない」と言ひ込んでゐる。そして、彼らの仕事と言へば、頭の中で革命を作り上げたり、小説の中で党を漫画化したりすることに外に何もない。彼らの犯して来た誤謬を徹底的に訂正して日本共産党を正しい基礎の上に再建する力も意志も全然ないのだ」

「一切を白色テロルの責めに帰し、解党派を党員に押しつけてゐる。

目次

一、検事局・内務省・文部省等と手を握つてゐる解党派を粉砕せよ！……一頁
一、大衆斗争の組織者に低つて反革命解党派の新たなる進出分子の徘徊へ！……三頁
一、即時農村プロレタリアートの組合を作れ！……六頁
一、正誤表……七頁
附録　解党派を粉砕せよ！……別冊（解党派批判号）

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь！
万国の労働者団結せよ！

P.1　赤旗　1931.4.27

と書いてゐるが、党と、何等の違つた、ないとこゝで、一イニシアテ、ブを発揮して、いふのは誤りでは、ない。

批判の批判――誤りでは、ない。

革命的労働者はコミンテルン、プロフインテルンの政治的並に組織的方針を倒へば沢山の出版物を通して知り得る。それに従つて工細を作ることは誤りでなくいばかりでなく絶対にスヽメるべきだ。無新聞、無壁新聞、インタ、戦旗等々を見てゐる場合にも、労働者は革命的イニシアテーブを発揮して工細を作るべきだ。「可成して炭坑党の組織者に出喰はすまで挨拶的態度で待つてゐてはならぬ」（この点は既に他の同志によつて赤旗でクリ返し強調されてゐるが、こゝでも敢へてこの批判を取り上げた。――編輯局）

★

こゝで一つの問題を提起したい。農村に於ける階級構成についてだ。

例へば農業労働者、貧農、中農、富農（半地主）大地主の如き規定を日本ではトウするのが現実具体的であるかといふ問題だ

同題は一般的規定や公式的規定を要求してゐるのではない。生々しい日本農村に於ける階級構成の正確妥当な規定だ。

これに対する意見なり或は日本農村の現実具体的階級関係の報告なりをドシ〳〵送ることを要請する。傾向でもよい。

――編輯局――

『吾々は決して日本共産党内の少数派でもなく、反幹部派でもない。吾々こそが、党の本流なのだ。日本共産党は云ふまでもなく労働者の党だ。そこで労働者派と云ふこと自体があり得ない意味で一つのナンセンスだ。――その通り！然し、プロレタリア党の中で育つたインテリ、スパイ等々がマルクス・ガールやボス文士、吾が物顔に振舞つてゐる現在の段階にあつては、この言葉が一つの重要な意義を持つのだ。――然り！天皇主義者の鎗旋共産党といふ意義を持つのだ。――吾々はあらゆる困難を切り抜け、――一切の『家族的』偏見を清算して、党内の『一掃』を断行して党内不純分子を一掃せよ！

日本共産党再建――強化万才！
打倒日本帝国主義！
国際的革命競争に遅れるな！
コミンテルン万才！
赤旗編輯局デマとマンパの護錦
日本共産党労働者派
中央執行委員会』

二

以上は檄のほんの一部にしかすぎないが、この引用文を我慢して――然り大いに我慢してだ――注意深く読んで来た同志は解党派の天皇主義者のイクスクスウしいのに万腔の憤怒を覚えたであらう。彼等は『一切の解党主義者を粉砕せよ！』といつてゐる。彼等は彼等自身をも粉砕せよ！』と絶叫してゐるのか。所がそうではない。この危大なスリモノの中では解党派の裏切行為については一言半句も述べられてゐない。今日解党派の天皇主義とテツテイ的に斗はないやうな共産党はないのだ！自己バクロも亦甚しいではないか!!否、それだけでなく、彼等は労働者派で『党の本流なのだ』そうだ。そして反対に、吾々こそが『解党主義者のイクスクスウだ』といふに、『設論を直言する純真なプロレタリア要素は、これを反革命の名の下に除名を以て脅かしてゐる』からだそうだ。吾党から除名されたものをひろつて見ると、水野、秋野、門屋、河合等の解党派の連中だ。彼等は揃して『純真なプロレタリア要素』なのか??成程彼等は極事局へ提出した上申書の中で吾党に『直言』してゐる。曰く『解党せよ！君主制廃止のスローガンをおろせ！コミンテルンから脱退せよ！天皇の下での労農政会！平和革命！天皇を戴くプロレタリアの檄文！』

これが『純真なプロレタリア要素(??!)』の吾党の設論(??!)に対する『直言』の全内容だ!!解党派を除名したので吾々は『解党主義者共犯だ』さうだ。同志諸君!!か、る意味に於てなら吾々はむしろ解党主義者とすることを光栄とするものだ。今后と雖も吾々はかくの如きプロレタリアートの裏切者は断乎として除名することをこゝに宣言する。

三

彼等のこの檄に従へば、彼等が日本共産党労働者派を結成したのは、

『一に、『資本主義、マルクスガール、スパイ等々が党内に横行し』『党内の頽廃に振舞つてゐる』のを『一掃』するためにそうだ。だが『資つた』――そうに資の鬱まで『資つたインテリ』でありり、『スパイ』であるのは、現実実践の示す如く、吾々ではなくて、彼等解党派の天皇主義者であることはかくれもないレソキとした事実である。『一掃』さるべき裏切者は吾々ではなくて彼等である。検事局と水野等内務省と浅野、村尾、南喜、文部省と内屋等の関係は公然たる事実である。連絡係の分担さへ定められてゐるらしい。

次に、吾々が、『資つた』戦略戦術を党員に押付けて、革命を無限の彼方に押しやつてゐる。』からだそうだ。『彼等――吾々には、彼等――吾々を指す――の犯としてゐる戦略的並に組織的誤謬を徹底的に訂正して『日本共産党の本流』に再建するカも意志も全然ないのだ。』からださうだ。『彼等――吾々は一切の誤糸とデマとに依つて正しい指導方針を革命的プロレタリアートに知らさないために狂乱してゐる』からださうだ。

よろしい、事実は何より尚雄弁だ。吾々は動かしがたい事実をして審判せしめるであらう。だが、それ以前に一寸ふれておかねばならないことは、彼等の『戦略』戦術と組織方針』はでは勿論して正しいかといふ点だ。

彼等が検事局へ奉つた上申書の中では、或は政治的自由カクークの為に天皇の下での労農政会の援唱(見抜)したり、『家族的』の檄文的民主化(水野内屋)を要求したり、君主制廃止のスローガンをおろせ(解党派自身)を主張した。即ち帝国主ギ打三期たる今日の時期から一八四年頃へ後退、たばかりでなく天皇主ぎに降服した。然るに今度は突如として彼等は主張して云ふ、『吾々の前には、今、『戦争と革命の時期』が展開されてゐる』。と。又曰く『吾々は、今『戦争と革命の時期』に生活してゐるのだ』と。

こんなに猫の眼玉の変るやうに客観的情勢の認識を勝手気まゝに変更して戦術を立て斗争を強要されたのでは日本のプロレタリアートは生命が幾つあつてもやり切れない。

この点から見ても彼等の戦略戦術はブルジヨアジーの利益ヨココの戦略戦術であることは確かである。

次に、では、彼等の『組織方針』は果して正しいか。彼等は『日本共産党労働者派を結成』した。それは彼等の云ふ如く『決して日本共産党内の少数派でもなく、反幹部派でもない』『然り！コミンテルンから決定的に左翼的』だからしてワザと日附が附けられてゐないか、彼等が同時に発表した労働組合統一投試会の機関紙の創刊号が三月七日の日附であり、彼等の合法的機関紙とも見るべき『日本経済研究』の創刊号が三月十七日発行であることからしてこれもその頃に発表されたことは確かである。

然るに吾々はそれに先立つこと二ケ月以前の一九三一年一月十二日に『国際共産党日本支部日本共産党中央委員会の名で発表した『テ五十九試会開会に際して全『国の革命的労働者並に貧農小作人に檄す』の中で『日本ではブルジヨア民主々義的任務を云々』『左翼範囲で把握すべきこの段階のプロレタリア革命の前提条件が成熟しつゝあるのだ。』と正しい戦略を掲げてゐる。それ以来一貫して正しい『戦略、戦術と組織方針』とに従つて猛烈に斗争を進めて来てゐることは同志逆の熟知する厳然たる事実だ。日々のプル新聞を見たつてわかるではないか！

●同志達はこゝで刷同の策動の時の彼等のヤリ口を想起すべきだ。今度は刷同の場合よりも更にもう一ケ月沿れて二ケ月後に『日本共産党労働者派』と名乗つてプロレタリアート・戦線の攪乱とスパイ的活動の企みを帯びて打つて出たのだ。天皇制の資本家地主支配を永久化し、『革命を無限の彼方に押し』やるために、『一切の誤糸とデマ』とをブつ続けてゐるのだ。吾々が引用したところをも一度読んで見よ！『日本共産党労働者派結成』の実践的『政治的全意義は実にこゝにある!!

今、日本共産党が正しい戦略戦術に従ひ、正しい組織方針を採用して、急激に党の大衆化を進めてゐるのに日本共産党労働者派(解党派)の策動を実践的斗争で粉砕せよ！

フルエあかつた資本家地主政府とグルになつてゐる解党派は、今度は刷同の場合よりも更にもう一ケ月沿れて二ケ月後に『日本共産党労働者派』と名乗つてプロレタリアート・戦線の攪乱とスパイ的活動の企みを帯びて打つて出たのだ。天皇制の資本家地主支配を永久化し、『革命を無限の彼方に押し』やるために、『一切の誤糸とデマ』とをブつ続けてゐるのだ。吾々が引用したところをも一度読んで見よ！『日本共産党労働者派結成』の実践的『政治的全意義は実にこゝにある!!

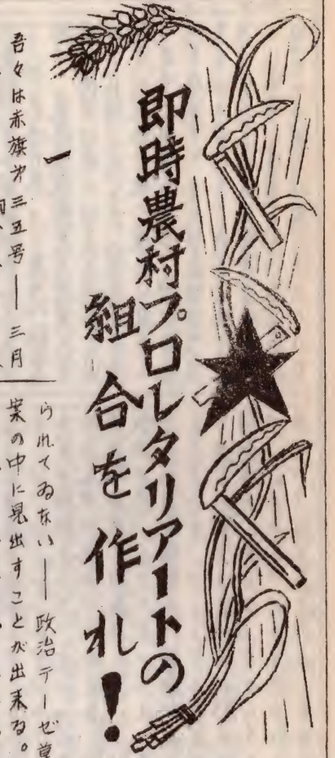
日本共産党労働者派(解党派)の策動を実践的斗争で粉砕せよ！

日本労働組合全国協議会は過去に犯した誤謬を清算すべくあらゆる努力をしてゐる。革命的労働組合としての全国協議会が行ふ自己批判は過去の誤謬に対するキリスト教徒的懺悔をやることではない。誤謬を卒直に承認し、それを克服するための具体的政策を協力的に実践に移すことこそ眞に革命的な自己批判である。吾全国協議会は正にかくの如く自己批判したし、且つその線上に立脚してゐる。全国協議会は過去に犯せる誤謬を――よし、それが現在党内にまつなほれてゐる人々によつて犯されたものであつたにもせよ――全協全体の犯せる誤謬といつて少しもかくすところなく大衆の前で承認した。単に紙上にたゞのみならず、直接工場内で容赦なき批判を行つたのである。而して、この批判の上に立つて新しい斗争方針、組織方針が決定せられた。そこには『斗争を通じて誤謬の清算へ』といふホルシエヴイキ的態度が明白にされてゐる。然り、吾々はまだ完全に吾々の持つてゐた誤謬を克服し得たといふことは出来ない。しかくすところなく大衆の前で承認したのみならず、今日、日本の労働組合運動は非常に困難な局面に当面してゐる。第五回プロフインテルン大会で採用された日本問題に関する決議はこの局面を脱出せんがために必要な数多の方策を教へてゐる。日本の労働組合運動は基礎の上に、更に『階級斗争の基礎に立つ統一』とふスローガンの下に『日本の革命的労働組合が『自己の日常の仕事を遂行することを提案する』(プロフインテルン決議)。而して斗争に於て勝利を得んがための統一への欲求は大衆の間からモリ上つて来てゐる。吾々が職場内でジミな併し精力的活動をなすことによつてこの事は仕遂げられねばならぬし、且つ仕遂げられるであらう。

所が、こゝにもう一つ誤謬の認め方がある。旧刷新団盟の指

導者の態度がそれだ。プロフインテルン第五回大会へ刷新同盟が日本プロフインテルンの代表として出席した野崎は、プロフインテルンの決定を全幅的に承認し、その実行の為に斗争することを誓った。然るに、現実に於てはどうだ？彼等は、ナル程形式的には刷新同盟を解散した。併し、実質的には依然として革命的労働組合運動攪乱を続けてゐる。日本労働組合統一促進会といふのがその本体である。一九三〇年六月十日に全協がその談話を訂正し始めた後に、一九三一年三月に、全協がその革命的方針を実践に移し、果敢に斗争を始めた後に統一促進会を作つた。同志小泉の言を借りて言へば「一九三〇年には七と男として、一九三一年には七と男として！」生れたのだ。彼等が日本共産党内から出た解党派の一別動隊——否、それ自身——であることは既に明白である。プロフインテルン第五回大会は、刷新同盟の方針が先ず小右翼的であること、次に革命的労働組合内に分派を作つたこと、革命的労働組合運動を分裂の危機に導いたこと、次に彼等が、プロフインテルンの決定に違反して、解散すべきことを措置しなかつたこと、等はこの中の一つでも満足に承認し、それを実行しなかつたことを意味する。それは彼等指導者の言葉の上での賛成、実践の上での反対はまるで反対派刷新同盟は解散すべきことを決定する」と述べてゐる。旧刷新の指導者達は「解散声明書」を発表した。そして、解散声明書の発表それ自体はまだ組織上の策動を停止したことを意味もぬ。それは彼等指導者の言ふ通りである。「プロフインテルンの戦術を……全力を以て誓ふ」と口先きで言ふ人々の、これは又、なんといふ現実の度外だらう。口で賛成、実践で反対。「右翼」改良主義者——それに対する最重要な任務である「一プロフインテルン決議」——の好個の典型！プロフインテルンの古の典型の前に決議の実行を誓つた刷新同盟代表野崎は何を報告したのか？野崎にせめて八のアカほどの労働者としての階級的良心があるのか？勿論、吾々はこれは又、なんといふ現実の度外だらう

即時農村プロレタリアートの組合を作れ！



一

吾々は赤旗第三五号――三月一日発行――の『全農第四回大会に際して全農の同志に与ふる』の中で農業労働者の組織を主張した。そして全農の党フラクションに対しては農村プロレタリアートの独立の組織を作ることは吾党当面の根本任務の一つであることを述べ農村プロレタリアートの独立の組織の急ぎとその組織方針並に農村プロレタリアートのこの独立の組織と農民委員会や全農との関係について詳細に指令した。

と同時に他方全農自身現にその必要を痛感してゐたので、全農第四回大会提出の重要議案の一つとして『農業労働者組織に関する件』を中央委員会から提出することに決定してゐた。

吾党の主張と全農の実践的要求とはこの点に於て完全に合致してゐる。

これに対して大衆党派労農党派特に解党派の稲村一派は農業労働者の独立の組織に反対してゐる。吾々は彼等の理論的代表を、解党派が三月十七日発行した『日本経済研究』創刊号『農民問題』及び同じ頃に発表したと思はれる――日附がワザと付けられてゐない――政治テーゼ草案の中に見出すことが出来る。

吾党並に全農と他方社会民主々義者、天皇主義者との間に農村プロレタリアートの独立の組織の問題を差しはさんで鋭い対立がある。吾党並に全農が正しいか、それとも解党派の天皇主義者が正しいか。水野、藤井、村尾、河合、浅野、門屋、喜入、薗、菊田等の『労働者派』と僧称する社会ファシスト共が正しいかを決定しなければならぬ。

二

解党派の主張はかうだ。

『農業労働者の独立な組織は日本では問題とならない』（一日本経済研究七六頁）と。

これは又デマも甚しい。更に彼等が『日本封農業に於ける生産関係は』、『むしろブルジョア的関係の方により近い』（五八頁）と主張し乍らその舌の根の乾かない内にかう主張する事は理論の混乱であり、丁度仰向いてタンを吐くやうなものだ。

コミンテルン第二回大会の『農業問題に関するテーゼ』にはかう書いてある。

『第一に、農業プロレタリアートの独立な組織は、絶対に必要である。』

又それと結び付いた工業に於ける優勢労働によつて得てゐるところの優勢労働者（季節労働者、出稼ぎ労働者、日雇賃銀労働者）、林業労働者、農村の職人等を含むこの階級を農村人口の他の集団から分離して独立に組織すること（政治的、協同組合的組織、労働組合的、軍事的組織、同じく教育機関等々）、……それは万国の共産党の根本的任務である』と。

三

だが吾々は抽象的に『農村プロレタリアートの組合を作れ！』

て農民大衆――が一には全農――の革命斗争の下層機関とし、以て地主・高利貸・豪商・富農等に反対することを要する。』と。

にも拘らず『日本では問題とならない』といふのか。『百姓の君子国』だけは天皇主義でなければいけないといふのだらう。

一九二九年六月七日附けでコミンテルン執行委員会が日本よりも遥かに資本主義的発展に於て優れてゐる隣邦支那の中国共産党に与へた書翰の中にはかう書かれてゐる。

『実際に農民大衆の組織問題を解決するところの仕事は、一方では農村プロレタリアートの独立せる組織を必要とすると同時に、革命的農民委員を組織し

と叫ぶのではない。

吾々が如何に具体的であるか、実践的『政治的』であるか。農民大衆の中に立つてゐるわれは全農加斗争の過程から実践的要求として農業労働者の組織を日程に上せてゐることが最も明白に証明してゐる。

全農中央委員会は同議案の提出理由の中で次のようにかつてゐる。

『農業労働者が農民運動に課する役割の重要性に就いて今改めて述べる必要はない。労働者農民の結合帯として、農業革命の牽引者として農業労働者が農民に従属してゐる帝国の労働者或は革命傭等に出る労働者的要素をもつた農業労働者とあるが、何れも都市労働者よりも長時間と安い賃銀とを以つて極端な搾取をうけ劣悪な生活につき落されてゐる。而も、最近の農業恐慌によつて、全く半失業状態に迄陥し入れられ、その不平不満は極度に高まつてゐる。

即ち、その組織の可能性の問題は成熟してゐる……。曾つて三重県に於て……森林労働者の争議があつたが、これに対して農民組合としては別に働きかけもせずに終つた。又高知では県営労働者の争議が激化したことがあつたが、これも又、全農は指導し得なかつた。又現在、北海道では数百の組織があるとか伝へられてゐるが、まだ全農は何等の働きかけをしてゐない。

西、或場合の如きは、遂に全農は根等と対立するが如き、農業労働者の賃銀値下げ、時間の延長などを決議したりしたことすらあつた。

吾々は今後

一、日々の方面の誤謬を改め、反帝斗争、借金延期、税金斗争、土地を農民への斗争又饑等の賃銀問題、時間問題等に協力して、組織をはからねばならない。

実行方法

一、総本部に先づ農業労働者組織対策委員会を持ち、各縣就もこれに準じて持つこと。

二、労働組合――他の個所では明白に革命的労働組合と書いてある――と吸力して（労働組合のないところでは）先づ農業労働者の数、各所その状態――並びに不平不満、要求を調査しその上で積力的に組織活動を行ふこと。

吾党は全農中央委員会のこの提案を支持する。党員労働者大衆諸君は農業労働者の組織のために積力的に斗はなければならぬ。特に全協が今日まで農村プロレタリアートの組織を問題にしていないのは誤りであつた。全協はこの問題のために急速に特別の委員会を持つべきである。

四

と同時に吾々は党に農業労働者の独立の組織をつくるばかりでなく農村に住んでゐる工場労働者（製糸、肥料、乾燥、交通、土木等）、農業労働者（漁業、林業、農業等）は産業別の線に沿つて全協に組織すべきである。

『農業労働者――資本主義的農業労働者――（試験所、苗圃、大茶園、果樹園、大農場等）日雇労働者（日雇耕作者、養蚕日雇、資本主義的農場に雇はれ日雇、アメントリ、土工その他）

請負耕作労働者（藤田農場の一部、那須農場、奈良大阪、和歌山等）作男、年季行（耕作男、地主、大小作人に雇はれてゐる近代的な作男）これらは全協並に全農との緊密な結合の下に農業労働者組合に組織すべきである。

二、漁業労働者組合。

以上は勿論一般的に述べたに過ぎないのであつて、具体的な諸事情条件に従つて或は独立に或は合同組合的に組織されるべきことを妨げるものではない。否それこそ組織者のイニシアチーブを発揮すべき点であるのだ。

即時農村プロレタリアートの組合を作れ！
『日本共産党労働者派中央執行委員会』を粉砕せよ！
日本共産党大衆化万才！

五

『時間短縮、賃銀値上げなどの純粋プロレタリア斗争や農業労働者の独立な組織は日本では問題とならない』と言ふ解党派の主張なるプロレタリア革命とプロレタリアートの独立の成功をハカイせんとするものなることは明かである。それは現実には農村プロレタリアート半プロレタリアートの利益を犠牲にして大地主、富農、大小作人（中農）の利益をヨウゴするものなることも又明かである。これは彼等が一人――三人の労働を雇ひ入れてゐる大小作人（中農）を小作人として一括し貧農の部類に入れてゐる――そしてこの中農にヘゲモニーを与へようといふのだ。――（七六頁――八一頁）ことと、『論理的一貫性』を有するものであつて、小ブルジョアを把握として社会ファシスト党を結成せんとする天皇主義者の反革命的本質をハッキリ示すものである。

正誤表

赤三十八号		
第六頁	第八頁	『無産者新聞』又は『無新』とあるところを全部『ボ二無産者新聞』又は『ボ二無新』に訂正す。
第六頁	第八頁	『日本共産党の一機関』とあるところを『日本共産党の一補助機関』に訂正す。

★ ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ
万国の労働者団結せよ！

P.1　赤旗　1931.5.17

赤旗

第42号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

二、日本資本主義の現勢と革命の展望

次目

一　日本資本主義の現勢と革命の展望……一頁
南部ロシアの大震災に際しての檄……四頁
日本共産党の任務……六頁
総選挙向け精細文部省挙を如何に斗ふべきか(一)……七頁
党員採用に現れた極左的偏向セクト主義を清算せよ！……八頁
鉄の火花……一〇頁
訂正……一〇頁
特別附録……一頁
附録（別冊）解党派を粉砕せよ……一頁

南部ロシアの大震災に際し全日本の労働者農民並に勤労大衆諸君に檄す！

全日本の同志諸君！

吾々は最近極めて不幸な報導を聞かねばならなかつた。去る四月二十九日喜びに溢れてメーデーを待ちつゝあつたソヴエート同盟南部アルメニア地方に突如大震災が襲来した。アルメニアは黒海と裏海の間に横たはつてゐる。ナキチエワン市を中心として、シシアンスキー地方も大惨害を蒙り、五百三十六名の死者と数千の負傷者を出し又ケリユシンスの地方では家を失つたもの二万人、シンゲルマンゲタトヴ・カモドの村では全滅、オペニスキー地方では全住民が家を失ひ、更に豪雨や寒気が襲来してゐる。その他の地方でも数ケ村が全滅した。

八年以前の関東大震災にソヴエート同盟の諸村は全力を挙げて救援の手を差伸べたのであつた。今や我々は全力を挙げて悲惨な極まる震災地の兄弟を救はねばならない。

罹災地の兄弟は工場、職場、農村から集めた食料衣服その他の物資を満載せるレーニン号を――真先に送れ！

それは資本家地主政府のために吾々の手には渡されず追ひ返へされたが――それは資本家地主政府のために吾々の手には渡されず追ひ返へされたが吾々は心からの見舞と救援をなす義務がある。全世界の労働者は先を競ふて見舞と救援をなせよ！

日本共産党は日本プロレタリアートの名に於て、即時数十万の罹災者同胞のために救援金募集を開始することを提唱する。

一銭でもよいのだ。

工場農村から大衆的に応せよ！

たとひ一銭でもよいのだ。

新聞雑誌に依つて支持されるであらうことを期待する。

吾等の提唱は日本のあらゆる労働組合、大衆団体、吾等の

全日本の同志諸君！

日本共産党或は片二無産者新聞社、ソヴエート大使館（東京麻布区）、その他無告快哉会等々全ての革命的団体を通じて義捐金贈呈の手紙をソヴエート同盟の兄弟に送れ！

この行動を通じて、ソヴエート同盟の兄弟と固いく同盟を実現せよ！

我が日本共産党は如何なる困難をも突破し、責任を以つてソヴエート同盟の兄弟に諸君からの義捐金、手紙等を手渡すであらう。

一九三一・五・一

日本共産党
日本共産党中央委員会

全日本の労働者農民並に勤労大衆諸君に檄す！

全日本の同志諸君！

吾々の如き国際情勢の下に於ける日本資本主義の現勢は如何の？日本資本主義は他の帝国主義列強より遅れて発達したが、その速度は異常に急激であつた。それは所謂自由主義時代を経過することなく帝国主ギの段階にはいつた。併し乍ら、この急速なる発展は、それ自身の中に、解決し得ざる矛盾の急速なる増大を伴つてゐた。今や日本資本主義はその一般的危機の上に起つた深刻な経済危機の渦中にある。それは如何なる見地よりするも資本主ギ発展の上向線を辿るものとは出来ない。何故なら資本主ギ発展の上下向線問題は、或短期間に於ける工業生産物の増大といふ見地から決定されるものではなくて、資本主ギ体系全体として観察されねばならぬ。都市と農村、生産力と生産関係の観点から論じられねばならぬからである。

工業に於ける生産制限は一九三一年に至つても、只に撤廃されぬのみか、ムシロ反対に拡大されてゐる。労働者の大衆的馘首は今や軽工業より重工業界にその主流を移しつゝあり、街頭には二百万を超ゆる失業者が充満してゐる。生産制限は五十％以上に及ぶ部門をすら有する。他方農業危機はその生産物価の急激な下落に表はれてゐる。例へば一九三〇年六月米以外穀類六種の下落は一九二九年に比し、実に二四％に及んでゐる。而して、米の生産高は世界大戦中既に停滞を示し、その後は、ムシロ後退の傾向を示してゐる。

八六八年の明治革命は、ロシヤに於ける新興資本主ギ的勢力の増大と『農価なる商品』といふ砲弾の襲撃――『黒船の渡来』――とに依つて着らされた。だが外国資本主ギの植民地となるの、自らを資本主ギ国とする為に大変革を行ふ為の問題は、未だ当時日本ブルジヨアジーが非常に若かつた為に、フランスに見たが如き『下からの革命』として顕現されず得なかつた。併し乍ら、ドイツの如く『上からの革命』として出現した。かくて農村では殆んど革命前と同様に大多数の農民は土地を所有する事なく、農奴的生活の下で搾取されるのであつた。そこでは、過少農経営と封建的搾取関係が依然として存在した。このことは資本の原始的蓄積の好地盤として利用された。農民の奴隷的生活条件は、都市労働者をして植民地的労賃に置かしめた。労働者農民を搾取し、収奪せる強度に正比例して、天皇制の明治新政府は新興ブルジヨアジーと地主階級の利益を保護した（『国債制度、産業及び貿易保護政策等々』）。加ふるに、この革命が、如何にも不徹底であつたにもせよ、東洋に於ける最初のブルジヨア革命であつたこと、隣邦にはツアーリのロシア、封建的支那、朝鮮を有してゐたこと、先進資本主ギ列強の注意の焦点が、東洋にではなくて、西欧に向けられてゐたこと等。更等全ては日本資本主義初期の発達を急速ならしめた好条件を形成する。更に、日清、日露の両戦争に依つて、日本は台湾、南満洲鉄道、関東洲、樺太の南部を得、一九一一年には暴力的に朝鮮を併合し、且つ、ヂ一次世界大戦では、青島、南洋諸島を、事実上、自己の手中に入れ、満蒙、中央支那、シベリア等にその優越的勢力を延長した。かくて若き資本主ギ日本は、国内の労働者農民の血税と植民地半植民地民衆の鮮血を吸ふて急速に成長し得た。

日本は今や高度に発達せる帝国主ギ国である。生産の集中一つだけをとつて見るも、日本では五百人以上使用する工場に働く労働者の工場労働者総数に対する割合は三四・九％であり、若し百人以上使用する工場の労働者をとるならば、その割合は実に五八％に及ぶのである。銀行、工業、鉱業等の実権は、三井、三菱、安田、住友等の四、五の金融資本の手中に握られてゐる。かゝる金融資本が覇権を握る帝国主ギ国であることは、日本の農業に於ても明瞭である。日本に於ける農業に対する先導的地位、又は不在地主、地主農業資本の多い事を以つて、農村に於ける生産関係を資本家と労働者との関係と同一視するならば、それは救ふべからざる誤謬である。又、現在、地主が資本家であると規定して、地主かく地主として有する政治的勢力を抜除することも大きな誤見である。何故なら、それらの人々は、我国に於ける農業問題の本質を理解してゐないからである。現在、地主勢力は、権力に関しては従位を占めてはゐるが、併し、その実は彼等の勢力が一ケの力として存在してゐない事を示すものではない。労働者、勤労被搾取農民大衆の指導に対する資本主義先頭とする支配階級のファシズム的弾圧、搾取の有力なる適具となつてゐる。そしてこの時代に於ける基本的な階級的矛盾はブルジヨアジーとプロレタリアートとの対立である。

加くの如き段階に於て日本資本主ギは深刻な経済危機に当面した。しかも、それは、日本資本主ギの一般的危機の上に立つてゐる。以前には、日本資本主ギ発達にとつての好条件であつたものが、今日ではその逆のものになつて桎梏となつてゐる。概民地の半奴隷的状態におかれた労働階級の生活をより低下させる事に依つて自らを救はうとするブルジヨアジーの試みは、前者の大衆的進出に出会はざるを得なくなつてゐる。当てはまる資本主ギ発展を助けた寄生地主的土地所有制は、そのことの為に、現在の如き深刻な農業危機を招致し、資本主ギ経済危機の重要部分となり、発達の力強い桎梏となつてゐる。概民地半植民地の広汎なる大衆に対する野獣の如き搾取と弾圧は、更等大衆をして、反日本帝国主ギ運動の力強い軍隊として起ち上らせてゐる。隣邦には、蒼ある中国共産党に指導され、数ケの省を把握するソヴエート地域を中心とするソヴエー

★ ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ
万国の労働者団結せよ！

P.2　赤旗　1931.5.17

赤旗

一八六八年の明治革命は、国内に於ける新興資本主ギ的勢力の増大と『砲弾の襲撃――『黒船の渡来』――とに依つて着らされた。だが外国資本主ギの植民地となるの、自らを資本主ギ国とする為に大変革を行ふ為の問題は、未だ当時日本ブルジヨアジーが非常に若かつた為に、フランスに見たが如き『下からの革命』として顕現されず得なかつた。併し乍ら、ドイツの如く『上からの革命』として出現した。かくて農村では殆んど革命前と同様に大多数の農民は土地を所有する事なく、農奴的生活の下で搾取されるのであつた。そこでは、過少農経営と封建的搾取関係が依然として存在した。このことは資本の原始的蓄積の好地盤として利用された。農民の奴隷的生活条件は、都市労働者をして植民地的労賃に置かしめた。労働者農民を搾取し、収奪せる強度に正比例して、天皇制の明治新政府は新興ブルジヨアジーと地主階級の利益を保護した（『国債制度、産業及び貿易保護政策等々』）。加ふるに、この革命が、如何にも不徹底であつたにもせよ、東洋に於ける最初のブルジヨア革命であつたこと、隣邦にはツアーリのロシア、封建的支那、朝鮮を有してゐたこと、先進資本主ギ列強の注意の焦点が、東洋にではなくて、西欧に向けられてゐたこと等。更等全ては日本資本主義初期の発達を急速ならしめた好条件を形成する。更に、日清、日露の両戦争に依つて、日本は台湾、南満洲鉄道、関東洲、樺太の南部を得、一九一一年には暴力的に朝鮮を併合し、且つ、ヂ一次世界大戦では、青島、南洋諸島を、事実上、自己の手中に入れ、満蒙、中央支那、シベリア等にその優越的勢力を延長した。かくて若き資本主ギ日本は、国内の労働者農民の血税と植民地半植民地民衆の鮮血を吸ふて急速に成長し得た。

日本は今や高度に発達せる帝国主ギ国である。生産の集中一つだけをとつて見るも、日本では五百人以上使用する工場に働く労働者の工場労働者総数に対する割合は三四・九％であり、若し百人以上使用する工場の労働者をとるならば、その割合は実に五八％に及ぶのである。銀行、工業、鉱業等の実権は、三井、三菱、安田、住友等の四、五の金融資本の手中に握られてゐる。かゝる金融資本が覇権を握る帝国主ギ国であることは、日本の農業に於ても明瞭である。日本に於ける農業に対する先導的地位、又は不在地主、地主農業資本の多い事を以つて、農村に於ける生産関係を資本家と労働者との関係と同一視するならば、それは救ふべからざる誤謬である。又、現在、地主が資本家であると規定して、地主かく地主として有する政治的勢力を抜除することも大きな誤見である。何故なら、それらの人々は、我国に於ける農業問題の本質を理解してゐないからである。現在、地主勢力は、権力に関しては従位を占めてはゐるが、併し、その実は彼等の勢力が一ケの力として存在してゐない事を示すものではない。労働者、勤労被搾取農民大衆の指導に対する資本主義先頭とする支配階級のファシズム的弾圧、搾取の有力なる適具となつてゐる。そしてこの時代に於ける基本的な階級的矛盾はブルジヨアジーとプロレタリアートとの対立である。

加くの如き段階に於て日本資本主ギは深刻な経済危機に当面した。しかも、それは、日本資本主ギの一般的危機の上に立つてゐる。以前には、日本資本主ギ発達にとつての好条件であつたものが、今日ではその逆のものになつて桎梏となつてゐる。概民地の半奴隷的状態におかれた労働階級の生活をより低下させる事に依つて自らを救はうとするブルジヨアジーの試みは、前者の大衆的進出に出会はざるを得なくなつてゐる。当てはまる資本主ギ発展を助けた寄生地主的土地所有制は、そのことの為に、現在の如き深刻な農業危機を招致し、資本主ギ経済危機の重要部分となり、発達の力強い桎梏となつてゐる。概民地半植民地の広汎なる大衆に対する野獣の如き搾取と弾圧は、更等大衆をして、反日本帝国主ギ運動の力強い軍隊として起ち上らせてゐる。隣邦には、蒼ある中国共産党に指導され、数ケの省を把握するソヴエート地域を中心とするソヴエー

ルのロシアの代りに、社会主ギ経済建設事業を担日昇天の勢で敢行しつゝあるソヴエート同盟の祖国が存在してゐる。しかも、更に、太平洋問題は、帝国主ギ列強国間に於ける重要国心事の一つとなつてゐる。日本資本主ギはかくの如き情勢下に呻吟してゐる。而して、是等の矛盾の全ては資本主ギの枠内では解決し得ないのである。しかもその解決は迫られてゐる。

以上全ては、日本に於て社会主ギ革命の前提条件が急速に成熟しつゝあることを示す。資本の強きに代かるにプロレタリアートの組織を以つてすることと以外に、かくの如き矛盾の正しい解決の途はない。それと同時に又、農村に於ては、土地問題の解決が迫られてゐる。それは如何なる姑息手段に依つても解決し得ない。ブルジョア地主政府が可農村救済と口自作農創定とは、実施後幾何ならざる今日、既に、それが勤労被搾取農民大衆に対する重圧であるを、事実を以つて証明した。地主と緊密に結合してゐるブルジョアジーはこの問題を急進的に解決する力を有しない。何故なら、地主の土地を取り上げて農民大衆に与へることは、地主を倒さずには不可能であり、地主を倒すことは、ブルジョアジー自身が自己の重要な支柱を失ふばかりでなく又彼等自身をせることを意味するからである。

然るに、土地問題は仍く農民に土地を与へることを以つてのみ一応解決されるのである。勤労被搾取農民大衆は、正に、このために立ち上つてゐる。けれども、土地を農民に分配することは未だ社会主ギではない。何故なら、それはまだ土地の私有を廃止してゐるからである。その意味に於てこれはブルジョア民主々ギ革命である。かくて来るべき日本の革命の性質は「ブルジョア民主々ギ的任務を広汎に抱擁するプロレタリア革命」であり（共産主ギインタナショナル綱領）。

未るべき日本革命に於ける革命の推進力はプロレタリアートである。プロレタリアートのみが資本の叛のみならず、徹底的に斗争し得る階級である。プロレタリアートは我国の生産関係に於て決定的重要性を有し断乎たる革命的勢力である。プロレタリアートは一つの搾取形態を以つて、他の搾取形態に代へるに、他の搾取形態を以つてするが如き改革を目指すのではなく、搾取そのものを、廃止、従つて、階級そのものをなくすることをその斗争の最高目標とする。しかしながら、プロレタリアートは、小ブルジョア的自己満足に酔ふたり、無政府主ギ的空想にふけることに断乎として反対する。而して、社会剰余の変革は、政府役員の首のすげ換へに依つて行はれるかの如きブルジョア自由主ギ的思想にも徹底的に対立する。ブルジョア組合の如何なる形式——ブルジョアデモクラシー、ファシズム——にも反対し、プロレタリアアデモクラシー、プロレタリア独ㇾ——それは資本主ギよりの過渡期であり、プロレタリアートの上に築かれる農業プロレタリアートの上に築かれる農業プロレタリアートの当初から可資本主ギの墓堀り人」として成長した。日本のプロレタリアートは、かくの如きものとして将来し、生長してゐる。日本のプロレタリアートが示せる革命的斗争の経験を有しないことを以つて、このプロレタリアートのプロレタリア独裁の力を信じないほど、史的使命遂行の力を信じないほど、日和見主ギ的な、悪切的な考へ方はない。日本のプロレタリアートは過去の斗争に於て、特に、最近十年の斗争に於て、彼等が偉大なる革命的勢力であることを実践的に明示したし、明示してゐる。

更に、日本のプロレタリアートは、革命の有力な同盟軍として、広汎な農業プロレタリアート、貧農大衆の真実の解放は、土地の没収等分配に依つてのみはなく、農民経済をも含む全国民経済を社会主ギの線上に組織替へすることによつてのみ可能である。このことは、偉大なる十月革命によつて教へられてゐる。従つて、斗争の現段階にあつては、大地主、天皇、公債、寺社領の土地没収、勤労農民への分配にある農民戦争は、都市プロレタリアート側からの指導に依つて、それを正しく発展させ得るのである。だがプロレタリアートは、資本主ギ機構の重要な支柱たる地主勢力倒壊を目指す広汎なる農業プロレタリアート、貧農大衆の援助なしには、金融ブルジョアジーとの斗争に於て、成功的勝利を得ることは困難である。都市プロレタリアートと農業の重圧は、半封建的搾取関係にある小作人を中心とする貧農並びに、近年益々その比重を増大し来れる農業プロレタリアートの上に築かれる農業プロレタリアートの上に築かれる農業プロレタリアートの当初から可資本主ギの墓堀り人」として成長した。日本のプロレタリアートが示せる革命的斗争の経験を有しないことを以つて、このプロレタリアートのプロレタリア独裁の力を信じないほど、日和見主ギ的な、悪切的な考へ方はない。日本のプロレタリアートは過去の斗争に於て、特に、最近十年の斗争に於て、彼等が偉大なる革命的勢力であることを実践的に明示したし、明示してゐる。

更に、日本のプロレタリアートは、革命の有力な同盟軍として、広汎な農業プロレタリアート、貧農大衆の真実の解放は、土地の没収等分配に依つてのみはなく、農民経済をも含む全国民経済を社会主ギの線上に組織替へすることによつてのみ可能である。このことは、偉大なる十月革命によつて教へられてゐる。従つて、斗争の現段階にあつては、大地主、天皇、公債、寺社領の土地没収、勤労農民への分配にある農民戦争は、都市プロレタリアート側からの指導に依つて、それを正しく発展させ得るのである。だがプロレタリアートは、資本主ギ機構の重要な支柱たる地主勢力倒壊を目指す広汎なる農業プロレタリアート、貧農大衆の援助なしには、金融ブルジョアジーとの斗争に於て、成功的勝利を得ることは困難である。都市プロレタリアートと農業の重圧は、半封建的搾取関係にある小作人を中心とする貧農並びに、近年益々その比重を増大し来れる農業プロレタリアートの上に築かれる農業プロレタリアート独ㇾ——それは資本主ギよりの過渡期であり、プロレタリア革命の一部分である。

農村貧農との革命的同盟は、かくて、来るべき日本の革命に於て、プロレタリアートの勝利に欠くべからざる必須条件である。しかも、この同盟に必要なる客観的条件は、充分に備はつてゐる。しまつてゐるから、この同盟に於ては、プロレタリアートのみがヘゲモニー（指導権）を握り得るし、又、握らねばならぬ。吾々はこの点を特に強調しなければならぬ。都市プロレタリアートは、貧農の外に、小農及び中農の下層部分をも革命的力として動員し得るであらう。（農業問題、農民問題に関しては別にこれを研究する。）

我□の革命の推進力たるプロレタリアートは、更に、前述の□際的情勢に依つて、朝鮮、台湾の被圧迫民族、革命支那の労働者農民大衆、及び、ソヴエート同盟の労働階級を先頭とする世界各□の革命的労働階級を□□その有力なる同盟軍としてゐる。

我□の農業革命には、農村プロレタリアート、貧農の外に、小農及び中農の下層部分をも革命的力として動員し得るであらう。（農業問題、農民問題に関しては別にこれを研究する。）

我□革命の推進力たるプロレタリアートは、更に、前述の□際的情勢に依つて、朝鮮、台湾の被圧迫民族、革命支那の労働者農民大衆、及び、ソヴエート同盟の労働階級を先頭とする世界各□の革命的労働階級を□□その有力なる同盟軍としてゐる。

我□革命は、農村プロレタリアートと貧農大衆の革命的要求を積極的に支持し、自らその斗争の先頭に立つて指導しなければならぬ。然るに、土地問題は仍く農民に土地を与へることを以つてのみ一応解決されるのである。勤労被搾取農民大衆は、正に、このために立ち上つてゐる。けれども、土地を農民に分配することは未だ社会主ギではない。何故なら、それはまだ土地の私有を廃止してゐるからである。その意味に於てこれはブルジョア民主々ギ革命である。かくて来るべき日本の革命の性質は「ブルジョア民主々ギ的任務を広汎に抱擁するプロレタリア革命」であり（共産主ギインタナショナル綱領）。

未るべき日本革命に於ける革命の推進力はプロレタリアートである。プロレタリアートのみが資本の叛のみならず、徹底的に斗争し得る階級である。プロレタリアートは我□の生産関係に於て決定的重要性を有し断乎たる革命的勢力である。プロレタリアートは一つの搾取形態を以つて、他の搾取形態に代へるに、他の搾取形態を以つてするが如き改革を目指すのではなく、搾取そのものを、廃止、従つて、階級そのものをなくすることをその斗争の最高目標とする。しかしながら、プロレタリアートは、小ブルジョア的自己満足に酔ふたり、無政府主ギ的空想にふけることに断乎として反対する。而して、社会剰余の変革は、政府役員の首のすげ換へに依つて行はれるかの如きブルジョア自由主ギ的思想にも徹底的に対立する。ブルジョア組合の如何なる形式——ブルジョアデモクラシー、ファシズム——にも反対し、プロレタリアデモクラシー、プロレタリア独ㇾ——それは資本主ギよりの過渡期であり、プロレタリア革命の一部分である。

三、日本共産党の任務

共産党はプロレタリアートの唯一の革命的政党である。共産党のみが、プロレタリアートの革命的勝利の保証である。他の如何なる名称に依つても、代置され得ないものである。共産党の勝利が大であるか、又、小であるかは革命の諸段階に於けるプロレタリアートの成功不成功を決定する重要な因子である。

日本では客観的条件が以上に述べた如く、吾プロレタリアートの革命的勢力の増大とその活動の進展を促す好条件であるにも拘らず革命の主観的条件はそれに対して異常に不均衡であり、蕪弱である。それは日本共産党が今日まだ弱いといふ事は、他の政党を以てそれに代へる事を断じて意味しない。日本共産党のみが、今日の日本に於ける唯一の革命的原動力たるべきものである。日本プロレタリアートの最大の努力は実にこゝに集中されねばならぬ。□日本の特殊性□を云々したり、□□史的必然□の名に於て共産党の組織を妨害したり、所謂無産政党を以て共産党組織の前提条件であるかの如く指導したりする事は何れも、実践的には、プロレタリアートの革命的勢力結集を毒するものであり、従つて又、日本プロレタリアートの勝利を永遠の彼方に押しやる所の反動的理論である。

日本共産党はコミンテルンの日本支部である。共産党はコミンテルンの一ケ□に一つしかない存在しないものであり、当然□に於けるプロレタリアートの前衛の統一的な政治的革命的組織である。そこでは如何なる分派行動も許されない。全労働革命運動の統一的指導部になるコミンテルンが存在する現在に於て、一□に一ケ以上共産党を作らんとする試みは断じて許さるべからざる事である。而して、その事がコミンテルンの

名の下に行はれ乍ら、尚一層激して、同一のそれから、今日、一九三一年に至つて、可成正コミンテルン・支部——日本共産党労働者農中党は日本プロレタリアートの唯一の革命的政党であり、プロレタリアートの解放を以てその目的とする。そしてこの目的遂行の為に斗争して来たし、且つ斗争して居り、将来も又この方向に勇敢邁進するものである。

日本のプロレタリアートは一九二八年三・一五事件以来疑もなく敵北してゐた。それは共産党組織の拡大が行はれなかつた事に基因してゐる。日本共産党は、広汎なる労働者大衆側からの信頼と賛意とを充分に、その組織内に獲得し得なかつた。その事は吾党内に於てすら、革命運動に於ける党の指導的役割を正当に理解し得ない日和見主義的偏向（例へば政治的自由獲得労農同盟組織の提唱、党の根本的活動の不充分等）及び極左冒険主義的偏向——それは一九二九年四・一六事件に於て多数の優秀な指導者が奪はれてから特に激しかつた。最近の吾党は実質上少数の集団であり、従つて、最近の客観的情勢の急迫と結合の弱い、従つて、現実的に大衆斗争の集中的組織でもない。吾々は、支部階級側からの弾圧迫害のみを以てこの事実を正当化してはならぬ。だが吾々は、共産党無用論、又は、可モウ少し政治的自由が許されてから——だが、それは共産党の指導下に労働者大衆を革命的斗争へ動員する為に依つてのみ獲得し得るのだ）——方へ直さう」といふ如き、公然たる日和見主義とは断然対立した。当面は、共産主義の障害にあつてはならぬ。更に、党は実質上少数の集団であり、従つて、最近の吾党の客観的情勢の急迫と結合の弱い、従つて、現実的に大衆斗争の集中的組織でもない。吾々は、支部階級側からの弾圧迫害のみを以てこの事実を正当化してはならぬ。だが吾々は、共産党無用論、又は、可モウ少し政治的自由が許されてから——だが、それは共産党の指導下に労働者大衆を革命的斗争へ動員する為に依つてのみ獲得し得るのだ）——方へ直さう」といふ如き、公然たる日和見主義とは断然対立した。当面は、共産主義の障害にあつてはならぬ。更に、

日本の労働者階級の攻撃を有しないが、消極的防禦より積極的防禦——進撃への戦向を全戦的に有する。この事を過大評価したり、過小評価したりする事は全然誤謬である。金融資本覇権の確立、口家族制度のファシズム化の条件下に於ける経済斗争の拡大は実に大きな政治的意義性を有する。而してこの事は日本共産党が、今日よりもつと〳〵数十倍も強力的に大衆的斗争を準備し、組織し、指導し、且つこの斗争過程を通じて吾党内のボルシェビキ的大衆的政党たらしめる事を要求してゐる。共産党は労働者階級前衛の政治的結集体であるが故に、日本共産党を拡大強化する事こそは日本の革命的労働者全体に課せられた重要な任務である。日本の労働者階級はその内部に包蔵されてゐる偉大な革命的エネルギーを自覚し、まだ微力たりと雖も、日本プロレタリアートの革命的伝統を守り続けてゐるコミンテルン日本支部たる日本共産党組織の拡大強化に敢然と参加しなければならぬ。

労働者階級の攻撃を有しないが、消極的防禦より積極的防禦——進撃への戦向を全戦的に有する。この事を過大評価したり、過小評価したりする事は全然誤謬である。金融資本覇権の確立、口家族制度のファシズム化の条件下に於ける経済斗争の拡大は実に大きな政治的意義性を有する。而してこの事は日本共産党が、今日よりもつと〳〵数十倍も強力的に大衆的斗争を準備し、組織し、指導し、且つこの斗争過程を通じて吾党内のボルシェビキ的大衆的政党たらしめる事を要求してゐる。共産党は労働者階級前衛の政治的結集体であるが故に、日本共産党を拡大強化する事こそは日本の革命的労働者全体に課せられた重要な任務である。日本の労働者階級はその内部に包蔵されてゐる偉大な革命的エネルギーを自覚し、まだ微力たりと雖も、日本プロレタリアートの革命的伝統を守り続けてゐるコミンテルン日本支部たる日本共産党組織の拡大強化に敢然と参加しなければならぬ。

時的敗北を見て、逃避した。（そして、同一のそれから、今日、一九三一年に至つて、可成正コミンテルン・支部——日本共産党労働者農中党は日本プロレタリアートの唯一の革命的政党であり、プロレタリアートの解放を以てその目的とする。そしてこの目的遂行の為に斗争して来たし、且つ斗争して居り、将来も又この方向に勇敢邁進するものである。

日本のプロレタリアートは一九二八年三・一五事件以来疑もなく敵北してゐた。それは共産党組織の拡大が行はれなかつた事に基因してゐる。日本共産党は、広汎なる労働者大衆側からの信頼と賛意とを充分に、その組織内に獲得し得なかつた。その事は吾党内に於てすら、革命運動に於ける党の指導的役割を正当に理解し得ない日和見主義的偏向（例へば政治的自由獲得労農同盟組織の提唱、党の根本的活動の不充分等）及び極左冒険主義的偏向——それは一九二九年四・一六事件に於て多数の優秀な指導者が奪はれてから特に激しかつた。最近の吾党は実質上少数の集団であり、従つて、最近の客観的情勢の急迫と結合の弱い、従つて、現実的に大衆斗争の集中的組織でもない。吾々は、支部階級側からの弾圧迫害のみを以てこの事実を正当化してはならぬ。だが吾々は、共産党無用論、又は、可モウ少し政治的自由が許されてから——だが、それは共産党の指導下に労働者大衆を革命的斗争へ動員する為に依つてのみ獲得し得るのだ）——方へ直さう」といふ如き、公然たる日和見主義とは断然対立した。当面は、共産主義の障害にあつてはならぬ。更に、

労働者階級の攻撃を有しないが、消極的防禦より積極的防禦——進撃への戦向を全戦的に有する。この事を過大評価したり、過小評価したりする事は全然誤謬である。金融資本覇権の確立、口家族制度のファシズム化の条件下に於ける経済斗争の拡大は実に大きな政治的意義性を有する。而してこの事は日本共産党が、今日よりもつと〳〵数十倍も強力的に大衆的斗争を準備し、組織し、指導し、且つこの斗争過程を通じて吾党内のボルシェビキ的大衆的政党たらしめる事を要求してゐる。共産党は労働者階級前衛の政治的結集体であるが故に、日本共産党を拡大強化する事こそは日本の革命的労働者全体に課せられた重要な任務である。日本の労働者階級はその内部に包蔵されてゐる偉大な革命的エネルギーを自覚し、まだ微力たりと雖も、日本プロレタリアートの革命的伝統を守り続けてゐるコミンテルン日本支部たる日本共産党組織の拡大強化に敢然と参加しなければならぬ。

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ！（二）

にして、その組織の拡大強化に向はねばならぬ。のくて党拡大強化のスローガンは可大衆へ！」である。

附記

これは前号署名の可口隊情勢と日本帝国主義の後割」の続きとなつてゐるものである。更に、

吾々は以下彼等が可日本共産党労働者派中央委員会」なる仮面の下に発表した可政治テーゼ（草案）」を出来る忠実に引用しつゝ、彼等を批判するであらう。

明治維新政府

旗下の黒船の襲来といふ砲弾と異答なる国の夢からゆり起された日本民族にとつて、彼等が西欧帝国主義ギ口の植民地とならない為には、生産力の発展と社会的進歩との程格と化してゐた所の幕府支配——封建的中央集権口家——を打倒し、強国な近代的口民的統一口家を形成し、先進資本主ギ諸国に追ひ付き追ひ越す以外には道はなかつた。明治維新と明治維新政府の使命は実にこゝにあつた。

だから、

(1)彼等はブルジョアジーを養成しブルジョアジーの利益を擁護しなければならない。官立模範工場の設立と産業の保護コーエキとは彼等のスローガンであつた。

(2)彼等はその為に強大な財政的基礎を確立する必要に迫られた。

(3)彼等は土地の自由売買を許し、封建的土地所有関係を破壊して地主を助け地主を基礎としたのであつた。

地主に与へられた土地所有権の認保と収奪搾取の自由とはブルジョアジーに与へられた保護と共に実に絶大なものであつた。明治維新政府の階級的基礎は実にかゝる地主階級であつた。

然るに解党派は明治維新とその政府の本質に就て見全に間違つてゐる。彼等は一重に明治維新の名に於て可民」——労働者農民——を収奪し搾取し虐殺してこの可二つの魂」にイケニエにした。

六百年の伝統が一朝にして、——解党派の紳士諸君が御様を変へるように——そんなに容易に変更されるものではない。まして半封建的生産関係搾取関係が厳存するのだから。彼等——可封建諸侯」等——の多くは北海道の右再び土地——例へば北海道に於て——を新らたに頒入れた。とはなへ、彼等が封建時代から引続き所有してゐる土地は決して僅少ではない。そして彼等の多くが今日依然として大地主であることは争ふことの出来ない事実である。

水呼以下には、(4)日本共産党の当面重要戦術、(5)労働組合運動に就て、(6)反帝運動に就て、(7)下からの統一戦線——社会民主々ギとの斗争に就て、(8)青年運動、(9)失業者運動に就て、(10)婦人運動に就て、を述べてケイサイする。

新政府のブルジョア的性質のみしか見てゐない。

可当時の専制勢力は口横断的有者であり、又口家資本の支配者であつて、此意味から彼等の経済的基礎は挙カブルジョア的であつた」。

更に彼等は可日本の場合に於ては此の時代にブルジョア的であり、ブルジョア的基礎の上に立つてゐた」と。

可日本の場合に於ては専制勢力は実本質に於ては絶対的金禄公債を代償として封建諸侯、公卿、武士階級の領有権を撤廃した。（この時、すでに封建地主階級は、日本からその跡を絶つたのだ。）」

と主張する。

六百年の伝統が一朝にして、——解党派の紳士諸君が御様を変へるように——そんなに容易に変更されるものではない。まして半封建的生産関係搾取関係が厳存するのだから。彼等——可封建諸侯」等——の多くは北海道の右再び土地——例へば北海道に於て——を新らたに頒入れた。とはなへ、彼等が封建時代から引続き所有してゐる土地は決して僅少ではない。そして彼等の多くが今日依然として大地主であることは争ふことの出来ない事実である。

農業農民問題

図像は可ブルジョア的」だといふのである。

可我口に於ける地主が、史的社会的にむしろ農村ブルジョア？として出現したものである」といふのである。可吾口に於ける現在の地主は、……身分的には農民の上層たる富農地主である。利資本の出身者乃至は銀行資本それ自体であるといふのである。それ故に可それ——金融資本と農村地主との間の対立——は本質的には単なるブルジョア階級内部の対立に過ぎず、金融資本と産業資本との間の対立と何等の相違もないものなのだ」へなんてスバラしい迷論であることよ！）

地主はブルジョアである。だから本質的には地主といふ規定は不必要になる。一重にブルジョアといふ規定だけで沢山である。といふことになる。又彼等の主張に依へば我口の小作料は、可農業労働者の労切力の価値と事実上支払はれた低い労賃との間の

若瀬を收得する形態としくの地代」――高利地代であるそうだ。これは明らかに資本主義的農業生産関係と農業労働者とを前提する。日本の小作人は資本家的農業経営の純粋の農業労働者に異立てられてゐる。〈解党派の紳士諸君お気は確かであらせられますか?!〉だが、これは又、余りにも明白な曲解だ。種子、苗木、肥料等に近代科学が応用されて居り、用排水、穀物肥料の調整に機械力が使用され始めつゝあるとは云へ日本農業を支配してゐる生産関係は半封建的生産関係だ。今日でも昔ながらの勤勉を持つて殆んど人力で耕耘されてゐる。〈解党派の約半分は全く畜力をすら使用してゐない。畜力を使用する他の半分の地方でも田植、田草取り、刈取等は全く人力に依存してゐる。〉日本の小作料は、資本主義治下の零細農地に於ける生産物形態の高率な半封建的小作料であるが、ある小作料を收奪搾取する地主がブルジヨアと同一であり得ないことは余りにも明白ではないか。

(三)日本プロレタリアートの戦略戦術の決定にとつて農業農民問題の分析は甚しく重要であり、甚だしく困難な仕事である。解党派と吾々との理論的対立もこの点に於て最も尖鋭に現はれてゐる。それ故に吾々はこの問題の為に特別のパンフレットを発行した。従つてこゝでは前后の連関を明らかにするに止め、極く僅かしかこの問題に立ち入らないことにする。

政权の所在

地主はブルジヨアであるといふ珍無類の結論を見て来た吾々は、解党等が、
「日本現在の政权はかくて完全にブルジヨア政权である。」と結論しないからとて少しも驚きはしまい。解党等は日本経済研究、農民問題等――日本資本主義地主の政府といふ規定は最密な意味ではブルジヨアジーの政府である。」と。それ故に解党等の戦略に従ふ限り、「打倒資本主義」の断乎たる斗争の一路につき進まなければならない。」ことになる。吾々は解党等おこりつこはないが――誤解等を避けるためには言はなければならぬ。吾々は又「打倒帝国主義」を目指してつき進むことを戦略的目標としてゐる。にも拘らず、日本農業に於ける生産関係、搾取関係、寄生地主的土地所有関係、日本農業のそれ、地主。天皇等の政治的性質、農業革命の基礎の上に立つ解党派の誤謬の基礎の上に立つ解党派のトロツキズム的戦略とは完全に対立する。

(四)純粋資本主義と完全なるブルジヨア政府とを前提し、従つて、農業革命の重要性とプロレタリア革命に於ける農民の革命的エネルギーとを過少評価する解党派のトロツキズムは結局に於てプロレタリアートをあと隔れ、農民をプロレタリアートから引き離してブルジヨアジーの政府でもある。」と。それ故に解党等の戦略に従ふ限り、「打倒資本主義」の断乎たる斗争の一路につき進まなければならない。」ことになる。吾々は解党等おこりつこはないが――誤解等を避けるためには言はなければならぬ。吾々は又「打倒帝国主義」を目指してつき進むことを戦略的目標としてゐる。にも拘らず、日本農業に於ける生産関係、搾取関係、寄生地主的土地所有関係、日本のそれ、地主。天皇等の政治的性質、農業革命の基礎の上に立つ解党派の誤謬の基礎の上に立つ解党派のトロツキズム的戦略とは完全に対立する。

(五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(三十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(三十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(三十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(三十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(三十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(三十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(三十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(三十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(三十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(三十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(四十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(四十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(四十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(四十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(四十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(四十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(四十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(四十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(四十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(四十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(五十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(五十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(五十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(五十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(五十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(五十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(五十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(五十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(五十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(五十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(六十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(六十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(六十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(六十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(六十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(六十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(七十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(七十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(七十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(七十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(七十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(七十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(八十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(八十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(八十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(八十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(八十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(八十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(九十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(九十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(九十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(九十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(九十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(九十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百二十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百二十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百二十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百二十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百二十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百二十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百三十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百三十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百三十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百三十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百三十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百三十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百四十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百四十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百四十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百四十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百四十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百四十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百五十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百五十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百五十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百五十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百五十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百五十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百六十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百六十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百六十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百六十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百六十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百六十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百七十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百七十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百七十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百七十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百七十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百七十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百八十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百八十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百八十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百八十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百八十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百八十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百九十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百九十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百九十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百九十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(百九十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(百九十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百十四)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百十五)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百十六)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百十七)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百十八)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百十九)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百二十)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百二十一)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺ゆる社会にブルジヨア的口実权力が設けてゐる制限にブツカるであらう。それを具体的に暴露するのだ。

(二百二十二)だが、口実权力との衝突を恐れる事なく、最も鋭い革命的宣伝を展開しなければならぬ。

(二百二十三)労働者農民の利益になる全てのことをなして見よ。そうすると俺

たわけか。それは、

第一、党の組織者や細胞が党員の資格を非常に高くしてゐる。理論的並に実践的に百％主義をとつてゐる。

第二、自分は是非党員になりたい希望を持ち、党の綱領を承認し、党の方針に従ひ、党の規律に服して斗争する決意と相当のテープで工場細胞を組織して工場細胞が推進力となつて闘斗争を活潑に展開するのを見て、初めて、Ｈ君あの工場には党員に採用しようといふ声が多いがＨ君を党員に採用するぞ！と公然と云つて来るまではダマつてゐるべきだと考へてゐるらしい。組織なくしては斗争は進展しないがこれは消極的日和見主義だ。

第三、革命的労働者のイニシアテーブで革命的労働者が党と連絡れつくのを待たないで、自分達で積極的に細胞を組織することは、それは分派行動で間違ひだと考へてゐる。

第四、だが、何よりも党の政治的影響に組織かとらなはないことに基因する。

以上の実に誤てゐる考へ方は赤旗パンフレットで吾々は毎三答へてゐるが、もう一度こゝで繰返す必要がある。何度繰返しても繰返す必要がある。最も重要な問題だからだ。それはかうだ。

第一、敵人法で逮捕されてゐる今日の情勢の下で、断固つ党員になりたいといふ革命的労働者は全部党員に採用すべきだ。だがこの際慎重に調査し、審査しなければならぬ一点がある。それはスパイ問題だ。今日の情勢のもとで革命的に斗争する労働者は革命家か然らずんばスパイかなスパイでない限りドシ〳〵党員に採用せよ。党員になりたい希望を持ち、党の綱領を承認し、党の方針に従ひ、党の規律に服して斗争する決意と相当のテープで工場細胞を組織して工場細胞が推進力となつて闘斗争を活潑に展開するのを見て、初めて、Ｈ君あの工場には党員に採用しようといふ声が多いがＨ君を党員に採用するぞ！と公然と云つて来るまではダマつてゐるべきだと考へてゐるらしい。組織なくしては斗争は進展しないがこれは消極的日和見主義だ。

第二、革命的労働者のイニシアテーブで革命的労働者が党と連絡れつくのを待たないで、自分達で積極的に細胞を組織することは、それは分派行動で間違ひだと考へてゐる。

第四、だが、何よりも党の政治的影響に組織かとらなはないことに基因する。

以上の実に誤てゐる考へ方は赤旗パンフレットで吾々は毎三答へてゐるが、もう一度こゝで繰返す必要がある。何度繰返しても繰返す必要がある。最も重要な問題だからだ。それはかうだ。

第一、敵人法で逮捕されてゐる今日の情勢の下で、断固つ党員になりたいといふ革命的労働者は全部党員に採用すべきだ。だがこの際慎重に調査し、審査しなければならぬ一点がある。それはスパイ問題だ。今日の情勢のもとで革命的に斗争する労働者は革命家か然らずんばスパイかなスパイでない限りドシ〳〵党員に採用せよ。党員になりたい希望を持ち、党の綱領を承認し、党の方針に従ひ、党の規律に服して斗争する決意と相当のテープで工場細胞を組織して工場細胞が推進力となつて闘斗争を活潑に展開するのを見て、初めて、Ｈ君あの工場には党員に採用しようといふ声が多いがＨ君を党員に採用するぞ！と公然と云つて来るまではダマつてゐるべきだと考へてゐるらしい。組織なくしては斗争は進展しないがこれは消極的日和見主義だ。

第二、自分は是非党員になりたい希望を持ち、党の綱領を承認し、党の方針に従ひ、党の規律に服して斗争する決意と相当のテープで工場細胞を組織して工場細胞が推進力となつて闘斗争を活潑に展開するのを見て、初めて、Ｈ君あの工場には党員に採用しようといふ声が多いがＨ君を党員に採用するぞ！と公然と云つて来るまではダマつてゐるべきだと考へてゐるらしい。組織なくしては斗争は進展しないがこれは消極的日和見主義だ。

第三、革命的労働者のイニシアテーブで革命的労働者が党と連絡れつくのを待たないで、自分達で積極的に細胞を組織することは、それは分派行動で間違ひだと考へてゐる。

第四、だが、何よりも党の政治的影響に組織かとらなはないことに基因する。

以上の実に誤てゐる考へ方は赤旗パンフレットで吾々は毎三答へてゐるが、もう一度こゝで繰返す必要がある。何度繰返しても繰返す必要がある。最も重要な問題だからだ。それはかうだ。

第一、敵人法で逮捕されてゐる今日の情勢の下で、断固つ党員になりたいといふ革命的労働者は全部党員に採用すべきだ。だがこの際慎重に調査し、審査しなければならぬ一点がある。それはスパイ問題だ。今日の情勢のもとで革命的に斗争する労働者は革命家か然らずんばスパイかなスパイでない限りドシ〳〵党員に採用せよ。

ある。……労働者と農民のソヴエート政府、プロレタリア独裁！……それでは不充分であり、社会民主主義の理論ではないかイ。私の意見かも知れぬが、労農党の解消運動以来著しくこの問題が大衆討議の日程に上つてゐるやうだが、党はまだそれに対して明確な答へを与へてゐないのではないか？

かの政治的自由獲得労農同盟が、四・一六直前に於て、カンパニア組織として芸定された選挙斗争時に於ける選挙斗争同盟の如き方向に進んでゐたが、現在に於てもそれは正しい。けれども大衆の要求は、如何にして都市労働者と農民との斗争同盟を組織するか？を望んでゐる。特に、全般の非合法性と全農の合法性との間に起つての結合の問題が再探求されるべきではないかと思ふ。

特輯号

(1)三・一五才四年を迎へて。

ある一九三〇年の新しい戦術的規定とコミンテルンの総選挙指令とは何をいふのか？向ふ。

才三十六号

(1)同志アニケーフ氏の暗殺未遂のアッピール。

吾々の口隊的至験によれば、かゝる場合に際しては、あくまでもその必要性をおしへてゐるが、たとへ現在の力に於てきはめて弱いとはゝへ、日本共産党のアッピールはその為めの具体的スローガンと戦術的スローガンとを区別を説明して与へてゐない。たゞどこへもメーデーの記事の最後に掲げた多くのスローガンを例にするなどして、具体的に分るやうに書いていなければならない。

才三十七号に就て（一）

一、日政治犯人救援のスローガンは可能級的政治犯人の救援の方が正しくはないか。

二、一日七時間労働制のスローガンは何故に出されないか。

三、工場世話役とは何か。

五頁二段。「農業労働者の組織」これは農業労働者を農民組合員以外の組織に組織することをいふか。

七頁一段。伍藤の偽してゐる「日本労農党会」とはどんな団体か。もつと詳しく書かれたい。誰がその会の中心人物か、どんな勢力がその団体をうごかして居るか。軍閥が背景にあると書いてあつたがもつと具体的に。それをハツキリさすことによつて、大衆の憤怒をどこに向くべきかゞ正当に示されることになる。

正誤。COEДИНЯЙTECЬ！
COEДИ……

才三十八号

一、三十八号の中一般、才十七日五頁勢力は更に訂正。

二、才六頁の中一段、才十七行目五頁勢力は更に訂正。

三、これ迄軍隊に於ける活動に就ては一言も出はれてゐないが、帝国主義戦争の危機が迫つてゐる今日、これは重要な問題ではなからうか。

才三十六号に就て（二）

一、日大衆的活動方法への転換によつて極左宗派主義の最后的清算へ！日の文中、吾々のおかした極左的傾向の残滓が現在どういふところに存在して、それがどんなふうに吾々の運動をさまたげてゐるか具体的に示してほしかつた。

二、日パリ・コンミユン日で天皇な資本家であり、地主であることを、ハツキリ数字で表はしたのは非常によい。これまではかうした分析がなされなかつた。但し、これには満鉄の持ち株（ただし八割位と割いてゐる）が示されてない。これは日本帝国主義の満洲方面への（特に）侵略を意味するものであるから、更非つけ加へるべきだらう。

才三十六号に就て

一、日大衆的活動方法への転換によつて極左宗派主義の最后的清算へ！日の文中、吾々のおかした極左的傾向の残滓が現在どういふところに存在して、それがどんなふうに吾々の運動をさまたげてゐるか具体的に示してほしかつた。

二、日パリ・コンミユン日で天皇な資本家であり、地主であることを、ハツキリ数字で表はしたのは非常によい。これまではかうした分析がなされなかつた。但し、これには満鉄の持ち株（ただし八割位と割いてゐる）が示されてない。これは日本帝国主義の満洲方面への（特に）侵略を意味するものであるから、更非つけ加へるべきだらう。

才三十七号について

一、日メーデー日のスローガンに、徒弟制度や諸頁制度に対するスローガンがおちてゐはしないか。

二、七月テーゼ発表当時より、此の間まで、日評会解散日のスローガンをかゝげてゐたのは誤りか、なかつたのか？労働者農民の逆襲、攻ゲキが強くなつて来たから、このスローガンをテツパイするのか？

まだ充分吾々には理解出来ない。

同志メメの日評会解散について

△前号には批判の要点が何等示されずして、言はゞ日本論日の如きもの——投書の言葉数迎するとか、投書の言葉づかひが誤りであるとか——を述べたに過ぎなかつたので、あれだけ切り離して読むと甚だ不満を感じさせられた。

今号に於ては論理を進めて、根本的な点にふれてあるが、然し、こゝでもメ、同志メメの投書の全文を（ハツくとも重要乃至要旨を）最も先にかゝげて、その後で一つ一つその誤謬を指摘して欲しかつたと考へられる。

△日ソヴエート同盟に於ける社会主ギの建設が隆々と進展しつゝある時、帝国主ギ世界に於ては反対に失業と飢餓の大嵐が荒れ狂つて、ねか時、一九三一年のバルジヨア評会に際して

せられた機のやうにブルジヨア評会を仆せのスローガンを書き加へた事は決して誤りではない。

評会解散のスローガンが誤りで、それは評会を仆せ！ガンが誤りであるといふのか？

△戦術的スローガンと戦略的スローガン。部分的・過渡的中心スローガン。これらの区別を説明して与へたい。たゞどこへもメーデーの記事の最后に掲げた多くのスローガンを例にするなどして、具体的に分るやうに書いていなければならない。

才三十七号に就て（一）

一、日政治犯人救援のスローガンは可能級的政治犯人の救援の方が正しくはないか。

二、一日七時間労働制のスローガンは何故に出されないか。

三、工場世話役とは何か。

五頁二段。「農業労働者の組織」これは農業労働者を農民組合員以外の組織に組織することをいふか。

七頁一段。伍藤の偽してゐる「日本労農党会」とはどんな団体か。もつと詳しく書かれたい。誰がその会の中心人物か、どんな勢力がその団体をうごかして居るか。軍閥が背景にあると書いてあつたがもつと具体的に。それをハツキリさすことによつて、大衆の憤怒をどこに向くべきかゞ正当に示されることになる。

正誤。COEДИНЯЙTECЬ！
COEДИ……

才三十八号に就て

一、三十八号の中一般、才十七日五頁勢力は更に訂正。

二、才六頁の中一段、才十七行目五頁勢力は更に訂正。

三、これ迄軍隊に於ける活動に就ては一言も出はれてゐないが、帝国主義戦争の危機が迫つてゐる今日、これは重要な問題ではなからうか。

才三十六号に就て（二）

一、日大衆的活動方法への転換によつて極左宗派主義の最后的清算へ！日の文中、吾々のおかした極左的傾向の残滓が現在どういふところに存在して、それがどんなふうに吾々の運動をさまたげてゐるか具体的に示してほしかつた。

二、日パリ・コンミユン日で天皇な資本家であり、地主であることを、ハツキリ数字で表はしたのは非常によい。これまではかうした分析がなされなかつた。但し、これには満鉄の持ち株（ただし八割位と割いてゐる）が示されてない。これは日本帝国主義の満洲方面への（特に）侵略を意味するものであるから、更非つけ加へるべきだらう。

才三十六号

(1)三・一五才四年を迎へて。

ある一九三〇年の新しい戦術的規定とコミンテルンの総選挙指令とは何をいふのか？向ふ。

(1)同志アニケーフ氏の暗殺未遂のアッピール。

吾々の口隊的至験によれば、かゝる場合に際しては、あくまでもその必要性をおしへてゐるが、たとへ現在の力に於てきはめて弱いとはゝへ、日本共産党のアッピールはその為めの具体的スローガンと戦術的スローガンとを区別を説明して与へてゐない。たゞどこへもメーデーの記事の最后に掲げた多くのスローガンを例にするなどして、具体的に分るやうに書いていなければならない。

才三十七号に就て（一）

一、日政治犯人救援のスローガンは可能級的政治犯人の救援の方が正しくはないか。

二、一日七時間労働制のスローガンは何故に出されないか。

三、工場世話役とは何か。

五頁二段。「農業労働者の組織」これは農業労働者を農民組合員以外の組織に組織することをいふか。

七頁一段。伍藤の偽してゐる「日本労農党会」とはどんな団体か。もつと詳しく書かれたい。誰がその会の中心人物か、どんな勢力がその団体をうごかして居るか。軍閥が背景にあると書いてあつたがもつと具体的に。それをハツキリさすことによつて、大衆の憤怒をどこに向くべきかゞ正当に示されることになる。

正誤。COEДИНЯЙTECЬ！
COEДИ……

才三十八号

一、三十八号の中一般、才十七日五頁勢力は更に訂正。

二、才六頁の中一段、才十七行目五頁勢力は更に訂正。

三、これ迄軍隊に於ける活動に就ては一言も出はれてゐないが、帝国主義戦争の危機が迫つてゐる今日、これは重要な問題ではなからうか。

才三十六号に就て

一、才五頁「全農」四回大会の意義日で、大会が日農民委員会の組織日と日農業労働者の組織日に関して討論決議を行はなかつたことを指摘してゐるが、この二つの組織の意ギ並にその任務、それから又全農との関係を更に一層ハツキリさせて貰ひたかつた。この前の論文ではその点明瞭でなかつた。

二、才六頁の中一段、才十七行目五頁勢力は更に訂正。

三、才三十八号の中一般、才十七日五頁勢力は更に訂正。

四、日際的斗争日、メーデー動員を用意せよ！日の印の才五の点は、党の指導

三十六号は全体として技術的にも内容上にもすべてゐた。

抽象的な、公式的なアイマイさを脱し、具体的に、事実を取り上げる傾向が全体の論文に著しく表はれて来た。この点は前号まで一番不満に感じてゐたことだから、うれしかつた。

例へば、プロフインテルンの第五回大会の決議が、工場の中に充分生かされてゐないことはしばしば言はれるやうに、不充分さから、活動上どんな誤謬が起つたか、それはどう正さるべきか、といふことを具体的に示したのはこれが最初であつた。

又全農大会の論文にしても、もさうだ。（中でもこれが一番よかつた。）大会は何をなすべきであつたか、……では何が明らかにされたか、大会にのぞんだ五頁のあやまりは何であつたか、すべての批判はこのやうに書かれてほしいと思つた。そして、ごれを簡要に、具体的に、大会での五頁の勢力はどうか、どんなに改良主ギ幹部の正体が見破られたか、彼等がかなはないので宮嚢と結托してゐる。この論文を見て、はじめて前号にあつた、戦略の方針がなぜ誤つてゐるかといふことが、はじめて了解出来た。

又本号が、メーデー斗争の統一的な気分に一貫されてゐることも、よかつた。

画頭の論文もいゝ。たゞ、全協組合の運動をおこせ、官許メーデーの範囲に止まるな、といふこと、一緒に、去年のメーデー斗争の極左的誤謬についてこゝでも一言いましめておきたいと思ふ。あんな決定的なまちがひは何度も何度も反省されていゝと思ふ。メ！デーの絵は美しく力強い。最后のメーデー準備の報告も有益。

編輯後記

三頁四段。日メーデーの后、全体的の組織は工場世話役

すうメーデーは『基本的に』は改良主義組合員の行ふてゐる示威行列に合致すべきだ』とあるが、社会民主々義者のフアシヨア化は益々露骨になり、共産党攻撃に没頭をやつしてゐる今日、社会フアシストの召集せるデモと合致することは正しくない。社会フアシストの指導下の大衆は、吾々の味方になるべき労働者ではあるが、彼等を吾が陣営に獲得するための出来るのは、官許デモと非合法デモとを対置することによつてのみ可能だと思ふ。本文の前市から察すると、この句は、『今日の情勢下にあつては、』——社会フアシストが労働者の基本的な部分を握つてゐる——合法デモに合致して、革命的デモにまき込んだりがより技術的に見て効果的である』といふ意味を指してゐるらしいが、もしさうであつたら『基本的には』云々といふやうな表現の仕方は、前述のやうな政治的な（社会フアシストとの妥協）誤解を招かしやすくはなからうか。

次に全論文末尾に『全体的の組織は工場世話役に』と『分隊長とか分隊長は工場世話役に』と変更されるべきではないか？

もう一つは一隊三十名位が適当だとあるが、十人に一人位の割合で分隊長を決めて、小隊に編成するやうにしたら、なほよいと思ふ。

二、三十九号

『新労農党解消派の活動は何処に向ふべきか？』を読んで

××紡績工場細胞　×子

この論文は非常によい。理かくしのも最后の十一行でハツキリと具体的に方向を示してゐる。この方向はひとり解消派の同志ばかりでなく、白色テロルの手によつて、党の組織からはなれてしまつた同志達や、俺はもう党に入りたいが、どうしたら入ることが出来るのか、党はどこにあるのだらう、と党をさがしてゐる労働者達への最もよい贈物だと思ふ。

吾々は急速にしかも全力を傾倒して工場細胞としての活動を開始しなければならない。

ふ。労働者の斗争の激化するところには必ず党の触手がのびてゐるだらう。俺達は斗争を組織しよう。俺達の工場に全協分会を作らう。細胞の基礎をつくらう。街頭に失業者を組織しよう。よしんば軍隊で病院にあつてもだ、俺達は階級的の斗争を組織することによつても完全に党の手と結びつくことが出来るのだ。

『工場新聞に就ての』○ 質向に答へる『に就て』○

三十六号所載の大谷并書は大体に於て正しいと思ふ。吾々は急速にしかも全力を傾倒して工場細胞としての活動を開始しなければならない。

ふ。労働者の斗争の激化するところには必ず党の触手がのびてゐるだらう。俺達は斗争を組織しよう。俺達の工場に全協分会を作らう。細胞の基礎をつくらう。街頭に失業者を組織しよう。よしんば軍隊で病院にあつてもだ、俺達は階級的の斗争を組織することによつても完全に党の手と結びつくことが出来るのだ。

もつと力強くなつたときには分会ニュースが別に出されてもいいことはなふまでもない。……中略……色々異つたもので内容の余りよくないものを沢山出すよりも、内容の充実した、眺一されたものを一つ出すのが正しいのであり、効果的である。

第五、工場内では、モツプル、反帝同盟等々。工場新聞ではどれから？工場新聞の中でこれらの問題を取ふべきである。吾々はかく答へる。しかし、工場新聞がそれらの問題を中心にして取ふ場合が多くあることを附加する。例へば三月十八日はモツプルデーであるからその問題を取扱ふとかふがよいか、細胞の工場新聞にはモツプルデーの意義とよれば、現在の条件下——如何なる条件下かは明らかにせられてゐないが、細胞の工場新聞に全力を注ぐ方が正しく且つ効果的だと云つてゐるね、この意見にはとでもいふのか——は工場新聞に出しては会ニュースを別に出すべきで組合分会ニュースを出すから他の組織の拡大強化は各組織の正しい政策とこれが闘争とが平行すること、組織に当つては『全農』との結合が絶対に必要である。分会ニュース等の役割は重大である。分会ニュースの出てゐないところでは工場新聞に組合擁を時設して組合を援助し、且つ、分会ニュース刊行を分会に勧告奨励すべきである。この故にこそ『プロフインテルン第五回大会の『同志モンムツソー及びニーデルギルヒネルの報告に基づくテーゼ——革命的労働組合運動の組織問題』は又『未色労働組合及び革命的組合反対派の活動を工場内に集中するために、革命的労働組合運動の指導部、その工場組織、地方都市、郡、中央の諸組合は次の任務を課せられてゐる』として八ケ条に渡る任務を規定し、その中立に『労働組合新聞に系統的な最も注意深い指導を与へる事、工場新聞を指導し、これに出来るだけの支持を与へることは特に重要である。』といひ、又、同じく『非合法的状況の下に於ける労働組合活動に就て述べ、その最后に、『労働組合運動が非合法的諸団体では非合法の労働組合新聞そして特に非合法工場新聞は最大の重要性を持つてゐる。同時に非合法労働組合は合法新聞発行の最小の機会をも利用し、そうした新聞創設のためのカムパニアを労働者階級の一般的斗争の任務と結びつけねばならぬ。非合法労働組合は非合法及び合法の労働組合新聞を支持するために当る特別の補助工場グループを設立せねばならない。』と云つてゐるではないか。（このテーゼ中に工場新聞とあるは分会ニュースに相当する。工場組合新聞即ち組合の出す工場新聞のことである。——引用者）

訂正

★第四の号部落農民プロレタリアートの組合を仮れ！『の不明確な点を訂正する。

全ての農村プロレタリアートは日本労働組合全国協議会（全協）に組織すべきである。原則として産業別の線に沿つて『全協』に組織されなければならぬ。各産業別組合は支部を設けて、季節労働者の組織につとめなければならぬ。具体的な諸事情、諸条件に従つて或は独立に或は合同組合的に組織されることも起るであらう。それこそ組織奇かインシアテーブを発揮すべき点だ。農村プロレタリアートの組織に当つては『全農』との結合が絶対に必要なる連絡とが絶対に必要である。

★第四一号第一段終りから四行目『……との報告を受取つた』はオ二段三行目に入る文句で、『……』は他の同志を守つたのだとの報告を受取つた。』と訂正す。

★赤旗を断じて敵の手に渡すな！

赤旗 第四二号特別附録

7月7日！

3·15★4·16の裁判を公開せよ！

同志三田村四郎

同志佐野學

同志鍋山貞親

同志徳田球一

同志野呂榮太郎

階級的政治犯人を即時釈放せよ！

治安維持法其他悪法を即時撤廃せよ！

日本共産党の拡大強化で

解党派一味を粉砕せよ！

3·15 4·16 東京地方犠牲者 191名 84名

★ Пролетарии всех стран соединяйтесь 万国の労働者団結せよ！

P.1 赤旗 1931.5.31

赤旗 第43号

國際共産党日本支部 日本共産党中央機関紙

四、日本共産党の當面の重要戰術

(1) 労働組合運動について

党のボルシエビキ化、大衆化の問題は、党組織の独自的活動の展開によつて大衆的行動——斗争を組織し指導することに、益々関聯する。斗争を通じて組織の拡大へ！・・・は吾党が常に主張して来たところである。党は、更に、大衆団体を通じて、広汎なる労働者大衆と緊密に結びつかねばならぬ。労働組合はこの分野に於て最も重要なる恒常的大衆団体である。

労働組合運動に対する党の態度は従来の極左宗派主義的傾向、及び右翼日和見主義的傾向に対する決定的斗争である。具体的には、第五回プロフインテルン大会で採用された諸決議、就中日本に於ける革命的労働組合の任務の中核的要素的斗争組織であつて、吾党自身が、革命的労働組合に対する積極的活動の不充分を意味する。労働組合は労働者大衆の最も広汎な大衆団体である。党員は、一切の斗争の先頭に立ち、労働者大衆を革命的陣営に獲得する為に最も献身的に活動しなければならぬ。

経済恐慌の深刻化、益々集中化されて来た資本、生産、口家との企業家との利害的結合の深まり——そこから来る労働階級に対する集中的攻撃、極端な反動的政策（失業、ストライキに対する暴力的弾圧等々）は日本に於ける労資の階級斗争を異常に激化せしめてゐる。マトライキ、争議の件数は減少なく増大してゐる。その斗争は実に凄惨を極めてゐる。労働者大衆は、ストライキ組織の必要の長きことに於て、その斗争形態の尖鋭なることに於て、自己の革命的エネルギーの潜在を明らかにしてゐる。只、それが吾党に指導される革命的労働組合運動の領域に於ける党の極左宗派主義的傾向、——労働者大衆を獲得するには、革命的労働組合の拡大強化なしには殆んど不可能である。日本労働組合全国協議会を中心として、大衆の中に入つて名実共に充実させることは吾党々員の重要な任務である。党員は、必らず革命的労働組合員として工場内及び失業者大衆の間で統一的革命的労働組合運動の発展の為に、積極的に活動しなければならぬ。如何なる美辞麗句を並べる共、吾口の革命的組合運動の分裂を策動する一切の偏向と無為無策的に斗争しなければならぬ。

労働組合運動は、今やその全力を工場内、職場内等の生産の場所に於ける革命的統一戦線の問題に集中しなければならない。

失業者の真只中に注がれねばならぬ。根強い、ジミな、併し、精力的な活動——労働者大衆の間にある不平不満を一定の要求としてまとめ上げ、それの貫徹の為の斗争へ大衆を動員すること。経済斗争の独自的指導は今日特に重要性を持つてゐる。何故なら今日程政治が集中化された経済であつた事はない。即ちソフスキー）。経済斗争と政治斗争との巧妙なる結合は、革命的労働組合政策に於ける重要な要素である。政治と経済との分離を試みる改良主義組合政策とは断乎として斗はねばならぬ。

かくの如き斗争、活動のみが、客観的に条件つけられてゐる大衆的政治的ストライキの組織を具体化し得る。一枚のビラや、数回の示威デモ即武装蜂起ではつてゐるのではない。一つのストライキ即武装デモ即武装ストライキが出来ると考へたり、又は大衆との組織的結合なしに、そして又、大衆を組織する為の具体的活動も充分には行はずしてゼネラルストライキ即を机上から考へ出したり、更に、五十人か百人の小工場のストライキを以て、階級斗争に於ける革命的内容を包含するゼネラルストライキであるかの如く、労働者大衆に思ひ込ませる様に仕向けた

次目

一頁 一、日本共産党の當面の重要戰術
一頁 二、檢事局、内務省、文部省等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！
五頁 三、官吏、職員、教員のゼネラルストライキへ！
七頁 四、全鉄道、逓信従業員職員のゼネラルストライキ斗争に於ける右翼日和見主義を打破せよ！
八頁 五、東交車掌的反対派の任務
九頁 六、飲の火花
一一頁 特別附録

うすあやうな――過去にあつた如き――極左冒険主義的偏向に対して徹底的に斗争しなければならぬ。革命的労働組合は正しい政策を獲得するのみでなく、それの実践家として進出し、事実を以て広汎な労働者大衆に自己の組織的能力と正当なる政策とを示さねばならぬ。それこそ大衆的政治的ストライキの実現を可能ならしめる条件である。

日本労働組合全国協議会を中心とする日本の革命的労働組合は、その公然なる存在の権利を確保しなければならぬ。プルジョア法律の許す範囲内にその活動を制限することではなくて、それを拡大することによつて法律の制限を打破しなければならぬのである。革命的労働組合の指導者が、党と同様に非合法的な存在を余儀なくされてゐる今日の状態下にあつて、最も注意すべきは、党と組合との混同である。工場内の労働組合員で、党員と同一に活動してゐながら、「党の組織に加入しない」といふ現状は党員によつて新党員の獲得運動が全くお留守になつてゐることである。非合法組合の活動で訓練されるとこころなく、大衆的に党組織に加盟せしめなければならぬ。革命的労働組合存在の公然性は、かくの如き大衆的入党による新党員の獲得を基礎とする時に最も成功的に行はれるのである。この領域に於ける、過去に見られたが如きセクト主義は断々乎として棄てなければならぬ。

党は、全国協議会加盟組合内のみならず、改良主義的労働組合内――例へば、海員組合、全国同盟、官業労働組合同盟等々――にもその「ブランチ」を作らねばならぬ。改良主義組合内の活動は、それらの組合内に強大な革命的反対派の結成と、それの全国協議会への大衆的加盟とに方向つけられねばならぬ。こゝで注意すべきは、改良主義組合指導者との抽象的、形式的対立ではなしに、大衆の日常具体的要求を掲げて奮闘して斗ふことによつて大衆を獲得するやうに活動することである。

労働者と農民の革命的同盟を確保し得るものは共産党以外にはない。労働者、農民、小商人、手工業者、サラリーマン、大亜細亜主義者、日本主義者等々を個人的に、送挙地域的に組織する一切の合法無産政党（合法結社党）――共同戦線党はプロレタリアートのヘゲモニーの代りに小ブルジョアのヘゲモニーを確保せんとするものであり、ファシズム社会にようつて帝国主義支配を永久化せんとするものであつて、断じて労働者と農民の解放のための、プロレタリアートの独裁樹立のための労働者と農民の革命的同盟ではない。

農村プロにタリアートを全協に組織すること、農村プロレタリアートと貧農とを中心に農民委員会を組織することは、今、吾党緊急の重要任務である。貧農の組合としての全農の拡大強化――全農民組合の合同――をはかり、これを赤色農民組合へ飛躍させることを吾党は決して等閑に附してはならぬ。

党は農村プロレタリアートや貧農の斗争を組織し指導するために、都市プロレタリアートと貧農大衆との密接な結合を作るために都市労働者をこの目的のために農村に派遣する等の具体的方策を一層積極的に進めなければならぬ。労働組合と農民組合との代表者会議、工場委員会と農民委員会との連絡、斗争の場合の共同斗争委員会を組織し、斗争中の貧農代表者を都市工場労働者の会合に派遣すること、労働者農民の革命的同盟を確保し得るものは、共産党以外にはない。労働者、農民、小商人、手工業者、サラリーマン、大亜細亜主義者、日本主義者等々を個人的に、送挙地域的に組織する一切の合法無産政党（合法結社党）――共同戦線党はプロレタリアートのヘゲモニーの代りに小ブルジョアのヘゲモニーを確保せんとするものであり、ファシズム社会にようつて帝国主義支配を永久化せんとするものであつて、断じて労働者と農民の解放のための、プロレタリアートの独裁樹立のための労働者と農民の革命的同盟ではない。

農村プロにタリアートを全協に組織すること、農村プロレタリアートと貧農とを中心に農民委員会を組織することは、今、吾党緊急の重要任務である。貧農の組合としての全農の拡大強化――全農民組合の合同――をはかり、これを赤色農民組合へ飛躍させることを吾党は決して等閑に附してはならぬ。

党は農村プロレタリアートや貧農の斗争を組織し指導するために、都市プロレタリアートと貧農大衆との密接な結合を作るために都市労働者をこの目的のために農村に派遣する等の具体的方策を一層積極的に進めなければならぬ。労働組合と農民組合との代表者会議、工場委員会と農民委員会との連絡、斗争の場合の共同斗争委員会を組織し、斗争中の貧農代表者を都市工場労働者の会合に派遣すること、労働者農民の革命的同盟を

拷問と投獄と死刑法をもつて、プロレタリアを「党」に近づけまいとすれど、とする不からの統一戦線「断」樹立の為に斗争しなければならぬ。それは改良主義的指導者との談合や協定に依つて成立するものではなくて、革命的労働組合組合の如き大衆的入党による新党員の獲得を基礎とする時に最も成功的に行はれるのである。この領域に於ける、過去に見られたが如きセクト主義は断々乎として棄てなければならぬ。

革命的労働組合は、「階級対階級」の旗幟を明白に高掲しつゝ、「階級斗争を基礎とする統一戦線」樹立の為に斗争しなければならぬ。吾党が三・一五、四・一六事件以前に有せる豊富な、この方面に於ける、経験は最大限に取り入れられねばならぬ。党員はこの仕事に於てもイニシアートル（発意者であり、先頭に立つ実践者）であらねばならぬ。

(2) 農民運動について

帝国主義治下の零細農地に於ける生産物形態の半封建的な高率小作料と帝国主義的搾取と支配とは日本農村に地主と農民との間に重圧である。特に今度の農業恐慌は動労農民をバク発の一歩手前迄圧縮してしまつた。動労農民の、半封建的搾取、寄生地主的土地所有に対する斗争と帝国主義的土地所有に対する斗争と帝国主義支配に対するスローガンの下に土地問題解決――大地主、天皇、宮公有、寺社の土地没収。耕作者への土地の分配――の斗争に燃え上つつ、ある。租税、負債、電燈料、肥料等に対する斗争も亦見逃すことは出来ない。法廷斗争は今や法廷外の大衆行動にその席を譲りつゝある。それは常に官憲軍隊等の国家権力との斗争であり、又、余りにも屢々、暴動一揆化しつゝある。

解党派のトロツキズムとは反対に、日本のプロレタリア革命に於ける農業革命と資農の革命的立ネルギーの重要性を全く正当に評価してゐる吾党は、農民のために最大限の要求を掲げ、彼等の斗争を積極的に支持し指導することが絶対に必要である。と同時に、「斗争を通じてより高度の斗争へ」の原則は故でも充分考慮されねばならぬ。

労働者と農民の革命的同盟を確保し得るものは共産党以外にはない。労働者、農民、小商人、手工業者、サラリーマン、大亜細亜主義者、日本主義者等々を個人的に、送挙地域的に組織する一切の合法無産政党（合法結社党）――共同戦線党はプロレタリアートのヘゲモニーの代りに小ブルジョアのヘゲモニーを確保せんとするものであり、ファシズム社会にようつて帝国主義支配を永久化せんとするものであつて、断じて労働者と農民の解放のための、プロレタリアートの独裁樹立のための労働者と農民の革命的同盟ではない。

農村プロにタリアートを全協に組織すること、農村プロレタリアートと貧農とを中心に農民委員会を組織することは、今、吾党緊急の重要任務である。貧農の組合としての全農の拡大強化――全農民組合の合同――をはかり、これを赤色農民組合へ飛躍させることを吾党は決して等閑に附してはならぬ。

党は農村プロレタリアートや貧農の斗争を組織し指導するために、都市プロレタリアートと貧農大衆との密接な結合を作るために都市労働者をこの目的のために農村に派遣する等の具体的方策を一層積極的に進めなければならぬ。労働組合と農民組合との代表者会議、工場委員会と農民委員会との連絡、斗争の場合の共同斗争委員会を組織し、斗争中の貧農代表者を都市工場労働者の会合に派遣すること、労働者農民の革命的同盟を

の代表者を反対に農村に派遣すること等の斗争の場合の相互応援は重要な意義を有する。党はプロレタリアートのヘゲモニーの下に労働者と農民の革命的同盟を確保するために、党の赤旗の下に勤労農民を獲得するために、将来かくの如き具体的方策を計画的に組織的に遂行しなければならぬ。消費組合運動、協同組合運動の如きもこの目的のために必要欠くべからざるものである。

全てこれらの仕事は常細胞を農村に確立し、それを拡大すること、とも行はれねばならぬ。

(3) 階級斗争を基礎とする下からの統一戦線

プロレタリアートは一切のブルジョア的思想と組織とに反対して斗争しなければならぬ。それはプロレタリアートの勝利に於ける不可欠の条件である。

社会民主々義――社会ファシズムとなつてゐる――は労働階級陣営内に撒布されるブルジョア的思想であり、プロレタリアートの革命的力を麻痺させるものである。従つてそれとの斗争は革命的労力を結集する為に是非行はねばならぬ。

社会民衆党は公然と君主々義を唱導してゐる。彼等は天皇万才、ソビエート同盟を倒せを公然と主張する。日本共産党コミンテルン反対は彼等の全科条である。全国大衆党は「君主々義者を党内から除名せよ」と叫んでゐる。

吾党の最も弱い部分から生れた解党派（水野成夫、浅野晃、門屋博、村尾薩男、菊田善五郎、中村義明、南喜一等）は「労農」派及び左翼の社会民主々義のチャンピオンとして活躍してゐる。彼等は、第一に天皇主義者である。彼等はまるで自然の道程ではある。彼等は「五翼」と社会民主々義者とではあるが実践的には右翼と全く変りはない。

第二に彼等は帝国主義的コミンテルンの分裂的今後等々。**第三**、「植民地の白治――独立ではない。――」を主張する。そこではマルクス＝レーニンの民族問題に関する理論の片鱗すらない。**第四**、農業革命の否定、革命的農民運動の本流が何であるかを理解せず、農業革命が当然のプロレタリア革命に於ける決定的重要性を

旗党」である。この点に於て社会民衆党と異たりがたく弟たり、かたいのである。ストライキに於て裏切ること、小作争訴に於て妥協なセンチメンタリズムで、農民を攻撃し、地主の利益を守ることは彼等の最も得意とするところである。大山一派の新労農党は、「プロレタリアートの党は唯一つ――共産党あるのみ」の「原則を認める」と看板

殺して
てゐる。トロツキズムに陥入つ
てゐる。(浜野晃は、日本にはや封建的農業関係なしと主張し、中村義明は宮廷の土地を没収してはならぬと説いて居り、侵等全部は又、農村プロレタリアの極自的組織の無用を主張してゐる)。彼等は、共産党内の右翼として出えたものではなくて、最初から極右翼として、日本共産党及びコミンテルンに反対して形成されたものである。解党派は、初めは、党を解散せよと云ひ、次に脱党すると云ひ、そして次に分裂すると云ひ、そして党から除名された(現在では、日本共産党労働者農民中央委員会なる看板を掲げて、日本共産党に対する悪罵を浴せかける事を以て主眼階級への忠実振りを発揮してゐる。彼等は一見、革命的に——余りにも革命的に——見えるテーゼや論文を発表する事に依つて革命的戦線をかくらんしてゐる。コミンテルン、プロフインテルンに対する悪宣伝を以て共等に対する労働者大衆の信頼を破壊せんとせる彼等の努力は水泡に帰した。共産党の解散、脱党、分裂といふ脅し文句も、却つて党に対する労働者大衆の信頼の増大によつて酬へられた。かくて最後の切札が投げられた。「日コミンテルンがいい、だが今ある日本共産党はニセ物だ、吾々こそがコミンテルンの本流だ。見ろ、こんなに立派な政治テーゼを出といふのがそれだ。全く笑らつな、だが最も巧妙な、分裂政策である。彼等に対しては最も徹底的に斗争しなければならぬ。

検事局 内務省 文部省 等と手を握つてゐる 解党派の新たなる進出を粉砕せよ!〔三〕

プロレタリアートの一般戦略

一、

現在は改造資本主ギの段階にあり日本共産党は、即ち、帝国主ギ時代、ボルジヨアジーの独自の時代だ。その政府は天皇制の資本家地主政府だ。吾々はプロレタリアートの組織を樹立し、労働者と農民のソヴエート政府を打ち建てるのだ。

共に等しくブルジヨアジーの支配であつても、その支配の形態は時代と国とでちがふ。況して千遍一律ではない。例へば、フランスでは、兵制制、親政制、正統王国、七月王政、社会共和制、そしてニつのボナパルチズム等の支配形態を取つた。現在でも、フーバーのアメリカ、労働党のイギリス、ファッシズムのイタリー、そして天皇制の日本等種々様々である。にも拘らずこれ等は何れも、金融資本の独自である本質には変りない。金融資本は何れもブルジヨア政治だ。彼等は具体的情勢に依つて、保守党に政府を組織させたり、労働党に代らせたりする。イタリーの様にファシズムのムツソリーニを必要とする場合もある。それは全く彼等の都合次第で決定されるのだ。例へばドイツ

二、

では日本で如何なる階級が今日国家権力を握つてゐるのか。それは明白だ。帝国主ギブルジヨアジー——岩槻内閣は明かに金融資本の政府だ。

日本の資本主ギが高度に発達して居り、金融資本のヘゲモニーが打ちたてられてゐることと、解党派が書いてゐるように、この点は誰れも文句をいふことが出来程明かな事実だ。だから同様となるのは、と解党派は同一の場所で書いてゐる。

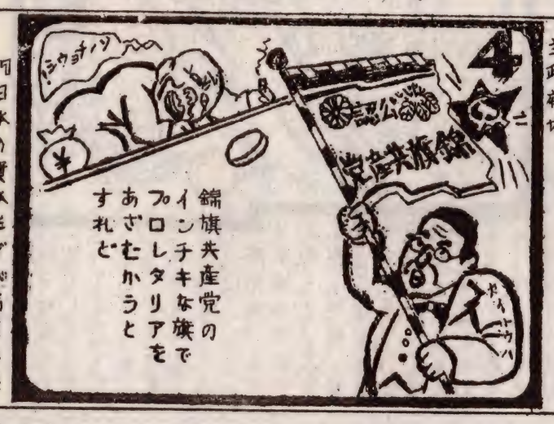
(1)金融資本の独裁といふことを、一切合切金融資本だでやるのだと考へてはなりぬ。金融資本家が自ら政府を組織し、行政官にもなり、司法官にもなり、憲兵にもなるといふのではない。否、むしろ絶対はいと努力する。(天皇制は誠に金融資本の独裁だ)直接支配の衝に当たるものは彼等ではない。にも拘らず実権は階級としての彼等にあるのだ。

(2)金融資本の独裁といふ事は一律でないこと、□により時代によつて異なることだ。では日本の現在のそれはどうか。それは天皇制の資本家地主政府だ。

三、

(1)金融資本の独裁といふことを、一切合切金融資本だでやるのだと考へてはなりぬ。金融資本家が自ら政府を組織し、行政官にもなり、司法官にもなり、憲兵にもなるといふのではない。否、むしろ絶対はいと努力する。(天皇制は誠に金融資本の独裁だ)直接支配の衝に当たるものは彼等ではない。にも拘らず実権は階級としての彼等にあるのだ。

(2)金融資本の独裁といふ事は一律でないこと、□により時代によつて異なることだ。では日本の現在のそれはどうか。それは天皇制の資本家地主政府だ。



四、

先づ□専制勢力(或は所謂絶対専制の遺制)□の批判から始める。

彼等に従へば□明治維新によつて封建的大土地所有者たるの地位を根絶した専制勢力(或は所謂絶対専制の遺制)は、ここのときすでにブルジヨア的□であつたそうだ。地主はすでにブルジヨアだそうだ。彼等もブルジヨアだ。一切合切みなブルジヨアだ。(この点を的なスバラしい誤謬については既に前回で取扱つた。)これは理論的には誤りだ。実践的には政治的には裏切りだ。なぜならば、ここから、日本の□□ブルジヨア□家権力を破壊するのだ。だから支配すべき革命は、この意味に於て、明かにプロレタリア革命だ。

左翼社会民主々ギ者の共通点は、第一に革命的言辞と改良主ギ的実践、第二に、共産党及び労働者大衆に対する敵視、中村義明は宮廷の土地を没収してはならぬと説いて居り、侵等全部は又、農村プロレタリアの極自的組織の無用を主張してゐる)。彼等は、共産党内の右翼として出えたものではなくて、最初から極右翼として、日本共産党及びコミンテルンに反対して形成されたものである。解党派は、初めは、党を解散せよと云ひ、次に脱党すると云ひ、そして次に分裂すると云ひ、そして党から除名された(現在では、日本共産党労働者農民中央委員会なる看板を掲げて、日本共産党に対する悪罵を浴せかける事を以て主眼階級への忠実振りを発揮してゐる。彼等は一見、革命的に——余りにも革命的に——見えるテーゼや論文を発表する事に依つて革命的戦線をかくらんしてゐる。コミンテルン、プロフインテルンに対する悪宣伝を以て共等に対する労働者大衆の信頼を破壊せんとせる彼等の努力は水泡に帰した。共産党の解散、脱党、分裂といふ脅し文句も、却つて党に対する労働者大衆の信頼の増大によつて酬へられた。かくて最後の切札が投げられた。「日コミンテルンがいい、だが今ある日本共産党はニセ物だ、吾々こそがコミンテルンの本流だ。見ろ、こんなに立派な政治テーゼを出といふのがそれだ。全く笑らつな、だが最も巧妙な、分裂政策である。彼等に対しては最も徹底的に斗争しなければならぬ。

フラクシヨンを作ることは出来ない。それを作ることは誤りである。他の諸政党の影響下にある労働者及び勤労組織、農民大衆の切いてゐる場所で、彼等の要求を代表して斗争を指導し、その斗争へ是等の大衆を動員することを以つて、党の側に大衆を獲得するのでなければならぬ。実践的斗争へ、吾党のスローガンの下に広汎な大衆を動員し、統一すること——これが階級斗争を基礎とする下からの、大衆との統一戦線樹立である。斗争を指導に導く為に、労働者大衆は自然発生的にではあるが、統一へ向つて動いてゐる。ストライキ、労働争議等々は吾党のこの戦術適用を緊急任務としてゐる。従来見られたが如き、大衆は動いてゐるに拘らず、党員は坐手傍観してゐるといふやうな誤謬は決定的に改められねばならぬ。大衆の中での仕事に全力を注ぎ、宣伝、煽動の仕事に極限せずに、自ら斗争の組織者として党員は活動しなければならぬ。それなしには、□階級対階級□の政策も、□階級斗争を基礎とする下からの統一戦線□のシユ立も不可能であらう。

社 一、青年運動に就て

(4)、青年運動に就て

□□社会民主々ギ者は、第一に革命的言辞と改良主ギ的実践、第二に、共産党及び労働者大衆に対する敵視、中村義明は宮廷の土地を没収してはならぬと説いて居り、侵等全部は又、農村プロレタリアの極自的組織の無用を主張してゐる)。彼等は、共産党内の右翼として出えたものではなくて、最初から極右翼として、日本共産党及びコミンテルンに反対して形成されたものである。解党派は、初めは、党を解散せよと云ひ、次に脱党すると云ひ、そして次に分裂すると云ひ、そして党から除名された(現在では、日本共産党労働者農民中央委員会なる看板を掲げて、日本共産党に対する悪罵を浴せかける事を以て主眼階級への忠実振りを発揮してゐる。彼等は一見、革命的に——余りにも革命的に——見えるテーゼや論文を発表する事に依つて革命的戦線をかくらんしてゐる。コミンテルン、プロフインテルンに対する悪宣伝を以て共等に対する労働者大衆の信頼を破壊せんとせる彼等の努力は水泡に帰した。共産党の解散、脱党、分裂といふ脅し文句も、却つて党に対する労働者大衆の信頼の増大によつて酬へられた。かくて最後の切札が投げられた。「日コミンテルンがいい、だが今ある日本共産党はニセ物だ、吾々こそがコミンテルンの本流だ。見ろ、こんなに立派な政治テーゼを出といふのがそれだ。全く笑らつな、だが最も巧妙な、分裂政策である。彼等に対しては最も徹底的に斗争しなければならぬ。

全

吾党の戦術は、彼等との決定的斗争にある。就中□左翼□社会フアシズムとの斗争は最も強力に行はれねばならぬ。共産党は□無産政党□の内部に党の

党

□□党は労働者農民を主力とする青年大衆の反封建的、反軍□主ギ的、反資本主ギ的要求を鼓舞し、帝□主ギに対する一大反対勢力として動員する。

一、

職場には資本主ギの発達、特殊的には産業の合理化によつて生産に於て占める労働者農民の地位は、益々重要となつて居り、それの階級斗争に於ける役割も又実に大きい。経済危機の重荷は、労働階級中の弱少部分である労働者、労働婦人の上に特に重くのしかゝつてゐる。党はこれらのことを正当に評価し、労働者農民を共産主ギの側に獲得すべく積極的に活動しなければならぬ。

社

今フアシズム、就中、その□□左翼□との決定的斗争は吾党の重要任務の一つであり、労働階級の多数獲得の斗争に於ける必須的条件である。

党

□□党は、日本共産青年同盟との関に密接な結合を形成する。但し後者は全然秘密性とイニシアチーヴとを確保せねばならぬ。又、共産青年同盟の活動に対してより以上の関心と指導とを向けねばならぬ。党と同盟との緊密なる結合の欠除は往々にして、同盟をして、実質上青年共産党たらしめる危険を生ずる。これに対して党は充分なる責任を負はねばならぬ。共産青年同盟の極大強化に対する無関心的態度は徹底的に誤りである。同盟は革命的労働組合と共に、吾党の有力な貯水池たらしめねばならぬ。

ト。

(2) 『ブルジョア的である』事実、『ブルジョアジーと彼等の制勢力とブルジョアジーとが、『相戦争する』ことの彼等の説明は、『彼等の説明の』殆ど『全部』バクロ『である』！

勿論聴のいい、紳士諸君は少しもそれにお気付きにならないかも知れないだ。彼等の所謂専制勢力あまり適確な表現ではないが――即ち地主階級の魂とブルジョアジーの魂とを持つておられると解する時――事実をありのまゝに把むときに――始めて何故K『彼等が相抗争する』かを正しく理解することが可能になるのだ！

(3) 『今や専制勢力は、経済的には、金融資本を頭部とするブルジョアジーの中K解消』したとの彼等の主張も亦大きな誤謬を含む。彼等の所謂専制勢力、例へば天皇はただ大ブルジョアであるばかりでなく、実K日本一の大々地主であることは吾々の既に見たところだ。（赤旗第四号附録）

（解党派の紳士諸君！ゴマ化しをやるならもう少し上手にやつてはどうですか？！）

こゝでも彼等は『専制勢力』の地主的性質を完全Kマッサツしてある！

吾々なこゝ――専制勢力Kついて論ずるこゝで解党派の所謂絶対専制の遺物説やイノマタ派の封建遺物説の反革命的本質をバクロしなかつたら、それは大きな誤りだ。

解党派は書いてある。『皇室、貴族院、軍部、枢密院、財閥、官僚、大地主等は、今日立憲K『階級的物質的基礎』を『もつてゐる。彼等が、或はブルジョアであるか、或は大地主であるかは、その両者を兼ねるものであることは既実の明示する所ではないか。

一般K、ブルジョアジーの典型的な支配形態は共和制であるとはいえ、又それは封建社会の脱胎から成長して来たものであるとはいえ、確かに君主制は決して単なる『遺物』ではない。

彼等が、或はブルジョアであるか、或は大地主であるかは、その両者を兼ねるものであることは既実の明示する所ではないか。

一般K、ブルジョアジーの典型的な支配形態は共和制であるとはいえ、又それは封建社会の脱胎から成長して来たものであるとはいえ、確かに君主制は決して単なる『遺物』ではない。

（イ）『イデオロギー』と『イデオロギー』とを通じて作用し得るに過ぎないこと、又ひ換れば、それ自身の階級的物質的基礎を失つてゐるこゝを忘れてはならぬ。そうであり、そうだ。

（ロ）『帝国主義ブルジョアジーに対する』『絶対主義』的統制勢力の関係は、――等ち幕府に同化されぬ切らなかつた外様大名に似てゐる。帝国主義的資本主義の胃腸K『もたれる不消化物』に似てゐる。（そうだ。）

（註）『解党派は彼等が機関紙へ棒呈した上申書の中で、イノマタ以上に『イデオロギー』を強調してゐる。或は三千年の伝統を礼讃し、或は『民衆の間に根強く残存する皇室中心のイデオロギー』の前に仰天失心してゐる。彼等は経済的政治的取扱ではなくて、かゝるイデオロギーこそが、天皇制の物質的基礎だとさへ極言してゐる。

解党派、イノマタ派の誤謬K『指らず、天皇、貴族、軍閥、官僚、大地主等は、今日立憲K『階級的物質的基礎』を『もつてゐる。

『そしてこれらは依然に従へば、『イデオロギー』『道徳』としてK『吾々は封建的絶対主義の残存』を認める。『かゝる政治勢力と易傚し得るものには、貴族、軍閥、官僚があり、軍閥、官僚があり、大地主階級がある。』

『吾々は封建的絶対主義の残存』を認める。『かゝる政治勢力と易傚し得るものには、貴族、軍閥、官僚があり、軍閥、官僚があり、大地主階級がある。』

『道徳』としてK『吾々は封建的絶対主義の残存』を認める。『かゝる政治勢力と易傚し得るものには、貴族、軍閥、官僚があり、軍閥、官僚があり、大地主階級がある。』

金融資本独オの形態としての『天皇制』――『官僚軍閥等を含めて』――を『階級的物質的基礎』を失つた『ヒヨロ〳〵』した人魂の様な存在であり、老衰し切つた、又亡び行く単なる『道徳』であり、又亡び行く単なる『イデオロギー』であり、生命のない単なる『飾り物』であると主張することは一体何を示すか。

かくの如き戦略現実の下に戦斗を開始する事は、おだかも、国のテツペンのり尺の爪先まで、最新式の武器で武装した、強力無比の大軍を指さして、『アレは『ロボツトだ。単なる飾り物だ。吾々の眼の敵ではない。敵の本隊は何処にあるか見えないが、兎に角あれではない』とプロレタリアートと貧農を瞞し込んで(1)戦斗を停止するか。『現に解党派は君主制廃止のスローガンを下ろせ！天皇奉戴論、天皇の下での労農政会、天皇を欺くプロレタリア独裁を主張して戦斗停止を要求するばかりでなく降服をすゝめてゐる。』(2)プロレタリアートの武装解除を要求するか。『現に彼等は暴力革命を否定し、平和革命を主張してゐる。』さもなければ(3)プロレタリアートを油断させ、敵をして側面からほしいまゝに攻撃させ、プロレタリアは、決して単なる『飾り物』でなく、その軍『主義的帝国主義的活動性に於て、タダ最近の世界政治に於ては、タダ革命前のロシア及びドイツの君主制のみがこれに比較され得る。この両者が二つながら打ち倒された今日、日本の天皇制程反動の政治帝国主義の形態としてかく『活動的であるものは少ない。眼前に展開されてゐる現実を見よ！一目で分るではないか。

官吏減俸問題に際して
――資本主義日本の官吏と社会主義ソヴエート同盟の『官吏』――

『吾々は有利な戦略だ！但し、プロレタリアートにとつてではなく、プロレタリアートの階級敵にとつてだ!!』

（専制勢力批判の項終り）

一、

官吏は一般的に云へば、ブルジョア国家の重要な一翼だ。ブルジョア階級の搾取及支配の強大な道具だ。だが、官吏――注意ないではない。――と一口に云ふが、上は大臣から下は郵便配達夫までを含むのだから、これを皆同じ名の下に一括して取扱ふことは出来ぬ。吾々は先づ上層と下層とを、官僚と労働者的分子とをハツキリ区別しなければならぬ。ナニには職業による区別だ。同じく下層勤労大衆と云つても、逓信や刑務所の看守や憲兵等の様に、直接労働者農民大衆を弾圧ずるものもあれば、鉄道従業員等のように労働者としての取扱は丸なければならぬ大衆を多分に含むものもある。鉄道等が私営の時では、鉄道従業員の大多数は只の労働者だ。軍人、教員、税務同様に一括して問題にしてゐるが、吾々はそれをハツキリ二階級の様に分割して取扱は絶対に誤つて

二、

□際プロレタリアートの祖国ソヴエート同盟では官吏の俸給は最高の俸給取りでは決して勿論ない。吾々はこゝでは、官吏の上層（官僚）、常備軍の指揮者であり、帝国主義の奴僕たる特権（軍閥）のみを問題とする。官僚と軍閥とは、餅党派やイノマタ派が封建的遺物だ、階級的物質的基礎を有しない事はもちろんデオロギー的存在だ、だからプロレタリアートの主たる敵手ではないといつてドンナに彼等をカバハウ共、彼等はブルジョア国家の重要な機関であり、階級権力と階級支配の道具である。彼等はプロレタリアートにとつて決定的に手はなければならぬ敵手だ。労働者と貧農は、吾々の上にタン絶して君臨し、あらゆる特権とむらゆる等差とをほしいまゝにし、吾々を事々に弾圧し搾取しつゝあるか、ある官僚軍閥とは何等の共通利益をも有しないばかりでなく、断中として彼等と斗争しなければならぬ。

三、

□安上りの政府Pのスローガンはブルジョアジーのスローガンであつた。Kも拘らず、階級対立と階級斗争とが極度に尖鋭化した帝国主義ブルジョアジーは労働者農民の強大な反抗、植民地民族の反抗を弾圧する為に、帝国主義の手段で、労働者と貧農は、吾々の上にタン絶して君臨し、あらゆる特権とむらゆる等差とをほしいまゝにし、吾々を事々に弾圧し搾取しつゝあるか、ある官僚軍閥とは何等の共通利益をも有しないばかりでなく、断中として彼等と斗争しなければならぬ。

三

□安上りの政府Pのスローガンはブルジョアジーのスローガンであつた。Kも拘らず、階級対立と階級斗争とが極度に尖鋭化した帝国主義ブルジョアジーは労働者農民の強大な反抗、植民地民族の反抗を弾圧する為に、帝国主義の手段で、労働者と貧農は、吾々の上にタン絶して君臨し、あらゆる特権とむらゆる等差とをほしいまゝにし、吾々を事々に弾圧し搾取しつゝあるか、ある官僚軍閥とは何等の共通利益をも有しないばかりでなく、断中として彼等と斗争しなければならぬ。

な、軍事費その他の労働者農民祖民地半植民地民族の弾圧費や満本家地主の保ゴ費のホンの一部分を節約した丈でも所謂官吏や教員――吾々はこゝでは勿論下層のみを問題としてゐるのだ――の八ナクソ程の俸給をケズらなくとも尚ほ大いに労働者農民の負担が軽減出来るのだ。所得税の高率賦課により財産税相続税率をホンの僅か増進してもまして厖大な財源が浮くのだ。だが資本家地主の政府にはそれは絶対に不可能だ。まして日大地主、天皇、宮公、寺社の土地没収、日大土地を勤労農民へ日や大圣営の没収、労働者による管理等は天皇制の資本と地主政府ではデキソコない。民政党の政府であらうと政友会の政府であらうと英日の労働党を模範とする社会民主々義の政府であらうとそれは絶対にやり得ない。只々労働者と農民のソヴエート政府のみが断行する。そして少くとも、コレらを断行しないかぎり、労働者と農民の生活は決して楽にはならぬ。

五、

吾々は帝日主ギ日本の現状に対して、ソヴエート同盟の現状を鋭く対立せしめなければならぬ。そうすれば一切の問題は現実的に解決される。

の、帝日主ギの擁護と支配ヨウゴのための天皇の常備軍を真に労働者と勤労農民を守る赤衛軍におき代へること。

(2)、宮像を倒しそして完全にソヴエートに責任を負ひ何時でも罷免することが出来、何等の特

殺せよ！労働分子は識首だ!!とぬかすぞ！）ことにするらしい。

三、

吾々は減俸問題の今日までの至過を出来る丈詳細に示した。ではこの減俸問題は吾々に何を示すか。

一、金融資本の苦悩の深度を示す。彼等は彼等の手足をも首にしたり、しめあげたりしなければやり切れないのだ。過去数ケ年の間引き続いた支出超過は最近の収入激減で更に二進も三進も動きが取れなくなったのだ。金融資本の苦悩日家財政の破綻はかくも深刻なのだ。

一、帝日主ギブルジヨアジーの絶対無上命令と金融資本政府の官僚主ギ的サゾ覚。

一、労働運動の官公務特ド日家資本下の労働運動の大衆に及ぼす影響と彼等による団体行動、争ギ戦術、大衆行動の採用。

一、運動の範囲も全日的である。

一、判事書記、鉄道従業員職員、通信従業員職員、小学校教員等ありゆる種類を含む。

一、高等官、判任官から労働者に至る雑多な階級層を含む。

一、今日この運動は少壮高等官判任官にリードされてゐる。

一、職場、従業委員会、聯合従業委員会、全日的聯合の組織の線に従つて斗争を進めてゐる。

今度の所謂官吏の減俸は産業部面に於ける労働者俸給生活者の犠牲と償下げの結果であり、更に進に一般産業部面の労働者

俸給生活者の首の一層の酸首と償下げの前提である。吾々はかくの如き労働者小学校教員下層官吏等の減俸には断乎として反対する。吾々は今日徹烈ゞ展開される斗争を労働者及びこれらの斗争を支持し援助するばかりでなくく中途で妥協したり、裏切つたりすることなくこれを最後まで戦ひ抜くことを要求する。

四、

それ故に吾々はケイキのいゝかけ声に有頂天になることなく、鉄道、通信、教育等の労働者諸君に、特別に大声で警告しなければならぬ。諸君は今日小ブルジヨア的分子にリードされてゐるがそれは甚しく危険だ。小ブルジヨア分子に指導権を譲してはならぬ。引ずられてはならぬ。諸君こそが、労働者こそが、ヘゲモニーを確保し、先頭を切つて斗ふべきだ。でないと諸君は結局裏切られるか賣られるかだ。この斗争を最後迄成功的に斗ひぬく為には、労働者のヘゲモニーを確保するためには、諸君独自の組織と要求とを持つことが絶対に必要だ。これなくしては決して目的は達せられないだらう。だがこのことは決して小ブルジヨア分子との対抗をすゝめてゐるのではない。吾々は絶対だ。かくてこそ二十万の鉄道従業員職員、同じ程の通信従業員職員、二十五万の小学校教員の斗争の共同斗争が更に可能となり、斗争の回的を真に前進的に成功的に達成し得るのだ。

鉄道、通信等の党員、全協組合員、並に革命的労働者諸君！

全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキへ!!

全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキへ！

一、

日本帝日主ギブルジヨアジーの苦悩の現はれの一つとしての減俸に対する反対運動が今全日の判事、書記、鉄道従業員職員、通信従業員、小学校教員等によつて猛烈に展開されてゐる。減俸反対運動は判事の日減法は憲法及び判所構成法に違判だから日法律の番人たる判官の立場から絶対に反対する。日といふ黄金を同じく黄金色の菊花紋章に入れた袋をとつて、火盗が切られた。判所の書記が全く生か死の問題だとして反対運動に参加した。（検事は沈黙を守らされてゐる。彼等は場合によつては日サボタージユをもつて法相の反省を促すDといつてゐる。ブル新聞は会計検査で日が暮れてゐると報導してゐる。

だが、反対運動の急先鋒であり、又その努力の広大な炎、斗争の組織的な炎で断然勝れてゐるのは鉄道関係だ。

「二十一日午后にいたるや炎如として全日の各官庁、検事所、裁判所、仮繋日、通信日、電力日、保線事ム所、各駅、車掌所その他より江木鉄相あて続々として減俸反対の電報が殺込み同午后四時迄廳時までにその数二千通を突破しこの努力では同夜中には全日二千三百ケ所十九万人の現業員よりの反対電報がことごとく到着する機運である日とかル新聞が報導してゐる。鉄道従業員諸君は、日万一にもかゝる事態――減俸実行――にならば最后的手段として全日の鉄道運輸を一せいに停止せしめるDと息詰してゐる。

これ等は以て日実際に列車の運転に従事せる各駅機車場その他の現場から直接に総動員せられたものだけに水面首脳部では非常に不安にかられてDゐる。

鉄道従業員諸君は各職場で会議を開き、現業委員会に持ちより、更に聯合現業委員会と折衝してゐる。

通信従業員諸君も決してこのまゝ黙してはゐない。

日従来御用団体と見られてゐた各郵便局で判任官を包囲して組織されてゐる従業員会の聯合本部Dから沢訓文をつきつけた。日二十一日には通信従業員全日聯合大会を開催して反対意響をあげるD等々。

日従来改良減俸、初任給引下等に対し直接、間接に反対運動を続けて来た小学校教員二十五万を打つて一丸とする全日聯合小学校教員会常任委員は……敢然減俸反対の一大運動を起す模様である。

二、

かくの如き反対気勢の強化Dに驚いた政府は減俸緩和に傾き日一、減俸の範囲を月給七十五日又は八十日以下は減俸せず（注意せよ！労働者農民を脅迫させる巡査は減俸しないのだぞ！）

一、官吏、ヨウ人の減俸を行はざるべりに出来るだけ官員、ヨウ人の整理減少を行ふD（護

禁売発田約二千五百の鉱山労働者が、操短五分による大量馘首と賃銀引下げに反対してストライキに入つた。このストライキは、八幡製鉄所所有の炭坑に勃発したが、次第に他の炭坑に拡大しつゝある。造船工業で行はれた大量馘首と前後して、鉱山及び製鉄等重工業の最重要な企業で大量馘首と賃銀引下げが行はれつゝある。こゝ数ケ月間のストライキ運動は、中、小工場で極めて激化した形で斗はれてゐた。大阪の一橋梁工場の工場占領、東京パンの長期のストライキ、日本染絨のハンガーストライキ等、これらは明かに労働者階級の不屈の革命的指頭を示すものである。中、小工場の極めて激化したストライキの後

ストライキ斗争に於ける「右翼日和見主ギを打破せよ！」

労働者、小学校教員、下層官吏の減俸絶対反対！

賃銀値下絶対反対！

労働者独自の組織を作れ！七時間労働制！

従業員会、聯合従業員会を再選挙して革命的労働者を委員に選べ！

全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキ万才！

失業と飢餓の天皇制資本家地主政府を打倒せよ！

労働者と農民のソヴエート政府を樹立せよ！

（一九三一年五月二十二日）

諸君は今度の減俸反対運動を日少壮高等官に率してゐてはならぬ。又日官吏Dといふ等大振つた前花紋章付きの名称にまどわされて、この斗争を労働者と彼等とは性質が別個のものだ等と考へてはならぬ。この斗争の重要性を十二分に理解しなければならぬ。諸君が集会を開いて反対を決議した丈で政府はオジケ上つて譲歩したではないか。同志諸君！更に前進せよ！

全鉄道、通信従業員職員のゼネラルストライキへ!!

が唯一の勝利への道だ!!全日の革命的労働者貧農がひかえてゐるぞ!!

全日の党員、全協組合員並に革命的労働者貧農諸君！

鉄道通信四十万の兄弟（姉妹）を見殺しにするな！この斗争を強力的に援助せよ！各地方各企業で斗はれてゐるストライキ等の斗争との結合をはかれ！

共同斗争の実を挙げよ！

今やストライキは再び大衆的性質を帯びて来た。

現在ストライキ運動の特徴は、従来のストライキ戦術の行詰りを特に明かに示してゐる点にある。

日本帝国のハンガーストライキと第二次共同闘争は、ブハンガーストライキ、及び大衆党系の改良主義者及び大衆党系の改良主義者によって指導されてゐるが、その意義は次の点にある。

(1)資本の攻撃は、防衛的にも、攻撃的にも、ますます激しくなり、生活をもおびやかし、直接に飢えと失業につき落してゐる。且つ、資本家は何等の譲歩もしないこと、又、労働者のストライキは、直接に飢に対する斗争であり、その斗争形態は、必然的に大衆的斗争形態に発展しようとする傾向にあること。

(2)このような情勢に於ては、従来の合法主義的なストライキ斗争は、ストライキ破壊者のストライキ指導の為に、又、ストライキ破りとして行動してゐること。

(3)しかも革命的戦術による指導が弱いために、労働大衆の斗争力が、消極的に、打くだかれてゐること。

現在これらのストライキは、党、共産青年同盟、及び赤色労働組合全日本協議会が断乎としてストライキに近づき、その独自的指導に転換すべきことを要求してゐる。

ハンガーストライキは最小限度の観点に迄ふ戦術であり、且つ、大衆自身に如何にして敵と斗ふべきかを知らしめない戦術であり、プロレタリアートの組織された力による革命的エネルギーの爆発、革命的行動への進出を妨害する戦術である。ハンガーストライキに参加せる労働大衆の決死的斗志はこの誤れる戦術で圧殺られたのだ。それはストライキを拡大し、政治的斗争に発展せしめようとするどころか、ますます全般的要求にのみ止まらうとする戦術である。

それは、社会ファシストの全ての本質を持つものである。

大衆的圧力を全協の同志は正しく行つてゐるか？吾々の同志達はこの様な労働者の革命的成熟を妨害する社会ファシストの戦術を徹底的にバクロする為に、ハンガーストライキの労働者間で活動したらうか？党及び共産青年同盟の政策をストライキ労働者同盟の政策としてゐらうか？

大衆的圧力を全協の同志は正しく行つてゐるか？吾々はストライキに対する準備とその徹底的指導に向つて決定的に方向転換をしいて

ゐないか。自然発生的なストライキ、改良主義者の手にあるこのようなストライキに対して、傍観的態度をとつてゐる傾向がある。**かゝる傾向は右翼日和見主義であり、当面徹底的にこれと斗争せねばならぬ。**

一、党、同盟、全協の地区及び都市指導部は、その地区又は都市に於ける、すべてのストライキに対して、直ちに会合を開いて、一定の具体的戦術と政策を決定せねばならぬ。かゝる態度は、まだストライキが行つてゐないが動揺してゐる企業に対しても同様である。

二、吾々は、やのストライキに如何に進出するかを討論し、改良主義者が如何に進出するかを討論すべきである。

三、党、同盟、全協の各指導部の名を以つて、ストライキを如何に斗ふべきか、如何なる困難は前に横つてゐるか、ストライキ破りのどんな裏切が準備されてゐるかをストライキ労働者に示さねばならぬ。吾々は常に斗争の見通しを与へ、一歩前にあつて、進むべき道を示す事が必要なのだ。そして又、改良主義者大衆をストライキに引きよせること、斗争中に起る事件を促へて政治的スローガンによる大衆的鼓舞を組織すること、等々の革命的戦術を大衆に知らしめねばならぬ。

ストライキ運動は大衆的性質を帯つた。悩苦は吾々に充分に都合よく成熟してゐる。ストライキ指導に対するあらゆる種類の消極性は最悪の右翼日和見主義であり、これと決定的に斗つて、ストライキに転換することが最大の任務である。ストライキ斗争を通じてのみ、新幹部を

東交革命的反対派の任務

ストライキの独自的指導のために斗へ！
右翼日和見主ギと斗へ！

四月の進撃で東交内の大衆は、革命的反対派は、革命的反対派は、如何なる事を示したかを。

一、数回のストライキを策動つた改良主義幹部が疑もなく、大衆の信頼の前に、五翼の革命的指導に対する管理が成長しつゝあることである。

二、かゝる事情は、あらゆる方法を以て破綻を切り抜けようとする市電当局の表るべき大量職首と賃銀値下げが大規模に遂行されを見過しから発生するものである。

改良主ギ者の政策には極めて素質がありその政策は巧妙なものである。従つて今度の4・25執行委員会で五翼が勝利を得た事に依つて、それを直ちに改良主ギ幹部派の敗北と見る事は危険である。

彼等の敗北は大衆の信頼が次第に彼等から去りつゝある事を示すが未だ決定的に敗北したものではない。五翼の勝利は、各車の組織化された斗力の正当な反映ではない。即ち五翼は料関を奪取する事に成功したが革命的反対派はまだ少数派であり、此点に五翼の弱点があり、且つ、改良主ギ幹部が悪らつな政策を遂行する余地があるのである。大量職首を解雇会に五翼派を警察に引渡し企業から追出すといゝ悪らつな政策を彼等には用意してゐる。

吾々は彼等のかゝる政策を断乎として不可能にせねばならぬ。その為には、五翼は中央執行委員会に送ける地位をフヾり実力のみ利用しなければならぬ。

各車庫の現在少数派であり、旦つ未だに完全的傾向を残してゐる所の革命的反対派を実質上多数派たらしめるために革命的政策と革命的戦術によつて訓練されたる多数派を、文句なしに下から確立すること。

それは何よりも中央執行委員会の五翼が切実な革命的要求を系統的に執行委員会に提出し、その要求を貫徹する為に最も広汎な大衆反対派を大衆反対

鐵の火花

組織は秘密に。行動は公然と。

日本××工場細胞 ××生

「食料労働者レオナ八号はい、自己批判をやってゐる。その才一は、「組織は秘密に。行動は公然と。」といふのだ。而も「食料労働者レの編輯の同志は「組織は秘密にレの下に（それむ力関係だ）といふ全く正しい註をも加へてゐる。全くその通り！

覚醒、全協組合員、革命的労働者レの編輯の同志は「組織は秘密にレの下に（それむ力関係だ）といふ全く正しい註をも加へてゐる。全くその通り！

覚醒、全協組合員その他革命的労働者が過去に陥つた最大の誤謬は、合法と非合法のレーニン主義的統一の欠除だ。「組織は秘密に。行動は公然と。」にうまく成功してゐないことだ。この点は三・一五以前、即ち日本共産党が始めて大衆化し始めた時から、繰り返し吾々が指摘したにも拘らず、以来今日に至るまで尚うまくやつてゐない。「食料労働者レの批判はかう書いてゐる。

「一、今まで絶連は合法と非合法の使ひ分けをハソキリ呑み込んでおなかつた。

組織（組合分会、革命的反対派）を敵に分らないやうに秘密にする余り行動まで秘密にして来た。工場内でジヤンノ、アジプロをやれば「あれは赤だ、近よつちやいけないレと、幹部工や仲間にニラまれたり、毛嫌ひされるから、それよりもピクニック、活動につれて行つて少しづゝ話してやらうといふ様なやり方をやつて来たし、今でもやつてゐる。こうした方法は全部間違ひだといふのではない。かうした方法も勿論やらなければならないが、同時に工場内、職場内での大衆的なアジプロも忘れてはならない。まだビラや標語を入れるのは早い、との外言つても居た中央（？）の指導者レの中にも分会の拡大強化もなされない。大衆行動の組織も味方の力をよく研究して細心の注意の下に大胆に大衆的にアジプロに方向転換しやう。

合法と非合法

「食料労働者レの自己批判の第三に書いてゐる。

「三、現在の如く、吾々のカの極めて弱く――どうしてそんなに弱いのかの――非合法に造ひやられてゐる時には、色々な公然たる外郭ソシキを作り、その中心活動することが大切だ。（活動、ピクニック、ピンポン、野球、テニス、等々のグループ）レ

これは絶対に必要だ。更に、青訓その他一切の集会組織の中で仂がなければならぬ。工場労働者が沢山集つたり、加盟したりする集会や組織の中で上手に統制に斗争することが絶対に必要だ。

ソシキは秘密に。（それむ力関係だ）行動は公然と。

このすぐれた批判の最大の不充分は大衆斗争の組織をのべてゐない点だ。「ビラや標語を入れること」大衆的アジプロレを大胆にやることの必要をのべてゐるが、それ丈では十分でない。必要なことは労働者の不平不満を統一して斗ふことだ。労働者の利益――大小にかゝはらず――のために大衆の先頭に立つて大衆を組織して斗ふことだ。

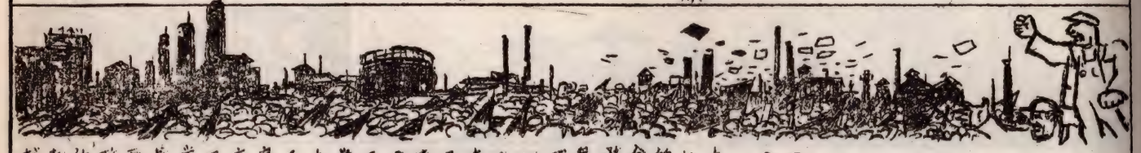
先き丈心ではだめだ。

覚醒、全協組合員、革命的労働者は大衆斗争を組織せよ！公然大衆の先頭に立つて大衆の利益擁護のために大胆に斗へ！

同志諸君！以上のべた様に、公然大胆に斗争を展開するためには、どうしてもシツカリした秘密の中心組織が絶対に必要だ。工場内の一切の問題を徹底的に討論し、全く正しい政策並に斗争方針を決定し、組織活動を展開する推進力たり得る中心組織が絶対に必要だ。これなくしては斗争は不十分となり不活溌となり不統一となる。かゝる絶対秘密中心組織が即ち党の工場細胞だ。絶対秘密と云ふことをその工場に党の基本的組織たる工場細胞があるといふことをも労働者大衆に絶対秘密にすることだと解釈しては間違ひだ。誰が党員であるかを絶対に敵に秘密にすることを意味するのだ。秘密主義のためには秘密にするのではない。敵に君々の組織を破壊されない為に秘密にするのだ。鉄の規律と非合法運動の副線とは合法斗争の利用や公然大胆なる斗争の展開やの不十分さにも増して不十分であり不熟練である。合法と非合法のレーニン主義的結合！に急速に習熟せよ！

工場労働者大衆の中へ！

工場労働者大衆の信頼をカクトクせよ！



「革命的婦人運動を猛烈に展開せよ！」

××紡績工場細胞 ×子

工場労働者大衆を引き上げよ！即時工場細胞を組織せよ！

合法非合法のレーニン主義的結合万才！

一、全協は労働婦人大衆の組織をもつと積極的に斗へ！

二百五十万を越やうとしてゐるボー大な、永久的大衆的大衆は、工場に於ける労働婦人の指導を受るべき当然だ？斗争か？

三百五十万を越やうとしてゐるボー大な、永久的大衆的大衆は、工場に於ける労働婦人の指導を受るべき当然だ？斗争か？

才五回プロフインテルン大会は、日本資本主義生産に於ける婦人労働者の政治的経済的重要性を強調し、全協に対してその重要な任務の一つとして労働婦人大衆の全協への組織化を教育づけてゐる。

ソ同盟の偉大なる社会主義建設の発展と、勤労階級の生活水準のミヤクノ〳〵たる向上、特にソヴエットの労働婦人大衆の生活は、餓死と失業におびやかされてゐる日本の労働婦人大衆をして、資本との最後的斗争への決意に急激にふるひ起たせてゐる。ストライキたでも、全日の工場、農村に於ける婦人労働者大衆のすばらしい斗争化は毎日のブルジヨア新聞に於てさへ容易に知ることが出来る。

だが、これ等の斗争の殆んど総ては依然として自然発生的斗争であり、これ等の斗争を組織化せる婦人の殆んどが全協はこれ等の婦人大衆の斗争を強力に組織し得てないのみか、自然発生的斗争を独自的に指導出来ないでゐる。それは何故なのか？才五回プロフインテルン大会以後すでに九ケ月になるが、吾々全協は直ちに才五回プロフインテルン大会の決定に基いて労働婦人組織に関する明確なる斗争方針を建てねばならぬ。

二、全日工場に働く兄姉諸君、同志諸君！

はないか。全協には婦人部を持つ組合が一体幾つ位あるのだらうか？そして、それは生きゝと活溌に活動してゐるのか？我々の最前の為か、不幸にして我々は全協婦人部の活動を耳にしない。そして、我々が全協は未だにオ五回プロフインテルン大会決定中の重要任務日労働婦人大衆の組織即を実現する為の明確な具体的な斗争方針を持たないのではないか？只紙上や口先ではかり日労働婦人を組織せよ！山とがツラねてもそれ一つの仕事も出来ないだらう。これでは相変らず大衆の斗争の後からビソコを引いてついて行かねばならない。だらう。（我々は全協の全体がもつと〳〵婦人問題に熱心である事を要求する。

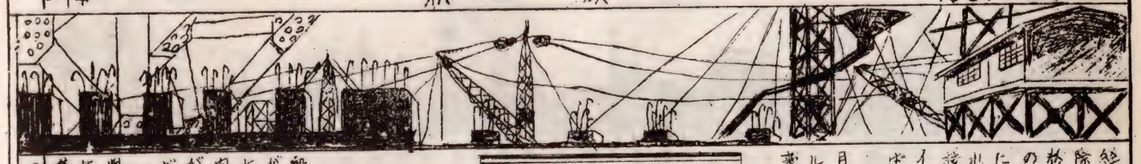
日本の現情勢に於て労働婦人及び勤労婦人の組織化に関して、不注意であつたり不活溌であることは、日本に於ける婦人労働者の政治的経済的重要性の過少評価であり、勤労婦人大衆のオルガナイザーとしての全協婦人部の意義の無理解であり、日和見主義である。

吾が全協は直ちに才五回プロフインテルン大会の決定に基いて労働婦人組織に関する明確なる斗争方針を建てねばならぬ。

直接工場・職場に働く吾々は、才五回大会の決定を直ちに、後と言はず、今この場かの実行に取りかゝらねばならない。いたづらに組織の体系や公式を組立てる事のみに没頭してはならない。

即ち、首切、賃金の問題、労働時間の問題、署名の問題、通帳々々その他凡ゆる我々の大小の不平不満がある。凡ゆる場所、機会を利用して、これらの問題に就て工場の兄姉達とよく話し合つて、それ等の不平不満を良くする事を資本家に要求し、要求を通す為には全協の指導の下に大衆的ストライキ・デモで斗争する事が必要であり、正当であると云ふ決意の下に、ストライキ・デモを組織し、兄弟達を全協に入れ、我々の仲間にする事だ。工場の兄姉諸君！工場には工場スパイ、警カツ、ダラ幹等がはびこつてゐて中々容易にはないかも知れないが、これは決して出来ない相談ではない。

我々は本当に革命的大衆的労働婦人運動に就いての



船内委員会を組織せよ！

社外船 M丸 女 生

同志X子の投稿文は非常に有益である。工場の中で切いてゐるこの同志が如何にプロフィンテルンの決議に忠実たらんとしてゐるかは多くの同志達の学ばねばならぬ点である。全国協議会が労働婦人組織に関して何もやつてゐないという批判だが、それに就いて編輯部は全協で切いてゐる同志の説明を聞くことになつてゐる。

細胞の活動を！赤旗レに向つてレポせよ！

編輯部

船内委員会は刷新会指導の下に船内委員会を組織した。所が去年二割食料低下した上に、又一割（会社と船長の内密で）悪化して居た事実が吾々自身の活動によつてバクロされたのだ。

直ちに船内大会を開き食料悪化絶対反対の決議と共に斗争方針を決定し、交渉委員を船長（機関長へ本船食料の責任者）に強談判をした所、機関長曰く「実は会社からの食料低下の通知に接した時下役船員にはナイショでおいてくれと言つて来たのだから諸君も今の不景気の時はシンボーしてくれレと吐かすから吾々はあくまでカンバツタのだ。そして会社に食料切下反対で船セトメロと要求した。そしたら機関長はそれでは士官の食料からサイテ、二度目の表の食料低下だけ以下だつたら船員は絶対に承知しないぞ！と言つて来た。

工場婦人にとつて大変有益な記事であるから、兄姉諸君が毎日の斗争の間で読み且つ研究することをおすすめして置く。

全国の工場の兄姉諸君！西々はプロフィンテルンの異れた決定を、頭の中や紙の上で組み立てるのでなくて工場の中で機械の前で実行せねばならない。考へる事でなくて行動することぞ。

経験を持たない。我々は実際に、工場、農村に斗争を巻き起すことと、外国語に関しての労働者婦人達の斗争経験についても凡てな学び訓練さねばならない。我々の学校は、工場であり、ストライキであり、デモでなければならない。

それ故の、一九三一年三月発行のプロフィンテルンニュースレターに、「婦人運動の記事が二つばかりある。我々はすべての事は斗争によつて学べ！

行つた。其の友達はよく解り、早速自分の周りの人達十人程に教へたが、皆よく考へて見るとか、私にはそんな大それたことは出来ぬとかで失敗に終り、職場中に社会主義者だと評判され、誰も側に寄つかなくなつた。それでその人は殺々酷目になりすつかり動かなくなつた。今一つの職場の人も駄目、たつた二人が三人を救へるのに職場中にわかつてしまひ、私が他の職場に行けばきつと赤い話をするとて皆恐ひ込ませてしまつた。それで工場内で男の全員と連絡をとつたら悪質関係と見られて、其の噂が仲々消えず、せつかくの信頼も又みやクチヤになつた。私は今ハツキリ間違つたやり方だということがわかつた。

同志トシエのこの自己批判は完全に正しい。こうした失敗は猫り同志トシエばかりでなく多くの同志が陥入る失敗だ。同志トシエの自己批判の中の第四が最も重要な批判だ。同志トシエの自己批判に於ける労働者の一切の不平不満を中心に、アジプロするばかりでなく、勇敢に斗争するのだ。勿論一人丈で斗争するのでなく、出来る丈労働者を広汎に組織して大衆的に斗争するのだ。これは最上の組織方法なんだ。とまれ組織の仕事は一番六ヶ敷い。大ケ敷いといつてボツテ置けない一番大事な仕事だ。同志達が組織運動の経験を集めて、立派な組織者になろうと努力しつつあることがありく訓練をつめ！

組織者としての訓練をつめ！
大衆斗争を一枝械的にでなく巻き起せ！
工場細胞を組織せよ！

赤旗編輯部

私の誤謬を聞いて下さい！

トシエ（投）

私の工場は全部で職場が十メに分けられてゐる。その内の一部分の機械作業で煙草を造つてゐる。毎日毎日仕事をしながら誰に話したら解つてくれるだらうと考へてゐた。ところが自分の職場の友達とは真から親しくなれなかつた。こちらが積極的に近づかうとすればする程レバアセルほど上べだけの親しみ方をするのであつた。何かの話の糸口を見付けて話し出すことは話し出したが、それとなく話すだけで意の底までどうしても話しこんだ良いメンバーを見出せなかつた。

それで他の職場に私と平常仲のよい組の分子、今夜で五ヶ月の工場だという人のところに休憩の時間に出かけて行き色々と私の知つてゐるだけのことを話して戦旗を貸したり「資本主義搾取のからくり」を貸したりしてその人をだんく啓蒙した。

○

解党派と内務省・検事局

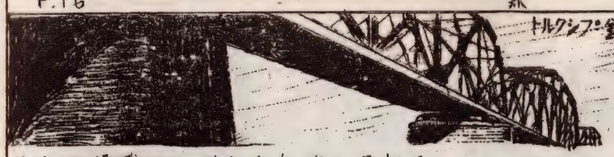
○

××××××

文部省等との関係といふことにつき。

現在我党及組合等に向けられるデマはその撒布者の如何にかゝはらず殆んど一様である。

左右の社会民主々義者、解党派及ブルジヨア新聞皆一様に実に見事に口を揃へて言つてゐる。「インテリ、文士、学生、右翼、女工帰り、スパイ等が主要構成分子であるし」と。一体この事実は何を語るか。この事実の中に吾々の敵の一切の本意そしてその本質が表はれてゐると思ふ。彼等には我々の革命的な進出が一番恐ろしいのだ。そして我々が現実にそれを為しつゝあるが為に一様にその妨害を企んでゐるのである。そして彼等のデマにより大衆を我々からハナさうと云ふのである。そして彼等はこの方法が唯一つの彼等の目的を達し得る方法であると共へてゐるのである。我々は之に対して事実を以てこたへねばならぬ。それが最も有効なる斗争方法である。実際の斗争及新聞や無新無言労働者の報導記事に於てもこの点に於て正しく為されてゐるが増々多く努力する必要がある。そしてこゝに注意すべき点は敵がそれ〳〵の対立の行動に関しては文学通りの満腔の憤怒を覚える。「解党派の進出を撃破せよ」この論文は非常によい。今日まだ足りない党の理論的方面に於ける指導の際に集じて解党派、労農一派等は種々なデマを飛ばしつゝある。かゝる時に於てこの論文は解党派のデマを徹底的にバクロしつゝ我党の理論を益々堅確に示してゐるものである。今後益々かゝる論文をかゝげることは絶対に必要である。「附録」としての批判も同様。「大衆斗争の組織に依つて反革命的分子の掃滅へ！」「前の論文と相並んで組合の方面に於ける彼等の政治的立場のバクロ、批判として我々の要求を充すものである。最後の三つの注意は甚だ重要である。才三の注意で断せる範囲内に於てこの批判紙上に多くの具体的な記事をのせて欲しい。具体的事実を載せると云ふことはもつともつとやつて欲しい。例へば今度の論文に関しても解党派の組織の具体的な程度、総一協議会の構成の実際等を同志の間に広く知せる必要があると思ふ。



C.C.C.P.

○

メーデーの檄

「他方農村に於ては労働者農民の最も広汎なる地主的土地所有制なるが故に、地主的土地所有制なるが故に、地主的土地所有制の撤廃は勤労農民の生活を極度に貧窮ならしめてゐる」と云つてゐるがこれはおかしい。現在の農業危機は寄生地主的土地所有制即ち封建的経済組織の残存の為ではない。少くともそれが主要根本原因ではないと思ふ。この檄に書かれてゐることは我が党の政治的見解であるからもつとよく説明するだけの重要さがある。

にも拘らず完全に一致してゐることだ。殊にブル新聞と解党派とのデマが完全に同じであると云ふことに注意する心要がある。我々が一般的にかゝる事実から推定し得る所は確かにこのデマンパニアを統一し指導してゐるものがあると云ふことだ。左右の社会民主々義者、解党派、ブル新聞等はこの統制の糸によつてあやつられてゐるのだ。そしてこの「文士、学生ズバイ」のデマがこの統制者（？）「明かに検事局、内務省」が最も有効として採用したものなのだ。

○

××生

「四〇号」に就いて

「即時農村プロレタリアートの組合を作れ」の門才一段、六八行「元来、農業労働者は全口で四十万――これはインマタの計算である。都会は百万と云つてゐる。だか決してそんな少数ではない――と称せられてゐるが云々」

右によれば、猫根と猫村の計算の差異が六十万もある。而して我々は、この二人の計算よりも、もつと多いと云ふ。これは「農業労働者」の規定の仕方が各々異るが故であらうか。此の規定と、我々の側の数とを明らかにして欲しい。

巧妙な口実挑発としても考慮さるべきであるか否か。前者ならば、枢密院、貴族院は封建的残存物ではなくブルジョア国家機関の一つとして規定されるべし。

注文、その二。

赤旗紙上に党の綱領を掲げて呉れ。簡約された形で紙面を余りとらないならば、毎号でも、掲ぐるべきだと思ふが、如何。

○

解が、識会解散のスローガンの徹回を理解するに必要であると思ふ）――それに関して、敵階級の政権の所在の規定。独倫軍（オーストリアニ）の分析。封建的残存勢力の分析評価（例へば、枢密院、貴族院はマルクスが「一八四八年三月十八日」において言つてゐる「封建制度の崩壊に伴つて発生した恐しい寄生体、「巨大なる官僚的軍事的組織、広大にして旦

註文、その一。

紙上に於ける戦略についての詳細なテーゼを発表して呉れ。われが日本共産党の一切の活動がそれに基いて展開されるところのプロレタリアートの戦略を、十分正確に、我々が承知しておかなくてはならぬことは此の上なく大切な任務である。

今日元露社会民主々義者共が彼等の影響下に大衆をとらへてゐる理論的容器の一つは猪猴及び解党派一味の戦略である。吾々が党の立場に於ける科学的プレタリア的戦略の正しい把握によつてこれを撃破することは、我々の欲く可かざる

闘争である。党はこれまで実践的理論的分野において彼等の戦略への斗かを展開して来た。しかし、それも、未だ可成り不十分であると思ふ。「党の影響下に斗ひつゝある大衆の間においても、党の戦略の確乎たる把握は着しく不十分であると思へる。それ故に、党の戦略についての精密な規定をまとまつた形で是非速く発表して呉れ。私自身の希望では、次の諸点をも問題として解決して（解決すみならば数系して）貰ひ度い。

三・一五、四・一六当時の党の戦略と今日の党の戦略の相違。（この事との正確な理

読者の頁「鉄の火花」に参加せよ

工場細胞を組織せよ！
日本共産党の拡大強化によつて
「赤旗」を守れ！
「赤旗」を断じて敵の手に渡すな！

赤旗
第44号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

次日

政治テーゼ（草案）つゞき　一頁
政治テーゼ（草案）発表に当り革命的労働者諸君に檄す！　三頁
一九三一年度メーデーの放棄　五頁
新帝国主義戦争の危険と斗へ！　八頁
兵業者同盟組織に関する一つの混乱について　九頁
ビラ・伝単の書方について　九頁
机判の仕方に就いての注意　一〇頁
鉄の火花　一二頁
特別附録

四、日本共産党の當面の重要戦術（続）

(5)婦人運動について

資 本主義の発達は生産に於ける労働婦人の地位を益々重要なものたらしめてゐる。特に資本主義的産業合理化の施行は熟練労働者に代へるに不熟練労働者を、成人に代ふるに青幼年を、男子に代ふるに婦人を以てしてゐる。労働婦人は、今一に労働階級の構成部分として採取され、更に、その上に、「尖鋭的形成された諸条件（封建的家族制度等）に依つて重圧を双肩に受けさせられてゐる。労働婦人をこの重圧から解放し得るものは、プロレタリアートの資本に対する勝利以外にはない。それと同時に、プロレタリアートの勝利は、生産に於て益々重要な地位を占めつゝあるこの労働婦人を広汎に階級斗争へ組織することなくしては不可能である。

日 本の資本主義的生産に於ける労働婦人、並に農業経済に於ける食糧民婦人の階級斗争への進出は最近特に顕著になつて来た。吾党はこの労働婦人層を自己の組織内に獲得する為に最も積極的に斗争する。「労働婦人の組織を次の事をすることはプルジョアジーに奉仕することを意味する」と云ふ第五回プロフインテルン大会で採用された日本問題に関する決議の言葉は吾党の労働婦人対策の場合にも適用されるのである。

吾 党は労働婦人を男子労働者と同一の労働組合へ　同等の権利を以て加入させ、吾々の側に獲得する為に斗争するカ、それと同時に、婦人より持つ特殊的地位を正当に評価して彼等を特別の委員会（工場内の大衆的婦人委員会婦人代表者会議等）に組織する為に斗争する。労働婦人も又、労働者であるとして、婦人の特殊性を軽視したり、又は婦人の特殊性のみを強調して労働階級の重要な構成部分としての彼等の地位を忘却したりすることは何れも大なる誤りである。

労 働婦人の中から積極的活動分子を養成する事は特に今日重要である。

所 謂「婦人参政権獲得」運動に対して吾党はこの小ブルジョア的運動の反動的性質を不絶バクロしなければならぬ。「……君等共産主ギ者は婦人の共有を行はふとしてゐるではないか」と、全ブルジョアジーは吾々に向つて合唱的に絶叫する。

ブ ルジョアは自分の妻を単なる生産労働者と考へてゐる。「共産主ギ者の目的とするところは、さうゝゝ重要な生産業界としての婦人の位置を根絶しやうとするに有するのだ……」「共産主義者は婦人共有を創設する必要はない。それは昔くの昔から存在してゐるではないか……現今の生産関係を廃絶すれば、その関係から生じた婦人共有制即ち、公私の売淫制度も消滅するのである」（マルクス・エンゲルス「共産党宣言」）

資 本制度の内部に於ては如何に恐ろしく厳なるものであらうとも、大工業なる小は、それ及家庭の範囲内にある社会的に組織された生産行程の内部に於て、婦人や、青年男女、幼童等に割り当てる極めて重大な役割を以て、家族及男女関係の、より高級な一形態の、依つて立つべき新たなる経済的基礎を造り出すのである。……男女及様々なる年令の個々の人を以てする結合、労働総員の組成は、労働者をば生産行程の為に奴隷化せしめて、生産行程をば、労働者の為に奴隷化しむることなき、衆生的に組織された生産行程の内部に於ては、商業と、奴隷制度との害毒ある源泉たるには代へ、適当なる事情の下に於かれるとき、それはむしろ、人間味ある発達の源泉とならねばならないことも明白な事実である。「（マルクス・資本論）

吾 党は婦人運動一般に対してはかくの如き原理の上に立つ。科学的社会主ギの祖、マルクスの言葉は、偉大なる革命の指導者レーニンに導かれたボリシエビキ党に依つて指導され実現されてゐる社会主ギ祖国ソヴエート同盟で生きてゐる。吾党はこの原則の上に立つて婦人を組織する為に全ての敵と徹底的に斗争する。

(6) 失業者運動について

失業者の存在は資本主義制度の必然的産物である。今日の失業者は既に多数の就業者である。最近に於ける資本主義的合理化による失業者（失業者軍こ、稱大的失業者）と、主清毛材に依る失業者とに依つて益々増大されてゐる。日本では今や失業者は二百万を超えてゐるが而してその上尚、日一日と増大しつゝある。今日失業者を組織し、資本に反対する斗争へ動員する事は、大きな政治的意義を有する。

失業者の救援、即ち、失業保険の即時実施等々の具体的要求を掲げて、失業者を特別の同盟、又は委員会に（労働組合と協力はするが組織上には別個である）組織する為に党は斗争するのそれと同時に党は、失業問題の解決は、この失業者を生じ資本主義的生産制度の根底にまでメスを入れる事によつてのみ可能であるといふ事へそれはソヴエート同盟に於ける実践によつて証明されてゐる。）を広汎なる労働者大衆に宣伝煽動しなければならぬ。失業者運動に於て最も重要なことは、失業労働者と、就業労働者との緊密なる共同並出の組織である。何故ならば失業者軍の増大は、労働階級全体の生活水準の低下を意味するからである。産業予備軍の増大は益々就業労働者の生活条件悪化をもたらすから。日失業問題は労働階級全体の問題であるのである。

(7) 口際問題について

党の最も不充分なものゝ一つは口際プロレタリアートの重要問題を、その一部分としての日本プロレタリアートの政治問題として普遍化し得なかつたことである。失業及対口際デー、メーデー等に於て然かこの方面に於ける不充分性が克服されはじめてゐるとはいへ、まだ遠く充分ではない。特にソヴエート同盟に於ける社会主義建設の輝かしき成功の持つ口際的意義、革命的意義及支那革命、朝鮮、台湾の革命的民族解放運動の有する意義と重要性、工場での職場での日本労働者大衆の実生活と結びついて普遍化されてゐないことを指摘しなければならぬ。党は、その中央指導機関及それ直接の出版物並にその影響下にある全ての出版物に依つて始めから此この領域に於ける不充分の克服に向つて猛進する。

五、二つの偏向に対する斗争（結語）

党の布教的な如上の任務を成功的に遂行せんが為には、党な点にマルクス、レーニン主義を以て武装され、鉄の規律を有する政治的統一体たらねばならぬ。党は第にその活動の成果に対するボリシエビキ的自己批判を徹底的に行はねばならぬ。マルクス、レーニン主義の原則を外れたる如何なる傾向に対しても――極左宗派主義であらうと、右翼日和見主義であらうと――次長的に斗争する。吾党が自己の活動に対して、或る誤謬でもあることは日本プロレタリアートの勝利の為に必要不可欠条件である。

吾々は、四。一六事件以来多くの指導者を犯したが、それは労働者大衆と、党との結合を欠くするものであつた。革命的言辞に満ちたる日和見主義的小ブルジョア的実践であつた。今や吾々は口際的指導部たるコミンテルンの指導の下に、この誤謬を徹底の追上に力強く一歩を踏み出した。だが未だに克服されつくしてはゐない。それと同時に吾々の党内の一部分には、右翼的偏向が表現されてゐる。（大衆的斗争組織に対する消極的態度等）

日本共産党がこの二つの傾向に対する斗争を決定的に、徹底的に行ふ時にのみ吾々は最も大衆的ボルシエビキ党となり得、口際プロレタリアートの一部分としての日本プロレタリアートの歴史的任務を遂行し得るであらう。

（終）

政治テーゼ（草案）発表に当り
革命的労働者諸君に檄す！

全口の革命的労働者諸君！

失業と飢餓、圧迫と圧制、人間による人間の搾取を根絶して共産主義社会を建設する為に、諸君は先づ当今日のブルジョア社会を倒してプロレタリア独裁を樹立しなければならぬ。だが、それは決死の斗争なくしては不可能である。この階級斗争を最後まで戦ひ抜いて勝利を得る為には諸君は正しい戦略、戦術と、鉄の如き規律を有するボプロレタリアートの前衛部隊である）指導なる軍隊――共産党を組織しなければならぬ。（一九二八年発表、日本共産党の檄）共産党はプロレタリア自身に依つて組織され、それの組織的活動の道程に於て益々強化されねばならぬ。

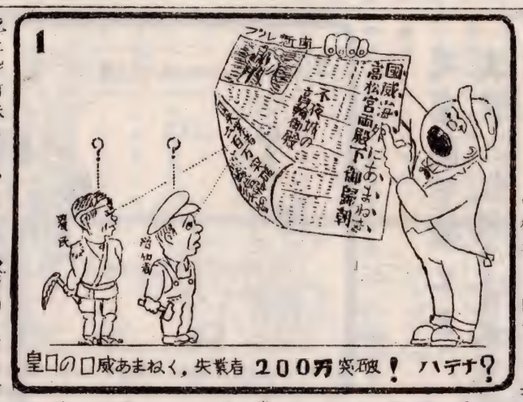
全口の革命的労働者諸君！

一九二七年、コミンテルンで採用された「日本問題に関する決議」は吾党の、それまでに有してゐた解党主義――山川主義と福本主義――的偏向克服にとつて、又吾党の大衆化にとつて偉大なる指導的力であつたことは疑もない歴史である。共産主義者の原則を忘れ、プロレタリアートの政党に義務付けられてゐるプロレタリアデモクラシーの実行を恐れたルブルジョア的指導者共は、或は自ら党より脱退し、或は党より除名された。吾党の活動が、この七月テーゼによつて活気付けられたことは我日本共産党史上に最としての大激化されねばならぬ。

仰しかも同志諸君、それにも拘らずこの所謂七月テーゼは基本的変更を迫らるべき性質をも含んでゐた。日本資本主義の現状に対する評価の誤謬はその基礎である。一九二八年のコミンテルン第六回大会、二九年の第十回プレナムの諸決定は、七月テーゼの変更改正を要求した。そのことについては、吾党内に於ても、口際的指導部に於ても早くより審議されてゐた。吾々はテーゼ全体の根本をなし得なかつたが但々の戦術に於て実践的にこの七月テーゼに含まれてゐる誤謬の一部分であるが――それは次の二つの傾向が表現されてゐる。（大衆的斗争組織に対する消極的態度等）

日本共産党がこの二つの傾向に対する斗争を決定的に、徹底的に行ふ時にのみ吾々は最も大衆的ボルシエビキ党となり得、口際プロレタリアートの一部分としての日本プロレタリアートの歴史的任務を遂行し得るであらう。

（終）



てゐた決議の訂正に向つてゐた。一九二〇年二月の総選挙に対するコミンテルンの指令は明白にその具体的表現であつた。

吾々は党内のテーゼ全体の訂正を審議した。だが打つづく弾圧、重要ある指導者の大衆的逮捕と吾党員に対する支配階級の迫害とは、遂に吾々をして今日に至るまで待ちしい方針を徹底し得ざらしめた。最近日本に於ける階級斗争の実践は、この事を急速に解決すべく迫つてゐた。吾党は日常斗争に対する但々の戦術に於て、早くより吾々がこゝに要表する新しい政治テーゼの方針に沿ふて方向転換を始めたのであつた。正しい戦略、戦術は実産主義的実践と結合してのみ生々として来るのだ。未曽有の弾圧と迫害て小国難性は吾々の前を去らないのみか益々その狂暴さ、陰険さを増してゐる。

吾々は日本共産党の革命的伝統と、日本プロレタリアートの中に包蔵されてゐる他大な革命的エネルギーと、数ある指導者の大衆的逮捕と吾党員に対する支配階級の迫害とは、遂に吾々をして今日に至るまで待ちしい方針を徹底し得ざらしめた。最近日本に於ける階級斗争の実践は、この事を急速に解決すべく迫つてゐた。吾党は日常斗争に対する但々の戦術に於て、早くより吾々がこゝに要表する新しい政治テーゼの方針に沿ふて方向転換を始めたのであつた。正しい戦略、戦術は実産主義的実践と結合してのみ生々として来るのだ。未曽有の弾圧と迫害て小国難性は吾々の前を去らないのみか益々その狂暴さ、陰険さを増してゐる。

革命的労働者諸君！

諸君は最近「日本共産党労働者派中央委員会」といふ署名入りの「政治テーゼ」「組織テーゼ」を見にであらう。それは君主々義者、極右社会ファシストとして吾党より除名された一連の解党主義者共によつて――検事局、予審所、警視庁、内務省等々との緊密な連手の下に――つくられたものである。彼等は「自分等が検事局に向つて天皇主義者たることを誓つたのは一つの戦術的カケヒキである」と主張する。だが、事実は、彼等がプロレタリア大衆を欺瞞する以外の何ものでもないのだ。昨日の天皇主義者が、今日は「我こそコミンテルンの本流なり」と主張する位破廉恥なものはなく、これ位プロレタリアートの前衛組織部隊たる共産党――そしてプロレタリアート全体――を凌辱するものはない。銀幕を掲げる「共産党」！それは階級斗争のカリカチュア以外の何ものでもない。更に彼等は諸君に向つて古ふ司令の日本共産党及び全政にはスパイ、ヘナ〳〵文士がのさばつてゐる

からそんな党には入るなと。吾党の影響が、今日全日本の津々浦々に行き渡りつゝあり広汎なる労働者大衆の決起的支持を受けてゐる時、彼等のこの言葉は革命的プロレタリアートに対する罵倒、裏切的絶叫に外ならない。吾々は最近年実に多くの援助を招じた。それは吾々統一的組織全体として負ふべき責任である。（勿論、党外にある経営協の紳士諸君にこの責任を負へとは云はぬ）だが吾々は日本の革命的プロレタリアートの眞の政党としてコミンテルンの日本支部としての陣地を一歩たりとも退かなかつた。破壊され組織は、工場から戦場からの新しい革命的労働者の糾合的力と献身的努力とに依つて再建されて来てゐる。一切の社会ファシスト共は或は「極左分子」の悪名を吾党に向つて投かけたり、或は政府の「共産党狩り」ムシロ逸きに決し乎ヌルきに堕する「ブルジョア政府を非難したり、或は又悪んで工場の中から革命的労働者を直接に文配階級に売り渡した。かくて彼等は公然と支配階級の奴僕としての役割を果してゐるのだ。

同志諸君！商級斗争の歴史、実践的経験は、如何に理想的な非合法組織でありても――例へばツアール君下に於けるボリシェビキ党――スパイ、プロヴォケーターの侵入を絶対に不可能ならしむることは出来ない。彼は如何に巧妙にそれと斗争するかである。吾党が行つてゐる大衆的活動方法への意識なる方向転換は、この領域に於ける斗争を成功的ならしむる条件である。実践を通じての試練――プロレタリアートはよく主張する。革命的組織内に侵入するスパイ、プロヴォケーターに対する徹底的斗争を拒否して革命的組織そのものを破壊せんと試みる解党派の理論と行動は天皇主義者にこそ共鳴されるれ共産党員にとつては何等の共通点をも有しない反動的なものである。

革命的労働者諸君！

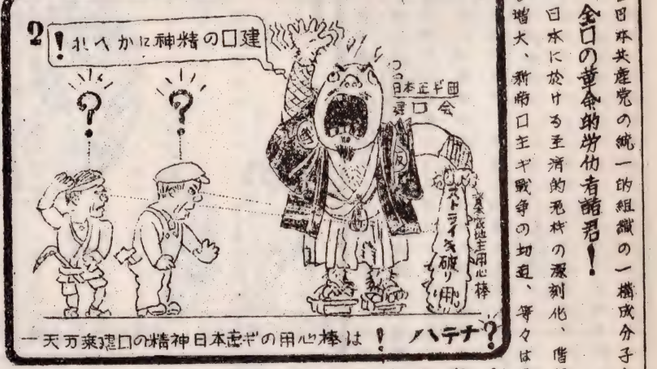
商級斗争を徹底的に斗はんとする全ての革命的労働者諸君は党に加入しなければならぬ。共産党の組織内に於ける、又かゝる共産主義者である。吾党は厳然たるマルクス＝レーニン主義を以て全身を武装しなければならぬ。勿論党内に於ても多少の見解の相違は免かれないであらう。又意見の相異が党内に於て充分に斗はされることによつて、党は益々正しい政策を取り得るに至り益々強固なる力を有するものとなり得るのである。併しながら、一旦党の決議で決定された党の政策は絶対である。全党員はそれに積極的に従つて常に一人の如く行動しなければならぬ。（前衛破ヨリ）

同志諸君！諸君はこのテーゼを読んでその根本方針が正しいと信じたなら、直ちに革命的労働者として自己の働き場所で活動を始めよ！全ての労働組合内で働け！農民の間で働け！そして同志諸君は何か？それは

第一に大衆に対する働きかけの不充分である。他所の工場よりも先づ自分の工場からと云ふ見解は最後まで正しい。だが党又全国協議会の各組織が各自独力し、仕事の計画を立て、活動を行ふならば仕事の分担は容易になり効果はより以上のものとなる。例へば東京を五つの地区によつて動員を準備したのはいゝが、それではこの各地区に於て一つの統一的プランに依つて仕事が行はれたか？といふに決してさうではなかつた。メーデーの如き――又は来るべき帝国公判斗争斗争の八月一日の斗争――共通的斗争は各産業別組合が各々各地区に於て協力し、仕事を分け合つて活動すべきである。然る時にはじめて全党的に大衆斗争を指導し得るのである。

吾党は全国大衆団体内の党フラクションは独自的デモンストレーションの為に積力的に活動し従党は全国的に統一的方針を労働者大衆――それを説明するための斗争を行つた。吾々が現在有する力を全体的に動員し、その指導下にある大衆団体の中で活動したことを以て吾党は今度のメーデーでは若しくは何もやらなかつた様だ。党は全国協議会にその仕事をまかせた様である。吾党と大衆団体との相互関係、大衆団体と大衆との相互関係は、この様な意見――或は疑問――を有する人々の様に形相的に見るべきではない。それは大衆的行動に現はれて来た実力、党の影響力、党の方針が如何に生かされてゐるかに於て観察されねばならぬ。吾々は自己の力を過大評価してはいけないと共に過小評価してもいけない。党の組織の一つ一つの部分が如何に活動したかをよく知らねばならぬ。それは数枚、数十枚乃至は数万枚の党のビラ散布といふやうな易地からのみではなく、党員の実践的活動に対する正当の評価であらねばならぬ。

吾党及全国協議会がメーデーに際して行つた準備的活動に於ける不充分は



天皇制を倒せ！
失業と飢餓の資本家地主政府を仆せ！
日本帝国主ギを仆せ！
プロレタリア独才！
日本の革命的プロレタリア万才！
日本共産党万才！
共産主ギインタナショナル万才！

コミンテルン日本支部
日本共産党中央委員会

一九三一年度メーデーの教訓
―斗争の経験を大衆の中へ持込め―

（一）

一九三〇年のメーデーに際し、吾々は「示威デモ」といふ方針をとつた。それは実に大きな積極的意義であつた。労働者大衆の現実的要求を敏感に取り上げて、そのことをメーデーの「口実的」意識とを緊密なる結びつけによつて大衆を街頭の示威運動へ動員するといふことのかわりに、少数の革命的労働者の大衆の気持とは全くかけ離れたところの英雄的行動によつて、武装によつて、大衆を指導しようとした。吾々はこの誤りも方針の結果、有能の斗士を甲斐に逆るくらいの失敗を得た。革命的信念に燃え、献身的に活動した更等の同志達の行為は英雄的であつた。だがそれは大衆運動と結合してゐなかつた。そこに根本的欠陥があつた。

一九三一年のメーデーは、昨年のかゝる極左的英雄主義の克服のために斗はれねばならなかつた。大衆に対する命令ではなしに積極な日常活動によつてメーデー斗争日として持つ「口実的意ギ」を分らせ、それと今日工場その他の働き場所に於ける労働者の闘争とを結びつけ、大衆の中に入つて彼等の経済的要求を基礎として斗はれねばならなかつた。

（二）

工場細胞及び各大衆団体内の党フラクションは独自的デモンストレーションの為に積力的に活動し従党は全国的に統一的方針を労働者大衆――それを説明するための斗争を行つた。吾々が現在有する力を全体的に動員し、その指導下にある大衆団体の中で活動したことを以て吾党は今度のメーデーでは若しくは何もやらなかつた様だ。党は全国協議会にその仕事をまかせた様である。吾党と大衆団体との相互関係、大衆団体と大衆との相互関係は、この様な意見――或は疑問――を有する人々の様に形相的に見るべきではない。それは大衆的行動に現はれて来た実力、党の影響力、党の方針が如何に生かされてゐるかに於て観察されねばならぬ。吾々は自己の力を過大評価してはいけないと共に過小評価してもいけない。党の組織の一つ一つの部分が如何に活動したかをよく知らねばならぬ。それは数枚、数十枚乃至は数万枚の党のビラ散布といふやうな易地からのみではなく、党員の実践的活動に対する正当の評価であらねばならぬ。

吾党及全国協議会がメーデーに際して行つた準備的活動に於ける不充分は

会加盟組合の一部にもメーデーに関する馬鹿の方針に対する若干の無理解があつた。それは例へば日本化学労働組合本部特別決議にて「メーデーには音相官邸へ押かけろ！」と書かれたことに現はれてゐる。吾々は勿論自分の工場では全従業員の決議に依つて全員を街頭へ出す様にせよ、そしてもし隣の工場が怠けてゐたらそこへ大衆的に訴ひに行つてその大衆をデモに捲き込む様にせよ、而して商職へ出た大衆は基本的には改良主ギ者の指導下に行はれる赤旗行列に合流せよ、その時に注意すべきは改良主ギ組合員大衆と、吾々の組織せる赤色運動に参加せる大衆との敵対的感情を起させてはならぬといふことだ。合致した後にどうするか、それは官許の範囲に止まれといふことを断じて意味せぬ。その時の情勢に依つて口実権力機関に向つて突進すべきだ」といふ内容を持つ決定を要求した。問題は明白なのである。出来るだけ多くの大衆を吾々のスローガンの下に捲き込むこと、そのかを以てより効果的に示威するこそ最も緊張したのだ。然つて吾々が「基本的には！！！合致すべきだ」と主つたことは全く正しい。改良主ギ的組合指導下の大衆の同盟から「全協を出せツ」「日本共産党万才！」が叫ばれてゐたと云ふ現実は、吾々のこの見解即ち彼等を吾等の示威運動と握手させると云ふことの正しさを証明してゐる。

同時にまたメーデーは最初の予験でもあつた。

(イ)この最初の経験に基ひはらずそして一般的には以上述べた様なるくの不充分を有しながらも吾々は独自の示威運動を組織することを得た。そこに動員された数がよしんば改良主ギ的デモに動員される数に分つてゐたにせよ（それも東京と大阪と云ふ都市で）吾々の行つたメーデー準備斗争はそして当日のデモは広く日本全国の労働者大衆並に農民大衆に大きな影響を与へた。吾々はそこに大きな政治的意義を見る。そして支配階級が血まなこになつて「全協はメーデーを暴動化」すると叫びながら党員に革命的労働者を逮捕してゐる時に大衆は「誰が最の友か？」を知りつゝあつたのだ。メーデーを斗争日として迎へるといふ本来の意ギが吾党及全協の指導下に——「命令ではない」——労働者大衆によつて行はれることは特筆され根はならぬ。

(ロ)更に全国各地方にこの日行はれた労働者と農民の共同斗争は又充分に評価され根はならぬ。長野、山梨、栃木、富山等々の地方では吾党の又「！」なんは公然と掲げられた。大都市に於て改良主ギ的指導者共ばノサバつてゐる時、各地方で我党及び全協のスローガンが公然と叫ばれてゐるといふ事実は吾々の活動を展開するに充分な好条件が存在することを物語つてゐるのだ。労働者と農民との革命的団結は具体的斗争を通じて行はれるべき闘争の根幹

はなしに斗争の為に集団となる大衆と大衆との下からの戦線統一——それは無産政党といふ反動的な組織に於ける指導者共の申し合せや「全国」などとは異つた面から対立する——によつて生きるのだ。

(ハ)組合単位の動員形態から工場単位の動員形態への発展。これは吾々と大衆との密接なる結合といふ観点から して非常に重要である。組合員以外の未組織大衆或は色々の傾向を有してゐる労働組合員大衆を一つの統一された ものとして吾々の要求の下に動員するといふことは大きな政治的意義を持つ。切論この方面に於ける成功は全国的でないばかりではなく地方的に見てもまだ部分的ではあるがこの方面への戦術の取扱は吾々同志によつてもつと大きく重視されるべきである。

(ニ)大衆的抗議による犠牲者の奪還・例へば横須賀に於けるメーデーで検束された七人々の奪還の為に朝鮮人帰人約四十名程が警察の前でかん張つたこと。このことは犠牲者の家族を先頭に立てゝ大衆的示威を組織することについての多くのシジエンされるものを与へてゐる。共産主ギ者の大衆的指導が行はれた時に家族を先頭に立て、大衆的抗議を行つた地方は一二に止まらなかつたが、この主義はもつと普遍化されねばならぬ。

(ホ)工場内の要求をとり上げて斗争を組織しメーデーを期して実現した例は二三に止まりはせぬ。これも大きな実

それ〴〵のガンパニアの持つ特別の意ギを持ち上らせる事が必要である。（メーデーに際して出された吾党の檄は、その意味では党員諸君の為になるであらう）

(ヘ)、党、同盟及全協の各下部組織の創意性が充分発揮されなかつた。このことは必ずしも今度のことに限られてはゐない。上層指導からの群細な一つ〳〵の行動に対する必要以上の干渉が下部の積極的活動性を殺してゐた所の——指令を待つてゐるといふ傾向が未だに残つてゐる。それは大阪とか神戸とかいふ地方には山シロ的程度の悪風を示してゐるとさへいふことに対して吾々はもつと強く注意し、労働者大衆の持つてゐる偉大なる創意性を如何にして最大限に発揮させるかをおそ過ぎた事は否めない。

(ト)、お座なりの決議

(チ)、未組織労働者特に失業労働者をメーデー示威に参加させる何等の活動をもしなかつた。

(リ)、革命的労働組合及その他の大衆団体の参加不許可に対する抗議——乃至被等自らが拒否したこと。

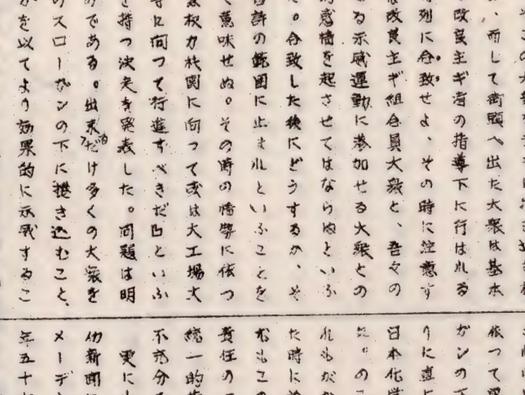
(ヌ)、革命的労働者に対する迫害に関して一言もふれず、尚、それらの人々を極左主ギ者として敵に売り渡してゐた。

(ル)、メーデーを葬式行列に終らせるためあらゆる努力を行つた事。そのためには警視庁（東京では）との妥力——東京渋川に軍隊が出動したことなどは彼等にとつては「何なでもないこと」なのである。

被等の提出したスローガンについて一言。反ソエート同盟の新しい戦争の危険を目標に迎へてゐる今日日本のアナーキスト共は「日ロシアに於ける在我アナーキスト、サンヂカリストの即時救出にその活動の自由」「日ロシア秘密警察（ゲーペーウー）の即時廃止」といふ反革命的スローガンを出して君主々ギ者を喜ばせた。「日露が日ロシア

(三)

一当日どれ丈の人々を動員し得るかを前以て調査することの不充分をいふ。吾々の多くの同志達はメーデー当日になつて態度会や観劇会を催した。勿論、そのこと自体は悪くはない。だが何故メーデー前にかうした態度会、座談会が持たれなかつたか？、である。吾々が注意深く活動すれば、かうしたことば勤労以前に行はれ得る。かやうにメーデー前のいろ〳〵な催に参加した人々をガツチリとかためておけばそれらの人々を中心として当日になつて後援大会を開くことは比較的に容易である。即ち吾々と行動を共になし得る人々を前以て何等かの組織的形態に於て獲得しておくといふ準備が不充分であつた。



然らば吾々は成功的な何物をも持たなかつたか？否、断じて否。吾等が本年二月の失業反対斗争デーを敢行した時、改良主ギ組合も一切の社会民主主ギ政党も沈黙してゐた。ところがメーデーには彼等も準備せざるを得なかつた。（それについては機で少し述べる）かくした場合には二月の時と同じ活動方法も果ひざるを得ない。その態

度を決定するにあたつては、メーデーは最初の予験でもあつた。

(イ)この最初の経験に基ひはらずそして一般的には以上述べた様なるくの不充分を有しながらも吾々は独自の示威運動を組織することを得た。そこに動員された数がよしんば改良主ギ的デモに動員される数に分つてゐたにせよ（それも東京と大阪と云ふ都市で）吾々の行つたメーデー準備斗争はそして当日のデモは広く日本全国の労働者大衆並に農民大衆に大きな影響を与へた。吾々はそこに大きな政治的意義を見る。そして支配階級が血まなこになつて「全協はメーデーを暴動化」すると叫びながら党員に革命的労働者を逮捕してゐる時に大衆は「誰が最の友か？」を知りつゝあつたのだ。メーデーを斗争日として迎へるといふ本来の意ギが吾党及全協の指導下に——「命令ではない」——労働者大衆によつて行はれることは特筆され根はならぬ。

(ロ)更に全国各地方にこの日行はれた労働者と農民の共同斗争は又充分に評価され根はならぬ。長野、山梨、栃木、富山等々の地方では吾党の「！」なんは公然と掲げられた。大都市に於て改良主ギ的指導者共ばノサバつてゐる時、各地方で我党及び全協のスローガンが公然と叫ばれてゐるといふ事実は吾々の活動を展開するに充分な好条件が存在することを物語つてゐるのだ。労働者と農民との革命的団結は具体的斗争を通じて行はれるべき闘争の根幹

はなしに斗争の為に集団となる大衆と大衆との下からの戦線統一——それは無産政党といふ反動的な組織に於ける指導者共の申し合せや「全国」などとは異つた面から対立する——によつて生きるのだ。

(ハ)組合単位の動員形態から工場単位の動員形態への発展。これは吾々と大衆との密接なる結合といふ観点から して非常に重要である。組合員以外の未組織大衆或は色々の傾向を有してゐる労働組合員大衆を一つの統一された ものとして吾々の要求の下に動員するといふことは大きな政治的意義を持つ。切論この方面に於ける成功は全国的でないばかりではなく地方的に見てもまだ部分的ではあるがこの方面への戦術の取扱は吾々同志によつてもつと大きく重視されるべきである。

(ニ)大衆的抗議による犠牲者の奪還・例へば横須賀に於けるメーデーで検束された七人々の奪還の為に朝鮮人帰人約四十名程が警察の前でかん張つたこと。このことは犠牲者の家族を先頭に立てゝ大衆的示威を組織することについての多くのシジエンされるものを与へてゐる。共産主ギ者の大衆的指導が行はれた時に家族を先頭に立て、大衆的抗議を行つた地方は一二に止まらなかつたが、この主義はもつと普遍化されねばならぬ。

(ホ)工場内の要求をとり上げて斗争を組織しメーデーを期して実現した例は二三に止まりはせぬ。これも大きな実

(四)

改良主ギ者社会ファシスト共は如何にメーデーを準備したか？詳細に亘つて記す余裕を持たないので簡単にま

とめる。

(ヘ)、お座なりの決議

(ト)、未組織労働者特に失業労働者をメーデー示威に参加させる何等の活動をもしなかつた。

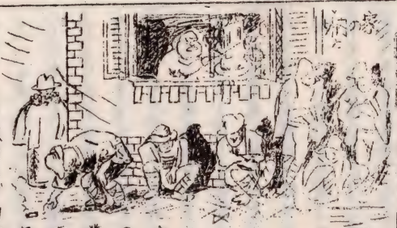
(チ)、革命的労働組合及その他の大衆団体の参加不許可に対する抗議——乃至被等自らが拒否したこと。

(リ)、革命的労働者に対する迫害に関して一言もふれず、尚、それらの人々を極左主ギ者として敵に売り渡してゐた。

(ヌ)、メーデーを葬式行列に終らせるためあらゆる努力を行つた事。そのためには警視庁（東京では）との妥力——東京渋川に軍隊が出動したことなどは彼等にとつては「何なでもないこと」なのである。

被等の提出したスローガンについて一言。反ソエート同盟の新しい戦争の危険を目標に迎へてゐる今日日本のアナーキスト共は「日ロシアに於ける在我アナーキスト、サンヂカリストの即時救出にその活動の自由」「日ロシア秘密警察（ゲーペーウー）の即時廃止」といふ反革命的スローガンを出して君主々ギ者を喜ばせた。「日露が日ロシア

失業者同盟組織に関する一つの混乱について



日本労働組合全国協議会とその加盟組合は失業労働者組織のための積極的活動を行つてゐる。このことは改良主義的労働組合指導者が失業者組織に関する空元気な叫びをあげるに留つてゐる今日、吾革命的労働組合の努力を拡大する意味に於て、又失業者問題の重要性を正しく理解してゐる意味に於て実に重大な事柄である。

「失業者を特別の団体（又は委員会）に組織すること」は日本労働組合全国協議会とその加盟組合指導者の重要任務であることはプロフインテルンの決議が特に強調してゐるところだ。そして吾日本の赤色組合がこの決議の実行にはいつたことは絶対に正しい。

然し、この決議でおつてゐる「特別の組織」の意味が明白でなかつたために若干の混乱を来してゐる。それは失業者同盟が組織上では、全国協議会に加盟してゐることに表れてゐる。失業者同盟は組織上では赤色組合に加盟するのではなく、独立的存在であるべきだ。併し、このことは、この両者間の緊密な結合、共同斗争の展開、赤色組合の失業者同盟に対する指導的地位を抹殺するのでは断じてない。吾、それと反対である。独立的組織なるが故にこそこの両者の結合はより緊密でなければならぬ。上から下までの全ての機関には双方からの代表者が交換されてゐなければならぬ。勿論この場合、同一の人が両方の機関に切つてゐることを少しも妨げないのである。

吾々は失業者同盟の独立的存在を主張するが、それは機械的に理解されてはならぬ。あくまでも、それに対する赤色労働組合綱――それから党――からの指導権を確保しなければならぬ。全そのために活動しなければならぬ。全口協議会に加入し得ないが失業者同盟へなら入ろうといふ失業労働者が沢山あることを忘れてはならぬ。これらの大衆を失業者同盟へドシ〳〵入れ、そこで全体としての組織化された活動によつて革命的政治を理解させるやうにしなければならぬ。

失業者を失業者同盟へ大衆的に組織せよ！
革命的政策の下に失業者同盟の活動を展開せよ！
失業者を組織する事は革命的労働者の政治的任ムだ！

➡ビラ傳單の書き方に就て

★

労働者、農民等を職業的観念の下で、或る一定の目的（例へば公判カンパア、デモ）に動員宣伝し、大衆行動を起させそれを組織するためにアジ、ビラ傳單を使ふことが必要だ。

ビラ傳單は対象たる労働者農民等にあくまでも実践的具体的方向を明示する力を持つてゐなければならぬ。故に徹底に関することなく簡潔的並に主観的情勢を忘じて迅速に、簡明に、書かなければならぬ。でないと折角のビラ、傳單が全然 の役にも立たなかつたり、今出されても、今年の秋に出されても何時出されてもよいものであつたり、単なるバク口に終つて何等の行動の指針も与へてゐず、何等の組織方針をも示してゐないしめくゝりのないものであつたりする。ビラ傳單を見た大衆は一体どうしたらよいかわからなくなつてしまふ。

くは帝国主ギ戦争の本質を見抜き得ないで、「戦争は不景気退治の神様だ！」とか「戦争といふ帝国主ギブルジョアジーの要求にダマされてゐるものが非常に多い。

一人の兵士も送るな！ 一銭の軍事ヒも出すな！

新帝国主ギ戦争反対――帝国主ギ戦争を自国ブルジョアジーに対する内乱に転化せよ！――自国帝国主ギ政府の敗北!!
ソヴエート同盟の勤労者に対する戦争を自国ブルジョアジーに対する戦争に転化せよ！
労働者と農民の祖国ソヴエート同盟を守れ！
支那革命を守れ！
朝鮮台湾等の植民地の完全なる独立！

即時行動開始せよ！

帝国主ギ戦争の本質を、日清、日露、世界等の大戦の具体的事実に基いて、ごく判り易く労働者農民に暴露することが絶対に必要だ。帝国の仕事だ！

★

ではビラ、傳單はどのやうに書いたら一番効果的であるか。少くとも次の条件が備はらなければ駄目だ。

一、中心目標を一目瞭然たらしめること――例へば「七月×日何時何処へ集れ！」「何時ストを開始しろ！」等々の如く、「何時、何処で何をするか」等の条件を明示すること。目標が中心目標が二つも三つもあるもの。こんなビラや傳單はよくない。

二、中心目標に向つて大衆を引き入れる手引きとなるスローガンを厳選して明示すること。これが非常に重要だ。大衆にピッタリ来ないスローガンを山やさやタラに羅列したもの。こんなビラや傳單はよくない。スローガンの並べ方にも注意すべきだ。

三、主体――党、同盟、全協、赤救、赤色救援会等――を明示すること。どこが出したものかハッキリしないビラ傳單がよくある。

四、労働者農民等にスクワリるやうに書くこと。出来るだけ簡単に書くこと――文字やマンガを配列するといつた方がいゝかも知れない――ことが絶対に必要だ。

ビラ傳單が対象とする大衆（例へば芝浦の労働者）に呼びかけること（とふ）はつまり行動をひきおこす最も重要な前提になるのだ。

★

(1) ビラ傳單は簡単に、明瞭にそして迫力を持つことが第一条件だ。

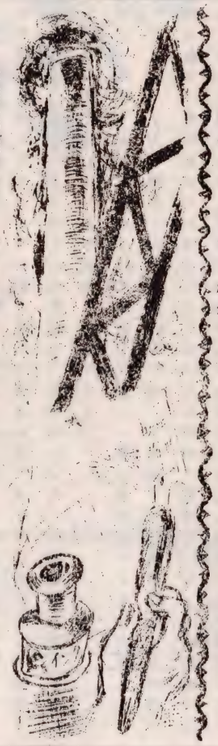
ビラが一般的に長すぎる。それは一つのビラで何もかも云ひ尽さうとするからだ。斗争の進展に即して刻々にビラを出すようになると、多く具体的なり、簡単明瞭になる。両面非そうしなければならぬ。一枚の紙面にグチマくと沢山の内容や沢山のスローガンを書き込んだものが非常に多い。これでは読めなければ（読む気がしない）紙の大きさ――紙の大きさは場合々々で大小色々な大さのものを使ふ必要があるが一般的には葉書大さいかまい。小さくて同一の効果を与へ得るなら小さいがよい。

例へば全協、日本電気労働組合東京支部東電分会が一九三一・四・一九に出した傳單は葉書大衆に行動を起させる具体的なスローガンを簡単に三つかゝげた点、感じのよいカットを入れた点等で成功してゐるが馬鹿に大きい。あの六分の一の大さで十分同一の効果を挙げることが出来る。

(3) 色――紙の色と上に書く文字の関係はハッキリ浮き出させるものを選べ。例へば白紙に黒字、又は赤字。黄紙に黒字又は赤字。殊に傳單の場合白紙に黒と赤を用ふのが一番ハッキリ目立つ。赤紙に黒字は割合に効立たなくて駄目だ。ビラの場合色紙は白字よりも効果的だ。

(4) 字の大小、細み合せ方――字には必ず大小、細い太いをつけなければならぬ。更にそれを巧みに組合せることによつて、非常にコミ入つた内容をも、一目瞭然たらしめることが出来る。この点で成功したものは一つもない。

(5) ワク、線、装飾の用ひ方――カットの入れ方――もろ〳〵の点、線、フクカット等を巧みに取り入れることによつて全じ内容を盛り込んだものでも効果上に非常な差等を生じる。この点に関する努力のあとは見える程成功してゐる。しかし、よくない批判の仕方も沢山ある。論文に於ける不充分の指摘をしてゐる同志達は何故その不充分を自ら積極的に補充し様としないのか？組織全体をお互に協力し合つてこそ強大強化されて行くのではないか。例へ



批判の仕方についての注意

▲…吉野科図紙に対する批判文が前々号に沢山出されてある。それについての若干の意見を開陳する。

▲…最後の二つの批判を除いたもの以外の多くは批判というよりは厳罰、法文の羅列である。参考になる点も沢山あるのだが、批判の仕方が悪いために折角の批判が生きてゐない。

★

一枚のビラ一枚の傳單のはたす役割は実に大きいぞ！決して過小評価するな！然るに一枚のビラ一枚の傳單をマタ方も受け取る方も場合によつては文字通り命がけだ！

同志諸君！

ビラ、傳單の書き方をもつと〳〵研究しようではないか!!

ビラ、傳單のマキ方、ハリ方についても何々の経験を大衆化しようではないか!!

★公判カンパニアを期してビラ傳單を断然よくせよ！

ば、同志アンケートの暗殺未遂に関するアッピール文の批判者は、このための日共党的斗争形態、方針をいかに示さねばならぬと思ふか白と云つてゐるが、何故この同志は自らそれをやらないのか？若し、この文ピールを見て、自分の細胞で、具体的な活動をやつたのであつたら、何故、それを他の細胞組織の人々の間に教へ様としなかつたのか？

▲……色々の質問や注文を出る事は、此間機の編輯上、論文又は決定の書き方をよくする意味で非常によい事だが、党員諸君は出来るだけ、党細胞の会議で一号々々中央政策について討議し、それ〳〵の意見に（現在無署名で書かれてゐる論文は全て中央部の集合的労作であり、そこでの統一的意見である）対する細胞の意見をまとめねばならぬ。個人的意見を述べることを絶対禁止ではないが、赤旗紙は読み流しにするのではなく、実践的斗争の指針たりしめねばならぬ。而して実践は党員全体の集合的統一的活動に待たねばならず、統一的活動は統一的見解に基礎付けられねばならぬ。こういふ風に読まれる時、赤旗紙は本当に政治的に党組織を統一し、且つ、労働階級を組織するものとなることが出来る。

▲……更に論文の批判は全体を貫くものは何であるかをよく理解し、その上に立つて行はれねばならぬ。例へば、この日数の火花にある最後の二つの批判はその最たるものである。「自分はこの論文をかういふ風に理解した。故にこういふ意見である」と明白に述べてゐるこの二人の同志の態度はいい。尤も最後の同志の意見は、現在各々の細胞組織をよく理解してゐない点から出発してゐるので科学的に問題を扱つて居り、決裁文の九のみこみの点があるので、その点りに於て論ずてはあるが。どうしてそうか？という原因に対しては、次の一例を示すことで充分であらう。

▲……ある工場――通信作らざく、と云はざるを得ず――或は戦場で、或に立入の「カフェ赤旗」の読者がゐるとする。この同じ五人が同時に「労働者」「戦旗」「反帝闘争」の読者であるのだ。諸君、これでいゝのか？これでも君は江山丸はあるほどいゝとでもいゝのか？各々の主張するのは、大衆団体の中央機関紙の禁止や、又地方的に必要に応じて出さるるニュース丈の廃止ではないのだ。工場内に於ける活動の統一、それのために細胞が如何に大衆団体を指導すべきかについて述べてあるのだ。勿論がらおふが、吾々は絶対大衆団体のニュースに停止命令など出してはゐないし、又出そうなどと考へてゐ居らぬ。党外大衆団体にどうして命令することが出来るのだ。党員は党の決定を、政策を大衆に理解させ、そうすることによつて組織を動員しなければならぬといふことを幾度か吾々は繰返してゐるのだ。吾々は、工場内での活動がウマク行はないので悩んでゐるのだ。同志諸君！積極的に自己の意見を述べよ！

自分の居いてゐる場所では党の政策が如何に行はれてゐるかを書き送れ！

ボリシエビキ的に批判せよ！

及び細胞大衆を斗争へ動員し、組織的にカクトクすべきかを実践的に教へて行くことが重要なのだ。ほんとうに細胞の決水口（コレーニン青年団）トなりません。

▲……党赤旗紙上に発表されるとさ、又は各自の意見をドシ〳〵編輯部へ送らねばならぬ。批判の如何は決して編輯部のみでやるべきではない。多くの同志諸君が勇敢に行はねばならぬ。党の政治的方針を徹底し、それに対する各細胞の意見を統一することは党とボルシエビキ化する最重要な一部門である。

赤旗第四四四号
特別附録

革命的労働者は
日本共産党へ！
――政治テーゼ（草案）発表に際して――

鉄の火花

東京地方の共産党出獄被告会議

一労働者

去る五月廿七日、日本共産党東京地方の出獄被告会議が開かれ、出席者三十四名、満場一致で次の決定を承認し、その続開下に於くまで頑張に公判斗争を戦ひ抜くこと、公判斗争の一部として斗ひ、酔党派に対しては決定的に斗ふことを決議した。これは流石に各々の指導者にも輝ける日本共産党々員の階級的革命的立場と団結力と斗争力を示してくれたものだ。だが尚更はこの被告会議に二つの不満がある。第一三十四名とは東京五区の出獄被告の四分の三に過ぎずまだ全員ではないぬ。永い拘留苦痛で非常に便秘を習れたことに対して憤慨は感謝し崇敬する。だが獄内にある党員に、ナゾトソゾトの病気でお押しきつくれはかとしてゐるこ

とを労へてみてくれ・第二に被告各業に当局は臨監をつけかかつたり代りにそれよりもおつと奴等に重宝な酔党派八名を出席させた。その時被告会議の御君は何故この大失を直ひ出さないつだのだ。対陣奴等に発言と決議権を与へない様にキツパリ決議しなかつたのだ。酔党派との斗争は単に決議したゞけではダメだ。実践的に組織的にやることだ。

公判廷に於ける斗争は工場職場農村に於ける大衆的抗議・大衆的示威斗争に従属したものだ。斗争の水流は工場にある。工場や従業員大会や五分間ストライキや其の他あらゆる組織的斗争を巻き起すことが一番大事だ。

公判廷への押しかけは、こう云ふ大衆斗争を背後に持つた時にのみ水当の成果抗議とある。二十八日の前哨部の公判準備会議には絶対一人につき二人位の傍守が公判廷の廻りを固めてゐた。裁判所の廊下にも三分間おきに一人づつ至るところに立番をしてゐた。被告の御君は絶対に入廷を許さなかつた。

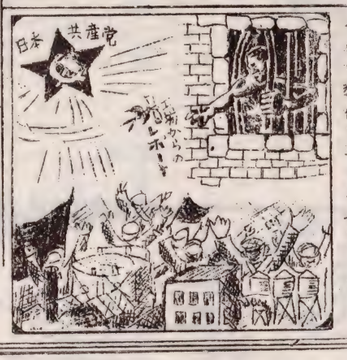
同志諸君！

明日はよいか！　今度の公判には白書公然のテロが行はれるに決つてゐる。自衛団を組織しろ！

敵が今度の公判を平穏にやるやうに見せかけ公判の統一公開の要求を盾に取れる様に見せかけてゐるのは深い魂胆があるからだ。奴等はテロを準備してゐる。

同志諸君！

この テロを粉砕し得るものは工場職場に於ける赤化にして組織的な強い大衆斗争のみだ！　同志しっかり準備をやらうぜ!!



公判斗争の前哨戦は つひに始つたぞ

日本共産党東京地方公判斗争全工場職場に用意しろ!!

午後一時いよく公判準備公議に移るや十名の酔党派は対尾一人を傍聴のために残したまゝ混乱の如く挙つて退散した。こうしや奴等は公判斗争の最初の前哨戦に於て既に階級斗争に対する裏切を示したのだ。同志佐野は一百一回敢至比較ずるに足る態度で、先づ経過を報告し、今日の会合は獄内旧中央部が昨年七月以来敵に対し組織的に最バリ強く公判の統一公開

労農少年の組織化に就いて

××××工場細胞　×　子

工場農村の労働者、労働婦人及失業者、失業婦人の赤組織大衆を階級斗争へ動員し党、全協へ組織する事が重要任務として日程に上つてゐる今日、これと共に捉起されねばならぬのは労農少年の組織

『共産主義思想を普及化すべき任務は、軍隊内に於ける環境の系統的宣傳の必要をその中に色濃くである。この活動が特別注意によつて禁止されてゐるところではそれは非合法的にやはれねばならぬ。この活動を拒否することは、革命的ギムに対する裏切り、第三インタナショナルへの義務の不遵守と同然である』（『共産主義戦争、ソヴエート同盟に対する武力干渉の危険が迫りつゝある現下の情勢に際して』軍隊内に於ける積極的系統的宣傳並に組織工は吉宛の緊急の任務である。　編輯部

民と我々との共闘斗争への好い条件を作り出さねばならない。

工場の場合には我々はテキレイ者会議や、その他工場内の大衆的な組織を足場にして、矢張り工場労働者の兵士後援制度を大衆的に組織すべきだ。そして工場の日々の出来事、労働状態、色々なストライキの報告等、および労働者の日常斗争をコクメイに報告するのだ。兵営の兄弟に工場の斗争精神を忘れさせてはならない。その為には、職場と兵営とのキン密なつながりこそ最も必要だ。工場内の兵士後援制度は、隊内看護員対

前の我々の隣の工場内の斗争や兵士の営内斗争への工場労働者のカンションと積極的援助を組織することに活動しなければならない。

我々は如何なる妨害があらうとも、如何に困難であるとも、兵士の斗争を積極的に援助し、提ケイし、激発を、巨大なる武器と持つた我々の味方としなければならない。

隊内教育である日志や、男の同志諸君にはキソトもつと沢山よい意見があると思ふ。どん〳〵発表して呉れ・研究しなければならない問題だ。

労農少年団（ピオニエル）を組織するには、小作争議、ストライキ等の場合が最もよいのだが、平和の時にでも組織して行かねばならない。それは初めはほつきりしただ漠然と出来おくとも何等かの形でもつて組織すべきだ。我々が少年を組織しようとする場合はじめから プロピのブルだのと所謂意識を問題にしてはならない。要は会を人の少年、労働者の少年からば良いのだ。水来プロレタリアの少年は集団的なフンイキに生活してゐる。彼等の学校、街頭での生活を見ればよくわかる。我々は組織するにあたつて、少年のこの集団性を利用すべきだ。

それから一般青年へられるのは、農村の場合には一村一部落を単位として組織すればよいのだが都市の場合はどうするかと云ふ事である。自分が思ふには、全協の手の伸びてゐる工場があつたら、その工場の少年労働者及その工場の労働者の小伏とを中心として、少年団を作り、団員の多数が居住してゐる区域の労働者の子弟の獲

赤旗

第45号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

➡8月1日—國際的反戦デー

大衆的政治的ストライキへ！
街頭示威へ！

八月一日！ 全世界のプロレタリアート勤労農民は、日一日と切迫しつゝある帝国主義戦争、取分け植民地搾取、原料産地販売市場獲得の為の第二次帝国主義戦争、殊々と社会主義建設の巨歩を踏みしめつゝあるソヴエート同盟に反対する反革命的戦争に反対して、この日街頭デモンストレーションを敢行する。

一九一四年八月一日、数百万の死傷者と数億円の巨費を投出した世界一次帝国主義戦争の幕が切って落された。セルヴイアの一青年オーストリア・ハンガリーの皇太子を狙撃したのは、それまでに蓄積されてゐた帝国主義的矛盾の結果であり、戦争の口火となったに過ぎぬ。各国の社会民主党は、レーニン、リープクネヒト等を中心とする少数の革命的グループを除く全てはこの帝国主義戦争を合理化した。「民主々義的」ドイツが、「ツアーリズムのロシア」に対して祖国を防衛し、「民主々義的」ドイツが、「ツアーリズムのロシア」に対して祖国を防衛し、「民族の解放者」ロシアが、帝政オーストリーに対して祖国を防衛しなければならぬと観等は主張した。即ち社会民主党は、帝国主義戦争と帝国主義的平和と階級妥協とのプロレタリアートと勤労農民にとってより一層の苦しみをもたらしてゐる——と、他方勝利せるプロレタリアートの指導下に目覚ましき発展を遂げつゝある社会主義体制——そこでは七時間労働制、一週五日制、労働者のガウツキーは云つた。第二インタナショナルは平和な時の特徴だと。万国のプロレタリアートの団結として帝国主義戦争に反対し、ブルジョアジーに対して内乱を！

▼八月一日—国際的反戦デー……一頁
▼合同政党を粉砕せよ！……三頁
▼帝国主義の手先き婦人団体を排せ！……四頁
▼ソヴエート同盟並に革命支那への武力干渉、新帝国主義戦争準備の為の人事異動について……五頁
▼日本帝国主義の戦争準備と斗へ！……六頁
▼紙の火花……七頁
▼特別附録

第四十二号を読んで

××× ×生

み得る様以外の多くの人達が、當イヤニ第一頁に「編集部欄のスローガンを徹底する」と云ふ點の徹が缺けられて以來、一日も早く、兎の新しい政治的・組織的方針（戦略、戦術）が發表されることを衷心より望んでおるのを知つてゐるからだ。だから、此の論文（私とても敢えて載せて戴くのは、赤旗を読

得と教化の為に活動する。又そうした條件のない所では、大工場の労働者が多数居住してゐる地域、或ひは危險的な消費組合等を中心として地域的な組織として作るべきだ、と思ふ。鉄工場労働者の子弟である団員が工場所在地に遠い地区に住んでゐる場合、その団員はその住んでゐる地域のピオニエルに編入されても。その地域にピオニエルがない時には指導的団員の助力によつてそこへピオニエルを組織させる。ピオニエルの斗争は、小作争議、ストライキ、失業反対斗争、飢餓行進等への参加、学校・雑誌・スポーツ・ラヂオ等のブルジョアとの斗争、ブル少年団との斗争、斯かる斗争場面や通信連動による学校のブル教育のバクロは最も重要な斗争場面である。

団員中の優秀分子をクン練し教育して、街頭、学校等に於ける日常生活に於ける指導、危險的印刷物（紙芝居、少年戦線等）への通信の仕事、並に読書会による活動、スポーツによる活動、赤組織少年の獲得、ピオニエルの組織強の仕事をやらせる。この場合行パーセントに二九歳の少年の発言を尊重しなければならない。これ等の優秀分子は指導、指導の統一に全力を組織に、送られねばならない。

ピオニエルの組織的、政治的指導の仕事は、民青の指導下に全協及革命的反対派の青年部がタントウすべきだと思ふ。従つて、凡ての革命的青年部は少年係のセキ任者を送出すべきだ。

ピオニエルの中心であるセクからず四五才の少年の多数は御頭約（略、戦術）が發表されるこの時期に於て、此の論文（私とても敢えて載せて戴くのは、赤旗を読

第四十二号を読んで

技術員 ××子

云ふ迄ノ無く非常にいゝと思つた。大衆の中に根深く喰ひこんだ組織によつてのみ、にくい資本家地主を倒す事が出來るのだもの。

でも敵の現勢をもつて作られてゐるにも拘らず何時も予定の式に多数の同志が參加するのは何故でせう？

反ソヴエート戰爭、植民地搾取強化戰爭準備の先頭に立つてゐる。日本色帝国主義を倒せ！　日帝压迫されてゐるロシアの民衆をボリシエヴイキの手から救へ！　日帝侵攻の自由なき口を倒せ！　凸等々――史等が被壓迫民衆の合言葉だ。カウツキーはソヴエート同盟に於けるプロレタリア獨裁の目的を以て報道されにメンシエヴイキの行動を公然と支持した。日モスコーは血を祝してゐる凸と直接したドイツ社会民主党の警視総監ツエルギーベルは一九二九年五月一日にベルリンの革命的労働者を虐殺した。そして日本の社会民主党はこのツエルギーベル一派に警察の醉を送つた。印度の革命的労働者農民を虐殺してゐるマクドナルド政府は日本の社会民主々義者の日理想凸とする処である。中国プロレタリアートを圧迫してゐる蔣介石は日本の社会民主々義者にとつては日模範すべき同志なのだ。日東支鉄道を支那軍閥帝国主義者の――に売せ！　凸の攻撃をしたのは、それから闘志アニケーブの配撃に対して暗にファシストを支持したのも、更に又、日本帝主に対する労働者の要求をソヴエート同盟に反対させるために利用したのも、皆日本の社会民主々義者共だ。日帝国主義戰爭を対、ソヴエート同盟擁護凸のスローガンを掲げつゝある労働者大衆はソヴエート同盟に於ける解放された労働階級の現実を知ることによつてブルジョア独裁、プロレタリア独裁樹立の為の斗争に覚醒され、振ひ立つであらう。

吾国での八月一日は七月七日の所謂日公判斗争凸の継続として迎へられる。このことは吾々の活動をより効果的ならしめる。広汎なる労働者農民大衆を政治的大衆ストライキ、デモンストレーションへ組織せよ！

一、八月一日を政治的大衆ストライキ、デモンストレーションで斗へ！
二、階級同胞殺戮の帝国主義戰爭絶対反対！
三、寄生者と殺戮者の祖国擁護反対！
四、武力干渉の包囲からソヴエート同盟を守れ！
五、支那ソヴエート、赤軍を守れ！
六、満洲、朝鮮、台湾、中国から即時干渉軍を撤退せよ！
七、朝鮮、台湾等の植民地の完全なる独立！
八、ブルジョア地主による戰爭準備の共力者社会ファシストと決死的に斗へ！
九、祖国擁護の天皇主義者御党派を撲滅せよ！
一〇、白色テロルにはプロレタリア自衛団を以て答へよ！
一一、共産党員及び一切の階級的政治犯人を釈放せよ！
一二、革命的宣伝、煽動、組織並にその活動の自由のために斗へ！
一三、資本主義的産業合理化反対、失業反対！
一四、賃銀値下げを伴はざる七時間労働制万才！
一五、国家全額負担による失業保険の即時実施！
一六、天皇、大地主、寺社領土地の無償没収、土地を農民へ！
一七、寄生者と殺戮者に対する労働者、農民、兵士の階級的革命的同盟万才！
一八、労働者農民のソヴエート政府樹立のために決死的斗争へ！

のが凸危機凸社会民主々義者だ。又、日本のアナーキストも、各国の仲間と同様にソヴエート同盟に反対する。大きな成功――だが大きな困難と斗ひつゝ――を続けつゝある社会主義建設をへ！　凸帝国主義者共の解放を導くために必要なプロレタリア独裁を、労働者農民を指導圧迫してゐるブルジョア独裁と同一視して凸階級に反対凸等と称言をおつてゐるのがこの輩だ。

更に日本共産党から脱出した解党派も亦反ソヴエート勢力の一翼をなす。プロレタリアートの国際団結をブチコワしたり、凸日本民衆の利益（？）の為に植民地の必要（撤兵と流むべし）凸を唱へる彼等は亦明白に帝国主義戰爭を支持してゐるのだ。

かくて八月一日の反戰デーの中心任ムはソヴエート同盟の擁護である。そのことは必然的に一切の社会民主々ギ者、反革命的アナーキストに対する斗争を、このカムパーニアに於ける最重要任ムたらしめる。

凸ソヴエート同盟に対する戰爭準備や資本主義合理化反対、大規模失業反対・革命的組織々その活動の自由――等々の要求の下に広汎なる大衆を**政治的大衆ストライキ、大衆的街頭示威へ組織することは最重要の任ムである。そしてそれは今日の条件の下に於ては全く可能である。**二月二十五日、五月一日の教訓は八月一日に於て生かされ拡ばなら凸。

帝国主ギに対する斗争、ブルジヨア平和主ギに対する斗争、社会民主々ギに対する斗争の何れよりも、ソヴエート同盟に於ける社会主ギ建設の成功――はプルジヨア新聞ですら凸農村貧僧救理不可能凸と認めざるを得ない程苦境にあり、そこでの小作争議は今や一層暴力による土地の無償没収、土地を農民へ！　の方向に進んでゐる。ブルジヨア地主の攻撃は絶中日本共産党及その指導下にある革命的大衆組織に対して集中されてゐる。それは吾党及其等の革命的諸団体が日本のプロレタリアート及勤労農民大衆の最の要求を掲げて斗争してゐるからである。支配階級はかゝる革命的組織に対する決定的斗争によつてのみ日本の労働者農民の上に来る攻撃と弾圧とをつゞけ得る事を知つてゐるのだ。それ故に日本共産党に対する弾圧は日本の労働農民全体に加へられる弾圧に外ならぬ。

かゝる危機の下に迎へられる八月一日に際して、吾々は最も広汎に、凸下からの第一線凸の戰術を適用しなければならぬ。ソヴエート同盟擁護、七時間労働制、資本主義的合理化反対、大規模失業反対・革命的組織々その活動の自由――等々の要求の下に広汎な大衆を**政治的大衆ストライキ、大衆的街頭示威へ組織することは最重要の任ムである。そしてそれは今日の条件の下に於ては全く可能である。**二月二十五日、五月一日の教訓は八月一日に於て生かされ拡ばなら凸。

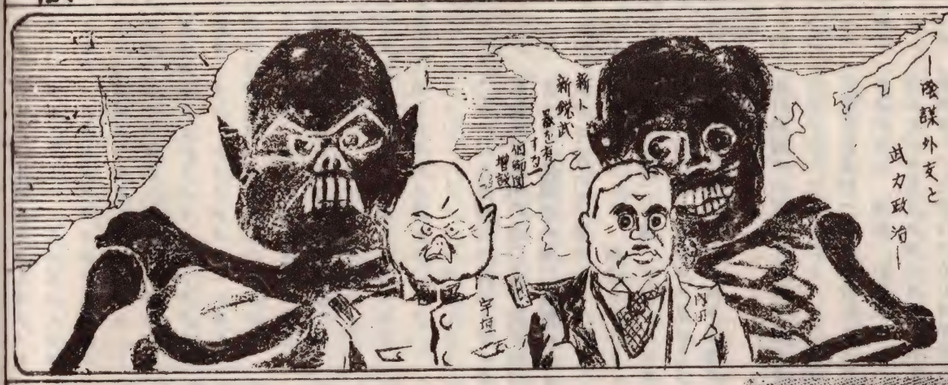
帝国主ギに対する斗争、ブルジヨア平和主ギに対する斗争、社会民主々ギに対する斗争の何れよりも、ソヴエート同盟に於ける社会主ギ建設の成功――

凸帝国主義の植民地の労働者農民の政治生活の向上――についての宣伝と密接に結びつけられ凸ねばならぬ。飢餓線上にある広汎な労働者大衆はソヴエート同盟に於ける解放された労働階級の現実を知ることによつてブルジヨア独裁、プロレタリア独裁樹立の為の斗争に覚醒され、振ひ立つであらう。

吾口での八月一日は七月七日の所謂日公判斗争凸の継続として迎へられる。このことは吾々の活動をより効果的ならしめる。広汎なる労働者農民大衆を政治的大衆ストライキ、デモンストレーションへ組織せよ！

一、八月一日を政治的大衆ストライキ、デモンストレーションで斗へ！
二、階級同胞殺戮の帝国主義戰爭絶対反対！
三、寄生者と殺戮者の祖国擁護反対！
四、武力干渉の包囲からソヴエート同盟を守れ！
五、支那ソヴエート、赤軍を守れ！
六、満洲、朝鮮、台湾、中国から即時干渉軍を撤退せよ！
七、朝鮮、台湾等の植民地の完全なる独立！
八、ブルジヨア地主による戰爭準備の共力者社会ファシストと決死的に斗へ！
九、祖国擁護の天皇主ギ者御党派を撲滅せよ！
一〇、白色テロルにはプロレタリア自衛団を以て答へよ！
一一、共産党員及び一切の階級的政治犯人を釈放せよ！
一二、革命的宣伝、煽動、組織並にその活動の自由のために斗へ！
一三、資本主ギ的産業合理化反対、失業反対！
一四、賃銀値下げを伴はざる七時間労働制万才！
一五、国家全額負担による失業保険の即時実施！
一六、天皇、大地主、寺社領土地の無償没収、土地を農民へ！
一七、寄生者と殺戮者に対する労働者、農民、兵士の階級的革命的同盟万才！
一八、労働者農民のソヴエート政府樹立のために決死的斗争へ！

一九、プロレタリア独裁のために斗争する唯一の党、日本共産党の旗の下に集れ！
二〇、吾等プロレタリアートの指導者――コミンテルン、プロフインテルン万才！



噫！吸血鬼・日・支・満・鮮に狂ふ！斬て！

くもまあエ、眺めぢやのう！

合同政党を粉砕せよ！

★

労農党、大衆党、社民党合同実現同盟の合同大会が来る七月五日開催さるる事に決定した。然しそれは今既成政党並びに党首問題でサテソレ、合同大会は延期の他あるまいと最近のブル新聞が報道してゐる。彼等にとつてはとにかくブル政党と同様に綱領政策はドウでもよいのだ。だからこの方面は一切論の余地を止めないで誰に早く決定されてある。吾々は日合同政党政策（草案）の中から八・一テーゼに関係あるものを取出して、この方面から合同政党の本質をバクロする。

「軍備の徹底的縮少
軍事費の徹底的削減
一切の帝国主義軍備撤廃！」

合同政党政綱（草案）の日軍政治の部

一項と「財政の部」項並に中心スローガンの第六項には夫々前記の如き政策がかゝげられてゐる。だが、これこそ「戦争に対する直接若くは間接の準備に他ならない」ところの「帝国主義者の『軍備縮少』の宣伝とおく同一だ。「それは帝国主義をテン護りすることなしに軍備縮少とかゝらゆる戦争の廃止とが実現され得るといふ幻想を大衆の間に広めることによつて「帝国主義者の最も重要な道具」たる役割を完全に果すものだ！合同政党が如何に巧妙的に見せかけようとも彼等は骨の髄まで社会民主々義だ！

合同政党が一日の延長であり社民党首安部磯雄に既に早くからかゝる意味に於て、軍備撤廃、軍備縮少の過程としての軍備縮少を要求してゐる。合同政党は全く彼らの労農大衆会民主々義者の本質をバクロし

シツポにツイズオしたのだ・日本帝国主義がだからヤンヤといつて彼等を賞讃してゐるのは当然だ。

★

吾々はハツキリ云はねばならぬ。

吾々が「軍備（徹底的縮少」や「軍事費の徹底的削減」を要求することは誤だ。それは日本帝国主義の戦争準備を助長することだ。それは日本帝国主義の戦争準備を助長することは誤だ。それは日本帝国主義の戦争準備を助長することは誤だ。それは日本帝国主義の戦争準備を助長することは誤だ。

吾々はハツキリ云はねばならぬ。軍備撤廃と戦争の根絶との唯一の方法はプロレタリアートの武装、ブルジョアジーの打倒、及びプロレタリアートの独裁の樹立に！それ以外にはない！

なんとならば「戦争は資本主義がある限りなくならないものだ。だから戦争の「絶滅」は、又、資本主義の絶滅、即ち資本家（搾取者）の階級の仆壊、プロレタリアートの独裁の樹立、社会主義の建設、階級差別の消滅によつてのみ可能である。他の総ての理論や提案は、どんなに「現実的」に見えようとも、たゞ搾取と戦争との体制を維持するための（即ち資本主義体制を維持するための）偽瞞

“ブルドッグ!!”

〜種類＝黄金色，アムステルダム種，一名ダッケン
〜価値＝軍事用，ストライキ破り用
番犬，其々

★

ソウエート同盟が口軍縮提出になした軍備縮少の提案、並にそれが斥けられた後の軍備縮少の提案は帝口主義者や社会民主々義者の提案とは根本的に相異する。それは帝口主義者と社会民主々義者の平和主義の仮面を剥いだ。「勿論共産主義者は誰一人帝口主義者がソウエート政府の提案を受け容れようとは信じなかつたとはえへ、この提案は少しも侵略的ではなかつた。それは全く真面目になされたのだ。何故ならそれは「帝国主義者の立場からしても事は出来ない。「帝口主義者「日本で政力掌握の為に斗ひつゝある多々プロレタリアートが軍備撤廃や軍備縮少を提起する事は間違ひだ！

「共産主義者は最も積力的な方法を以てソウエート政府の軍備撤廃の提案から引出される斯を誤つた結論、（帝口主義者「で軍備撤廃や軍備縮少を要求すること）即ちあの階級の革命的意味と「背駈せる結論に対して斗は絶対ならぬ。又、党自身の隊列内に於けるこの種の結論の傾向を容赦なく批判せねばならぬ。「（と同時に共産主義者はソヴエート政力の軍備撤廃政策はこれまでよりももつと積力的に、もつと広汎に煽動のために利用「しなければならない。）

それは「軍備撤廃」に関する帝国主義者の立場からしても事は出来ない。「帝口主義者「日本で政力掌握の為に斗ひつゝある多々プロレタリアートが軍備撤廃や軍備縮少を提起する事は間違ひだ！

「共産主義者は最も積力的な方法を以てソウエート政府の軍備撤廃の提案から引出される斯を誤つた結論、（帝口主義者「で軍備撤廃や軍備縮少を要求すること）即ちあの階級の革命的意味と「背駈せる結論に対して斗は絶対ならぬ。又、党自身の隊列内に於けるこの種の結論の傾向を容赦なく批判せねばならぬ。「（と同時に共産主義者はソヴエート政力の軍備撤廃政策はこれまでよりももつと積力的に、もつと広汎に煽動のために利用「しなければならない。）

★

ソウエート同盟が口軍縮提出になした軍備縮少の提案、並にそれが斥けられた後の軍備縮少の提案は帝口主義者や社会民主々義者の平和主義の仮面を剥いだ。「勿論共産主義者は誰一人帝口主義者がソウエート政府の提案を受け容れようとは信じなかつたとはえへ、この提案は少しも侵略的ではなかつた。それは全く真面目になされたのだ。何故ならそれは「帝国主義者の立場からしても事は出来ない。「帝口主義者「日本で政力掌握の為に斗ひつゝある多々プロレタリアートが軍備撤廃や軍備縮少を提起する事は間違ひだ！

「共産主義者は最も積力的な方法を以てソウエート政府の軍備撤廃の提案から引出される斯を誤つた結論、（帝口主義者「で軍備撤廃や軍備縮少を要求すること）即ちあの階級の革命的意味と「背駈せる結論に対して斗は絶対ならぬ。又、党自身の隊列内に於けるこの種の結論の傾向を容赦なく批判せねばならぬ。「（と同時に共産主義者はソヴエート政力の軍備撤廃政策はこれまでよりももつと積力的に、もつと広汎に煽動のために利用「しなければならない。）

★

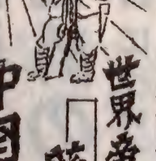
大日本帝口主義のソヴエート同盟・革命支那に対する武力干渉と新帝口主義盗賊戦争の準備をインペイし、労働者農民をボマンする合同政党の「軍備の徹底的縮少」「軍備の徹底的削減」の政策を粉砕せよ！

大天皇・資本家地主の御用へであり、労働者農民の最悪の敵である合同政党を粉砕せよ！

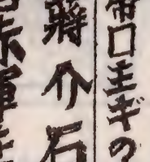
大プロレタリアートには武装が必要だ！

大日本帝口主義を打倒せ！

大プロレタリアートの独裁を樹立せよ！



世界帝口主義の手先き
蒋介石を打倒せ！
中国赤軍を援助せよ！



附記

この論文は便宜上、ゴミンテルン第六回世界大会のテーゼ「帝口主義戦争に対する斗争と共産主義者の任務」に従つて書かれた。このテーゼは今日まで決して日本プロレタリアートの眼に触れさせられて居らぬ。この故に吾々は固も誤解がこの重要なテーゼを根底的に吾の物とすることを要求する。このテーゼはのなり抵抗なもので魂も心でも相当困難であらう。だが、同志諸君！共産主義者は困難だからとあつて重要不可欠の任務を指導してはならぬ。此テーゼは一九二九年三月号インタナショナルにのつてある。

アメリカその他の帝口主義諸国の労働者農民大衆は、蒋介石が、各帝口主義国に二百万元余の軍資金と軍器との交換を受けて「三ケ月以内に必ず共産軍を殲滅せん」と豪語して「花々しく

出征した。

日本の革命的労働者農民諸君！

ソヴエート支那の赤軍を援助せよ！

最近中国共産党の組織が次々に破壊され、輝ける指導者が続々と敵の手に奪はれて斬首されてゐるが、その多くは、実に日本のスパイの活躍の結果だ！中国革命の成功は直接朝鮮台湾の革命を賛すばかりでなく、日本帝国主義の一方の足（一方の援軍）を切り捨ふものであり、日本の革命を招来するものだ！日本帝国主義はこの関係をよくハッキリと理解してゐる。さればこそヒソカに数万人の陸海軍の精鋭や有能なスパイや支那浪人共を莫大な費用を出して中国各地に送り込み、共産軍討伐の指導と革命的組織破壊のためのスパイをやらせてゐるのだ。最近では英・米・仏等の官憲がこれに共ガレ始めた。中国共産党並に中国の革命的労働者農民は、支持通り、全世界の帝国主義の包囲攻撃の中にある。而も今日、破竹の勢で赤軍は前進し、ソヴエートは拡大強化しつゝあるのだ！　共産主義に断乎として反対する社民党。帝国主義の手先き蒋介石と手を握つてゐる大衆党。支那革命、朝鮮台湾の完全なる独立に反対する解党派等の社会民主々義を撲滅せよ！中国から軍隊・スパイの即時撤退を要求せよ！中国の革命的労働者農民に突き銃をさしのべろ！プロレタリアートの国際的連帯性を発揮して立て！日本帝国主義を仆せ！

ソヴエート同盟並に革命支那への武力干渉・新帝国主義戦争準備のための人事異動について

ソヴエート同盟並に革命支那に対する武力干渉と新帝国主義戦争の準備に、双方が文字通り必死になつてゐるからこそ、世界帝国主義（その最も弱き一環たる日本帝国主義）は今未曾有の危機に当面してゐるのだ。双方は今や戦争と革命の時期に着々と準備しつゝあるぞ！！実に周到な、統一的な準備を。水ももらさない準備を。

日本共産党・中国共産党・朝鮮共産党等を先頭とする被圧迫民族の革命的労働者農民を日本帝国主義が徹底的に弾圧しつゝあるのもその一つの表れだ。

日本帝国主義ブルジョアジーは、一切の叛逆の芽を動員して、ソヴエート同盟、ソヴエート支那並に各共産党に対するデマを飛しつゝ、猛に軍備をアフつてゐるばかりでなく、組合、新聞、雑誌等と結託して、ソヴエート同盟と革命支那に対する軍事的侵略と新帝国主義戦争の危険は刻々に迫りつゝある。

労働者・貧農・兵士・植民地半植民地の民衆諸君！

ダマされてゐてはならぬ。ウツカリしてゐる時ではない！

立て！準備せよ！

ソヴエート同盟・革命支那の勤労者に対する戦争を日本の帝国主義ブルジョアジーに対する内乱に転化するために。

新帝国主義戦争反対——帝国主義戦争（階級同胞のサツリク戦争）が勃発した時は、之を日本帝国主義ブルジョアジーに対する内乱に転化するために——日本帝国主義政府の敗北のために。

「階級対階級」の戦争にプロレタリアートと貧農の同盟軍が勝利するために。

即時準備活動に入れ。工場・農村でそのための煽動宣伝をモウレツに展開せよ！特に軍需工業・交通運輸産業の労働者並に兵革水兵・学生青年の間での煽動宣伝組織が重要だ！！

帝国主義ブルジョアジーの準備は実に周到だぞ。

階級敵に負けるな！

否、断じて勝たなければならぬ。

★ ★ ★

★★★

日本帝国主義の戦争準備と斗へ！

（一）

若槻民政党政府は、最近満蒙総督、朝鮮総督の更迭を断行し、日これを一転機として、わが対満蒙政策を更新すべしと伝へられてゐる点に対し、同じく帝国主義ブルジョアジーの政党政友会は「対露支軟論シテハ八ラ外交ヲ攻撃シ」田中の満蒙積極政策を別の衣を着せてかつぎ出した。

一切のブル新聞は「我国の生命線へ!!」たる満蒙の特殊性の再認識」を帝国主義政府並に忠良なる国民（!?）に煽動宣伝してゐる。「我国の生命線」なる表現は日本帝国主義が如何に満蒙を重要視してゐるか、如何に満蒙を中国の一部と考へないで日本の一部と考へてゐるかを如実に示してゐる。

「満蒙政策を以て対支外交の一部となすべきことは、たゞに、認識に於て不十分であるのみならず、また実に容易ならざる困難の外交といはなければならない」「一般国民も余りに満蒙政策に対して冷淡になつたと思ふのである。満蒙政策なるものが、わが国防構立の根本をなすものである」

だから。

「現在重要問題とされてゐる陸軍々備の制限縮少の叫びも一越して満蒙政策を中心にして製出さるべきものであらう。」と三井の新聞報知と共に書き立てゐる。これが三井系の満蒙に対する認識であり、要求である。

（二）

さればこそ、南陸相、金谷参謀総長、武藤教育総監の陸軍三長官会議が、以上のやうな帝国主義ブルジョアジーの政策を実現するために二つの重要な決定をした。

（一）「満蒙権益擁護の国策に鑑みて、一朝有事の場合最も迅速なる行動上の効果をおさめるためには、この際、朝鮮北部に永久的なる施設を行ふこと」即ち「朝鮮は内地師団或いは相当部隊を移動する」といふのだ。

宇垣総督の説明を聞くと、これは「純然たる国防上の見地に基く意見である」即ち従来満洲方面に兵を動かす場合は常に内地から出兵して来たが、かゝる方法は時机を失する恐れがあるのみならず、世間に大ゲサにひゞく嘸がある」からだといふのだ。なんの事はない、ソヴエート同盟、革命支那に対する武力干渉と新帝国主義戦争を「最も敏速に」「而も」コツソリ」とやらうといふ根性だといふのだ。

（二）、「我国権益の二大目標には「世界に冠たる陸海軍を有する五々」といふ根拠が、

有、「航空部隊、戦車隊、高射砲隊、飛行機隊その他各兵種の最新兵器拡張」

口、「新機化兵団の試験部隊、化学戦部隊の拳幹部隊・装甲自動車隊その他の新設」

八、「自動兵飛隊に於ける一個大隊を駆逐砲隊に更新すること」

等の編成上の具体的改正を計画した。即ち強盗強姦と内乱のために戦争の技術化・化学化を実現しつゝあるのだ。

彼等は「財政難もさることながらそれよりも重大な「軍紀の危機」の発生刷新の為には、節約どころのさわぎじやない。もつと〳〵軍費を増して欲しいと云ふのだ。

（三）

日本帝国主義者はどこと戦争を始めるにしても、眞先きに満蒙を占領するといふ戦略だ。だから、陸軍大学の試験には「如何にして一週間の間に、北支那満蒙を征服するか」といふ問題が出されるも。日本帝国主義者は、ソヴエート同盟と革命支那が複雑の仮想敵国だと公言してはばからない。

否、公言してはゞからないばかりではない、今日、現実に、この面目に対して武力干渉を強化しつゝあるのだ！

彼等は「日現下極東危局の重大性」を強調し「非常の決意を要す」と「ロユツに戦争を煽動してゐるのだ！

一銭の軍費も出すな！

一人の兵士も送るな！

三井三菱・住友等の大金融資本の利益ヨウゴのための帝国主義的侵略戦争のためには労働者を貧農は一切の犠牲と血税（兵役）に反対せよ！

帝国主義者兵のためには何一つするな！

資本の圧迫からの解放のために勇ましをつくせ！

鉄の火花

軍隊内の活動について

東京××鉄工所　石部生

(一)

軍隊内の活動が重要視のは只軍隊が戦時民は革命的危機の場合に軍隊を味方にすると云ふ意味に於てのみではない。階級斗争が増々尖鋭な形態を帯びて来てゐる今日の段階にあつては、大きな労働争議ストレーション組織等の場合に軍隊が出動するのである。一九一七年二月の足尾銅山坑夫三千名蜂起の時に三ヶ中隊、全年六月別子銅山争議の時に数ヶ中隊が動員され、米騒動の時には全国に亘つて軍隊が動員された。一九二一年七月の神戸三菱、川崎の大争議の時には陸軍一ヶ大隊と、海軍陸戦隊が労働者に対立し昨年以来大工場の大衆的闘首の場合には常に憲兵軍隊が動員されてゐる。今、川崎造船所の紛糾に際しても、数百一ヶ中隊程が憲兵と巡査と協力して「警戒」してゐる。又宇部の（年代は記憶にないが）労働争議の時には機関銃が乱射されてゐる。かくの如き事実こそ軍隊の階級的性質をよくバクロしてゐる。それ故に軍隊内の活動、兵卒・水兵と斗争してゐる労働者農民大衆との交歓の問題、協力して旗の故に当るといふ問題、今日既に切実な問題として日程に上されてゐる。我々が階級斗争の尖鋭化を正当に評価して日本では偉大なる階級戦にとつての前提条件が急速に成熟してゐる（プロフィンテルン決議）ことを認めるならば——我々はそれを認めてゐる——軍隊内の活動、只に内部に限らず軍隊に対する我々側からの働きかけ、党細胞の建設、拡大の問題はより現実的なものとして取扱はれねばならぬ。日先大隊は絶対多数が「軍服を着た労働者農民」であること、従つて才二に兵卒の大多数は直接出身地の階級斗争に関係を有すること。以上のことがらをよく理解してゐなければならぬ。かく見来る時に我々は「何を示すべきか？」に答へる糸口を見出す。兵卒、水兵の間に階級斗争の重要を知らせてやること。出来るだけ出身地に於ける階級斗争の重要を挙げ　それと軍隊内の生活と結びつけて説明すること——かくすることに依つて、労働者農民の下からの共同的斗争の心要を理解させること。而してこのことはブルジョア軍隊の斗争力を瓦解させることになる。

此の方面に於ける党及共産青年同盟の活動は最も積力的に行はれねばならぬが、例へば(イ)争議団側から大衆的に軍隊を訪問し直接兵卒と話し合ふこと。(ロ)出身地農民組合から出来るだけ多くの代表を軍隊に派遣すること。(ハ)労働組合と農民組合と協力すること。(ニ)争議の起つてゐる地方の軍隊を大衆的に訪問すること。(ホ)兵卒の休み時間を利用して労働者との共同的懇談、演芸会等を催すこと。(ヘ)訪問の場合は協調的な言葉を振り廻すのではなく、資本家地主官憲の暴挙をありのまゝに話しすること等々が必要である。今迄の如く只単に動員されてゐる軍隊に向つてビラ、檄文の撒布だけでは全然不十分である。我々はもつと前進しなければならぬ。

通常労働争議、小作争議鎮圧の場合動員される軍隊はその斗争が起つてゐる土地の軍隊ではないに遠方から呼び寄せられる。例へば岐阜の農民の暴動の時には敦賀、京都等から今回の川崎造船所の場合は、高知から又は姫路から等の如くである。何の為にさうするかは明瞭である。兵卒の多数は農民である。同一地方に於ける軍隊を出動さすことは鎮圧の目的を達し得ないからである。所謂「士気が振はないから」である。だから我々は以上の如き活動をしなければならぬ。斗争が起つてゐる地方の軍隊に押しかけ、（大衆的訪問）で兵卒と親しく語り合ふことの必要は勿論云ふまでもない。我々は出来る限りかうした機会を巧妙にとらへて軍隊内で兵卒が自らの集会を持ち得る自由を獲得——力に依つて——しなければならぬ。平服の労働者農民と「軍服をつけた労働者農民」との交歓こそが我々のとるべき最も有効な戦術であり、正しい戦術である。このことなしには我々は「武器を手にせる労働者農民」をしてブルジョア地主打倒の為に向けさせることは恐らく不可能である。

(二)

此の見地からすると、先づ我々は当面してゐるストライキ、又は小作争議等の鎮圧の為に動員されてゐる軍隊に対してどう働きかけるかの問題を取扱はねばならぬ。（勿論私はこれからあれ、あれからこれといふ工合に機関を段階的に図解式に扱ふといふのではなく、只便宜上この問題を先にしたのである。）斗争しつゝある労働者大衆に向つて、「軍隊の階級的性質のバクロし丈けでは何もならぬ。「軍隊が出動する時に、労働者はより一層かたく斗争心をかためるし云ふ同志もあるが、それは一面的な見方である。我々は軍隊の階級的性質をバクロすると同時に、軍隊成員の絶対的多数が「軍服を着た労働者農民」であることを大衆に理解させ、大衆と大衆との下からの共同戦線を成功的に樹立すべく努力しなければならぬ。我々は「組織された正規軍に対して極力それを以て向ふ」の愚を犯してはならぬ。軍隊と斗争するといふことは、——特に今日の場合、労働者農大衆が何等の武器、大衆動員といふこと以外の）を持たない時に——才一に軍隊の斗争力を破壊することだ。シベリアへ出兵した日本軍隊の敗北は赤衛軍の武装力が、日本軍に勝つてゐたわけではない。日本陸軍当局が正当に認めてゐる如く「赤化宣伝」即ち労働者農民大衆が戦争の意義を理解さす為の活動が精力的に行はれたことに依存した。又赤衛軍が反革命軍との斗争に於て破竹の勢で勝利を得たのは赤衛軍が労働者農民大衆の利益を擁護する唯一の軍隊だからに外ならぬ。去る東支争件の時ソヴエート同盟軍の為に捕虜となつた支那軍の兵卒は余りにも赤衛軍の兵卒の生活状態がいゝのと捕虜に対する待遇が好いのとで、彼等は事件解決後も支那に帰るのを肯じなかつたと云ふことである。このボルシエビキー的戦術こそ我々が学ばねばならぬものである。

では、ストライキ、小作争議等の場合、如何にして軍隊の斗争力を破壊するか？　もつと正確に云へば、斗争鎮圧に向けられた軍隊をして彼等が本来の目的を達し得ない様に瓦解さすにはどうするか？　才一に考へねばならぬことは軍隊の行動は武器を持つてゐるといふ丈けでは本可能だといふことだ。一致せる行動の為には観念的にもその行動を是認してゐなければならぬといふことだ。才二に軍

國際反戰デー8月1日がやつて來た!!..
軍隊の兄弟達は立つて居るか?……

(三)

新しい武器毒ガス等々の発明、階級斗争の激化は戦争の戦術、ブルジョア軍隊の構成等に大きな変革を要求してゐる。日本の支配階級は「日民総動員」を幾度か試みた。そして軍隊の強力なる護衛隊として青年団処女会アシスト団体少年団等を組織し「恐るべき銃戦」を行はんとしてゐる。ブルジョア軍隊の持つ階級的構成はブルジョアジーにとつて最後まで信頼し得るものでなくなつてゐる。日本の支配階級はヨーロッパに於ける革命の至験をとり入れて最後まで信頼し得る軍事専門家、将校、下士等の養成に全力をあげてゐる。ブルジョア大学、高等、中等学校に於ける軍事教練はこのことの露骨な表はれである。又、忠君愛国主義、排外主義、日本主義の勢力的宣伝、ファシスト団体の組織、社会民主々義者に依る労資協調主義の唱導、ブルジョア自由主義者に依る平和主義と妥協なセンチメンタリズムの唱導、全て是等は来るべき戦争への準備である。故に吾々が軍隊への働きかけを真に重要視する以上是等の毒素に対する徹底的斗争が行はれねばならぬ。

工場内、職場内、農漁村に於ける階級斗争の現実はブルジョア地主側からの為される是等の毒素をバクロし、それに対して斗争を組織する幾多の好条件を具有してゐる。軍隊内への働きかけは、かくて軍隊外に於ける活動と密接に結びつけられねばならぬ　党、青年同盟の組織は云ふまでもなく革命的労働組合農民組合は一定の人々を軍隊内に送られた人々との定期的連絡者としての仕事を負はせて活動させねばならぬ。一人でも知つてゐる兵卒があつたらそれを通じて他の多くの兵卒とも知り合ひになり、出来る丈け平易に階級斗争の事実を——出来る丈け兵卒出身地の事情を結びつけて——話してやらねばならぬ。兵卒の生活とはとびはなれた革命的言辞を弄するものではなく生活に即した事実を指摘してやり、兵卒の最もよき相談相手たるべく努めねばならぬ。一人でも様に活動するならば、我々は軍隊内に階級斗争を大衆的に持ち込む事が容易に可能になるであらう。支配階級は軍隊内に「世間の風」が吹き込むことを非常に怖れてそれを防ぐ為に苦心してゐる。故に我々は以上の如き活動を出来得る限り公然と大衆的に組織的に計画的に敢行しなければならぬ。今日までに我々は数兵週酔者会議、入営兵を送る会等を開催した経験を持つてゐるが、是等の経験の上に立つて我々は更にこの事の延長としての「兵卒との定期的連絡」に

まで行かねばならぬ。「仏作って魂入れず」――おいそして余りいい言葉ではないが――といふことに終ってゐた今までの不充分を改めねばならぬ。入営前に於ける有等の同の積極的活動と入営後に於けるかくの如き活動は、今日まで非常に困難――殆ど不可能とすら――と考へられてゐた軍隊内の活動を比較的容易になし得る。

（四）

最後に兵営内軍隊内の活動について一言する。何卒に於ける活動に於てもさうであるが軍隊内に於ては特に我々の同志に一般に兵卒水兵の信頼を得、彼等の間に於ける权威を確保しなければならぬ。自分独りで奇抜なことをやったり、過激なことを叫んだりして兵んでぶるといふ様なプチナーキスチックな自慰的行動は排しなければならぬ。あくまでも兵卒大衆と共にありそれの先鋒に立ってゐなければならぬ。出来得るならば軍事に於て体術に於てスポーツに於てその他生活面内に於ける全てに亘って我々の同志は兵卒の組織者たらねばならぬ。要は如何にして大衆と結びついてゐるかにある。工場よりも軍隊内の兵産主ギの宣伝と軍隊細胞の結成とは特別厳重に取締られる。だから我々の細胞は軍隊外に於けるそれよりもっと厳密に守られ非合法的活動も余程巧妙に行はねばならぬ。我々がコソコソとした態度を改めて公然と活動するならば比較的巧みに非合法活動をなし得る。

軍隊の中では特にソヴエート同盟赤衛軍の兵士の生活、ソヴエート中国の赤軍の話、植民地における日本軍隊の暴虐振り、又遠くはシベリア駐屯中に日本軍隊が行った惨虐――例へば婦人の乳房を一つ一つ切り落したとか、婦人を強姦したとか口シア人労働者の両足を二頭の牛に縛りつけて引き裂いたとか或は又五寸釘で労働者をハリツケにしたり、男の生殖器を切ったりしたとか云ふ色々な惨虐な事実を話しそやることが必要である。労働者勤労農民の実際生活問題をありのままに話すことは最も必要である。

兵卒新聞の発行は特に重要である。この仕事は兵営所在地の党及青年同盟の組織の積極的援助を必要とするであらう。我々は軍隊内の組織は単一であるべきこと即ち党細胞一つであることを主張する。それは軍隊の持つ特殊的事情に依るものである。

軍隊に対する働きかけの問題は私が此で述べた丈けで全部なのではない。私は只かくの如き問題が多くの同志達に依って往々閑却されてゐるが故に若干の意見を述べたにすぎない。それと共に私は我党の政治テーゼの中に右に述べた意見の内容を是非補足さるんことを提議も同志達も亦これに賛成されんことを希望する。

一九三一・六・二〇・

戦争の危険性の切迫に就て

東京××鉄工所 石部生

（一）

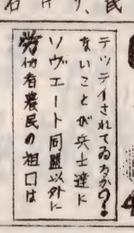
我党中央機関紙「赤旗」に発表された政治テーゼは国際情勢を評価してゐるが、その中では特に対帝国主ギ戦争――就中反ソヴエート同盟戦争――の危険が現実に日程として上されてゐることを強調してゐる。私の考によればこのことは全く正しい。全世界の帝国主ギ者共は各々自国が当面してゐる経済的危機――ドイツポーランド等ではそれが急速に政治的危機への武装基礎となってゐる。――を切り抜けるべく新しい市場、新しい領土、新しい原料産地、新勢力地の獲得を目指して斗争してゐる。断末魔的資本主ギ諸国間の闘争は武力による戦争と赤の他へではない。「戦争は形の変った政治である」といふ定式は今日特に明白となってゐる。各帝国主ギ者共の此の危機切り抜け策は世界が既に列強国間に分割されてゐる結果として、必然的に世界の再分割という問題にぶつかる。而して此の再分割は武装された力と力との斗争によっての み解決されるのである。英米仏独伊日英米等々の相互間には各々この新しい戦争に対する準備が行はれてゐる。

偖し乍ら世界には資本主ギ体制のみではない。そこには勝利せるプロレタリアートに依って建設中の巨歩を踏みしめてゐるソヴエート同盟が存在する。――社会主ギ体制がある。矢張と飢餓貧困と呪咀とに取り巻かれた産業奴隷のあらゆる戦慄状態を現出してゐる諸者と日テンポに於て前古未曾有の生産の増大大発の物質的文化的生活水準の改善計画経済の偉大なる勝利発

業の一部とせんとする職百万人衆の生産への吸収社会保険に対する支出の増大中農大衆の社会主ギへの離脱農業の社会主ギ的改造（雑誌インタナショナル五月号）等々を有する後者との対立は益々尖鋭となってゐる。国際ブルジョアジーはソヴエート同盟に対する社会主ギ定義の成功の中に偉大なる強敵を見出れを帝国主ギ各国内に於ける革命運動の重大なる機材として恐れる。故に今自己の明日の生活を信じないブルジョアジーは各国のプロレタリアート及び農民の基本大衆に対するファシスト的攻撃武装的植民地的御用党の線に沿って軍事戦争の準備及ソヴエート干渉の中に恐慌からの出口を探し求めてゐる（四月上）のであり、彼等相互間には激化せる対立関係を有しつつも、ソヴエート同盟に反対する斗争に於ては一致して当ってゐる。

ソヴエート同盟の労農政府は常に平和政策を実行して来たし、且今日も尚実行し続けてゐる。世界中で実践的に真に平和政策を採用してゐるのは労農階級が権力を握ってゐるソヴエート同盟あるのみである。帝国主ギ列強は或は直接に或は間接にソヴエート同盟と戦端を開くべく挑戦した。世界軍縮会議に出席せるソヴエート代表の暗殺、ポーランド駐在ソヴエート大使館志ソカイコフの暗殺駐日ソヴエート通商代表団志アニケーフの狙撃ポーランドルーマニア等に於ける小戦争、東支鉄道を中心とせる支那軍閥の軍事行動等々。又秩序は日本帝国主ギ――ソヴエート同盟の存在を云々して労働者農民大衆の間に反ソヴエート熱を煽り、或は又日ソヴエート同盟内に於ける家族圧迫に反対するふといふ名目でローマ法王を表面上先鋒とする反ソヴエート運動や日今日の極東危機はソヴエート同盟がダンピングするからだ叫といふ見え透いた云ひ草の下に日本帝国主ギ――日本をも含む――の何れに真の強制労働がかあるのかは以上の事柄でハッキリと分るではないか。問題は単に個々の部分的現象から見るのではなく、階級的に労働階級と資本家階級とをふ立場からのみ見られねばならず、又さうした時にのみ正しい結論が生れるのである。かくて国際ブルジョアジーが斉へ投げ出した切り札も永無効となってゐる。

反ソヴエート同盟煙幕を張る時、吾々は社会ファシスト共の役割を忘れてはならぬ。社会民主ギ者のの「最も翼ヒバウル・レベイは云ふ「私は革命部に於ても国防を擁護するかの？それともプロレタリアートへ奴力が掌握した後に於てのみ国防を望むものか？」これに対して次の如く云は奴はならぬ。社会主ギ者は常に国防を望んでゐるのだ！」（月上九月頁）即ちブルジョア地主の口を守れと叫ぶのだ。だが吾々は何も外国の社会民主ギ者を引合ひに出さなくとも可成にゐる日本の社会民主ギ者を見ればこれで沢山だ。支那の革命的労働者農民を大衆的に殺戮した蒋介石に援助しに行ったのは社会民主党の指導者であった。又東支鉄道事件の時に支那軍閥に屈押しをし日本帝国主ギ者の顔色をうかがひつつ「東支鉄道を支那へ返せ！」と云ふ決議文を採用したのも社会民主党である。同党及国際同盟の機関紙等が常に反ソヴエート運動をやってゐることは周知の事実だ。では左翼面をしてゐる全国大衆党や大山労農党はどうか？過ぐる才五十九議会で「我等の労農ロシアと云ふ不穏の言葉」を濁し、議会で取消したのは、今、アメリカくんだりへ投ざらしに行ってゐる



テッテイされてゐるかの？ないことが兵士達ドソヴエート同盟以外に労働者農民の祖国は

ゐるの？の陰謀がバクロされてんとするブルジョアジー

ストライキ、暴動を他

賃金の祖国の労働者に比して比べ物にならぬ程好いことをよく知ってゐるのみでなく、我日本に於ける労働時間が多くは九時間乃至十二時間であることを経験してゐる。漸がソヴエート同盟では一九三一年度には工業全部――抗内労働大時間は悉く一週五日制が実施されてゐる。しかも労働賃金は低下されないのみかむしろ値上げされてゐるのだ。これを日本の「時間短縮」と比べて見よ！。そこには必然的相違が一目で分るではないか。ソヴエート同盟では労働力の不足が叫はれて――失業者がゐないのだ！――ゐる時「自由の口」資本家が支配してゐるところで仕ることが出来ずに餓死を待ってゐる労働者が三千五百万人以上もゐるのだ。「仕かざる者は食ふべからず」をソヴエート同盟「仕く者は食ふべからず」を原則とする資本主ギ諸国――日本をも含む――の何れに真の強制労働があるのかは以上の事柄でハッキリと分るではないか。問題は単に個々の部分的現象から見るのではなく、階級的に労働階級と資本家階級とをふ立場からのみ見られねばならず、又さうした時にのみ正しい結論が生れるのである。かくて国際ブルジョアジーが斉へ投げ出した切り札も永無効となってゐる。

反ソヴエート同盟煙幕を張る時、吾々は社会ファシスト共の役割を忘れてはならぬ。社会民主ギ者のの「最も翼ヒバウル・レベイは云ふ「私は革命部に於ても国防を擁護するかの？それともプロレタリアートへ奴力が掌握した後に於てのみ国防を望むものか？」これに対して次の如く云は奴はならぬ。社会主ギ者は常に国防を望んでゐるのだ！」（月上九月頁）即ちブルジョア地主の口を守れと叫ぶのだ。だが吾々は何も外国の社会民主ギ者を引合ひに出さなくとも可成にゐる日本の社会民主ギ者を見ればこれで沢山だ。支那の革命的労働者農民を大衆的に殺戮した蒋介石に援助しに行ったのは社会民主党の指導者であった。又東支鉄道事件の時に支那軍閥に屈押しをし日本帝国主ギ者の顔色をうかがひつつ「東支鉄道を支那へ返せ！」と云ふ決議文を採用したのも社会民主党である。同党及国際同盟の機関紙等が常に反ソヴエート運動をやってゐることは周知の事実だ。では左翼面をしてゐる全国大衆党や大山労農党はどうか？過ぐる才五十九議会で「我等の労農ロシアと云ふ不穏の言葉」を濁し、議会で取消したのは、今、アメリカくんだりへ投ざらしに行ってゐる

河原地三という全日大衆党の代議士だ。帝国主義戦争支持、ソヴエート同盟を守れというスローガンを口や紙の上だけで云ひ乍ら何故にさうすべきかという根本的問題を沈黙してゐるのが大山労農党である。彼等は資本家階級と次定的に手を切り得ないものなるが故に帝国主義ギロとソヴエート同盟との根本的矛盾を説明し得ないのだ。右翼は云ふまでもなく『左翼』社会民主々義者も赤反ソソヴエートカンパニアのチャンピオンである。

政治テーゼが帝国主義戦争の危機が今日目程に上されてゐることを指摘しそれが就中反ソソヴエート戦争であることを強調してゐる点に私は全然賛成である。

(二)

然らば来るべき戦争に対して我々共産主義者は如何なる態度をとるべきか？ 我々は戦争一般に反対するか？ 平和主義者は答へるも勿論！ と。我々共産主義者は答へる。否！ と。何故に？

社会民主々義者は戦争一般に反対するかの

赤旗
第46号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼川崎造船所の爭議に就て……一頁
▼㊀土地を農民へ！㊁のスローガンに就て……三頁
▼アルメニア農民の為に工場労仂者を使嗾としてソヴエート問題に迄る……六頁
▼斗士養成の問題について……七頁
▼工場内出版物の交換について……八頁
▼大阪市電員會の活動はスバラしいぞ！……九頁
▼紙の火花……一〇頁
▼特別階級——新聞紙を粉碎せよ！……（一〇頁）
▼附錄——

川崎造船所の爭議に就て

（一）

経済危機は、直接消費者と多くの場合、密接な関係を有する軽工業界の不振となつて現はれた。それがこの危機は、それが深刻化すると共に、生産手段を生産する重業方面に必然的に波及する。今回の経済危機は正に如くの如き過程を歩んだ。ドイツ、イギリス、等々に於て、そうであつた如く、我日本に於てもまたうした途を辿つたのである。

改良主義的組合の裏切的指導者共は、口を揃へて叫んだ「経済危機の折にストライキをやると共倒れになるから、労仂者に不利である。危機の時には労資協力して不況打開策を講じなければならぬ」と。しかし、彼等——それから資本家——にとつて不幸なことには、この勇敢（？）なる叫びにも拘らず、労仂者大衆は斗爭へと起ち上つた。一九二九年に全結頼産業を捲き込んだストライキの波は、一九三〇年に至つても、その凄じさを減じなかつた。それはやがては全國重業の一部、交通産業——特に大都市電車、乗合自動車——を覆へ、一九三一年に入り、益々その勢を大にして来てゐる。是等の事実は、一方に於て、改良主義的幹部並に右翼日和見主義者のふり「不況時代に於けるストライキの不可能」を根底から覆すと共に、他方では、労仂者大衆の間にある偉大なる革命的エネルギーの発露を示すものである。

事実に於て、——欧洲でもアメリカでも、そして日本に於ても——ストライキ、爭議は、危機が最も強く襲つてゐる産業部門に起つてゐたし、且つ、今日尚、そうである。是は何人も覆し得ない厳然たる事実である。吾々は、この事実の中から、㈠又に不景気の時にストライキを組織することは可能なばかりでなく、必要であるを知るのみならず、㈡資本家階級の行ふ危機切抜け策が、労仂階級の斗爭に対して如何に無力であるかを知るのである。

経済危機の深刻化、階級斗爭の激化、新しい帝国主義戦爭の危険性の切迫——こうした時に日本有数の造船所たる神戸川崎造船所で爭議が起つてゐるのである。

（二）

川崎造船所が軍事工場であることは既知の事実である。故に工場側から、労仂者に対する全ての攻撃の場合には、会社と他工場よりももつと緊密に団結して結びついてそれを行ふのである。先年三千人の労仂者を馘首する場合には三ケ中隊の警官を派遣して「厳重警戒」した。今回も亦既に五月末から當局から歩兵隊を呼び寄せて「不穏の行動に出ない様に」、「軍艦の機関の滅れる音を防ぐ為め」に警戒をさゝ〳〵怠りなかつた。

最初会社側は五月三十日を期して職工を解雇する予定であつたが、準備が整はないので、労仂者大衆は、それに反抗して斗爭に立ち上らざるを得なくさせられてゐることをも忘れてはならぬ。

経済危機と資本主義的合理化に依つて絶頼へ投げ出された失業者群は、我日本に於てもまたうした途を辿つたのである。

改良主義的組合の裏切的指導者共は、口を揃へて叫んだ「経済危機の折にストライキをやると共倒れになるから、労仂者に不利である。危機の時には労資協力して不況打開策を講じなければならぬ」と。しかし、彼等——それから資本家——にとつて不幸なことには、この勇敢（？）なる叫びにも拘らず、労仂者大衆は斗爭へと起ち上つた。一九二九年に全結頼産業を捲き込んだストライキの波は、一九三〇年に至つても、その凄じさを減じなかつた。それはやがては全國重業の一部、交通産業——特に大都市電車、乗合自動車——を覆へ、一九三一年に入り、益々その勢を大にして来てゐる。是等の事実は、一方に於て、改良主義的幹部並に右翼日和見主義者のふり「不況時代に於けるストライキの不可能」を根底から覆すと共に、他方では、労仂者大衆の間にある偉大なる革命的エネルギーの発露を示すものである。

事実に於て、——欧洲でもアメリカでも、そして日本に於ても——ストライキ、爭議は、危機が最も強く襲つてゐる産業部門に起つてゐたし、且つ、今日尚、そうである。是は何人も覆し得ない厳然たる事実である。吾々は、この事実の中から、㈠又に不景気の時にストライキを組織することは可能なばかりでなく、必要であるを知るのみならず、㈡資本家階級の行ふ危機切抜け策が、労仂階級の斗爭に対して如何に無力であるかを知るのである。

経済危機の深刻化、階級斗爭の激化、新しい帝国主義戦爭の危険性の切迫——こうした時に日本有数の造船所たる神戸川崎造船所で爭議が起つてゐるのである。

（二）

川崎造船所が軍事工場であることは既知の事実である。故に工場側から、労仂者に対する全ての攻撃の場合には、会社と他工場よりももつと緊密に団結して結びついてそれを行ふのである。先年三千人の労仂者を馘首する場合には三ケ中隊の警官を派遣して「厳重警戒」した。今回も亦既に五月末から當局から歩兵隊を呼び寄せて「不穏の行動に出ない様に」、「軍艦の機関の滅れる音を防ぐ為め」に警戒をさゝ〳〵怠りなかつた。

最初会社側は五月三十日を期して職工を解雇する予定であつたが、準備が整はないので、労仂者大衆は、それに反抗して斗爭に立ち上らざるを得なくさせられてゐることをも忘れてはならぬ。

経済危機と資本主義的合理化に依つて絶頼へ投げ出された失業者群は、我日本に於てもまたうした途を辿つたのである。

改良主義的組合の裏切的指導者共は、口を揃へて叫んだ「経済危機の折にストライキをやると共倒れになるから、労仂者に不利である。危機の時には労資協力して不況打開策を講じなければならぬ」と。しかし、彼等——それから資本家——にとつて不幸なことには、この勇敢（？）なる叫びにも拘らず、労仂者大衆は斗爭へと起ち上つた。一九二九年に全結頼産業を捲き込んだストライキの波は、一九三〇年に至つても、その凄じさを減じなかつた。それはやがては全國重業の一部、交通産業——特に大都市電車、乗合自動車——を覆へ、一九三一年に入り、益々その勢を大にして来てゐる。是等の事実は、一方に於て、改良主義的幹部並に右翼日和見主義者のふり「不況時代に於けるストライキの不可能」を根底から覆すと共に、他方では、労仂者大衆の間にある偉大なる革命的エネルギーの発露を示すものである。

事実に於て、——欧洲でもアメリカでも、そして日本に於ても——ストライキ、爭議は、危機が最も強く襲つてゐる産業部門に起つてゐたし、且つ、今日尚、そうである。是は何人も覆し得ない厳然たる事実である。吾々は、この事実の中から、㈠又に不景気の時にストライキを組織することは可能なばかりでなく、必要であるを知るのみならず、㈡資本家階級の行ふ危機切抜け策が、労仂階級の斗爭に対して如何に無力であるかを知るのである。

されてゐるのではあるが。

以上の事実は、経済的要求を掲げた労仂者大衆の斗爭が次第に単なる経済斗爭ではなく、非常に多くの政治的性質を帯びてゐることを意味する。支配階級は、労仂階級が今や、可死か然らずんば斗爭か、血みどろの斗ひか然らずば無か白といふ状態に押し付けられてゐることをよく理解してゐる。併し、彼等も亦、一歩一歩の「譲歩」をもなし得ない状態にあるのだ。ぢゞられて、一方では、決定的に労仂階級に斗爭することにし、それと同時に、労仂者大衆の間に盛り上つて来てゐる反抗心を排外主義の方向へ、——第一に反ソヴエート同盟、植民地掠奪——と導いてゐるのだ。労仂階級中の遅れた層はまだ多くこのブルジヨアジーの政策に欺瞞されて、明日の死を易々として受け入れさせられてゐるのだ。

経済危機の深刻化、階級斗爭の激化、新しい帝国主義戦爭の危険性の切迫——こうした時に日本有数の造船所たる神戸川崎造船所で爭議が起つてゐるのである。

（二）

川崎造船所が軍事工場であることは既知の事実である。故に工場側から、労仂者に対する全ての攻撃の場合には、会社と他工場よりももつと緊密に団結して結びついてそれを行ふのである。先年三千人の労仂者を馘首する場合には三ケ中隊の警官を派遣して「厳重警戒」した。今回も亦既に五月末から當局から歩兵隊を呼び寄せて「不穏の行動に出ない様に」、「軍艦の機関の滅れる音を防ぐ為め」に警戒をさゝ〳〵怠りなかつた。

最初会社側は五月三十日を期して職工を解雇する予定であつたが、準備が整はないので、労仂者大衆は、それに反抗して斗爭に立ち上らざるを得なくさせられてゐることをも忘れてはならぬ。

経済危機と資本主義的合理化に依つて絶頼へ投げ出された失業者群は、我日本に於てもまたうした途を辿つたのである。

改良主義的組合の裏切的指導者共は、口を揃へて叫んだ「経済危機の折にストライキをやると共倒れになるから、労仂者に不利である。危機の時には労資協力して不況打開策を講じなければならぬ」と。しかし、彼等——それから資本家——にとつて不幸なことには、この勇敢（？）なる叫びにも拘らず、労仂者大衆は斗爭へと起ち上つた。一九二九年に全結頼産業を捲き込んだストライキの波は、一九三〇年に至つても、その凄じさを減じなかつた。それはやがては全國重業の一部、交通産業——特に大都市電車、乗合自動車——を覆へ、一九三一年に入り、益々その勢を大にして来てゐる。是等の事実は、一方に於て、改良主義的幹部並に右翼日和見主義者のふり「不況時代に於けるストライキの不可能」を根底から覆すと共に、他方では、労仂者大衆の間にある偉大なる革命的エネルギーの発露を示すものである。

事実に於て、——欧洲でもアメリカでも、そして日本に於ても——ストライキ、爭議は、危機が最も強く襲つてゐる産業部門に起つてゐたし、且つ、今日尚、そうである。是は何人も覆し得ない厳然たる事実である。吾々は、この事実の中から、㈠又に不景気の時にストライキを組織することは可能なばかりでなく、必要であるを知るのみならず、㈡資本家階級の行ふ危機切抜け策が、労仂階級の斗爭に対して如何に無力であるかを知るのである。

首を断行せんとした点、準備が備はらざるなかつたと見て遂に六月十日に延期し、九日には三千名の労仂者に向つてそれ〴〵解雇通知を出した。

吾々は来たゝ、ストライキにはいつもといふ通報を受けとつてゐないので、斗爭が始つてゐるといふ見地からこの問題を取扱ふ事が出来ない。そこでこの三千名の職首に対する吾党矢摩地方委員会の活動に関して若干の批判を下すことにする。

兵摩地方委員会は、この問題の重要性を可成り正しく把握した。併しながらそこには若干の困乱がある。

㈠に、この斗爭の意義を、全口的な立場から考慮する場合に、客観的情勢に対する間違つた考へ——それは吾党の政治テーゼとは違つてゐる——、又び、主観的条件に対する過大評価である。川崎造船所の大量的馘首に際いて、大小金属工場にも次々馘首の嵐が見舞ふであらう事、並に、それと結びついて労仂者大衆の反抗斗爭が全口的に起るであらう事は考へられるが、それだからといつて、その事が直ちに革命的危機を呼び起すものと現実する事は間違ひである。革命的危機はプロレタリアートの大衆的政治的ストライキに依つて招致される事があるとしても　それは他の諸種の条件、——支配階級内部の矛盾、農村の階級斗爭、都市小ブルジヨアの動揺、国際的情勢及び共産党の大衆動員力々——と好都合に結び付く時に初めてなるものであつて、大衆的政治的ストライキ即ち革命的危機を意味するものではない。川崎造船所に十数等もの労仂者大衆の間にある空気（の・）は、急速込み且つ充分に考慮されねばならぬが、それに追随してはならぬ。

㈡に、兵摩地方委員会は、何論かうした事を一つのまとまつた指令又は決議として採用したのではない。両志達の頭の中に、かうした考へ方が——少く共、それへの傾向があつたのである。然るに、両志達は、ストライキの展望に関しては明白な表現を用えてゐないのである。地方委員会は五月末に発表した可如何にストライキを勝利に導くか？㈠の中の第七項、「ストライキを拡大せよ」では次の如く述べてゐる。「吾々はこうした初歩的な仕事をキツカケとして全市の工場に吾々と同じ様なストライキ委員会を作らせ、それを基礎とした工場労仂者委員会の結成に進発させて行かねばならぬと。」是は若干の混乱を意味する。何故なら工場代表者会議の開催は吾々の目標ではなしに、大衆動員の手段である。吾々の斗爭の最進しは大衆的政治的ストライキであり始はならぬ。吾々が前述しに様に、今日、——明日で

ばならぬ。

(三)

兵庫地方委員会はこの斗争を始めるに当つて充分な準備を行はんとした。プロフインテルン第五回大会の決議を如何に忠実に実行すべきかが活潑に討論された。同志達が事件のあとを追ふのではなくて、前以て準備したといふ態度は、吾党の他の地方に於ても充分に大きな教訓としてとり入れねばならぬ。斗争を如何に具体的に準備するかに就て書かれたものも多くの同志達に就たるものがある。(四)

大正十年鐘川造船所に「指導」された神戸三万の金属労働者はウラミをのんで屈服した。今では、全ての機関が全国の労働者と手を結んで闘つてゐる。川崎造船所の如く一万を数へる大工場、しかも重要産業部門の大工場で統一的にストライキが始められ、且つ正しく、吾々によつて指導されるならば、この事は全く可能である。それは、吾党の上ではなしに、川崎で始まつた斗争を如何に急速に他工場に波及させ、拡大するかといふ具体的行動によつて可能なのである。そうした場合には、たしかに工場代表者会議といふ大衆動員形態は有効な一方法である。併し乍ら、工場代表者会議の開催は、それによつて統一的斗争指導部の結成を見る様に努力されねばならぬ。労働者の武器——それはストライキ、デモンストレーションである。工代会議を目標とする事は絶対に改められねばならぬ。

大正十年鐘川造船所に「指導」された神戸三万の金属労働者はウラミをのんで屈服した。今では、全ての機関が全国の労働者と手を結んで闘つてゐる。川崎造船所の如く一万を数へる大工場、しかも重要産業部門の大工場で統一的にストライキが始められ、且つ正しく、吾々によつて指導されるならば、この事は全く可能である。それは、吾党の上ではなしに、川崎で始まつた斗争を如何に急速に他工場に波及させ、拡大するかといふ具体的行動によつて可能なのである。そうした場合には、たしかに工場代表者会議といふ大衆動員形態は有効な一方法である。併し乍ら、工場代表者会議の開催は、それによつて統一的斗争指導部の結成を見る様に努力されねばならぬ。労働者の武器——それはストライキ、デモンストレーションである。工代会議を目標とする事は絶対に改められねばならぬ。

『土地を農民へ!』のスローガンに就て

X Y 生

『土地を農民へ!』

日本共産党

(一)

日本共産党の政治テーゼ草案に示されてゐるこの闘争に関する部分に曰く「天皇、大地主、官公有地、寺社領の土地没収、無労農民への土地分配」と。何故こゝで「没収」と「分配」が並べられてあるのか?・闘争の重要性はこゝにある。読者は、兵庫地方委員会のストライキ対策を全般的に正しいことを承認し、それに若干の補足を加へた。神戸地方の闘争を以つて終るといふ方針がとられねばならぬ。

七月七日には党中央部の闘志達に対する公判が開廷される。八月一日は国際反戦デーである。川崎問題を中心とする全斗争は、又、この二つの大カンパーニア遂行と結合されねばならぬ。

同志諸君!・起つて!・起つて斗争を組織せよ!

大衆的政治的ストライキを準備せよ!

ことである。農民の貧窮は、土地を持たない小作人である。そして小作人の絶対多数は貧農である。此の他、所謂日五反百姓といふものも貧農に属する。日本の貧農は土地を全然持たないか、又は少ししか持たないことに依つて苦しんでゐる。彼等の殆んど全ては生産器具——たとへそれがどんなに原始的なものであらうとも——を持つてゐる。その点で都市のプロレタリアートとは異る。然し乍ら、彼等は何時でも土地から逃げ出す——自分の欲する時には——日自由日を有する点に於て、土地に縛りつけられてゐる農奴とも異る。彼等は農奴よりもより多くの独立性を有する。これは資本主義的工業の発展資本主義の農村への浸入と密接な関係を有する。併し乍ら日本に於ける小作人(問題を簡単にする為に、我々は以下小作人と云ふ場合、貧農小作人を指すことにする)と地主との関係を、資本家と労働者、又は地主と資本主義的企業家との契約関係——日本の憲法を持ち出して、さうでない人もあるのだ——だと見ることは全く誤りである。前者は農村に於ける資本主義の発達を外面的にのみ見て居り、土地の私有に関して目をつぶつてゐるものであり、後者はブルジョア憲法論者の囈言であり、農村に於ける階級関係を生きた現実として見得ない盲目である。そして此の両者は各々相通ずるものを持つてゐる。

綱党派の理論

に従へば、我日農村の地代は資本主義的地代、即ち日資本家的借地農業者が平均利潤以上に奪取る剰余価値の一部過剰部分であつて土地の享受に対して地主に支挿はれるものである日(マルクス主義経済学、ラピドウス著、邦訳三二二頁)とのことである。法律に於ける相互契約がウラを出してゐるではないか?・ところが現実はさうでない。日本の小作人は日平均利潤以上日を受け取るどころか、食ふや食はずにあつてゐる中から日小作米日の形で地主に搾取されてゐるのだ。彼等は自分及びその家族の生存の為に必要ぎりぎりの労働賃銀日すらも地主にとられてゐるのだ。従つてこれは日農業に於ける労働搾取から生ずる所得の一部ではなく、この所得の全部を代表する日そして日それは地主に依る農奴の剰余労働の占有の一形態にすぎない日所の日前資本主義的地代日と云ふべきである。(引用同上)日本の農村全体に於ても小作米の形で地主に搾取されてゐるのだ。彼等は自分及びその家族の生存の為に必要ぎりぎりの労働賃銀日すらも地主にとられてゐるのだ。

従つてこれは日農業に於ける労働搾取から生ずる所得の一部ではなく、この所得の全部を代表する日そして日それは地主に依る農奴の剰余労働の占有の一形態にすぎない日所の日前資本主義的地代日と云ふべきである。(引用同上)日本の農村全体に於ても小作米の形で地主に搾取されてゐるのだ。

加藤教授のことを忘れてゐるのではないが、併し問題を複雑化しない為に主として米作を中心に問題を進めて行くのである。

我々が・他の論文

で明らかにした如く、我日の農村への資本主義の侵入を正当に評価しつゝ尚半封建的関係を主要なものとする理由の一半は実に此処にあると云へる。封建時代から身分関係とか貢租等については此処で述べる必要はない。

へら れ民土地の為に他の一部は地主の為に働く形態である。日本の農村には今日でもかうした形態が存在してゐる所がある。(日物納地代は労働地代の一変形にすぎない。農民は地主に自己の剰余労働を献納するに労働とい ふ直接的形態を以てするのでなく、生産物の貢物ある形態に於てするのである。……物納地代は農民により多くの独立性を与へるものである日(同上)農民はより以上の生産物を得んとして、死物狂ひで労働する。地主は生産物が多ければ多い程地代を増上げする。(それに伴つて地価も上つて行く)(八日金納地代は物納地代の新なる形態に外ならない。日金納地代は、それが交換に始めついてゐる程度に於て前資本主義的地代の解体の形態とあるのである日(同上)日本の農村では畑の借地料が金納とおつてゐる所が可成りある様だが、併しそれも決して農業全般に於ける支配的地位を占めてゐるとは云へぬ。

我々が・日本の小作村

を地代として見る時、それが物納であることに注意しなければならぬ。日マルクスは「前資本主義的地代の発展の中に三つの段階を区別してゐる。労働地代、物納地代、金納地代がそである」(同上三二三頁)(八労働地代といふのは農民が或る時間の一部分は自分に奉

我が・日本の小作村

我が口農業

に於ける中心問題が日土地問題であることは以上のことからしても知り得るであらう。ロシア、ドイツと同じ様な土地所有日であると云ふのではない。解党派の人々に断つて置く)が故に多数の食ふに食はずで仕いたものを殆ど全部取上げられてゐるのだ。だから日土地を農民へ!日と云ふことは、日地主の手から勤労農民へ渡せ!日と云ふことを意味する。而して此のスローガンこそ革命的農民を斗争へ奮ひ起たせるのだ。

所が問題は

(二)

日土地を農民へ!日のスローガンを出した丈けでは解決されてゐない。日如何にして?日と云ふ今後が今度は問題の重要なものとなつて来る。

日本の支配階級

は、日本の農業問題の中心が土地問題であることをよく知つてゐるが故に先年日自作農創定案を実施した。けれどもそれが日焼石に水し式のものであり、農民歓喜策であることは、(ブルジョア新聞が公然と認めた様に)今や農民に対するより以上の負債を与へてあると云ふ実情によつてバク日された

又、貴族院の一部

（だつたと記憶する）では「土地国有論」を唱へたものがある。それに依ると地主の土地を買水家口家が買ひ上げ、その代り、地主に対して一定の利子を支払ふといふのであつた。即ち農民と地主との直接の衝突を、農民と国家との衝突（尚、農民の斗争を国家権力で押しつぶす為に）にしやうとした。だが是も物にならなかつた。何故、是等の政策が失敗に終つたか？　斯様な姑息な手段では農業問題の解決が望まれないからである。地主にも土地を持たない農民にもどちらにも都合のよい云ふ解決方法はない。況んや資本家地主が政権を握つてゐる日本で、小作人に都合のいい土地問題の解決を望むことは水によつて魚を求めるの愚に等しい。

我党は前述の如く

日天皇、大地主、官公有地、寺社領の土地没収を掲げてゐる。これは現在土地を持たない、（又は少し、か持たない）農民が無償で天皇、大地主、官公有地、寺社領を取り上げる事を意味する。地主もブルジョアジーもなくて土地を農民へやるとは断じて云はぬ、のみならず、借りてゐる農民に土地り耕作権すら保証し得ないのだ。農民が土地を自由にすることはブルジョアジーにとつても大きな脅威である。日本での土地問題解決の一歩は少数地主の手にある土地を無償没収して、勤労農民に分配することに始まる。而うして此の事は農民の武装蜂起なしには行はれない。農業革命の方法以外に土地問題解決の方法はないのである。我党のスローガンは実にかくしたる内容を持つものである。而して「土地を農民へ！」「小作人に都合のいい土地問題の解決」（一九二九・一〇）で明白に述べた様に以上の意味を端的に表現してゐるのである。我々の云ふ「土地を農民へ！」とはかう云ふ意味に於てである。

全国大衆党

と帝農党との合同党綱領も、解党派の綱領も是等の点をボヤかしてゐる。それ故にこそ是等のゴマカシのネタがある。表面だけでも我党に似せやうと努力しなければ勤労農民大衆の幾部分かを自己の影響下へ置き得ないからである。

(三)「土地の没収」

と「土地の国有」との相互関係は如何に理解さるべきか？　此の問題に対する解答は一九〇〇年代の初め、同志レーニンに依つて既に興へられてゐる。共産主義者は「土地国有」を主張する。土地の国有化は生産力の発展の有力な条件である。土地の国有はそれ自体としてはまだ社会主義ではない。それはブルジョア的である。しかし、資本主義制度下に於てそれが理論的に可能であることは、必ずしも実践的に可能であることを意味しない。何故ならば、ブルジョアジーは土地の国有、即ち土地の私有を廃止することに依つて私有制の廃止に対立する。大部分ではないにしても、多数の資本家は既に土地を持つてゐるのであつて、彼等は個人的には土地国有に利益を感じないのである。更に又資本主義社会の基本的原則による生産手段の個人的私有と云ふ原則に打撃を興へることが恐ろしいのである。年々労働者農民を益々広汎な大衆を包括してゆく革命勝利の日まで土地私有の維持を地主に保証するものである。」

（前掲書三一八頁）

日本の現状

では、社会主義革命勝利の場合でも急速に全般的に土地国有を布告することは出来ないであらう。我々は農民に向つて「土地国有」の必要と効果と重要性を十分的に宣伝しなければならぬ。我々が広汎なる貧農小農及中農の一部分をも含む農民大衆を我党の側に獲得し、農業革命の成功的条件を与える社会主義革命勝利の必須的条件である——を望む限り、我々は現段階にあつては「土地の没収、土地を勤労農民へ！」のスローガンを掲げねばならぬ。

農民は一般的には

ブルジョア的観念の保持者である。我々は此のことを明白に知らねばならぬ。彼等に対しては特に親切に説明と実例とを以て対さねばならぬ。我々にとつて大きな幸はソヴエート同盟の農村に於ける社会主義化の成功のあることだ。日本の農民に革命的行動の必要を説明し、社会主義が勤労農民にもたらす幸福を語るとき、我々はソヴエート同盟に於ける成功を最大限にとり入れねばならぬ。

乾枯ホ、だが親切ホ

誠実ホ我々の活動が、農村プロレタリア、貧農、勤労農民大衆の間で行はれる時、農民の革命的ホ斗争の先頭に我々が立つ事、都市プロレタリアートとの緊密ホ戦闘的同盟が結ばれてゐる時、我国の広汎ホ農民大衆は自己を地主、資本家側からの搾取と圧制から解放され得るであらう。そしてこのことは土地のプロレタリア国有化を比較的急速に——勤労農民の深い理解と支持の下に——行ひ得るであらう

（附記、筆者は農業農民問題に関する先輩同志の貴重ホ文献を一つも参考にする自由を持たないので充分に補確ホ表現をホし得ホかつたことを非常に遺憾に思ふ。農業農民問題を専攻してゐる同志諸君の批判を希ふ）

アルメニア震災のために
工場労働者を使節として
ソヴエート同盟に送る！

工場労働者は代表を大衆的に選挙せよ！

全口の工場労働者諸君！

ソヴエート同盟の南部、アルメニアを中心とする諸地方はメーデーを前にする四月二十七日突如として恐ろしい大震火に襲はれた。これが数十数万の同志達は或は死傷し、或は家屋を失ひ、一様に窮乏と飢餓の悲惨に陥はれた。

諸君はこれを速早く吾党及び第二無産者新聞の報導に依つて知り辛先して救援基金募集のカンパニアに応じた。諸君は又直に罹災地及び全ソヴエート同盟の同志に慰問と激励の手紙を送つた。それぱかりではない、更に進んで諸君はソヴエート同盟への使節の派遣を要求した。ソヴエート同盟への使節の派遣！　ソヴエート同盟を知れ！　ソヴエート同盟への使節の派遣！　ソヴエート同盟の同志達とガツチリ腕をくめ！　この声は既に諸君、全工場労働者の叫びとなつて来た！　同志諸君！　我々は感激を以てこれを迎へる。諸君は我々と党全に一致してゐる。

全口の工場労働者諸君！

吾党は茲に吾党並に諸君の意志を継続させ徹底させる為めに、今最大の喜びを以て工場労働者をソヴエート同盟に派遣することを提議する。そして我々は諸君の代表が一日も早く輝かしきソヴエートの口に渡り親愛ホるアルメニア及び全ソヴエート同盟の同志に全日本の工場労働者の衷心よりの慰問を傳へる事を望む。同時に又諸君の代表が社会主義建設の偉大ホ事業を見学し吾党中で最も愚まれた労働者の生活に接触してその報導を手に取る如く生々と全日本の労働者にもたらす事を希望する。

全口の工場労働者諸君！

全口の工場労働者諸君！

代表派遣の好機に際会して吾党は今一つ、最も重大ホ使命が実現さるるであらうことを確信する。諸君の代表は必ずや極東に於ける反ソヴエートの全勤労民たる日本帝国主義に対する斗争に於てソヴエートの全勤労民リアートの凡ゆる解放戦に於て国志諸君の強力ホ援助をかちえるであらう。

同志諸君！　日本帝国主義による武力的干渉の準備は日本プロレタリアートを悔辱して公然と押進められ、ソヴエート同盟の国境に向つて鉄道を延長し軍隊と武器を動員してゐる。最近行はれた満鉄首脳部の人事移動は満蒙の軍事的支配を更に一層の拡大強化万才！

全日本の工場労働者革命的斗争万才！

全口協議会万才！

日本共産党万才！

一九三一年七月九日　日本共産党

斗士養成の問題に就て

斗士養成の問題は、我党に於ても、全口協議会に於ても実に焦眉の急務である。ドイツ、フランス、イギリス、アメリカ等々の諸共産党に於ても斗士養成問題は重要であるが、我口共産党に於けるこの問題は他の諸口のそれに比して比べものにならぬ程重要である。何故ならば我々は既に一千有余名の同志を牢獄に奪はれて居り、党員でふくとも、ビラ一枚を撒いたと云ふだけで我獄される状態にあるので、少し積極的に斗争するものは、一寸した技術上の不味さを持つてゐるといふ丈けで挽きにされるといふ有様だからである。我々に斗士の養成問題が重要であるのは、党の拡大強化が重要であると同じ程度である。

第一に、此の問題の解決に当つて注目すべきは、**労働者斗士の養成**である。労働者の中には偉大なる創造性が潜められてゐる。支配階級が執拗に「根絶」を叫んだにも拘らず、我党が厳然として存立してゐることの事実は、解党派の裏切者共が如何なる逆宣伝を飛ばそうとも、正に、この労働者大衆の間にある偉大なる革命的創造力に依るものである。我々が若し正しい方針を採るならば、斗士養成問題は少く共今日より数倍の速さで解決の途上をバク進し得るのである。

斗士養成は、吾らすでもなく、「物識りに」を作ることでもない。労働者大衆の要求をまとめて、その下に大衆を組織し、動員すること、そして、その要求を日本プロレタリアートの、進ひては世界プロレタリアートの終局的目標と巧に結合させ得る**階級斗争の実践的指導者**を作ることを意味する。我々が赤旗パンフレット「工場細胞とは何か？」で、工場内にある党員の政治的統一、党組織全体の政治的生活の重要性を強調した所の根本もここの点から出発したからである。組織全体が政治的に生きること、党機関のすべての決定が広く、党員大衆に依つて審議され、理解され、実行されて行つてこそ、そこに党の政治生活がある。この政治生活の中で鍛錬することが斗士を養成することである。理論と実践の統一は、かくの如き政治生活に於てのみ可能である。

或る同志達は云ふ「忙しくて本も口クに読めない」と。是は或程度に於て正しい。併し我々共産主義者は出来る丈けの時間を作つてマルクス主義、レーニン主義の理論的研究を怠つてはならぬ。是等の同志達の多くは——全てゞはないやつて仕事はふとしてゐるのではなからうか？人が足りない、仕方がないから自分で七人裏十人裏をやつてのけるといふ調子でこの意気・この活動振りは全くいゝ。だが是等の同志達は、その心、所を他の同志達に分け與へ様としないのではからうか？「あれはまだ駄目だ」といふので何時まで至つても仕事を與へないといふことは余りに大事をとり過ぎて、下から**新しい同志を引き上げること**を怠れてゐるのではあるまいか？

我々は階級斗争の実践が如何に優秀な斗士を作つたかを過去の歴史上にのみ見るべきではない。現在も亦、そうであることを充分に理解しなければならぬ。一の実例を挙げ様。一千五百名程の或る大企業——少く共その地方に於ては——で我々の同志達は僅に三名位であつた。しかも、それらの人々は所謂「外から」の人の指導下に働いてゐた。仕事は遅々として進まない。この三人の同志ですらどうやつていゝのか分らないといふ様な状態におつた。彼等は自分の創意性を発揮する代りに「外からの」指導者の一つ一つの指揮を待つてゐたのだつた。この「外からの」同志は他に幾つもの仕事があるので、この企業のことばかり考へてはゐられないかつたので、中の人々からの大きな信頼と尊敬を受けてゐたけれども、仕事は中々ウマク行かなかつた。そこでこのオルガナイザーは、中に居る三人に、彼等が独立的に企業内の政策を立て、思ひ切つて仕事が出来る様にやつて見やうと決心してこのことを三人に申渡した。所が三人の同志達は、最初風込みした。だが一度、自分達に信頼は全くいゝ。だが是等の同志達は、全責任が皆の名に於て與はされてゐることを理解すると共に、彼等は勇躍した。あらん限りの精力をかたむけて仕事に没頭した。言ふまでもなく、オルグはその後も親切な協力者であつた。「少し整理かも知れないが……」と云ふ最初の懸念は何時の間にか、何処かへ飛んでしまつた。仕事はウマク行つた。かくて、三、四ケ月の後、その企業には数倍の組織が確立された。労働者であり、仕事のやれる同志達には、彼等の能力が十二分に発揮出来る様にし向けてやりさへすれば、やらうぬ。口先丈けで、イニシアチーヴをおさへても、実践的にぞうした条件を作つてやらないや如きは日和見主義だ。

斗士養成と労働者大衆の中にある創意性の発揮とは、かくて密接に結び付いてゐる。**組織内にある同志達に一定の仕事を與へ各自に責任を持たせて活動さすこと**そして各自の間で又は各細胞の間で社会主義競争を行ふこと等は斗士養成問題解決に大きな力となるであらうし、又しなければならぬ。

附記。問題を提出する丈けに止めてをくが、同志諸君はお互にこの問題の重要性を理解し、此の問題解決のよき方法を、相互間に、我々会はれしことを希望する。

工場内出版物の交換に就て

党員並に革命的労働者諸君！

工場新聞その他工場内の出版物を交換することが如何に必要であるかに就ては諸君は熟知してゐる筈だ。よその工場ではどんな問題を捉へてどんな活動を細胞がやつてゐるかを知ることは自分の取つてゐる細胞を拡大し強化して行く上に絶対に必要なのだ。

その為には多情の許す限り細胞代表者会議などを開いて、経験を批判し合ひ、その基礎の上に新しい方針が樹てらるべきだ。だがそれだけでは駄目不充分だ。何故なら全メムバーがそれに参加することは困難にかゝる。

そこで全メムバーに経過を知らせ、他工場で犯した過誤、誤謬を再び繰り返すことなく、又他工場での成功を自分の工場に移すこと、即ち他工場の同志達の実践から学ぶことが絶対に必要だ。

さうすることの一つの方法として、工場作出版物を交換することは非常に有益なことだ。絶対にやらねばならぬことだ。その出版物が、どういふ状勢の下に出されて、どんな欠陥又は成功があつたかを知ることは全細胞メムバーの義務でもあるのだ。

可能的の大衆化こそが統一の運動を正しく強展させ、党を大衆化せしめるに大いに役立つのだ。斯くて文書交換の上に注意すべきことは、もこの細胞でも他工場の出版物を買ふことを望んでゐるにも拘らず、自分の工場の出版物を他工場の同志達に届けることをいつでも怠つてゐる場合が多い。

工場新聞に傾を採るも同じことだが他工場の新聞を見たがつてゐるくせに、自分達で出してゐる新聞を他工場の同志達に見せることには余り注意して居らない。三部や五部届けて来たのでは工部代表に届けるだけでも足りないのだ。大阪だけで一細胞に一部宛、新聞を届けるにしても三十部位は必要なのだ。現在はその中で十以上の工場から新聞が発行されてゐるし、ぐく最近には、恐くの細胞及び全準備会から、必ず「工新」が発行されるんだから少くとも五十部位は交換用と上部代表への提出用として余分に出版する様に心がけ、実践せねばならぬ。みんなに少くとも三十部を届けて来るやうに注意し、実践しろ！

他工場の出版物を買つた細胞、全準備会では、単なる読み放しにはしないで、必ず、それ等の出版物を討議して、細胞としての意見を、その文書を出版せる細胞及び代表代表に提出する義務がある。

大阪市委員会の活動は
↓スバラ・しいぞ！

吾々は大阪市委員会のこの決定を、各市、地区、委員会が、もぐの市、地区内で直ちに実行する様にすゝめる必要を感じたので、これを赤旗に掲載して全口の同志に送る。但しこれのみが唯一の方法でないことを注意しておく。支援の技術その他の理由から交換し得る細胞の数、地方的範囲には自ら制限がある。だからこの決定を全口的範囲にまで拡めることは出来ない。又、各市、各地区にしても、その市地区内にもっともっと工細が増加した場合には、その時には、この決定の実行、即ち印刷物を交換することは、困難となり、不可能となるかも知れない。かゝる場合には、各市、各地区の委員会が代表的なものを選んで交換する。それには必ず報告批判を加へるといふ方法が採用さるべきだ。

党中央部では工細並に革命的労働者農民の政治的並びに組織的生活については常に全体的見地から批判して来た。それに止まるものではない。党中央委員会は指導と共に細胞と

それは必ず、当会の属する工場細胞を拡大強化することに有効な役立つ経験の大衆化を通じて細胞を確立し拡大強化せよ！

細胞を基礎に党を大衆化しろ！

甲級部のボルセヴィキ的批判が付加されることは勿論だ。

党中央部が口をスッパクしてクリ返し要求したところの、工細の政治的並びに組織的生活の反映たる各出版物（報告、意見並びに赤旗）等の寄稿が最近に至ってやゝ改善され始めたことは党のボルセヴィキ化の一表現である。党、並に赤旗は中央部だけの党、赤旗ではなく、党員全体、各、プロレタリアート全体の党であり、赤旗である。現にさうなりつゝある!!! 又、さうしなければならぬ！

一九三一、六、一四

日本共産党
大阪市委員会 組織部

赤旗編輯部

てしに前をーデ色赤際国
！す託提を集募の金基争斗

全口の労働者農民兵士諸君！

日際赤色デーが目前に迫った。

今年の八月一日程日本プロレタリアートに対して果敢な英雄的斗争が要求されてゐる時はない。我々は此の日諸君の先頭に立って進み、街頭を占領して日本プロレタリアートの意志を 階級細胞を殺戮し祖口ソヴエート同盟を破壊する戦争には絶対反対だと云ふ断乎たる意志を日本に向つて示威する。我々は今かゝる重大な任務の前に一切の斗争を準備してゐる。

全口の労働者 農民、兵士諸君！

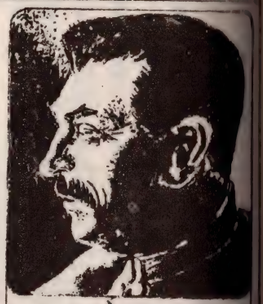
吾党は今こゝに口際赤色デーの為めの斗争基金の募集を提唱する。吾党は重大な斗争を前にして敢然的な結束の中にある事を最も適憾とする。と同時に全口の同志諸君の助力によって一日も早くかゝる醜悪な搾取から脱し得ん事を望み 之を吾々は諸君のなけなしの一銭二銭を都迎し、之を吾党に対する諸君の信頼の目盛りとして尊重する。だが吾党は基金募集が一つのカムパーニアとして、工場 農村 兵営内の凡ゆる集会及び会議に於て諸君の斗争の根に又吾党に対する宣伝と組織的に行はれる事を期待し要求するものである。

全口の労働者、農民、兵士諸君！

吾党は恒に諸君と共にある。諸君が悩み苦しむ処、諸君が斗争し示威する処、そこには諸君と共に常に我々がある。そして吾生者と戦死者に対する諸君の階級利益を代表し、彼等に対する諸君の憤激と斗争の先頭に立つ。同志諸君！諸君が吾党と共にある時諸君は仇敵に対して最も強く又最も速く勝利への道に立つてゐる。

全口の労働者、農民兵士諸君！日本共産党を支持せよ！日本共産党の指導の下に諸君の英雄的斗争によって口際赤色デーを記念せよ！

日本共産党の拡大強化万才！



鉄の火花

反革命家になった トロツキーの提灯持ち

青野季吉の忠実ぶり

O・P・Q生

ドモリと、酒呑みと、そしてもう一つ――最も重要なものだが――裏切りとで一時有名になってゐた青野季吉なる日文戦口の親玉、板雨時で雛がどうかしたのか、イラ〳〵した気持で読賣新聞紙上に『人見者検討』てなことを書いた。

彼が裏切者トロツキーの卑劣なをヒロめたのは、同志レーニンや、同志スターリンを攻撃する為であったことは明白だ。（一九口科学四月号）同志ノウイコフの論文を見よ）奴は友を呼ぶ・トロツキーも極東君子口で青野の如き投力者を得てサゾ心強い事だらう。

彼、青野は読賣紙上で同志スターリンの悪口――と云ってもトロツキー派の受賣りにすぎないが――を書いて曰く口スターリンはマルクスの「資本論」とレーニンの本より外に読んだ事がない口と。是で青野は口俺はもっとく沢山の本を読んでゐるんだ。スターリン等よりは物識りだぜ口と大見得を切った心算だから可愛いもんだ。

未さへよめばよいと考へる程彼は馬鹿である。そんな悪口なら此方からもう一つ教へてやらう。彼の未家たるトロツキー一派は云った。口スターリンはジヨルジアの言葉とロシア語以外は知らないんだ口と。エンゲルスが偉大なのは十六ケ口語を話し得たからだ と考へる程彼等は口頭がいゝ口のだ。又青野は同志レーニンが、同志スターリンに対する批評をした例の遺書を引用してゐる。口スターリンは根野で不誠実で且つ党の利害よりも小さき出した私力を濫用しかねない、危もトロツキーの真似だ。だが彼はソヴエート同盟共産党第十五回大会で此の問題が審議され、大会では満場一致を以て同志スターリンが同盟共産党のせネラル・セクレタリーに選出された事を隠してゐる。そして此の大会でトロツキー一派が反革命的なものとして除名された事・トロツキーが口外へ追放された事をも隠してゐるばかりでなく・トロツキーを赤メカ

ごろつきー！トロツキー！

青野季吉!!

ざってゐる。牛は牛づれ！

彼の意図は明らかだ。同志スターリンに対する日本労働者の信頼を失く しようといふのだ。何故？誰の為に？まふまでもなく日本のブルジヨアジー 地主の為だ。同志レーニンが生きてゐる時、世界のブルジヨアジーはその矛先を変って、同志レーニンの名に於てソヴエートロシアを攻撃した。同志レーニンはブルジヨア新聞の上では口七度も死んでゐる口。同志レーニンの頑強、彼等がソヴエート同盟を攻撃する時には口スターリンの旗を以て反対する口と云ってゐる。一切の敵が、同志スターリンに於て、社会主ヤソヴエート同盟を攻撃してゐるのだ。彼等の言ひ分はかうだ。口プロレタリア独裁は共産党独裁だ。共産党独裁は又スターリン独裁だ口と。統一された政治的方針の下に地球の大分の一を占めるソヴエート同盟の労働者と勤労農民大衆に依って成し遂げられた行動が行はれてゐるのだ！共産党の厳密から地球出した奇野には、到底共産党を理解し得ないのだ。セイ〳〵反革命家トロツキーの提灯持ちでもしてゐるがいゝだらう。

だが 日本のプロレタリアートは彼をふみにじってプロレタリア独裁へと進むのだ。

★

『工場新聞について』に対する意見

××紡績工場細胞　×子

工場新聞について、四十二号の新聞を出す方が正に効果的であるのだ。そして我々はこの一つの旗（ざされた党の工場新聞を一人残らずの労働者に手渡さねばならないのだ。

四二号紙の火花四の感想は日常外郭組織が自主的に出しておるニュースに停止命令を出すなどとは話が受取れぬ。也と云っておるが、これは日工新について也の原文の現在の条件下也と云うことの理解が不充分だったと思う。我々は党外諸組織のニュースを決して妨害し止めないだろう。否、我々は人ボーツ的文筆等のニュース人だけの認着（単なるシ好的話者を組一させルに工場新聞の読者にするごとによって全労働者を政治的に統一するのだ。尚同……同時に非合法労働組合は合法新聞発行の最少の条件をも利用し、そう、た新聞創設の為のカパニアを労働者階級の一般的斗争の任務と結びつけ展開しなければならぬ……也と云うことは我々の場合大衆的工場新聞の創設と理解すべきだ。労働者が出してある労働者のために新聞に果して真本家に許されたる合法性が育り得るか？否だ。我々が云う新聞の合法性とは組織部員が資本家やケイサツに知れてもかまはないと云う条件を云はない。合法的工場新聞とは全工場の労働者に読まれ、支持されておる工場新聞を云うのだ。

◇――第四〇号を読む――

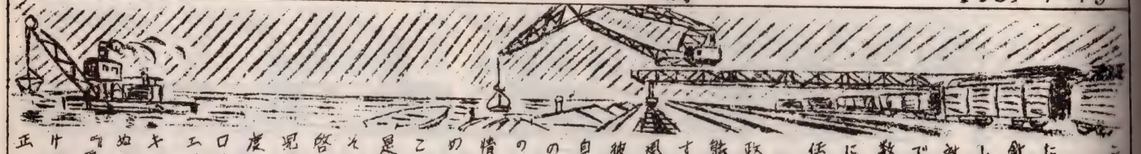
――××××――

A 解党派の新たなる通牒を粉砕せよ！　解党派の醜悪な活動は度々聞かされて来たし本で、無論、無責・労働者の出版物で知っては居たけれども、第四〇号をよんでその悪ラツ右翼さに憤激の歯を喰ひしばつた。解党派の策動を実践的斗争で粉砕せよ！　とふスローガンがあら。ゆる斗争の分野に於て叫ばねばならない。僕は解党派の策動に対する『赤旗』の――態度が常々たるコムニストの態度であり、吉々もそれに倣って努へ杯の努力をせねばならぬとふい事を誓ふ。

党を除名され、党外に放逐された哀れな党派にあるかの如き言辞百弄してある彼等の下劣根生、光輝ある日本共産党を腐ったインテリ・ヘナ〳〵文士・マルクスがール・スパイの党なりとデマをとばしてある彼等の下劣極さる暗根ばかりでも余りあるものだ。彼等自身の行動について何の自己批判もせずに従うなるデマゴークをとばしてあるとは全くどこにかつての

マルクス主や者共産主や者としての面目があろうか。然しかうしたことを敢等にやるのは寧ろ当然のことと云はねばならない。階級的良心の一片だにも持つてあるならばこんな醜行を演じはしないであらう。

僕は特に注意し組織しなければならぬのは、解党派の設党共が新たなる通牒を開始した政治的意義であると思ふ。党が、一九三一年一月十二日に発表した檄の中で来るべき日本に於ける革命の性質並にそれに対する正しい戦略・戦術と組織方針に従って猛烈と斗争を遂行して来た、その時期に解党派が頭を擡げて来たと云ふ政治的根拠を大衆に宣伝しなければならぬと思ふ。事実に於て党がインテリ・ヘナヘナ文士、スパイ等々の常であるならば――こんなことは仮定するだに冒涜だが――若しさうなら、何もやっきになって切崩しにかからずとも、口実権力に任してをくだけで充分ではないか　彼等が積極的に社会ファシスト的行動に出ればいる程党の勢力が拡大強化した



ことを忘れるものだ。」

吾々は全力をあげて解党派の新になる進出に対する『赤旗』の方針を実伝し、大衆を覚起に向はしめねばならぬ。奴等の裏切りに対し断然らに悪憤コーガする文では何にもならぬ。奴等の裏切の数々をバクロして大衆を党の支持に赴かしめることこそ吾々の中心任務なのだ。

B 革命的自己批判を！　政党の自己の犯した過失に対する態度如何は政党の真面目さを決定する最も重要なそして最も確実な標準の一つであって実際にどれ丈彼等の階級及び勤労大衆に対して自己の義務を果すかを表示するものである。過失を公然と認め、その原因を論見し、それを生んだ事情を分析し、そしてこの過失を改める手段を活意深く研究するこれこそ真面目な党の様式であり、是――政務の遂行であり、これこそ階級近いては大衆の啓蒙である。也とレーニンは『小児病』の中で云って居る。この態度は日本共産党、日本労働組合全口民就会の態度であり真にボルシエヴイキ的態度だ。ボルシエヴイキたらんとする者がとらねばならぬ如態度だ。

『悪いことはみんな他人に押しつけて自分だけが一〇パーセント正しかったと云へ』。自分独りが正しいと云ふことを主張するために事実を曲歪し抹殺すること、たとへ言葉の上丈で賛成しても実践の上で正反対なことをすること、――これらの態度は解党派の態度であり、卑劣さはまる裏切者の態度である。僕はツルゲネフの散文集を読んだことがある。その中で主人公の悪口を云はうとするには、初一に自分の弱点を人の弱点と思って、自分の弱点を罵れ、さうすれば一番よく当る也と云ったやうなことが書いてあったのを覚えてある。このケチ臭いやり方は解党派のやり口にピタリとあてはまる。彼等の批判の方法には口その本質に於て批判的、革命的也なレーニン主ギ的方法の一分子だにもないのだ。

自己の欠点を批判することは更に苦しい事だ。自己の誤謬にふれるのは身を切る様につらい。にもまして困難なのは、誤謬を実践的に清算して行くことだ。僕は自己批判を常に不充分にしかやってない。一〇〇パーセントにやらねばならぬとは思って乍ながら常に不充分なのを苦々しく思ふ。解り切つたこと乍らと思ふ也だけでは何にもならぬ。同志はもう実践的に清算して行くかにある。これをトコトンまでやらねばコハニストたり得ない。同志諸君の忠告や厳責にしみる批判を切望する。

C 僕は我々の任務問題について理論的に至って幼稚である。それで農村プロレタリアートの組合の問題に関しては、あの論文を理解することがやっとこさだった。『赤旗』のネ三十九号に農村に於ける階級構成に関する研究が提案されてあったが、僕はあの提案に双手をあげて大賛成だ。それでこれから大いにやるのだけどどんな本を、文献をどういふ順序で読むべきか。どんな資料がもっとも役に立つかを指示して欲しい。全く手のつけ様がない――これが僕の今までの状態だった。

解党派の合法的秋田雑誌の日日本至済研究』の創刊号の全般的批判を僕は切に望んでおる。あの雑誌の政治的価値はゼロだ、否マイナスだ。然し奴等の至清理論を完膚なきまでにやっつけることは重大な意義をもっておると思ふ。『日本至済研究』中の論文の決定的な

誤謬は『赤旗』ネ四〇号が示してあるところだ。奴等の理論が具体的でない事、実践的『政治的でないことにある。

僕はもう一歩進んであの論文の欠点から屈居までを徹底的に批判したらとんなに暗々するだらうと思ふ。そのためには『赤旗』は紙面が許さぬであらう。だから党の理論雑誌『マルクス主や』がその為にのみでは断じてないが、再刊されるのを千切心から希望してある。

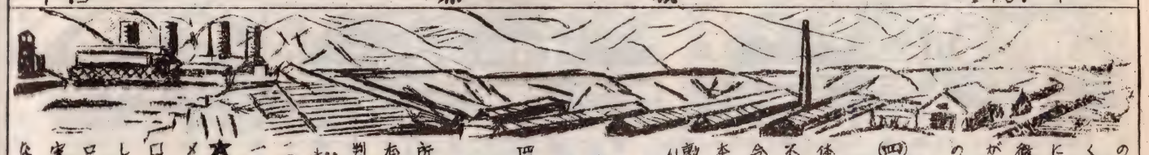
僕ところに依ると『日本至済研究』のあの論文には櫛田民蔵が大部協力してあるとのことだ。そんな奴にのさばらしておくことは実際シャクにさわることこの上ない。加論そんな奴がいくらのさばつてもプロレタリアートの革命運動は少しもさまたげられることはない。然しあらゆる分野に於て吾々はあくまで優れておなければならないと思ふ。

だがこの正しき方針がとれ程厳密に遂行されているだろうか？　その実現へ向って全党員が真剣な努力を払っているだろうか？　その実現を阻害している原因は何か？　それは一口に言えば、党内に於ける官僚主義的傾向である。

党の大衆化（ボルセヴィキ化）は党内にあるセクト主義を最後の一片まで力ナヅリ物ても事だ。仂連は労組も死刑をも恐れ出版。唯プロレタリアの勝利を望み、そのために先駆ある日本共産党の党員となることを望んでおる。仂連は今党に手を差しのべておる。然し、工場に仂いてゐないが故に彼らに党員となることが出来ず、エネルギーの一部分を費消してゐる。

仂連は大胆に支援する。日本共産党のボルセヴィキ化、党員一万人獲得は新聞紙「赤旗」の大衆的配布から。そして即時厳断に仂いてゐる革命的分子を即時党員になすことを望んでおる。仂連は党に参与し、党の大衆化（ボルセヴィキ化）を最後の一片まで力ナヅリ物ても事だ。仂連は労組も死刑をも恐れ出版。唯プロレタリアの勝利を望み、そのために先駆ある日本共産党の党員となることを望んでおる。仂連は今党に手を差しのべておる。然し、工場に仂いてゐないが故に彼らに党員となることが出来ず、エネルギーの一部分を費消してゐる。

仂連は大胆に支援する。日本共産党のボルセヴィキ化、党員一万人獲得は新聞紙「赤旗」の大衆的配布から。そして即時厳断に仂いてゐる革命的分子を即時党員になすこと



報告

印刷局P班

二十四日、集会を持ち、赤旗第四四号の討議をやった。

1、技術上の自己批判。

2、所感に関する討議。

所要時間、三時間半。その結果を左に報告する。（但し技術上の批判はやゝ専門的に渉るから省略す。）

（政治テーゼ草案に対しては後で一緒めにしてやることにした。）

★メーデーの教訓……三一年度のメーデーは未曽有の恐慌下にある日本帝国主義の大弾圧の下に行われ、特に日本の於ては徹底的に闘われた。ロワインタン才王回次訳の如何に実行されたかを示すまでもなく、此の批判は政治的見地から為した批判として全く正しいものと思ふ。特にアナーキストの反動性をバクロした点は実によかつた。尚、付け加へて欲しかつたのは、メーデー参加者の数――独自のデモ参加者、失業反対デーとの比較――である。又メーデー当日のデモに対する技術的な批判もやつて欲しかつた。

★新帝国主義戦争の危機と斗へ！

……不景気にも拘らず軍需工業（金属、化学の）だけは大繁昌だ。植民地は異人と外交家で固めるも戦争は疑ひもなく目前に迫つてゐる。徹底は一般的に戦争の惨害をアヂルロするだけではなく、兵士に対する働きかけを強化し、軍隊内の組織活動を活潑にやらなければ駄目だ。此の意味で「兵士を獲得せよ」のスローガンを再び提出する。

★失業者同盟 組織に関する一つの混乱に付いて……これに対して異論はなかつたが無断十九号で「同志外村が「失業者委員会」と別の組織をつくつた」と云ふ事は絶対に許すことは出来ない。「と云つてゐるが之等一切の混乱は何等本質的に意見が対立するものではなくて単に名称の問題であつて、同志外村の失業者委員会はこの論文の失業者同盟と同じことを云つてゐるのだ。同志外村は一九三〇年秋の金設から出た失業者組織のき書を見ないのではなからうか？！

★ビラ作製の書きずに付いて……論文にて黄紙に赤字がよいとあるが、紙は紙の質をよく呼味しないとことがあるからよく注意しなければならない。この論文はよく当面案件な技術的な問題を取り扱つてゐるが更に配布・場所の方法、行動隊の組織技術等の経験の交換をも歓迎する。

★ソヴエートに使節派遣のカンパを起せ！

C・C・C・P ＝＝ C・C・C・P ＝＝ C・C・C・P

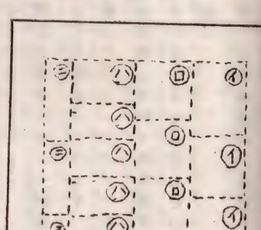
印刷局 △△生

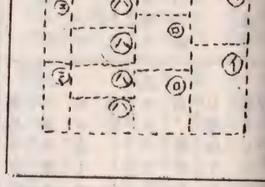
赤旗第四十四号「敵の大花」の頒の同志達の意見、アルメニア地方農民に見解の違いがあり、種類を沢山出すこと、及び同一種類でも多くすることによつて此の欠点は除き得られるのだ。

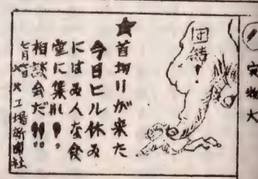
その作り方は右図に示す如く一枚の紙に同一種類又は二三種のビラを一度に刷つておく。

この際はなるべくB面かC面のヤスリを使ふこと、A面は粗すぎて文字がハツキリしなくなる。

かうして色紙にスリ終へたら一枚一枚切らない中に裏側へアラビアゴム糊（薬店に行つてアラビアゴムの粉末を指定位置つて来て水に溶かす。とかし方は薬店で充分聞いて来ること。そしてそれまりもやゝ濃い目に溶かすこと）をつけろ。







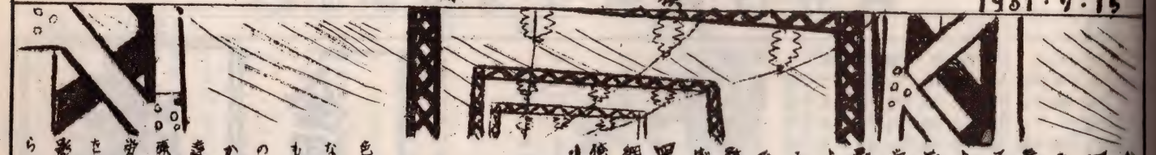
歓迎する。

★批判の仕方については注意……断然異議なし。直ちに実行する。但し、実行方法が自分に判らない時は批判をやつてはいけないものであるか？

★「鉄の火花」欄はもつと各細胞の同志の経験の交換場所にならなければならぬ。個人的な意見、感想、及び同種類の意見の発表は編輯部で手を加へて適当に圧縮すべきではなからうか？

★最後に全日の同志諸君にお願ひする。徹底印刷局員一同はこの赤旗を読み易くするために全力をあげて努力してゐる。だが赤旗に対する技術的な批判をくれないのはどうしたことか。どうかビシ〳〵批判なり、ゴゴトなりを送つてくれ。労働者農民諸君の率直な批判によつてのみ赤旗は技術的にも一段と向上して来るのだ。又諸君の寄稿したカット、漫画を送つてくれ。続き漫画の材料（タネになる話）でもよい。

ドシ〳〵援助してくれ。



切手ビラを作れ！

印刷局 XY生

かうだ。

一、工場労働者を選ること。人数は五人でも六人でもその時の財政状態の如何と、人選の如何を考慮して徹底の中央部が適当に決めればよい。

二、出来るだけ多くの産業から工場労働者の代表を選挙すること。

三、秘密徹底の費用をカンパニアによつて全日の労働者農民から集めること。これは単に資金させる次ではなく、秘密徹底の意義を広く徹底させるとゝふ方法でやらねばならぬ。

四、徹底に関する技術的な、官憲の網を如何に潜るかは、実験の深い徹底の中央部に任したい。

五、派遣した工場労働者はすぐ帰口するのでなくて、暫くの大学にも入つて口際的な斗争の実験をクシトコサ勉強して、徹底のよき指導者になつて貰ふ様、しばらく彼方に滞在すること。

六、アメリカの共産党はソヴエートに通信員をおいてゐるが、徹底の代表者にも滞在中、ソヴエートロシアの労働者のこと其の他に就て恒常的に通信員として働いて貰ふ事。

附記＝

南露アルメニア地方震災の救援カンパニアは提唱されて早や一ケ月以上になるが、その結果、即ち、義捐金総額、人数、番を報告して欲しい。

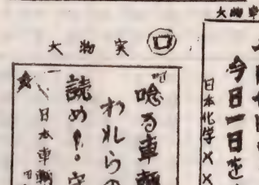
安全であり、而も効果的なビラ張りの方法を一つ提案する。大工場や近代設備の完成した工場や鬼廻りの厳重な精工舎、陸海軍工廠のやうな所では普通今迄の方法ぢやや仲々容易な業でやない。それはビラ、伝単の形が大きすぎたからだ。

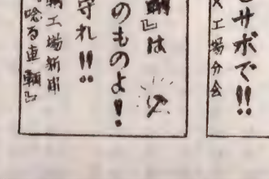
これのために最も軽便にやれる可切手ビラ四をすゝめる。

これは一寸二分四方位の長方の紙にビラ四を印刷する。

この際はなるべくB面かC面のヤスリを使ふこと、A面は粗すぎて文字がハツキリしなくなる。

かうして色紙にスリ終へたら一枚一枚切らない中に裏側へアラビアゴム糊（薬店に行つてアラビアゴムの粉末を指定位置つて来て水に溶かす。とかし方は薬店で充分聞いて来ること。そしてそれまりもやゝ濃い目に溶かすこと）をつけろ。





赤旗
第47号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▲全国労農大衆党を粉砕せよ！……一頁
▲解党派の『組織テーゼ』とは何か？……二頁
▲万宝山及び朝鮮事件について檄す！……四頁
▲国際赤色デーを前にしてドイツのプロレタリアートに送る……六頁
▲鉄の火花……七頁
▲絵附録（八月一日は街頭デモへ！）

全國労農大衆党を——粉砕せよ！(一)

——合同大会に際して——

敵奴ら合同成功をあやぶまれた労農党、大衆党、社民合同派の所謂三党合同が一応七月五日成立した。

合同の最大の難関はなんであったか？中心スローガンを撤回せしめたプアシスト的ブルジョア政党の弾圧であったらうか？否！革命的粉砕をもつ党つかの統等の中心スローガンはさと〳〵プロレタリアートの革命的成長を抑へつけ彼等社会プアシスト共の欺瞞下に止まらせる為のものであって、他にそれに代る好都合な手段（無産階級の大同団結の結成（!!…））があれば、何等それまま再燃する。統者諸君！。石ふ日のケかレを覆起せよ！

を固守するには価しないのだ。それよりも重要なのは党首の問題だ。刑執演りと立身出世の為めの醜悪なブルジョア政治家共のやる事が結党の最大の障害物だったのだ。労働者農民は革命的階級を憑来するこの様な破廉恥な行為を見のがす筈はない。否、革命的労働者農民は既に斯にズット以前から哀切者の本質を見ぬいてゐたのだ！さればこそ彼等は決定的に斗争して来たのだ！

合同政党はゴマ化しの的な綱領政策、スローガンを発表して盛んに宣伝した。如何にも革命的であるかの如く見せかけるために。——それが如何にギマン的であり反革命的であるかについては既に吾党の檄がバクロしてゐる。

そして各々合同大会といふ段取にふって警視庁が組織、政策、スローガン中の数種に対して撤回しろ！といふ社会民主々義者共の御主人ぢらの命令を被等に伝達して来た。被等はOK（イヤサイ承知つかまつりました）とばかりに根本的に降服してしまつた。被等の言ひ分が特にブルってゐるから此処にそのまま再録する。統者諸君！。石ふ日のケかレを覆起せよ！

「今回問題の命令を受けた スローガン『土地を農民に』『一切の帝国主義軍備撤廃』『資本家地主の政府打倒』『階級なき社会の建設』等はいづれも我が党の大会労働組合農民組合の大会等のスローガンとして掲げしかもこれが容認されて来たものであるが、今更これ等を禁止を甘受することは既得権をうばく奪される結果となるから——大衆行動を組織し斯争として資本家地主政府と斗争して斗ひとる！といふのかといふに、そうではなくて全く反対だ。まあ次を読んで呉れ！——「今回の合同大会にはスローガン全部を自然的に継続することし（合同協議会常任委員会の決定——衆朝七月七日）

被等のやり口はこうだ！

被等の御主人様が一つ二つの削除で我慢してやらうと仰せられるのを、いや全部撤回致しますといふのだ。こうまでして資本家地主階級の御機嫌を取り結ばねばならぬとは！なんといふ恥知らずだ！！

（今更則へば社会局が「非常に進歩的（??…）ふ労働組合法案」を要求してゐるとはいへ、明日はブル新聞をしてデカ〳〵と宣伝させ、第一中撃で労働者農民をギマンしておき乍ら没々改悪して行くあのブルジョアジーのやり口を想起する必要もあるまい。被等のやり口は同一だ！）

「今回政党は大衆が斗争を以て購ひし巨城であるし（宣言）とはぢんといふでウ〳〵しい被等だ！合同政党は大衆が斗争を以て購ひし政治的並に組織的諸成果をハク奪し、労働者農民を社会民主々義にトヂ込める牢獄であるのだ！

「本日の光輝ある合同大会はにぶに三波大衆の喜びに止まらず全無産階級の歓喜である。弾圧のうちに開かれたこの合同大会こそ無産階級解放運動の上に於ける記念塔だし（両会の辞）

一、然り！階級的裏切者としての「光輝ある合同大会しだ！

二、三波大衆のみならず全無産階級——ゴマ化しの一表現としての非斗学的現実——の悲哀である。

三、ブルジョアジーは兵を得れば獲を望む。被等はプロレタリアートを擁護し弾圧する場合、決してお上品ぶった遠慮はしふい。増して今日社会民主々義がダラ幹に（ママ）されてゐるとはいへ、ブル新聞をしてデカ〳〵と宣伝させ、第一中撃で労働者農民をギマンしておき乍ら没々改悪して行くあのブルジョアジーのやり口を想起する必要もあるまい。被等のやり口は同一だ！）

「今回政党は大衆が斗争を以て購ひし巨城であるし（宣言）とはぢんといふでウ〳〵しい被等だ！合同政党は大衆が斗争を以て購ひし政治的並に組織的諸成果をハク奪し、労働者農民を社会民主々義にトヂ込める牢獄であるのだ！

「本日の光輝ある合同大会はにぶに三波大衆の喜びに止まらず全無産階級の歓喜である。弾圧のうちに開かれたこの合同大会こそ無産階級解放運動の上に於ける記念塔だし（両会の辞）

一、然り！階級的裏切者としての「光輝ある合同大会しだ！

二、三波大衆のみならず全無産階級——ゴマ化しの一表現としての非斗学的現実——の悲哀である。

三、ブルジョアジーは兵を得れば獲を望む。被等はプロレタリアートを擁護し弾圧する場合、決してお上品ぶった遠慮はしふい。増して今日社会民主々義がダラ幹に（ママ）されてゐるとはいへ、明日は

解◇党◇派◇の『組織テーゼ』とは何か？(一)

解党派の『組織テーゼ』(一)

解党派の政治テーゼが如何なるものであるかに就て吾々は既に数号に亘って、その反動的性質をバクロして来た。吾々は彼等の政治的見解を基礎とする『組織テーゼ』を批判しなければならぬ。

彼等解党派の『組織テーゼ』は日本共産党に対する労働者農民大衆の信頼を破壊することを目的とした彼等の『政治テーゼ』にピッタリと一致してゐる。混乱と誤謬が美麗な表現の下に覆ひかくされてゐることは先づ置くとしても、言党及び日本の革命的労働者に対する不信、侮辱、悪罵に至つては実に驚倒ちならぬものがある。先づ一例をあげれば、第一項に曰く、現在の党員の『大部分は学生や文学青年の集りの中に埋れてゐる。従つてその斗争は決して労働者階級の力を以て斗ふのではなく、只、檄文、新聞、声明書で出来得る事を単的に学生・小ブルジョアジーの中に撒き散らしてゐるに止まる。……彼等の斗争は決して労働者階級の斗争ではなく、全く小ブル的傍観者共の観念的遊戯である』。而も二番目には『現在、党は決して労働者階級の党として独立の存在と活動を示してゐない。唯、一方には、警察プロ科学等々の所謂・組織によつて小ブルジョア運の間に党の名をかつぎ廻ると共に、他方全協、モップル、反帝同盟等に自己の空虚性をさせてゐる丈けである。此等の党外団体は、之れ又小ブル、学生、文学青年、スパイ等に占領されてゐる』と。実々。第一項の終りに曰く『永らく（??!）小ブル、学生達の手に帯ばれてゐた日本共産党を再び労働者の手に依て建設すべき時は今である』。

是れだけの引用でも彼等の意図が何処にあるかは明白だが、もう一つ『労働組合』の項を引用し様。彼等は曰く『全協はプロフインテルンの支部と指称してゐる。然しその組織の指導機関は全部観念的（インテリ及び意識的スパイで占領され、彼等の下にある革命的労働者は実行を伴はない革命的な叫声を聞かされ、只管の党を破壊せよ！』となるものは当然である。支配階級と全ての社会民主々義者共は、吾党及び全国協議会を目して『極左主義者』と呼んでゐる。解党派の紳士達は『スパイの集りだ』と言ふ。見て日本の革命的労働者をゴマカせると考へてゐるのだからおメデたい奴等ではある。甘い手と辛い手とで革命的労働者を分裂させようとする彼等の、仲の良い分業状態を見よ！。その醜悪な意図を見よ！

(二)

解党派は共産党の組織が如何なるものであるかを全然理解してゐない。むも彼等が、それをよく理解してゐたのだったら、——本の上丈けでなく、階級斗争の実践で——彼等は解党派となりはしなかつたではあらうが。『解党派は、吾党の最も弱い部分から発生し』と敵中にある一指導者は語る書信の中で書いてゐる。革命的労働者は党とその生死を共にする。だが常に勤撮する分子は景気のいい方へフラリフラリと出かけて行くのだ。一寸風向きが悪くなるとすぐ『方向転換』だ。共産党は労働階級の前衛部隊である。それは政治的にも組織的にも統一された精鋭な軍隊である。民主的中央集権主義の原則の上に組織されてゐる党は又、鋼鉄の如き規律を有する。之なくしては、政治的統一もなく、行動の統一もないのだ。然るに、彼等解党派の紳士達には是等の条件が悪に喰はないのである。否、日本の支配階級にとつて気に入らないのである。彼等が如何に、五派に、『組織テーゼ』の中で『党は民主的中央集権主義であり、厳格なる規律を保ち組織はならぬ』と言つた所で、現実は、彼等の行動は、口先・ペン先と全く相

反してゐるのである。吾党が、三・一五、四・一六の大打撃を受け、日本プロレタリアートの革命的運動が未曾有の困難に陥入つた時、吾党の再建斗争に労働者大衆を動員する代りに、吾党の解党を主張したのは一体何人であつたか？・支部階級の前に叩共産党をブチコワしまへ！と誓つてシヤア〳〵としてゐたのは一体何処のドイツなのだ？・四宮建の勢力を中心として山労働者革命（笑）をやるとえつたのは解党派の水野成夫でなかつたのか？・天皇を盟主とする叩共産党を作るとえつてゐた御本尊連め、天気晴朗なる一日、突如として『日本共産党労働者派中央委員会』とえふ看板を持ち出したからとえつて誰が本気にするものか。日本の革命的プロレタリアートを愚弄にするにも程がある。

共産党に於て統一とえふことが如何に重要であるかに就て、ソヴエート同盟共産党の数次の大会は述べてをり、同志レーニン、同志スターリンもこのことに就て、実に繰返し〳〵述べてゐる。ブルジヨア学者輩ひの解党派の神士連にこの事が分らないのは無理もない。彼等は、自己の保護を全然認めなかつたばかりか、当時非常に困難な状態にあつた吾党の拡大強化を極力妨害したのである。故に、吾党は、日本プロレタリアートの名に於て彼等を党から除名したのだ。彼等は、吾党の綱領から全く遠く離れてゐたのだ。彼等解党派は、吾党に関する、実に許すべからざる逆宣伝をやつてゐるが、彼等は、かくする事によつて、一才では、吾党の組織に加入せんとする労働者を押し留め――エライ学者さんであり乍ら、解党派の正体を見破ることの出来なかつたやうなお人好しは別だ――他方では、既に党内にある労働者諸君を惑乱させ、その為に必要な組織を破壊するふとい、その事に、吾党が、三・一五、四・一六の大打撃を受け、日本プロレタリアートの革命的運動が未曾有の困難に陥入つた時、吾党の再建斗争に労働者大衆を動員する代りに、吾党の解党を主張したのは一体何人であつたか？・支部階級の前に叩共産党をブチコワしまへ！と誓つてシヤア〳〵としてゐたのは一体何処のドイツなのだ？・四宮建の勢力を中心として山労働者革命（笑）をやるとえつたのは解党派の水野成夫でなかつたのか？・天皇を盟主とする叩共産党を作るとえつてゐた御本尊連め、天気晴朗なる一日、突如として『日本共産党労働者派中央委員会』とえふ看板を持ち出したからとえつて誰が本気にするものか。日本の革命的プロレタリアートを愚弄にするにも程がある。

共産党に於て統一とえふことが如何に重要であるかに就て、ソヴエート同盟共産党の数次の大会は述べてをり、同志レーニン、同志スターリンもこのことに就て、実に繰返し〳〵述べてゐる。ブルジヨア学者輩ひの解党派の神士連にこの事が分らないのは無理もない。彼等は、自己の保護を全然認めなかつたばかりか、当時非常に困難な状態にあつた吾党の拡大強化を極力妨害したのである。故に、吾党は、日本プロレタリアートの名に於て彼等を党から除名したのだ。彼等は、吾党の綱領から全く遠く離れてゐたのだ。だからこの除名は当然すぎる程当然である。然るに彼等は、多くの前衛が党内にツ五、四・一六の大打撃を受け、日本プロレタリアートの革命的運動が未曾有の困難に陥入つた時、吾党の再建斗争に労働者大衆を動員する代りに、吾党の解党を主張したのは一体何人であつたか？・支部階級の前に叩共産党をブチコワしまへ！と誓つてシヤア〳〵としてゐたのは一体何処のドイツなのだ？・四宮建の勢力を中心として山労働者革命（笑）をやるとえつたのは解党派の水野成夫でなかつたのか？・天皇を盟主とする叩共産党を作るとえつてゐた御本尊連め、天気晴朗なる一日、突如として『日本共産党労働者派中央委員会』とえふ看板を持ち出したからとえつて誰が本気にするものか。日本の革命的プロレタリアートを愚弄にするにも程がある。

共産党に於て統一とえふことが如何に重要であるかに就て、ソヴエート同盟共産党の数次の大会は述べてをり、同志レーニン、同志スターリンもこのことに就て、実に繰返し〳〵述べてゐる。ブルジヨア学者輩ひの解党派の神士連にこの事が分らないのは無理もない。彼等は、自己の保護を全然認めなかつたばかりか、当時非常に困難な状態にあつた吾党の拡大強化を極力妨害したのである。故に、吾党は、日本プロレタリアートの名に於て彼等を党から除名したのだ。彼等は、吾党の綱領から全く遠く離れてゐたのだ。だから、

聲座に抱して益々強固に鍛えられ、広汎な勤労民衆と結び付いて行く朝鮮共産党を持つてゐる。兄弟姉妹諸君！諸君は諸君の利益を代表して斗ふ革命的指導者に從はねばならぬ。諸君は諸君の同志達によつて遂行されたソヴエート樹立の輝しい玉獄に從はねばならぬ。日本帝口主義と、それによる地主、軍閥の反革命的中口政府に対して斗争せよ！それのみが諸君を民族的抑圧と搾取から解放し、帝口主義日本よりの民族の完全なる分離独立を約束する。

親愛なる同志諸君！日本のプロレタリアートは全力を以て諸君の斗争を援助する。吾々は吾々の敵であり、同時に諸君の敵であるブルジョアジーの敵に対して諸君と共同して決然的に斗ふであらう。これこそは日本プロレタリアートの輝しき義務であり、又、之によつてのみ吾々は吾々の勝利を確保し得るのだ。

中口、朝鮮並に日本の労仂者農民諸君！ソヴエート同盟、並に斗争する中口の勤労者に対する日本帝口主義の反革命的干渉戦争をうち仆せ！戦争を内乱へ！は勤労者の一貫した要求であり、英雄的行動の指標である。同志諸君！民族的偏見の凡ゆる残滓を投出捨てよ！腕を組んで打倒日本帝口主義の革命的共同斗争に蹶起せよ！諸君の口にソヴエートを樹立せよ！

一九三一年七月十六日　日本共産党

日本共産党に対する白色テロルの日に。

国際赤色デーを前にして
ドイツのプロレタリアートに送る

危機あるドイツのプロレタリアート諸君！

口際赤色デーを前にして日本のプロレタリアートは諸君に挨拶を送る。

全世界は今や再び一九一四年の直前に立つてゐる。世界ブルジョアジーの最大の罪悪と社会ファシスト共の最も破廉恥な裏切りと而して革命的プロレタリアートの決然たる英雄主義が再び全勤労民衆の生々しい記憶に呼び戻されてゐる。だが、一九三一年の今日に於て彼等は最も偉大な新しい事実の前に立つてゐる。ソヴエート同盟を守れ！数億の叫び声はこのスローガンに唱和してゐる。

同志諸君！全世界のプロレタリアートは勝利に向つて前進する。戦争と革命の時期に於て強国に鍛えられ、今唯一の祖口を死守する彼等は勤労者の計り知れぬ犠牲と大衆虐殺の脅威の前に退く事を知らぬ。教義者の戦争を内乱へ！彼等は只勝利することを知るのみだ。

信頼する同志よ！赤色ベルリン及び全ドイツのプロレタリアートは飢餓、緊急令に対し、プリユーニングの政府とヤング奴隷制に対して最の如き大衆示威を以て答へた、ブーバーもロンドンの救済会議も切迫した革命の勝利の前にファシストの祖口を救ふことは出来ぬ。四百万の失業者と白色テロルの口K民衆が欲してゐるものは労仂とパンと而して自由である。日本のプロレタリアートはガールとロース坎の口に、一九一八、一九、二〇年と一九二三年の革命の口に、次K来るものは何であるかを知つてゐる。

ドイツの革命的プロレタリアート諸君！

口際赤色デーの厂史は諸君の英雄的斗争によつて輝き、力強く記念されてゐる。厂史的な今年の八月一日を前にして日本のプロレタリアートは敏感を以て諸君に固き結盟の握手を送る。その日日本の労仂者は街頭で叫ぶであらう。斗争と勝利に向つて驀進するドイツのプロレタリアートを援助せよ！ドイツプロレタリアートの革命的斗争万才！

同志諸君！諸君の口に偉大な階級戦の日が近付いてゐる。全力を以て勝利の日を準備せよ！全世界の勤労者は斗争によつて飾られてゐる。御育な武力的干渉の準備を以てソヴエート同盟の極東の地域を脅威し、苦斗しつゝある中口の勤労者を脅圧する日本帝口主義に対して決死的に斗ふことは吾々の名誉である。

ブルジョアジーの攻勢を仆レソヴエート日本を打建てることこそ偉果の被圧迫勤労民衆によつて、又、口際プロレタリアートによつて課せられた日本プロレタリアートの最も輝しき使命である。

一九三一年七月十八日

日本共産党
日本共産青年同盟
日本労仂組合全口協議会
全口労仂組合同盟革命的反対派
帝口主ギ反対民族独立支持同盟日本支部
日本赤色救援会
『赤旗』編輯局
『赤旗』印刷局
『ヰニ無産者新聞』紙
『レーニン青年』編輯局
『レーニン青年』印刷局
無産青年紙
労仂新聞紙
反帝新聞紙
救援新聞紙

鉄の火花

ソヴエート同盟人民委員長 同志ヒトラー

最近の満洲朝鮮に於けるブルジョア政治に"眼を向けろ！

上野生

党が政治テーゼ草案の中で、現在の国際情勢の下に於て日本帝国主ギにとつて満洲問題が如何に重要であるかについて強調してから一月も経たない中に、満鉄内田新総裁の就任、朝鮮総督の交迭が行はれ、朝鮮満洲への増兵が公開されてゐる。この事は、党の満洲問題に対する見解が全く正しかつた事を確証した。

我々は、日本の帝国主ギブルジョアジーが"東洋のバルカン"同日本資本主ギの心臓部と呼ばれる満洲に対して最近より一層組織的に侵略を遂行せんと準備してゐることを知ることが出来る。

満洲は資本主義地主にとつて、ソヴエート同盟、支那革命、朝鮮革命共通の根拠地なのだ。党は、即時孔やる出版物に於てソヴエート同盟擁護、朝鮮革命擁護の斗争を煽動宣伝し、日本帝国主ギに依るプロレタリアートの粗暴の破壊、搾取同胞虐殺の行為を全力を以て阻止しなければならぬ。そして特に近き八月一日の記念斗争日を目がけてこの斗争を最も積極的に行ふやうにしなければならぬと思ふ。

朝鮮、満洲、中国に於ける日本派遣軍を即時撤退しろ！
中国朝鮮の革命運動を守れ！
ソヴエート同盟を守れ！
国際プロレタリアートの共同斗争万才！

★ ★ ★

親愛なる同志片山 潜へ

全日本交通運輸労働組合
××鉄分会
国鉄労働者より

同志片山には長いこと病気の床に臥してゐられると組合の人から聞いて俺達国鉄労働者も皆心配してゐる。どうか専心保養に努め一日も早く元気を快復して俺達の本当の味方コミンテルンの為めいて貰へる様国鉄労働者一同心から期待してゐる。

俺達の赤ん坊の頃から、労働者農民の先頭に立つて、労働者農民の本当の味方となつて、憎みても余りある資本家、地主と斗つて来、今は遠いロシアから指導の手を差延べてゐる親愛なる同志片山！・貴下の名は日本共産党と共に俺達労働者農民は一刻だつて忘れたことはないのだ！・だが俺達の力の弱い為に貴下を未だソヴエート日本に迎へ入れることの出来ないのは残念で堪らない。然し俺達国鉄労働者も今は、ハツキリと曜めて、日本共産党、全国民戦会の旗の下にモリ〳〵と斗争を進めてゐるから、あの丸の内の千代田城に国賊片山を迎へ入れる日も間近に迫つてゐる。

同志片山、病気中は何事も考へず唯ソヴエート・ロシアの社会主ギの輝しい発展を眺めて一日も早く元気を快復されんことを望む。

俺達は貴下の健康の快復を心から希願してゐるのだ。

一九三一年六月廿九日

ソヴエート・ロシア労農視察団派遣運動を具体化せよ！

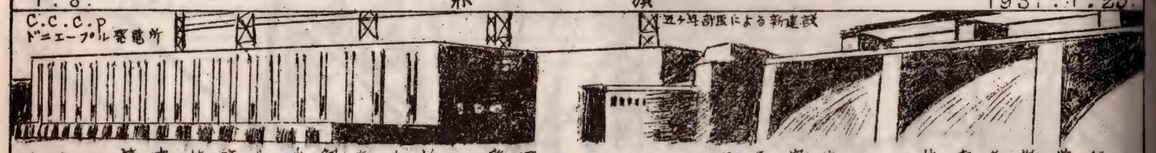
××× ×子

四十四号の労農視察団派遣に就ての二同志の提案は、ソヴエート同盟労働者と、我々日本の労働者との握手と云ふ事を具体的に提出した点で、近頃嬉しい論文であつた。私達はこの提案を提案だけに終らしてはならないと思ふ。是非とも実現しなければいけない。この文章を読んで一抹寂寞の感を受けたが二度三度赤旗を読んで一層痛切に感じた、――党員にならねばウソだ、と。日本共産党は雲の上にあるものではない。かゝることは今までやゝともすれば考へ勝ちな誤れる考であつた。その反対だ。党は大衆の中にあつてその先頭にある。プロレタリアートの解放運動の為に文字通り死をも恐れず戦ふといふ抜くべからざる決意を持つ者は誰しも党員たり得るのだ。又党員たらねばならぬ筈だ。いつかの赤旗パンフレットにあつた如く吾々は吾々自身が党員たる事に依つて党を拡大強化せねばならぬ。

私は尚多くの――実に多くの――組織を持つてゐる労働者を持つてゐる。これは以前に比べてかなり清算されたと思ふがまだ〳〵欠点だらけだ。かく云つて徒らに悲観してゐるのではない。弱いからこそ斗争によつて強くなるのだ。貧弱なるが故にこそ斗争を通して内容豊富なものとなるのだ。

近々私は自己批判を書いて見度いと思ふ。是れについて同志諸君に批判を乞ひたい。峻烈な批判を受ける事は自己の内容を豊富ならしめる為の最も良い一つの道である。

★党員採用に現れた極左的傾向――セクト主ギを清算せよ！★



赤旗第四十二号を読む

××× ×

赤旗が四十二号はほんとうに素晴らしい。今までの赤旗の中で一番纒つてゐると思つた。

内容がどこまでも具体的で政治的だ。かうした内容を持つた論文は吾が党の機関紙にしてのみよくなされ得ることだ。猶俄津南雄や解党派の奴等や乃至は所謂学者と呼ばるゝ人々の論文は分つても分らなくても生気が無いのは当然の事だ。彼等に於て一致するところは革命的実践から学ばうとしない事だ。机上の空論に生気があらう筈はない。

赤旗が四十二号に就て物足りぬのは工場農村からのレポートが無いことだ。これはこの号がそれを掲載すべき余地が無いことに起因してゐるのだらうが少しでもよいから載せてほしかつた。

プリントにする人の努力は実に絶大なものだらう。我々は全く赤旗を活版にしたいものだ。そしてもつと内容豊富にしてすべての読者に親しみ読まれる様になつたらどんなによい事だらう。

★日本共産党の任務

こゝに述べられてゐる内容を略述すると、

一

共産党とは如何なる政党か――

共産党は何を究極的な目標として斗争してゐるか。日本に於ける革命の客観的条件と主観的条件。日本共産党はコミンテルンの日本支部である。

日本共産党が過去に犯せる誤謬。

然しながら我が党は、甲多くの困難と欠陥とを有しながらも、そして、赤旗の如き困難な情勢下にありながらも、コミンテルン日本支部の旗を確守として若く揚げて守りつゞけて来た。

今日の状勢下に於ける経済斗争の意義と労働階級の斗争要求。今日の状勢は我が党に如何なる任務を課してゐるか？プロレタリアートの政党は共産党のみである。日本共産党の拡大強化の遂行の為には何がなされねばならないか？党拡大強化のスローガンは、甲大衆へ！・乙甲大工場へ！・乙である。

大略以上の如きものである。これは読んで完全に理解する事が出来た。理解したゞけではない、感激を受けた。

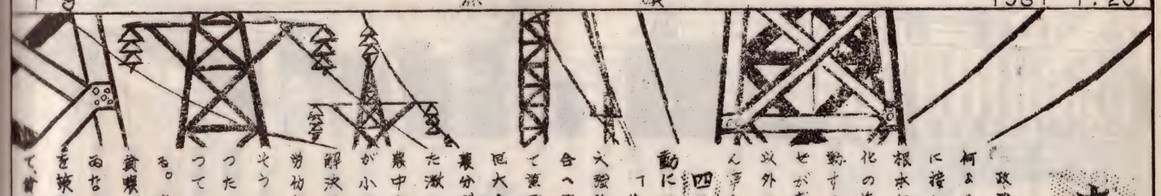
★府県会議員選挙を如何に戦ふべきか？

七項、三級「試金石に対する共産主義者の関係」は「！・！」の餘度」の誤りであらう。

こゝで強調しなければならぬのは「政党は革命的斗争の副産物である」といふ事だ、「部分的要求の為の斗争が"ブルジョアジーの权力を打倒土ギの為の斗争"になつたり「共産主ギの為の斗争はなる」といふ点乙（ロシアのスキリ）であると思ふ。

★党員採用に現れた極左的傾向――セクト主ギを清算せよ！★

P.9 赤旗 1931.7.25



赤旗第四三、四四号を読んで

××生

政治テーゼが要求されたことを何より喜ぶ。赤旗を通じてテーゼに沿した一人として今后この党の根本方針の下に、正しい戦術の大衆化の為に自分の場所で能くまで活動するばかりだ。全時にこのテーゼが適当な範囲を通して赤旗読者以外の大衆にも、一日も早く示されん事を望む。

四三号 テーゼのうち「農民運動について」に関聯して……

「貧農の組合としての全農の拡大強化をはかりこれを赤色農民組合へ発展させるし任務は今日極めて重要な仕事だと思ふ。全農第四回大会以来右翼指導者によつて全農分裂の危機が深まつてゐる。また激化した農村における斗争は全農中央委員会をして「小作争議等が小作争議の戦術では最早有利に解決され来なくなり、労働組合戦術・労働争議戦術を必要とするやうなやうした争議斗争が頻発するに至つた」と云はしめてゐる事によつても、その重要な点がハッキリする。現在全農は貧農の力が強いが貧農が組織的に指導权を確保してゐない。右翼はそこに乗じて分裂を策動してゐる。現在の全農に於て、前記の動向を組織的に確保し、赤色農民組合に発展させる為に全農内部に於て全農右翼は如何に活動すべきかに就て具体的方針が示されるのを待つ。従来の戦斗化反戦会、又全農左翼の参加的結成の問題等々に関聯して、われ〳〵の間にもハッキリした見解が欠けてゐると思ふので殊に重要に思ふ。

四四号 「婦人運動について」

日本の産業の重要な部門が繊維産業にある。その為に婦人労働者の数は、全労働者数から見ると三二%、工場労働者だけから見ると四八%にまで上つてゐる。(社会局調査)これは日本の運動の中で婦人の持つ役割が重要且つ大きい一つの基礎である。此点に就ては、ハッキリ認れる必要があると思ふ。

「失業者運動について」 失業者の数が「二百万を越えてゐる」とある。太平洋労働組合調査部の一九三〇年十一月の機には「二百五十万」とあり、その外右翼の文献では最近多く二百五十万と訂正したやうである。不断に物凄く増大してゐる失業者に就て吾々の立場からの策略は困難だが気づいたから記す。

「国際問題」について、帝国主義戦争の危機は支那を中心にして、さへ全く堅固としてこのスローガンを掲げてゐる。妖雲の如く濃厚を暴露し、党の戦術を具体的に対立させる事は必要だと思ふ。全時に日本の労働者は世界に例の無い警察的軍国主義的国家を形づくつてゐる。帝国主義戦争反対の斗争は軍隊内に対する働きかけ、兵士大衆の間の活動と、それを吾々の側へ獲得する為の活動を重要な仕事としてつけ加へる必要があると思ふ。

★

簡易××工場新聞編輯部の提案した「サヴエート同盟へ使節を送れ」に大いに賛成する。

編輯後記

一、従来赤旗は拡大な頁数をもつて不定期に発行されてゐた。多くの読者諸君はこれに対する批判を送つてよこした。編輯部もこれと同じ考を持つてゐたので、この第四十七号から即時次の二項を実行する事とした。

一、毎週定期発行をする。

一、頁数は一〇頁以内とする。

一、「鉄の火花」にはいつも多くの投稿が集る。然るに殆ど全部が「××号を読みて」式なのは少なからず物足りない。諸君は何も赤旗(××号)に遠慮する必要はない。諸君はもつともつと自由に(闘争的に)創意を発揮しなければならぬ。諸君の投げ持つ斗争の分野に於て大々勝れた知識を経験を積極を自己批判を持つてゐる筈だ。全口の同志諸君がそれに就て「鉄の火花」で話し合う事が出来たらどうだらう。「鉄の火花」は諸君の武器だ。鉄の火花を発する時を待つてゐるぞ！

一、同志と山積の病気の為かなる映像は我日本の労働者農民の全部が望んで止まぬ処だ。口絵の労働者諸君にならつて思想状をどしどし送らうではないか。

一、昨四十六号巻頭「川崎造船所のストライキについて」は新聞記事が発表された六月十一日に書かれたもの。赤旗パンフレット十才十一輯「農業農民問題」の校編は四月廿一日に書き上げられたもの。発表が非常に後れた事を読者諸君に謝す。口絵赤色テーを直ぐにして党員並に読者諸君の奮斗を祈る。

赤旗編輯局

★ПРОЛЕТАРИИ ВСЕХ СТРАН СОЕДИНЯЙТЕСЬ
万口の労働者団結せよ！

P.1 赤旗 1931.8.5(MK)

赤旗

第八号

日本共産党中央機関紙
日本共産党及コミンテルン国際共産党日本支部

目次
▼全口労農大衆党の金看板 ——(二)頁
▼検事局・内務省・文部省等と手を握つてゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！ ——二頁
▼党組織の政治生活に関する決定 ——四頁
▼即時婦人部を設置せよ！ ——六頁
▼鉄の火花 ——七頁
▼編輯所録(合同反対を粉砕せよ！日本共産党拡大強化万才！) ——七頁

全國労農大衆党を粉砕せよ！(二)

——細◇領◇批◇判——

全口労農大衆党の金看板——綱領——は次の如くだ。

「一、我党は労働者農民無産市民の大衆的結合体として全被圧迫大衆の日常利益の擁護伸張のために斗ふ

二、我党は資本主義諸制度の改革を徹底し以て無産階級の解放を期す

三、我党は労働組合、農民組合その他無産大衆諸組織の拡大強化に努め、これが目的達成のために斗ふ。」

××

一、被等はプ党綱領全体を有する唯一の革命的階級たる労働者階級を積極的な無産市民等とゴッチャにし、一括してこれを可動産階級と呼ぶ。これは単なる言葉の問題ではなくて、政治的に織つた表現である。彼等はプロレタリアートの革命主義を小ブルジヨアの改良主義に置き換えた。そして小ブルジヨアの社会民主々義的ブルジヨア政党主義的雑炊党をプロレタリアートの唯一の党日本共産党に対抗させた。プロレタリアートをギマンし去りて小ブルジヨアジーのヘゲモニーの下にチツ息せしめようとする合法的共同戦線党の反革命的本質はコミンテルンが各口に於ける重要な革命的転換の時に直言しにばかりでなく、各口に於ける日常斗争が益々重要なりとした中心スローガンを始め多くの政策を、看視人の命令のまゝ、K君々として平気でカイレに事実こそは、彼が自らその「党籍ある」(??)ヒタイに烙印した「党籍ある」(??)社会民主々義の商標だ！それは決して「全被圧迫大衆の日常利益の擁護伸張のために斗ふ」ものではなくて、却てそれを買切り、それを縮少するものだ。革の内出に比すべき結党に際して、被等は既に「既得権をうやく奪されるしことを「容認」したではないか。西、自ら進んで、プロレタリアートが死を以て斗ひとつてゐた既得権をプロレタリアートの手から奪つてブルジヨアジーに献上したではないか。

階級斗争が異常に尖鋭化した今日の段階では社会民主々義的改良主義的戦術では最早や「日常利益の擁護伸張」すら甚しく困難であるばかりでなく不可能であるであらう。

例へば洋モス住友製鋼等のストライキを見よ！労働者大衆は全口同盟や大衆党の裏切り幹部の必死の努力と被圧迫の攻勢動揺にも拘らず自然発長的に社会民主々義的改良主義的戦術を押しのけて革命化しつゝあるではないか！

同志諸君！具体的事実を見よ！

鋼領第一項は完全にギマンであり免全に裏切りである。

二、「資本主義諸制度の改革を」どんなに「徹底」しても「無産階級の解放」は断じて不可能だ。資本主義を打ひしない限り、即ち資本主義の存続する限りは、労働者農民被搾取被圧迫大衆は決して解放され得ない。ブルジヨア独才を打ひしプロレタリア独才を樹立しない限りそれは絶対に不可能だ。

日本帝口主ギを打せ！

天皇を打せ！

資本家地主政府を打せ！

労働者農民のリヴエート政府樹立！

プロレタリアートの独才樹立！

リヴエート日本の建設！

をゴマ化したり、カクしたりすることは断じて許されない。なんとなれば最早今日ではこれらくしては、筋肉的解放は勿論のこと、日常利益の擁護伸張すらが決して徹底され得ない。然るに、全口労農大衆党は凡てこれを不問に附したばかりでなく、資本主義を「改革」しさえすれば、労働者農民勤労階級解放の為の闘争が可能であると主張する。これが階級的裏切りでなくて何か！

を基礎として立派な（？！）政治テーゼや革命や組織テーゼ等を発表することによって、奴等こそが『日本共産党の本流』だといふ様に日本プロレタリアートに思ひ込ませ、そして日本プロレタリアートをカッサラッて社会ファシスト党を完成しようと考へたのだ。日本共産党をブッ潰さうと考へたのだから吾々は奴等の発表する出版物は以上の様な理由から恐らくマルクス＝レーニン主義的に完ペキなものであるだらうと期待してゐた。さうあるのが当然だからだ。所が豈図らんやだ。吾々の既に見れば見る程、又これからも引続き見る如く奴等の出版物は実にクダラない混乱のゴッタ煮だ。処ってゐるものは事実無根のデマのみだ！！そこにあるものは日本のプロレタリアートの混乱ではなくて、解党派の頭脳の混乱だ！！こんなことでは日本共産党ブッコワシ等は夢にも夜はない。

天皇主義の大山郁夫、水野成夫、藏井米三、村尾薩男、浅野晃、門屋博、南吉一、菊田善五郎等々の紳士諸君！諸君の此の無能は一体どうした事か！？吾々は諸君の在りし昔を知つてゐる。吾々は諸君の小才の利く事を知つてゐる。更に吾々は諸君と検事局、内務省、文部省等の一切のブルジヨア機関との緊密な関係の事実を見てゐる！

一切の条件がかくも完備してゐるにも拘らず、諸君は再び日本共産党ブッコワシ運動の最初の一歩から完全に失敗してゐるではないか？！！優れたブルジョアジーも大きな目違ひをしまものだ！！期待は全く裏切られた。余りにも馬鹿々々しくて大人気ないが又批判に立帰らねばならぬ。

★ ★ ★

大地主――解党派は大地主イコール封建的貴族的大地主と考へてゐるが、封建的貴族的大地主以外には大地主はないと考へてゐる。そしてかくの如き大地主――貴族地主――は明治維新に『日本からその跡を絶つたのだ』から今日は存在しない。（イノマタの『大土地階級』に対する見解は本四三号の引用で見よ。乗晴しい迷論だ！！）だから『大地主を仆せ！大土地所有の没収のスローガンは、かくて日本の地主の性格を知らないロシア的農民運動の盲目的装飾であり『封建的貴族的大地主』ではさうだ。解党派は大胆にも五千の地の没収！！を絶叫してゐる。では、彼等のいふ地主とはどんなものか。

地主――(1)『日本の地主は、身分的には小作人と同じである』さうだ。この限りでは、地主イコールブルジヨアといふ方程式が成立する。

以上の関係から

(1)『我口に於ける地主対小作の対立は……ムシロ農民層内部に於ける対立――富農対貧農の対立であり……農業ブルジヨアジー対農業プロレタリアートの対立に近い性質を持つてゐる。』

スパラしい方程式が成立する。（余りにも明かな反革命的理論だ。批判の限りに非ず！！）

(2)『吾口に於ける現在の地主は……身分的には農民の上層たる富農的地主である』さうだ。この限りでは、地主（吾々の所謂大地主も含めての全地主）イコール富農的地主といふ方程式が成立する。

(3)『我口に於ける地主が厂史的社会的にムシロ農村ブルジヨアとして出現したもの』であり、現在では云ふ迄もなく農村ブルジヨアである。だから『金融資本と農村地主との間の対立は本質的には異なるブルジヨア階級内部の対立にすぎず、金融資本と産業資本との間の対立と何等の相違もないもの』さうだ。この限りでは、地主イコールブルジヨアといふ方程式が成立する。

以上の関係から

(1)『我口に於ける地主対小作の対立は……ムシロ農民層内部に於ける対立――富農対貧農の対立であり……農業ブルジヨアジー対農業プロレタリアートの対立に近い性質を持つてゐる。』

といふ結論が彼等によつて引き出されるのは当然だ。

同志諸君！これは一体何のことだか分りますかへ？！！狐につままれたやうな気がしませんか？！！本質的関係は何かの？が明確に理解出来るか？！！

解党派に代つて解党派の混乱の論理に一貫性を与へる労を筆者は負担しなければならぬ。解党派の結論は、地主はブルジヨアだ。小作人は農業労働者だといふことにならなければならぬ。（彼等の高利地代論、ブルジヨア政府論等の批判参照）

そこで筆者は解党派の誤謬を要約的に指摘しなければならぬ順序に到達した。

(1) 帝口主ヤ口日本の支配的な農業生産関係は半封建的である。資本主義治下の零細農地に於ける生産物形態の半封建的な高率小作料を収得しつゝあるから、る地主は半封建的な性質を有する。ブルジヨアジーではない。半封建的地主のか、る本質を撤廃して一挙に地主イコールブルジヨアと解するところに彼等の致命的誤謬が存する。日本の地主が同時に質屋であり、酒屋であり、肥料屋であり、会社屋であり、銀行屋であらうとも、即ち同時にブルジヨアであらうとも、そのことの故に地主の地主としての本質を抹殺することは完全に誤りだ。

『現在、地主勢力は、権力に関しては従位を占めてはゐるが、併乍、その事は彼等の勢力が一ケの力として存在し

てゐないことを示すものではない。』

(2) 寄生的大地主と富農とをゴッチヤにすることは大きな裏切りだ。それは結局大地主を擁護するものだ。寄生的大地主（吾々は大まかに云つて十町歩以上の地主を大地主と規定してゐる）と富農とは共にプロレタリアートの断乎たる敵であるが、両者に対するプロレタリアートの態度は決して同一ではない。

『天皇、大地主、官公有、寺社地の没収』は何等の容赦なく、例外なく、無償で断行されねばならぬ。だが、富農の土地は恐らくその一部が没収されるに止るであらう。等々の差異があるのだ。彼等の裏切りは更に延展する。

(3)『対金融資本の斗争に於ては、富農要素すらも参加』するさうだ。彼等に従へば今日の段階は一重に打倒金融資本の民階なのだから、富農は今日、革命的一努力であることに在る。だから『地主――地主は凡て富農だと彼等は云つてゐる――地の没収！』はナンセンスと化するわけだ。『地主地の没収！』はウソなのだ。

一見スパラしく革命的であるかに見える解党派の極右主義の正体はこれだ。

(4) 彼等は決して『土地を勤労農民へ！』のスローガンを掲げない。否、掲げないばかりでなく、例によつて極右的ゴタクを並べて、このスローガンに反対してゐるのだ。（彼等が反対するからとえつて誰も驚きはしないが。それが彼等の正体だ！！）

党組織の政治生活に関する決定

『我々の組織の基礎は工場細胞である。』此れは何人にも明白なるひの如くである。然り、誰も彼も言葉の上ではこの事を繰り返す。だが、実践的には非常に不充分にしか理解されてをらぬ。一九三一年初頭に当つて我々が予一についてゐといふパンフレットの内容は何であつたかの？第一に、党組織の基礎である工場細胞の重要性、第二に、工場細胞の生活、第三に、党員大衆のイニシヤチーブの発揚が、述べられてゐた。而して全体を貫く赤い糸――それは党組織全体の政治的生活を強調するにあつた。

経済危機の深刻化、それに伴ふ階級斗争の尖鋭化、それに関する指令』といふ具合に、これらの条件が我々の組織を拡大強化するために利用されねばならぬこと――かうした展望を基礎として書かれたのが右のパンフレットであつたのだ。然るにこのパンフレットの真意は多くの同志達にはまだ理解されずにゐるのだ。

一つの例をとらう。党我同紙に発表される論説文は、その時々に起つてゐる党中央部の政治的諸問題、又は将来起り得べき問題に対する党中央部の政策を取扱つてゐる。我々は以前、『××に関する指令』といふ具合に、次から次へと『指令の雨』を降らしてゐた。これは極右的ゴタクを並べて、このスローガンに反対してゐるのだ。（彼等が反対するからとえつて誰も驚きはしないが。それが彼等の正体だ！！）

地主（即ち富農）の土地を没収し得ないのだから、土地の一部を勤労農民に分配することは出来つこないのだ。かくて彼等は日本の土地問題解決を放棄する。貧農等をプロレタリア革命に動員することを放棄する。

彼等の戦略はそれ故に土地問題解決を放棄する戦略だ。天皇、大地主、官公有、寺社等の大土地所有の永久化のための戦略だ！！

日本のプロレタリア革命に於ける農業革命を実質的に放棄することによつて、プロレタリアートと貧農の同盟を不可能にし、プロレタリアートを孤立に陥入れ、以て帝口主ギブルジヨアジーの支配を永久化せんとする戦略だ！！

の全体的活動が、工場を基礎として展開されねばならなくなつた時、我々の従前の方法では全く活気ある活動が不可能に近いことを知り得たのである。中央機関紙は出来る丈け具体的に、諸種の問題を扱ふのであるが、それは全口的立場から観察してゐる。従つて、そこで発表されも方針は基本的には、全口的な実行され得ねばならぬが、その方法手段に至つては、各地方の特殊状態が考慮されねばならぬ。方針又は論文の中に、我多の例証があげられてあつたが、それらはおほむね一定の地方に限られてゐた。（例へば東京、大阪、神戸といふ具合に）。そこで余さんと試みたのは要するに活動を展開するコツである。細々しい技術的方面は、各下層組織が最大限に自己の創意性を発揮して行けばならぬのである。

この為に、各細胞は――工場細胞にしろ街頭細胞にしろ――中央機関紙に発表される重要な問題に就て一々討議しなければならぬ。これは党が統一され政治的見解の下に結集される統一的政治組織である為に是非行はねばならぬことなのである。我々は幾度かこのことを繰返し〳〵述べて来た。更に又、この討議の結果得られる一定の結論を上部機関に上申する必要をも述べたのである。それにも拘らず今日に至るまで、かくの如き重要な、政治的生活に欠くべからざる程重要な、この決定を実践してゐる細胞は可成りに少いのである。党中央機関紙に対して集団的討議の態度を採り、如何にして実

残するかを常に注意深く審査して来た関西地方の一細胞ですらその報告書には又、何月何日の細胞会議にはドシ〳〵発表する。そしてそれらの中に同志はドシ〳〵発表する。そしてそれらの中に同志はそれが党組織全体にとって必要ぶりと考へる場合には如何なる問題を議題にしにかと云ふ討議日程のみをあげてゐるのである。少くも、今日では我党全体を通じて模範的とされ得る活動を——組織の拡大、日常斗争の組織、大衆的組織の結集等々に於て——やってゐるこの細胞ですらかくの如く自己の政治的見解を明白に述べて来ないのである。中央部の決定は直ちに実行しなければならぬ。併し、それは、中央部の見解に対して各党員が自己の見解を述べてはならぬことを意味するのではない。中央部で決定されたものが正しいならば、何故正しいのかといふ見解を（たとへ簡単であらうとも）明白に文書として送らねばならぬ。多くの指導者が奪はれた今日、我々は全体として、政治的にも、組織的にも統一されてゐなければならぬ。中央部の決定は各組織からの協力によってのみ、より完全に近いものが出来上るのである。即ち、全体の集団的統一的労作のみが党の、正しい政策を作り出すのである。従って中央部の決定は各党員全体が責任を負はねばならぬものである。我々は一つ一つの決定に対して実に敏感であねばならぬ。それは、各党員がそれ〴〵の決定に対して自ら責任を負はねばならぬからである。党の諸決定に対する無関心的態度に対しては徹底的に斗争されねばならぬ。メーデーに関する指令に於て、東京地方にある或る組合が我党の方針に反するが如きことを述べたのは、我党員の此の組合に対する指導が行き渡ってゐなかったといふよりも、我党員の或人々が党の方針を正しく理解しなかった点にある。党の方針を歪めて理解することが如何に害毒を流すものであるかはこれを以て見ても分るのである。

中央機関紙に発表される重要決定は各細胞、細胞全体としての決定は各党員全体が責任を負はねばならぬものである。我々は一つ一つの決定に対して実に敏感であねばならぬ。それは、各党員がそれ〴〵の決定に対して自ら責任を負はねばならぬからである。党の諸決定に対する無関心的態度に対しては徹底的に斗争されねばならぬ。メーデーに関する指令に於て、東京地方にある或る組合が我党の方針に反するが如きことを述べたのは、我党員の此の組合に対する指導が行き渡ってゐなかったといふよりも、我党員の或人々が党の方針を正しく理解しなかった点にある。党の方針を歪めて理解することが如何に害毒を流すものであるかはこれを以て見ても分るのである。

中央機関紙に発表される重要決定は各党員全体が責任を負はねばならぬものである。我々は一つ一つの決定に対して実に敏感であねばならぬ。それは、各党員がそれ〴〵の決定に対して自ら責任を負はねばならぬからである。党の諸決定に対する無関心的態度に対しては徹底的に斗争されねばならぬ。メーデーに関する指令に於て、東京地方にある或る組合が我党の方針に反するが如きことを述べたのは、我党員の此の組合に対する指導が行き渡ってゐなかったといふよりも、我党員の或人々が党の方針を正しく理解しなかった点にある。党の方針を歪めて理解することが如何に害毒を流すものであるかはこれを以て見ても分るのである。

1、各細胞は中央機関紙に発表されたる重要決定は各細胞、細胞全体としての

全協分会は

宗派的孤立主義を克服して大衆的分会にからねばからぬ

月阪生

プロフィテルンの全協に関する決議が発表されてから、半年以上の期間が過ぎてゐる。全協はこの決議を系統的に企業内に於て実践し、ようと努力してゐることは充分承認する（失反斗争、メーデー斗争等々）が未だ〳〵不充分にしか遂行されておらい。事有は最近極く短期間二つの工場で至験した全協分会及び革命的反対派の活動を可能ふる限り具体的に述べ事有個人の一般的結論をふして同志諸君の参考に供しよう。

前述の二つの工場の一つは千名程の金属工場であり、一つは数千人の口家企業であるから、何れも日本帝口主義にとつては重要ふ部

↑日本プロレタリアートの父 同志片山 潜

鉄の火花

例一、金属工場から述べやう。

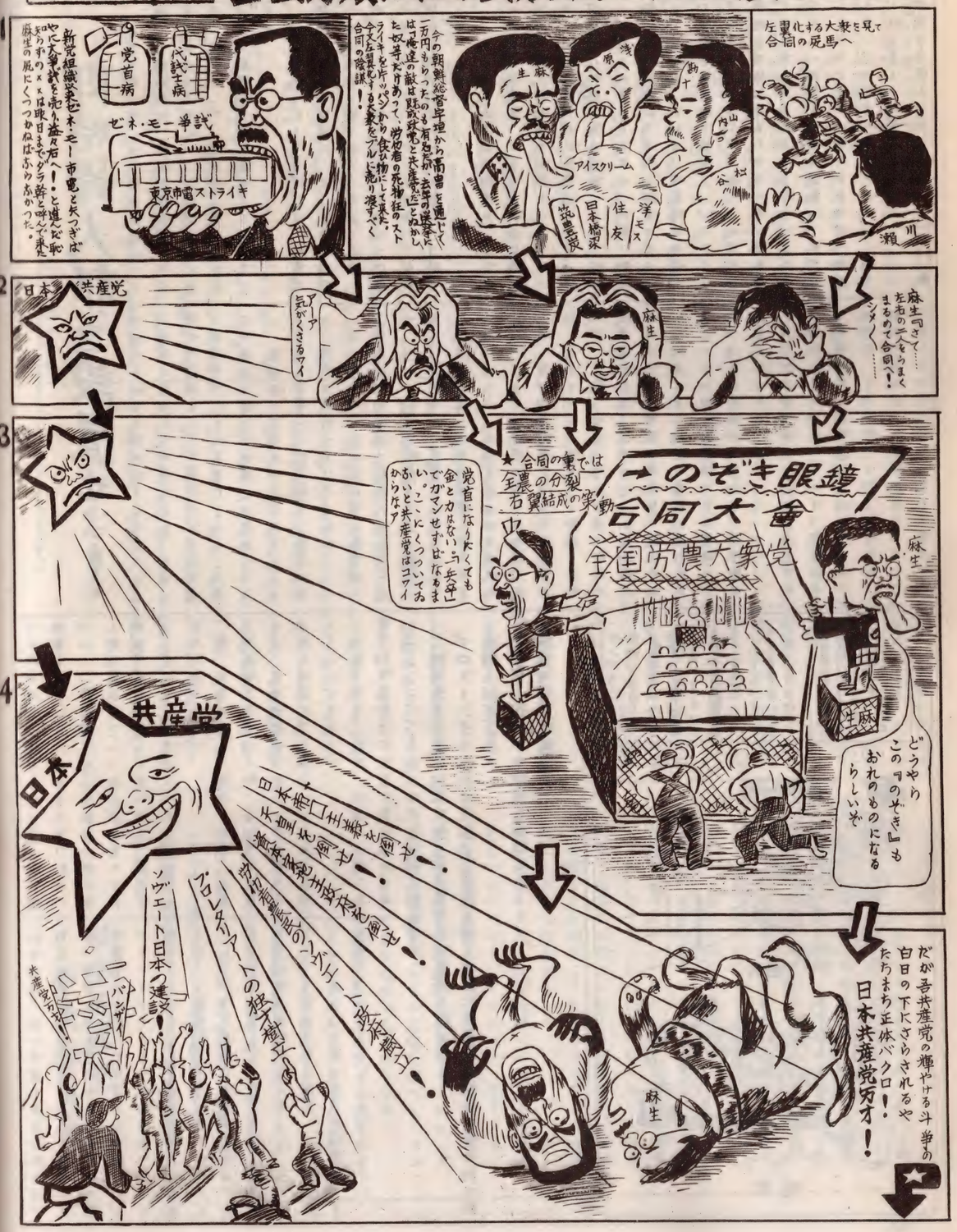
この工場は社会ファシストの指導する組合のオール（シメツケ）工場である。メーデー直前に数十名の首切りがあつた。これにフンガイした従業員は一挙ストライキに移らうと青年部の戦斗的分子が中心にふり従業員大会を開いたが、ダラ幹は、「この不景気では、スストライキをしたつて負けるにきまつてゐる」とか「労働者にとつてストライキより大切なメーデーを控へてゐるから、やれふいい」とかばかりで採決して全協と連絡をつけようと色々苦心してゐる内に残る外部の同志と個人的接触をする様にふり、平速この同志のイニシアケーブで読書会を職場別に整理してこれを基礎に分会の準備委員会を結成し、分会のスローガン等を決定したばかりでおく、工場新聞の編輯部を非合法的に作つて月三回新聞を出した。（こゝに別箇に全協の分会があると云ふことを知らふいでこれらのことをしたことは勿論だ。）一ケ月後には、工新の読者は、数倍にあると同時に分会員の一人が読者に獲得され、その分会員はこのことを上部の人に上申した所が、上部の同志は、この工場新聞の内容（党、全協を支持してゐることは一目りう然だ）で決定せずに「署名が全協でないから左翼の新聞ではおいゝと云ひ工場新聞の読者達を利用分子だと云つて排撃した。それで少しの期間中自分達の創意でおしたこれらの人達が、分会の人達に不満伏ふ感じを持つた。

結論

この二つの例で、現在労働者大衆の左翼化が如何に急激してゐるか、にも拘らず、全協の組織的影響は全くそれに比較にふらぬ程ビビたるものであることがハッキリ解る。（この大衆の革命化を認めることの出来ふい奴に解党派の仲士間君がゐる）

この二つの工場では、何れもボン・ボ・ノの全協は大衆から浮き上つた宗派的グループであることだ。

赤旗絵附録 全国労農大衆党粉砕！日本共産党万才！



外國語に就いて

×××子

私が今言はふとする事はほんの一寸した小さな事である。それは四十四号の政治テーゼ草案発表に当り革命的労働者諸君に檄す！」の中に「カリカチュア的プロヴォケーター」と云ふ二つの新しい（少くとも私自身には）外国語が和訳ぶりで使用されてゐる。以前にも、たしか二十五・六号に一つのドイツ語があった。その時にドイツ語を読める同志がゐたので知る事が出来たが、現在では、

そうした便利が得られぬので理解出来ないまゝにおってゐる。タッタ二つの外国語のワケをわざ〳〵貴重ふ赤旗の紙幅をさいてまで、しかも次の号まで待って理解すると云ふ事を累して政治的にも、経済的にも多忙ふ、吾々、プロレタリアートがやってゐても良いのだらうかと云ふ事だ。

我々はプロレタリアだ。我々は如何にムヅカシイ事でも、如何に

おれ等は小工場に働いてゐるものでシカタなしに街頭細胞を作つて大工場にもり〳〵ふきかけてゐる。ところが今まで、おい等が働いてゐた工場はミンナ封建的ふ頽廃の強い労働者が沢山おったそれでソヴエートの兄弟のすばらしい五ケ年計画のことを話し新聞や雑誌を見せてソヴエート同盟を守れのスローガンをアジプロして七次のようにいって仲々効果がおい。「新聞や雑誌はお前等社会主義者が出してゐるんだからロシアのことをほめるのはあたりまへやいと。

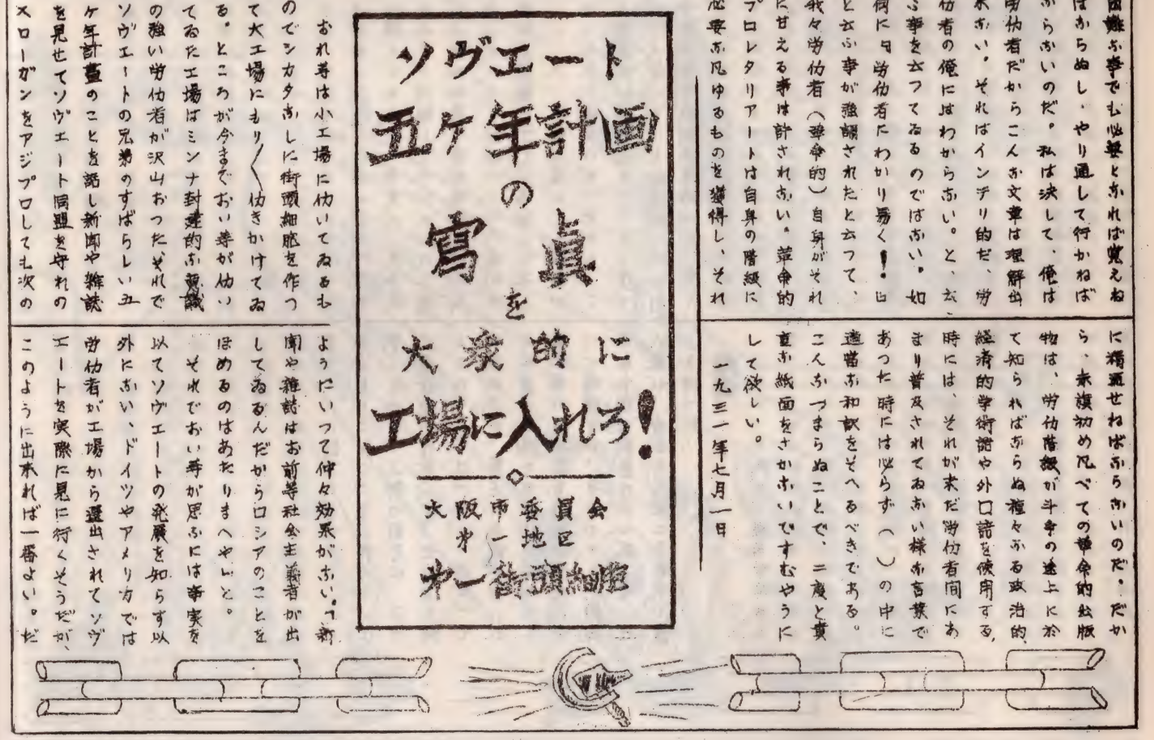
それでおい等が思ふには事実を以てソヴエートの発展を知らず以外にない、ドイツやアメリカでは労働者が工場から遮出されてソヴエートを実際に見に行くそうだが、このように出来れば一番よい。

工場内に於ける気運をめらゆる場合にとらへて指導せねばおらぬにも拘らず、例一の工場では全協が何もしてゐない。これでは、左翼が企業内で権威を獲得するふどと云ふことは夢の様ふものだ。

例二の場合の如き、刷回もにくむ余り、神経過敏におって同じよい意志を持ってやってゐる同志に向って充分調査もせずに刷回のレッテルをはるふどゝは、結局全協自身が分派行動をやってゐることだ。（筆者はこれを聞いた時、刷回の分会のある多くの工場でこんふ風に——労働者の要求を基礎とした斗争による統一戦線でふしに——日先丈けで刷回々々と繰り返す様ふお斗争しかやってゐはしふいかと疑惑に考へた）

これ等は要するに組合活動に関する党の政治的方針が甚ふ、否殆ど実行されてゐふい事を証明してゐる。我々は大切ふしに直ちに党の決定に従ひ大衆的活動方法へ転換する事によってこの様ふ誤謬主義——これは政治的には党と組合との内像の混乱から生れ、この混乱を益々大きくしてゐるものだ——を徹底的に克服しふければおらぬ。党が最近発表した政治テーゼ草案中の組合運動に関する政策は我々の最も輝ける指針とあるであらう。

一九三一・六・二八



『赤旗』を讀みて

大阪××××生

号を追ふて毎号スバラシク良くふつて行くので嬉しく又心強い。現在の全協のメンバーには一人残らず読ませたい気がする。次に若干の注文をのべたい。

徹底労働者はその大部分がプルジョアの雑誌改造にのつたものだとハッキリ書いておく。そして中の写真の説明もモット積極的立場からアジるやうにこれを敢為も出して工場農村にいれ革命的労働者がこの写真を見せふがらソヴエートのことを話したらサスがの大衆も資本家地主が一匹もゐふくとも労働者が権力をとればこんふに立派にやってゐけるんだと云ふことをハッキリ教へられる。こうしてのみスローガン、ソヴエート同盟を守れ！失業と飢餓の天堂側資本家地主の政府を倒せ！労働者農民のソヴエート政府を作れ！プロレタリア独裁万才！が具体的に生き〳〵と理解されると思ふ。

ブルジョアがやったことをおい等が利用するとはおんとユカイではおいか。現在ソヴエート同盟に対する反革命戦争の危機は益々高まって行ってゐる。おれ達はおによりも、ソヴエート同盟ヨーゴのために戦はねばおらぶいのだからこのことは絶対にやらふければいかんと思ふ。ロシア革命記念日にでも出してくれゝばうんと効果があるだらう。

一九三一・六・一六

教育としては中等教育さへも受ける機会を奪はれてゐる者ばかりだ。高等小学を卒へる機会を奪はれてゐる者だって決して少くはおいのだ。そればかりではおい。優遇は一日長時間を工場其他の職場で働かされて疲労した心身を休ませる暇もふく、読書することを強制ふくされてゐるのだ。編輯局の同志諸君は此の点に充分の注意を払って欲しいものだ。

日労新や無新に振りカナをつけて呉れ日本の工場職場からの要求は決して棒ではおいのだ。振りカナのついてゐる新聞を配布してゐた時分でも日見出しに振りカナをつけて呉れ日本と港湾労働者の大衆から要求されたことを筆者は経験し記憶する。現在でも、ある一回志には毎号日赤旗日を読むで聞かせてゐるのだ。振りカナのついておい、然し重要ふ文書は読んで聞かせるか振りカナを随々つけてやって読ませてゐるのだ。此り一回志は文字こそ識めはしふいか、斗争の経験を有ち、且つ、実践を通じて共産主義者たらうと努力しつゝある、而も、現に工場で日夜働きつゝある準教すべき同志ふのだ。現在二十前後の青年の間では、こんふ例は珍らしいだらうが、三十才を越えた、然して子供の時から工場でタヽキ上げて来た労働者の間ではこんふことは決して珍しいことではおいのだ。現在の青年でも振りカナがおい為に新聞や本が読めふくて困つてゐる者の中には婦人労働者が沢山ある。

吾々は之れ等の労働者をも、組織に獲得しふければおらぬいのだ。常にそうしたことを念頭に置くふうば、六ケしい改変のものでも出来るだけくだいて、易しく、判り易く、書く様に努めねばおらぬこと、態々クソ六ケしい言葉を使つたり、一般的に日本語化して也居うふい又は一般労働者に知られても居らふい外国語を説明もふしに括弧ふしに其他に載せてはよくふいこと、それは先輩又は先進的同志の後進者に対する不親切だといふことも列るだらう。

日赤旗日を工場職場の奥深く持ち込むで真実に大衆化しやうと思へばモット〳〵編輯にも注意が払はれねばおらぶい。

それは編輯局や中央指導部だけの責任では勿論おい、優遇全党員の具体的協力に待つものではあるが。

全党員は日赤旗日の編輯に積極的に参加せよ！

工場職場からの全党員の参加によって日赤旗日を大衆化せよ！

一九三一・六・二八

Пролетарии всех стран соединяйтесь

★万口の労働者団結せよ！

週◇刊

赤旗

第49号

1931.8.12

日本支部
国際共産党
日本共産党
機関紙

目次

▼ソヴエート同盟へ労働者代表団を派遣せよ！……一頁
▼ドイツにおける階級斗争の激化……二頁
▼日婦人欄について……六頁
▼鉄の火花……七頁
▼絵附録

労働者代表団を派遣せよ！

ソヴエート同盟へ

——アルメニア震災慰問金募集カムパニアの継続として——

「日本からざるものは喰ふべからず」と云ふ原則はブルジヨア制度と根本的に対立する。そこでは（即ちブルジヨア制度の下では——筆者）反対に、支配階級の中の何かないものが世界中のあらゆる憂苦を享受してをり、実際に何かある人々は喰ふや喰はずに生きてゐるか、或は最後の一切れのパンすらも奪はれてゐる。失業者が恐ろしく増加してゐる今日、資本家共の所では前の原則「働くものは喰ふべからず」が流行してゐる。我が日（ソヴエート同盟——筆者）では、以前に支配者であり、金持であつたものにも労働することを義務付けてあるプロレタリア的原則が実行されてある。この両原則の中、どちらが労働者の気に入るか？　労働者自身に聞かうではないか。何処の口からのんでもかまはないが労働者自身に依つて選出された労働者代表団であるならば、喜んで入口を許可し、一々現場で、事実で、如何なる条件の下でソヴエート同盟の労働者（そして勤労農民）が働いてゐるかを紹介すると云ふ態度をとつてゐる。資本主義国家では、ソヴエート同盟の労働者代表が自由に来ることを全く禁止してゐると云つてよい。特に日本の支配階級はこのことを絶対に許可しない。彼等は言ふ「赤化防止の為め」と。労働者は事実に依つて知る。支配階級はこのことを恐れてゐるのだ。ソヴエート同盟の労働者農民が真実どんな生活をしてゐるかの？　この問題は日本の広汎な労働者農民大衆にとつて実に興味あるものである。

ブルジヨアジーと社会民主々義者は口を揃へて言ふ「ソヴエートロシア（彼等は常にロシアと云ふ。ソヴエート同盟と云ふことは殆んど少い）の労働者農民は餓死の状態にある。ボリシエビキの圧制下にあつて苦しんでゐる。五ケ年計画はコケオドシに過ぎない。ロシアの富の多くが悉く日本口民の上へも延びんとしてゐる」と。

我々革命的労働者は言ふ「ブルジヨアジーや社会民主々義者のこんことは全く事実に反する逆宣伝である。五ケ年計画のスバラシイ発展は労働者農民の経済的政治的社会的福祉の増進である。ボリシエビキ党は一億余の労働者農民大衆より絶対の信頼を得て居り、彼等の先頭に立つて進む戦斗的部隊であり、指導部である」と。

今日まで、日本の労働者及び貧農大衆の代表者は全く非合法的にソヴエート同盟に行かねばならなかつた。そして、それらの代表者達もソヴエート同盟の労働者農民の生活を全く狭い範囲の人々にしか告ぶ得なかつたのである。限りある出版物——それすらもが発売禁止、発行禁止をやられてゐるのだ——に依つて、ソヴエート同盟の現状を語る事は全く困難である。それをも、このことはやらねばならぬ我々の義務である。何故なら日本の労働者農民大衆はソヴエート同盟の現実を知ることを要求してゐるからである。

ブルジヨア新聞や、ブルジヨア雑誌ですら、最近は、ソヴエート同盟の成功を否定し得なくなつた（「改造」「中央公論」の最近号を見よ！）。だがそれも全く限られた範囲内に於てである。我々労働者は自らの代表者を直接にソヴエート同盟に送り、彼地に於ける労働者農民の生活に親しく接しなければならぬ！　そして日本の労働者農民の生活と資本家地主を打倒し、プロレタリアートがれ力を握つてゐる口の労働者農民の生活とを比較しなければならぬ。その時に、何故、日本の労働者農民大衆は餓死線上に置かれてゐるのか、どうしたら今の状態から切り抜けられるかをハツキリと理解し得るであらう。

ソヴエート同盟政府は日本の労働者代表団（合法の代表者をも含めて）の入口を喜んで許可すると声明してゐるのだ。若し妨害するものがあるとすれば日本の政府丈けだ。我々は断乎として叫ばねばならぬ「ソヴエート同盟へ労働者代表団を送れ！」と。

此のカムパニアは出来る丈け公然と行はれねばならぬ。改良主義労働組合員大衆の間でも、未組織労働者の間でもこのことが公然と叫ばれねばならぬ。赤色労働組合、又は其の他の尤も適当な団体員のみにこの運動を制限することは誤りである。工場、職場を基礎として大衆的会合を開催し、此の問題を審議しなければならぬ。社会ファシスト、改良主義的幹部は「日本共産党及び全協の策動」と云つて妨害するであらう。支配階級は「不穏な行動」として弾圧するであらう。だが我々は断々乎として労働者大衆の間で仕事を進めねばならぬ。そして、何故、彼等がこの運動を妨害するかを大衆にバクロしなければならぬ。

「ソヴエート同盟の労働者農民の生活に親しく接する」ことは我々日本の労働者農民大衆の要望である。だから、我々の代表者団を送らうといふのに何が悪いか。工場から農村からソヴエート同盟視察の為の代表者を送べ!!」

このカムパニアを成功的に行ふ為に日本労働組合全国協議会、モツプル、全日農民組合、反帝同盟、日本共産青年同盟が協力することは最も重要である。又、最近結成された「ソヴエート友の会」も亦前記の団体と歩調を合して活動すべきである。

ソヴエート同盟へ送る労働者代表を職場の中から選び出せ！

労働者代表を送る基金を集めよ！

一切の妨害を粉砕して労働者の組「ソヴエート同盟へ我々の代表者を送れ！」

アルメニアの震災慰問金をこの労働者代表団に委託せよ！

独乙に於ける階級斗争の激化

（演説中のドイツ共産党中央執行委員長　同志テールマン）

米

（一）

日大統領フーヴアーの名に於て提唱された賠償金、戦債の一ケ年間支払延期は、今や世界帝国主義各国の注意の焦点となつてゐる。フーヴアーの提案は「ドイツの財政的危機を救済する為」であると云はれてゐる。けれども、これは全くウソである。世界帝国主義者達が他の何れかの国（勿論ではドイツ）を「救済」するのは、実は、それに依つて自国で救はんが（正確に云へば、それぐの国のブルジヨアジーと地主党）為に外ならぬ。故に今回のモラトリアム提案を、「アメリカの人道主義」、「愛の女神」等々の世迷言を以て糊塗せんと試みるが如きは事物の本質（資本主義的矛盾の絶頂を許つてゐる）をおしかくさんとするものである。

一九一四——一八年の世界大戦でドイツは英仏帝国主義の為に敗れた。戦争中及び戦後の頃迄はすべて労働者階級と勤労農民の双肩に負はされた大戦直後ドイツのプロレタリアートはまだ強固なボリシエビキ的党を育つておらなかつた。茲に、社会民主党（ヂニインタナショナルの指導的党であつた）内にカール・リープクネヒト、ローザ・ルクセンブルグ、フランツ・メーリングの組織せるスパルタカス団があつたに過ぎない。そして一九一九年一月十五日に当時尚若かつたソヴエートロシアは、口際帝口主義者の武力干渉の包囲の下に苦難の途を歩んでゐた。この苦難の斗争が明るい光明を目標けて進んでゐたのではあつた丈けにおも、ドイツ（のみではない訳）のプロレタリアの労働をロシア革命の勝利の為めに捨たすことは出来なかつた。（我々は独でロシア革命が

Пролетарии всех стран соединяйтесь

★万口の労働者団結せよ！

年へた直接の基礎に依つて起つたドイツ、フインランドの革命を一般的に論じてゐるのではなく、プロレタリアートの勝利と云ふ見地から述べてゐるのである）。ドイツ社会民主党の首領シヤイデマン、ノスケ等々は資本主義ドイツの快復の為に革命的労働者を裏切つた。

一九二三年十月ハンブルクに革命的暴動が起つたがこれも亦プロレタリアートのカが弱く、社会民主党の裏切りに依つて敗北に終つたのである。労働者大衆の生活は極度に低下されてゐた。ドイツの階級的危機を救ふ事は、ドイツを革命的危機の諸前提の成熟から救ひ出すことであり　それは同時にこのドイツの革命的危機が齎すであらうところのフランス、イギリス等の日々に於ける危機を救ふこと、即ち日本帝国主義を救ふことを意味するのであつた。ドーズ案が実施されるに至つたのはかうした事情の下に於てであつた。ドーズ案の実施はドイツの経済状態を表面上恢復した。賠償金は労働階級の犠牲に於て支払はれた。

然し、ドーズ案は（一九二四―二八年）はドイツ資本主義の持つ矛盾を解決し得なかつたばかりではなく、より一層拡大再生産したのであつた。そして、この矛盾を幾分かでも和らげようとう（少くとも和らげ得られるかの如く装はせる為に）としたのがヤング案である（一九二九年―）。此の案にさへ帝国主義ドイツは服従せざるを得なかつた。

（二）

何れの口でかうが来、中心が資本家地主に依つて支配されてゐる限り、経済の復活、政府の安定は人口の大多数を占めてゐる労働者農民の広汎な大衆の犠牲に於て行はれる。

ブルジヨアジーの攻撃は賃銀値下げ、大規模的馘首、失業保険金の減額、労働の強度化等々に現はれた。之に対する労働階級の逆攻撃はドイツ共産党の指導の下に勇敢に組織された。社会民主々義者の裏切り的行為は、ドイツ共産党及び革命的反対派が経済斗争を政治的に指導するのに伴つて、大衆の間に広くバクロされて行つた。かくてドイツ共産党は、工場委員会選挙戦、失業反対国際デー、メーデー反戦デー等に於てその偉大な組織力を示した。

資本主義ドイツがどんな犠牲に置かれてあつたかは『政治月報』八月号の『世界情報』を見たばけでも判明する。（一九三一年三月二八日に『政治的騒擾』を鎮圧する為の布告がヒンデンブルグ大統領

九億三千六百万マイスマルクの賠償金を引き出す為めに『ヤング案』を列国へ支払ふ義務を課せられてゐるのである（『政治月報』八月号）。それがドイツの根本大衆に対する殺人的な攻撃であり、彼等を貧窮のドン底へ埋めて置かんとするものであることは疑ひない。ヤング案の本質をバクロし、ドイツの被圧迫大衆を永久にかゝる搾取と虐殺とから解放する方法はプロレタリア独裁の外であると共に、それの為めに斗ひ抜くことである。

ヤング案を実現する為に、ヒンデンブルグは所謂非常大統領令（革命運動弾圧令）を頻発した。一九三〇年十二月には『緊急命令』を以て、増税、官吏の減俸を断行した。そして一九三一年六月の再び増税、失業保険支出金の減少、官吏の減俸を緊急命令を以て公布した。かりユーニングの政府は危機に瀕した。かりユーニングの政府は危機に瀕し　日々ますます大混乱に陥らんとした。（同上）。

同志テールマンが我党に於て、『十月革命の途のみがドイツのプロレタリアートを解放する』と宣言したことは衆知の事実であり、ドイツ共産党は正にこの為に斗争して来た。ヤング案の実施は、その後幾何もなくして始まつた世界的経済危機に依つて益々ドイツの経済状態を悪化した。それは政治的危機をハランでゐるのであつた。資本主義ドイツは世界帝国主義体制の最も弱い一環を形成する。帝国主義体制はその一環を破付けられることによつて全体に被害を及ぼす。故に、ドイツの経済的政治的危機はヨーロツパ、アメリカの資本主義）にとつて決して対岸の火災ではないのである。フーヴアーの提案はドイツ資本主義を救はんが為のみでなく、自らを救ふものであると云ふ所以は茲にある。

の為に於て敢行せられたが、それの齎したものは益々一層の階級斗争の尖鋭化であつた。その後ドイツの各地方には毎日の如く小暴動が起つた。警官とファシスト団対労働者の衝突は至る所で起り、その度毎に双方からは死傷者を出した。『政治月報』はこれらの事実を並べて（ブルジヨア的報道を基礎としたものではあるが）次の如く、述べてゐる。

『政治的騒擾惨死事件』に基く政治的暴圧の犠牲は十五名の死者と少くとも二百名に上る重傷者と、数千名を逮かに越える軽傷者となつて現はれた。一九二八年には政治的な騒擾によつて生じた死者は八名、一九二九年は四二名、一九三〇年は五〇名であつた。一九三一年　はこの割合で進めば九〇名を越えるであらうと。

此の記者が、『政治的騒擾惨死事件』の暴露そのものをも政治的危機の現はれとして指摘してゐる点は正しいが、茲に引用した最後の行は明らかに誤つてゐる。階級斗争の犠牲はかくの如き計数的に知り得るものではないからである。

我々は資本主義ドイツが如何なる情態に置かれ居かを極く簡単に見た。我々はこの問題に関して、同志マヌイルスキーが第十一回プレナムでの演説を聞くことにしよう。それは本年初めに（一四月）行はれたものであるが、各口々に於ける情勢の評価をなすに、そしてマヌ、ドイツの情勢を具体的に認識するために極めて必要である。

（三）

同志マヌイルスキーは次の如く述べてゐる。

『ドイツ――此処では主にヨーロツパの資本主義国中革命的発展は最大の範囲に到達した。革命的危機の諸前提は次の点に現はれてゐる。(イ)資本の攻撃、食国と失業に対する広汎な大衆の憤激、(ロ)プロレタリアートの革命的勢力の成長、共産党及び革命的労働組合運動の大衆的成長、共産党がプロレタリアートの階級斗争を独自的に指導するといふ仕事に於ける顕著な発展（ルール）、(ハ)階級的随撃力の尖鋭なる分解、それは、レーニンがかつた如く、一切の政党及びその組織の『自己バクロ』を伴つてをり、社会民主党の全面的崩壊を特徴付けてゐる。(ニ)階級斗争が尖鋭化した結果ブルジヨア独裁がより一層反動的なファシズム的形態への進化（エボツユーシヨン）、それはドイツのブルジヨアジーが、社会ファシズムを大衆をなだめる武器として利用してゐるのでは今迄通りやつて行くことを証明してゐる、(ホ)ヒンデンブルグ・ブリューニング政府の基礎の動揺。

ドイツ共産党の貢献は、この党がドイツ労働大衆の民族的解放戦の諸任務を彼等の社会的解放、プロレタリア独裁の為の斗争と結合し得たといふ所にある。全国労大衆の闘取者としてのみ

ロレクリアートのこのプログラムは、大衆の日常利益の為の闘争と結び付けるべく全ての革命的階級闘争の中心動たらねばならぬ。

ドイツ共産党の中心任務は労働階級の、勤労大衆獲得と社会民主党の大衆的基礎破壊を最大限に進めることにある。それには、第一に、より一層勇敢にプロレタリアートの階級闘争の独自的指導を——社会民主党下及び如何なる党にも属しない労働者を、下から作られる統一戦線の全ての機関に引き入れつゝ——展開しなければならぬ。ドイツ共産党は、労働階級が、その労働組合及び勤労大衆の生活水準に対する資本の攻撃を喰ひ止め得ることを実践的に証明し得る程強力である。更に、又革命的反対派及び革命的労働組合を真に大衆的組織へ、プロレタリアートの経済闘争の真実の指導者に変化せしめることに最鋭な注意を向けねばならぬ。ドイツ共産党は、革命的反対派及び革命的労働組合がこれらの闘争を組織し、遂行し得るということを実践的に労働者に向って証明し得る程に強固である。最後に、それは、ドイツ共産党がドイツのプロレタリア革命に於ける同盟者の確保と、都市及農村のプチブルジョア大衆に対する影響のヘゲモニーの為の闘争を今迄よりももつと大きな精力と速度とを以て継続するということを前提する。ドイツ共産党は、ファシズムに反対する運動を労働階級の全般的闘争と結び付け、又ファシストが潜入している生産部門（化学、鉱山、鉄道運輸）に特に注意しつゝ、ファシストの大衆的拡大を押し止める障壁を設けなければならぬ。

同志マヌイルスキーは、「革命的＝政治的危機に就ても尚なる項でもドイツ同志が勝利を得る為には、プロレタリアートの政治的総一力、即ち強固な共産党の存在が必要である。そして又このプロレタリアートが強力な同盟軍を有することが必要である。革命的情勢にとって必要なことは、只に被支配大衆が今迄通りでは支配し、君臨し得なくなるということである。我々は、同志マヌイルスキーの演説の中に、（我々がその前に掲げた「政治的危機」からの引用と結び付けて考へる時に）多くの教訓を得るものである。我々の同志の側に「極左的」並に右翼的偏向がないやうにと特に一言するものである。

（四）

然らば今日のドイツは如何かの？ブルジョア新聞はドイツに起ってるプロレタリアートの進出に関して殆んど黙殺してゐる。その意図は明白である。けれども我々はこの意識的な黙殺と逆宣伝的報導の中からドイツプロレタリアートの英雄的活動をうかゞふことが出来る。

一九一八——一九、二三年の革命の経験（遠くは一八四八年）、一九三。年のメーデーにはバリケード戦を有ったドイツのプロレタリアートは、その指導者として、ソヴエート同盟共産党に次ぐ強大な——政治的にも、組織的にも——ドイツ共産党を持ってゐる。ヒンデンブルク、ブリユーニングや、ファシズム、社会ファシズムのドイツ、ヤング案のドイツ、資本家階級独裁のドイツは今や革命の直前にあるとさえ思ひ得るであらう。

プロレタリアートの独裁か、ブルジヨアジーの独裁か、共産主義か、ファシズム＝社会民主々義か——問題は兵銃に立てられてゐる。独りプロレタリアートは、栄あるドイツ共産党とコミンテルンの指導の下に広汎な被搾取者大衆を率ひつゝ、プロレタリア独裁へ向って猛進してゐる。

ファーシズムのモラトリアム提案と帝国主義列強の代表者会議（ロンドン七ケ国会議）はドイツ新政の救済ではなしに、ドイツプロレタリアートの革命的進出に対する統一的攻撃とソヴエート同盟攻撃の為の帝国主義者共の全会なのである。ここにモラトリアム事件の本質がある。

日本のプロレタリアートは、帝国主義世界に反対して奮起せるドイツプロレタリアートの英雄的行動を全力的に支持すると同時に、我々自身が世界的社会主義革命の為に負はされてゐる分野での任務を遂行すべく努力せねばならぬ。

★ ★ ★

「婦人櫛」に就て

婦人勤労大衆を組織化し、我々の組織に獲得するということが、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

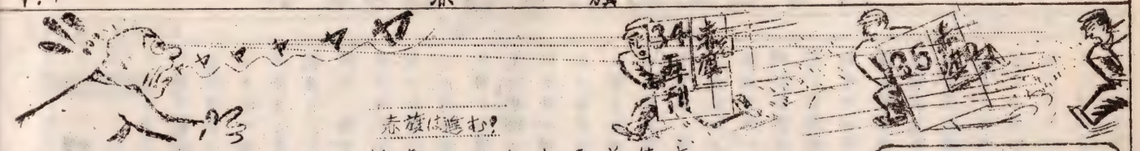
我々の側にある凡ての新聞は、特に婦人労働者が多数ある工場の全般の各代表紙、及び工場新聞の凡てには「婦人櫛」がなければならぬ。然し、最近のやうなのではお世辞にも褒められない。日本の婦人労働者の多くが平均若い婦人であり、無産者に於ては特に重要であると言ふ事が、革命的プロレタリア陣営の当面の重要任務の一つであるということと、この為の有力なる武器として、我々の側にある凡ての新聞が、強力なる「婦人櫛」を有たねばならぬ、ということに対して恐らく今日、疑ひを持つものは一人もないだらう。それ程に労働婦人大衆の重要性及び婦人櫛の持つ意義と役割を理解しながら、実際に於ける「労働婦人」への冷淡さは「婦人櫛」への態度にもよく現れてゐる。

不平丈けでなしに、もつと良い記事で訴ける様に指導し教育しなければならない。この仕事はそんなに むつかしくないと思ふ。自分が考へる事、気の付いた事をこうまとめ、どう書くかと言ふ事を二三度、手をとって教へたら、すぐ書けるやうになり、急ち上達するものだ。我々は「婦人櫛」のすぐれた論文を婦人労働者の中から得る機にならなければいけない。

それから我々が、常に不思議に思つてゐるのは、婦人労働者がその大半を占めてゐるセン平産業関係の我々の側の諸新聞に「婦人櫛」のあるのが一つもないことだ。これはどういふ理由からだらうか。婦人労働者が大多数を占めてゐるセン平産業の新聞こそ絶対的に「婦人櫛」が必要である筈だ。もしもセン平は婦人労働者でその大多数を占めてゐるから特に「婦人櫛」の必要がないと云ふのであつたら、それは大きな誤りである。何故なら、セン平産業にも男子労働者が特に青年労働者の多数が、婦人労働者と同じ様な、或所では それよりもつと悪い労働条件で働いてゐる。婦人労働者がより多数だからの理由で、婦人の立場からの訴へ、斗の新聞を取扱ふ事は誤りである。又婦人労働者を最も重要としてゐるセン平産業の労働者の血みどろな生命をかけた大斗争は常に改良主義者の手によってプロレタリアートの最も弱い部分である婦人労働者の利益を犠牲とし ふみにじることによって妥協が結ばれてゐる。セン平産業の諸新聞こそ最も力強き「婦人櫛」が要求されてゐるのである。

尚、婦人労働者が非常に少ない工場、或は全然ゐない工場の新聞にも「婦人櫛」を創るのかと言ふことだ。我々は然り！と答へる。かゝる工場より積行される新聞の「婦人櫛」は当該工場労働者の要求、家族への呼びかけと被撃の利益が常に考慮されてゐなければならない。

婦人オルかナイザーの諸君、我々は全口の党、共青、全協、革命的反対派の上から下までの凡ての我陣営に「婦人櫛」を創設しよう。そして、それを婦人勤労大衆の要求にかなつた、真に充実した力ある立派なものにしなければならない。



闘士養成の問題

××生

←コミンテルンは吹雪を突破同志 クララ・ツェトキン

鉄の火花

同士養成の問題が「赤旗」四十六号に掲載されてゐる。確にこれは、当面緊急な問題である。然しそこに示されてゐるのは、先人物を、労働者の中から選ぶ上ふことと、仕事を分担させて各自に責任を持たして働かすと云ふことの二項のみであって、その他の事項は後に残されてゐる。で僕はこれを受けて、この問題に就いて多少詳細に論じて見たいと思ふ。と言つても、貴重な紙面を無駄みに取る訳にはいかぬので、今度は先づ誰に誰に私承認されてゐる闘士養成の根本原則を二三簡単に述べることにし、当面に於ける具体的方法に就いては、次に述べることにする。

1．斗士への資格は、先づ何より工場労働者であること――その理由は、およそ次の如し。

(一) 工場こそが共産党の地盤であること。同じ労働者でも、工場を離れるに従って、プルジョア意識を多く受け入れる。自由労働者や職人達に、ルンペンやアナーキストの多いのは、その故であって、生産手段が前世紀的であること、従って、労働が集中的でなく、時間的でないことに、どうにも出来ない、宿命的な原因である。

(二) 工場に於てこそ、資本家の搾取が、最も直接的な形で現はれるので、そこに働く者の階級意識も、亦強固であり、具体的であつて、従に就いて一般労働者を啓蒙する事も容易である。松驒や西尾木広が、組織しに始めは、工場を離れて、工場に於ける苦しみを忘れ、初めてその生活が有効パプル的ルンペン的に落ち入っていつからである。

(三) 「工場を城砦にらしむる仕事の中に、闘士として学ぶべき最も大事なことがあるからである。

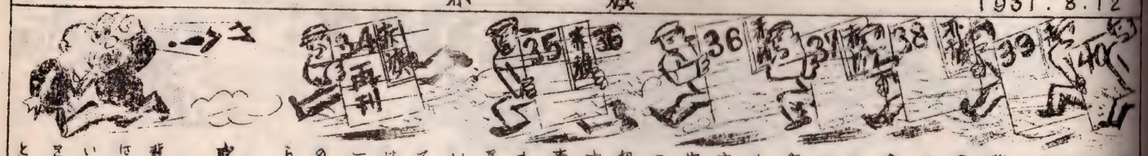
本的なものが含まれてゐる。

前の一項、二項は、今日迄誰もが言つてゐることで、既に諸君もよくご存知のことゝ思ふが、重要なのは、この三項目、皆を如何に多少勇気ある場合広く、階級全体の上に立つて、物を見、物のえやつてゆかねばならぬ。戦略戦術の問題は元よりであるが、組織の問題にしても、大衆動員の問題にしてもそうである。だから、一工場のそれに多くの政治的価値を見出さうとすることもあやまりであるが、然し先ず工場を城砦と化らしむる仕事の出来ないものに、その集合的結果である、一般的な動きを、理解し指導してゆくことが出来る筈がない。この意味に於て「工場を戦略上重らしめやうにもたらしめないにも、全々、その中に居る出来ない諸君、従って至験を持つこの諸君は不幸にして、如何ともしやうがないと云ふことになる。

2．斗士は戦ひの中に養成される――こんふきまりきつたことを改めてこゝに並べることは、何だか妙な気もするが、然し、覚へてゐていゝことは、幾度言つても言ひ過ぎの如き気もするし、それだけに返く記にゆかない様な気もするが、一番に之れをあげやう、諸君も最早気の附いてゐることだらうが、斗士は戦ひの中に養成されるにしてもさうだ、先天的にいくら度胸のある方へでも、最初は失張り頭痛の祝ひに御馳走に行つたやうではない、劇も鳴れば、是も踊へる、だが、何度もそれを繰返してゐる中に、多少勇敢でおいものでも終ひには、スソカリ度胸がすわつて来る。又運動に入つた始め、僅か二三年位の年数行が如何にも恐ろしく、遊びで行くのが如何に心大変な階級的慣性の如く思はれてゐた奴が、戦の中に自分の周りの同志が次から次へ捕へられ、五年十年と永い刑を放り込まれ、或るひは無期や死刑にふるのを始終目の前に見てゐると、何時の間にか、三年や四年の懲役はへのカツパの如く思へ出して、自然、先輩の域に近づいて行く、一つの行動を起すにしてもさうに、最初は自信がないが、馴れて来ると「おい」と云へば「おゝ」と答へるやうに、早く、而も正しい方法がとれやうにある。殊に階級に対する信頼、堅動に対する信念は、又一層に、永い戦ひの中に、徐々に培はれるもので、一朝にして、おいそれと得られるものでない。

3．斗士は、組織を通じて養成される。

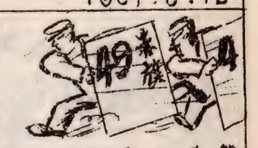
まことにその通りで、一口に、戦ひの中に斗士が養成されると言つても、漠然とした戦ひからは漠然としに斗士しか生れて来ない。



そこには帝国への発展性を持つた、いゝ分子も出て来るし、又、アナキストや将来の社会ファシストの卵が生れて来ないとも限らぬ。従つてこゝに問題にする斗士が、現在右翼仲間の労働組合に乗喰つて、ダラ幹のたいこ持至つとめく傍を食つてゐる所謂斗士を指すのでおく、真の階級的戦士を指すのであり以上、それは、当然に、一定の方向を持つた、一定の戦ひの中にしか、生れて来ない。一定の方向を持つた、一定の組織があつて始めて行はれるのであるから。従つてその意味で、組織を通じてのみ、真の斗士は養成されると云ふことにふる。又、事をこゝにむずかしく考へる迄もなく、組織は直にその人に仕事をへるし、理論を与へるし、尚いいことには、訓れた教師も与へて呉れる。僕ほど多少頭が悪いと思はれる程度の人間が、記憶の力で、一定の仕事を形式に果しつゝあるのを、最近回の前に見て、今更ら云々へ迄もないのは闘士たらんとする者は「本」と思ふ事から離してはふう迄と云ふことだ。この意味は、斗理堂に於ける。

4．闘士は、「本」に依つて養成される。

「本を読めしと云ふことも、先輩の繰返した言葉で、この点説明はいらぬと思ふが、こゝで言ひたいのは闘士たらんとする者は「本」と思ふ事から離してはふう迄と云ふことだ。この意味は、斗理堂に於ける。



階層、選挙斗争の組織状態、日常斗争との結合等には絶対に違いはあい。だから従重の経験は、この新集会選挙戦に対しても勿論役立つ。

(二) その当時の党の方針に従って……

大阪にも、独新、総育、セツプル、金属、木材等々からの代表者によって選挙斗争同盟が全く上から組織せられた。この斗争同盟が主体となりつて選挙斗争を戦つたのだ。

今度は、こんな選挙斗争同盟と云ふ組織形態そのものに対しても、大いに批判しなければならないと思つてゐるが、この事は後にふれる事にしよう。問題は選挙斗争同盟が何をしたかだ！

まがり角にきた選挙斗争同盟が……

組織せられたのは、確か一月二十日前後だつたと思ふ、一月二十日から従東日の二月二十日までの約一ケ月、どんな方針で、どう云ふ風に活動したかが重要ぢんだ！だが答へは簡単だ。糸リにもカンタンだ。候補者の選出と、選挙斗争の基金募集を除いては外にふれも出さらふかつた！斗争同盟の集会が何度も持たれた。だが集会で一番問題にふり、討論されたのは候補者の問題だ。大場街房（こいつも危険の面を被つた職業指導者だ）と狄めたり、止めたり全農の石飛と云つて見たり、しまいには金属の岡志瀬川を推せんしたり、後腐れのする様しかない彼輩者の決定に、毎日日を送つてアセクロし、丸づ候補者が誰とハツキリ決定しふければ斗争出来ふいと思つてゐる様であつた。所が一方選挙斗争同盟全口奇策会では、前川正一、田井豪右らを大阪の第一区オ二区候補者として推せんし、戦後二月号に発表してゐね。全く、全口的能一の無能力者揃してゐた。で結局候補者の決定がつかふかつた。その内党が独自にビラを全市の工場地帯にまき初めたので、斗争同盟の方はカスンでしまつてウヤムヤの内におくふつた。斗争同盟からは一回、抽象的なアゲ・ビラが出たのと、斗争同盟の宣言書発表、大場街房を等れ！の機基金募集の檄位でおつた。其以外何うのアゲ・プロ活動すらふかつた。――学生を動員して、社会民主主義者の演説会場にビラを撒込んだりしたが、全く取光主義に終始したのだ。

この事実を俺達は如何に批判しふければふらふいか？

(三) (1) 選挙斗争の意義を充分……

解してふい。俺達は選挙運動達成するのでふく、選挙斗争を斗ふのだ。大衆のためをつた政治的闘ひだ。大衆の為めに党の政策をアゲ・プロし、斗争に協同するこそだ。「職金かソヴエートか！」「労働党の失口かソヴエート同盟か！」のスローガンを大衆にふげ与へ、失業と飢餓の天皇制資本家地主政府を仆し、労働者農民のソヴエート政府を樹立する以外に、労働者農民の生活安定、解放はあり得ふいを云ふことを、社会民主々義者及びブルジョア地主の政策と鋭く対立させて敢へてることだ。

社会民主々義者の様に選挙運動であれば……

正式に官庁に届けに候補者が絶対必要だ。だが普々には、合法的に、候補者がなければ斗争が出来ふ、と云ふことは絶対にふい。通ら）又党独自の活動を後に退ひやり斗争同盟に代行ざすと云ふ危険性がある。従つて俺達には有害かやりかたじと思ふ。事実がこれを証明してゐる。上から作られた斗争同盟が工場へ、下へ斗争同盟の班や行動委員会を作れと押し付けても、出来つこふいのはあたりまへだ。良く出来た所で、会合の名称を変更しただけに止る。又こう云ふやり方では大衆斗争を起せふいと思ふ。柯故ふら生き〳〵としたる日常斗争との結合がふいからだ。広汎に経済斗争を準備し組織する府県会選挙戦に於て、全口の団ねよ！！祝して突ねるふ！

(2) 次に選挙斗争の組織形態に就いて……

だ。前の様に選挙斗争同盟と云ふ様ふ組織を、全口的に作ることは絶ふ賛成ふいと思ふ。工場委員会、斗争委員会、或ひは工場内の大衆的組織の代表者に依つてカンパニアの為の斗争機関を作るのでふく、ふく上から各大衆団体の代表者に依つて斗争同盟を組織し、各署同盟する下からの統一戦線及び大衆のイニシアチーブを折へ付けることにより、反面に於ては金融、解断、モツプル等の大衆団体独自の活動を不拒絶にし（大衆団体の代表者が斗争同盟に入るから）ビ）又党独自の活動を後に退ひやり斗争同盟に代行ざすと云ふ危険性がある。従つて俺達には有害かやりかたじと思ふ。事実がこれを証明してゐる。上から作られた斗争同盟が工場へ、下へ斗争同盟の班や行動委員会を作れと押し付けても、出来つこふいのはあたりまへだ。良く出来た所で、会合の名称を変更しただけに止る。又こう云ふやり方では大衆斗争を起せふいと思ふ。柯故ふら生き〳〵としたる日常斗争との結合がふいからだ。

ことをくして、政治斗争は有力に戦へふいとは絶対る俺達の指導者レーニンが教へたところだ。

ではどうしたらよいか？……

俺は何と云つても工場を基礎にし、出発点にしてやらねばならふいと思ふ。この事は工場内に斗争委員会を作れ！と押しつけるのでふく、作るやうにしむけることその大衆の見地を不満――経済的にも政治的にも――を取り上げ激発させその不満の解決のための斗争組織をこの場所に作ることだ。それらと友互に選挙斗争のアゲ・プロを集中し、出来たメス斗争委員会、大衆的有志団等をして選挙の問題をも取り上げるやうにしむけ、選挙斗争を斗はしめることだ。選挙前に導式真像した場合にはそれらの斗争組織を直に選挙斗争委員会として残すやうにすればよい。勿論はずしもこの通り行くとは限らふい。各工場事情によつて或る所は、旅に左翼の影響の強い不平不満のたまつてゐる所では直ちに選挙斗争委員会が出来るかも知れふい。要するに工場内で斗争を一つに限定することは変康に合はふいと云ふことだ。（例へば選挙ふら選挙斗争委員会、メーデーふらメーデー斗争委員会とやるこど。こんふ組織と名称のみを初めから振りまはすだけでは何にもふらふいと云ふことだ。）

これらの工場内の大衆的斗争指導部……

の代表者、大衆的な有志団の代表者等によつて地区的に工代会議を組織して行くようにすべきだ。この工代を中心にして地区的全市的全口的に斗争を拡大統一して行く方針を取つたら良いではふいか？党が、このように斗争を指導していつてのみ全口的ふ斗争の統一は出来るのだ。一九三〇年の斗争同盟全国委員会のように、名称だけが全口的統一体で実質は它口のさうふ私のを作ることは労働者大衆の信頼を落すのみだ。去年のやうにニユウタイを演じあげればふらふい。これ等の方面に向ふべく積極的運動を強化する。この工代発起、工場を始め一つでも二つでも実際に作るべく努力を集中して斗ふのだ。党は常に斗争の先頭に立つて指導して行く。大衆に普々の政策をアゲ・プロするのだ。党は前面に、大衆の前に展かれねばふらぬ。党は機に応じて、斗争同盟にこれらの仕事をゆらすとふふのはやつぱり同盟だ。だから斗争同盟ふり、組織せずに、党の直接の指導下に斗ふべきだ。

かくしてのみ――

この工代域は強剤の……

最代を基礎に下からのカンパニアの組織――労農協議会等が新たれるだらう。この労農協議会がうまく組織され職ジンに斗へるか否かはそれは吉々の組織的積力と場力的活動の如何による。吉々は例へ労農協議会を用ひると云ふこの方向に進むべきだ。

(3) 選挙がある度に吉々がすぐ解想する……

のは党組織の敗北である。今までで斗争に足党が数回ビラを工場に向けて作頭から撒くだけだつた。そして弱い部分が上げられ、そこからいもがる式に全部検挙される。これが今までのやり方だつた。俺達はこの失敗を再び犯してはふらぬ。労働者大衆に向けて党の政策のアゲ・プロは断然工場内でやるべきだ。ビラも勿論工場内で撒かれねばふらふい――斗ふうと呼応して――党細織の破壊を斗ふのだ。党は俄に全部検挙される。党は俄に強化されねばふらぬ。党の直接の指導下に斗ふべきだ。

鉄の規律の最守と非合法活動の習熟……

は敵の一斉的攻撃を克合撃退し得る俺らは今年のメーデー前に市委員会のビラ、中央委員会の檄をバラマイたが、不幸にして、検挙者は大石出たがそれ以上ビラマキからは少しも検挙を受けてふい。ヤレバヤレル・選挙戦を通じて党を大衆化する為に、全口の同志よ！党の赤旗の下に旗をくるめ進もう。

日本共産党の大衆化によつて「赤旗」を守れ！

週刊◇
赤旗
第50号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼『赤旗』第五十號発行に際して……一頁
▼八、一デーの決算に就て……四頁
▼プロレタリアートは農業農民問題に就て一層の関心を持て！……五頁
▼ソヴエート同盟への労働者使節に婦人労働者代表を送らず参加させよ！……六頁
▼九月六日の青年デーを期して共産党員を初め一切の階級的政治犯人即時無罪奴放を決議せよ！……七頁
▼歌の火花（赤旗）第五十号発行万才！）

『赤旗』第五十號発行に際して

日本プロレタリアートと貧農大衆の信頼を支持との下に発行されてゐる日本共産党中央機関紙『赤旗』は、茲にその第五〇号を迎へる。

プロレタリアート党中央機関紙『赤旗』は、プロレタリアート及貧農大衆の間の宣伝煽動者としてのみならず、彼等の組織者として一九二七年に生れた。即ち『赤旗』はコミンテルンの『七月テーゼ』の理論的実践的遂行をその最重要任務としそ。『赤旗』は最初からコミンテルンの指導を日本に具体化するといふ国際的意義を有してゐた。

『赤旗』は、日本プロレタリアートと貧農大衆側からの熱烈な声援と絶大な支持と、そして、彼等の間に於ける歓迎を享受して来た。それは資本に対する斗争、地主に対する反逆、そしてプロレタリアートと勤労農民の広汎なる大衆の勝利——労働者農民のソヴエート政府樹立の為に斗ふ革命的要素にとっての力であった。

併しながら、革命の途はネヴスキーの大通りではない。支配階級の弾圧に依って、『赤旗』は、再度、三度、その発行を中絶せざるを得なかった。党の政治的組織的活動を統一する中央機関紙の欠除が我党の活動を脚らせたことは疑もない。一九二八、三、一五事件以後、階級敵なるブルジヨアジーと地主の弾圧を受ける度毎に、『赤旗』の役割は益々重要性をつた。従って党組織の破壊後に来る第一の問題は常に『赤旗』の再刊であつた。宣伝者、煽動者、組織者としての『赤旗』の存在は党の全体的活動のバロメーターである。

×　×　×

我々は茲に第五十号を迎へるに当つて若干の決算を行はねばならぬ。

第一に、我々はコミンテルンの指導下に、新しい政治テーゼ草案を発表した。これは我々の実践と結び付いて大きな政治的意義を有する。我々は七月テーゼの持つた歴史的意義、政治的組織的活動に於ける功績を充分正当に評価し、その上に立つて新しい草案を発表した。解党派を先頭とする党外の似而非マルクス主義者の行つたが如き反コミンテルンの立場からではなく、又プレハノフ主義からでもなく正しくコミンテルンの指導の下に次リシエビキ的に評価したのである。茲テーゼ草案の発表は日本プロレタリアートに新しい力を与へた。而して我党の輝ける指導者同志佐野は獄中にある同志の意見を代表して新テーゼ草案と根本的に一致することを明言し、我々の方針を確認した。これは我党が為し得た大きな政治的達成としてあげられねばならぬ。

第二、我々は国際革命運動の一部としての我々の立場を明確にした。失業反対国際デー、メーデー、八・一デーに於けるデモンストレーションの組織は、その規模に於て全く不充分であつたと雖もそれらの持つ政治的意義は大きい。ソヴエート同盟五ケ年計画の成功の普遍化に於ても、我々は急旋回の一歩を踏みだした。特に我党が提唱したアルメニアの饑餓団金募集運動は政治的意義を有する。我々は七月テーゼの持つた歴史的意義、政治的組織的活動に於ける功績を充分正当に評価し、その上に立つて新しい草案を発表した。解党派を先頭とする党外の似而非マルクス主義者の行つたが如き反コミンテルンの立場からではなく、又プレハノフ主義からでもなく正しくコミンテルンの指導の下に次リシエビキ的に評価したのである。茲テーゼ草案の発表は日本プロレタリアートに新しい力を与へた。而して我党の輝ける指導者同志佐野は獄中にある同志の意見を代表して新テーゼ草案と根本的に一致することを明言し、我々の方針を確認した。これは我党が為し得た大きな政治的達成としてあげられねばならぬ。

第二、我々は国際革命運動の一部としての我々の立場を明確にした。失業反対国際デー、メーデー、八・一デーに於けるデモンストレーションの組織は、その規模に於て全く不充分であつたと雖もそれらの持つ政治的意義は大きい。ソヴエート同盟五ケ年計画の成功の普遍化に於ても、我々は急旋回の一歩を踏みだした。特に我党が提唱したアルメニアの饑餓団金募集運動は

広汎な大衆の支持を得たばかりでなく、工場の労働者側から労働者態度を迫れ上ふ要求を受けるまでに至つた。我党はその具体化の為に斗争してゐる。これは国際主義的教育の見地からして大きな意義を持つ。

第三、我々は組織上にも成長した。三・一五事件以後の党被告同志を除き、七・一五事件以後党員は約八倍以上に増加し、その中でも、工場労働者は七五%以上である。更に我々は農村にも細胞を有してゐる。全国地方には我党の組織網が張り廻されてゐる。

是等の進歩に於ける『赤旗』の役割は実に重大であつた。党内に於ける極左宗派主義的並びに右翼日和見主義的偏向に対して我々は断乎と斗争した。蜜協でなく、成長の為に必要なボリシエビキ的自己批判は積極的に行はれた。一切の社会ファシズムに対し、ブルジヨアジー地主に対して我々は大衆を斗争へと導いた。

× × ×

けれども我々は尚多くの不充分を持つてゐる。第一に挙げねばならぬことは党の政治的影響と組織的確立との間の開きが大きいこと、我々全体が大衆の革命化の速度よりも遅れてゐること、換言すれば我々は労働階級の全ての斗争の先頭に立つて独自的に指導してゐるのではないといふこと是である。五・三〇以来の我々

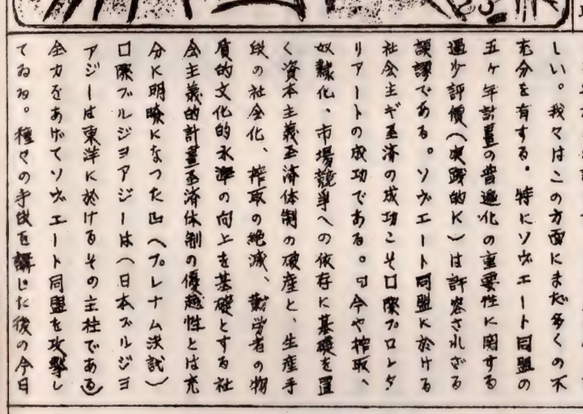
ならぬ。『赤旗』はこの為の重要な役割を果さねばならぬ。注意すべきは大衆的活動方法への転換、党組織の政治的生活を断然必要とすることである。我々は職場の或る細胞が更に熱心に集団的に『赤旗』を読み、研究し、具体化してあるといふ事実を有する。かくの如き態度こそ他のすべての細胞の学ばねばならぬ点である。細胞の政治生活の上にこそ党組織全体の政治的統一、行動の統一があり得る。

労働者指導者の養成は今日断乎として行はねばならぬ重要任務の一つである。労働者斗士の養成に対して消極的であつてはならず、又は労働者のイニシアチーヴに対して臆病であつたり、更に又企業内の労働者、農村の貧農を思ひ切つて党の重要な指導机関に抜擢することと指導は今後もつともつと強められねばならぬ。青年の間の活動の不充分と共に婦人の間の活動の不充分も亦警告しなければならぬ。我々は急き非合法的の下をかれてゐるが、合法的舞台の利用を忘れてはならぬ。而して就中重要なことは革命的労働組合の合法性獲得のための斗争である。

共産青年同盟に対する党組織の援助なく斗争しをれはならぬ。

このことに反対するものに対しては我々は組織上の手段をも取て斗争することなく、最も忌避に政められねばならぬ。

党の一支部であること、国際プロレタリアートの交通の目的ある世界ソヴエート実現の為に斗争するといふ任務の一部を、日本に於て果すべきことを常に強調した。この点は全く正しい。我々はこの方面にまだ多くの不充分を有する。特にソヴエート同盟の五ヶ年計画の普遍化の重要性に関する過少評価（東京的に）は許容されざる誤謬である。ソヴエート同盟に於ける社会主義建設の成功こそ国際プロレタリアートの成功である。日本の帝国主義戦争反対斗争を叫ぶに当て『赤旗』は国際同盟に対する義務を果すべきである。



赤旗！今や片腕(150万)を出してスルに逆襲す！

×　×　×

かくて、『赤旗』の前には実に重い任務が立つてゐる。しかもそれは困難な途上である。資本主義の激化――ソヴエート同盟の成功を普遍化しなければならず、プロレタリアートの組織、強盗的帝国主義戦争反対を叫ばねばならぬ。

産業が警察や軍隊で常に大なる迫害を受け死刑に処せられて幾多の困難をなめるが、今日のこの困難は将来の勝利者の払ふ必然の代価であり、将来の階級の外をきスルジョア地主の反動的維持の為になめる困難とは本質的に異つてゐる。四（同志佐野の公判廷に於ける演説より）この困難を克服し勝利する為には、階級対階級政策のボリシエビキ的実践、一切の社会ファシストに対する決定的斗争を行ふと同時に、党自身の内部に於ける清算の傾向に対して無慈悲的斗争を行はねばならぬ。ボリシエビキ的自己批判の旗を高く掲げつゝ、我党はプロレタリアート、貧農大衆の斗争の先頭に立たねばならぬ。四プロ

『赤旗』十五号発行万歳！
日本共産党拡大強化のために！
ボリシエビキ的自己批判の旗を高く掲げて斗争の先頭に立て！

◇八・一デー◇の決算に就て

(イ)、八・一デーの意義を大衆に知らせる為に行はれた準備行動中、東京、大阪、神戸等の重要工業都市の党機関と、産業別労働組合と協力の下に数種のパンフレットが発行されたこと、特にそれが各地方、及び産業の特殊的条件と結び付けて書かれたことは我々の注意が機械的に八・一デーに向けられたのではなくこの日の持つ重要な意義が理解されてあることを示す一つのものである。我々は一九三一年の八・一デー挙行に対する日常的指導部からの指令を今日に至るもまだ受取つてゐないと云ふアブノーマル（正常でない）な状態にも拘らず、此の日の重要な意義を把握するとゝもに政治的態度に於ては全体的に一般的に正しかつた。尚、このパンフレットのみならず、各工場新聞、組合機関紙も一斉に八・一デーを説明する論文を掲げた。モツプル、レタリアート独裁の為の斗争のみが、資本家地主の束縛から全被圧迫大衆を解除することが出来る。共産党は日本の唯一の革命的政党である。この党の旗の下にのみ、労働者農民及び一切の被圧迫大衆は勝利することが出来る」（同志佐野）この信念の下にプロレタリア独裁の旗幟を鮮明に高揚しつゝ我党は進む。マルクス＝レーニン主義に武装された行動党として我党は日本のブルジョアジー、地主政府の攻撃、プロレタリア独裁、労働者農民式のソヴエート政府樹立のために、あらゆる妨害と斗ひつゝ、勝利を目指してまつしぐらに前進する。

友帝同盟等もそれ〴〵の立場からこの日の為に活動した。そして全ての出版物が我党の主張する如くその中心スローガンを『ソヴエート同盟を守れ！』『帝国主義戦争反対』とし、それに日常要求を結びつけてゐた点も又一般的には正しい。

ビラ・伝単等が全口的に撒布されたことも指摘しなければならぬ。

(ロ)かくの如く、一般的には正しく理解された八・一デーが、具体的には如何に実現されたか、八・一に指摘しなければならぬことは多くの組織が今日に至るも尚、当日の動員、斗争形態、成功と失敗とに関する詳細な報告を提出してゐないことである。これは、党規律の見地からして許すべからざる行為である。斗争の五週については最も迅速に、正確に要を得て党の上層機関に報告されねばならぬ。此の事なしには一つ一つの斗争の経験を次の斗争の中に秉早く取入れて行くことは不可能である。一地方の経験を全口的に、全口的経験を各地方の特殊条件の中に生かすことこそ全党員の責任なのである。故に前述の如きアブノーマル（正常でない）は急速に政められ礼ねばならぬ。

(ハ)、我々の現在有する材料に依れば、八・一デーはメーデーに比してムシロ一歩退いた。と云ふ意味は、八・一デーにはメーデーに動員された程の人員が街頭示威、ストライキ職場総会に動員されなかつたからである。（但しこれは全口から八・一デーに関する詳細な報告が来た場合に訂正されるであらう。）組織会体はこの原因を充分に究めなければならぬ。我々の考へでは、この原因はオ一に工場職場業務に於ける我々の組織的活動の不充分にある。同志達は理論的には八・一デーの意義を正しく理解した。併しこれを実践する具体的方法を充分に考へなかつたのではないかの・日常斗争と中心スローガンとの結合は、ビラ、伝単、機関紙の上でのみ行はれ、それ〴〵の職場に於て『ソヴエート同盟に対する国際プロレタリアートの義務』を指導机関に抜擢することと指導は今後もつともつと強められねばならぬ。青年の間の活動の不充分と共に婦人の間の活動の不充分も亦警告しなければならぬ。我々は急き非合法的の下をかれてゐるが、合法的舞台の利用を忘れてはならぬ。而して就中重要なことは革命的労働組合の合法性獲得のための斗争である。

ある具体的条件と巧妙に結び付けられてゐなかつたのではないか？ ロシヤ革命の出版物だけで大衆に命令せんとする小ブル的極左宗派主義的思想と自分は姿を現はさずに「何々しろ！」と呼びかける式だけに止めてある右翼日和見主義的実践とがあつたからである。大衆の信頼を得、大衆の間に权威を獲得する為には常に大衆の間にあり、大衆の先頭に立つて斗争すると云ふ地味なしかも精力的な活動、大衆と組織的にピツタリと結合してゐると云ふことが必要なのである。カムパーニアの行はれる当日だけの活動では決して成功しない。このことは少数なりと雖も八、一デーに動員され得た工場の例によつて証明されてゐる。大衆の間での根強い日常の活動に依つて大衆の权威者たることは党員の任務である。同志渡辺政之輔、同志鍋山貞親、同志山本懸蔵等の先輩同志が偉大な組織者であるのは実に是等の同志が大衆の先頭に立つてゐたからであり、大衆の間の权威者であつたからである。直接職場で、工場で、鉱山で、船舶内で如何に大衆を組織するかの問題は党の組織全体の最重要任務である。「党の全活動を工場へ！」「工場へ！」のスローガンは今日特に強調され過ぎる位ひである。

(二) 我々は、八、一デーの決算を今日全体的に行ふことを不可能ならしめられてゐる。従つて我々が云ひ得ることは、右の如く非常に一般的でしかあり得ない。

そこで次のことを各地方組織に指令する。

1. 八、一デーに関する詳細な報告を直ちに中央部に送ること。その内容は、
   a. 斗争の準備——文書並びに工場、町に於ける組織的活動
   b. 当日の動員形態
   c. このカムパーニアに於ける成功と失敗——理論的並びに実践的

   の点、斗争のシメクヽりを如何にしたか？
2. 報告はこの指令到着より五日以内に送ること、而してそれと同時に報告の遅れた理由を明記すること。
3. 各地方からの報告は、「赤旗」に又は特別のパンフレツトとして発表する。

プロレタリアートは農業農民問題に就て一層の関心を持て！

農業革命を伴ふプロレタリア革命は我党の戦略的目標だ。よく整備しかけたとき、そして又、農民の斗争に対する党の指導が今や統一的組織的に進められ初めかけた時、即ち食農を食農として党員に採用するのではない。食農を共産主義者としてプロレタリアート党の党員として採用するのだ。（こゝまでは全く正しい。だが——）その故に赤旗が食農の問題を取扱はなくとも大した問題じやないと考へる同志があるなら根本的に間違つてゐる。

我々は勤労農民大衆の利益を最も忠実に代表しその為に斗はなければならぬ。かくてこそ我々は彼等を吾党に引き寄せることが可能になるのだ。而して我々は今日までこの方面に多大の努力を払ひ、且つそれは着々成果を収めつゝある。とはいへ我々は食農大衆を指導し同時に食農から支持されなければならぬのだ。だから赤旗は勿論のこと工場新聞や労働組合の機関紙にも労働者大衆が農業農民問題に注意する様に仕向けることを怠つてはならぬ。工場新聞や労働組合新聞がこの問題について殆んど全く取扱つてゐないことや、全協が農村プロレタリアートの組織に力こぶを入れてゐないことは愚迷に攻めなければならぬのだ。特に党の指導的地位にあつてプロレタリアートの組織に従事してゐる同志達の多くが農業農民問題の重要性をほんの僅かしか理解してゐない。勿論これらの同志達は可労働者と食農の同盟を確保することの必要を戦略戦術の理論としては一応理解してゐる（'99）がそれは全く抽象的理解に終つてをり、現実にはそのために殆んど何んにもしてゐないのだから、実践的客観的には農業農民問題の重要性を理解してゐないのと同じだ。これは絶対によろしくない。

食農、特に日本のそれは、厂史的地理的関係からしても、地理的に特取する為の最も都合よき道具とされてゐる。日本プロレタリアートが来るべき革命に於ける決定的勝利はこれらの労働婦人大衆を革命的に獲ふてゐるのだ。プロレタリア婦人の全力的斗争参加なくしては得られないし、又プロレタリア婦人及一般的婦人の解放はプロレタリアートの革命的勝利なくしてはあり得ない。押しひしがれ、害はれてゐる日本の勤労婦人の全注意と希望をソヴエート同盟に集中させよ。そこには日本の労働階級婦人解放の凡ての鍵があるのだ。日本の労働婦人にソヴエート同盟勤労婦人の生活を知らしめよ。ソヴエート同盟への使節に依らず婦人労働者をも派遣せよ。

ソヴエート同盟派遣代表選挙の今日的斗争方式！

代表派遣によつてソヴエート同盟の労働者及び婦人労働者諸君と力ツチリ腕を組め。

つゝある。とはいへ我々は食農大衆を尚、僅かしか掴み得てゐない。これは我党の最大の不充分の一つである。それ故に我々の主要努力の方向の一つは食農大衆のオクトクにある。赤旗のこの方面の任務も従つて重且つ大である。

一方、又赤旗は食農大衆のためにのみ農業農民問題を取扱ふのでプロレタリアートにはそれ程関係がないと考へる同志があるとすればこれも亦大きな誤りだ。プロレタリアートと食農（半プロレタリアート）の同盟はふこまでもプロレタリアートのヘゲモニー（指導权）の下に確立されねばならぬ。だからプロレタリアートは食農の問題を自分の問題として取上げる位に関心を持つことが必要だ。そして食農を援助し指導し同時に食農から支持されなければならぬのだ。だから赤旗は勿論のこと工場新聞の組織等の場合にも労働者大衆が農業農民問題に注意する様に仕向けることを怠つてはならぬ。工場新聞や労働組合新聞がこの問題について殆んど全く取扱つてゐないことや、全協が農村プロレタリアートの組織に力こぶを入れてゐないことは愚迷に攻めなければならぬのだ。特に党の指導的地位にあつてプロレタリアートの組織に従事してゐる同志達の多くが農業農民問題の重要性をほんの僅かしか理解してゐない。勿論これらの同志達は可労働者と食農の同盟を確保することの必要を戦略戦術の理論としては一応理解してゐる（'99）がそれは全く抽象的理解に終つてをり、現実にはそのために殆んど何んにもしてゐないのだから、実践的客観的には農業農民問題の重要性を理解してゐないのと同じだ。これは絶対によろしくない。

食農、特に日本のそれは、厂史的地理的関係からしても、地理的に特取する為の最も都合よき道具とされてゐる。日本プロレタリアートが来るべき革命に於ける決定的勝利はこれらの労働婦人大衆を革命的に獲ふてゐるのだ。プロレタリア婦人の全力的斗争参加なくしては得られないし、又プロレタリア婦人及一般的婦人の解放はプロレタリアートの革命的勝利なくしてはあり得ない。押しひしがれ、害はれてゐる日本の勤労婦人の全注意と希望をソヴエート同盟に集中させよ。そこには日本の労働階級婦人解放の凡ての鍵があるのだ。日本の労働婦人にソヴエート同盟勤労婦人の生活を知らしめよ。ソヴエート同盟への使節に依らず婦人労働者をも派遣せよ。

ソヴエート同盟への労働者使節に婦人労働者代表を必らず参加させよ！

赤旗第四六号に労働者使節派遣の感激すべき提議が党の名に於て発表された。

全国の工場労働者及婦人労働者諸君！我々は、「代表使節に婦人を必らず参加させよ」といふ題目の下に再度この問題を取上げた。何故ならば、現在日本の労働階級の最大の弱点の一つは労働階級の巨大な部分を占める所の未組織労働婦人層である。これらの労働婦人は、階級的政策の為に、常に凡ゆる場合、一般的男子労働者との関係から引離され、労働階級を、永く植民地的に搾取する為の最も都合よき道具とされてゐる。日本プロレタリアートが来るべき革命に於ける決定的勝利はこれらの労働婦人大衆を革命的陣営の主要部隊となし得た時保証されるのだ。勇子労働者と婦人労働者の凡べての利害は一心一体である。プロレタリアートの勝利はプロレタリア婦人の全力的斗争参加なくしては得られないし、又プロレタリア婦人及一般的婦人の解放はプロレタリアートの革命的勝利なくしてはあり得ない。押しひしがれ、害はれてゐる日本の勤労婦人の全注意と希望をソヴエート同盟に集中させよ。そこには日本の労働階級婦人解放の凡ての鍵があるのだ。日本の労働婦人にソヴエート同盟勤労婦人の生活を知らしめよ。ソヴエート同盟への使節に依らず婦人労働者をも派遣せよ。

ソヴエート同盟派遣代表選挙の今日的斗争方式！

代表派遣によつてソヴエート同盟の労働者及び婦人労働者諸君と力ツチリ腕を組め。

彼等を援助し、援助し、指導するならば、そしてそれが正鵠に当つてゐるならば彼等の支持を得ることは決して困難ではないのだ。このことは我々の至験から確信を以て断言出来る。

赤旗休せのデ五。号記念号を期して断然最近の不十分を訂正して進む。と同時に党員並に事命的労働者諸君・特に農村細胞並に農民運動に参加してゐる同志諸君の生き〳〵した報告や意見を要求する。

◇ 九月六日の青年デーを期して ◇
共産党員を始め一切の階級的政治犯人
即時無罪釈放を決議せよ！

1、九月六日青年デーを期して日米帝国主義の一切の階級的政治犯人を即時無罪釈放せよ！ 工場、鉱山、船舶、事務所、兵営、農村で我々は決議せよ。これこそ共産党員並に一切の階級的政治犯人に対する唯一の正しき判決である。

2、全工場又は全職場労働者の名でこの決議がなされることは次配階級と其の家族の利害に関係することは次配階級と其の家族の利害に関係することは最大の背景である。党員並に革命的労働者農民はこの方向に全身の努力をなすべきである。勿論この際全従業員が一人残らず此決議に参加することや一人の反対者も出ないと云う事は望み得ないであろう。たが少くも過半数が参加し賛成した場合にそれはその工場又は職場の名でこの決議を発表することが出来る。

3、工場又は各営の全従業員で此決議をやり得ない所でも決してこの決議を放棄してはならぬ。二人以上の党員又は革命的労働者農民が集り得るならばこの問題を中心に集会を開いて必ず以上の決議をしなければならぬ。此場合には此決議を工場の名で発表する事は出来ぬであらう。例へばロメメ工場革命的労働者一同」挙の名で発表すべきに。

4、党、団盟、全協を始め労働者農民の一切の組織並に我関は一斉に同様の決議をせよ。

5、一つの工場又は職場では一つの決議文を作り全従業員（又は革命的労働者一同）及び一切の組織並に我関の署名を連署する形式をとることを奨める。

6、以上の決議にあらゆる機会を捕へあらゆる方法を工夫して全日の吾全世界の労働者農民大衆の前に公表されなければ罪釈放せよ！ 吾党の最初の綱領的政治犯人を即時無目だ。吾党の最初の綱領的政治犯人を即時無至る一切の機関は勿論の事改良主義的社会民主々義的幹部の統制下にをかれてある組織や機関にも大衆の威力を以てこの決議のケイザイスは発表を迫り、そしてそれを斗ひとらなければならぬ。我々は進んで労働者農民大衆の此決議を獄内の同志に伝達する義務を引受ける。

7、日家機関がファッショ化し、白色テロルが横行してゐる今日の段階では一度でも資本家地主と斗争したことのある労働者農民の働き場所又は組織からは何等かの名目で犠牲者が出てゐるに違ひない。それ故に以上の決議にお況を労働者農民大衆を引入れることは決して不可能を事ではない・若し以上の決議をなし得ないか又は甚しく不十分にしかなし得ない党員並に革命的労働者農民があつたとすれば彼等自身どんなにウヌボレてゐようとも実践的客観的には彼等は正に右翼日和見主義者であつて断じて党員並に革命家ではない。

8、以上の決議を成功的に決することは党員並に革命的労働者農民に課せられた任務の最少限度である。目志達は断じて決議文に止まつてゐてはよいのではない。

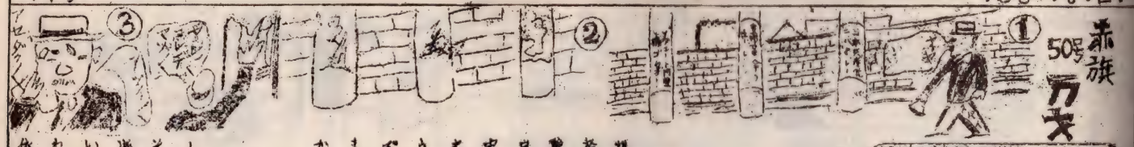
9、我々は既に以前の決定——党組織の政治生活に関する決定、八・一テーに際しての二三の注意書等を参照せよ——で我党内の敗北主義と徹底的に斗争しこれを清掃することを要求した。我々はそれを着々として実践しつゝある。にも拘らずこの仕事は今日も尚完成してゐない。我党内の右翼日和見主義的傾向は実に尚くも根強いのだ。我々は益々精力的にこれと斗争し、断乎としてこれを克服しつくさなければならぬ。これは同志達に課せられた当面の重要責務の一つである。

10、獄内の同志は九月五日に共産党員を初め一切の階級的政治犯人を即時無罪釈放せよとの要求を高くかゝげて火蓋を切る筈だ。全日の労働者農民彼等の獄内並に裁判廷に於ける此の斗争に呼応し、これを支持するやうにしむけることは党員並に革命的労働者農民の為らず又なければならぬ義務である。

同志達の今日までの革命的斗争とこの決議に至る迄の煽動並に組織の成功とは大衆をして更なる決議文に止らせないであらう。一日のスト一日の示威とは此決議の必然的開結たるであらう。是非そこまで発展させるべきである。政治的大衆罷業と政治的大衆示威を過少評価する傾向は断じて改めねばならぬ。

一九三一年八月十三日

日本共産党中央委員会



ストライキ終結後の一方針について

日本共産党の輝ける指導者 七ヶ国名誉議員 故 鉄の火花 主幹

× × 生

以下述べる事はきたての記憶から摂取したものでもなく、又日本に於ける二三のストライキの経験より得たものでもない。ロシアストライキ歴史（戦後社版）中ロゾフスキーの論文を読んでそれを日本で次の様に採用したらどうかと考へただけだ。既に或工場では行つてゐるかも知れぬが、今までの所一般化されてゐない様だから。

★

ストライキが一定の条件で終結した時——よし妥協的であれ——その条件が基して工場主に依つて遂行されるかどうかを監視すると云ふ事が絶対に必要だ。監視された後に於ても、わかり易く云へば、ストライキに依つて疲れ切つて、ストライキ惨敗

四十二号投書『工場新聞に就ての質問に答へる』に就て『誤診を指摘す！』

大阪 ×△生

一、この同志は工場新聞の役割を充分に理解してゐないと思ふ。自分で労働者から原稿を集め、編輯会議を持つて、走り廻つて工場新聞を出した経験がない人ではないか、とも思はれる位だ。この同志が工場新聞の役割を理解してゐないことを表明してゐる個所を、彼自身の投書の中から引き出さう。特に読者諸君は傍点のところに注意して呉れ。

「この意見に依るとまるで組合や反帝、モップルなどは党に直属した赤旗のやうな感じを与へる。工新を出すから他の組織はニュースを出すのを控えろ！と云つてゐるやうに聞える。㊀細胞が工新を出すから、この工新こそ指導的新聞だから、組合ニュース、赤色スポーツニュース、モップルニュース等々党外諸組織の赤旗は全力を盡してこれを支持援護せよ！と云ふのなら話は分るが、党外諸組織が自主的に出してゐるニュースに停止命令を出すなどとは受け取れ勿論である。若し、之等のニュースがレーニン主義的でなかつたり、不備であつたりするなら、之をレーニン主義的にし、完備せしめるやうに指導し、之を革命的なものに、統一的なものに発展せしめることこそプロレタリア革命家の義務であり、工新の任務ではないだらうか……」

以上から分るやうに、彼は工場新聞を、細胞の赤旗紙だから指導的な新聞だ、といふ風に考へてゐるのだ。これが決定的な間違ひだ。工場新聞は一体何のために出し、どういふ風にして出すのかと云ふ事を少し考へればこの事が分るだらうと思ふ。

大衆を斗争に動員し、組織し、政治的関心をもつともつと高める為だとは前の同志が書いた事だ。この為に一切の事件が取扱はれるのだ。工場内の指導新聞とは一体どんな事だ？分会ニュースやモップルニュースを指導するのが工新の任ムだなんて間違も甚しい。工場から出される一切の出版物は総て大衆を斗争に動員し、組織する為なのだ！指導的赤旗の編輯部アヂ・プロ活動に就て等々……。

二、従つて、工場新聞は党細胞から出すものであるが、決して細胞員のみによつて新聞を出してはならない。その為にこそ、分会赤旗紙、細胞赤旗紙の署名をはして、分レン社或はXX社と云ふ形式を取つてゐるのではないのか！吾吾は大衆的な工場新聞社を工場内に組織し、広汎な大衆をその影響下におき、活動的分子をドシ〳〵吾々の仕事に引き寄せるのだ。

そして工場新聞社に細胞ブラクションをがツチリとおき、細胞のヘゲモニーの下におくのだ。かくすることによつて実質上、細胞は工場新聞を出すのだ。このやうな大衆的な活動方法を採用せよ！

工場新聞発行の時には必ず編輯会議を持ちそこで討論し、決定するのだ！分会もモップルも反帝も一切の工場内の活動分子がこの編輯会議に参加するのだ（又参加させねばならない）。そうすれば彼が考へてゐるやうな事は考へ得られないことだと云ふ事が分る。こうい

の同志は「階級主義を清算して大衆的な活動方法に轉換せよ！」と云ふ事を実践的に理解してゐない。大衆的活動方法を採用する事なしに、労働者大衆のイニシアチーブの発揮を期待する事は出来ないし、又党の大衆化も不可能である。

三、そして又この方法こそ、プロフインタン第五回大会の㊐同志モツムツソー及びニーダーキルヒネルの報告に基くテーゼ——革命的労働組合運動の組織問題——の中の次の決議を実践に移してゐるものである。即ち㊐同時に非合法労働組合は合法新聞発行の最小の核を利用して、そうした核関創設のイニシアチーブを取らねばならぬ事が分るではないか！

四、核細胞といふ事を誤解する事が多くある。それは組織メンバーのみを対象にするかの如く考へることである。それは絶対に間違だ。特に基本的な細胞からその核細胞を出すことは必要でないと思ふ。俺は「工場新聞」は細胞の核関紙でなく、細胞のアヂ・プロの一核関だと考へる。そして細胞の核関紙は発行する必要がないと思つてゐる。この点、同志諸君の見解を聞きたい。

五、最後に一つ。「右の意見によれば現在の條件下——如何なる條件下が明かにせられてゐないが、細胞の工新に全力を注げば組合ニュース等がウマク出来ないやうな情勢だとでもいふのか」（十四頁一段）といふ文句だ。現在の條件下といふことは明らかにされてゐる。赤旗パンフレット第十輯及び赤旗三十六号の中にもふれられてある。たとへ明示されなくとも「細胞の工新に全力を注げば組合ニュース等がウマク出来ないやうな情勢だとでも云ふのかしと云ふ風な考へ方は、工場内の活動方法を知らない誤謬だ。

工場内の現在の條件、情勢を見ろ！すぐ分るではないか！敵の力は、味方の力は、そして一般大衆は等々……が眼に浮ぶ筈だ。大衆の窮乏、その充實化からビツコを引いてついて行つてゐるのが吾吾の状態だ。どんな工場でも分会員、細胞員が四十人五十人とまとまつた所がない。殆んど大部分が十人前後のグループだと云ふ事だ。十人のグループを細胞分会、モツプル班、反帝、無新、無青等が引つぱり合ひで原稿を拳り合ひ、各個自のニュースを出して呉く行く筈がない。又事実、行かなかつた。緊張りメンバーに取合ひ等が起つた。この力の分散を防ぐ事が最非必要なのだ。こうい下を指してゐるのだ。

六、全口の同志諸君！工場新聞の活動に就ての経験をお互に知らし合はふ。実際の工場内の活動に就てだ。原稿の事、編輯の事、影響の組織化に就て、新聞拡大の

「赤旗」第五十号発行に際し同志諸君に依頼す！

——「赤旗」印刷局——

全口の同志諸君！

吾党中央機関紙「赤旗」は革命的労働者農民大衆の信頼を益々高めつゝ、こゝに弁五十号発行を迎へた事を、吾々は最大の歓喜を以て同志諸君と共に祝福するものである。

「赤旗」は文字通り異常な発展を遂げた。戦友からの弾圧の後を受けて、昨年一月再刊された当時は、その部数に於て決して多くはなかつた。だが一歩一歩「赤旗」が再刊せらるゝや、革命的労働者農民諸君の間に、敵子の歩を以て迎へられ、革命的階級斗争の戦略、戦術の一大指針として熱烈な支持を受け、「日本共産党を守れ！」「赤旗を死守せよ！」と身を以て斗はれて来た。そして全党員、全読者諸君は吾党中央委員会の正しい方針と指導の下に、勇敢に斗はれた結果、再刊より四ヶ月目のメーデーには部数に於て二倍を突破し、七ヶ月目の赤色デーには実にその三倍半に増加した。それは単に部数に於てのみではない。その内容と技術とに於て飛躍に飛躍を重ねたのである。「赤旗」の発展は吾党の発展であり、そして日本プロレタリアートの革命運動の発展で

ある。吾々はこゝで吾党及び「赤旗」の発展のために同志諸君と共に万才を絶叫するものだ！

吾々は今日程、国際的にも、国内的にも、ボルシェビキー的斗争を要求されてゐることは未だ嘗てない。この斗争を成功的に遂行するために、吾党の真の宣伝者であり、煽動者であり、そして組織者である「赤旗」を少しのユルミも持たない緊張さを以てその任務を完全に果さしめ、支配階級の迫害と弾圧と追求とに対抗する事が断乎として行はれてゐないことを基礎的条件とする。「印刷技術の一切の事は印刷局にまかせておけばいゝ。印刷技術なんてそう大した問題ぢやない。いゝと考へてゐたとしたら、それは非常な誤りであらう。吾々はどれ位の大いさの文字が最も読み易いか、タイトル（表題）をどんなに書いたらピンとくるか等について色々苦心して来た。又サシエ、マン画、カット・総附録等を挿入して読者諸君に読み易く、分り易く、興味深いものたらしめようと試みたし、今尚努力してゐる。だが同志連はそれに対して何の批判も与へてくれなかった。諸君の注文も送つて来れなかった。直接工場職場裏面の労働者、貧農大衆の中で活動してゐない吾々にとつて、諸君の批判と希望と援助なしには、内容と技術とが統一され、諸君の斗争に役立ち得るやうな「赤旗」を印刷することは不可能であるといふても過言ではない。

印刷技術は吾々の斗争上如何に重要であるかは、今こゝで事新しく述べるまでもなく、諸君が「工新」、ニュース、ビラ、伝単等で日常体験するところであらう。「赤旗」を吾党の輝かしい中央機関紙とし、真に革命的労働者貧農諸君を吾党に獲得するため、又吾党の政策の下に動員するために内容と技術との有機的統一を図る

ことと重視的に必要とする。そのために赤旗に挿入されるマン画、挿絵、カット等は吾党の正しい政治的組織的方針の表現であり、党中央部の指導の下に活動しつゝある諸君の日常斗争の生き〳〵とした写実であり、そのための指導となるものでなければならぬ。

同志諸君！

「赤旗」オ五十号発行に際し吾々印刷局の全同志は「赤旗」を より一層すばらしくし、労働者農業諸君の手に渡るように、最大の努力と技術とを発揮せんことを同志諸君に誓ふ。だが、このことは絶対に必要とするものである。「赤旗」の印刷技術の発展は諸君の絶大なる協力と援助なしには不可能であることを百万遍も繰返して強調しなければならない。後って吾々は以上の任務を果さんがために、諸君が次の事を即時実行されんことを依頼する。

一、毎号の「赤旗」印刷技術上に対する種々的批判意見、漫画挿絵、カット挿入に就ての希望（「赤旗」の研究会には必ず印刷技術に就て討論し細部全体の批判意見及び個人の意見希望等を送られんことを希望する。）

二、日常斗争（特に各工場、小作争議等）の豊富な通信、報告、物語等。

三、ソヴエート同盟の兄弟達、諸外国の同志連や労働者農民の動向。

四、日内日外の新聞雑誌等の写真漫画挿絵（特にソヴエート同盟及び新興国の輝かしい発展に就ての）

五、諸君の工場職場及び農村等の闘争スケッチ（百字詰一枚大、ザラ紙（日内外の）の写真及び似顔。

以上をドシ〳〵送られんことを切望する。特に（一）の批判意見希望は毎号送られんことを希望する。吾々も赤諸君の「工新」の技術に就て批判と意見とを送る考へだから可能な限り毎号一部宛印刷局に送られんことを希む。

同志諸君！

「赤旗」印刷局は諸君の協力と援助と熱望してゐるのだ。「赤旗」を断然スバラシイものにしようではないか!!!

「赤旗」の印刷編輯は積極的に参加せよ！

「赤旗」を支配階の迫害の手から守れ！

「赤旗」オ五十号発行万才！

日本共産党大衆化万才！

附記 諸君の手元に次のものがあつたら至急送つて呉れ。ロゾフスキーテ流筆ロゾフスキー号、ザラ紙山内敏吉大矢省三の写真、ドイツ飛行の「労働者カレンダー」。

週刊
赤旗
第51号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

八月廿九日！
日本帝國主ギが
朝鮮を掠奪した日

一九一〇年八月廿九日——此の日、日本のプロレタリアートはまだ若かつた。一九〇四——五（明治三七——三八年）年の日露戦争で日本帝国主義は北支那における優越権を確保した。ツアールのロシアに対する日本帝国主義の勝利は、アジア大陸への侵略政策における戦略地点としての朝鮮の掠奪を敢行せしめた。一八八六年の「東学党の乱」以後着々と併合の毒牙を磨いてゐた反動日本は遂に、日露戦後に名実共に朝鮮を日本帝国主義の植民地とした。

日露戦争における日本プルジョアジーの勝利は、又彼等の日本プロレタリアートに対する勝利であつた。一九〇四——五年にあげられた「血の日曜」の叫びは戦後における反動の嵐によつて打ち消された。当時の革命家幸徳伝次郎（秋水）等が此の反動の犠牲となつて絞首台の露と消えた。日本の革命的労働運動はこれを転期として可なり長い間停頓するに至つた。

日本プルジョアジーは、かくて、戦勝に依つて、日本プロレタリアート及び勤労農民大衆の間に侵略的軍国主義、天皇主義を深く刷みつける事に成功し、十二名の革命家を反動の嵐によつて虐殺し、他の十二名を無期懲役に処した。それと時を同じにして彼等は朝鮮を植民地化したのであつた。

× × ×

朝鮮民族は其の後日本帝国主義の搾取と迫害との下に置かれた。朝鮮の産業は日本帝国主義の発展の為にのみ存在させられた。（雑誌『マルクス主義』一九二九年三月号、同志永田幸立助の論文及び最近の『産労』参照）

一九一九年万才運動の意義に就て我々は故で振り返す必要はないであらう。何故ならそれは幾度か我々に依つて繰り返されてゐるから。

一九二五年朝鮮内地に満蒙共産党（生れ）。その後に於ける朝鮮の民族解放運動にはプロレタリアートの地位が益々重要性を帯びて来たことは疑ふべき事実である。特に一九二八年の元山のゼネラルストライキはプロレタリアートの成長を示すものとして朝鮮の革命運動史に特筆さるべき事件であつた。都市に、農村に、プロレタリアートと勤労農民・都市小ブルジョアジーの反日本帝国主義運動の炎は増々拡大してゐる。

資本主義世界を覆ふ経済危機は、そしてその一環である日本資本主義の危機は、その重荷を自己と殖民地の労働階級、勤労農民の上に負はせた。白銀死か、斗争か？此の何れかを選ばせられる広汎な大衆は反日本帝国主義の斗争へと進出してゐる。労働争議、ストライキ、小作争議、学校争議（？）の数は月毎にその数を増し、その斗争形態を尖鋭化してゐる。日本帝国主義を打倒する強大な力が此処に存在する。ソヴエート同盟での社会主義建設の成功、就中、ツアールのロシア時代にその植民地であり、弱少民族国として知られてゐた諸共和国に於ける社会主義の勝利、ボルシェビキの正しき民族政策の勝利並びに隣邦中国に於けるソヴエート領域の拡大、更に革命印度の進出は朝鮮（並びに台湾）の被圧迫大衆をして力付けてゐる。日帝国主義の支配を打倒する一勢力たる民族解放運動の一環として朝鮮の革命運動は進んでゐる。

× ×

一九二八年コミンテルンは満蒙共産党に関する重要な決定を採用した。コミンテルンは、朝鮮に於ける革命運動の弱点の重要なもの一つとして無産者大衆を組織することに依つて、この

目次
▼八月廿九日！日本帝国主義が朝鮮を掠奪した日 一頁
▼五十号発刊を大衆獲得で記念せよ！ 三頁
▼「赤旗」と共産青年同盟 四頁
▼中国の労働者農民を救へ！ 六頁
▼鉄の火花 七頁

正しき運動の発展を妨害する分派斗争を克服するにあると指示した。同志永田帝立功も日マルクス主義的技上でこの点に詳細にふれてゐる。

朝鮮内地ではコミンテルンの正しき指導に基いて運動が始められたが一九二九年暮、及び一九三〇年、三一年と打続く弾圧に依つて優秀な同志達が運動、投獄されたり工場で農村で斗争を組織せよ！」と口この指令は絶対に正しかつた。長い間分派斗争に依つて苦しまされ——そして日本帝国主義側からの弾圧を、客観的に容易ならしめた——た朝鮮の革命運動は、正しい方針に対する忠実な実践に依つて、この病根の克服に確固たる一歩を踏みしめねばならず、今や数百倍の苦難の枚に面してゐる。だが正しい方針に従つた同志達の勇敢な、執拗な活動は広汎な被搾取大衆の間に共産主義者の威威を獲得するに大きな力となつて残されてゐる。被搾取大衆は共産主義者のみが彼等の最後の利益を代表して斗争するものであることを益々広く知りつゝある。コミンテルンの指導下に今や朝鮮共産主義者の政治的組織的活動を統一する我同盟が組織されて居り、それの威威は何ものをも以つてしても如何げ得ざる力を以つて大衆の間に拡大されてゐる。

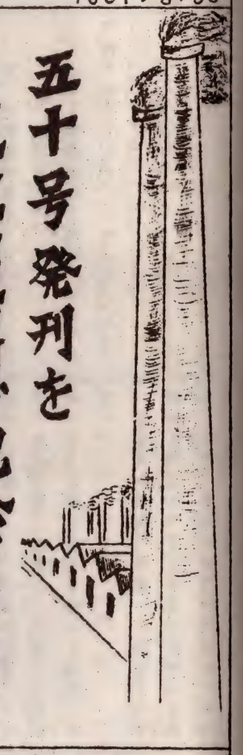
× ×

日本内地にゐる朝鮮人労働者を組織することは日本プロレタリアートの重大な任務である。口同一労働（賃銀）同一労働の為の斗争は日本プロレタリアートが行はねばならぬ責任である。我々は、工場で、職場で、朝鮮人、日本人労働者の共同斗争を組織したし、且つ組織してゐる。だが未だ〳〵決して充分とは云へない。朝鮮人労働者の上に加へられる非人間的待遇に対して、又朝鮮人労働者及び革命的インテリゲンチヤに加へられる野蛮な圧迫に対して、強力な反対斗争を、（全口的に亘ることは言ふまでもなく、一地方的にすら）組織し得ないでゐる。このことは日本プロレタリアートの恥辱である。

日本に居る朝鮮人労働者の間には実に大きの人々は広汎な大衆的斗争の組織に依つて蹴散らされねばならぬ。プロレタリアートは分派斗争を断乎として排撃する。革命的プロレタリアートと分派斗争とは氷炭相容れざる物のである。如何なる敵態にかゝる物にも

九月一日は革命的デモストで記念せよ！
赤色自衛団を作れ！
革命的大衆斗争によつて
白テロを粉砕せよ！

五十号発刊を
大衆獲得で記念せよ!!



「赤旗」五十号の発行は
共産党にとつて……

実に記念すべき偉大な事実である。顧みれば我プロフインテルン大会から丁度一年を経た今日本誌が出されるといふことは時刻の意義がある。

何故 ら
大会の決定書……

実現するたりの斗争は共産党の最も中心的な任務の一つであり、この任務遂行の為には「赤旗」五十号の発行は共産党の発展にとつて正に一時期を画するものだからである。

誰かある危惧に於て
この五十号は……

吾党の過去一ヶ年間の総決算であり、今後に亘程標となるものであらう。

そこで我々は
共産党の労働組合運動……

に於ける方針とその実践的方面と問題とせねばならぬ。

何よりも先づ党は……

大衆との結合の弱い従来の小数の集団的斗争から、大衆斗争の集中的組織体として闘ふを志迹に大衆化することを主要任務とした。これは党が労働者大衆の経済的政治的斗争を指導し組織し指導することによつて始めて可能なのである。このことは又党が労働組合を自らと大衆を繋ぐベルトとして正しく指導する任務と最も密接に関聯する。

故にこれまで党は
労働組合の指導に……

飼明の注意を持ち且つ力しにし現在積力的に斗争し続けてゐる。労働組合運動に対する党の一貫せる態度は全口協議会の成立強化を中心任務とする労働組合運動の革命的統一戦線斗争を基礎とする大衆の下からの統一戦線との樹立であり、この運動の発展に対して最も有害な影響を及ぼすものは右翼日和見主義的傾向に対する断乎たる斗争である。

経済危機が深刻化するに
つれ労働者大衆の……

資明らしい革命化が現れた。吾党がこれらの大衆を獲得するには革命的労働組合を強化することなしには殆んど不可能である。故に党は全口協議会を名実共に大衆的有力な赤色組合として発展せしめるために斗ひつゝある。この傾向に対する斗争は実に赤色労働組合の発展にとつて不可欠の条件である。党がこの任務を成功的に果すための活動は、具体的にはプロフインテルン第五回大会の決定、特に「日本の革命的労働組合の任務」の実行の先頭に立つことを意味する。それ故に党はプロフインテルン大会の決議を最も忠実に迅速に行しつゝあるのである。

先づ我々は党が
全口協議会によつて……

発表するに「支配」を何に理解すべきかの重大な政治問題を正し、決議の正しい理解のために斗つたことを手がねばならぬ。これは吾党の政治的意義を以てゐる。其後我々の批判を基礎として党と全口協議会の強化を傷ける目的を以て種々問題の提起をなす逆行しつゝあるのである。

党は口際決意度対デー
及びメーデーに……

全口協議会を指導し独自の革命的デモを組織した。これは指導くの不充分さを持つてはゐたが従来の合法主義の殻を打ち破つて独自の方針に基き大衆動員の新方法を用いた点に画期的意義がある。党は又に全口協議会を指導するだけでなくすべての改良主義組合内に反対派運動を組織しそれを大衆とともにグループとして全口協議会に編入される方針を採り協議会はこの方針に基き、全口同盟、総同盟、総同盟等々に革命的反対派と結成しつゝある。これ等の現象は来るべき革命的高潮化されてゐるがい点に急速的可能性は我々が正しく指導さへすれば急速な発展と約束してゐる。

同々に邪魔する
大衆運動の如き失業者……

の動向とこれの組織化の方面に於ける全口協議会の方針は、革命的労働組合の組織原則をその正しき失業者の組織に適用したことによつて大衆の把握性を著しく深めてゐる。党はこの点を厳く批判し失業者運動の方向と、超党派的大衆組織への動員の仕事を力説した。全口協議会は此の方針に基き自己の組織に原らうして今やその活動を集中しつゝある。

党は今や全体として
基本的労働組合運動が……

立場をる労働者階級を正しき労働組合組織に転化するための基本的方針を確立し実践の一歩を踏み出した。然りそれは学校通りの一歩たるに過ぎぬ。我々は口大体の方針だけで労働組合を指導するうではなしに一歩実践的に指導せねばならぬ責任を持つてゐる。

のである。

我々は労働組合運動の
実践的指導に於て……

非常に多くの不充分さがある。一口に云ふならば党と革命的労働組合の大衆化にとって緊急不可欠の条件である経済斗争の指導に就て革命的労働組合を充分準備させておらないことである。更体的には次の如き欠陥として現はれてある。

一、労働組合運動の
一つ一つに対して……

注意が足りない。一例を引くならば「労働クラブ」に対して我々は革命組合と反対派を工場内で斗争させる様に活動しなかつた。

二、経済斗争の独自的
指導に最も重要な……

関係を持つ工場内の日常活動を充分指導してゐない。

三、企業を基礎に
革命的労働組合を……

再組織することに対する、優柔不断。

四、活動能力ある
細胞を作ること……

によつて組合活動の沈滞と不活発を打破することが殆んど行はれてゐない。

五、組合のそれ〴〵の
機関紙のフラクションの気象的な活動によつて指導するかわりに命令によつて行はうとする傾向が強く残つてゐること。

凡て此れ等の
事実は同志達の……

曾我が方針の実行に当つて非常に消極的であり、又はボンヤリしてゐることを証明してゐる。これまで党は機会プロフインテルン第五回大会の決定を忠実に遂行せよ！
赤旗五十號発刊万歳！
党のボルシエビーキ化万歳！

『赤旗』と共産青年同盟

日本共産青年同盟は、共産党の大衆的な豫備校として、党と最も密接な関係を持つて前進しつゝある。そして、党中央機関紙「赤旗」は同盟の全政治生活の基礎として、同盟を指導して来た。同盟以来、赤旗は、同盟の再建に対して、主要な方向を与へて援助して来た。

党中央機関紙「赤旗」と同盟との原則的な関係は、党と同盟の原則的な関係を示す。

中國の労働者農民を救へ！

水害慰問使節の派遣と救援金
募集カンパーニアをまき起せ！

全国の労働者農民兵士諸君！

中国の労働者農民は未曾有の水害のために破滅に瀕してゐる。七月中旬頃から氾濫は長江に始り、流域地方から無つた避難農民の数は武漢のみで数十万を数へてゐる。しかも武漢三鎮も既に大湖と化し日を追うて罹災者の数は増してゐる。被害地域は中部長江一帯の湖北、湖南、江西、安徽、江蘇の五省を中心とし、之に隣接する地域は多少天増水災濫の災害に蹂躙してゐる。かくて被害地罹災民の数は実に数十万を数へるに至つた。水害は貧困な農民の手から農産物の収穫を全部奪い去つたばかりではなく、依所にあつて防水設備を可能ぬ都市労働者街を完全に破壊し流失せしめた。彼らは今や家屋と財産を失ひ、恩救と飢餓の中に唯死を待つてゐる。しかも蒋介石と各国帝国主義の手先共はこのどさくさにまぎれて、丁度農家地方の大震災の時に日本の資本家地主政府がやつたやうに、被害の革命的労働者と農民を逮捕し虐殺してゐるのだ。

全国の労働者農民兵士！

湖北、江西及湖南省の南部、福建、広東省の一部、安徽、江蘇省中の揚子江南岸一帯に於ては帝国主義者の支配を駆逐して勤労民衆のソヴエート政権が樹立され、赤軍とパルチザン隊は蒋介石の軍隊を撃退してゐる。然るに植民地革命の神かしき発展となり、日英米帝国主義による極東の支配を震撼し、世界革命における重要な役割を演じた主等の地域の半ば以上が惨憺たる水害地となつたのである。この為めに、計画的経済の基礎を確立すべき偉大なる事業は少からず妨害されてゐる。だが、ソヴエート地域の労働者と農民は帝国主義者と蒋介石の反革命に対する勇敢な斗争を放棄しなかつた。湖北、江西、の赤軍は武漢の攻撃者共を撃くためにそして労働者と農民を救ふために進撃し始めてゐる。

全国の労働者農民兵士諸君！

飢餓と恩救に曝され反革命的テロルによつて迫害されてゐる中国の数千万の罹災労働民衆の生命を救へ！中国革命を絞殺せんとする国民政府と帝国主義者共の一切の攻撃に対して苦斗する中国の革命的労働民衆を守れ！中国のソヴエートを守り、赤軍の斗争を支持せよ！中国の労働者と同様に日本の帝国主義ブルジヨアジーの搾取と圧の下にある諸君労働者農民は同じ敵的協働にケッキせよ！諸君はこれによつて、階級的連帯の行為を実証し、ブルジヨアジーによる救済の虚偽と無力を暴露しなければならぬ。労働者農民動労働被搾取被圧迫民衆を救ふものはソヴエート同盟を先頭とするも界の労働者農民以外にはない。

全国の労働者農民兵士諸君！

工場農村兵営を中心に即時救援募金募集カンパーニアをまき起せ！・闘争団体派遣のために労働者農民兵士の代表を送出せよ！

諸君はまたこのカムパーニアを通じて国際労働者救援会日本支部の創建を斗ひとらねばならぬ！又労働者と農民のソヴエート友の会を作らねばならぬ！これこそは中国のソヴエートと罹災勤労民に対する、諸君の最も価値多き贈り物である。

中国罹災地の労働者と農民を救へ！

中国のソヴエートを守れ！

反革命テロルに対する中国共産党並に赤軍の斗争を支持せよ！

中国、日本の労働者農民兵士の革命的提携万歳！

一九三一年八月三十七日

日本共産党中央委員会

鉄之火花

白テ口反対
第八週年記念斗争日を迎ふ

××生

一

大戦後（大正七年）日本は、世界的な革命の大波の中に包まれてゐた。朝鮮では万歳事件、内地では米騒動が起り、日本の労働者階級は非常な革命的昂奮を示してゐた。つゞいて全口の大工場大鉱山にストライキが頻発し、労働者階級は政治的に非常な発展を遂げつゝあつた。大正九年には労働者階級は「普選獲得」を叫んで政治運動へ繰出して来た。農村に於ては大正七年以来小作争議が頻発し、尖鋭化した形態をとるに至つた。是等の労働者農民の政治斗争を指導し、組織する為に、労働者階級の為に政権を奪取し、プロレタリア独裁を目標として斗争する為に徳田の前衛、日本共産党が初めて、大正十一年（一九二二年）十一月日本にその偉大なる姿を現した。然るに之に対抗した政府は、党の未だ弱いのに乗じて、大正十二年六月五日、徳田の前衛に対して最初の残虐な白色テロルを加へた。共産党の検挙弾圧と同時に、猛烈して虐迫つた支配階級は、革命的労働者と革命的労働組合に対して弾圧を加へた。資本家地主にとつて最もおそろしいプロレタリアートの唯一の党日本共産党は生れると直ぐに支配階級の残虐な白色テロルを受けねばならなかつた。党は白色テロルを受けると直に再建運動を起した。是と共に関東の青年労働者は日本の共産青年運動の為に九月二日の口際無産青年デーの準備に活発に活動を始めた。

二

大正十二年九月一日——関東地方一帯は未曾有の大混乱に陥つた。通信は杜絶し交通運輸の機関は破壊された。政府と軍部は此の混乱と秩序の破壊に驚愕した。が同時に此の混乱状態を利用してその野望を暴力的に遂行する事に一次した。「全市民の安寧秩序の為に」治安維持の緊急勅令を発布し戒厳令を布いた。彼等の有力な組織力を利用して、小ブルジヨア民衆の盲目的自衛心を誘発する為に「不逞鮮人の暴動」等々の無根の悪宣伝を放ちつゝ彼等の野望を遂げる事を合理化しつゝ共産主義者を虐殺し、千人に近い朝鮮人をたゝき殺した。何れも市民の安寧秩序を乱すがためにと称して！

亀戸の共産主義労働者平澤計七、河合義虎、北島吉三、近藤広蔵、佐藤欽一、渡辺政之輔、加藤高寿、山岸實司、鈴木直一の九人の輝ける優連の兄弟達は宮嵩と軍隊に捕へられて銃殺され死体は暗から暗へと葬られ焼き捨てられたのだ！

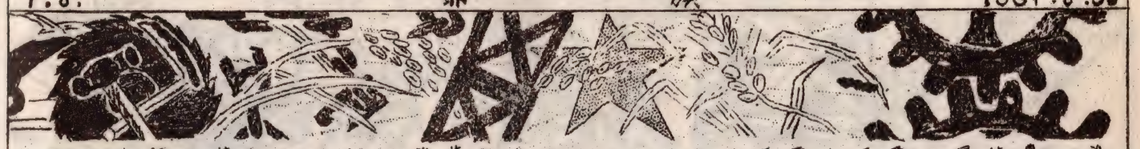
一方、手に汗を握る朝鮮の兄弟はじめ自警団等暴虐兵に追ひ廻されて殺る術に於を虐殺された。何もしらない無辜の兄弟達は、憎むべき帝国主義の手先が放つた無根の悪噂動の為に殺されたのだ。

大震災による莫大な被害は、関東地方一帯の全住民を飢餓と困苦の真只中に置いた。死傷者の数は莫大な数に登つた。

優連の祖国労働者農民のロソヴエート同盟から救援の為にレーニン号が芝浦にやつて来た。及動政府はアメリカ帝国主義の救援は之を喜んで受けた。けれども民衆つれと困苦を救ふ為にはるばるやつて来たレーニン号は追ひ帰した。

三

大震災の混乱が鎮まつた後も政府は長い間失業者労働運動を鉄鞭する治安維持の緊急勅令を撤廃しなかつた。共産党事件、虐殺事件を初めとして資本家地主の反動政府の労働者階級に下せる白色テロルは更に猛烈となつた。それと同時に震災の混乱の中に成立した山本内閣は普通選挙の口約をなし労働者農民を欺瞞し支配階級の政



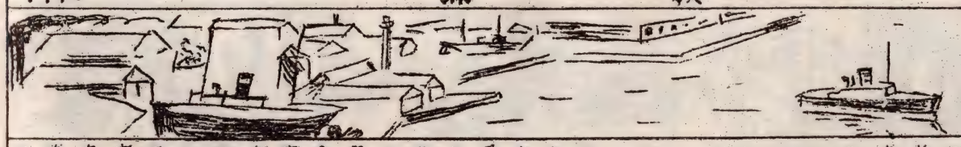
治的支配の基礎を固めんとした。かくて労働運動の上に重圧なる最初革命民主々義者が公然と現はれた。当時の最大の労働組合総同盟の中に鉛木、松岡両軍赤和衛生の一連のバラ幹が頭をもたげ始め段階主義的政策を標榜して革命的組合員を支配階級と協力して抜逐し始めた。白色テロルの強化と直接間接の買収によってフラ〳〵した小ブルジョア的指導者共は公然とプロレタリアートの敵として支配階級の援助の下に出発したのである。

四

支配階級の両手に握られた白色テロルの犠牲は第一次共産党事件を皮切りとして大震災当時の亀戸事件によって益〻ときすまされた。革命的労働者農民に下されるその鬼畜は絶之間なく三・一五、四・一六、二・二六、七・一六となつて現はれ一切のストライキ、小作争議に荒れ狂つた。そして今や益々死にもの狂ひの弾圧がおこなはれつゝあるのだ。これ自身の階級支配を労働者農民の搾取を維持せんが為に資本家地主の政府は益々弾圧を強化してゐる。

二社会ファシスト共は、戦争的プロレタリアート農民に下される白色テロルの犠牲に対して敢然と戦はうとはしない。否、彼等は最も大切な第一日より白色テロルと協力して革命的プロレタリアートを弾圧し放逐して来たのだ。

俺達は強重なる白色テロルに対して、俺達の党日本共産党を死守し、俺達の革命的組織を拡大強化し、又、大衆に対する社会ファシストの影響力を粉砕して大衆を獲得し、その先頭



斗士養成問題に就て
四六号七頁を読みて——

斗士養成は実に緊急な任務である。未だ嘗てない深刻な経済的危機に直面してゐる現在労働者農民大衆は自然的に尖鋭化し革命に発展する事の出来る條件を十分に有してゐる。然し乍ら、斯る有利な條件の下に於てさへも我々は堅実を党とその正しき指導なしには革命を完成する事は不可能である。我々は今日程堅実な党の必要に迫られた事はない。(それは常に必要なのだが今日の如き有利な條件に於ては、それは益〻要求される)

党が堅実である事は、その構成分子たる個〻の成員がよき斗士である事である。よき指導者である事である。よき共産主ギ者である事である。「若しプロレタリアートがブルジョアジーを打破せんと欲するならば、プロレタリアートは其の隊伍の中よりブルジョア政治家に比して遜色なきそれ自身のプロレタリヤ的「階級的政治家」を養成しなければならぬ」(レーニン、一九二〇年九月小冊子)

然らばよき斗士、よき指導者、よき共産主ギ者とは如何なる人の事か。

「労働者農民大衆の要求をまとめてその下に大衆を組織し動員する事、そしてその要求を日本プロレタリアートの、従いては世界プロレタリアートの最高的目的と巧に結合させ得る階級斗争の実践的指導者のことだ」(四六号七頁二段四行目)と赤旗は正しく書いてゐる。

よき指導者の前には大衆は手足の如く動くのを我々は知つてゐる。それは彼がその大衆の信頼と尊敬を受けてゐるからだ。然らば我々は如何にして大衆の信頼と尊敬とを勝ち得るか。

先づ我々は大衆を正しく指導せねばならぬ。その為には大衆の第一の要求を敏感に察知する事が必要だ。そしてその要求の完遂に立つて勇敢に斗争するのだ。若し正しき指導を我々がなすならば大衆は我々について来るであらう。大衆は常に正しき方向にのみ動く。だから我々は常に自分自身の斗争を経験種々な書物、パンフレット優れたる指導者の経験及び指導により研究せねばならぬ。文を怠るやうでは階級的政治家になれないのだ。

次に我々は大衆の為に文字通り献身的でなくてはならぬ。それが如何に小さい行為にせよ一見つまらない(階級的意義のない)行為にせよ大衆の為なら徹底的で仂くべきだ。我々は凡ゆる点で献身的であれ。

その次によき共産主ギ者となる為には自己の性格を徹底的に批判して己れの欠点(短所)を克服する事が必要だ。若し我々が性格的にルーズな点、だらしない所が現れてゐるだらう。又短気な人であるならば彼の仕事には此の欠点が仕事の欠点として現れる。執拗性忍耐力の皆無な人には、どんな小さな斗争をへも勝利に導くことは出来ないだらう。余り鈍感過ぎる人間には大衆の第一の要求を見出すことは不可能のことだ。

即ち、我々の性格の欠点はまた我々の仕事に現れるのだ。組織者の欠点は彼の組織に正しく反映してゐる。我々のする仕事は吾々の性格の鏡だ。

だから完全なプロレタリヤ人格者にして始めて完全な仕事をなし得ると断言する事が出来る。我々は即座に自己の性格を反省しよう。短気か粗雑か、気が弱いか忍耐力はあるか執拗性を持つてゐるか、自信を持つて仂いてゐるか、献身的であると云へるか、等々。

「政治的観念が我に充分に発達しそして職業的に訓練され且つ永い実習の経験を通過したところの、そして又相当に優れたる協同的活動をなすところの十人の有能な経験ある指導者なくしては、近代社会に於ける何れの階級も一つの決定的な斗争を行ふことは不可能である。」——レーニン

我々は斗争の中に於て自己の欠点、誤謬を清算、克服してよき階級的政治家、よき共産主義者とならねばならぬ。

一頁 二頁 五頁 六頁 七頁

ボリシエビキー的自己批判の旗を高く掲げて斗争の先頭に立て！

週刊

赤旗
第5之号

國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼国際青年デーに際して……一頁
▼反動的婦人運動への斗争……二頁
▼解党派の「細織テーゼ」とは何か？(三)……五頁
▼暫き病床にある同志片山潜を見舞ふ為に全国の読者並に吾党的労働者農民に檄す！……六頁
▼鉄の火花……七頁

國際青年デーに際して

「労働婦人の組織を放棄することはブルジョアに奉仕することを意味する」とふ第五回プロフインテルン大会の日本問題に関する決議の中の言葉は、我共産青年同盟の場合にも正しく適用される。

我々は今特に婦人に向してのみ言ふ。

産業合理化の強行と、生産の軍機化は、以前には男子労働のみの産業、例へば金属、化学、交通運輸、出版、食料品等に多数の労働婦人を引き入れた。今や労働を初めとする浸等の主要産業に於ける婦人労働者の比重は益〻増大しつゝある。これと同時に晃落してならぬことは、資本主義的産業合理化の必然としての、婦人労働者の年令の低下である。停年制による既婚婦人の放逐、主要大企業に於ける成人婦人の就業の拒否等は、「最も安き賃銀で、最も強度な搾取に最も従順な労働者を」とふブルジョア搾取者のあくなき要求の現れである。この為に成人婦人の就業は益〻拒否され困難になつて行く。

セン子産業に於ける婦人労働の雇入れは、二十才未満どころか未だ小学校を終へぬ少女を、工場附属の学校をかせぎ仮ら卒業出来るとふ好ましげな工サによつて飢えにひん せる裏街から大量的に仕入れてゐるのである。

交通産業に於ける婦人雇入れの年令は市バスが十六才より二十才以下、停年制が市バスが三十五才、横浜バスは結婚まで、京都バスは未婚である事を雇傭條件としてゐる。其他の産業に於ては、最近に於ける雇傭は、しつぱらその年の小中学校卒業生をといふ方針で直接学校当局、職業紹介所との取結の下に行つてゐる。三越、松坂屋等の大デパートに於ても、この方法に依つてゐる。

かくの如き現実は、吾々の労働婦人間の活動組織の為の凡ゆる新らしき方法の研究と、大衆の中に於ける日常活動に対する党と共青との凡ゆる単位に於ける共同の問題をば前面に押し出してゐる。そして我共産青年同盟組織の拡大強化大衆化の為の具体的方向を明示してゐる。

日本の共産青年同盟が世界の支部のその中でも決して誇り得るものでないこと、(二)、でも年少婦人労働者の間に於ける活動が恐んどなされてゐないとふ事は日本史以来ない。

同盟は、年少婦人労働者の間の活動に対して同盟の各部が、若い婦人労働者獲得のための特別の活動を責任を持つて研究し、生き生きとした青年らしい(少女らしい)方法によつて、若い婦人労働者にもつと〳〵積極的に並びいて行かねばならない。その為には、工場、農村、仕事場に於て、凡ゆる大衆組織・凡ゆる機会を利用し、又創設して行かねばならない。青年活動に於て理左的な(同時に右翼的な)なんぜ小現実味の薄い片苦しいコチ〳〵した態度が一番よくない。青年活動に動脈硬化は絶対に禁物だ。

日本の婦人労働者、若い婦人労働者は、政治的に成長するに必要な凡ゆる条件を切断されてゐる。

封建的家長制度により、小学校に於ける反動的奴隷教育に依り。又ブルジヨア娯楽、教会、廃芸もの、少女雑誌等によつて幼少からの系統的な反動軍国主義セン子メンタリズムの、ブルジヨア組織の影響を受けてゐない若い婦人は一人もないだらう。特に近年に於ける婦人労働者の年令の若しい低下の傾向は小学校に於ける所謂「職業教育」と称する賃銀奴隷教育を益〻しめてゐる。この方面に於ける共青及党の任務に就ては、コミンテルン第十一回プレナム(執行委員会総会)

反動的婦人運動への斗争

未曽有の㊀危機を惹起める日本ブルジヨアジーの労農階級への攻撃は労農階級の最も弱き部分プロレタリア勤労婦人の上に特に惨酷に現はれてゐる。彼等の㊀危機克服㊀のプログラムはそのあくなき狂暴性を、凡ゆる美しき仮装に包んで押し通められてゐる。

日本ブルジヨアジーはその左右の手先き、社会民主々義者共に付加して種々なる婦人㊀の組織を造り、又村の力で労農、勤労婦人大衆に白色テロルブルジヨアの厳撃を与へんとしてゐる。キリスト教女子青年団、全日女子青年団、婦選獲得同盟、無産婦人同盟、社会民衆婦人同盟、又最近には女子海軍省の㊀婦人㊀の組織を企図し、更に官の力で労農、勤労婦人大衆に白色テロルブルジヨアの厳撃を与へんとしてゐる。キリスト教女子青年団、全日女子青年団、婦選獲得同盟、無産婦人同盟、社会民衆婦人同盟、又最近には女子海軍省の㊀婦人㊀の組織を企図し、更に官の力で労農、勤労婦人大衆に白色テロルブルジヨアの厳撃を与へんとしてゐる。

全日女子青年団の（農村にはびこつてゐる処女会等もこの中に組織されてゐる）如き全日の都市、農村に十二三才より三十才位までの百七十三万五千とゝふボー大なる勤労婦人を組織してをり、彼等の役割は、都市、農村の勤労婦人の革命的行動への参加を妨害し、階級的、政治的問題に対する無関心を植え付ける事、特に目前に切迫せる帝国主義戦争への準備、忠君愛国と軍国主義の謳歌に力を集中してゐるのである。彼等の影響力は農村に於て相当に大である。

アムステルダムオフインタナショナルの指導精神の下にある社会民衆党、社会労農大衆党と緊密な大部関係にある社会民衆婦人同盟や婦選獲得同盟の㊀婦人㊀の組織が如何なる目的の下に、（組織の動機の）如何なる役割を果しつゝあるかは是等の組織の顔ぶれ、綱領、政策及彼等が為しつゝある運動に就て見れば直ちに明白である。是等の組織は何れも一九二七年に勃発の最初の普選を前にしてボツゴウした物でその政策には皆一通りの自由主義的又は社会主義的要求スローガンを掲げてさながら資本主義制度の下に於て、而も、議会運動で是等のプロレタリア勤労婦人のほんの初歩的な要求の一端でもが実現出来得るかの如き幻影をまき散らしてゐる。彼等は揃つて、その綱領に於て公然と或は暗然と日本に於ける資本主義制度を認めオーカしてゐるのである。是等の組織の主要活動は依然として婦人参政権獲得運動で、議会中や選挙中に演説会を開いたり、街頭署名運動をやつたり、プルジヨア政党や大臣を訪問したりする事で終始してゐる。彼等はそれ以外では目的遂行に尚不充分である事を認め、最近では婦同盟、組合同盟等の左右の改良主義組合婦人部との提ケイの下に所謂日常活動に進出して来た。彼等は婦人の勇敢参加せるストライキに対して、小ブル的裏切斡部を応援に送つたり、街頭でチンドン屋の真似をしてまで小ブル、インテリの御同情に訴へたりして、ストライキそのものの革命化を防止してゐる。彼等の日常活動が如何に害悪をなものであるかを簡単に知るもう一つの例は次を見よ。

婦同盟婦組合婦人部の最近の活動

（一九二九、一。―一九三〇、九の間に於ける）

【研究会（英語の初等教育等を含む）八回。林間会、一回。雄弁会、六。編物手芸、三三。生花会、一二。料理、九。講演会その他（その他の中には裁縫、着付、裁縫等）】

当る五月初旬、社会民衆婦人同盟と労働婦人聯盟との合同によつて結成された社会民衆婦人同盟の最近の活動としても移動民衆婦人学校㊀の活動がある。この学校の学科目をも見よ！彼等の目的は明々白々である。即ち、一、文章の作り方、和歌の作り方、二、婦人問題（母子扶助法）三、社会主義の話、四、社会運動に関する外国語の解説、五、プロレタリア俳句学、等である。これは、明らかにプロレタリア勤労婦人を階級斗争に動員し、組織する事ではなくて、反対に、勤労婦人のプロレタリヤとしての階級心を眠り込ませ、支配階級の殺人的搾取の前に無力化させることである。

プロレタリア勤労婦人の間に於ける彼等の役割は最初から、自由主義的な試会主義のおしやべりに依つて婦人勤労大衆の注意を引き付け、彼女等を改良主義のタク流の中に引き込み、工場を基礎とせぬ街頭的な小ブル的な、婦人のみの特別な組織へ組織することによつて労農階級の婦人をプロレタリア

ートの全般的な階級斗争から永久に引離さんとするものである。

帝国主義戦争、反ソヴエート同盟干渉戦争の切迫せる今日、急速に勤労婦人大衆を戦争に準備せんとする支配階級の努力は之等の凡ゆる色合ひの社会ファシズム的婦人組織の活動を益々重いものにしてゐる。彼等は排外的愛国主義に引きかゝらない婦人には宗教的人道主義平和主義を、それでも駄目な婦人には凡ゆる戦争に絶対反対の急進的平和主義を、それでも引きかゝらない婦人労働者は警察へ渡すと云ふ具合に、ブルジヨアジーの戦争への政治的準備に分業的に積極的に参与してゐるのである。

我々は敵階級が遂行するかゝる一切の反動婦人運動に対して断乎として斗争するものである。工場に、農村に、鉱山に、仕事場に、党、共青、全協、婦人部の指導の下に革命的婦人委員会、婦人反戦団、赤色スポーツ団等を設置して、下から日常斗争を組織し、プロレタリア勤労婦人を斗争へ動員し、党の側へ組織する事によつて反動婦人運動を積極化せねばならぬ。又、我々は支配階級の手先き幹部とその影響下の労農婦人とを同一視するが如き誤見を有つものではない。我々はかゝる未だ自覚の婦人をもプロレタリアの党の側に獲得すべく、反動組織内に於ても精力的に活動せねばならぬ。だが一言に彼等の反動的役割を暴露するとゝもに、強力なる暗殺活動は彼等の影響下の婦人を自分自身の日常生活の問題に引き入れ、斗争に組織し その斗争――である事を我々は忘れてはならない。

プロレタリア勤労婦人を、政治的経済的日常斗争へ準備し、動員する事に依つて反動的婦人運動を粉砕せよ！

革命的婦人委員会、婦人世話役の活動で反動的婦人活動を粉砕せよ！

日本共産党『解党派の組織テーゼ』とは何か？(二)

(一)組織上に現れた排外主義

前号に於て

解党派の暴露した㊀組織テーゼ㊀の一般的方面を批判した我々は、若干部分的方面をも考察批判せねばならぬ。だがその前に彼等が共産党の組織とは何ぞやと云ふ事を理解してゐない事をもう一度繰り返すことにする。

解党派の

政治的立場を丸判した場合、我々は㊀排外主義者㊀として彼等を性質付けた。同志佐野学は公判廷で彼等の正体を本質的にバクロした中で二の事を充分に述べてゐる。（尚に云つてをかねばならぬ事は、雑誌㊀中央公論㊀八月号に㊀所謂解党派の主張㊀と題して門屋博が革命の一段論と二段論――と彼等は云ふのだ――との見解の相違によつて我党が分裂したかの如く述べてゐるが、それは全く偽だと云ふ事だ。彼等が右の中で行はれは暗黒活動は全く無力と主張したもので我党から除名された事に変節した事を我々は忘れてはならない。そして我々は今日に至つても尚、この除名の決定が全然正しかつた事を信ずる。一切の事実はその事を証明して余りある）。

彼等の此の

排外主義は組織上にも表はれてゐる。一例をとればかうだ。㊀日本には現在コミンテルン日本支部の名を僭ぎ理る（？）者はあつても、実質的には支部たるの資格を失墜しつゝある㊁。㊀二言目にはコミンテルン日本共産党の名を振廻して自己の本質的小ブル性を塗り隠し……等々と述べてゐる。（是丈けを読むと彼等は如何にもコミンテルンの日本支部としての資質を作らんとしてゐるかの如く見える。又曰く㊀コミンテルンの原則決議の実行によつて結ばれる正しき組織的連絡こそ真のコミンテルンの組織であり、かくて建設せられた支部のみが光輝ある口際革命党の一環である㊁と。立派な言ひ方ではないか!!そして言つてゐる限りに於て正しい。我党は、コミンテルンの㊀原則決議㊀に依つて反革命君主々義者――一味の解党主義者を断乎として除名した。君主々義排外主義はコミンテルンの㊀原則決議㊀の実行上にとつて最も有害なものである。我々がその有害なものを取り除いた事こそ全く正しいのである。我々は政治上にも、組織上にも極右宗派主義的偏向を有してゐた。だが君主々義者日和共産党をコミンテルンから分離せよと主張したものを除名し、裏切者として焼却を押したことは決して極右宗派主義ではないのだ。解党派の紳士達には極右宗派主義の本質が分らないのだ。プルジヨア新聞が逆宣伝的に使用する範囲にしか彼等は理解してゐないのだ。

だから彼等は、

我党がコミンテルンの実質的（？）支部でないと批難はするが、各口共産党とコミンテルンとの組織的関係に就ては一言もふれてゐない。彼等はウツカリして忘れたのだ!!この重大な問題を！否、彼等はこの事を書き得ないのだ。我党が常にコミンテルンと我党との関係を広汎なる労働者大衆の前に宣伝し（決して成功的であつたとは云へないが）て来た事は全く正しい。コミンテルンの決議の普及化、大衆の中への持ち込み（それが時には技術的に行はれなかつたり、説明が不充分であつた事があるにしても）の活動こそ各口共産党の基本なのだ。それを解党派に言はせると

「二言目にはコミンテルンの名を振り廻して居る事になるのだ！・何れが正しいかの・ピオネールですら解党派が間違つてゐると云ふに決つてゐる。一九二八年に召集された我党の「組織再建に就てのテーゼ」第二条には次の如く規定されてゐる。

「二、コミンテルン（「国際共産党」）の一支部としての日本共産党。

日本共産党はコミンテルンの一支部である。日本共産党の新たなる組織建設はコミンテルンの日本支部としての組織建設であつて、日本だけの共産党の建設では絶対にあり得ない。従つて日本共産党はコミンテルンの政綱の上に、コミンテルン精神（ボリシェヴィズム）の上にコミンテルンの一支部として築きあげられるものでなければならぬ。コミンテルンの一支部である日本共産党は、その当然の義務としてコミンテルン執行委員会の凡べての命令に従ひ、世界無産階級革命の一支隊としての責をあくまねばならぬ」。

四、党再建の諸条件

（原則も亦かうであつた。現在に於ても、此決定は全体的に正しい。解党派の態度と我党の態度が如何に異るかを敢て説明する必要はないであらう。解党派の紳士連はコミンテルンを云々したり、我党の輝ける「史」を云々する権利はないのだ。何故なら彼等はコミンテルンとも、我党とも何等の関係がないのだから。

彼等が「国際的」

指導部の命令に対して如何に「忠実」であるかの例として旧刷新同盟の一部関東自由の指導者の態度をあげよう。関東自由は「党」再統一問題を中心にして「大会」を開催し、結局「全国協議会」に対して旧刷新同盟の一部関東自由の一部指導者のみが相変らず「解党」を避ける為に、もう一度繰返すが、プロフィンテルンへ上告する」と云ふ事を決定しやうである。（「社会運動通信」九月五日号）。プロレタリア大衆を工場の中で、職場の中で組織するとか云ふ仕事はさて置いて、「全協が悪い」事を宣伝すべく精力的に手つて来たこの少数の指導者「共」は、又々「プロフィンテルンへ上告する」と云ふのだ。

プロフィンテルン

は才五回大会で決議を採択した権威ある決議を日本の革命的労働組合運動発展の指針として与へてゐる。その実行こそは革命的労働者の全体的責任であり義務である。各加盟組合が夫々の成功を見せてゐるのは、それは左翼化して行く大衆のテンポと比較する時全く不十分であるとは云へ（「全協反対」者共でさへ）一時に関東自由が如何に正しくプロフィンテルンの決議を実行したかへ大衆を広汎に組織するとか云ふ見地から、又只に自由労働者のみならず他産業の労働者をも大衆的に組織するとか云ふ見地から見て）を我々は知りたいのだ。然るに彼等は、この事をせずして「全協反対」「プロフィンテルンへ上申」を以て終始してゐるのだ。決議を実行しなかつたかは各組織の全体的実践を通して如何に「忠実」であるかの例として旧刷新同盟の一部関東自由の態度をあげよう。関東自由は「党」再統一問題を中心にして「大会」を開催し、結局「全国協議会」に対して旧刷新同盟の一部関東自由の一部指導者のみが相変らず「解党」を避ける為に、もう一度繰返すが、プロフィンテルンへ上告する」と云ふ事を決定しやうである。（「社会運動通信」九月五日号）。プロレタリア大衆を工場の中で、職場の中で組織するとか云ふ仕事はさて置いて、「全協が悪い」事を宣伝すべく精力的に手つて来たこの少数の指導者「共」は、又々「プロフィンテルンへ上告する」と云ふのだ。

プロフィンテルン

は才五回大会で決議を採択した権威ある決議を日本の革命的労働組合運動発展の指針として与へてゐる。その実行こそは革命的労働者の全体的責任であり義務である。各加盟組合が夫々の成功を見せてゐるのは、それは左翼化して行く大衆のテンポと比較する時全く不十分であるとは云へ（「全協反対」者共でさへ）一時に関東自由が如何に正しくプロフィンテルンの決議を実行したかへ大衆を広汎に組織するとか云ふ見地から、又只に自由労働者のみならず他産業の労働者をも大衆的に組織するとか云ふ見地から見て）を我々は知りたいのだ。然るに彼等は、この事をせずして「全協反対」「プロフィンテルンへ上申」を以て終始してゐるのだ。決議を実行しなかつたかは各組織の全体的実践を通して如何に「忠実」であるかの例として旧刷新同盟の一部関東自由の態度をあげよう。関東自由は「党」再統一問題を中心にして「大会」を開催し、結局「全国協議会」に対して旧刷新同盟の一部関東自由の一部指導者のみが相変らず「解党」を避ける為に、もう一度繰返すが、プロフィンテルンへ上告する」と云ふ事を決定しやうである。（「社会運動通信」九月五日号）。プロレタリア大衆を工場の中で、職場の中で組織するとか云ふ仕事はさて置いて、「全協が悪い」事を宣伝すべく精力的に手つて来たこの少数の指導者「共」は、又々「プロフィンテルンへ上告する」と云ふのだ。

我々は

統一労働者協議会を作つた事には触れまい。これも亦彼等の忠実ぶり（但し革命的指導部に対するそれではなしに、「天皇」、ブルジョアジーに対する忠実さだ）を証するものの一つであることは余りにも明白である。

政治上の排外主義、君主々義は組織上ではかくの如く孤立主義、「国際的」革命運動よりの組織的分離となつてゐる。

（三）大衆団体内の共産主義者フラクションについて

共産党は

凡ゆる大衆団体内にコミニスト・フラクションを作るべく努力する。（この点の委しい事に就ては永嶺ハンフレツト第十二輯を見よ）フラクションは党組織に対しては従属的である。大衆団体の組織範囲に治ふてフラクションは構成されも。大衆団体内にある凡ての共産主義者――党員――は各々党の細胞に属してゐると同時に又、この大衆団体内のフラクションを構成する。従つて重要な問題な凡てこのフラクション会議で先づ審議されねばならぬ。然し構成員が余りに多すぎると云ふので「フラクション・ビユーロー」を持つ事がある。

「解党」を避ける為に、もう一度繰返すが、フラクションは大衆団体の組織範囲に治ふて作られるのである。だから全国協議会加盟の一組合を例にとれば、工場分会、地区、支部、本部と云ふ範囲に従つてフラクションは構成される。組合大会の場合には、その大会に出席せる共産主義者の代議員全部を以て大会のコムミユニスト・フラクションを構成する。そして指導関係では分会のフラクションは地区のフラクションの指導を受けるのではなしに工場細胞の指導を受けるのである。大衆団体の組織に治ふて作られたコムミユニスト・フラクションは党から独立した組織ではない。だから組合の上部機関内にあるフラクションが下部機関内にあるフラクションを指導することは組織上の誤謬である。何故ならそれは、独自的な党組織とは別に大衆団体の組織に治ふ大共産主義者の組織を作ることになるからである。

解党派の

「組織テーゼ」は次の如く述べてある。「フラクションの指導関係は大衆団体の上部機関のフラクションが下部機関内のフラクションを指導統制する様になるが、それは決して命令的に上から下へ押しつけるのではない。フラクションの指導は、その団体内に於ける党員の活動を通じて、その団体内の党員大衆の信頼を獲得することによつて行はれる。フラクションの指導は

解党派の

長い『組織テーゼ』はまだ〳〵『青年運動』『婦人運動』『失業者運動』『消費組合』『救援運動』『反帝同盟』『斗争指導部』などと云ふ章があるが其等に対しては夫々専門の同志が批判するであらうから今回はこの程度に止める。

(四)解党派との斗争に現はれた右翼的偏向に就て

我々は解党派の

発生当初から彼等に対する決定的斗争の方針を採って来た。我党は全体として——獄中にある同志達をも含めて——この方針を実行して来たし、且実行してゐる。而して、コミンテルンも本我々の方針を正しきものとして確認したのである。だが我々は充分に徹底的に彼等との斗争を行ったであらうか？　慥憾乍ら我々は否と答へざるを得ない。解党派に属するものを労働者大衆から党全体に切り離す事はまだ十分な成功を得てゐないのである。東京地方を除く他地方では解党派の勢力は絶無とまでよい程ではあるが東京地方にはまだ〳〵解党派がのさばってゐる。

然るに最近

ヂニ無産者新聞社では、解党派に属する一人を或地区のオルかナイザーとして採用すると云ふ全く許し難き誤謬を犯したのである。加之ヂニ無産者新聞の責任者はこの事を可成り遅くまで知らなかったのである！　我々は理論的に彼等と斗争するのみでなく、組織上に於ても断乎として斗争しなければならぬ。党員又は党員であったものがスパイになったとまで云ふ事実が明白である場合其等の分子の下にある一群の裏切者に対しても斗争しなければならぬのである。最も重要な事は此等裏切者共を広汎な労働大衆の面前で暴露し、彼等をして大衆の前に出られない様にする事である。ヂニ無産者新聞の責任者が犯した誤は全く右翼日和見主義であり我党の指導方針に対する実践的反対である。

階級的仇敵に対する我々の態度は断乎たらねばならぬ。而して其等の分子の下にある一群の裏切者に対しても斗争しなければならぬのである。最も重要な事は此等裏切者共を広汎な労働大衆の面前で暴露し、彼等をして大衆の前に出られない様にする事である。ヂニ無産者新聞の責任者が犯した誤は全く右翼日和見主義であり我党の指導方針に対する実践的反対である。党員又は党員であったものがスパイになったとまで云ふ事実が明白である場合其等に対して共産党は如何なる処置をとるべきかの問題がまだ十分に理解されてゐない。ブルジョア合法主義がこゝでも首を出してゐる。我党は非合法の下にをかれてゐる。そしてその秘密の部分は死を以てでも守らねばならぬのである。然るにその秘密の部分を意識的に

重き病床にある同志片山潜を見舞ふ為に全国の党員並に革命的労働者貧農に檄す！

モスクワの病床に直ちに代表を送れ！

全口の党員諸君！革命的労働者貧農諸君！

同志片山潜重態の報は病床を気遣ふ日本の全党員並に我百万被搾取勤労者に伝はるや否や、しつゝある又しつゝある全ての労働者と農民は今日まで以上にかける革命運動の開拓者であり、世界革命の指導者たる同志片山潜を見舞へ！　の声は全口に起りつゝある事実である。

同志諸君！我党は諸君のこの熱烈な要求を代表する、而して諸君の代表を直ちにモスクワの病床に急派する事を諸君に提議する。

日本に於ける労働者貧農大衆の新たなる革命的高揚は口際共産党の更に強固なる指導を要求してゐる。同志片山潜が口際共産党の中央委員として日本の革命運動の指導に盛力した事は諸君の最もよく知る処である。我々は日本に於けるプロレタリアートの斗争と勝利のためにも病篤き同志の完全なる全快を祈るものである。

一九三一年九月三日

日本共産党

全口の党員諸君革命的労働者貧農諸君！

諸君の代表を直ちにモスクワの病床に送れ！

日本のプロレタリアートとその党を代表して衷心よりの見舞の挨拶を送べ、篤く篤く看護せよ！　而して党て同志を追放し、今狂暴なるテロルを以て労働者と農民を弾圧するブルジョアジーに対する日本プロレタリアートの断乎たる斗争に就て諮れ！　日本に於ける偉大なる階級戦と共にプロレタリアートの勝利が近づいてゐる事を諮れ！　これこそ日本にプロレタリアートの階級斗争を植付けた偉ける同志に対してなす我々の感謝と歓喜にみちた報告である。

全口の同志諸君！一刻も猶予せず諸君の代表を送れ！

諸君の篤い看護によって同志の健康を取戻せ！

同志片山潜の再起万歳！

日本共産党万歳！

コミンテルン万歳！

「労働者派中央委員会」

の理論と実践とに対して決定的に徹底的に斗争する事は、日本プロレタリアートが資本に対する勝利の凱歌をあげる為に必要な重要な斗争の一つである。日本共産党はこの斗争に於ても日本プロレタリアートの先頭に立って進まねばならぬし、又、進んで行く。

同志剣持を即時無罪釈放せよ！

「赤旗」印刷局 × 班

アメリカ帝口主義はアメリカでプロレタリアート解放の為に斗ってゐた同志剣持勇一をサウジョーヂの名の下に南へ。奴等の「神聖」なるリストの名による裁判所は、奴等の相棒たる日本帝口主義者に同志の解放を引渡してもう「仁慈無比にして神聖」なる天皇の名に於てだ。

吾々プロレタリアートは何ヒブルジョアや地主の裁判を受ける必要はない。彼等に俺達を裁判する権利がどこにあるか。天皇や何かに何で俺達を裁判する権利があるのか。奴はブルジョア地主だ。俺達はプロレタリアだ。俺達はプロレタリアートの裁判なら甘じて受ける。だが敵の裁判を誰が甘受するものか。

アメリカ帝口主義は同志剣持を逮捕した。

日本帝口主義は同志佐野はじめ多数の共産主義者を死刑にせんとしてゐる。

何れもプロレタリアの指導者だ。

俺達はプロレタリアートの名に於て同志達に判決を下さう。

「共産党員はじめ一切の階級的政治犯人即時無罪釈放！」

これがプロレタリアートの同志達に対する階級的判決だ！　そして吾々はこの無罪釈放の斗争を日常斗争と結びつけて革命的大衆的デモ、ストで勇敢に斗ふ事ではないか！

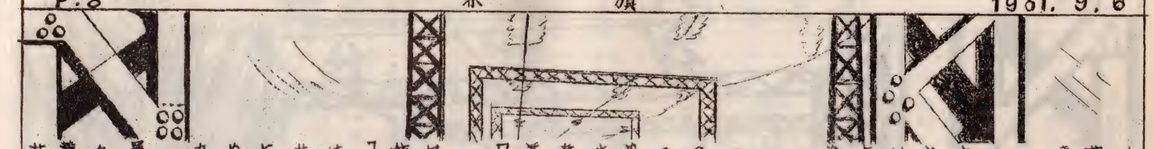
革命的婦人運動の発展に就て

「赤旗」印刷局　丸子

革命的婦人運動の発展が今日程重要であり且つ又、要望されてゐる時はない。丁度、「今日程、日本共産党の積極的活動と組織の拡大とが要望されてゐる時はない」のと全く同様である。何故なら労働婦人間の革命的組織の拡大とそのための積極的活動とはプロレタリアートの必然的要求だからだ。そして今、世界資本主義の存在は益〳〵に近付き、第二次帝口主義戦争の切迫と共に或る口々では革命的危機が日程に上されようとしてゐる。

だが諸口における組織の状態は、「婦人労働者が斗争に参加する割合と、我が組織がそれに応ふる速度との間の不均衡」が非常に大である。特に日本では、運動は未だ若く、かつ、も状態の「口標的な地位にまで発展」してゐない。而かも日本には最大多数の婦人がこその搾取率に於て、方法に於て、奴隷状態に於て世界的に有名な事実の下に呻吟してゐるのだ。だが彼女らは自然発生的に、勇敢に斗争へ進出して来てゐる。プロレタリア革命の客観的条件が進展してゐるに拘らず、主観的条件が立ち遅れてゐるといふことは戦術の誤謬、久敵或は不備を意味する以外の何物でもない。

この時に当って発表された党の政治テーゼ草案の「日本共産党当面の重要戦術」中「婦人運動について」の項は、明らかに一般的根本方針の確立に止まってゐた憾みがある。我々は今こそ最早や「一般的に実践的な方法で、如何にして——共産主義婦人運動の（筆者）



――中央の活動を組織すべきか、又、如何にして地方の活動を組織すべきかの問題に近付くべきである」（ロゾフスキー）のだ。その為にこそプロレタリア革命による社会主義乃至共産主義社会への変革に於てのみ、婦人はその二重の抑圧から解放されるといふ「原則の上に立って婦人労働者を組織する為に全ての敵と徹底的に斗争する」（テーゼ）といふ根本的立場はのべねばならなかった。過去の批判に基づき、現勢にてらして、今後の正しい活動方針を具体的に樹てるべきであった。此の事は、工場細胞の活動に於ける「最大限に創意性を発揮して行はねばならぬ」事を意味しない。所謂「一般的全国的立場に於ける」それである。

だが、同時に最近本誌上に現はれた、工場細胞で活動する同志諸姉の「労働婦人代表者会議に就て」は又四八号の「即時婦人部を設置せよ」等は上から下までの詰込主義に於ける革命的婦人運動発展のための重要な、緊急を要する問題である。

つまり問題の第一は、婦人部設置の提唱中に正しく云ふ様に、「我々の当面の緊急任務は勤労婦人を革命的労働運動に引入れる為に彼女等に近付く独自の形態と方法の創造」がある。是なくしては、先づ、組合の単位に土着することは絶対に不可能だ。それは口先の細工を以て地方の活動を組織すべきかの問題に近付くべきである」（ロゾフスキー）のだ。その為にこそプロレタリア革命による社会主義乃至共産主義社会への変革にの為に全ての敵と徹底的に斗争する」（テーゼ）といふ根本的立場はのべねばならなかった。過去の批判に基づき、現勢にてらして、今後の正しい活動方針を具体的に樹てるべきであった。此の事は、工場細胞の活動に於ける「最大限に創意性を発揮して行はねばならぬ」事を意味しない。所謂「一般的全国的立場に於ける」それである。

だが、同時に最近本誌上に現はれた、工場細胞で活動する同志諸姉の「労働婦人代表者会議に就て」は又四八号の「即時婦人部を設置せよ」等は上から下までの詰込主義に於ける革命的婦人運動発展のための重要な、緊急を要する問題である。

つまり問題の第一は、婦人部設置の提唱中に正しく云ふ様に、「我々の当面の緊急任務は勤労婦人を革命的労働運動に引入れる為に彼女等に近付く独自の形態と方法の創造」がある。是なくしては、先づ、組合の単位に土着することは絶対に不可能だ。それは口先の細工を以て地方の活動を組織すべきかの問題に近付くべきである」（ロゾフスキー）のだ。その為にこそプロレタリア革命による社会主義乃至共産主義社会への変革にの為に全ての敵と徹底的に斗争する」（テーゼ）といふ根本的立場はのべねばならなかった。過去の批判に基づき、現勢にてらして、今後の正しい活動方針を具体的に樹てるべきであった。此の事は、工場細胞の活動に於ける「最大限に創意性を発揮して行はねばならぬ」事を意味しない。所謂「一般的全国的立場に於ける」それである。

だが、同時に最近本誌上に現はれた、工場細胞で活動する同志諸姉の「労働婦人代表者会議に就て」は又四八号の「即時婦人部を設置せよ」等は上から下までの詰込主義に於ける革命的婦人運動発展のための重要な、緊急を要する問題である。

つまり問題の第一は、婦人部設置の提唱中に正しく云ふ様に、「我々の当面の緊急任務は勤労婦人を革命的労働運動に引入れる為に彼女等に近付く独自の形態と方法の創意

「婦人欄」問題

「赤旗」印刷局 吐夢

「我々の各組織の機関紙に勤労婦人欄Ｐを設けて、それに労働婦人を我々の側に獲得する為のアジ、プロ、ソシキの一武器たる紙面を」ナニ分に発揮させよ！」と云う「赤旗」第四九号の提唱に我々は大賛成だ。

兼々赤旗紙上に婦人問題に対する論文が、口除婦人デーの頃にも載らないでゐた事に就て私は疑問を持つてゐた。如何に赤旗は、その性質上、全Ｐ的一般的な立場からのみ問題を取扱はざるを得ないとしても、一方には、時には例へば、一地方の斗争の経験をその経過中にあてさへ批判し、それを含めた方法でさへもしめねばならず又、農業農民問題にすれば、それが基本的、時事的なるとを問はず、「赤旗」の記事として「婦人欄」のムシロ一般的日刊でであらうやうだ。かゝる「婦人欄」こそが、如何に、労働婦人が我々の側に動員され、組織され、且つ斗争しつゝあるかゞ不すものだからだ。

「婦人欄」の意義、役割と共に実践に当つて正しく理解される必要がある。例へば五十号の「敵の火花」で工新に付いて書いて居る大阪の同志は「工場から出される一切の出版物は、すべて大衆を動員し、組織するためなのだ。指導的新聞と云ふ意味は赤旗のヤキ直しや、ムツカシイ理論をうんと並べることか？」これ以外には無い——と、この同志は云つてゐる!?　驚くべきだ（筆者も——それ所か、全く反対に。工場新聞は大衆自身のものたらねばならぬのだ。これは俺達自身で守らないげんといふ気持ちを大衆的に起させる様にしなければならない。彼が、指導的新聞といふのなら我々は逆に大衆的新聞だと云はう。云々「俺はＰ工場新聞Ｂは細胞の機関紙ではなく細胞のアジプロの一機関だと答へる」と云つてゐる様に、此の同志の、我関紙であり指導的な立場にある新聞は、必然的に、大衆的なものたり得ず、大衆的アゲプロも出来ないやうに考へてゐる誤謬は、恰も「婦人欄」を水平の投書で埋めて大衆的なものであり、婦人労働者面の活動の一般態だと無意識的にしろ、実践してゐる誤謬と同一である。それは大衆化し、大衆に支持される為に、此の同志の、我関紙であり指導的な立場にある新聞は、必然的に、大衆的なものたり得ず、大衆的アゲプロも出来ないやうに考へてゐる誤謬は、恰も「婦人欄」を水平の投書で埋めて大衆的なものであり、婦人労働者面の活動の一般態だと無意識的にしろ、実践してゐる誤謬と同一である。それは大衆化し、大衆に支持される為に、此の同志の、

「赤旗」の「婦人欄」は、例へば婦人部の機関紙とも云ふべきだからだ。（と云つても、婦人部が婦人共産党や婦人労働組合を意味しない限り「赤旗」なり、「工新」なり「無新」「総青」「学新」等々から独立し、対立する事でない事は勿論だ。云ふ意味は、その意義、役割に於てゞある。）それは党、又は組合の婦人部の仕事でもなければ、婦人部の活動でも「婦人欄」の役割でもない。

「婦人欄」は婦人部の活動と同様「大衆的にレ主モットーとせねばならない。そして党、組合の方針を大衆の中のとし、労働婦人をその影響下に結び付けなければならないのだ。勿論多くの記事が労働婦人大衆自身によつて、書かれるべきである。それは、彼女等が、党、組合の政策の下に、その立場からものを観察し出し、且つ斗争しつゝ行く事の発現でめる限りでだ。そこで実際に当つては、単なる不平の投稿を先づ得たら、そのまゝ記載すると同時に、婦人欄の担当同志は、一歩出て、その具体的結論を——公式や理屈でなしに、現実に即して分り易く、（この事が重要だ）——掲載して示さねばならない。又、一方、彼女等がその職場で取り上げない事柄をも「婦人欄」は、その意義を正しく独自に積極的に「婦人欄」記事として彼女等のものとなし、又他方、Ｐ階級的斗争の経験やソヴエートの教等等々の掲載とがなされるなら、彼女等の不平の記事は、次第にまとまり、斗争のための力のとなるだらう。それは、又実際上で、彼女等が、我々の政策方針の下に動員され、組織され、又斗争して行く——本来の目的達成——ことは朝合の婦人部の工場内活動の実際と共鳴を合せて、その政策方針によつて編輯され、「婦人欄」の役割でも何でもない。

「婦人欄」は婦人部の活動と同様「大衆的にレ主モットーとせねばならない。そして党、組合の方針を大衆の中のとし、労働婦人をその影響下に結び付けなければならないのだ。勿論多くの記事が労働婦人大衆自身によつて、書かれるべきである。それは、彼女等が、党、組合の政策の下に、その立場からものを観察し出し、且つ斗争しつゝ行く事の発現でめる限りで、だ。そこで実際に当つては、単なる不平の投稿を先づ得たら、そのまゝ記載すると同時に、婦人欄の担当同志は、一歩出て、その具体的結論を——公式や理屈でなしに、現実に即して分り易く、（この事が重要だ）——掲載して示さねばならない。又、一方、彼女等がその職場で取り上げない事柄をも「婦人欄」は、その意義を正しく独自に積極的に「婦人欄」記事として彼女等のものとなし、又他方、Ｐ階級的斗争の経験やソヴエートの教等等々の掲載とがなされるなら、彼女等の不平の記事は、次第にまとまり、斗争のための力のとなるだらう。それは、又実際上で、彼女等が、我々の政策方針の下に動員され、組織され、又斗争して行く——本来の目的達成——ことは

の証明でもあるのだ。

第四九号では此点の突込み方が少し不足してゐるやうであつた。彼女等がよい——次号に前記の我々の根本的立場にたつところの——記事を書ける様になると云ふ事は、個人的に教へられるにしても、それは、技術的な方法であるにもせよ、本質的な方法と云ふ事は出来ない。我々は、単に考へてゐることをまとめることを問題とするばかりでなく、又まくまつた彼女等の記事によつて「婦人欄」を発展させるばかりが目的ではなく、彼女等の革命的斗争と活動とを示す記事が多くなることこそが「婦人欄」のムシロ一般的日刊でであらうやうだ。かゝる「婦人欄」こそが、如何に、労働婦人が我々の側に動員され、組織され、且つ斗争しつゝあるかゞ不すものだからだ。

「婦人欄」の意義、役割と共に実践に当つて正しく理解される必要がある。例へば五十号の「敵の火花」で工新に付いて書いて居る大阪の同志は「工場から出される一切の出版物は、すべて大衆を動員し、組織するためなのだ。指導的新聞と云ふ意味は赤旗のヤキ直しや、ムツカシイ理論をうんと並べることか？」これ以外には無い——と、この同志は云つてゐる!?　驚くべきだ（筆者も——それ所か、全く反対に。工

同志潜・虎山へ

働く婦人に依れば同志は数ヶ月前より病に侵され静養中との事実に驚愕に堪へず。

階級斗争は愈々大氷化し、帝国主義諸国は、全部署々多くの社会フアシスト党がブルジョアジーの陣営内に駆せ去りし現在独り同志ばかりでなく、日本の生めある最も古き古参の指導者として七十餘才の今日に至る迄常に正しく全古界プロ・レタリアートの為に闘ひ続けて来た同志潜・虎山の健康回復万才！

日本共産党万才！

コミンテルン万才！

ラ・スパルコ同盟

潜虎山、おゝ何人と力強く我等の耳に響く事だらう。

全世界プロレタリアートの等しく敬愛する我等の潜牛山。

我等は悲しく七千餘下の病気の報に接したのです。ましてや老年の身体を強くするものです。

一日も早く全快されて日本同志の為一層の指導を御願ひするものです。日本プロレタリアートの結集の力強く奮下をお祈へし——

——**一金属労働者**——

週刊
赤旗
第53号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

検事局 内務省 文部省 等と手を握ってゐる 解党派の新たなる 進出を粉砕せよ！(五)

解党派の天皇主義者が書いたか、偽大な革命家が書いたかに関係なく、この政治テーゼそのものゝ内容が何を示してゐるかを冷静に厳密に批判して来たのだ。そしてこのテーゼが如何でも亦お気の毒ながら彼等の本質を暴露してゐるのを発見せざるを得なかつた。

王政――君主制――は封建社会の典型的支配形態であつた事は世界歴史の示す所だ。そして又、ブルジョア民主々義的共和制がブルジョア国家の典型的なものだと云ふ事も勿論だ。

日本に於ける天皇制――君主制――が多分に封建的性質を持ち越して来てゐる事。そしてそれが濃厚に於ける半封建的諸関係並にその他の諸関係に於ける封建的半封建的性質の残存と決して無関係に存在してゐない事を我々は一日も忘れた事はない。だから、「打倒天皇」はブルジョア民主々義的任務の広汎な任務を持つプロレタリア革命」と云ふ職略的規定のブルジョア民主主々義的任務の遂行並に封建的半封建的反動の打倒と決して無関係ではない。だが、日本共産党労働者農民中央委員会のこの政治テーゼ草案の(四)の中に、「君主制は今日最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない。」と書いてゐる。

吾々はこれまで彼等の政治テーゼ草案そのものをありのまゝに受取つて之を批判して来た。だが、こゝで吾々はこの政治テーゼを誰が書いたかを問題にはしなかつた。解党派の天皇主義者が書いたか、偽大な革命家が書いたかに関係なく、この政治テーゼそのものゝ内容が何を示してゐるかを冷静に厳密に批判して来たのだ。そしてこのテーゼが如何でも亦お気の毒ながら彼等の本質を暴露してゐるのを発見せざるを得なかつた。

解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(五)

解党派即ち日本共産党労働者農民中央委員会は政治テーゼ草案の(四)の中に、「君主制は今日最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない。」と書いてゐる。

吾々はこれまで彼等の政治テーゼ草案そのものをありのまゝに受取つて之を批判して来た。だが、こゝで吾々はこの政治テーゼを誰が書いたかを問題にはしなかつた。解党派の天皇主義者が書いたか、偽大な革命家が書いたかに関係なく、この政治テーゼそのものゝ内容が何を示してゐるかを冷静に厳密に批判して来たのだ。そしてこのテーゼが如何でも亦お気の毒ながら彼等の本質を暴露してゐるのを発見せざるを得なかつた。

王政――君主制――は封建社会の典型的支配形態であつた事は世界歴史の示す所だ。そして又、ブルジョア民主々義的共和制がブルジョア国家の典型的なものだと云ふ事も勿論だ。

日本に於ける天皇制――君主制――が多分に封建的性質を持ち越して来てゐる事。そしてそれが濃厚に於ける半封建的諸関係並にその他の諸関係に於ける封建的半封建的性質の残存と決して無関係に存在してゐない事を我々は一日も忘れた事はない。だから、「打倒天皇」はブルジョア民主々義的任務の遂行並に封建的半封建的反動の打倒と決して無関係ではない。だが、日本共産党労働者農民中央委員会のこの政治テーゼ草案やイノマター派がこゝで云つてゐる様に君主制は決して半世紀も前にその物質的基礎を失つた単なる飾り物でもなく、又単なるイデオロギー的存在でもない。天皇制は今日確かに帝国主義日本の国家形態であるのだ。巨大な軍隊、警察を持つて日本、朝鮮、台湾、中国等の労働農民、勤労被圧迫民衆を現に搾取し、圧迫し、虐殺しつゝあるものなのだ。天皇制は今日現実に帝国主義の政治の支配を外にして日本帝国主義の政治は存在しないのだ。それ故に「打倒天皇」は帝国主義的反動をも打ち砕くものだ。この意味に於て「打倒日本帝国主義」と全く同じ意味に於て「打倒天皇制」と云ふ事も勿論だ。この意味に於て今日「打倒天皇」は「打倒日本帝国主義」と全く同じなんだ。

日本共産党労働者農民中央委員会並びにイノマター派は、今日立憲天皇制を満足して別ト日本帝国主義の政治斗争を当面に拒否した(レーニン)メンシェヴィキと決定的に斗ひ通した。彼等とのこの妥協にして断乎たる斗争がなかつたばかりかメンシェヴィキの威勢はあり得なかつたとレーニンは断言してゐる。解党派はメンシェヴィキと同様の理由から日本のツアーリズムである天皇との斗争を拒否した許りでなく、それより更に一歩を進めて天皇を擁護した。この社会ファシスト解党派と決定的に斗ふことを恐れでも怠るものは断じて共産主義者ではないのだ。

吾々はロシアで当時既に中央派に対する斗争に於て充分の政治的経験をもした。十五年前に既に吾々は吾々の日和見主義や者及び中央派並にメンシェヴィキと斗ひぬいて吾々は勝利を党会に打破つたのである。而しメンシェヴィキ丈でなく、又単純政府主義者をも打破つたのである。

吾々がさうしてゐなかつたならば、吾々は三ケ年は愚か数週間も政力を堅つてゐることが出来なかつたであらうし、又此処で共産主義的大会を企てることも出来なかつたであらう。(レーニン)

解党派を初めとする一切の社会民主々義者、社会ファシストを打破ることなくしては日本のプロレタリアートはプロレタリア独裁を樹立することもソヴエート日本を建設することも絶対に不可能である。

然るに日本に於ける真正マルクス主義者であると広言する解党派やイノマター派が天皇制を単なる過剰であると云ひ日本帝国主義の政治斗争を当面に拒否した(レーニン)メンシェヴィキと決定的に斗ひ通した。彼等とのこの妥協にして断乎たる斗争がなかつたばかりかメンシェヴィキの威勢はあり得なかつたとレーニンは断言してゐる。解党派はメンシェヴィキと同様の理由から日本のツアーリズムである天皇との斗争を拒否した許りでなく、それより更に一歩を進めて天皇を擁護した。この社会ファシスト解党派と決定的に斗ふことを恐れでも怠るものは断じて共産主義者ではないのだ。

吾々は口シアで当時既に中央派に対する斗争に於て充分の政治的経験をもした。十五年前に既に吾々は吾々の日和見主義や者及び中央派並にメンシェヴィキと斗ひぬいて吾々は勝利を党会に打破つたのである。而しメンシェヴィキ丈でなく、又単純政府主義者をも打破つたのである。

吾々がさうしてゐなかつたならば、吾々は三ケ年は愚か数週間も政力を堅つてゐることが出来なかつたであらうし、又此処で共産主義的大会を企てることも出来なかつたであらう。(レーニン)

解党派を初めとする一切の社会民主々義者、社会ファシストを打破ることなくしては日本のプロレタリアートはプロレタリア独裁を樹立することもソヴエート日本を建設することも絶対に不可能である。

然るに日本に於ける真正マルクス主義者であると広言する解党派やイノマター派が天皇制を単なる過剰であると云ひ日本帝国主義の政治斗争を当面に拒否した(レーニン)メンシェヴィキと決定的に斗ひ通した。彼等とのこの妥協にして断乎たる斗争がなかつたばかりかメンシェヴィキの威勢はあり得なかつたとレーニンは断言してゐる。解党派はメンシェヴィキと同様の理由から日本のツアーリズムである天皇との斗争を拒否した許りでなく、それより更に一歩を進めて天皇を擁護した。この社会ファシスト解党派と決定的に斗ふことを恐れでも怠るものは断じて共産主義者ではないのだ。

吾々はロシアで当時既に中央派に対する斗争に於て充分の政治的経験をもした。十五年前に既に吾々は吾々の日和見主義や者及び中央派並にメンシェヴィキと斗ひぬいて吾々は勝利を党会に打破つたのである。而しメンシェヴィキ丈でなく、又単純政府主義者をも打破つたのである。

解党派を初めとする一切の社会民主々義者、社会ファシストを打破ることなくしては日本のプロレタリアートはプロレタリア独裁を樹立することもソヴエート日本を建設することも絶対に不可能である。

目次
▼検事局・内務省・文部省等と手を握ってゐる解党派の新たなる進出を粉砕せよ！(五)……一頁
▼党婦人部の積極的組織活動の領域に就て……三頁
▼同志片山潜への見舞状……四頁
▼各地方・地区委員会婦人部御中……五頁
▼鉄の火花……六頁

ダリアートの主要斗争目標ではない。」と主張するのは、何等かの目的があるからだと云はざるを得ない。さう解釈しないならばそれは余りにマルクス主義者を以て任ずる彼等紳士諸君を侮辱することになる。

では彼等は如何なる目的を持つておるものか。

「全ての階級斗争は政治斗争である。不可避的に内乱に転化するこの斗争の目的は政治権力の獲得である。」(レーニン)是は暴力と暴力、武力と武力の斗争を不可避とする。常時三十五万の軍隊を持ち、七十万の官吏軍を持つて足の先きから頭の天辺(てっぺん)まで最銃の武装をして居る日帝国主義――ブルジョア政党の排斥、弾圧、虐殺の機関――即ち「政治権力獲得」の斗争に於ける我の日帝国主義の主要斗争目標」に対する「打倒天皇」と主張する彼等は日帝国主義の目的機関と階級的斗争とを阻止するものであつて結局ブルジョア強化せんとするものである。かくて、ブルジョア独裁の永久化!!」云えばイノマター派や日本共産党の本流と傍流である日本共産党労働者派中央委員会の神聖にして犯すべからざる目的なんだ。

吾々は此の問題――「打倒天皇」と「打倒日本帝国主義」との関係の問題――に余り長々と立止りすぎると非難されるだらうか?!否、百回も万回も否だ!。この問題は戦略的目標に関する問題である。実に決定的に重要な問題であるのだ。プロレタリアートの日常当面の諸問題に直接関係がないかの如く考へて――実は事々に関係してゐるにも拘らず――この決定的に重要な問題に対して、ハツキリした見解を徹底させておかないならば、それこそ吾々はエンゲルスから、カの愚者なき日和見主義――それ故に一層たくない日和見主義や――として徹底的に非難されるであらう。将に天皇に対する拝神教的イデオロギーが民衆の間に強力に存在する日本に於て決定的にこの問題は重要であるのだ。そして解党派はこの問題の故にこそ発生したのだと彼等自党公言してゐる。そして彼等はスターリン主義から転落した。而して更に更に右へ!。云ふまでもなく天皇主義へ!社会ファッシズムへ!!である。

君主制廃止のスローガンを下す事を主張した許りでなく進んで天皇を奉戴する天皇主義者ある彼等は、こゝで公然大胆に「君主制廃止のスローガンを下せ!。」「天皇を奉戴せよ!。」と主張すべきであつた。何も廻りくどく「君主制は今日最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない」なんて云つて思はせぶりな必要はない筈だ。だが、所が彼等には十二分に必要があるのだ。天皇主義者が日本共産党の本流だと称して登場してゐるのだから。所が更に又、日本共産党労働者派中央委員会と云ふのは解党派の又の名前だと云ふ事、プロレタリアートを偽瞞し重要な問題であるのだ。プロレタリアートの日常当面の諸問題に直接関係がないかの如く考へて――実は事々に関係してゐるにも拘らず――この決定的に重要な問題に対して、ハツキリした見解を徹底させておかないならば、それこそ吾々はエンゲルスから、カの愚者なき日和見主義――それ故に一層たくない日和見主義や――として徹底的に非難されるであらう。将に天皇に対する拝神教的イデオロギーが民衆の間に強力に存在する日本に於て決定的にこの問題は重要であるのだ。そして解党派はこの問題の故にこそ発生したのだと彼等自党公言してゐる。そして彼等はスターリン主義から転落した。而して更に更に右へ!。云ふまでもなく天皇主義へ!社会ファッシズムへ!!である。

君主制廃止のスローガンを下す事を主張した許りでなく進んで天皇を奉戴する天皇主義者ある彼等は、こゝで公然大胆に「君主制廃止のスローガンを下せ!。」「天皇を奉戴せよ!。」と主張すべきであつた。何も廻りくどく「君主制は今日最早プロレタリアートの主要斗争目標ではない」なんて云つて思はせぶりな必要はない筈だ。だが、所が彼等には十二分に必要があるのだ。天皇主義者が日本共産党の本流だと称して登場してゐるのだから。所が更に又、日本共産党労働者派中央委員会と云ふのは解党派の又の名前だと云ふ事、プロレタリアートを偽瞞し

所が現実に彼等がノーくと邁歩してゐるのだとうしたわけだ。此の点を吾々は峻厳に自己批判しなければならぬ。吾々は又を吾々の右翼日和見主義的偏向だと断じなければならぬ。何となれば

(1)最悪の階級敵解党派に対する徹底的認識への不熱心。

(2)最悪の階級敵との決定的な分離――政治生活は勿論のこと日常の表現その他の私的生活に至る凡ての領域に於ける彼等との決定的な分離――の不徹底。

(3)最後に最も重要なことだが、大衆的舞台に於ける彼等との峻厳にして断乎たる実践的斗争の不充分。

これこそ右翼日和見主義でなくて何か?

ボルシェビーキは「世紀の初頭に労働者階級が全体としてまだ政治斗争を理解する程に成熟してゐないといふ理由でツアーリズムに対する日本共産党労働者派中央委員会を実践的に粉砕せよ!。右翼日和見主義的偏向を実践的に克服せよ!。

★党婦人部の★
★独自的組織活動の領域に就て★

我々は日本版四八号に於ていよいよ加重する殺人的圧迫の前に、遂に凡ゆる伝統の鉄鎖を踏み切つて断乎として斗争に起ち上つて来つゝある広汎なる勤労婦人（工場婦人、小市民婦人、大衆を斗争に動員し、党・共青・全協、全農及び革命的反対派に組織して、来るべき世界的決定的斗争に於ける日本プロレタリア婦人の握ける重要なる任務に完全に準備せんが為に我が党及び革命的大衆組織（先つ共青、全協、全農等）の凡ゆる指導機関は国際共産党、国際赤色労働組合の友誼ある決定に従つて直ちに『婦人部』を設置すべきことを強調し、且つ、それの問題なき実行を要求した。

それから以後、今日までの期間に於て組織部と婦人部の同志の間に『党婦人部の独自的組織活動の領域に就て』若干の討論が行はれた。討論の根本問題に就ては国際共産党第五回大会テーゼは、『特殊的機関（筆者註、婦人部）の創設が有する目的は、勤労婦人間の党の力を出来るだけ統一的に計画的に、そして力強く広へ、絶えず組織をしてこの方面に課せられた、その責務に注意させる事にある』と極力強調してゐる。同じく国際共産党中央組織局による一九二五年の婦人活動に関する決議に於ても勤労大衆の間に於ける党の任務である事、同時に是等の婦人部或は婦人オルガナイザーは党全体の委任を受け、勤労婦人間の活動に関しては党全体の前に責任を持つ、と規定してゐる。

尚、婦人部の組織活動の領域に就ての同志モイローワは『大衆的婦人活動の問題』の中で正しくも明白に述べてゐる。少し長いが引用する。『……婦人部は組織問題を婦人部以外に党が解決して呉れるのを待つてをり、その解決を得て初めて自己の活動を展開しようと考へてゐる。この為に予一に苦しむのは、婦人労働者が多数を占めてゐる工場に於ける一般的党活動及び一般労働組合活動である。それ故この大衆的な欠点は除去されなければならない事は分り切つた事である。婦人部は最も広汎に一般的なる党活動及び労働組合活動に入り込まねばならぬし、又大衆の中に於ける共産党の一般的活動にとつての有力なる党代表とならねばならぬ。婦人大衆と結び付いた独自の態度を有する婦人部は婦人労働を主要なものとする工場に於ける一般的な党活動の領域に就ての任務に完全に準備せんが為に我が党及び革命的大衆組織（先つ共青、全協、全農等）の凡ゆる指導機関は国際共産党、国際赤色労働組合の友誼ある決定に従つて直ちに『婦人部』を設置すべきことを強調し、且つ、それの問題なき実行を要求した。

それから以後、今日までの期間に於て組織部と婦人部の同志の間に『党婦人部の独自的組織活動の領域に就て』若干の討論が行はれた。討論の根本問題に就ては国際共産党第五回大会テーゼは、『特殊的機関（筆者註、婦人部）の創設が有する目的は、勤労婦人間の党の力を出来るだけ統一的に計画的に、そして力強く広へ、絶えず組織をしてこの方面に課せられた、その責務に注意させる事にある』と極力強調してゐる。

（1）勤労婦人間の共産主義活動に就て、党全体の委任を受けて、中央部に婦人部責任者が設置される。この責任者の活動を援助する為に数名から成る特別の委員会が設置され、これは婦人部の凡ての具体的活動にたづさはる。各地方、各地区委員会の婦人部も亦かくの如くに構成される。

（2）中央、地方、地区細胞に於ける婦人部の全活動は常に党指導機関の指令の下に行はれる。特に婦人部が行ふ組織的活動に就ては常に党組織部との完全、緊密なる協定の下に遂行される。

（3）婦人間の全活動に就ての成果を婦人部は党中央指導部へ定期的に報告し、又、中央及び地方、地区委員会の政治教育日程に婦人問題が常に定期的に上程されねばならぬ。

婦人部の組織活動の成果は凡て党組織部へ渡されねばならぬ。

（4）党の中央部及び各地方委員会の婦人部は或る一定の活動（例へば婦人デーのカムパの時、婦人労働代表者会議の招集に就てとか）に対して、その直接下層指導機関の婦人部を指導し、援助せねばならぬと同時に、未だ地方委員会の確立を見ない地方へは中央委員或は近接地方委員会の婦人部がその未確立地方の労働婦人間の活動（それは当然、その地方に於ける一般的党の政治的活動の問題の前提の為）に就て特別の婦人オルグを派遣せねばならぬ。中央部婦人部は常にかゝる場合に充分留意しつゝ末組織、未活動方面に於ける近接地方委員会婦人部を指導せねばならぬ。婦人オルグは凡て婦人部員であると同時に党組織指導員或はその指導下に於いてある組織員でなければならぬ。

（5）尚、中央及び地方委員会婦人部は、一定の工場に於ける（婦人労働を主要なものとする主要企業、特に末組織工場の）労働婦人の組織に対しては党のその地方、その地区の組織部との協定の下に婦人部は独自的に適当の婦人オルグを配置して労働婦人の組織に対して、中央及び地方婦人部自ら責任を以て当り、模範的活動となる様に、進んで党全体の活動の強化の為に積極的に活動せねばならぬ。これ等の活動

の成果は当然党の組織部へ集中されねばならない。かゝる婦人部による積極的活動は当面の緊急任務である所の日婦人斗士の養成ということ問題を急速に好転させるであらう。

（6）中央及び地方、地区の委員会はその各々の婦人オルグが経験を交換し、又この活動を党によつて統制し指導する為に党の中央及び地方、地区の各委員会は婦人オルグを招集して全口、地方、地区、小地区の規模に於て小委員会（組織会議、婦人オルグ会議）を定期的に招集する。又中央、地方、地区の婦人部は地区工場の婦人オルグを招集して全口、地方、地区、小地区の規模に於て小委員会（婦人オルグ会議）を招集する。

（7）以上の如き勤労婦人間に於ける婦人部の活動の方針問題は全ての党の指導機関で決定される。そして婦人間の仕事に就ては下級機関から上級機関までの凡ゆる関係に於て、（アジプロ、組織、農民部、共青係、労働組合部、失業者の）論せられねばならない。

★　★　★

討論の際に、組織部の同志によつて提起された一つの心配『婦人部が自ら組織活動を遂行することは右翼改良主義の所謂婦人同盟への偏向の現れではないか？』と云ふことだ。これは正に当然現はれねばならぬ正しい心配である。然し乍ら、だからと云つて、婦人部が何ら実際的な組織活動を持たない、党の一つの調査機関同様機関であると云ふ事は絶対にあり得ない。国際共産党の決議はさうは云つてゐない。

党の婦人部が一般的党の活動範囲内にあり、党の指導機関からの婦人部活動に対する絶えざる指導及び統制があるならば、婦人部のこの活動は『婦人同盟』への偏向を伴はないのみか、婦人部は党に対して大なる助力をなし遂げる事が出来るのである。

だが我々は婦人活動に就ての凡ての権威ある文書によつて指摘されてあるこの偏向『婦人部の組織活動と婦人同盟への偏向』に就て幾かの混乱も、それへの極く些細な現はれも歓迎してはならない。我々はもう一度国際共産党第五回大会婦人テーゼの一節を引用する。『……婦人間に於ける共産主義活動が決して共産党の余業ではなく、むしろ革命的プロレタリアートの斗争及び勝利を組織し確保する為のその重要任務中の、重要な、否、決定的な部分であることを極力強調する。』第五回世界大会は、各国の共産党が次のレーニンの言葉を忘れ勿事をのぞむものであるはないであらう。我々が来るべき革命に勝利するか否かは只この事に懸つてゐる。

敬愛する同志！

国際共産党に書党を代表するセン・カタヤマの名は日本のプロレタリアートに

同志徳山潜への見舞状

敬愛する同志！

最近の報導によつて日本のプロレタリアートは貴下が病床にある事を知つた。長い革命的の生活によつて疲を得た貴下に対し我々全党員は感謝の意を以て衷心からの見舞を述べる。我々は又日本の労働者と農民が貴下に寄せた大数多くの見舞状を貴下の手許に送り届ける義務を持つてゐる。我々党員を初め日本の凡ての被搾取勤労者は貴下の病床を見舞ひ出来る限りの看護を盛したいと希つてゐる。我々は皆、深い憂慮に包まれてゐる。

敬愛する同志！

貴下によつて初めてその血脈の中に斗争の意志を注込まれた日本のプロレタリアートは偉大なるボルセヴィキの名、セン、カタヤマの精神によつて成長し勇敢なる斗争の中に自らを鍛へて来た。彼等は今勤労者の敵である破産せる資本主義日本を永久に打倒する為に堅固に結合し武装しつゝある。資本主義か？　厳史に依つて投ぜられた、この両の前に益々重要な、否、決定的な部分であることを極力強調する。

日本に於ても偉大なる階級戦の日は近付いてゐる。かくて我々の党にとつては今日程日国際共産党の指導が要望される時はないであらう。我々が来るべき革命に勝利するか否かは只この事に懸つてゐる。

敬愛する同志！

日国際共産党に書党を代表するセン・カタヤマの名は日本のプロレタリアートに

よつて限りなく親しまれ、且つ誇りとされてゐる。それは日本共産党を国際共産党に結び付ける力強い紐帯の名前であり、同時に又偉大なる革命的国際主義の名前である。

帝国主義戦争並にソ連エート同盟、中国ソビエートに対する干渉戦争の危険が愛に切迫して来た今日、我々は当て日露戦争当時同志セン・カタヤマに依つて代表された日本プロレタリアートの輝ける革命的伝統を想ひ起してゐる。当時に於て其がツアールと帝国主義ブルジョアジーに対する両国プロレタリアートの勝利に迄到らなかつたとしても今日何人かよく国際プロレタリアートの革命的反戦斗争の開始とその勝利を疑ひ得ようか。

敬愛する同志！

我々日本のプロレタリアートは貴下の一日も速かなる快癒を祈り且つ之を確信してゐる。病床を訪れた一同志に対し病気の事には一言も触れず明治維新又研究の為の参考書を註文された事を聞いて我々は我々の確信を深める事が出来た。世界革命の指導者として凡ゆる困難と斗つて来た不屈の精神の偉大なるかは最愛の病魔に対しても亦貴下を打克たしめるであらう。

全世界のプロレタリアートと共に我々は今日本の全被搾取勤労者を代表して見舞の挨拶を送る。日本に於ける階級斗争の発展と革命の勝利の為に、而して又世界プロレタリアートの勝利の為に我々は貴下

の一日も速かなる回復を希ひ措かぬものである。
一九三一年九月六日
国際青年デーの日に
日本共産党

各地方・地区委員会 婦人部御中

親愛なる各地方、各地区の婦人部並に同志諸君！

我々の手元に最近次の如き手紙が来た。それによれば汎太平洋労働組合会議加盟の日本労働組合全国協議会の婦人部は未だに本部に対する"返事"も至急に送らねばならない。その返事は手紙にもハッキリ要求されてある如く、少くとも二三の同志の"動作"でよいからでもよいから、実際に企業で農村で切いてある問題によって事実に即して書かれたものでなければならない。であるから、党の各指導機関の婦人部は全国婦人部が各産業に亘っての忙しい返事から至急送れる様に即時調査活動に対する援助、指導に当者をされん事を要求し、依頼する。

尚、その返事は一九三一年九月十五日迄に太平洋書記局との通信の係の手に渡されたし。以上。

日本共産党中央婦人部

◇手紙◇

どうか出来るだけ速く次の項目事項に関する報告を汎太平洋労働組合書記局婦人部宛に送って貰ひたい。その為に二三の調査と準備運動に直接携はってゐる多数の同志から報告を集めることが必要となるだらう。だが我々の希望としては出来る限りの短時間に仕事をやって貰ひたい。強かの推測に基くやうな報告を我々は欲してゐない。我々の欲するものはありのまゝの事実であり、報告である。

★婦人勤労者の間に於ける状態

(1)、多数の婦人を使用する諸産業の名。各産業に使用されてる婦人の人数。(2)、婦人職業労働者の数。それらは如何なる仕事をしてゐるか。(3)諸工場、職場の婦人の一日の労働時間はどの位であるか。(4)種々の工場職場に於ける婦人の日給又は月給は如何程か。(5)、之等の賃銀は同じ仕事をしてゐる男子と比べてどうであるか。(6)婦人への賃銀は正しく貨幣（ガネ）で支払はれてゐるか？さうでないとすれば如何なる具合になってゐる訳。（詳細を報告が欲しい。且つ如何なる地方でさうなってゐるか？）(7)、婦人間に於ける公然又は隠然の強制労働の実状はないか？（例へば契約労働の種々の形態。不払労働者の婦人部は是非に

当性は大衆の支持信頼を漸次高めることに成功し、そうした反響こそプロレタリア・貧農の多数者を獲得し得る可能の前提条件となるのであって、かくすることによってのみ吾々の革命的団体を大衆化することが出来るのである。

数くの如く宣伝、煽動――組織とは印刷物や革命的言辞ではなくて、吾々がいかに大衆と結びつけられて居るか、主に対する斗争の上の証明であり、労働者農民に対する絶対の指導を斗一歩とするのである。

従って今は「組合へお入りなさい」「共産党へお入りなさいと一人々々の有を説き廻ると云ふやうな旧い組織方法を止揚せねばならない。勿論、ある場合にはその方法による獲得も採用せねばならぬ。けれどもそうすることのみが組織的な仕事だなどと考へてゐる者は当然、大衆的活動方法への転換を拒否する日和見主義者として排作される結果になるのである。

吾々は同志小泉の「宣伝・煽動につい」と一文を繰り返し熟読する必要がある。それを要約して一例を挙げれば

日××地方の○○工場の従業員が賃銀値下に反対してストライキをやった、それを全日協議会の日本××労働組合が応援し、××××の方法で指導した結果労働者の勝利に解決したといふ如きの実際の裏切り、官憲の弾圧のために無期限戦いたび、労働者はこのストライキを通じて、煽動の必要なることがあ

「モスクワ大学」

そして義民――が積極的に参加し努力しなければならぬ。（私は問題をワカリヨク提出するために、こゝでは、労働者の妻、農村婦人等については、特に触れないことにする。それは、私がその要素を軽視してゐるわからではない。それらは私ののべたところに準じて考へうるべきなのだ。）

★

日本では深刻な経済危機のおかげで、資本家の労働者に対する攻撃が激化してゐる。日本銀行といふブルジョアの番頭共が調べたところでも、東京地方の紡績女工さんの平均賃銀は一九二九年の一〇三・二円から一九三〇年には九〇・六円に下げられてゐる。同じ地方の製糸女工さんの平均賃銀は、同じ期間に九一・二円から七九・八円に下げられてゐる。この外にウント馘首があった。そして資本家がもつと上ドイのは明かだ。これが去年四月に日本橋白木屋の玉城鐘紡四万の女工さんたちをストライキに駆り立てたものだ。ところでストライキは我々の仲間が弱かったのと、政友主義ダラ幹共の縄張り争ひや裏切りによって、惨敗し、彼たちはお話にならぬヒドイ扱ひが残された。婦人労働者は労働階級中でも弱い部分だから、ブルジョア共の攻撃は特に残虐を極めてゐる。このことはまだドイツへ行っても、イギリスへ行っても、フランスへ行っても同じである。

（ヨーロッパ諸国は日女労働者と婦人労働者で、また同じ工場内の男子労働者と婦人労働者で、また一産業部門と他産業部門とで、そしてまた都々一都市と他都市とで、相互に一定の条件を交換してどちらが、よい条件を獲ちとるかを競争するのだ。或時は生産物増加を条件とし、或時は生産物の品質を条件としてゐる。又、春々数多くの条件の下で競争を行ってゐる。これは実際、労働者大衆の中に残されてゐた革命的エネルギーを最後の一つまで発揮させるので、素晴らしい成果を収めてゐる。（我々の他の文章ノサヴエート同盟の婦人の地位》参照。）

婦人はソビエトで、社会主義競争のことをのべて来たのはわけがある。我々は今、ガツケリした生気ある日本の婦人労働者の建設とその社会主義競争とまでは行かない。だから社会主義競争といふわけにそれだけでは同に合はぬと言ってゐる。我々はこのカンパーニアを通じて得る成果を以て、十月革命第十四週年日には「婦人の間の煽動のための新聞の発行」へキひ取るべきである。ドイツ共産党は既に古くノケンプフエーンク（婦人戦士の意）といふ婦人のための新聞をもち、婦人労働者の中に深くくひ込むでゐる。（ドイツ共産党は日本共産党常任執行委員婦人同志クララ・ツエトキンを出して「同志よ！革命的競争のために婦人欄」確立のために！革命的競争を組織せよ！革命的婦人新聞の発刊をかち取れ！プロレタリアートの国際的連帯万歳！！」

ムパーニアに引き入れられる。幸従件の細目については、三つの新聞の代表者が適当に協定すればよい。そして競争の審判者としては、党中央部をわずらはせばよい。私は党中央部が喜んで審判者の役を引き受けてくれると思ふ。それでも革命的恥いときには適当な審判者を定めればよい。

それから私が競争者を三つに限ったのは絶対的ではない。その外の山のから水競争にも参加して一向差つかへない。しかし私は、一つの競争にあまり多くの力が一度に参加するのはよくないと思ってゐる。

★

ところで、我々はまたこの革命的競争の組織だけで満足するわけにはいかぬ。同志高橋貞樹は既に古く、（雑誌ラマルクスを装ふ一九二九年三月号七）次の如くのべてゐる。

「上述した諸任務遂行の仕事に取りかゝるためにプロレタリアートはどうしても婦人のための定期刊行物をもたねばならぬ。婦人欄や婦人版では間に合はない。……それは婦人の間の煽動のための新聞でなければならぬ。

然り、我々はがツケリした生気ある日婦人欄Ｐの建設のための革命的競争を、それだけで終らしてはならぬ。同志高橋貞樹は既に二年以上前にそれだけでは同に合はぬと言ってゐる。我々はこのカンパーニアを通じて得る成果を以て、十月革命第十四週年日には「婦人の間の煽動のための新聞の発行」へキひ取るべきである。ドイツ共産党は既に古くノケンプフエーンク（婦人戦士の意）といふ婦人のための新聞をもち、婦人労働者の中に深くくひ込むでゐる。（ドイツ共産党は日本共産党常任執行委員婦人同志クララ・ツエトキンを出して「同志よ！革命的競争のために婦人欄」確立のために！革命的婦人新聞の発刊をかち取れ！プロレタリアートの国際的連帯万歳！！」

絵附録はすばらしい

× × 製作所 × 子

労働者の画が下手くそだと云ふ事です。私達は、自分達の工場の新聞を書く経験で次の様な事を知ってゐます。女の同志達には、男の画がむづかしく、男の同志には女の画が下手くそだと云ふ事です。然し、こんなのは、婦人労働者の画が下手であったり、少々くても良いと言ふ理由になりません。同時は同婦人労働者に対する注意が不充分だと云ふ事かも知れません。何故に、斗争する婦人労働者の姿が少ないのか。例へば日露戦争の代表的の中に、一人の労働婦人代表を書き加へたら、どうなるでせうか？決して、政治的に間違つては来ません。それのみか、全日の婦人の読者がこの画から獲取るものが多つと適切な力の となる事は、事実だと思ふます。

二人な点でも、ソヴエート同盟は、我々のよき教師ですね。今春の日同盟ポスター展Ｐを見て感じた事ですが、そこでは、農村問題、植民地問題、革命、五ケ年計画のすべての問題に、勤労婦人の動員、組織と云ふ事が、充分に、そして実に効果的に取扱はれてゐました。レーニンの意志がぱっさりと画中に躍動してゐますし、又、構図にあてはめても、決して、間違ひはないと思ひます。効果的な

週刊
赤旗
第 号
国際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

目次

▼ロシア革命記念日に備へよ！……一頁
▼新帝国主義戦争、反ソヴエート同盟戦争の危険と斗へ！……三頁
▼検事局、内務省、文部省等と手を握つてゐる御用弁護士の新たなる進出を粉砕せよ！……五頁
▼鉄の火花……七頁

ロシア革命記念日に備へよ！

（一）

十四週年ロシア革命記念日はあと一ケ月半に迫つた。資本主義諸国口が底知らずの経済危機に見舞はれてゐるときに、ソヴエート同盟では五ケ年プランの第三年度が成功を以て終らんとしてゐる。（一）工業方面の成功は言ふまでもなく、農民経済の集団化（或は共営化）なる決然として行はれ、一九三一年始めに、すでに口農民経済の四五％が集団経営化された。かくて一九三一年度には口社会主義経済の基礎工事が完了するのである口。

資本主義諸口では三千五百万――操短労働者や就職に上りかれてゐない潜在失業者が街頭に呻吟してゐる時、ソヴエート同盟では失業問題は基本的に解決され、ソヴエート同盟では失業問題は基本的に解決され、ソヴエート労働力（就中、熟練労働者）の不足を告げてゐる。十年に亘る農業、消費、資本主義口を苦しめてゐる時に、ソヴエート同盟では農業の経済の社会主義化が目覚ましく行はれてゐる。広汎な大衆の貧困化、餓死が、「文明口」「キリスト教の口」「神の口」「天皇の口」に増々激しくなつてゐる時に、ソヴエート同盟では労働者農民の生活の向上が全ての方面に見られる。労働賃銀は戦前に比較して、即ちツアール支配の時と比較して約七割上つた。労働者農の六五・三％が七時間労働に移つた。（一九三一・三・一現在）しかし、これは日本の資本家が行ふ「時間短縮」とは全然ちがふ。といふのはソヴエート同盟では七時間労働によつて却つて賃銀が上つた。（或るデイーゼル工場では七時間労働日に移つて後の半ケ年の中に八時間労働日の当時に比し時間給は、（二〇・三％増加し、又或る鉄工場では一七・二％増加してゐる！ソヴエート同盟に於ける工業生産高・農業の集団主営化（トラクター、コンバイア等の使用）必らず忘れてはならぬ。ソヴエート同盟の破滅――それは日本プロレタリアートをも含む口際プロレタリアートの勝利である。今やドイツのプロレタリアートは、ソヴエートドイツの為の斗争を目程に上してゐる。支那、印度に於ても反帝口主ギの赤旗がひるがへつてゐる。革命的口際戦線はいやが上にも拡大されて行く。

（5）準備期間にあつてはパンフレット、リーフレット、工場新聞、壁新聞特別の絵ビラ、マン画、色刷り統計表等々の発行、ソヴエート同盟に関するキネマの集団的観覧、座談会、コン談会、演劇等を工場を基礎にして開催すること・更に此の活動が広く合法的に行はれる様に出来得る限り特別の講演会（ソヴエート同盟の話）を開催する様に努めること。此れを社会にしてソヴエートの事情をお互に深く知り合ふ為の労働者農民の大衆組織――ソヴエート友の会――を創るべく努力すること。凡て以上の方法によつて行はれる準備は必然的に公戦場の生活と結び付けられねばならぬ。そしてそのことから大衆的斗争を巻き起すといふ見透しの下に行はれねばならぬ。要は「我々に有利な条件（狭い意味での）を如何にして作るか？」である。かくして準備され組織された斗争を最後まで指導し、斗争の勝敗如何に拘らず大衆との結合をシツカリとしてをかねばならぬ。

我々は口際プロレタリアートと共に十一月七日、ロシア十月革命十四週年記念日に街頭デモンストレーションを組織しなければならぬ。

（二）

是等の事柄は十四週年記念日に対する日本プロレタリアートの態度を決する。プロレタリアートはこの日を単なるアヂの斗一頁を以つて自らに報ひつゝものとし、且つ既得の勝利を擁護することは明日の進出を保証するといふことを自覚してゐるが故に、口際プロレタリアートの祖口ソヴエート同盟擁護の斗争を強める日とするのである。

（1）吾々はこの一ケ月半の期間を特にソヴエート同盟の社会主義建設を大衆の間に普遍化する為に活動しなければならぬ。戦場の中からソヴエート同盟の状態を語つてくれレといふ要求に対して口中央公論、改造、エコノミ一年、しかも天皇がゐる、東京で現出してゐるのだ。

戦争の準備と革命的組織に向つての斗争とは切りはなし得ない。ソヴエート同盟の擁護と革命的組織の拡大発展とは決して別個の仕事ではない。ロシア革命第十四週年記念日を迎へ、その日の為に準備するに当つて吾々は少くとも以上のことを知つて置かなくてはならぬ。

スト・ソヴエート評論を読み給へ」と答へるが如き態度――それは全く誤りだ。――は改められねばならぬ。責任あるオルガナイザーは親切に教へてやらなければならぬ。五ケ年計画の成功の事実、就中、聴いてある労働者の産業と同一産業に於ける成功の事実を労働者大衆に知らせることは花翼化しつゝある大衆に正しい方向を与へ且つその速度を早めるものである。このことの無理解に断乎として訂正されねばならぬ。抽象的にソヴエート同盟の成功を云々するだけですら労働者はそれを信じてゐるではないか。事実の説明が如何に労働者大衆を奮ひ立たせることか想像に余りあるでは無いか。

（2）説明に際してはソヴエート同盟に於ける工業生産高・農業の集団主営化（トラクター、コンバイア等の使用）必らず忘れてはならぬ。ソヴエート同盟の破滅――それは日本プロレタリアートをも含む口際プロレタリアートの勝利である。今やドイツのプロレタリアートは、ソヴエートドイツの為の斗争を目程に上してゐる。支那、印度に於ても反帝口主ギの赤旗がひるがへつてゐる。革命的口際戦線はいやが上にも拡大されて行く。

（5）準備期間にあつてはパンフレット、リーフレット、工場新聞、壁新聞特別の絵ビラ、マン画、色刷り統計表等々の発行、ソヴエート同盟に関するキネマの集団的観覧、座談会、コン談会、演劇等を工場を基礎にして開催すること・更に此の活動が広く合法的に行はれる様に出来得る限り特別の講演会（ソヴエート同盟の話）を開催する様に努めること。此れを社会にしてソヴエートの事情をお互に深く知り合ふ為の労働者農民の大衆組織――ソヴエート友の会――を創るべく努力すること。凡て以上の方法によつて行はれる準備は必然的に公戦場の生活と結び付けられねばならぬ。そしてそのことから大衆的斗争を巻き起すといふ見透しの下に行はれねばならぬ。要は「我々に有利な条件（狭い意味での）を如何にして作るか？」である。かくして準備され組織された斗争を最後まで指導し、斗争の勝敗如何に拘らず大衆との結合をシツカリとしてをかねばならぬ。

我々は口際プロレタリアートと共に十一月七日、ロシア十月革命十四週年記念日に街頭デモンストレーションを組織しなければならぬ。

革命記念日の為のスローガン

ロシア革命十四週年記念日万才！
世界プロレタリアートの祖口ソヴエート同盟に対する武力干渉に反対せよ！
偉大なる五ケ年計画の四ケ年遂行万才！
社会主ギ建設の指導者、ソヴエート同盟共産党のレーニン的中央委員会万才！
レーニンの最も忠実な学徒、口際プロレタリアートの友、同志スターリン万才！
口際的革命戦線の栄ある擁護者――赤衛軍万才！
ソヴエート同盟の労働者農民と同一の労働生活条件を斗ひとれ！
賃銀値下なしの七時間労働、一週五日制の実施！
大衆的戦闘絶対反対！

軍事ヒ、警察ヒ等労働者農民運動の弾圧ヒを失業者の生活保証ニ向ケよ！

口家全額負担による失業保険の即時実施！
失業者と就業労働者の統一戦線万才！
労働階級の利益を裏切り、反ソヴエート戦争を準備し資本家の御用を努める一切の社会ファシストを仆せ！
一切の階級的政治犯人の即時無罪釈放！
日本帝国主義者の企らむ新しき戦争準備に反対して斗へ！
天皇、大地主、寺社領の土地没収！土地を農民へ！
大企業、銀行、大産業のプロレタリア国有化！
支那、朝鮮、台湾に於ける日本帝国主義軍隊の即時撤退の為に斗へ！
ソヴエート支那を守れ！朝鮮・台湾の独立！
革命印度万才！
ドイツプロレタリアートの決定的進撃を擁護せよ！
プロレタリア独才万才！日本労働者農民のソヴエート政府樹立万才！
日本共産党万才！
口際革命運動の指導部コミンテルン万才！

新帝国主義戦争
反ソヴエート同盟戦争
の危険と斗へ！

戦争が始まるであらうとされてゐた事は今日では何等の秘密ではない』（同志ロムフスキー）だがその危険が延期されたのは（危険が去つたのではない）全くにプロレタリア独才口の積極的平和政策と、口際プロレタリアートの、口際共産党の旗の下に結集する反対とに依るのである。

①

資本主や世界を包む経済危機――それは資本主やの一般的危機の上に立つてをり、且つ十年来の農業危機に依つて更に深められてゐる――の進行に伴ふて、第二の世界大戦の危険は愈々切迫してゐる。『一九三〇年夏には既に

帝口主ギ者は危機の解決を労働者及一般勤労大衆の犠牲に於て見出さんとして、全線的に攻撃してゐる。第二インタナショナル及アムステルダムインタナショナルはこの場合帝口主ギ者の側に断然立つてゐる。（日本の社会ファシスト共も勿論のことである）

コミンテルン執行委員会第十一回総会は戦争の危険に関する問題を特に日程に上せて各口支部の積才的活動を促してゐる。（第十一回総会テーゼ、決議集――希望図参照）傀、英米伊等々の帝口主ギ諸口はポーランド、ルーマニア、フインランド、チエツコスロバキア、ユーゴースラヴイア、ラトヴイア等々の弱少口に直接武器を輸送して反ソヴエート戦争を準備してゐる。戦略的鉄道の敷設、軍港の設備、飛行機、飛行船の新造等その具体的事実は数へるに暇なき程である。

②

日本帝口主ギ者も他の帝口主や者に劣らず戦争準備を行つてゐる。ブルジヨア新聞で騒々しく書き立てゐる『軍制改革』は機械化された軍隊をえやのである。進歩せる武器を有せる今日では、既に昔日の如き編制を必要としないのだ。重軽機関銃の増加、毒ガス隊、航空隊、タンク隊等々の増加は近年特に目覚ましい程である。それと共に兵卒に対するブルジヨア的政治教育が意識的に行はれてゐる。軍口主ギ、愛口主ギ、天皇主ギの謳吹は直接労働者農民の階級斗争弾圧を目的としてゐる。日本帝口主ギ者が最近特に強調してゐるのは満蒙及びカムチヤツカに於ける『日本の特殊権益擁護』の問題である。浦塩総督、朝鮮総督の更迭を行ふや、直ちに万宝山事件を惹起して出兵の口実を作り、参謀本部の軍事探偵中村大尉が殺害されたのを以て満州への大量出兵の口実たらしめんとしてゐる。参謀本部では『中村大尉が殺された地方を直ちに占領すべきであつた』と公然と述べてゐるではないか。ブルジヨア新聞も挙て『支那の横暴』を叫んでゐる。日本口内に充満してゐる失業者とその家族の苦悩と呪咀の声を撒ひかくさんが為に声を大にして『外敵に備へよ！』とふのだ。かくて危機の原因は日本資本主ギ自体の必然的結果ではないとふ風に装はされるのである。

日本帝口主ギ者が北支那（熱中、南満洲鉄道を中心として）を占領するや既に久しい。山東省に、楊子江沿岸には日本の軍隊が常に出張つてゐる。上海の入口には飛行機をのせた英米等の軍艦と共に日本の軍艦が『威風堂々』と頑ばつてゐる。支那労働者のストライキ、テモンストレーションの弾圧には勿論でも日本の帝口主ギ軍隊が『殊勲』を立て、英米仏及反革命的口民党側から賞讃されてゐる。それ丈けに支那の労働者大衆にとつては憎んでもあきたらぬ行動をとつてゐるのだ。

更に中口共産党に準ずる中口赤

衛軍に対しても最も憎悪ある行為をやつてゐるのも日本の帝口主ギ軍隊である。支那の反動軍閥の軍事顧問の中には日本の将校が沢山ある。彼等は直接日本参謀本部から派遣されてゐるものであり、参謀本部の命令の下に活動してゐる。日本帝口主ギ者の活動はそれ丈けではない。満洲にバツコするとふ馬賊の仲間には日本の反動主ギ者が沢山ある。彼等も又参謀本部と策応して色々な事件をでき起してゐる。内田満鉄総裁の乗つてゐた列車を襲撃した馬賊も、実はそれを口実として『満洲にゐる日本人の生命財産を保護する為に必要な兵力を派遣する』為の八百長である。ロシア人を虐殺した江東六一部とふ海賊上りの反動隊が満洲視察に出かけるのも来るべき軍事行動の下準備に外ならぬ。

北洋漁業問題では日本の帝口主ギ者は見給と反ソヴエート武力干渉を主張してゐる。毎年のことではあるが、日本の漁業資本家は軍艦の援助の下に公然とソヴエート領海内で魚を盗んでゐるのだ。それを取締つてゐるソヴエート巡視船乗組員が日本の軍艦に連込まれてあらゆる野蛮な方法で辱められたのは決して昨年丈けのことではない。

帝口主ギ者とその内用人共はふ『満洲北洋漁業権は数万の生霊を犠牲にして得た日本の権利だ』と。併し誰の為の？この戦争に仆れ、負傷した数万の兵卒、水兵は、そしてその家族は何を与へられたか。よりヒドイ搾取と

より強い、重い圧迫の鉄鎖丈けではないか。資本家地主の利益の為に肉弾となつて散つた尊き生霊は、その場限りの言葉丈けの『名誉』を得たにすぎない。彼等を待つてゐるものは失業と餓死、益々高くなる租税と貧困以外の何ものでもなかつたではないか。

そして、帝口主ギ者は、現在の経済危機を切り抜けんが為に、更に、より

動である。日本の労働者農民大衆は戦の経験を持たない。併し、ブルジヨアジーの行ふてゐる愛口主ギの宣伝が生活の現実と如何に矛盾してゐるかを大衆が知つた時、それは嵐の如く激つて行く。支配階級は、この時の為に一切の準備をしてゐる。ブルジヨア階級出身の子弟のみを集めての軍隊教練、特別義勇隊の組織、フアシスト団体の

以上の犠牲を労働者農民大衆に要求してゐる。彼等は新しい領地占領、市場獲得の為の戦争を始めつゝあるのだ。

③

来るべき戦争に於て、支配階級の最も恐れてゐるもの――それは背後である。プロレタリアートと農民の反抗運

拡大、近衛聯隊を既に教育された兵卒の中から選んで集めたもののみによつて構成すること（軍制改革案）等々はその具体的表れの一部である。

我々は口家総動員計画、産業の軍事化、口家資源局の設置、及び一九二三年の震災時に作られた東京警備隊司令部が今日尚残つてゐる事実等々を知つてゐる。プロレタリアートと農民の反抗運

より積極的に諸種の催しに出動してゐる事、航空機の盛なこと等々を知つてゐる。

かくてブルジヨアジーが来るべき戦争に際して特にプロレタリア農民の革命運動を圧するであらうことは全く明白である。大阪、敦賀、京都、横浜、東京その他の都市では直接内乱を仮定しての軍隊の出動演習が行はれた。

戦争の危険に反対して斗争すること――それはプロレタリアート及び一般勤労大衆の日常利益を擁護することと密接に結び付いてゐる。我々共産主ギ者はこの斗争の先頭に立たねばならぬ。一切の社会ファシスト（社民党、大衆党、労農派、御覚派等）はこの斗争に於て完全に、ブルジヨア地主の側にゐる。

④

帝口主ギ戦争に如何にして反対斗争をなすか？この問題に対しては我党のパンフレツト第十五輯に委しくかゝれてゐる。我々は同志諸君がこのパンフレツトを熟読されんことを義務付ける。

又、労働組合、農民組合等の大衆団体内にゐる同志諸君の具体的活動については本誌第四十五号、同志石部の論文を参考とされたい。

ハンブルグの港湾労働者が反ソヴエート攻撃の為の武器輸送を拒絶した英雄的行動は日本の労働者にとつての模範とならねばならぬ。フランスの黒海艦隊

のマストにひるがへつた赤旗は日本の水兵達の手本たらねばならぬ。我々は支那・朝鮮・台湾・北洋漁場への軍隊・軍艦等々の輸送に対して殆んど何等の具体的抵抗をなし得なかつた。かくの如きことは急速に改められねばならぬ。交通運輸労働者の間の活動は特に強調されねばならぬ。

戦争の危険を筆や口先きだけでふさぐことが行はれねばならぬ。軍隊内に於て共産主義や思想の載物な系統的宣伝を行ふことはコミンテルンへの加盟条件の一つである。それが困難であるとゑふ理由でこれを怠るが如きは許すべからざる誤りである。我々は最少抵抗線の戦術を採用するのではなく、必要なことから行はねばならぬ。

最後に、日本共産青年同盟、反帝同盟、全国労働組合反対同盟日本支部のこの方面に於ける活動をより大規模的に、活発にしなければならぬ。（3）

検事局 内務省 文部省

等と手を握つてゐる 解党派の新たなる 進出を粉砕せよ！(六)

労

農大衆党の発生は解散党の提唱者であり、逃撃の演劇は何時も明治天皇の歌から始めるといふ代物だ。彼等が一致して日本共産党並に全協その他凡ての革命的労働者農民を非撃してゐること。官憲に対抗してゐる事実を以て、日本共産党並に全協その他凡ての革命的労働者農民を非撃してゐること。官憲に対抗してゐる事実を以て、日本共産党並に全協その他凡ての革命的労働者農民を非撃してゐること。官憲に対抗してゐる事実を以て、

七、彼等の社会民主々義に対する批議を戦す。

日は日本共産党労働者派中央委員会の政治テーゼ(五)社会民主々ギに対する斗争の項の抵判に違入る。

この項は徹頭徹尾社会民主々ギに対する非難（ヌヨノくとやが明白に）の為に書かれて居り、何によつて日本共産党に対するものと日本共産党への斗争が主張されてゐる。先づ一例をあげよう。

『イギリス共産党の戦略に於ては労働党は保守党、自由党と共に三大資本家党の一つとして打倒の対象なのだ。併し、今日、日本の労農政党は尚、未だ打倒の対象でなくて、孤立化、無力化の対象だ。何故なら彼等は今日すでに社会ファシズムへの明白な転向を示してゐるにせよ、尚、未だ純然たる社会ファシストとしてプロレタリアートに対抗してはゐないからだ。』と。

社会民主々ギの赤松は社会民主々ギの大旗を掲げて日本主ギを擁護しつゝ、ブルジョアジー並にその国家権力と協力して共産主ギに公然大胆に宣戦してゐる。

労農大衆党の発生は解散党の提唱者であり、逃撃の演劇は何時も明治天皇の歌から始めるといふ代物だ。彼等が一致してストライキを売渡してゐること。官憲と取引きすること。彼等が資本家地主政府の帝備縮少のギマン的スローガンを支持してゐること。彼等が英口労働党を模範としてゐること。彼等が帝口主義の手先きとして中口の労働者農民を虐殺しつゝある蒋介石と握手してゐること。彼等が世界帝口主義の番犬、ヂニインタナショナル・アムステルダムインタナショナルを支持してゐること。（日本労働クラブを見よ）彼等がプロレタリアートとその祖口に対する世界帝口主義の斗争の枢軸たる口際聯盟を支持してゐること。

労々はあまりにも明白な厳然たる事実だ。

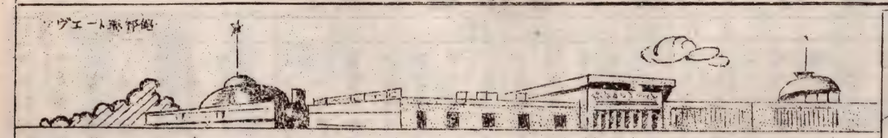
改良派がこれらの同様を繰返すのも可成り苦しい仕事だといふ点で吾々は解党派に同情する。

次に彼等が如何に社会民主々義を非難してゐるかその苦心の跡を見よう。彼等の手品はかうだ。

(1) 日本の一切の労働政党はイギリスの労働党とは異なる。労働党と同じなら仕方がないが「それとは異るのだからしといふのだ。こゝで彼等は労働党を模範としてゐることを自ら公言してゐる。赤松や山川を労働党とは異ると強弁して非護してゐる。かく解党派が何故事実に反する強弁をしてまで赤松や山川を非護するのか？それが根本問題だ。それは後で一括してのべる。

(2) 今日すでに社会ファシズムへの明白な転向を示してゐるにせよ、尚ほ未だ純然たる社会ファシストではないからといふのだ。

労働者農民党の赤松君は日本ブルジョアジーの最高の教育我国帝大学を御卒業遊ばされてゐる珍々奇なる労働者にましますから実に文書が御上手であらせられる。全くその実は敬服に堪えぬ。同志諸君こゝの文章もよく注意して読んでくれ。『今日すでに！！明白な転向を示してゐる。』と吾々労働者は社会ファシストだと読む。吾々は芭蕉の上のアヤを読むのではなくてその内容を読む。本質を読むのだ。然るに苦しい弁護者解党派は『尚ほ未だ純然たる社会



鉄のゆ花

ソエート・エプロパガンダ・パワー・エンゲン

『左翼』社会ファシストは主人の為に吠える！

×× 生

全然別個のものだと考へてゐる。（見よ、日新手的マルクシスト理論雑誌と銘打つて労農ロ九月第九回発売以下し。）もうグズし政治的自由や労働者大衆がそれを支持したのは、明白に共産党の指導があることを知つて居たからだ。労働党幹部大衆の求めて居たのは、労農党ではなくて共産党なのであつた。このことは大山の「煙ひ出し」の中には少しも出て来ない。しかも大山は、レーニンの名を引用し、同志スタリンの書を引用してゐる。頭の悪い奴にやる薬はないねあ。

流石に山川均はハツキリしてゐる。『労農ロ九月第九回大会は、一九二八年三・一五前の総選挙を例にとつて彼は云ふ『日本共産党以外の無産政党が存在しなかつたならば二千五百万票の全部でないまでも大部分が、ブルジョア政党に投ぜられたことは疑ひない。大衆をブルジョア政党の影響に任せておくことは問題としないで——（誰が？共産党がか？馬鹿も休み〳〵言へ）右翼の影響だけを問題にする理由はない。この様等の実例からも見てもその他の無産政党の存在が共産党の影響力を阻止してゐるのではなく、反対に、共産党の影響力が阻止せられてゐる情勢がその他の無産政党を少数と してゐるのだ、と云ふことが理解されるだらうと。彼は全く『政党とゝいふものを知らない。社会民主々義政党発生の社会的根拠に盲目である。日本共産党を日和見主義的系統主義に指導して来た山川均ばかりでもないところで、と人でもない時に自分の眼球を正当化してゐるのだ。恥知らず奴！

此奴等に言つてやらう。共産党員でない共産主義者なんか世界中に一人も居ないんだ！

つてゐる事実を御存じないと見える。右とも左とも社会民主々義者としてブルジョアの御用を務める点に於ては同じだからまあ〳〵……といふ訳らしい。実にスパラシイ『共同戦線』ではある！

ブルジョアジーよりは社民党でもなんでも『無産政党』と名の付く方がすきだらしといふ点では大山郁夫も同意見だ。彼大山が『政道ロ九月第九回自民を語る』のを聞けば『労農党幹部なりし頃』『若等の委員長』と言はれた時の想ひ出に（おゝその小ブル的根性よ！）のみ費されてゐる様なものだ。社会民主々義と斗争する』と力んでは居るが、彼自身が社会民主々義者なのだからこれ位ありはどうにもなるまい。労農党幹部なりし頃労働者大衆がそれを支持したのは、明白に共産党の指導があることを知つて居たからだ。労働者大衆の求めて居たのは、労農党ではなくて共産党なのであつた。このことは大山の『煙ひ出し』の中には少しも出て来ない。しかも大山は、レーニンの名を引用し、同志スタリンの書を引用してゐる。頭の悪い奴にやる薬はないねあ。

流石に山川均はハツキリしてゐる。『労農ロ九月第九回大会は、一九二八年三・一五前の総選挙を例にとつて彼は云ふ『日本共産党以外の無産政党が存在しなかつたならばこの四十五万票の全部でないまでも大部分が、ブルジョア政党に投ぜられたことは疑ひない。大衆をブルジョア政党の影響に任せておくことは問題としないで——（誰が？共産党がか？馬鹿も休み〳〵言へ）右翼の影響だけを問題にする理由はない。この様等の実例からも見てもその他の無産政党の存在が共産党の影響力を阻止してゐるのではなく、反対に、共産党の影響力が阻止せられてゐる情勢がその他の無産政党を少数としてゐるのだ、と云ふことが理解されるだらうと。彼は全く『政党とゝいふものを知らない。社会民主々義政党発生の社会的根拠に盲目である。日本共産党を日和見主義的系統主義に指導して来た山川均ばかりでもないところで、と人でもない時に自分の眼球を正当化してゐるのだ。恥知らず奴！

此奴等に言つてやらう。共産党員でない共産主義者なんか世界中に一人も居ないんだ！

正誤表（続）

赤旗パンフレット第十五輯中三八頁九行目「三陽なら三陽ならし」を「三陽から三陽へ」に。四四頁六行目「中付けば」を「中付けばし」に。四七行目「一・〇〇〇万円」を「一。〇〇〇万円」に。四八行目「身体の折れる」を「身体を折るような」に。四九頁八行目「身体を折るような」を「体」に。

附録 一三頁四行目「工場の労働者仲間に。味ある凡。」を「工場労働者仲間に興味ある凡。」に訂正す。——完——

ファシストではない。」と読むのだ。こゝで「純然たる」といふ言葉に千金の重みがある。

成る程赤松等は「純然たる」社会ファシストたる所以の紳士諸君の目から見たら「尚ほ未だ純然たる」社会ファシストとは云ひ得ないかも知れない。いやこれはどうもとんだところへ飛火してすまなかつた。

「純然たる」なんて抽象的な一片の言葉で鉾丈、松駒、赤松、麻生、山川、大山等の非階級的友愛等的な多くの実践を覆ひかくさうとは少し人を喰ひすぎてゐる。

社会民主々義と社会ファシズムの間に区別を設けその間に万里の長城を築き社会ファシズムはいけないが社会民主々義ならまだそんなに腹の臓までくさつてはゐない。尚は充分意見すれば改悛の見込みがあると云つた風の言ひ方をすることに依つて社会民主々義がプロレタリアートの決定的な敵手であることを大衆の前に覆ひかくさうとするのは実に怒し難き反革命的行動だ。

(ろ)『プロレタリアートに対抗してゐないから。』と言ふの処!!

今迄の所は間接的援護であつて(ろ)の為の弁明なのだ。愈々ここへ来て後者は遂に積極的に云ふ。今日日本の労農政党はプロレタリアートに対抗してはゐないのだと。社会民主々義が頭を出す面白い。少し長いが引用する。

「われらはブルジョア的大政党のイデオロギーに向つて徹底的爆撃(おゝ何と恐ろしきことよ!)を加へると共に(共にだ)更に共産党、擬似共産主義政党(全日労農大衆党)のイデオロギーに対しても果敢なる攻撃を断行しなければならぬ。われらは日本資本主義の打仆と社会主義日本(ばが我日本だそうだ)の建設に就て断じて帝三インターナショナルの指令を仰ぐ(誰が裏切者に指令をなんかやあの)愚等を為すものでもなければ、又た帝三インターナショナルの拘束を受けるものではない(然り、帝三インターナショナルは、そんな拘束力を持たない。何故なら各日社会民主党は各資本主義国の支配階級の利益をヨーブするものだから)。日本の大衆(91大衆)が独自の立場において、日本資本主義の自主的(エヘツ!。)発展を取行し様とするのだ。今や日内的にまた日際的に行詰まれる現下日本の日家的非常時(何人の日家ぞや?)に直面し、打開への道は二つしかない。コミンテルンの指導下に立つて世界共産革命の一環として日本社会革命を断行するか、日本大衆の日民的生存権(ハヽヽ?)の立場に立つて日本の自主的改革を敢行するか、これである。われらは後者の道を取る……」。赤松更意説く所の「科学的」日本主義がこれだそうだ。

マクドナルド政府やドイツの社会民主党がやつた様に、ブルジョアの政府で労仂者農民大衆の革命的反抗を抑へられない時は、我々が出てやりませうといふのだ。

赤松が何と立派な——実はくだらない——言葉を吐かうとも彼等の行動は明白に労仂階級の利益を裏切つてゐるのだ。彼等は金融ブルジョアジーの利益を擁護してゐるのだ。我々はファシストと社会ファシストとを全く同一のものと考へる人々に対しても、不可能だ。この事は世界史の示す所であり、マルクスレーニン主義の「イロハ」だ。コミンテルンの原則だ。然るにここに社会民主々義、社会ファシズムを排撃し及対に日本共産党を云々り、排撃する共産党がある。何といふ珍々如々有る共産党ではあることか。

徳光はこゝで「打仆」と云ふ言葉を使ひ乍ら「反対」と云ふ言葉を使ひたくない。廿年間も遊ばせて貰つてゐる"廿年間も遊ばせて貰つてフンダンに学費を貰して居る転手遊はされた労仂者派の紳士諸君の博学ぶりには全く恐口する。「打仆」と云ふ言葉と「反対」と云ふ言葉の使ひ分けを承ると云ふ点に依つて社会民主々義を弁護しようとなさるのだから。労仂者は無駄口はやめだ。「反対」でも「粉砕」でも「決定的斗争」でも、何でも「言葉」ではなくて内容のみが問題なのだ。

日本共産党労仂者派中央委員会は鉛局社会民主々義を弁護する。

君々は断乎として之と斗争する。政敵の日常利益の為に献身的に斗争すると云ふ点で吾々は今日尚武して十分にそれを承し得てゐない。多数者の獲得や組織の拡大強化に依つて大衆の間に於ける共産主義者並に革命的労仂者食費の大山、並に労仂者派なる看牙一連の社会ファシストと、是迄ブルジョアジーの御用人達にだまされてその指導下に立つてゐる労仂者諸君とをゴッチャにして同一視したらそれこそ大きな百遍ひだ。今日彼等にガマサレてゐるとは云へ労仂者大衆は明かに吾々の味方であり兄弟であるのだ。吾々は一方社会ファシスト幹部の裏切りを大衆の日常利益に関係して具体的に徹底的にバクロし彼等と決定的に斗争し、他方下からの統一戦線戦術で彼等の影響下にある労仂者大衆を吾々の側に引き寄せなければならぬ。

今日吾々の最も緊急な戦略的中心任務は「労仂者階級の多数者獲得(コミンテルン第十一回プレナムの決議一)であり、その為の斗争である!!!その事を一日も忘れてはならぬのだ。

日本の共産主義者並に革命的労仂者農民は大衆の利益の為に彼等の先頭に立つて決死的に斗争する。なか特に大衆の日常利益の為に献身的に斗争すると云ふ点で吾々は今日尚武して十分にそれを承し得てゐない。多数者の獲得や組織の拡大強化に依つて大衆の間に於ける共産主義者並に革命的労仂者食費の大山、並に労仂者派なる看牙一連の社会ファシストと、是迄ブルジョアジーの御用人達にだまされてその指導下に立つてゐる労仂者諸君とをゴッチャにして同一視したらそれこそ大きな百遍ひだ。今日彼等にガマサレてゐるとは云へ労仂者大衆は明かに吾々の味方であり兄弟であるのだ。吾々は一方社会ファシスト幹部の裏切りを大衆の日常利益に関係して具体的に徹底的にバクロし彼等と決定的に斗争し、他方下からの統一戦線戦術で彼等の影響下にある労仂者大衆を吾々の側に引き寄せなければならぬ。

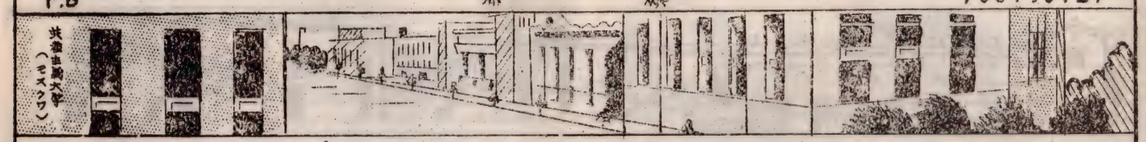
この決死的斗争が絶対に必要だ。口先きだけの宣伝や煽動に終つて斗争に尻込みしたり、常に大衆の背後に隠れる事にキユーノ〳〵としてゐる者は断じて共産主義者としての資格なき者だ。同志諸君!卑劣を恐れるな。卑劣は喰ふや喰はずで斗つてゐる間志達にとつては決して辛い所ではない。(なが只、共産主義者にとつて死ぬよりも辛い事がある。斗争を休止しなければならぬ!とふ事だ。故に断じて敵の手には陥るな)

党同係文書の処分の不注意や組織的活動の訓練に於ける不十分や敵の現律を破つた為にムザ〳〵敵の手に陥る事は絶対に避けなければならぬ。細心にして大胆なる組織的活動!特に今日この事は強調されなければならぬ。

鉾丈、松駒、赤松、麻生、山川、大山から解党派の水野(成夫)村尾、河合、藤井茂野南荷田等々に至る一切の社会ファシストを日常斗争を通じてプロレタリアートの陣営からタヽキ出せ!!

下からの統一戦線の戦術に依つて日常斗争を通じて改良主々義的社会民主々義者の影響下にある大衆と手を握れ!

日本共産党ボルシエビキ化万歳!



『科学的』日本主義者赤松貞栄を葬る!

雑

誌「改造」九月号に科学的日本主義者で知られる社会民衆党の書記長赤松は、有職会誌員選挙に際して「我党は如何なる斗ふかの?党をのせてゐる。その最後が頗る面白い。少し長いが引用する。

「われらはブルジョア的大政党のイデオロギーに向つて徹底的爆撃(おゝ何と恐ろしきことよ!)を加へると共に(共にだ)更に共産党、擬似共産主義政党(全日労農大衆党)のイデオロギーに対しても果敢なる攻撃を断行しなければならぬ。われらは日本資本主義の打仆と社会主義日本(ばが我日本だそうだ)の建設に就て断じて帝三インターナショナルの指令を仰ぐ(誰が裏切者に指令をなんかやあの)愚等を為すものでもなければ、又た帝三インターナショナルの拘束を受けるものではない(然り、帝三インターナショナルは、そんな拘束力を持たない。何故なら各日社会民主党は各資本主義国の支配階級の利益をヨーブするものだから)。日本の大衆(91大衆)が独自の立場において、日本資本主義の自主的(エヘツ!。)発展を取行し様とするのだ。今や日内的にまた日際的に行詰まれる現下日本の日家的非常時(何人の日家ぞや?)に直面し、打開への道は二つしかない。コミンテルンの指導下に立つて世界共産革命の一環として日本社会革命を断行するか、日本大衆の日民的生存権(ハヽヽ?)の立場に立つて日本の自主的改革を敢行するか、これである。われらは後者の道を取る……」。赤松更意説く所の「科学的」日本主義がこれだそうだ。

マクドナルド政府やドイツの社会民主党がやつた様に、ブルジョアの政府で労仂者農民大衆の革命的反抗を抑へられない時は、我々が出てやりませうといふのだ。

赤松が何と立派な——実はくだらない——言葉を吐かうとも彼等の行動は明白に労仂階級の利益を裏切つてゐるのだ。彼等は金融ブルジョアジーの利益を擁護してゐるのだ。我々はファシストと社会ファシストとを全く同一のものと考へる人々に対しても、

文化活動により一層の関心を

同志に又、この両者が本質的に異なると考へる人々に対しても反対する。だが赤松の言と大日本生産党の宣言と如何に似通つてゐるかを思ひ出せ!

り、彼赤松の言は如く「日内的に、また日際的に行き詰まれる現下日本の「日家的非常時」——(傍点)の深刻化、労仂者農民大衆の過酷な左翼化、階級斗争の激化支配階級内部に於ける利害の衝突、戦争の危険、等々——に直面し、打開への道は「二つしかない。二つではないのだ。だが、日本の労仂階級の前には次の如く問題が提出されてゐる——

「資本の搾取から解放されるプロレタリア独裁——共産主義か、永遠の隷属搾取と失業飢餓と倭死より外になきブルジョア独裁か?」

二つの中の一つだ。中間はない。共産党のみがプロレタリア独裁の為に斗つてゐるのだ。「科学的」日本主義はその途上に於ける邪魔石である。我々はこれを粉砕して進まねばならぬ。

「自分は此処で文化活動の重要性に就てそのコミンテルンやプロフインテルンの決議を引用しない。それは既に分つてゐることだ。工場、農村、官庁等に於ける我々の文化教育組織は、それから組合や同盟や党の新しいメンバーを獲得するための野水地であり又それを通じて党や同盟や組合がその大衆的な政策を実行するための指導体ともなり得べきそれのである。茲に日本のやうに革命運動が非合法の「」ではそれは合法舞台の利用として特別な意義を持つてゐる」。

「然るにこれまでの活動に就てこれらの組織の側からの過少評価が行はれてゐた。党や組合の組織は企業内に於ける労仂者の文化的組織を援助し、発展させて、その中に自己の影響を広めるかはりに、或はそれに対して全然無関心な態度を取り、或は(今では殆んど無くなつてゐるが)それと対立し、それを破壊するやうな方針を採つてゐた。それは大きな誤謬である。この誤謬は急速に改められなければならない。

「例へば、今日本のプロレタリア文化諸団体は、その全「」的中央部(日本プロレタリア文化聯盟中央協議会)の建設を準備し、且つその基礎を工場農村に置かうとして、それに自己のサークル(小団体)を作りつゝある。しかるに

それに対して党や組合や同盟の組織はすら余りに関心と積極性とを示してゐない。まるで文化の仕事は自分達のやるべきことでないとでも考へてゐるかのやうだ。だがこれは間違ひだ。むしろ反対でなければならない。文化の仕事は外部の反動的インテリゲンツヤだけに委しておいてはいけないのである。

我々は文化団体のこの活動を援助すべきである。党、同盟の細胞や、全協の分会は、その責任者を設けて、率先して工場、農村、官廳、学校等に文化的調査サークル（文学、演劇、美術、音楽、映画、反宗教、教育、エスペラント、経済学、哲学、自然科学、技術、スポーツ等のサークル）を作るべきである。この際党や同盟や、組合は自己の組織としてそれを作るのではないから、さういふ形のが出来上つたらそれを支々のプロレタリア文化団体に結びつける。しかし政治的指導は飽迄確保すべきものである。従つてかういふやうなものが既に出来上つてゐるところでは、そこに人を入れる必要がある。また工場や農村に反動的文化団体（政府や資本家や社会民主々義者の組織する文化団体）がある場合には、その中に革命的反対派を結成させるやうに努力しなければならない。同様に官許の青年団、処女会、在郷軍人会等にも我々の文化的組織を作る。

これらサークルは極めて大衆的なもので、演劇な求組織の労働者農民、婦人を組織し得るものでなければならない。それは労働者農民の日常的文化的要求を中心にして結ばれる組織である。それはプロレタリア的反動文化に対して労働者や農民が自己の生活なり科学なりを獲得する為の組織である。と同時にそれは党や組合や同盟の補助組織として、労働者やその他の勤労大衆を、日常的経済的及び政治的斗争に動員し、そこから我々の基本的組織、殊に全協へ新しい組合員を獲得する為の組織でなければならない。そしてこの意味に於て文化団体の意義は大きい。

日本プロレタリア文化聯盟に全協はプロフインテルン第五回大会によつて決定された労働者クラブの建設に直ちに取りかゝるべきである。これは資本家及び社会ファシストに対抗して五百、千百、中間派の労働者を下から結びつける為の合法的な統一戦線クラブであつて、組合がイニシアチーブを取つて作るべきものであるが、そこにはプロレタリア文化団体からの積極的援助が必要とされる。クラブは一定の会費を徴収して家を借り、そこに様々な書籍や、新聞雑誌や、將棋や、碁盤やラヂオや、蓄音器やが備へつけられ、またそこで様々な合法的な集会や、講演会や、講習や、演芸会の夕べやが開かれ、ストライキの場合等には、突出しや、資附金募集や、集会に用ひられる。クラブは一工場によつて作られることもあれば、例へば繊維労働者クラブといふやうな形で持たれることもあり得る。いづれにしてもクラブは労働者文化の中心を為すと同時に、我々の統一戦線戦術の為の重要な舞台とならなければならない。

日本プロ聯盟は、党、同盟、組合等の組織は、プロレタリア文化諸団体の出版物の普及と配布の為に便宜をはかるべきである。またそこで労働者農民、婦人を組織し得るものでなければならない。それは労働者農民の日常的文化的要求を中心にして結ばれる組織である。それはプロレタリア的反動文化に対して労働者や農民が自己の生活なり科学なりを獲得する為の組織である。と同時にそれは党や組合や同盟の補助組織として、労働者やその他の勤労大衆を、日常的経済的及び政治的斗争に動員し、そこから我々の基本的組織、殊に全協へ新しい組合員を獲得する為の組織でなければならない。そしてこの意味に於て文化団体の意義は大きい。

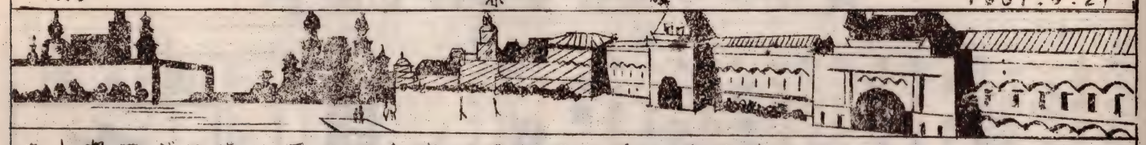
日本プロレタリア文化聯盟に全協はプロフインテルン第五回大会によつて決定された労働者クラブの建設に直ちに取りかゝるべきである。これは資本家及び社会ファシストに対抗して五百、千百、中間派の労働者を下から結びつける為の合法的な統一戦線クラブであつて、組合がイニシアチーブを取つて作るべきものであるが、そこにはプロレタリア文化団体からの積極的援助が必要とされる。クラブは一定の会費を徴収して家を借り、そこに様々な書籍や、新聞雑誌や、將棋や、碁盤やラヂオや、蓄音器やが備へつけられ、またそこで様々な合法的な集会や、講演会や、講習や、演芸会の夕べやが開かれ、ストライキの場合等には、突出しや、資附金募集や、集会に用ひられる。クラブは一工場によつて作られることもあれば、例へば繊維労働者クラブといふやうな形で持たれることもあり得る。いづれにしてもクラブは労働者文化の中心を為すと同時に、我々の統一戦線戦術の為の重要な舞台とならなければならない。

日本プロ聯盟は、党、同盟、組合等の組織は、プロレタリア文化諸団体の出版物の普及と配布の為に便宜をはかるべきである。またそこで労働者農民、婦人を組織し得るものでなければならない。それは労働者農民の日常的文化的要求を中心にして結ばれる組織である。それはプロレタリア的反動文化に対して労働者や農民が自己の生活なり科学なりを獲得する為の組織である。と同時にそれは党や組合や同盟の補助組織として、労働者やその他の勤労大衆を、日常的経済的及び政治的斗争に動員し、そこから我々の基本的組織、殊に全協へ新しい組合員を獲得する為の組織でなければならない。そしてこの意味に於て文化団体の意義は大きい。

日本プロレタリア文化聯盟に全協はプロフインテルン第五回大会によつて決定された労働者クラブの建設に直ちに取りかゝるべきである。これは資本家及び社会ファシストに対抗して五百、千百、中間派の労働者を下から結びつける為の合法的な統一戦線クラブであつて、組合がイニシアチーブを取つて作るべきものであるが、そこにはプロレタリア文化団体からの積極的援助が必要とされる。クラブは一定の会費を徴収して家を借り、そこに様々な書籍や、新聞雑誌や、將棋や、碁盤やラヂオや、蓄音器やが備へつけられ、またそこで様々な合法的な集会や、講演会や、講習や、演芸会の夕べやが開かれ、ストライキの場合等には、突出しや、資附金募集や、集会に用ひられる。クラブは一工場によつて作られることもあれば、例へば繊維労働者クラブといふやうな形で持たれることもあり得る。いづれにしてもクラブは労働者文化の中心を為すと同時に、我々の統一戦線戦術の為の重要な舞台とならなければならない。

日本プロ聯盟は、党、同盟、組合等の組織は、プロレタリア文化諸団体の出版物の普及と配布の為に便宜をはかるべきである。またそこで労働者農民、婦人を組織し得るものでなければならない。それは労働者農民の日常的文化的要求を中心にして結ばれる組織である。それはプロレタリア的反動文化に対して労働者や農民が自己の生活なり科学なりを獲得する為の組織である。と同時にそれは党や組合や同盟の補助組織として、労働者やその他の勤労大衆を、日常的経済的及び政治的斗争に動員し、そこから我々の基本的組織、殊に全協へ新しい組合員を獲得する為の組織でなければならない。そしてこの意味に於て文化団体の意義は大きい。

日本プロレタリア文化聯盟に全協はプロフインテルン第五回大会によつて決定された労働者クラブの建設に直ちに取りかゝるべきである。これは資本家及び社会ファシストに対抗して五百、千百、中間派の労働者を下から結びつける為の合法的な統一戦線クラブであつて、組合がイニシアチーブを取つて作るべきものであるが、そこにはプロレタリア文化団体からの積極的援助が必要とされる。クラブは一定の会費を徴収して家を借り、そこに様々な書籍や、新聞雑誌や、將棋や、碁盤やラヂオや、蓄音器やが備へつけられ、またそこで様々な合法的な



中村事件に就きて

× ×

今、凡てのブルジョア新聞は、支那の奥地に起つた中村大尉事件に就き書きたてゝゐる。何の為にそんな奥地に行つたと云ふ事には一言も触れないで、巻頭が五万円集つたとか、陸軍葬にするとか、銃後後援会が在郷軍人会が口論を激発するとか、そつ云ふ風なことを、サも様を正すべき口実の重大事であるかの如くかきたてゝゐる。それのみならず、共産党公判に際して、裁判長を買収したと同一の方法を用ひて、中村大尉とその奥様をホメチギつてゐる。ブルジョア新聞は大尉から奥様に宛てられた感傷的な手紙をその儘上にかゝげて人情のゆにかなつた「情熱的な」、軍に見る軍人であるとなし、未だ人、及び敵愾への同情を喚起し、広く輿論を煽動しつゝある。彼等のヲガオ、新聞、並郷軍人会、青年団、青年訓練所凡ゆる機関によつての煽動はブルジョアジーをして狂喜に成功せしめやうとしてゐる。又内閣相は参内して、当事件につき奏上し、種々御下問に奉答するところあつて退下した。彼等はこの事件につき、天皇を始め、参加せしめる事によつて尚一層の煽動効果をアゲようとし、そしてあげてゐるのである。

彼等の目的は、単に支那側の陳謝により、日本の名誉ある軍人が惨殺された事に対しする憤慨を晴らさんとするのではない。それは口論を喚起せしむることによつて支那側を威嚇し、恐怖せしめ、対ソヴエート侵略戦等のすべての挑撥（スパイ）行動、軍事的測量等を支那の奥地（支那・ソヴエート国境）に於て、公然と行へるやうに、支那政府の援助及び承認を得んとするにあるのである。

これは先きに、フランスを盟主とするところの対ソヴエート干渉事件があつたやうに、世界ブルジヨアジーの一環としての日本ブルジヨアジー、対ソヴエート干渉運動の一つの暴露である。日本ブルジヨアジーは本年にあつていわゆる「アニケー」事件、カムサツカ漁業事件、万宝山事件と直接関係の系統的、計画的なソヴエート干渉運動を徹底的に組織せねばならぬ。

僕が今より七年前軍隊に居つたとき「教育愛」がやうやつとおへた事を覚えてゐる。「シベリア出兵に於てはロシアの革命派は感謝ではなかつたが、ロシヤは決してアに成功し、事件毎に、期待を裏切るする大規模なる事のたらしめてゐる。彼等は今度の事件をもつてイマなほ支那側の日本に対する挑戦の一つであり、と云ひ、「支那側の日本を踏み付けにしたかやうした犯罪行為を加へられた緊張の生々しき一例であるといか放つてゐる。日本の反動的な者はもとより、動揺つねなき小市民層、及び社会民主々義時部影響下の破れた労働者農民の層をまき込まんとしてゐる。現在、万宝山事件、中村事件の直接の目的は、満洲の利権の独占化、東北支那領土の植民地化にあるのであつて、当分問題は支那政府との折衝及び交渉とによつて現れるのであるが、然りと云つて、日本プルジヨアジーの目標は、日本の労働者農民の組合、ソヴエート同盟に対する系統的なありはれを忘れることは出来ぬ。吾々は今、支那、日本、ソヴエート・ロシヤの兄弟と手を握ちうと強烈に欲してゐる。日本プロレタリアートは今、より一層、支那プロレタリアートに対する日本帝国主義の攻撃、ソヴエート干渉運動を徹底に組織せねばならぬ。

とさゝ一教育愛」がやうやつとおへた事を覚えてゐる。「シベリア出兵に於てはロシアの革命派は感謝ではなかつたが、ロシヤは決してアのまゝ済んでしまふのではない。（僕はこの時不思議でたまらなかつた。）キツト将来に於て復讐してくるのだ。これは秘密の事であつて参謀本部の意見である。であるから、浦瀬の軍港を始め、各地を精密に調査して来てあるのだと。

五ヶ年計画を四ヶ年に！我がソヴエート同盟の破壊のやうな挑発は、日本帝国主義及その軍人（将校）連をして、斗犬のやうにならしめてゐる。

我々労働者農民は斗争一回プレタムに於て決断され出ず、大衆及び敵勢の急進化に立ちおくれないやうに更に心懸けよう！吾が日本共産党がこの中村事件につき迅速に檄を飛ばした時我々あしてカ強さを感じせしめる。

レーニンも左翼小児病の中に云つてゐる。「吾々が斗争のあらゆる方法を所有してゐないならば、若し吾々の統制の及ばぬ階級に、吾々の意志とは独立な仮定が起つて、その結果吾々が敵も不得意とする斗争形式を取らなければならぬ状勢に立ち到つた場合には、吾々は重大な敗北、否時として、決定的な敗北を蒙ることもあり得るのである。」と。

Пролетарии всех стран соединяйтесь
★万国の労働者団結せよ！
P.1 赤旗 1931.10.5
週刊 赤旗 第[illegible]号
國際共産党日本支部
日本共産党
中央機関紙

同志渡邊政之輔の三週年記念日に際して

我党のボルシエビキ化の為に戦へ！

★★三八年十月七日同志渡邊政之輔――吾々は最も親しく渡邊と呼ばう――は台湾基隆港頭で日本官憲の重囲の中に虐殺された。彼は日本共産党中央委員会書記長の数多ある地位において殺された。日本のプロレタリアート、労農大衆は同志渡邊政之輔の死によつて彼等の最も勇敢なる指導者の一人を失つた。

同志渡邊政之輔の生涯は斗争を以つて終られてゐる。彼は年少にして既に革命的労働運動の先頭に立つてゐた。労働者大衆の親しい同志として、信頼すべき斗士としての彼は日本における革命運動の勝利の為に献身的に活動した。マルクス＝レーニン主義からの逸脱に対する斗争において彼は常に先頭に立つた。山川主義の日和見主義に対し、又、福本主義に対する斗争において彼はまた一線に立つてゐた。

彼、同志渡邊政之輔の偉大さは只に日本の革命運動の中に留まつてゐない。太平洋労働組合書記局の活動における彼の功績には目覚ましいものがある。更に彼はコミンテルン執行委員の一人としての重任を負ふてゐたのである。

併し、就中我々が強調すべき彼の功績は「七月テーゼ」の実行である。「日本共産党は無慈悲的に斗争し、日本共産党のボリシエビキ化　大衆化の為に活動した。

従来のセクト主義的組織より大衆的組織への転換、ボリシエビキ化への急激運動の途上、我党が受けた支配階級側からの打撃は我を先鋒とするレーニン的中央委員会の決意を強めこそすれ少しも弱めることはなかつた。

「日本問題の予告」は日本主義者としての彼の「日本革命運動への参加を息らせはしなかつた。太平洋労働組合会議書記局の会合に参加すべく上海に来り、そこでの重要な仕事に参加しその帰途に彼は憎むべき日本帝国主義者の手に依つて殺されたのである。

我等の輝ける指導者同志渡邊政之輔の如く失つてよりすでに三ケ年を経過するのである。同志渡邊は死んだ。だが彼の事業は永久に生きてゐる。

資産階級の猛襲に遭遇し、大打撃を受けつゝも日本共産党の指導の下に大衆の間に益々拡大されつゝある。彼の行つた様――それには数百　数千の新しい同志達が永続き強く揚げて起き上り進んでゐる。我々は彼の死を悲ふことに依つて「彼の事業を想起し、新しい斗争への刺激と「同志佐野」しなければならぬ。

経済危機の深刻化と革命的危機への発展の前提条件が急速に成熟してゐる今日、我党のボリシエビキ化の問題は緊急不可欠条件である。客観的条件は我党のボリシエビキ化に非常に有利である。

同志諸君！同志渡邊の三週年記念日に当り、党のボリシエビキ化の為の活動をより一層強めよ！プロレタリア独裁の旗印を益々鮮明にして労働者大衆を組織せよ！党のボリシエビキ化は大衆斗争を準備し、組織し、指導することに依つてのみ行はれるのだ！

コミンテルンの指導の下に日本労働者農民ソヴエート政府樹立に向つて突進せよ！
我党の輝ける指導者同志渡邊政之輔の死を意義あらしめよ！

目次
▼同志渡邊政之輔の三週年記念日に際して……一頁
▼中国略奪戦争ソヴエート同盟への武力干渉……二頁
▼衝突頭示威運動の意義と其方法に就いて……三頁
▼獄中の同志を救へ！……五頁
▼鉄の火花……七頁

Пролетарии всех стран соединяйсь
★万国の労働者団結せよ！
P.2 赤旗 1931.10.5

中国略奪戦争
ソヴエート同盟への武力干渉
開始さる！

九月十八日夜から南満洲鉄道沿線警備の日本軍隊は「突如として軍事行動に移り、翌日には既に奉天城を占領した。その行「動範囲なる日本軍隊」は向ふ所敵なく（支那兵は殆んど抵抗せず）長春以南を全部原駐占領して了つた。日本政府は「事件を局部的に解決する」「今回の出来事は戦争ではなく、事変であると断定する」「日本軍は出兵したのではないから撤兵のし様がない」等々と声明してゐる。果してそうか？

ブルジョアジーが戦争に依つて得んとしてゐるものは只に新しい販売市場、投資地資源地の獲得のみではない。満洲全土（それは全支那の約三分の一に相当する）を占領する事に依つて直接ソヴエート同盟への武力干渉の戦略的地盤とする事を目的としてゐる。見よ、二のブルジョア新聞雑誌は既に「ソヴエートロシアの赤軍動く」とか「ハルピンの支那軍にソヴエート政府三千の志軍を送らんとして拒絶される」等々と伝へてゐる。然るにソヴエート同盟と支那との共同至営になつてゐる東支鉄道沿線内に日本軍が侵入しソヴエートの労働者を圧迫し、東支鉄道の一部をまで占領してゐるその行為に対しては好意どころか絶対支持してゐる。更に、ブルジョアジーと地主は新しい戦争を始める事に依つて増々激化してゐる労働者及び勤労農民大衆の階級斗争より外らさんとしてゐるのである。

日本の軍閥が全般ブルジョアジーの指揮に依つて行つた軍事行動は次して偶然でもなければ「突如として起つたのでもない。それは実に精密に計画され、実行されたのである。吾々は今その事を全部に亘つて書く暇を持たないが一寸集の材いた事丈けを次に上げて見様。(イ)口際帳盟日本代表として支那通の第次の満洲に於ける軍事行動は次して支那全体の政治的中心となつてゐた事。南京政府が機関銃「一ケ月以内に共産軍を全滅させる」と声明したにも拘らず酷烈その事が不可能に終つてゐる事。その他吾々が知り得ない様なデリケートな問題が沢山存在してゐるのである。吾々が特に列挙したのは次の一部分にすぎず。それも只亜細の準備として誰の目にも分るような物丈けである。

かくも準備され而して今や始められた戦争は誰の為に始められてゐるか？言ふ迄もなく金融ブルジョアジーを先頭とするブルジョアジーと地主共である。新しい領土の略奪、ソヴエート同盟攻撃が「日本の資本主義諸国の強化と列々の国のではなしに同一のものである事を吾々は屢々繰返して来た。而して事実に於てそれが証明された。見よ！八月九三日より今日迄継続してゐる奉命的労働者に対する退却、撤廃を！・神戸、京都、大阪と有はれ、そして今や東京地方も暴はれたのだ。又東京地方では小さなストライキまでが「戦争に反対する不届者」として全部解雇され（二、三十名だ）た。かくの如く戦争が始つたとゞふ事は労働者農民の全ての斗争を弾圧する最も力強い口実となつてゐる。至当的要求を掲げての斗争であるとしてもそれは政治的立場から見て直に圧しつぶされてしまふのだ。「政治は集中化された至当である」とゞふレーニンの言葉は現実に証明されてゐるではないか。戦争に依て労働者農民の生活がより一層困難になる事は明白である。戦争費用として、さなきだに苦しい中から幽数多の税金がとりあげられるだらう。実業者等は肉弾として同胞殺戮の為に送られるだらう。どこか一方の帝「主義者が戦争で勝つ事はその日に於けるプロレタリアートと農民に対するブルジョアジーの勝利である事は一九一四―一八年の世界大戦が実証した。

戦争をなくするには労働者農民のソヴエート政府を樹立する以外にない事も実証されてゐる。

社会民衆党全国労農大衆党労農一派

第一線の社会ファシスト共は此際に始められた帝国主義戦争に対して反対してゐない。彼等は合法的に公然と我が方の党員を有すると称しながら具体的に階級敵と斗争しようとはしないのである。彼等の理論と実践とに依れば、戦争に反対することは可能な資本家階級主義になのであらう。だがそれは彼等の最も納粋な面をバクロするのみである。

我々は今やこの戦争を帝国主義戦争、ソヴエート同盟への武力干渉の開始と規定した。我々は、吾々がさきにK労農

に就ては略か一九三一年のメーデー直前に発表されてある。

そこで才三の問題に入る・即ちデモを如何にして有効ならしめるか？デモは出来る丈長く続ける事（人数が多い程よい事は前に述べた）出来る丈け警官に吾々の同志を殺さない事が何よりも必要である。最近可デモ組織に当つては警事科学を応用せよ！」と云ふ事が盛に宣伝されてあるが要は全く正しい・では如何にして？

吾々のデモは必ずしも一ケ所に長い間踏止つてゐて警官と乱斗し勝敗を争くするには及ばない・初発警官の方で乱暴するまから我々が防禦する丈ではめるがそれにしても出来る限り有効にデモをやる必要がある・例へば吾々と同様に非合法下にあるベルカン踏口及中口の同志達のデモのやり方は実に巧妙である・是等の口々では必ずしもデモを一ケの中心点其儘に集中しない・工場を中心としてデモをやる・又か都市の方々から行はれるのだ・そのデモが色々違つた方向から一つの目的地に向ふ様にする。だから必ずしも最早まり沢山集つてそれから行列を作るとかふのではなく初いてゐる場所を中心として集つてデモをやるとかふ方法である・勿論之が全ではない。其外色々な方法もあらう。中口の同志達は既に一ケ所に集る事を禁止しそこへは五十人百人位が二隊となつて実如乱れる。そして「失業労才！・打仆帝口主義！・五年のスローガンを叫んでデモをやる。そして警官隊がやつて来るのを見ればやにわに解散し次の場所で態度に集つてスローガンを挙げる。かくの如く所謂神出鬼没の方法でデモをやる。かうすれば敵警も到底有効的に行はれるのである。吾々の方針は最少犠牲最大戦術ではない。併しデモの場合には敵の虚をつく事が必要である。例へば九月廿七日に武器を中心として双数デモを行つた場合でも一部隊を四門附近に集中しそこに敵をおびき寄せつゝ、更に音楽隊を頼つて本所方面へ着衆を解散する。そのスキを狙つて四谷町方面で水際がデモを行ふといふ風にやれば可成りの効果をあげ得る。

獄中の同志を救へ！
支配階級は吾等の同志を「殺害せんとしてゐる！」

昔光の輝ける指導者に対するブルジョア裁判は全日本の社会を震めてゐる。満三ケ年半の間獄外との連絡を断たれ、全く孤立の状態に置かれ、その上に、肉体的刑罰を与へられてゐる同志達は今や全てのブルジョア学者、ブルジョア法律家を向ふへ廻して斗争してゐる。ブルジョア新聞によつて可名数判長白、可理論家白に祭り上げられてゐる宮城裁判長の様する可理論的カウツキーの本の丸飲みをそのまゝ出さしてゐるにすぎぬ。領域は数冊の本の内容の中から、色々の事を云つて来てゐる白のを一々ノートして準備してゐるのだ。時間で傷付けられ、不衛生極まる警察の官房と獄で肉体的に弱らせられ、更に外界との関係を絶つことによつて精神的にも不具者にしようと全力を挙げてゐる支配階級の擧圧に抵せずプロレタリアートの勝利の確信に燃えつゝ斗争してゐる吾等の指導者の行動を見よ！

プルジョア地主政府は吾等の指導者と可理論斗争をやつて可やり込める白（プル新聞の表現）べく努力してゐる。多くの労働者と、武山の学者と、公合の自由とをふんだんに持つてゐる支配階級側の攻撃に対し、吾等の指導者達には一冊の参考書も、討論の時間も場所もないのだ。そこでの斗争はプルジョア学者の可理論的斗争ではなしに、敵の猛撃に対する吾々の実践的斗争なのだ。而してプルジョア地主政府のこの試みは成功したにだらうか？否！千度も否である。階級斗争によつて鍛錬され、鋼鉄の様甲の中で生活せる吾等の指導者達の理論は敵の攻撃によるとも学問としては抜くべからざるものであり、反対に、プルジョア御用理論、社会民主々義的理論が一々反駁されてゐる。しかもそれは法廷の壁を越えて日本全口の労働者農民大衆の耳にまで達してゐたのである。プルジョア新聞は意識的に行つたデマゴーグは事実が伝へられる事に依つて何等の効果をあげなくなつた。

ユルに奪いた支配階級は可傍聴人の禁止を禁止白した。かくて公開裁判と云ふ表面丈けのものとなつた。厨房階級はドンバス事件の公判が数千人の傍聴人の下で、しかもその弁護人の、及びそこに出廷してゐなかつたソヴエート同盟全体の労働者農民の積極的支持と歓呼の下で行はれたことを述べてゐる。

プロレタリア階級の下にあるのみか様なことが起るのである。ブルジョアジーは共産党の政策が広汎な大衆に知れ渡る事がブルジョア、地主、天皇政府の滅亡を早めるのだと云ふ事を知り過ぎる程知つてゐるのだ。彼等は恐怖に満ちた気持で殺ばかりの公開裁判を行つてゐるに過ぎぬ。彼等は公開の名の下に暗黒裁判を行つてゐるのだ。公判開始より今日に至るまで全ての傍聴人は一々住所姓名を書き止められ"要視察人"として、警察のブラックリストにのせられてゐる事実は一体何を物語るのか？・支部階級は是程にまでして尚安心が出来ない程大きな不安の前に立つてゐるのだ。同志佐野はもつた"ブルジョアジーには破滅以外の何ものもない"と我々の今日及けてゐる団結はプロレタリアートが勝利する為に要求される犠牲であると云ふ事、如何なる迫害・追求、弾圧と雖もプロレタリアートの勝利的階級斗争を喰ひ止めることは不可能である。たとへ我々の隊営の一部に、又は大部分に大きな打撃が與へられる様なことがあらうとも、そのことは更に、新しい力、新しい熱、新しい確信とを持つ新しい斗士、新しい指導者を生み出すのだ。そしてプロレタリアートの勝利に行くのだ。この信念、この覚悟こそ我々の指導者達が斗争してゐる共通点なのだ。

ブルジョア地主政府は可理論斗争白に依る戦術がもどかしくなつて来た。被等のはかない望みは裏切られた。日本のブルジョア学者も、カウツキーも、ヒルファデイングも・ベルンシュタインも正しいマルクス主義＝レーニン主義の前には何等の効果も表はさなかつた。そこで新しい方法が採用された。肉体的に・精神的に共産主義者を殺すこと——これだ。一寸それに行為でも獄則違犯で懲罰室送、雑室への放り込み、減食をやり、更に又、看守数十名に依る集団的暴行をやつたのだ。

九月二十六日発売の東京朝日新聞夕刊を見よ！・そこには同志鍋山が大勢の看守共に袋叩きにされ負傷してゐることが出てゐる。そして、刑務所の取締である可理論家は"ヴラ〳〵しくる次の如く述べてゐるのを見よ！"可看守がなぐるなんてことは想像されません。要分被告が自分であばれて負傷して見せたのでせう。…白と。

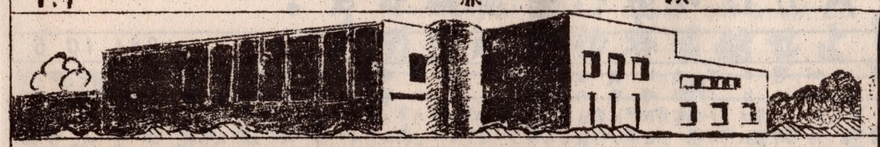
全口の同志諸君！・革命的労働者農民大衆諸君！・諸君はどちらが本当だと考へるのか？・同志鍋山が可自分で白傷をこしらへるなどと云ふことをどうして信じられるか？・ブルジョアジー本、地主も、そして社会ファシスト共は手を叩いて喜んでゐるのだ。十月革命記念ツアールの君主ロシアや現在のホーランドやイタリーでは革命に入れられた革命家を殺害して置いて可自殺にして仕舞つたことが度々あつた。日本ではかの所謂林兄弟事件がそうだと云はれてゐる。支部階級は今や、獄中にある共産主義者に対して直接攻撃の手をのばして来たのだ。彼等はやがて次に依あ

判の前に、獄中で可病死させんが為にありゆる呼吸をつくすことを以前より予告してゐたのである。我々はこのことを以前より予告してゐたのである。我々は同志鍋山その他の同志に対するかゝる虐殺を黙視して居てよいのか？・若し我々が黙して居るとすればそれは日本プロレタリアートの恥辱であり、日本プロレタリアート解放運動史上に一汚点を残すことを意味するであらう。

支配階級の弾圧に反対する斗争——それは我々の組織を拡大強化することだ。我々の組織の拡大強化はあらゆる斗争を通じて行はれる。今回の事件に際して我々はブルジョア地主天皇政府が如何に共産党員を文字通り根こそぎ検挙し様としてゐるかを労働者大衆勤労農民の前に広く説明し、工場、職場、農村を基礎として大衆的示威に依る抗議運動を捲き起さねばならぬ。社会ファシストや共産主義の裏切者達はブルジョア地主天皇政府ときに手を取つて我々に反対するであらうし、又、現在反対してゐる。だが労働者農民大衆は、労働者農民の利益を真実に代表して斗争せる人々の帰還の為に大衆的抗議運動を起してゐる。自殺未遂者荒畑寒村は可日本共産党指導下に行はれた真正反対デモは一つも行はれ　なかつた白とブルジョア雑誌可中央公論白九月号で書いてゐる（そして雑誌『労農』はもはやそれの取消しをしてゐないから彼等全部が荒畑と同一意見と見られる）が、事実は正に彼荒畑がウソツキであることを

証明してゐる。一九二八年三一五以後新潟県村松に於て、千葉市に於て、最近では富山・山梨等々に於てかゝる裏庄反対のデモが組織されてゐるのだ。将に農村では警察署への襲撃が諸所に見られてゐる。（例へ警察後に再び捕縛されたにもせよ）のだ。是が社会ファシストの指導下に行はれ得るとでも白ふのかの？・ブルジョアの手先がブルジョア政力の有力な武器たる刑務所、裁判所、警察等へ挑戦のデモを行へるとでも白ふ様に考へさせる所に労荒畑を始めとする可労農白一派の反動性が現白に於つてゐる。

日本の革命的労働者農民大衆はブルジョア独裁を転覆し、プロレタリア独裁樹立に依つてのみ自分等の解放があることを知つてゐる。そしてその為に犠牲になつてゐる同志達を大衆的示威に依つて救ふといふ様な事をもへそれはかさいとはえへどもゝ）行つてゐるのだ。我々共産主義者は共産党員及び階級的政治犯人の即時無罪釈放の為の大衆的示威運動を組織しなければならぬ。我々は共産党員に加へられる野蛮な暴圧と新帝口主義戦争との関係を広く説明して、直ちに敵中に居る同志達を大衆的示威に依つて救い出すべく積力的に活動を始めねばならぬ。支部階級が絶対しないならば我々は自らの組織的力に依つて我々の同志を救い出さねばならぬ。工場から農村から、敵中の同志無罪釈放要求を決議せよ！・共産党員及び階級的政治犯人の即時無罪釈放の為の大衆的示威運動を捲き起せ！



鉄のゆ花

満洲に於ける帝国主義戦争と斗へ!

A・Z・生

所謂「中村大尉虐殺事件」「満鉄爆破事件」をキッカケとして惹き起された今度の満洲事変に就いて、政府、陸軍当局及び一切のブルジョア新聞等が「満蒙に於ける帝国権益の擁護のため最小限の防禦であると声明してゐるのは真赤な嘘だ。そして彼等が「支那が積極的に計画的にかゝる事変を起した」といふのもデマである。「満洲事変」は明らかに帝国主ギ戦争だ。それは日本ブルジョアジーが未曽有の恐慌を切り抜けるため、彼等自身の必然的没落を切り抜けるために計画的になされた侵略戦争だ。それは又祖国擁護によつて日本の労働者農民の革命的高揚を抑止し、同時に軍拡競争に狂奔する中国の革命的プロレタリアートを虐殺し、ソヴエート同盟への武力干渉を直接準備する反革命的企図の下になされてゐる。

世界プロレタリアートを虐殺する帝国主義戦争は決して明日の問題ではない。それは既に満洲の地に胎動されてゐる。吾々には最早や帝国主ギ戦争の危険について語ることは許されぬ。一枚のビラや傳単で満洲出兵反対や戦争反対を叫んだ丈けでは駄目だ。日本プロレタリアートは何時までも欺瞞されてはゐない。吾々は日本帝国主ギの一切の陰謀を一人一人が労働者農民に暴露し、そして巧みに帝国主ギ戦争反対の革命的大衆行動を阻止せねばならぬ。「戦争を内乱へ!」の問題は遠い将来の問題ではない。

天皇と坊主の攻撃を反・撃・せ・よ・!

M・Y・生

満洲占領に成功してソヴエート同盟攻撃の要塞の地を獲得した天皇の政府はあらゆる智慧をしぼつて俺達労働者農民を「愛国主義」「天皇主義」の欺瞞の下に縛りつけ、犠牲の祖国を俺達によつて進ごさせ様としてゐる。坊主は偶然茲の優れた発明家であり、反動の奇でた組織者である。如何のやり口は実に多種多様だ。四十八手の裏表どころではない。

その一手をこゝにバクロする。

それは天皇と坊主によつて仕組まれた反動的愛国主義の承認だ。

十月一日天皇は日蓮宗に対して「立正」といふ下手クソな字を書いてやつた。坊主共はその支配下の学校・壇信徒四千を動員して日比谷から坂下門、坂下門から新橋駅、それから池上本門寺へとその字をヒツカツイで一大デモを遂行した。軍隊と警視庁は積極的にこれを支援した。(奴等はこのデモを活動写真にして全国に再宣伝するのだ!)

坊主の全脳部は明らかに意図してゐる。労働者や小作人が左翼化し、満蒙問題が紛糾し、対外関係に至るの秋に当つて日蓮主義の宣伝は絶好の機会であり、日衆に対する義務である、と。

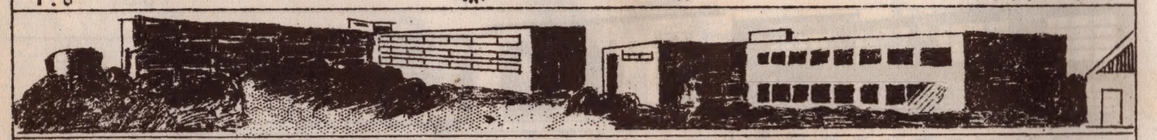
天皇と坊主とが一体になつて俺達労働者農民に挑戦し、攻撃して来たことをこれ以上ロコツに言つたものはない。

兄弟姉妹!

天皇の政府は俺達の同胞中ロプロレタリアートに砲火をあびせてゐる。しかもその直接の殺戮者は日本の労働者農民だ。俺達の兄弟をカモクラかして中ロプロレタリアートを殺戮させてゐるのだ。こゝに於て武装する事を学ぶであらう。

反帝国主ギ戦争の国際的連帯斗争に蹶起せよ!
ソヴエート同盟を守れ!
支那革命を守れ!
ソヴエート日本を樹立せよ!
世界プロレタリア革命万才!

国際プロレタリアートの祖国を打ち立てた十月の勝利は戦争を内乱へ!のスローガンによつて、而して革命的口ミ主ギの英雄的斗争によつて挙られた。その廿十四週年記念日を迎へんとする日本のプロレタリアートは今こそこの思想



んな残念なことがあるか。しかもこれは狭い中口プロレタリアートに対する攻撃だけではない。これは同時に朝鮮の労働者農民に対する攻撃であり、日本のプロレタリアートに対する攻撃だ。(俺達の兄弟は既に数百名戦死したぞ!俺達の兄弟はこれからもドシ〳〵鉄道の釣にされるぞ。俺達の賃金は戦時に名をかりてモツト下げられるぞ。ストライキの自由はこれまで以上に剝きとられるぞ。八月末以来今日まで一ヶ月のうちに近畿地方、東京地方、北海道地方等で二十名近くの革命的労働者農民が検挙されたのを知つてゐるだろう!)そしてこれは同時にソウエート同盟の兄弟に対する直接的攻撃の準備であり、口陣プロレタリアートに対する攻撃だ。世界のブルジョア共はそれを知つてゐるから平素の偽瞞的平和論の手前にもかゝはらずおし黙つてゐるのだ。

これらの事実のバレる事は労働者農民の蹶起を意味する。だからこそ坂本は凡ゆる手段、凡ゆる教会をつかんで俺達を「愛口主義」「天皇主義」の泥田につき込み、俺達から批判の目を奪はふと企らんでゐる。(ブル新聞、在郷軍人及び各学校配属将校等の軍事教官の活動を見よ。)この企らみに天皇と坊主とが公然と乗り出して来たのだ。憎むべき天皇と坊主は労働者農民に

「愛口主義」「天皇主義」を注入する事を組織し、より積極的に

総理大臣の演説

X・Y・Z生

反帝口主ギ戦争の大衆斗争により、ソウエート同盟擁護、中口革命機の斗争によつて天皇や坊主の帝口主ギ戦争の斗争をまき起せ!

総理大臣民政党首領若槻礼次郎は九月十五日大阪中央公会堂で政府の施政方針に関して演説を試みた。東京日日新聞の得る所の演説要旨に依る以外の材料を私は持たない事を非常に遺憾に思ふ。併し乍ら、ブルジョア新聞記者がブルジョア政府の総理大臣の演説を書いてゐるのだから口吾々日には間違はなからう。

若槻は第一に「企業組織日に関して言ふ。「私共の所見によれば、今日の急務は漫りに生産の増加を図る事ではなくして企業組織の整備改善を求め(即ち産業の合理化を行ひ——筆者)一面に於て海外貿易の振作を図もとにあるのであります。依て以てわが口産業の円満順調なる発展を口陣的経済機構に求めんとするにある現内閣は、口と。一言にして言へば現在の経済危機を切り抜けるには産業の合理化をより以上強行するにあり——それは第一に労働者の労働強化賃銀値下、大衆的購買力の減退等を意味する。第二に企業の集中を強制する。その為に政府は「重要産業統制法を制定した」。——外口市場を獲得する事——それは直ちに帝口主義戦争を意味する。何故なら地球はその六分の一を占めるソウエート同盟以外の六分の五は各帝口主義列強口間に分配されてしまつて居り、且つ、各口共に経済危機の深刻化に伴ふて、外口商品の為の販路を高くしてゐるからである。軍隊の力大砲銃空軍、毒ガス、タンクの力なしでは各帝口主義口は「民の血を流して得た特殊権益を放棄するとは出来ぬ口からである。

総理大臣の演説としては全くなつてゐない。明らかなるは政治問題といふものは公開の席上で云々すべきではなく、特合の裏で、大臣官邸の奥まつた室で大ブルジョア大銀行家の広持間でこそ詳細に決定するその処といふ事をそして又、口民は依らしむべく知らしむべからず

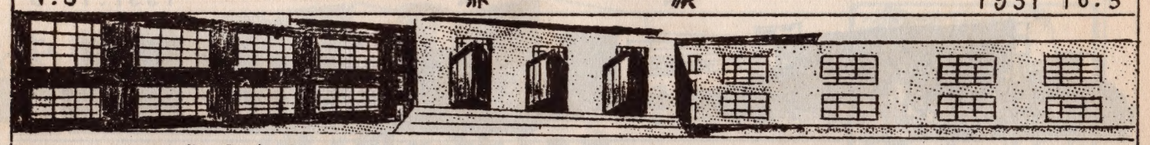
攻撃して来たのだ。

兄弟姉妹!

だが、それにも拘らず吾々は口服光紙背に徹する口の燭眼を以て彼の本音をつかまねばならぬ。若槻の言つたこの通り一ぺんの演説こそ実に、そのものなのである。彼は二百五十万に達する失業労働者に関しては一言もふれなかつた。餓死に迫られてゐるその家族に就いては半句ももらさなかつた。そして徹頭徹尾金融ブルジョアジーを救ふには労働者大衆にする以外の途なしといふ一貫した思想を述べたのである。

若槻は現在日本を襲ふてゐる経済危機の根源に関しては興味的な何事も言はなかつた。少くとも新聞紙の伝へるところでは。とは言へ、毎日の新聞は如何に日本帝口主ギの前に立つてゐる口難局が大きいかを教へてゐる。若槻礼次郎は口陣経済村精に求めると述べたが、北洋漁場に重砲を設置しての盗漁、満洲への軍隊増加、武器輸送こそ実にその具体的行動なのである。だから日本口産業の円満順調な発展を口際的平和的方針といふのは新しい帝口主ギ戦争、侵略的戦争を行ふことなのである。

我等な詐欺の下にかくされた醜ろしい陰謀——それが若槻の演説の本体だ。



斗士養成について。。。

生

漸次（四十六号）で「斗士養成」の問題が正当に出されて以来この問題について基本的活動に従事してゐると思はれる同志からの意見が「鍬の文化」にのせられた。幸ひそれたところはすべて実際の活動に関聯してゐり、正しいことではあるが「斗士養成」の全部にわたつても充分に述べられてゐないやうだ。吾々は中央部及びその他の同志の意見に附加して「斗士養成」の問題を補足しようと思ふ。

一、旧幹部の両教育

ロゾフスキーは云つてゐる「我々の活動的な戦斗分子の多数が政治主義的傾向を抱いたまゝで革命的労働組合の運動に身を投じて来たといふことから従つて斗争の諸過程に革命的戦術の就両的な導援毎に或一部の抵抗と他の一部の脱落とを惹き起す。その故に斗争の新しい様相が要求するところに應じて新しい幹部団を養成しなければならぬ」と。旧幹部の両教育といふことが斗争の発展に應じて充分積力に遂行されない限り我々は正しい生きした指導とその戦術を確保し難いであらう。種々なる改良主義的イデオロギー、合法主義、敗北主義、官僚主義、無理論（革命的戦術について）、組合主義の些細な現れに対しても無慈悲にバクロし克服するを。斗争を通じ、同時に系統的教育活動によつてこれを果さねばならぬ。この活動なくしては斗争の不活溌と沈滞と組合主義的傾落とを見れ得ないであらう。

同志達が述べて来た中にはこの旧幹部の再教育といふことがあまり強調されてゐないやうであつたが、この問題は新斗士養成と同様に問題としなければならぬと思ふ。

二、新斗士の養成

この問題については同志によつてよく論ぜられてゐる。

斗争の激化し、複化する毎に吾々は新しい斗争の形態と方法とを必要とする。斗争が高まり、大きくなるにつれて新しい動力性ある戦術と旧戦術の急速な轉換とが要求される。その際ロゾフスキーの云つてゐるやうに幹部団の中で一部の抵抗と他の一部の脱落とを惹き起すといふことが起つて来る。そして必要な手段が取られないならば斗争の混沌と頽落のみでなく、大衆の後に取り残される。大衆から孤立することになる。だから、旧幹部の再教育と同時に新幹部を養成し新鮮な力を指導部に引き入れ新幹部団を再編成することが必要となり重大となる。新鮮な若々しい（新しい戦術を容易に生かすことの出来る）力は(1)工場の中から(2)斗争の中から、(3)組織の中から、(4)系統的教育の中から生み出すことが出来る。

ロゾフスキーは云つてゐる。「工場の中から新鮮な力を引き出すことの出来ない組織はやがて自己の化石化と組合主義的傾落の温床とおかれてゐる」と。

三、大衆的幹部の獲得

大衆自身をして政治的組織的経験を深め、強め、且つ高めしめ以て大衆的に斗士を獲得するやうにすることが必要だ。

その為には吾々の新しい戦術である「大衆的活動への指導」と斗争の中からの大衆獲得と組織の民主々義的基礎とが必要である。

この方法の上に青年、婦人の斗士を養成しなくてはならぬ。これは重要で必要な問題である。或問題はオルガナイザーの性格といふことを問題としたが、オルガナイザーの性格といふことは一應問題となり正当に評価されなくてはならぬが、しかし性格は組織によつて発展し矯正される。又そうしなくてはならぬ。

四、赤旗の大衆化

赤旗は以上の活動の結果として大衆化しなくてはならぬ。又それなくして赤旗の大衆化はあり得ない。赤旗は以上の活動の助力者と

なら ねばならぬ。つまり赤旗の大衆化は以上の活動のバロメーターである。

五、教育コースの作成

革命的労働者教育コースを中央部アジプロ部から作成し、出されることが必要だと思ふ。各メンバーは個人として又出来る文集団的に組織的に教育されねばならぬとは勿論だが、党の方からはそれへの積極のため特別の教育コースを作ることが必要だと思ふ、これは直ちに實行してほしいと思ふ。

六、出版活動の強化

外口に比べて見るまでもなく党及び革命的組織の出版活動は充分強力で満足すべきものだとは云へない。

(1)反戦反軍の活動
(2)ソヴエート問題特輯
(3)口際的諸事件
(4)口際的経験の交換
(5)口内的至験の統一化と大衆化
(6)口際的テーゼ決議決定重要報告等の大衆化

等々に関して吾々は未だに立ち遅れてゐるやうである。

出版活動によつて斗争の地盤をつくり、初歩的な、だが甚だ基礎的な斗争を果すことが出来るのだ。出版活動の意義を正当に評価強調しなければならぬ。

中央部アジプロ部は出版活動の充分な展開と指導を与へることが必要だ。

現に現在、工場内の一切の活動について開経験を大衆化することが必要だ。即ち

(1)工細の活動経験
(2)工場委員会運動
(3)ストライキ斗争
(4)工場内出版物の交換

等々。

その際婦人、農村に於ける農業、青年、少年にも分り易い出版物を大衆的に出すことも必要である。

七、革命的点検

最後に斗士養成についての以上の活動は組織全体の問題であると同時に中央指導部の重大な問題である。中央指導部は常に指導の先頭に立つて問題を解決することが必要であるは勿論だと思ふ。そのために中央部自身が時宜に應じて上層から下層に至るまでの我国の革命的点検をなすことは有効なことと思ふ。

★旧幹部を再教育せよ!
★新斗士を大衆的に作れ!
★出版活動を強化せよ!
★赤旗の大衆化万才!
★指導部自身による下層批判の革命的点検万才!

同志片山の『病中感』を読む

●。。

生

同志片山活動家し——故郷この報告位我々の胸を強打したものはない。我等の持つ最大の先輩として、日本の、否全世界のプロレタリアートの持つ偉大なる指導者と して、同志片山潜の名は常に我々の頭上に輝いてゐる。我等の尊敬、我等の信頼、そして我等の誇りの的としての同志片山潜——それは唯一つ。我の全生涯を貫く革命的行動の賜である。

我のなす一挙手一投足、彼の言ふ一片言一隻句に対しても、全世界のプロレタリアートは瞳目し、傾聴してゐるのだ。同志片山潜病床に於ても尚彼は彭湃として全世界に漲るプロレタリア革命運動の先頭に立ちながらその戦列に馳逐せんと了る我等日本のプロレタリアートを指導し激励しつゝあるのだ。

此時、同志片山潜の偉大なる覚醒の眼を開かしめるもの、それは唯一つ。日本共産党の旗の下に結集する革命的労働者農民の支配階級に対する強力なる攻撃以外の何物でもない。

同志片山潜の平癒一日も早からんことを祈りつゝ我々は此處に新たなる勇気と決意とを以つていツエート日本樹立の為に闘争せん事を誓ふ。

1954年7月31日　第1版発行　『赤　旗』第一巻　　定価 1000円
1961年10月10日　第2刷発行

編　者　　アカハタ本局
発行者　　田　畑　　弘

発行所　　株式会社　三　一　書　房
東京都千代田区神田駿河台2の9
電話話京（201）9581～5番
振替東京 84160番